

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------------------|--|------|---|----------------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 体育原理 | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL15001 | 研究室 | S-13 |
| 担当者 | 岩間 英明 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | ワイスア- | 火曜日5限 | | |
| 関連資格 | レ・コ・ティ(教育)、中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義は体育・スポーツを哲学的に思考し、「現代社会において体育とは何か」といった体育・スポーツの概念や、「人間とスポーツの関係はいかにあるべきか」などの基本的な人間と体育・スポーツとの関連について考察して、その存在意義について明らかにしていくことを目的としています。そのため、私たちの身近にある体育・スポーツ関連の課題や、最近の事象など、具体的な体育・スポーツをめぐる諸問題を幅広い視点から探究し、その根本にある原因や背景について自分なりに解釈していきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| これまで一方に偏りがちであった考えから、身近な体育・スポーツの諸問題について、多様な意見に触れ、考察を深めていくことを通して、これからの体育・スポーツ指導者にふさわしい柔軟で幅広い見方や考え方ができるようにすることが本講義の最終的な目標です。そのために明確な問いの立て方、文章表現力、論理的思考力、批判的思考力などの獲得も目指します。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義はテーマについて、これまでの自分の経験や行動に基づき、自分の考え方を明確にすることから始めます。その後、他の受講生の意見や資料、教員からの問いについて考えていき、自分自身の思考の変化を捉えて、レポートにまとめていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 講義計画・展開及び評価方法等の確認をします。また、体育原理とはどんな学問か、をなぜ学ぶのかといったことにも触れていきます。 | | | | 事前にシラバスを読んでくる。自分のスポーツ経験を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 2 | 体育・スポーツへの問い直し(社会全体と活動領域) | これまでスポーツを学んだ経験に基づき、自分にとってスポーツとは何かを考察します。また、社会全体においてスポーツ活動とはどのような意味があるのかを考えます。 | | | | 事前に自分のスポーツ経験を整理し、スポーツがもたらすモノをレポートをまとめる。(5時間) | | | | |
| 3 | スポーツの楽しさとは何か | 「できない、できる」「つまらない、おもしろい」といったスポーツの結果や感情に基づき、スポーツの楽しさやなぜ、スポーツをするのかという根源的な問いに取り組んでみます。 | | | | 事前にテーマについて自分なりの考えをまとめておく。教科書の関連項目を読む。(1時間) | | | | |
| 4 | 運動部活動を考える | 運動部活動によって「得たもの」、「失ったもの」を改めて考え、学校期における運動部活動のあり方を考える機会とします。 | | | | 事前にテーマについて自分なりの考えをまとめておく。教科書の関連項目を読む。(2時間) | | | | |
| 5 | スポーツにおける競争と共同の矛盾 | スポーツの「勝利至上主義」「礼儀」「チームワーク」といった内容に焦点を当て、スポーツに存在する矛盾を考察します。 | | | | 事前にテーマについて自分なりの考えをまとめておく。教科書の関連項目を読む。(2時間) | | | | |
| 6 | スポーツと郷土愛・ナショナリズム | オリンピックやサッカーワールドカップなどの国際試合や、高校野球の甲子園などを例に、スポーツにおける「郷土愛」や「ナショナリズム」について考えます。 | | | | テーマに関する資料を集め、スポーツのナショナリズムについてレポートにまとめる。(5時間) | | | | |
| 7 | スポーツマンシップとは何か | フェアプレイ、アンフェア(ドーピングなど)といった事例を通して、スポーツにおけるルールやスポーツマンシップといったものについて考察していきます。 | | | | テーマに関する資料を集め、フェアプレイについてレポートにまとめる。(5時間) | | | | |
| 8 | スポーツと体育は同じか | 明治以降の体育の変遷やスポーツクラブの指導と学校体育の違いを通して「スポーツと体育」は、どこが違うのか、どこを違えるべきかについて考えます。 | | | | テーマに関する資料を集め、体育教育の問題点についてレポートにまとめる。(5時間) | | | | |
| 9 | スポーツの多様性 | 近年の“観る”“創る”といったスポーツの関わり方や、“障がい”“性別”“年齢”“人種”などによるスポーツにおける差別などを例に、スポーツの多様性の問題に取り組んでいきます。 | | | | テーマに関する資料を集め、多様なスポーツのあり方についてレポートにまとめる。(5時間) | | | | |
| 10 | スポーツにおける暴力 | 運動部活動の指導者による体罰問題や上級生による暴力問題などを例に、スポーツが抱える暴力性について考察していきます。 | | | | テーマに関する資料を集め、スポーツと暴力についてレポートにまとめる。(5時間) | | | | |
| 11 | スポーツにおけるハラスメント | 指導者によるセクシャルハラスメントや『監督絶対』といわれるパワーハラスメントの実態を考え、スポーツにおけるハラスメントについて考えていきます。 | | | | テーマに関する資料を集め、スポーツのハラスメントについてレポートにまとめる。(5時間) | | | | |
| 12 | 社会から影響を受けるスポーツ | オリンピックのボイコットやテロ事件などを事例に、スポーツと「政治」「宗教」「経済」「環境」「文化」などの社会とスポーツの関係について考察していきます。 | | | | テーマに関する資料を集め、スポーツと社会についてレポートにまとめる。(5時間) | | | | |
| 13 | 体育授業は必要か | 子どもの体力低下問題や体育嫌いといった事例を通して、学校教育において体育という教科は必要かどうかを考えます。 | | | | テーマに関する資料を集め、体育授業についてレポートにまとめる。(5時間) | | | | |
| 14 | スポーツの新しい役割 | 複雑化する現代社会においてスポーツにはどのようなことが期待されているのかを考察し、これまでとは違ったスポーツの新しい役割を考えていきます。 | | | | テーマに関する資料を集め、スポーツへの期待についてレポートにまとめる。(5時間) | | | | |
| 15 | スポーツは必要か | 「人間にとってスポーツとは何か」「現代社会におけるスポーツの役割」といった難解で根源的な問いに正面から取り組んでみます。 | | | | テーマに関する資料を集め、スポーツの価値と意味についてレポートにまとめる。(5時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「教養としての体育原理 新版」友添・岡出 共編編(大修館書店) ISBN:9784469267976(生協で購入してください。) | | | | 定期試験:70% レポート:30% ここで示しているレポートは、講義時間内で書く課題レポートと講義後にまとめるレポートの両方を指します。Sは定期試験が9割以上で、レポートに自分の考えが資料を踏まえ論理的にまとめられている場合です。以下、Aは定期試験が8割以上で、レポートは資料に基づき、自分の考えがまとめられている場合。Bは定期試験が7割以上で、レポートは自分の考えに近い資料の内容が書かれている場合。Cは定期試験が6割以上で、レポートの内容がテーマに即したものであった場合です。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「スポーツ倫理学講義」川谷茂樹著(ナカニシヤ出版) ISBN:9784888489232 | | | | 運動・スポーツの指導者として必須の内容です。原理(哲学)という難解な部分もありますが、これまでの運動経験や実際の運動場を意識したり、テーマについて事前に考えて講義に臨むと理解できます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|---|------|---|----------------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ心理学 | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SL15002 | 研究室 | S-20 |
| 担当者 | 齊藤 茂 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 水曜日2限 | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士、レク・コーディネーター(通常)、レク指、日本協指、指、スポーツレク指、中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義では、運動・スポーツ心理学、中でも「健康心理学」に関する理論を中心に学んでいきます。具体的には、「心の健康」(適応と不適応)に関する様々な理論、「ストレスマネジメント」に関する理論(心理学的ストレスモデル(認知的評価)やアセスメント等)及び「行動変容理論」(「トランスセオレティカル・モデル」を中心に)について学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 受講者各自が、健康運動の指導現場へ応用できる実践的知識及び技能(ストレスマネジメントの方法や行動変容のための働きかけ等)を修得することを到達目標とします。また、日常生活においても自分自身の心の状態に興味を持ち、自らの生活に役立てられることを望んでいます。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義が中心となりますが、授業内容に即したビデオ、DVD等の視聴覚教材等を適宜提示活用しながら、作業や討論を交え授業を進めます。また、実際に心理テスト等の体験を通して、心理テストの内容と同時に、自分自身の心の状態についても知ることができます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 心理テストを体験した後、本講義についてのガイダンスを行います。 | | | | シラバスを熟読し、講義内容について理解しておく。(2時間) | | | | |
| 2 | 心の健康とは? | 心の健康とは「心が病んでいないばかりではなく、個人が社会の中で快適に適応している状態」とであるとされている。この「適応している」状態(あるいは「不適応」とは)どういうことなのか考えます。 | | | | 精神的に健康な人とは具体的にどのような人か、各自が考えを持ち授業に参加をする。(4時間) | | | | |
| 3 | 心の健康とは? | 心の健康とは、具体的にどのような状態をいうのか、様々な研究者の理論に共通するポイントについて学びます。 | | | | 事前に配布されたテキスト(コースパケット)の該当部分を熟読してくる。(4時間) | | | | |
| 4 | 心の健康とは? | 第3回に引き続き、心の健康について、様々な研究者の理論に共通するポイントについて学びます。また、高齢者の心理的特徴を子どもや青年の心理と比べながら理解します。 | | | | 事前に配布されたテキスト(コースパケット)の該当部分を熟読してくる。(4時間) | | | | |
| 5 | 心の健康とは? | 「適応」とは逆の「不適応」について、適応に悩む「人格障害」等の例を取り上げて具体的に学びます。 | | | | 事前に配布されたテキスト(コースパケット)の該当部分を熟読してくる。(4時間) | | | | |
| 6 | ストレスマネジメントの理解 | ストレス(反応)について、テキスト(コースパケット)をもとに学びます。 | | | | 事前に配布されたテキスト(コースパケット)の該当部分を熟読してくる。(4時間) | | | | |
| 7 | ストレスマネジメントの理解 | 心理学的ストレスモデル(認知的評価)について、テキスト(コースパケット)をもとに学びます。 | | | | 各自の実体験と照らし合わせて考えてみる。(4時間) | | | | |
| 8 | ストレスマネジメントの理解 | ストレスのアセスメント(ストレスを修飾する要因である性格や行動パターンも含む)について、テキスト(コースパケット)をもとに学びます。 | | | | ストレスのアセスメント結果について、考察を行う。(4時間) | | | | |
| 9 | ストレスマネジメントの理解 | 交流分析の理論について学びます。実際に交流分析を体験することを通して、自分自身の交流のパターンを理解し、ストレスマネジメントに役立てます。 | | | | 交流分析の結果について、自分なりの分析を行い、レポートを作成する。(4時間) | | | | |
| 10 | ストレスマネジメントの理解 | 一般的なストレス対処法(ストレスコーピング)について、テキスト(コースパケット)をもとに学びます。 | | | | 日常から自分が用いているストレスへの対処法について考えてみる。(4時間) | | | | |
| 11 | ストレスマネジメントの理解 | ストレス対処法について、カウンセリングや自己開示を中心に専門的に学びます。 | | | | 日常から自分が用いているストレスへの対処法(自己開示)について考えてみる。(4時間) | | | | |
| 12 | 運動実践に伴う心理社会的効果 | 運動実践に伴う恩恵(気分の改善や抑うつ改善)と弊害(摂食障害やバーンアウト等)について、テキスト(コースパケット)をもとに学びます。 | | | | 運動実践に伴う恩恵と弊害について考えてみる。(4時間) | | | | |
| 13 | 行動変容の理論 | 「トランスセオレティカル・モデル」について、行動変容プロセス、行動変容ステージ、及び構成概念間の関係(ステージマッド介入)について、テキスト(コースパケット)をもとに学びます。 | | | | 自分が実際に指導者になった際、どのように応用できるか考えてみる。(4時間) | | | | |
| 14 | 行動変容理論の実践的適用 | 指導者と受講者のミスマッチに気づき、その解決法について考える。個別指導における動機づけ、カウンセリングについて、受講者同士のディスカッションを取り入れながら学びます。 | | | | 自分が実際に指導者になった際、どのように応用できるか考えてみる。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | これまでの講義のまとめを行いながら、定期試験のための対策を行います。 | | | | これまでの講義について復習を行い、不明な点等は質問できるように準備を行う。(6時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| コースパケット(参考文献等の資料を集めた冊子)を授業の中で配布します。 | | | | 定期試験:80% 受講態度:20% S:授業に対して積極的かつ探究的に参加し、授業内容を様々な事象に対して応用ができるレベルにまで理解している。A:授業に対して積極的に参加し、授業内容を理解している。B:授業に対して積極的に参加し、授業内容をおおよそ理解している。C:授業内容について最低限理解している。 なお、受講態度は授業における課題等に取組む姿勢により評価します。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「健康運動指導士養成講習会テキスト下」(健康・体力づくり事業財団) 「スポレク活動で健康寿命を延伸」(日本レクリエーション協会) | | | | 競技スポーツ及びコーチングに関する内容は、2年次後期開講のスポーツカウンセリングおよび3年次前期開講のスポーツコーチング論で主に扱うため、これらの講義を併せて受講することを奨励します。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------------|---|---|------|----------------|---|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 運動学 | | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL25003 | 研究室 | S-13 |
| 担当者 | 岩間 英明 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 火曜日5限 | | |
| 関連資格 | 日体協協指、中一(保体)、高一(保体) | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本講義はスポーツ指導の手がかりとなる基礎的理論を学ぶことを目的としています。運動指導における課題発見や解決の仕方を学び、自らの力で指導方法を組み立てることができるようにしていきます。講義内容はマイネルの「スポーツ運動学」の理論を基礎として、運動構造、運動発達、運動学習、運動質、運動観察 などについて講義してきます。さらに、運動指導に関する実際の問題を探り上げ、指導者や学習者の両方の視点から検討を加えることで、実践的な指導力向上を目指します。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 運動を「構造的」に理解し、運動の「質」を見極めることのできる観察力や、その解決方法に関する基礎的な理論を理解することが基本的な目標です。さらに、運動学校体育や健康運動指導、競技スポーツの現場等において、学習者の運動課題を見つけ出し、その解決につながる指導方法を自らの力で組み立てることができる実践的な指導力を身につけることが最終的な目標です。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 基本的にはテキストや配付資料を基に講義を展開していきます。さらに、具体的な事例として実際の指導場面で直面する様々な問題を取り上げ、その解決方法を考えることでスポーツ運動学の基礎的知見をより明確化にして理解を深め、実践に結びつけていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス。運動学は何を問題とし、何を学ぶ学問なのか。 | 授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方についての説明をします。スポーツ運動学の概念、研究目的・方法などの概略について解説を行い、運動学の視点から捉えた運動研究のいくつかを紹介していきます。 | | | | | テキストP1~11を事前に読む。授業内容の運動学の概略、専門用語について復習する。(3時間) | | | | |
| 2 | 運動の学習とは何か。運動学習の意味と、その基本的な見方を学ぼう。 | 運動指導におけるモルフォロジーの基本的考え方を理解し、運動学習の意味を改めて問い直し、これからの運動学習で求められるものは何かを学びます。 | | | | | テキストP14~31を事前に読む。運動学習の基礎理論について復習する。(3時間) | | | | |
| 3 | 学習者が意欲的な運動学習をするために必要なことは何かを考えよう。 | 学習者が意欲的に運動に取り組むための学習方法を、健康運動指導、学校体育、競技スポーツなどの指導場面ごと、具体的な指導事例を挙げながら検討していきます。 | | | | | テキストP32~57を事前に読む。「新しい運動学習」に関する課題レポートを作成する。(6時間) | | | | |
| 4 | 動きを構造的に考えることの必要性とその方法を理解しよう。 | 運動指導に必要な運動の仕組み「構造」との考え方を、動きの意味によって構造化される「価値構造」と、動きの中に存在する様々な条件や「局面構造」を包含した「全体構造」の2つの視点から考えます。 | | | | | テキストP60~68を事前に読む。運動を構造化する必要性とその方法を復習する。(4時間) | | | | |
| 5 | 運動を洗練させるなめらかな動き、運動の先取りについて考えよう。 | なめらかな動きをするために重要な役割を果たす「運動の先取り」について運動構造からとらえ、局面構造およびそれぞれの局面をスムーズに組み合わせたための基本的な動きの特徴をとらえます。 | | | | | テキストP69~77を事前に読む。局面構造の特徴と、先取りについて復習する。(4時間) | | | | |
| 6 | 力動感としての動きのリズム、運動観察ならびに運動共感について学ぼう。 | 運動指導では身体の空間的・図形的な内容だけでなく、身体の内部感覚である力動感としての「動きのリズム」が大切な視点であることを理解し、指導における運動観察、運動共感について学びます。 | | | | | テキストP78~85を事前に読む。運動リズム、運動観察、運動共感について復習する。(4時間) | | | | |
| 7 | 動きの系統性をふまえた段階的な指導、発達段階に応じた指導について学ぼう。 | 動きの系統性を動きの類縁性から理解し、習熟の程度に応じた段階的な指導について実践事例から学びます。また、年齢による運動の特徴を捉え、発達段階に応じた指導について解説します。 | | | | | テキストP86~93を事前に読む。動きの系統性、発達段階に応じた指導の仕方を復習する。(4時間) | | | | |
| 8 | 運動の習熟の仕方と、運動修正の基本的な考え方や方法について考えよう。 | 運動の習熟の程度の違いについて学習し、そうした違いが生まれる原因や背景を考えます。同時に、運動の修正方法の見つけ方や、運動修正に関する基本的な知識や考え方について学びます。 | | | | | テキストP94~109を事前に読む。「動きの構造」に関する課題レポートを作成する。(6時間) | | | | |
| 9 | 動き方を覚え、うまくするのはどういふことか、その過程で大切なことは何? | 運動学習の習熟位相(動きを覚える段階)理論について学習し、動きを覚える過程について理解します。また、動きを覚えるために必要な条件について学びます。(運動スキル獲得とその獲得の過程) | | | | | テキストP112~126を事前に読む。事例に基づき、習熟位相について復習する。(4時間) | | | | |
| 10 | 良い指導とは何か、指導者によって運動結果に差が生ずる理由を考えよう。 | 指導者が学習者の運動を修正する4つの指導レベルについて学習し、指導効果を上げるために必要な情報や、よりよい指導者を目指すための視点や条件などについて考えます。(人や集団のメカニズムと支援対象) | | | | | テキストP127~133を事前に読む。指導者の4つの指導レベルについて復習する。(4時間) | | | | |
| 11 | ポイントをとらえた指導や、意欲的に学習させるために必要なことを学ぼう。 | 運動技術の特性や学習者の欠点の把握の仕方などの指導ポイントのとらえ方を理解した上で、学習者が意欲的に運動学習するために、指導者はどうすればよいかを学びます。(競技力向上のための情報とその活用) | | | | | テキストP134~147を事前に読む。運動指導のポイントのとらえ方を復習する(4時間)。 | | | | |
| 12 | 学習者の動きの可能性を拓き、新しい動き方を覚えさせる方法を理解しよう。 | 学習者の動きの可能性を引き伸ばし、新しい動きを覚えさせるために必要な動きの発生順序に基づく動きの覚え方について理解します。また学習者自身の観察力を高める指導の仕方について考えます。 | | | | | テキストP148~162を事前に読む。「動き方を覚える」に関するレポートを作成する。(6時間) | | | | |
| 13 | 運動指導の実際 運動理論に基づく器械運動の指導について考えよう。 | 器械運動の特性や系統性を踏まえ、器械運動のいくつかの技を挙げて、効果的な指導をするためにはどのような指導をすればよいか、自分の経験と照らし合わせながら具体的に考えます。 | | | | | テキストP172~195を事前に読む。器械運動の指導を技の系統性から復習する。(3時間) | | | | |
| 14 | 運動指導の実際 運動理論に基づく陸上競技の指導について考えよう。 | 陸上競技の特性や系統性を踏まえ、短距離走と走り幅跳びを例に、効果的な指導をするためにはどのような指導をすればよいか、自分の経験と照らし合わせながら具体的に考えます。 | | | | | テキストP196~220を事前に読む。陸上競技のハードル走の指導をまとめてみる。(3時間) | | | | |
| 15 | 運動指導の実際 運動理論に基づく球技の指導について考えよう。 | 球技の特性や系統性を踏まえ、ゴール型、ネット型、ベースボール型それぞれについて、効果的な指導をするためにはどのような指導をすればよいか、自分の経験と照らし合わせながら具体的に考えます。 | | | | | テキストP229~254を事前に読む。球技の特性に応じた指導をまとめてみる。(3時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「教師のための運動学」金子明友監修、吉田茂、三木四郎編(大修館書店) ISBN: 9784469263350 (生協で購入してください。) | | | | | | 定期試験: 70% レポート: 30% レポートは学習のまとめりごと定着度の評価として3回に分けて実施します。Sは定期試験は9割以上得点し、レポートが資料の内容を正しく理解してまとめられている場合です。以下、Aはテスト8割以上で、レポートは資料に基づいてまとめられている場合。Bは両テストが7割以上で、レポートは資料の内容が書かれている場合。Cはテストが6割以上で、レポートの内容が資料の内容が概ね書かれている場合です。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「スポーツ運動学」マイネル、K. 金子明友訳著(大修館書店) ISBN: 9784469260663 「運動学講義」金子 朝岡 共編 ISBN: 9784469261776 | | | | | | 運動・スポーツの指導者として必須の実践的な科目です。難解な用語もありますが、実際の運動場面を意識して学習を進めてください。また、講義計画に記載された事前事後学修を確実に行って講義に臨むと理解できます。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------|---|---|------|--|------|-------------------------------|---------------------|-------------|-----|------|
| 科目名 | 医学概論 | | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパ [®] リング | SL15004 | 研究室 | S-03 |
| 担当者 | 進藤 政臣 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日1限、金曜日1限 | | |
| 関連資格 | 指導士、第一種衛生、養教一 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| <p>人の健康づくりに携わる職種は、医学や医療と密接な関係があります。したがって、医学や医療の正しい知識や現状を学ぶことにより、健康の増進や疾病の予防をいかにするかを知ることが目的です。</p> <p>医学は、人の健康と疾病について学ぶ学問であり、この講義では、医学の定義、構成分野、発達の歴史、さらに健康や疾病の基礎的知識を学びます。その上で、倫理上の点も含めて、今日の医療の課題や問題点も学びます。</p> | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 医学や医療体制、疾病など、医療全般についての概要が理解できることを到達目標とします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 座学形式で講義します。基本的な事項については、教科書に沿って説明します。問題点については個人個人の考え方を発表しあって、より妥当な考え方に到達するように努めます。必要に応じてプリントも配布します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 医学概論とは何か、何を学び何が要求されるのかについて講義します | | | | | 講義で話された内容をよく復習しておいてください(4時間) | | | | |
| 2 | 医学の歴史 | 医学史を学ぶ意義、古代から現在までの医学の流れ、日本における医学の発展について講義します | | | | | 教科書p.1~14を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 3 | 病気とその治療、予防 | 健康の定義、病気の定義と分類、医療の目的、療養施設の種類と目的について講義します | | | | | 教科書p.15~23を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 4 | 患者の診察と検査 | 診療の流れ、病歴聴取、診察の目的・所見、検査の目的・種類・意義について講義します | | | | | 教科書p.24~36を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 5 | 社会保険と医療保険 | 制度のあゆみ、社会保障の概念と制度、健康保険、各国の医療制度について講義します | | | | | 教科書p.37~47を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 6 | 日本の医療の現状と国民の意識 | 健康寿命、国民の自己評価、受診行動、医療機器、予防医療、国民医療費について講義します | | | | | 教科書p.48~61を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 7 | わが国の医療の問題点と対策 | 医師不足、無医地区、救急医療、国の対策、5疾病5事業について講義します | | | | | 教科書p.62~73を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 8 | 生活習慣病、健康日本21と特定健診 | 生活習慣病の概念と意義、健康日本21、特定健診、特定保健指導について講義します | | | | | 教科書p.74~80を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 9 | 高齢者医療、健康長寿と介護保険 | 高齢者、高齢化社会、健康長寿、老化防止、介護保険について講義します | | | | | 教科書p.99~113を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 10 | リハビリテーション | 概念と定義の変遷、ノーマライゼーション、関係法規、国連の取り組み、リハビリテーションの種類と諸段階について講義します | | | | | 教科書p.114~128を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 11 | 医療職の役割とチーム医療 | 医療従事者の職種と業務内容、チーム医療の歴史と現状について講義します | | | | | 教科書p.129~145を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 12 | 医療安全 | 医療事故、前事故事象(ヒヤリハット)、事故の原因と対処、院内感染予防、安全管理体制について講義します | | | | | 教科書p.146~154を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 13 | 医の倫理・患者の権利1 | 医療の倫理的側面、時代による変遷、自己決定権、リスボン宣言、患者の権利と責務、インフォームドコンセント、セカンドオピニオンについて講義します | | | | | 教科書p.170~176を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 14 | 医の倫理・患者の権利2 | 生殖医療、人工受精、代理出産、遺伝子診断、母体保護法、脳死、臓器移植、緩和ケア、終末期医療、安楽死と尊厳死について講義します | | | | | 教科書p.176~187を予習しておいてください(4時間) | | | | |
| 15 | 医学研究 | ヘルシンキ宣言、国の倫理指針、疫学研究、コホート研究、EBM、臨床試験、先端的研究(ヒトゲノム計画、幹細胞の利用と再生医療)について講義します | | | | | 教科書p.194~208を予習しておくこと(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「現代医学概論 第2版」柳澤、信夫著(医歯薬出版) ISBN:978-4-263-73164-2(生協で購入してください。) | | | | | 定期試験:100% S:医学・医療の歩みと、日本の医療の特徴、種々の歴史的・社会的・経済的・倫理的・医療的課題を十分に理解している、A:上記をほぼ理解している、B:上記を8割程度は理解している、C:6割程度は理解している。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「医学概論」北村 論著(中外医学社) 「医学概論」日野原 重明著(医学書院) | | | | | 医学史や現代医学の概要、医療体制を知ることにより、わが国の医療の概要を理解し、いかに疾病を予防するかを自ら考えてください。講義の前には、必ず教科書に目を通しておくこと。自ら考えるために通読することが大切です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---|---|------|--|----------------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 安全・救急法（含実習） | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパ・リング | SL15005 | 研究室 | S-16 |
| 担当者 | 江原 孝史 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士、第一種衛生、ト指、日体協 [®] 指、日体協 [®] ア [®] 指、 [®] 指、 [®] 指、中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 救命救急について、特に心肺蘇生とAEDの使い方について学ぶとともに救急を要するようないろんな状況と対処の仕方を学びます。応急手当の手技を学び、日常遭遇するケガに対処する方法を身につけます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 救命しなければならぬ場面に遭遇してもあわてず必要な行動と処置ができるようになること。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 教室での講義と実習を組み合わせで行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 安全救急法についてのガイダンス、学ぶにあたってのこころがまえや態度を学びます。 | | | | 事前に自分が過去に学んだ救命救急法を復習する。(4時間) | | | | |
| 2 | 心肺蘇生 | 心肺蘇生とAEDの方法と心肺蘇生の必要性（特に倒れた人の身近にいる人が行う心肺蘇生の必要性）を学びます。 | | | | テキスト1-9ページを読み、救命の4つの連鎖を暗記する。(4時間) | | | | |
| 3 | 虚血性心疾患 | 心臓の働きと狭心症、心筋梗塞の病態と症状を学ぶ。心臓が原因で突然死することが多いことを学びます。 | | | | 心臓の解剖と機能、冠状動脈について学ぶ。(4時間) | | | | |
| 4 | 呼吸困難 | 肺の働きと病気、呼吸困難の原因を学びます。 | | | | 肺の解剖と呼吸のメカニズムを学ぶ。(4時間) | | | | |
| 5 | 低体温症 | 低体温について、低体温になった場合の対処の仕方を学びます。 | | | | 最近の低体温症の事例について調べる。(4時間) | | | | |
| 6 | 溺水 | 乳幼児から高齢者までの各年代における溺水の特徴、溺水の予防について学びます。 | | | | テキスト38ページを読む。最近おきた溺水の事例を調べる。(4時間) | | | | |
| 7 | 救急蘇生(1) | 松本広域消防署による実習 救急蘇生法 呼吸のチェック 呼吸停止の確認の実習をします。 | | | | テキスト10-24ページを読む。(4時間) | | | | |
| 8 | 救急蘇生(2) | 松本広域消防署による実習 救急蘇生法 AEDの使い方 人工呼吸法の実習をします。消防署で行われる口頭指導のDVDを見ます。 | | | | 事後にシチュエーションを変えて口頭指導の問答を考える。(4時間) | | | | |
| 9 | 救急蘇生(3) | 窒息、気道異物除去法、アナフィラキシーショックへの対処の仕方、エピペンの使い方の実習をします。蜂刺されによるアナフィラキシーショックのDVDを見ます。 | | | | 事後に蜂刺され以外の原因によるアナフィラキシーショックの事例を調べる。(4時間) | | | | |
| 10 | 応急手当(1) | 日赤講師による応急手当の実習：体位と移動、RICE処置について学びます。 | | | | テキスト25-30ページを読む。さまざまな救急の場面を想定したシナリオを作る。(4時間) | | | | |
| 11 | 応急手当(2) | 日赤講師による応急手当の実習：三角巾の使い方、止血法、骨折、捻挫に対する処置、テーピングについて学びます。 | | | | テキスト33-36ページを読む。身の回りで三角巾に代わるものを捜し、試してみる。(4時間) | | | | |
| 12 | やけど | やけどの種類と分類、やけどの面積を推定するための9の法則について学びます。 | | | | テキスト36-37ページを読む後に自分の住む地域の最近の火災事故の頻度について調べる。(4時間) | | | | |
| 13 | 中毒 | 食中毒、ガス中毒、たばこ中毒の種類とその対処法について学びます。 | | | | いろいろな中毒の事例を調べる。(4時間) | | | | |
| 14 | 熱中症 | 熱中症の種類と対処法、脱水について学びます。 | | | | テキスト33ページを読む。経口補水液を作成し、脱水のメカニズムについて調べる。(4時間) | | | | |
| 15 | 災害 | 災害への対応、リスクマネジメント、救護法について学びます。 | | | | 過去に起きた大きな災害の事例について調べる。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「応急手当講習テキスト救急車がくるまでに（改訂5版）」（東京法令出版）（講義にて配布します。） 「アトラス応急処置マニュアル」（南江堂） ISBN:978-4-524-26868-9 | | | | 実技：60％ 定期試験：30％ レポート：10％ S：授業内容を高度に理解し、実技に積極的に取り組みかつ質問し、レポートの内容が特に優れ、定期試験も9割以上。A：授業内容をよく理解し、実技に積極的に取り組み評価が優れ、レポートの内容が優れ、定期試験が8割以上。B：授業内容を理解し、実技に誠実に取り組み、レポートの評価が良くて定期試験が7割以上。C：授業の内容を理解し、実技に取り組み、レポートの評価が可で定期試験が6割以上。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | |
| 「スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・障害改訂第2版」（南江堂） 「改訂版 写真と動画でわかる一次救命処置」（学研） | | | | 一刻を争う救命救急の処置をしっかりと学びましょう。いつ、どこで、ケガや病気に突然、遭遇するか分かりません。救急時の最低限の応急手当の仕方を身につけよう。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------|---|---|------|--|------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 養護概説 | | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL15006 | 研究室 | S-19 |
| 担当者 | 中島 節子・早川 維子 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | 養教一 | | | | | 履修条件 | 教職課程履修者 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | 2018年度～ | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| この科目は、養護教諭1種免許取得を目的とする科目の1つです。養護教諭の沿革や職務内容等の基本的な事項を学び、養護教諭に必要な知識や求められる能力について、体系的に理解することを目的としています。保健室の機能、学校保健情報の把握、保健指導・保健学習、救急処置および救急体制、健康診断、健康相談活動、学校環境衛生、感染症の予防、学校保健に関する各種計画および組織活動の企画と運営への参画等、養護教諭の職務についての基本的な事項を学びます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 学校における養護教諭の役割と養護教諭の専門性を説明できる。 養護教諭の基本的な職務内容を実践と結びつけ理解し、理想の養護教諭像を描くことができる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 講義では、養護教諭職の基礎、基本を中心に置きながら、学校現場の養護教諭の講義を交えて具体的な実践事例を取り上げて講義していきます。現代の学校現場に求められる養護教諭の専門性について考えながら、実践できる能力について学びます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 養護教諭の職務 | 養護教諭の歴史の歴史について学びます。養護教諭の免許と養成制度について学びます。 | | | | | テキストの第1章を予習復習する。養護教諭の歴史についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 2 | 学校教育と学校保健 | 教育の目的、学校保健に関連する法律について学びます。学校保健計画について実例を交えて考えます。 | | | | | テキストの第2章を予習復習する。(4時間) | | | | |
| 3 | 養護教諭の職務、子どもの現代的な健康課題とその対応 | 養護教諭の専門性、職務内容、養護教諭の新たな役割について学びます。こどもの現代的な健康課題、発育状況、いじめ、保健室登校、生活習慣の乱れなどの現状を学び、対応を考えます。 | | | | | テキストの第3、4章を予習、復習する。現代の子どもの健康課題を考える。(4時間) | | | | |
| 4 | 保健管理：健康診断 | 健康診断の法的根拠や定期健康診断の流れ、事後処置について学びます。 | | | | | テキストの第5章の2節の健康診断についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 5 | 保健管理：健康観察 | 健康観察の重要性、目的を学びます。健康観察の視点、フィジカルアセスメントを活用した健康観察の実践について学校での実際を聞きながら学びます。 | | | | | テキストの第5章3節の健康観察についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 6 | 健康相談 | 健康相談の基本的な考え方、健康相談の進め方と実施上の留意点について、実際に学校で行われている事例を含めて学びます。 | | | | | テキストの第7章の健康相談についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 7 | 精神保健、PTSDの理解とその予防 | メンタルヘルスに対応するための基礎知識、PTSDの理解とその予防について学びます。 | | | | | テキストの第8章、第9章をまとめこどもの心の問題解決についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 8 | 養護教諭に必要な資質と能力 疾病予防 | 疾病管理の目的と留意点学校における感染症の予防と管理、学校におけるアレルギー対応について学びます。 | | | | | テキストP188～204までを予習、復習しておくこと(4時間) | | | | |
| 9 | 保健管理：救急処置 | 救急処置の目的、学校内の救急体制の確立、学校管理下の事故発生の対応について学びます。 | | | | | テキストの第5章の1節の救急処置についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 10 | 学校環境衛生 | 学校環境衛生基準と環境検査について学び、養護教諭の役割を考えます。 | | | | | テキスト第5章の5節、学校の環境衛生についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 11 | 保健教育 | 保健教育のめざすもの、教科保健(保健学習)について学びます。学校における保健指導の位置づけ等について学校で実際行われている保健指導の現状を交えて学びます。 | | | | | テキストの第5章の保健教育についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 12 | 学校教育相談、特別支援教育と養護教諭 | 学校における教育相談での養護教諭の役割を学びます。インクルーシブ教育、特別支援教育の対象、特別支援教育コーディネーター、医療的ケア等について学びます。 | | | | | テキストの第10章をまとめる。(4時間) | | | | |
| 13 | 保健室経営、保健組織活動 | 保健室経営経営計画から評価までを学びます。学校における保健組織について学びます。 | | | | | テキストの第11章、第12章をまとめる。(4時間) | | | | |
| 14 | 安全管理と危機管理 | 学校と子どもをめぐる安全の現状を考え、危機管理の進め方を考えます。危機管理における養護教諭の役割について学びます。 | | | | | テキストの第13章をまとめる。災害時の養護教諭の役割についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 15 | 調査、研究、プレゼンテーションの進め方 | 養護教諭が行う実践的研究とその進め方 プレゼンテーションの仕方について学び、実践研究について考えます。 | | | | | テキストの第14章をまとめる。養護教諭の関する論文を検索し、解説する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「新養護概説<第10版>」采女智津江著(少年写真新聞社) ISBN:978-4-87981-630-6(生協で購入してください。) | | | | | 定期試験：100% 定期試験で評価します。S:養護教諭に必要な法的根拠や知識を理解できる。 A:養護教諭に必要な法的根拠や知識を説明できる。B:養護教諭に必要な知識や専門性について基礎的なことは説明できる。C:養護教諭に必要な知識や養護教諭の専門性について6割以上理解できる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論」岡田加奈子 河田 史宝編(東山書房) 「四訂養護概説」三木とみ子著(ぎょうせい) | | | | | 養護教諭1種免許取得を目指す学生は必ず履修してください。また、養護教諭1種免許を取得するためには、健康相談活動、養護教諭と看護、看護学概論、学校の看護、看護実習を併せて履修することが必要となります。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|---|----------------------------|------|----------------|------------------------------|-----------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | 発育発達論 | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SL25007 | 研究室 | S-17 |
| 担当者 | 田邊 愛子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 木曜日5限 | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士、日体協協指、レ・コデー(教育)、日体協アツネ、中一(保体)、高一(保体)、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツ指導者や教育現場では、子どもたちの身体がどのような過程を経て大人へと成長していくかを理解することは重要なことです。そこでは単に遺伝的な素質が変容する過程としての変化ではなく、どのように子どもたちの才能を開花させるか、といった視点による発育発達理解が重要となります。ヒトが誕生してから思春期、そして成人以降の老化と体力や運動能力などの関連を理解するとともに、体力と遺伝的要因や運動の実践の有無など後天的要因との関連についても学習します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| ヒトが誕生し、乳児期、思春期を向かえやがて加齢とともに老化します。その過程における発育発達の理解を深め、年齢による身体の変化と性差における差異を説明できるようになること。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 発育・発達に関して思考し、講義、作業、討論等を行う中でその認識を深めます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 「発育」「発達」の概念 | ガイダンス：発育・発達とはを考えます | | | | | シラバスを熟読すること(4時間) | | | |
| 2 | 生理学的年齢 | 発達をどう捉えるか遺伝的な影響要因の理解を深めます | | | | | 年齢についての定義を調べること(4時間) | | | |
| 3 | 出産と乳幼児 | ヒトの誕生と乳児期の運動能力および栄養について知識を深めます | | | | | 事前の配布されるプリントを読むこと(4時間) | | | |
| 4 | 身体運動発現の順序性 | 幼児の運動能力の測定の問題点について課題を検討し測定方法について理解できるようにします | | | | | 基礎運動技能について予習しておくこと(4時間) | | | |
| 5 | 成長期における骨格の発達 | 発育・発達期の身体的特性 身長・体重・骨格の発育および子どものけがについて理解できるようにします | | | | | 骨格の構造について予習しておくこと(4時間) | | | |
| 6 | 成長期における技術の発達 | 発育・発達期の身体的特性 スキャモンの発育曲線と神経・筋コントロール能力について説明できるし、コーチング方法について知識を深めます | | | | | スキャモンの発育曲線を予習しておくこと(4時間) | | | |
| 7 | 運動能力構造の変化 | 発育・発達期の身体的特性 筋と筋力の発達について筋肉の種類や特徴などを理解し説明できるようにします | | | | | プリントの復習すること(4時間) | | | |
| 8 | 身体発達に影響する要因と問題 | 発育・発達期の身体的特性 エネルギー代謝量と最大酸素摂取量の発達について理解し説明できるようにします | | | | | プリントを復習すること(4時間) | | | |
| 9 | 女性における発育発達 | 発育・発達期の身体的特性 女性の身体発達について性差の違いを理解できるようにします | | | | | 女性の特徴について予習しておくこと(4時間) | | | |
| 10 | 性差による疾病やスポーツ障害について | 性差における疾病やスポーツ障害の特徴について学び、その対処方法を理解できるようにします | | | | | スポーツ障害の発生活因などを予習しておくこと(4時間) | | | |
| 11 | 老化メカニズム | 老化と運動 | 高齢者の身体的特徴について理解を深めます | | | 高齢者の特徴を調べておくこと(4時間) | | | | |
| 12 | 老化メカニズム | 老化と運動 | 高齢者の体力と効果的な運動処方について理解を深めます | | | 高齢者の体力の基準値を調べておくこと(4時間) | | | | |
| 13 | 高齢者の心身機能 | 老化と運動 | 高齢者の運動に対する応答について説明します | | | 細胞・組織における老化について予習しておくこと(4時間) | | | | |
| 14 | 「健康とは」を考える | 運動・栄養・休養からヒトにおける健康を総合的に理解できるようにします | | | | | 事前課題について資料作成しておくこと(4時間) | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめと試験に向けて注意点を説明します | | | | | 今まで使用したプリントを熟読しておくこと(4時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| コースバケット(参考文献等の資料を集めた冊子)を授業の中で配布します | | レポート：10% 定期試験：90% 授業内レポートを評価し、定期試験では授業のプロセスの中で身につけた知識を評価します。95%以上のより高いレベルに達すればS、80%以上の理解度をA、70%以上をB、60%以上をCとします。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「健康運動実践指導者用テキスト」財団法人健康・体力づくり事業財団編 | | ・授業の中で行う共同作業、および討論への積極的な参加を望みます。 ・健康運動実践指導者用テキストを事前に読んでおくことが望ましい。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------------|--|------|------|----------------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 衛生・公衆衛生学概論 | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL25008 | 研究室 | N-04 |
| 担当者 | 弘田 量二 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 火曜日4限 | | |
| 関連資格 | 第一種衛生、中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 公衆衛生とは「地域社会の努力によって、疾病予防、寿命延長、身体的・精神的健康の増進を図る科学・技術である」と定義されています。社会や環境との関連において特に健康と疾病を集団の事象としてとらえ、個人はもとより集団レベルにおける疾病の予防と健康の保持・増進を図るためにはどうするかを学びます。人間集団の健康状態を把握するために国内外における保健統計、健康水準の定義と意義、人口問題が健康指標に及ぼす意味などを理解します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 衛生管理者、保健体育の教諭資格の取得を目指します。これら資格取得のために必須要件となる健康と疾病を基盤とする公衆衛生学に関する知識と理解の養成を目的とします。公衆衛生学はその学修領域は広範で複雑であることから、日常時から社会問題についても関心を持ち極力身近な学問と認識して、能力を養うことを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 健康と疾病との関係について、その予防対策を考慮した上で、年ごとに変化する関連統計情報や社会的報道等を資料として、身近な学問としての公衆衛生学を展開していきます。配布資料およびプロジェクターを用いた授業を進めていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス・健康とは何か | 授業概要、学習到達目標、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明、質問します。公衆衛生学の概念として、健康の概念、公衆衛生の概念、定義を学習します。 | | | | 事前にシラバスを読み、確認事項を整理しておく。授業後は履修事項をとりまとめる。(4時間) | | | | |
| 2 | 食生活と疾病 | 糖尿病・高血圧などは、乱れた生活習慣に起因すると考えられています。さらにはがんも食生活を改善することである程度予防できると考えられています。どのような食生活が疾病予防に望ましいのかを学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 3 | がん予防 | がんは生活習慣病の一種ととらえられています。どのような食事習慣や運動習慣をすれば、健康寿命を延ばすことにつながるのか、学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 4 | 健康作り対策 | 健康作り政策の変遷、健康増進法、健康日本21(第二次)、健康管理の進め方とその方法について学びます。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 5 | 保健機能食品制度(トクホ)のはなし | 生理学的機能や生物学的活動に影響を与える保健機能成分を含み、疾病リスクの軽減が期待できると表示できる制度について学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 6 | 心の健康作り | 社会生活の変化に伴って仕事や生活に強い不安や悩みを持つ労働者が増えてきました。健康的な生活を営むための心の健康作りについて学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 7 | 小テストの実施と解説、質疑応答 | 第1回から6回までの授業の理解度をテストで確認し解説します。学生の主体的な授業参加を促すため質疑応答を随時受け付けて進めます。 | | | | 配付資料とテキストをもとにテスト対策や質問を準備してくる。(4時間) | | | | |
| 8 | 生活習慣病予防 | 肥満は、高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病を引き起こす原因となります。さらに動脈硬化、心筋梗塞や狭心症などのリスクを高めます。どうして肥満になるのかについて学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 9 | 健康格差を考える | 寿命が短かった時、その人の自己責任といえるだろうか。所得や住んでいる地域によって寿命が異なるのはなぜだろうか。社会疫学の観点から学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 10 | 統計資料 | 健康、疾病、行動に関わる統計資料の中から、人口動態統計(国勢調査)、人口動態統計、生命表、平均寿命などについて学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 11 | 環境保健 | 疾病のひきがねとなる環境要因にはどのようなものがあり、健康的・文化的な生活をおくるためにはどのようにしたらいいだろうか、学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 12 | 食塩と高血圧 | 食塩の取り過ぎは高血圧の原因になります。健康寿命を延ばす食事に求められるものについて学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 13 | 食事の役割 | 私達は何のために食事をするのだろうか。食事の一次機能、二次機能、三次機能について学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 14 | 産業保健 | 私たち労働者は、職場において労働安全衛生法により健康や職場災害から守られています。どのようにして守られているのか、学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 15 | 全体のまとめ、国試関連 | 授業の総括として、これまでの内容の要点を復習し、質疑応答を行います。管理栄養士国家試験の必須科目としての公衆衛生学1を概観します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 講義に応じたプリントをその都度配布します。 | | 定期試験：70% 小テスト：20% 受講態度：10% 受講態度：各種資格取得に必要な科目であることから、受講態度としては能動的で真摯であり、努力して、一定以上の試験成績を得ることを評価します。評価：S：公衆衛生活動を非常によく理解し、私達、有資格者が果たす役割を俯瞰的に論じられる。A：公衆衛生活動を活動をよく理解し、私達が果たす役割を論じられる。B：公衆衛生活動をおおむね理解し、私達が果たす役割を論じられる。C：公衆衛生活動を60%程度理解し、私達が果たす役割を論じられる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「シンプル衛生公衆衛生学」鈴木庄亮著(南江堂) ISBN:978-4-524-2553-5 | | 健康寿命の延伸には、どのような取り組みが考えられるだろうか。健康の根幹である、衛生・公衆衛生、保健に関わる者として常に考えて欲しい課題です。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------|--|---|---|----------------|------|---|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 薬理学 | | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SC25009 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 鈴木 仁志 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 養教一 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | 2016年度～ | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| <p>いろいろな医薬品が、人の病気の治療にどのような作用で効果を発揮するのかについて、生化学や薬理学、生理学的な基本的原理を基盤に理解していきます。なお、健康食品、サプリメント、食品添加物などについても、栄養学的、薬理学的側面からその効果について触れます。また、これら医薬品等を取り巻く法的規制や社会的事象についても取り上げ、薬と人との関わり方についても学びます。</p> | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 薬に関する基礎知識を習得し、薬物の特徴・作用機序・生体への影響について理解できる。医薬品と健康食品等との違いが理解できる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 基本的に教科書に準じて進めますが、プリントなどの資料を配布して、内容をよく理解できるように進めていきます。また、新たな教材やトピックを取り上げて説明したり、現代的課題を取り上げたりして、わかりやすく講義を展開していきます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 薬理学総論：薬理学とは、薬の生体内動態について | 薬と人の歴史をとおして、薬理学の成り立ちを理解し、薬の生体内での挙動について学びます。 | | | | | 事前：薬の投与方法について調べてみる。事後：履修事項を復習する。(4時間) | | | | |
| 2 | 薬理学総論：薬と受容体 | 薬が生体内で作用を現すしくみについて、受容体との関係をとおして理解し、薬の相互作用のしくみも学びます。 | | | | | 事前：教科書を予習しておく。事後：薬物耐性が発現する機序をまとめる。(4時間) | | | | |
| 3 | 薬理学各論：神経伝達物質と末梢神経作用薬 | 人の生命活動の重要な要素である神経系の情報伝達の担い手である伝達物質について学び、特に末梢神経系に作用する薬について解説します。 | | | | | 事前：神経系を構成する細胞について調べてみる。事後：履修事項を復習する。(4時間) | | | | |
| 4 | 薬理学各論：中枢神経系に作用する薬 | 中枢神経系の生理活性物質について学び、代表的な疾患と抗精神病薬について説明します。 | | | | | 事前：教科書を予習しておく。事後：履修事項を復習する。(4時間) | | | | |
| 5 | 薬理学各論：中枢神経系に作用する薬 | 気分障害の治療薬や抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬について解説します。 | | | | | 事前：教科書を予習しておく。事後：履修事項を復習する。(4時間) | | | | |
| 6 | 薬理学各論：循環系に作用する薬 | 心不全治療薬や抗高血圧薬について解説します。 | | | | | 事前：心房細動について調べてみる。事後：履修事項を復習する。(4時間) | | | | |
| 7 | 薬理学各論：血液に作用する薬 | 血液凝固と血栓溶解のしくみについて学び、血液の異常を治療する薬について解説します。 | | | | | 事前：アスピリンジレンマとは何か調べておく。事後：血液凝固因子についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 8 | 薬理学各論：抗炎症薬、抗アレルギー薬 | 炎症やアレルギーの発症機序を学び、それらを抑える薬について解説します。 | | | | | 事前：教科書を予習しておく。事後：アレルギー反応の分類をまとめる。(4時間) | | | | |
| 9 | 薬理学各論：呼吸器・消化器系に作用する薬 | 喘息、咳嗽の治療薬、消化管疾患治療薬について解説します。 | | | | | 事前：ヘリコバクター・ピロリ菌について調べてみる。事後：履修事項を復習する。(4時間) | | | | |
| 10 | 薬理学各論：代謝性疾患治療薬 | 糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬、甲状腺疾患治療薬などについて解説します。 | | | | | 事前：糖尿病の症状について調べてみる。事後：履修事項を復習する。(4時間) | | | | |
| 11 | 薬理学各論：化学療法薬 | 感染症治療薬、抗がん剤について解説します。 | | | | | 事前：細菌、真菌、ウイルスの違いを調べてみる。(4時間) | | | | |
| 12 | 薬理学各論：皮膚科用薬、眼科用薬、漢方薬 | 皮膚疾患や眼疾患の治療薬、漢方薬について解説します。 | | | | | 事前：教科書を予習しておく。事後：風邪の初期に使用する漢方薬についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 13 | 小児・妊産婦・高齢者における薬物動態 | 主要臓器の成熟度が刻々変化する小児や生理学的に特殊な状況にある妊産婦、加齢による薬力学的変化のある高齢者の薬物療法について解説します。 | | | | | 事前：高齢者の服薬管理・支援の方法を調べてみる。事後：履修事項を復習する。(4時間) | | | | |
| 14 | 健康食品、サプリメントの役割、それらと薬物と法令 | 健康食品、サプリメントなどについて、医薬品との違いやその目的、役割について解説します。また、それらと薬物を規制する法令について学びます。 | | | | | 事前：身近にある健康食品などの成分内容表示を調べてみる。事後：履修事項を復習する。 | | | | |
| 15 | 薬の副作用、薬理学のまとめ | 薬の副作用について解説し、まとめとして、今までの講義の重要ポイントの整理を行います。 | | | | | 事前・事後：重要なことを説明できるように復習する。 | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 薬理学 3」吉岡充弘著(医学書院) ISBN:978-4-260-03184-4(生協で購入してください。) | | | | <p>小テスト：40% レポート：30% 受講態度：30%</p> <p>受講態度：授業への取組、質疑応答、事前事後学修のことを指します。S：授業内容を高度に理解し批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し積極的な探求姿勢をもって課題に取り組みやや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し与えられた課題に誠実に取り組み授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p> | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「標準薬理学」(医学書院) ISBN:978-4-260-01750-3 「NEW薬理学」(南江堂) ISBN:978-4-524-24071-5 | | | | 薬理学は薬物と生体内の酵素や受容体との相互作用がもたらす現象をあきらかする面白い学問です。事前学修にあっては、ネット検索や文献検索などのような方法で行っても良いです。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------------------|---|------|------|----------------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 養護教諭と看護 | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SC25010 | 研究室 | S-19 |
| 担当者 | 中島 節子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスア- | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | 養教一 | | | | 履修条件 | 教職課程履修者 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 学校で行われる養護教諭の看護活動について、その重要性を学び、さらに養護教諭が必要とする基礎的な看護技術を習得することが目的です。学校において遭遇する可能性の高い健康障害に共通な看護方法を学びます。バイタルサインの測定、滅菌・消毒等の感染予防対策関連の技術、フィジカルアセスメントについて習得します。実践方法に関する演習中心の科目であることから、取り上げる項目については技術獲得レベルまで達するように学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 学校に必要な看護技術を理解し実践することができる。 実施した自分の技術について評価することができ、改善向上することができる。 技術を実施する際に安全に配慮し、相手に対しても声掛けや気配りすることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義で根拠と方法を理解し、演習で技術を習得しながら進めます。演習をした項目については振り返りレポートを作成し、技術の向上に努めます。演習室での授業が中心です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 養護教諭にとっての学校看護、学校看護のライフサイクル | オリエンテーションを行い授業方法を説明します。養護教諭に必要な看護技術について学び、ライフサイクルの各段階の健康課題を考えます。学校における養護の必要性と養護教諭に必要な倫理を学びます。 | | | | テキストの第 章について予習復習をする。(4時間) | | | | |
| 2 | 養護実践のプロセス、緊急度の判断、学校の安全 | 養護教諭の行う養護実践についてのプロセスを学びます。プロセスにおける緊急度の判断について考えます。 | | | | テキストの第 章について予習復習をする。(4時間) | | | | |
| 3 | 学校におけるヘルスアセスメントの考え方 | 学校におけるヘルスアセスメントの視点とプロセスについて学びます。フィジカルアセスメントに用いる技術、バイタルサインの測定を行います。 | | | | テキストの第 章(1)~(4)について予習復習する。(4時間) | | | | |
| 4 | フィジカルアセスメントの技術:バイタルサインの測定 | バイタルサインの測定、呼吸、脈拍、血圧、体温測定の方法を学び、実際に測定します。 | | | | テキストの第 章(3)についてまとめる。バイタルサインの測定を演習する。(4時間) | | | | |
| 5 | フィジカルアセスメントの技術:意識、各部位の測定 | 意識、身体各部の測定方法を学びます。身長、体重、胸囲、腹囲、視診、触診、聴診について学び、実際に行います。 | | | | テキストの第 章(4)についてまとめる。測定や聴診ができるように練習する。(4時間) | | | | |
| 6 | フィジカルアセスメントの技術:顔面、頸部、眼、耳、鼻 | フィジカルアセスメントの実際について演習を行います。顔面、頭頸部、眼、耳、鼻についてのアセスメントの方法を学び、実際に行います。 | | | | テキストの第 章(4)についてまとめる。測定やアセスメントができるように練習する。(4時間) | | | | |
| 7 | フィジカルアセスメントの技術:口腔 | フィジカルアセスメントの実際について演習を行います。口腔のアセスメントの方法と歯科検診の方法を学び、実際に行います。 | | | | テキストの第 章(4)についてまとめる。歯科検診の方法についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 8 | フィジカルアセスメントの技術:胸部、腹部、脳神経 | フィジカルアセスメントの実際について演習を行います。胸部、腹部、脳神経のアセスメントの方法を学び、実際に行います。 | | | | 各部位のアセスメントの方法についてまとめ、実際にできるように練習する。(4時間) | | | | |
| 9 | コミュニケーション・安楽 | コミュニケーションの基礎と実際を学びます。コミュニケーションのプロセス、技術の向上のために演習を行います。安楽のためのタッチングやリラクゼーションについて学びます。 | | | | テキストの第 章(2)(4)についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 10 | 感染予防の基礎と学校における感染予防と対策 | 感染の基礎的な知識を学びます。感染予防の実際として手洗い、ガウンテクニック、滅菌操作について行います。 | | | | テキストの第 章2の様々な技術感染予防について予習復習をする。(4時間) | | | | |
| 11 | 学校における感染予防と対策 | 学校における感染予防と発生時の対応について学びます。学校において特に注意する感染症の病態、予防方法、発症時の対応について学びます。 | | | | 学校感染症について一覧表にまとめる。自己の感染症状況を調べる(4時間) | | | | |
| 12 | 学校の環境調整 | 学校の環境衛生検査の方法や法的根拠を学びます。実際に大学内の環境検査を行い実践力をつけます。 | | | | テキストの第 章保健室等環境への活動をまとめ、実際に環境調査したものを分析する。(4時間) | | | | |
| 13 | 保健室の機能を活かす環境調整、ベッドメイキング | 保健室の機能を活かす環境整備や備品について学びます。環境整備の基礎技術としてベッドメイキングを行います。 | | | | 環境整備のための基礎技術を復習し、ベッドメイキングができるようにする。(4時間) | | | | |
| 14 | 身体的ニードの対応する技術:体位と移動 | 基本体位と安楽な体位について学び、ボディメカニクスを活用した体位変換を行います。移動の介助が必要な人のベット上の移動、車いす移動、ストレッチャー移動の介助方法を学び実施します。 | | | | テキストの第 章3)身体のニードに対する技術について予習復習する。(4時間) | | | | |
| 15 | 身体的ニードの対応する技術電法・包帯法 まとめ | 包帯法に関する基礎知識を学び、三角巾や包帯を使用して包帯法を行います。本講義の全体のまとめを行います。 | | | | 電法と包帯法についてまとめ、実際にできるように練習する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「養護教諭、看護師、保健師のための改訂学校看護」岡田加奈子他著(東山書房) ISBN:978-4-8278-1551-1(生協で購入してください。)'学校の看護」と共通で使用します。 | | 定期試験:60% 実技:20% レポート:20% 知識と技術の実際を含めて評価する。S:基礎的な技術を根拠について説明でき、技術も確実に実施できる。レポートは自己の実施を分析でき確実に提出している。A:基礎的な技術を根拠について説明でき、反復練習を行い相手に配慮して確実に実施できる。レポートは自己の実施を分析でき確実に提出している。B:基本的な技術の根拠を説明でき実施できる。レポートを確実に提出している。C:基本的な技術を指導のもとで実施できる。レポートを確実に提出している。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「すぐに使えてよくわかる養護教諭のフィジカルアセスメント」北垣毅著(少年写真新聞社) 「保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント」山内豊明著 | | 看護学概論及び養護概説を履修済みの学生が履修してください。実習衣を購入してください。演習項目によって、履物や衣服を指定します。なお、確実な技術の習得のために、規定時間外にも反復練習を行う必要があります。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|---|----------------|------|------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 衛生管理学 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL25011 | 研究室 | N-04 |
| 担当者 | 弘田 量二 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | ワイスア- | 火曜日4限 | | |
| 関連資格 | 第一種衛生、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本授業は、作業・労働従事におけるこれら要因が及ぼす身体面ならびに精神面への作用とその対策と管理について学び、労働従事者の健康障害の予防と健康の保持増進に寄与することの出来る人材の養成を目的とします。労働安全衛生法等を基盤として職域の健康管理体制や健康影響について、作業環境管理、健康診断、作業関連疾患、労働災害などについて学修します。また、食物の安全と健康障害について、どについて学習します。また、食物の安全と健康障害について、リスク分析の視点から食品衛生管理について講義します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 任用資格としての食品衛生管理者ならびに食品衛生監視員資格の取得を目指します。これら資格取得のために必須要件となる労働安全衛生管理全般に関する知識と理解を深めることを目的とします。その上で、食品衛生管理に特化した法的、事例的事項について学び、資格取得後の実務において有効となる知識と能力を身につけることを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 様々な産業分野と食品分野における作業上の衛生管理や健康管理のあり方とその実状について、労働安全衛生の法的基盤や物理的、化学的ならびに生物学的な有害因子の影響を理解するために、多様な配布資料およびプロジェクターを用いた授業を展開します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス・健康とは何か | 授業概要、学習到達目標、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明、質問します。公衆衛生学の概念として、健康の概念、公衆衛生の概念、定義を学習します。 | | | | 事前にシラバスを読み、確認事項を整理しておく。授業後は履修事項をとりまとめる。(4時間) | | | | |
| 2 | 労働安全衛生法 | 労働安全衛生法における産業医や衛生管理者の役割、労働者の健康を損なう有害業務から守る仕組み(関係法規)について学修します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 3 | 有害業務の健康障害 | 作業環境における有害因子の種類や、健康障害の発生機序と典型的な症状、作業環境測定法、労働衛生の三管理、について学修します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 4 | 衛生管理体制と労働者の健康管理 | 安全衛生委員会、健康診断、医師による面接等、労働安全衛生法・労働基準法に従った職場環境の衛生管理体制や労働者の健康管理について学修します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 5 | 健康作り対策 | 健康作り政策の変遷、健康増進法、健康日本21(第二次)、健康管理の進め方とその方法について学びます。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 6 | 心の健康作り | 社会生活の変化に伴って仕事や生活に強い不安や悩みを持つ労働者が増えてきた。健康的な生活を営むための心の健康作りについて学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 7 | 小テストの実施と解説、質疑応答。 | 第1回から6回までの授業の理解度をテストで確認し解説します。学生の主体的な授業参加を促すため質疑応答を随時受け付けて進めます。 | | | | 配付資料とテキストをもとにテスト対策や質問を準備してくる。(4時間) | | | | |
| 8 | 生活習慣病予防 | 肥満は、高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病を引き起こす原因となります。さらに動脈硬化、心筋梗塞や狭心症などのリスクを高めます。どうして肥満になるのかについて学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 9 | 健康格差を考える | 寿命が短かった時、その人の自己責任といえるだろうか。所得や住んでいる地域によって寿命が異なるのはなぜだろうか。社会疫学の観点から学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 10 | 統計資料 | 健康、疾病、行動に関わる統計資料の中から、人口動態統計(国勢調査)、人口動態統計、生命表、平均寿命などについて学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 11 | 環境保健 | 疾病のひきがねとなる環境要因にはどのようなものがあり、健康的・文化的な生活をおくるためにはどのようにしたらいいだろうか、学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 12 | 食塩と高血圧 | 食塩の取り過ぎは高血圧の原因になります。健康寿命を延ばす食事に求められるものについて学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 13 | 食事の役割 | 私達は何のために食事をするのだろうか。食事の一次機能、二次機能、三次機能について学習します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 14 | 喫煙問題 | 喫煙の害にはどのようなものがあるのだろうか。健康日本21(第二次)においてもCOPDの認知度を80%に向上させることが数値目標として掲げられています。喫煙の害にはどのようなものがあるのか、学修します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| 15 | 全体のまとめ、国試関連 | 授業の総括として、これまでの内容の要点を復習し、質疑応答を行います。各種資格試験の必須科目としての衛生管理学を概観します。 | | | | 配付・指定された領域のプリントとテキストを読む。履修事項の要点を整理・復習する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 講義に応じたプリントをその都度配布します。 | | 定期試験：80% 小テスト：10% 受講態度：10% 受講態度：衛生管理者取得等に必要科目であることから、受講態度としては能動的で真摯であり、努力して、一定以上の試験成績を得ることを評価します。評価：S：衛生管理活動を非常によく理解し、衛生管理者等が果たす役割を俯瞰的に論じられる。A：衛生管理活動をよく理解し、衛生管理者等が果たす役割を論じられる。B：衛生管理活動をおおむね理解し、衛生管理者等が果たす役割を論じられる。C：衛生管理活動を60%程度理解し、衛生管理者等が果たす役割を論じられる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「シンプル衛生公衆衛生学」鈴木庄亮著 ISBN：978-4-524-25553-5 「衛生管理者試験問題集」 ISBN：978-4-8059-1494-6 | | 働きやすい職場環境を提供することは、企業にとって義務です。安全に働ける職場環境作りに必要な法律や仕組みをよく知り、改善を通して労働意欲を高めてまいりましょう。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------|--|------|--|----------------|---------------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 医療社会学 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL25012 | 研究室 | W-03 |
| 担当者 | 福島 智子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日3限 | | |
| 関連資格 | 指導士、第一種衛生 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 医療を対象とする社会学的観点から、組織構造・役割関係・価値体系・儀礼・行動システムに関する理解を深めます。保健・医療を取り巻く諸問題を、文化・社会的視点から考察します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 人間の生命や身体に深くかかわる保健・医療が、社会学ではどのようにとらえられているかを学びながら、「社会学」的な発想ができる柔軟性を養うこと。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 医療社会学の中心的概念を学び、保健医療領域における行動変容理論については実習を含め、本講義で扱います。また、職場における健康増進への組織的ならびに個人的取組強化に、個人の行動変容がどのように影響するかを考察します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 社会学とは何か | 医療を対象とする社会学の視座について概説します。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 2 | 文化現象としての医療 | 医療を「文化」として捉えるとはどのようなことかを説明します。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 3 | 病者と患者 | 病者と患者の違いについて、医療社会学の概念である「病気行動」と「病人役割」について学びます。 | | | | 教科書(2-5頁)・配布プリントの復習をする(4時間)。 | | | | |
| 4 | 医師 患者関係 | 医師-患者関係の歴史の変遷と今日的課題について概説します。 | | | | 小テストに向け、教科書(2-13頁)の復習をする(4時間)。 | | | | |
| 5 | 医療施設 | 病院の成立から在宅ケアまでの歴史について学びます。 | | | | 事前配布資料を読み、下調べをする(4時間)。 | | | | |
| 6 | 医療制度 | 医療制度の違いについて、国別に概説します。 | | | | 事前配布資料を読み、下調べをする(4時間)。 | | | | |
| 7 | スティグマ(烙印) | ラベリング理論(逸脱の社会学)を概説します。 | | | | 小テストに向け、教科書(26-29頁)の復習をする(4時間)。 | | | | |
| 8 | 精神医療(1) | 精神医療の歴史について学びます。 | | | | 教科書(22-24頁)・配布プリントの復習をする(4時間)。 | | | | |
| 9 | 精神医療(2) | 精神医療の具体的事例について、イタリアの精神医療を取り上げます。 | | | | 授業時に提示する課題をする(4時間)。 | | | | |
| 10 | 医療社会学と生命倫理学 | 医療社会学と生命倫理学の関係について説明します。 | | | | 小テストに向け、これまでの講義内容を復習する(4時間)。 | | | | |
| 11 | 医療化論:総論 | 医療化論に関する全体的な概説をします。 | | | | 教科書(64-67頁)・配布プリントの復習をする(4時間)。 | | | | |
| 12 | 医療化論:各論(1) | 医療化の具体的事例として子どもの医療化について取り上げます。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 13 | 医療化論:各論(2) | 医療化と脱医療化の具体的事例として同性愛について取り上げます。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 14 | 専門職と感情労働 | 保健医療領域における行動変容理論について学びます。 | | | | 小テストに向け、これまでの講義内容を復習する(4時間)。 | | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめ | | | | 総復習(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「よくわかる医療社会学」黒田浩一郎・中川輝彦編(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4-623-05821-1(生協で購入してください。) | | | | 出席レポート:15% 小テスト:25% 定期試験:60% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「医療社会学を学ぶ人のために」進藤雄三・黒田浩一郎編(世界思想社) 「現代医療の社会学」黒田浩一郎編(世界思想社) | | | | 社会学は言葉の定義に非常に厳格な学問です。最初は難しく感じるかもしれませんが、分からないときには積極的に質問してください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------------|---|---|------|---|------|--|---------|-------------------------|-----|------|
| 科目名 | 精神保健論 | | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SL25013 | 研究室 | W-19 |
| 担当者 | 矢崎 久 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 火曜日4限、火曜日5限、木曜日2限、木曜日5限 | | |
| 関連資格 | 指導士、中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 人間の発達と課題、ストレスとストレス反応、ストレスマネジメントと回復、精神の疾患とその治療、健康の確保・増進としての運動の影響について学びます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 人が社会的存在であるかぎり、人とかかわりから生ずることがストレスとなり心身の均衡が崩れる可能性があるものと考えます。本講義では、こころの問題が生ずる原因と対処のしかた、メンタルヘルス確保と健康維持向上に資する行動について学修することを目標とします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| テキストの解説と、理解を助けるための映像教材を適宜併用します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 発達課題と疾患(障害) | 胎児期、乳児期、幼児期とダイナミック・システムズ・アプローチ、知的障害 | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 2 | 発達課題と疾患(障害) | 児童期、青年期とアイデンティティ、行動および情緒障害、心理的発達の障害 | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 3 | 発達課題と疾患(1) | 統合失調症、パーソナリティ障害、生理的障害、ストレス関連障害ほか | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 4 | 発達課題と疾患(2) | 成人期とその課題、中年期の危機、感情障害、ストレス関連障害 | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 5 | 発達課題と疾患(3) | 老年期とその課題、社会的役割の変化、加齢と生理的・心理的变化 | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 6 | 発達課題と疾患(4) | 症状性を含む器質性精神障害(認知症)と支援 | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 7 | 社会とストレス(1) | ストレス学説、ストレスとストレス反応、ストレス反応のプロセス | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 8 | 社会とストレス(2) | ストレスアセスメントの実際(POMSもしくはCES-D受験) | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 9 | 社会とストレス(3) | ストレスマネジメント、ストレスコーピング、レジリエンス(回復) | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 10 | ストレスマネジメント(1) | 相談とコンサルテーション、カウンセリング理論と技法 | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 11 | ストレスマネジメント(2) | カウンセリング理論と技法 | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 12 | ストレスマネジメント(3) | カウンセリングの実際(演習) | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 13 | ストレスマネジメント(4) | 行動変容を意図したカウンセリング | | | | | 事前: 配布資料による予習(2時間) 事後: 資料再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 14 | メンタルヘルスの確保増進 | 心理療法(リラクゼーション)の実際 メンタルヘルス確保増進の意義、モチベーションの確保と維持、健康行動の獲得 | | | | | 事前: テキスト講読(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(2時間) | | | | |
| 15 | 精神保健の意義 | 発達段階と課題、発達と疾患(障害)、社会とストレス、ストレスマネジメントのまとめ | | | | | 事前: テキスト予習(2時間) 事後: テキスト再読、ノートまとめ(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「精神医学・精神疾患とその治療」精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編(へるす出版) ISBN:978-4-89269-750-0(生協で購入してください。) | | | | | 小テスト: 30% 定期試験: 70% 理解度確認小テスト(中間試験)と期末試験を総合して成績判定します。 成績評価基準「S」: 心理的発達と課題、精神疾患の理解、ストレスの理解と心身の反応およびマネジメント、カウンセリング理論、心理療法を遺漏なく理解している。 「A」: " ほぼ理解している。 「B」: " 理解している。 「C」: " おおよそがわかる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| なし | | | | | こころとからだの双方を配慮できる健康運動指導者、教諭を目指してください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------|--|----------------|--|------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 学校の看護 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SC25014 | 研究室 | S-19 |
| 担当者 | 中島 節子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | 中一(保健)、高一(保健)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | 教職課程履修者 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 養護教諭の看護活動に必要な学校における看護技術を習得することが目的です。学校生活で発生しやすい疾病や外傷の救急処置技術、児童生徒が保健室で休養する場合に必要な看護技術を中心に習得します。また、それらの技術には家庭での日常生活上における援助技術も含まれます。あわせて、小児期(児童・生徒)によくみられる疾患に対する看護の方法を学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 学校における看護技術を理解し実践することができる。 小児期に多い急性症状と慢性疾患を理解し、対処する方法を理解できる。 医療的ケアについて法的根拠と技術を理解することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義と演習を組み合わせ実施します。演習レポートで振り返りをしながら、技術の向上をはかります。小児期に多い急性期症状は、原因を想定し対処できる方法を考えます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション セルフケアについて | オリエンテーションを行い授業方法を説明します。セルフケアについて学びます。 | | | | セルフケアについて予習復数をします。(4時間) | | | | |
| 2 | セルフケアと支援技術 | 健康課題を持つ子どものセルフケアについて学び、演習を行います。食事と栄養の必要性について学びます。 | | | | 食事と栄養について予習復習する。(4時間) | | | | |
| 3 | 生活支援技術 食事介助 | 食事の意義、基礎知識、子どもの栄養について学びます。食事支援や援助が必要な場合の援助方法を学び、演習します。 | | | | 栄養について予習復習し、実施レポートをまとめ分析する。(4時間) | | | | |
| 4 | 生活支援技術 排泄 | 排泄の意義、基礎知識を学びます。排泄支援や援助が必要な場合の援助方法(おむつ交換やトイレ介助)を学び、演習します。 | | | | 排泄について予習復習し、実施レポートをまとめ分析する。(4時間) | | | | |
| 5 | 生活支援技術 排泄 | 排泄の意義、基礎知識を学びます。排泄支援や援助が必要な場合の援助方法(車いすトイレ介助)を学び、演習します。 | | | | 排泄について予習復習し、実施レポートをまとめ分析する。(4時間) | | | | |
| 6 | 生活支援技術 休息と睡眠、活動 | 休息と睡眠、活動の意義、基礎知識を学びます。睡眠や活動への支援や援助が必要な場合の援助方法を学び、演習します。 | | | | 休息と睡眠、活動についてを予習復習し、実施レポートをまとめ分析する。(4時間) | | | | |
| 7 | こどもに多い急性期の症状と支援 頭痛 腹痛 | こどもに多い急性期症状と理解、アセスメントについて基礎を学びます。頭痛、腹痛について原因と支援方法について学びます。 | | | | 頭痛、腹痛についてレポートをまとめる。(4時間) | | | | |
| 8 | こどもに多い急性期の症状と支援 嘔気、嘔吐 | こどもに多い嘔気、嘔吐、便秘、下痢の急性期症状の原因と支援方法について学びます。 | | | | 嘔気、嘔吐、便秘、下痢についてレポートをまとめる。(4時間) | | | | |
| 9 | こどもに多い急性期の症状と支援 発熱、意識障害 | こどもに多い発熱、意識障害の急性期症状の原因と支援方法について学びます。 | | | | 発熱、意識障害についてレポートをまとめる。(4時間) | | | | |
| 10 | 特別な支援を要する子どもと家族の支援 | 特別支援教育について学びます。慢性疾患と共に生きる子どもと家族の理解と支援方法を考えます。気管支ぜんそくとアレルギーについての基礎を学び支援方法を考えます。 | | | | 気管支ぜんそくとアレルギーについて実態を調査し、病態などをレポートをまとめる。(4時間) | | | | |
| 11 | 慢性疾患を持つ子どもと家族の支援 | 慢性疾患と共に生きる子どもと家族の理解と支援方法を考えます。心臓病、糖尿病、腎臓病についての基礎を学び支援方法を考えます。 | | | | 各疾患について病態、治療法、日常生活の留意点をレポートにまとめる。(4時間) | | | | |
| 12 | 学校における医療的ケア | インクルーシブ教育と医療的ケアについて学びます。排泄支援(導尿、洗腸など)と呼吸管理(吸引、人工呼吸器など)について学び、技術の演習を行います。 | | | | 医療的ケアについて予習復習し、実施レポートをまとめる。(4時間) | | | | |
| 13 | 医療的ケアの方法と与薬管理 | 医療的ケアについて学びます。食事支援(経管栄養など)について学び、技術の演習を行います。薬剤の管理と服薬方法について学びます。 | | | | 医療的ケア、薬について予習復習し、実施レポートをまとめる。(4時間) | | | | |
| 14 | ショック症状の対応と救急処置 | ショックについての原因と対応について学びます。子どもの救急処置について心肺蘇生、気道異物除去の方法、熱傷の対処方法などを行います。 | | | | 安全救急法について予習復習し、実施についてレポートし分析する。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ 総合演習 | 養護教諭として必要な知識と技術を総合して、事例を通して実践演習を行います。 | | | | 講義内容を復習しておく。実施について分析しレポートにまとめる。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「養護教諭、看護師、保健師のための改訂学校看護学」岡田加奈子他著(東山書房) ISBN:978-4-8278-1551-1(生協で購入してください)。「養護教諭と看護」と共通で使用します。 | | | | 定期試験:70% 実技:15% 課題:15% S:授業内容を理解し、対象に配慮して養護教諭としての技術を根拠に基づいて確実に実施することができる。A:授業内容を理解し、対象に応じて養護教諭としての技術を根拠に基づいて実施することができる。B:授業内容を理解し、養護教諭としての基本的な技術を実施することができる。C:授業の内容を60%程度理解し、養護教諭としての技術を一応実施することができる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「基礎看護学 基礎看護技術」藤崎郁他著(医学書院) 「最新看護学 学校で役立つ看護技術」中桐佐智子他著(東山書房) | | | | 看護学概論及び養護概説、養護教諭と看護を履修済みの学生が履修してください。演習項目によって、必要物品を持参してください。確実な技術の習得のために、規定時間外にも反復練習を行う必要があります。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------|--|---|------|--|------|------------------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 健康情報処理 | | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL35015 | 研究室 | S-15 |
| 担当者 | 山本 薫 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 指導士、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本講義では、健康づくりなどを実施する際に、体力測定やメディカルチェックから得られたデータを例に出しながら解析を行い、そのデータより表やグラフを作成し、その評価法や活用方法について学びます。基礎的な統計知識を学習するとともに、実際に身近にあるデータを集めて、その結果の解釈やまとめ方を理解できるようになることを目標とします。また、健康・スポーツに関する情報、文献検索の利用方法や卒業論文の書き方を学びます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 健康・スポーツ現場で得られたデータをまとめて、その結果の解釈を理解することで、科学的根拠に基づいた運動処方を実践できるようになることが目標です。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 基礎的な統計学を講義するとともに、身近なデータを例に出しながら解析し、その結果を理解できるように進めていきます。前半は教室での講義、中盤～後半はパソコンを使用した講義となります。毎回USBを持参して実習内容を保存して下さい。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス：統計の概要 | 統計解析の概要、学習目標、授業の進め方についての説明をします。 | | | | | 基礎統計の復習(4時間) | | | | |
| 2 | 統計の基礎知識1：統計の基礎用語 | 統計処理を行う上で知っておきたい基礎的な用語やエクセル使用方法の基本について説明をします。 | | | | | 事前配布資料を読む。基礎的な用語を復習する(4時間) | | | | |
| 3 | 統計の基礎知識2：検定の考え方 | 得られたデータから統計解析を行う検定方法について学びます。 | | | | | 事前配布資料を読む。検定方法について復習する(4時間) | | | | |
| 4 | 統計の基礎知識3：検定の種類 | 健康・スポーツに関する例題を出しながら、検定の種類を紹介します。 | | | | | 事前配布資料を読む。例題を見て検定の種類を理解(4時間) | | | | |
| 5 | Excelでデータ解析1：Excelの基本的な操作 | Excelでデータを入力し、データを分析しやすいように整理、加工の仕方を学びます。 | | | | | 事前に配布資料を読む。データ入力に慣れておく(4時間) | | | | |
| 6 | Excelでデータ解析2：関数の利用 | 数学(平均値など)に関する関数を紹介します。基本的なデータのまとめ方を学びます。 | | | | | 関数の復習をしておく(4時間) | | | | |
| 7 | Excelでデータ解析3：グラフ、表作成 | 入力したデータをまとめて、棒グラフや表などの作成を学びます。 | | | | | グラフや表の作り方を復習する(4時間) | | | | |
| 8 | 基本統計量と正規性の検定 | 収集したn個のデータ分布が正規分布とみなされるかどうかを検定する方法を例を挙げながら理解を深めます。 | | | | | 健康・スポーツに関して興味ある情報を調査する(4時間) | | | | |
| 9 | 独立した2群の差の検定 | 2つの母集団の平均値が等しいかどうかを、別々の母集団から独立に取られたデータに基づいて検定する方法を例を挙げながら理解を深めます。 | | | | | 例題を見て検定方法を復習する(4時間) | | | | |
| 10 | 関連ある2群の差の検定 | 2つの母集団の平均値が等しいかどうかを、それぞれの母集団から対応をつけて取られたデータに基づいて検定する方法を例を挙げながら理解を深めます。 | | | | | 例題を見て検定方法を復習する(4時間) | | | | |
| 11 | 1元配置分散分析 | 「3つ以上のデータの平均に差があるかどうか」を検定する方法を例を挙げながら理解を深めます。 | | | | | 例題を見て検定方法を復習する。 | | | | |
| 12 | 相関関係 | 「データ間の関係を検定する」方法を例を挙げながら理解を深めます。 | | | | | 9～11回で使用した例題を見て、その結果の解釈方法について復習する。 | | | | |
| 13 | 回帰分析 | 直線的な因果関係にある2つの量的データに対して、両データの関係を表す方程式を求める統計手法の理解を深めます。 | | | | | 例題を見て検定方法を復習する。 | | | | |
| 14 | カイ二乗検定 | 行・列2方向データの各要因がYes/Noなどの2つに分かれているときの関連性を検定する手順を学びます。 | | | | | 事前事後に資料を読む(4時間) | | | | |
| 15 | 講義全体のまとめ | これまでの例題を挙げながら、データから得られた結果のまとめ方、解釈の仕方について理解を深めます。 | | | | | 全ての配布資料を読み試験勉強をする。 | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「4Stepエクセル統計 第4版」柳井久江著(星雲社) ISBN:978-4-434-21162-1(生協で購入してください。)CDがついています。自分のPCにインストールして下さい。 「健康スポーツ科学のための やさしい統計学」出村 慎一著(杏林書院) | | | | | 受講態度：20% 課題：30% 定期試験：50% 総合評価(S:全ての講義実習に積極的に参加して質問をし、課題について適切な回答が出来、試験は90%以上得点している。A:14回以上の講義実習に積極的に参加し、課題について適切な回答が出来、試験は80%以上得点している。B:13回以上の講義実習に積極的に参加して、課題について回答が出来、試験は70%以上得点している。C:11回以上の講義実習に積極的に参加して、課題に回答し、試験は60%以上得点している。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「バイオサイエンスの統計学」市原 清志著(南江堂) 「健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門」出村 慎一著(杏林書院) | | | | | 健康・スポーツ現場に出てから利用頻度が高まる実践的なデータのまとめ方や解釈について学びます。分からないことは随時質問して下さい。欠席したら、休んだ講義内容の資料を受け取るなど各自で学ぶこと。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------|--|------|--------|---|----|-------------------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | 学校保健学(含小児保健) | | 学年学期 | 3・4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SA35016 | 研究室 | S-19 |
| 担当者 | 中島 節子・根本 賢一 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 学校において、学校保健及び安全管理はすべての教職員により推進されています。現代的な子ども達の健康課題への対応ができる能力を身につける必要があります。子ども達の健康や安全を守り育てるための基礎的な知識を学習し、自己や他者の健康の保持増進や安全を図ることができるような能力を身につけます。また、子どもの成長・発達や小児期に多い疾病やけがなどの小児保健の領域も含めて学習します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 子ども達の心身の健康や発達を保障するための学校保健活動に必要な事項を説明できる。 学校で発生する健康や安全に対して、問題点を把握・分析する方法を知り、必要性を理解できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 教員による一方通行の講義ではなく、ディスカッションや学生によるプレゼンテーションを含めた講義を展開します。現代の学校における健康問題などを含めて考えていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 学校保健とは | ガイダンスを行います。学校保健の意義と目的、内容、学校保健の歴史について学びます。 | | | | | 学校保健の制度、目的について復習する。(4時間) | | | |
| 2 | 保健組織活動・保健室の機能 | 学校保健関係職員、学校保健組織活動、学校保健安全計画、保健室の役割について学びます。 | | | | | 学校保健関連職員、学校保健組織活動について復習する。(4時間) | | | |
| 3 | 子どもの健康づくりと運動 | 子どもの身体活動量と体力の現状を知り、体力向上及び生活習慣病予防についての方法を考えます。 | | | | | 小中学生、高校生の体力と運動能力についてまとめる。(4時間) | | | |
| 4 | 健康教育・保健学習1 | 飲酒、喫煙、薬物乱用の健康への影響と現状を知り、予防教育について学習します。 | | | | | 保健学習における小、中、高校でのとらえ方を考えレポートする。(4時間) | | | |
| 5 | 健康教育・保健学習2 | 思春期の2次性徴、性教育の現状、性感染症の予防、エイズ予防について学びます。現状から課題解決の方法を考えます。 | | | | | 授業内容の復習をし、課題解決についてレポートする。(4時間) | | | |
| 6 | 食育 | 食育の推進をどのように行っているか学びます。学校給食の意義と役割、給食の内容、給食施設と衛生管理について栄養教諭から学びます。 | | | | | 栄養学概論での学びと照らし合わせ講義内容を復習する。(4時間) | | | |
| 7 | 児童生徒の健康状態の把握 | 児童生徒の健康観察の方法と分析の仕方を学びます。児童生徒の健康診断の目的と種類、事後措置の方法を学び、分析します。 | | | | | 子どもの健康問題に関する新聞記事を収集し分析する。(4時間) | | | |
| 8 | 健康診断 | 就学時の健康診断、教職員の健康診断の法的根拠や方法について学びます。保健調査や学校安全について学びます。 | | | | | 学校における健康診断について復習する。(4時間) | | | |
| 9 | 学校環境衛生 | 学校環境衛生の法的根拠・意義について学びます。学校環境衛生検査の実施方法を学びます。 | | | | | 学校における環境衛生について復習する。(4時間) | | | |
| 10 | 学校安全 | 子どもの事故災害の現状を知り検討します。学校管理下の負傷、疾病、学校事故についての具体例を学習し法的責任等を考えます。災害時の対応について考えます。 | | | | | 子どもの安全に関する記事を収集し分析する。(4時間) | | | |
| 11 | 子どもの病気1 | 子どもの病気の特徴、健康観察、子どもに多い疾患(龋歯、視力低下、心疾患、腎疾患、糖尿病、気管支ぜんそくなど)について学習します。 | | | | | 子どもに多い疾患を取り上げ、予防策を考える。(4時間) | | | |
| 12 | 子どもの病気2 | 学校における感染症、予防接種、予防対策について学習します。 | | | | | 学校における感染症と予防について復習する。(4時間) | | | |
| 13 | 救急処置、保健指導 | 急病の種類、アレルギー疾患、けいれん、発熱、嘔吐下痢、過換気症候群について基礎的な知識を学び対応について考えます。 | | | | | 応急手当について安全救急法で学んだことを含め復習する。(4時間) | | | |
| 14 | 子どもの心の健康 | 精神保健の意義、非社会的行動と反社会的行動について学びます。子どものこころの健康問題を事例を通して考えます。 | | | | | 子どものこころに関する新聞記事を収集し分析する。(4時間) | | | |
| 15 | 障害のある児童生徒への健康上の支援 | 特別支援教育、障害のある児童生徒のための支援体制について学びます。講義のまとめを行います。(4時間) | | | | | 障害のある児童生徒の健康支援について復習する。 | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 必要なものはプリントを配布しますが、参考書の中で自分の使いやすいものを1冊購入することを進めます。 | | | | | 定期試験：70% 課題：30% S：授業内容を高度に理解し、各発達段階の健康課題を解決する方法に応用することができる。A：授業内容を理解し、健康課題を明確にし、解決する方法を見出すことができる。B：授業内容のおおよそを理解し、健康課題を明確にすることができる。C：授業内容の60%は理解でき、学校における健康と安全の重要性を説明できる。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「学校保健マニュアル」衛藤 隆(編集)岡田加奈子(編集)編(南山堂) 「学校保健ハンドブック第6次改訂」教員養成系大学保健協議会編(きょうせい) | | | | | 学校保健と小児保健の内容の多い講義になるため自主的に学習してください。子ども達を取り巻く健康課題は多様化し、日々変化しています。最新の情報を新聞、ニュースなどからも入手するようにしてください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------|---|------|--------|--|----|--|---------|-----|-----|
| 科目名 | 労働と法 | | 学年学期 | 3・4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SB35017 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 松田 清 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | 第一種衛生 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>学生諸君も卒業すればほとんどが労働者となります。労働をして生計を立てていくことは現代社会にあって人間として当然のことでしょう。この講義では労働に関する法を勉強します。諸君の将来(現在も?)にとって重要な事柄を扱う講義です。また、この講義は資格取得のためにも設置されています。したがって、おろそかな勉強では不十分であることを覚悟してください。最低限のリーガルマインド(法的思考力)とリーガルノレッジ(法的知識)の修得を目指します。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>細かい知識の丸暗記は必要ありませんが、なぜ、民法の雇用の規定のほかに、労働法があるのか、労働法特有の考え方を、しっかり理解することを目標とします。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>基本的に、テキストに沿って進めていきます。一般法である民法との比較という視点も交えながら、労働法特有の考え方を学んでいきます。また「生」の現実を知ってもらえるように、時には裁判例も紹介します。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | はじめに | 労働法とは 労働法はなぜ生まれたのか、なぜ必要なのかについて講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 2 | 労働法の登場人物 | 労働者 使用者 労働組合について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 3 | 労働法の法源 | 労働契約、労働法規、判例法理等について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 4 | 採用・採用内定・試用・人事異動 | 採用の自由と例外 採用内定とは 試用期間の意義 配転 出向 転籍について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 5 | 懲戒 労働契約の終了 | 企業秩序と懲戒処分 懲戒事由 解雇 期間の定めのある労働契約の期間満了について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 6 | 労働条件の変更 非正社員の労働契約 | 労働条件変更の方法 就業規則の変更 労働協約の改訂 有期契約労働者 パートタイム労働者 派遣労働者について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 7 | 雇用平等 男女雇用機会均等法 | 均等待遇の原則 男女同一賃金の原則 男女雇用機会均等法の立法の経緯とその後の改正 性別による差別の禁止について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 8 | 労働者の人権擁護 賃金 | 労働憲章 労働協約に関する規制 賃金とは 休業手当 最低賃金について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 9 | 労働時間その1 | 法定労働時間、三六協定等について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 10 | 労働時間その2 | 労基法上の労働時間 変形労働時間制 フレックスタイム制 裁量労働について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 11 | 休暇・休業 | 年次有給休暇 育児・介護休業について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 12 | 労災補償 | 労災保険 いわゆる労災民訴について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 13 | 労働組合その1 | 団結権 団体交渉権 労働協約締結権について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 14 | 労働組合その2 | 団体交渉権 不当労働行為救済制度について講義します。 | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| 15 | まとめ | まとめ(効果測定含む) | | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当ページをしっかりと読み込むこと。(4時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| <p>「ブレップ労働法(最新版)」森戸英幸著(弘文堂) ISBN:978-4-335-31325-7(生協で購入してください。) 知って役立つ労働法(厚生労働省HPよりダウンロード)</p> | | | | | <p>定期試験：90% レポート：10% S 課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現することができる。A 授業で学んだことを理解し、文章で表現することができる。B 授業で学んだことを概ね理解し、文章で表現することができる。C 最低限押さえてほしい事項(授業で指示します)について、理解し表現できる。</p> | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| なし | | | | | 原則として事前学修は必要ありませんが、事後学修に努めてください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------|--|------|---|----------------|--|--------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 労働安全衛生法 | | 学年学期 | 3・4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SB35018 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 松田 裕成 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | 第一種衛生 | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義では、まず日本の法体系の中での労働法体系の位置づけや性格について講義し、次に労働法体系の中での労働安全衛生法の位置づけや性格、労働安全衛生法と労働基準法など関連する法律との関係について解説します。その上で、労働安全衛生法の具体的内容について説明しながら、労働安全衛生法が働く人や働く場所にどのように関わっているのかが理解できるようにします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 細かな知識の丸暗記は必要ありませんが、労働安全衛生法の大枠をつかみ、この法律の目的をしっかりと理解できるようにすることを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義は指定したテキストをを用います。法律科目なので法律用語や専門用語が頻繁に出てきますが、講義の中ではそれらの意味や定義はテキストに示されたものを用います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 法体系を理解する | 法体系の中の労働法 労働法体系の中の労働安全について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 2 | 事業場と業種 | 業種は事業場単位で個別に 事業者と労働者 事業者の責務と労働者の責務について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 3 | 労働災害防止計画 | 政府が作る基本対策 計画の公表と変更 中高年齢労働者の安全対策について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 4 | 安全衛生管理体制その1 | 全体像 衛生管理者 安全管理者 産業医について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 5 | 安全衛生管理体制その2 | 作業主任者の選任 下請混在事業場での安全管理体制 安全委員会等について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 6 | 労働者の危険と健康障害を防止するために | 事業者がすべきこと 建設業における救護措置について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 7 | 機械等及び有害物に関する規制 | 危険な作業をする機械等に関する規制 有害物質に関する規制 有害物質の譲渡、提供について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 8 | 派遣労働者の安全衛生 | 派遣労働者の安全衛生はどうなっているのか 派遣元・派遣先の責任について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 9 | 安全衛生教育 | 安全衛生教育の目的 能力向上教育 教育の時間と費用について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 10 | 健康の保持増進のための措置 | 健康診断は会社の義務か 健康診断の時間と費用 自発的健康診断 職場のメンタルヘルスケアについて講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 11 | 快適な職場環境の形成のための措置 | 快適な職場とは 職場環境推進計画の認定制度 VDTの作業時間と作業管理について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 12 | 安全衛生管理計画等 | 安全衛生改善計画の作成 労働安全コンサルタントと労働衛生コンサルタント 厚生労働大臣などへの届出について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 13 | 事業者の責任等 | 事業者の四重責任 違反行為に対する罰則 安全配慮義務について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 14 | 近年の法制度改革 | 法改正のあった部分を、フォローします。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 全体をもう一度見直し、法体系をつかみます。 | | | | 事後学修として講義の際に指摘したテキストの該当部分を、しっかりと読み込むこと。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「ここからはじまる早わかり労働安全衛生法」近藤恵子 小林浩志 中山寛之著(東洋経済新報社) ISBN:978-4-492-27058-5(生協で購入してください。) | | | | 定期試験:80% レポート:20% S課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現することができる。A 授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現することができる。B 授業で学んだことを概ね理解し、文章で表現することができる。C 最低限押さえてほしい事項(授業で指示します)について、理解し表現できる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| なし | | | | 人間健康学部の学生諸君にとって、将来の職場の安全衛生は、密接にかかわる事柄です。快適な環境の中で働くことを考える人は是非受講して下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------------|---|------|------|----------------|--|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 生理学 | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SL16001 | 研究室 | S-24 |
| 担当者 | 河野 史倫 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オイスア- | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | 第一種衛生、中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 健康とはどんな状態か?病気になる時、体の中ではいったい何が起きているのか?それらを理解するためには、人間の体の正常な機能を知っておく必要があります。本科目では、血液や心循環、筋収縮、神経伝達、内分泌、免疫、呼吸、消化・吸収など、身体機能の仕組みについて幅広く講義を行います。運動や食習慣による健康づくりについて科学的に考えるための基盤となる知識を習得するのが目的です。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| ヒトの各身体機能について、それぞれの主な仕組みを説明できるようになることが目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義は指定のテキストに沿って進めていきます。必要な部分は、テキストにはない写真やデータも参考にしながら、よりイメージしやすくなるように解説していきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 血液 | 血液組成と血液の機能、貧血について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第2章を読み、全体の内容を把握しておくこと。授業ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| 2 | 免疫 | 免疫反応とは何か?生体の防御機構とその害について、配布資料とスライドを使って解説します。 | | | | 授業後は授業ノートを再度まとめ直す。(4時間) | | | | |
| 3 | 循環器1 | 心臓の仕組みと心電図の見方について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第3章(p37まで)を読み全体の内容を把握しておくこと。(4時間) | | | | |
| 4 | 循環器2 | 血管と血圧調節の仕組みについて、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第3章(後半)を読み全体の内容を把握しておくこと。ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| 5 | 呼吸 | 肺の構造と酸素取り込み、肺活量とは何か?について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第4章を読み全体の内容を把握しておくこと。ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| 6 | 消化・吸収 | 各消化器官で水分や栄養がどのように吸収されるのか、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第5章を読み全体の内容を把握しておくこと。ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| 7 | 腎機能と尿 | 腎臓の作りと尿の生成、利尿作用について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第6章を読み全体の内容を把握しておくこと。ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| 8 | 前半のまとめ | 第1回~第7回までの講義内容に関する試験を実施し、解答と解説を行います。 | | | | 授業前半の内容をまとめ、理解しておくこと。(4時間) | | | | |
| 9 | 代謝 | 全身の代謝量を知る方法について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第7章を読み全体の内容を把握しておくこと。ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| 10 | 体温調節 | 熱の産生と放散、発汗のメカニズムについて、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第8章を読み全体の内容を把握しておくこと。ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| 11 | 骨格筋 | 筋肉の種類と収縮の仕組みについて、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第11章を読み全体の内容を把握しておくこと。ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| 12 | 神経伝達 | 神経細胞の作りと神経伝達の仕組みについて、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第12章を読み全体の内容を把握しておくこと。ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| 13 | 自律神経 | 交換神経と副交感神経、体の機能を維持するための様々な反射について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第13章を読み全体の内容を把握しておくこと。ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| 14 | 脳機能 | 部位と役割、記憶、睡眠、情動が起こるメカニズムについて、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第14章を読み全体の内容を把握しておくこと。ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| 15 | 感覚器 | 視覚、聴覚、平衡感覚の仕組みについて、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | テキストの第15章を読み全体の内容を把握しておくこと。ノートをまとめ直す。(4時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「やさしい生理学」彼末一之、能勢博編(南江堂) ISBN:978-4-524-25417-0(生協で購入してください。) 第7版に改訂されたので注意すること | | 小テスト:30% 定期試験:70% | | | | S:各種生理機能について深く理解しているだけでなく、それらの知識を活用し実際に生体内で起こる事象についての確かな説明および考察ができる。A:授業内容を細部まで理解し、毎時間のまとめの内容以外の問題も解ける。B:毎時間のまとめの内容を完全に理解し、問われ方が変わっても正解できる。C:毎時間のまとめの内容を理解し、それらに関する試験問題が解ける。 | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 必要な場合は、プリントなどで配布します。 | | 単に専門用語を覚えるだけではなく、自分の体に日頃起こることをイメージしながら講義を聞いてください。用語よりも"仕組み"全体を理解しようとすることで、より理解しやすくなります。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------------|---|------|--|----------------|---------------------------------------|-------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 機能解剖学 | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL26002 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 関 賢一・江原 孝史 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | ホワイト | | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士、ト指、日体協指、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>人体を構成する、骨・筋肉・神経について基礎医学の知識を深める。さらに、骨・筋肉・神経については、その一つ一つを単に覚えるのではなく、「関連付け」を重要視していきます。その統合によって「運動学」へ展開できるようにします。日常生活動作やスポーツ動作における骨・関節・筋の運動性についても学習を深めていきます。さらに、「トレーニング」「コンディショニング」「スポーツ傷害」などとの関連性を示しながら履修を進めます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>講義終了時には、学生が「体のづくり」について十分理解できており、人に説明する能力を持っている事を目指していきます。身体運動に関係する骨・筋肉の名称と機能を中心に理解を深めていきます。筋骨格系の学習を進めながら、力学的な背景を理解し、トレーニングの理論的背景を形成できるようにしていきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>本授業においては、人間の筋骨格系の機能解剖を取り上げ、本分野を専門に著した教科書をベースとして授業を進める形態です。授業内容の復習を行うレポート学習を通して習得度を高めていくようにします。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 身体の仕組みと働き「筋肉の仕組み」 | 筋肉の構造と機能についてテキストを用いて解説します。 | | | | 配布資料にて事後に復習(4時間) | | | | |
| 2 | 身体の仕組みと働き「骨と関節の仕組み」 | 全身の骨の名称を覚えることと、関節の構造についての学習をします。 | | | | テキスト「身体運動の機能解剖学」p1-3 p10-17を事前予習(4時間) | | | | |
| 3 | 身体の仕組みと働き「呼吸循環器の構造と役割」 | 呼吸循環器系の構造について学習し、エネルギー供給についての理解も深めます。 | | | | 配布資料にて事後復(4時間) | | | | |
| 4 | 脊柱の構造と役割 | 脊柱を構成する頸椎・胸椎・腰椎の中心に骨・関節・筋・その機能について学習します。 | | | | テキスト「身体運動の機能解剖学」p197-226を事前予習(4時間) | | | | |
| 5 | 肩甲帯及び肩関節の構造と役割 | 肩甲骨、及び肩甲上腕関節を中心に骨・関節・筋・その機能について学習します。 | | | | テキスト「身体運動の機能解剖学」p27-64を事前予習(4時間) | | | | |
| 6 | 上腕・前腕・手指及び肘関節の構造と役割 | 上腕・前腕・手指及び肘関節の骨・関節・筋・その機能について学習します。 | | | | テキスト「身体運動の機能解剖学」p65-108を事前予習(4時間) | | | | |
| 7 | 骨盤及び股関節の構造と役割 | 骨盤及び股関節の骨・関節・筋・その機能について学習します。 | | | | テキスト「身体運動の機能解剖学」p125-154を事前予習(4時間) | | | | |
| 8 | 大腿の構造と役割 | 大腿部の骨・関節・筋・その機能について学習します。 | | | | 配布資料にて事後復習(4時間) | | | | |
| 9 | 膝関節の構造と役割 | 膝関節及び周囲の骨・関節・筋・その機能について学習します。 | | | | テキスト「身体運動の機能解剖学」p155-168を事前予習(4時間) | | | | |
| 10 | 下腿及び足関節の構造と役割 | 下腿及び足関節の骨・関節・筋・その機能について学習します。 | | | | テキスト「身体運動の機能解剖学」p169-195を事前予習(4時間) | | | | |
| 11 | 足部の構造と役割 | 足部の骨・関節・筋について学習します。 | | | | 配布資料を事後復習(4時間) | | | | |
| 12 | 日常生活動作及びスポーツ動作時の機能解剖学 | 日常生活動作及びスポーツ動作時における骨・筋・関節の機能について学習します。 | | | | 配布資料にて事後復習(4時間) | | | | |
| 13 | バイオメカニクス1「力学の基本」 | バイオメカニクスの基礎について用語やこの原理を中心に学習します。 | | | | 配布資料にて事後復習する。(4時間) | | | | |
| 14 | バイオメカニクス2「スポーツ動作と力学」 | スポーツ動作時におけるバイオメカニクスを中心に学習、陸上・水中・回転など、また道具(ボール)についての基礎的な力学的特徴も学習します。 | | | | 配布資料にて事後復習(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめをします。 | | | | テキスト・配布資料にて事前事後学習(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「身体運動の機能解剖(改訂版)」(医道の日本社) ISBN:4-7529-3063-3 (生協で購入してください。) \ 4,300 | | | | <p>定期試験：90% レポート：10%</p> <p>S：授業内容を高度に理解するとともに、例題からは難しい応用問題が解ける。 A：授業内容を理解し、積極的な姿勢で課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。 B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。 C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「ボディ・ナビゲーション」(医道の日本社) ISBN:4-7529-3078-1 \ 3,800 「筋・骨格系のキネシオロジー」(医歯薬出版) ISBN:4-263-21287-8 | | | | <p>学習内容は膨大で、記憶しなければならない事が多いですが、健康に関わる仕事をやる上で基礎となる知識です。スポーツ外傷学・障害、トレーナー実習・リハビリテーション概論の基礎学習に有効です。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|---|---|----------------|------|----|--|---------|-----|-----|
| 科目名 | スポーツ外傷・障害学 | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SA26003 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 赤羽 勝司・江原 孝史 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士、ト指、日体協 [®] 指、日体協 [®] マシ | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | | |
| | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| 本講義の目的は、スポーツ外傷や運動を起因とする疾病について、それらの発生メカニズムを知り、運動中のケガと疾病の予防およびその対処方法について知ることです。講義内容は次の通りです。日常なじみのある整形外科の疾患（四肢の外傷、腰痛症、痙攣や捻挫、オーバーユースによる膝や肘の障害）リハビリテーションの実際 特異的な環境で発生する傷害（熱中症や凍傷）心臓突然死および貧血 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| スポーツ現場で受傷、発症する疾病について理解をした上で、それぞれに対する基礎的な対処方法やリハビリテーションについての知識を整理することができることを目標とします。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 教官の経験や学生諸君の体験を活かし、運動中に発生しやすい事例を紹介していきます。外傷および疾病について、その予防と治療、そしてリハビリテーションについて解説します。 | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | スポーツ医学総論 | スポーツ医学の概論について説明します。 | | | | テキストP1～27の概要を整理する（4時間）。 | | | |
| 2 | スポーツ外傷と障害について | スポーツ外傷・障害の概論について説明します。 | | | | テキストP29～39の概要を整理し、スポーツ外傷と障害の違いについて整理する（4時間）。 | | | |
| 3 | 部位別スポーツ外傷と障害（頭部・頸部） | 頭部・頸部の外傷・障害について説明します。 | | | | テキストP55～61の概要を整理し、頭部・頸部のスポーツ外傷と障害の違いを整理する（4時間）。 | | | |
| 4 | 部位別スポーツ外傷と障害（肩関節） | 上肢の外傷・障害：肩関節について説明します。 | | | | テキストP62～72の概要を整理し、肩関節部のスポーツ外傷と障害の違いを整理する（4時間）。 | | | |
| 5 | 部位別スポーツ外傷と障害（肘関節） | 上肢の外傷・障害：肘関節について説明します。 | | | | テキストP72～83の概要を整理し、肘関節部のスポーツ外傷と障害の違いを整理する（4時間）。 | | | |
| 6 | 部位別スポーツ外傷と障害（手関節） | 上肢の外傷・障害：手・指関節について説明します。 | | | | テキストP83～89の概要を整理し、手関節部のスポーツ外傷と障害の違いを整理する（4時間）。 | | | |
| 7 | 部位別スポーツ外傷と障害（体幹部） | 体幹の外傷・障害について説明します。 | | | | テキストP89～100の概要、体幹・骨盤部のスポーツ外傷と障害の違いを整理する（4時間）。 | | | |
| 8 | 部位別スポーツ外傷と障害（股関節） | 下肢の外傷・障害：股関節について説明します。 | | | | テキストP100～105の概要、股関節部のスポーツ外傷と障害の違いについて整理する（4時間）。 | | | |
| 9 | 部位別スポーツ外傷と障害（膝関節） | 下肢の外傷・障害：膝関節について説明します。 | | | | テキストP105～123の概要、膝関節部のスポーツ外傷と障害の違いについて整理する（4時間）。 | | | |
| 10 | 部位別スポーツ外傷と障害（足関節） | 下肢の外傷・障害：足部・足関節について説明します。 | | | | テキストP123～139の概要、足関節部のスポーツ外傷と障害の違いについて整理する（4時間）。 | | | |
| 11 | アスレティックリハビリテーションの概要 | アスレティックリハビリテーション：理論について説明します。 | | | | テキストP39～55の概要を整理し、アスレティックリハビリテーションについて整理する（4時間）。 | | | |
| 12 | アスレティックリハビリテーションの概要（応急処置） | アスレティックリハビリテーション：実際について説明します。 | | | | テキストP39～55の概要を整理し、応急処置方法について整理する（4時間）。 | | | |
| 13 | アスレティックリハビリテーションの実際 | アスレティックリハビリテーション：実際について説明します。 | | | | テキストP39～55の概要を整理し、具体的方法について整理する（4時間）。 | | | |
| 14 | 内科的スポーツ障害の概要 | 暑さと寒さによる障害/疲労などについて説明します。 | | | | テキストP147～185の概要を整理し、急性障害について整理する（4時間）。 | | | |
| 15 | 内科的スポーツ障害の概要 | 急性障害（疾患）/突然死などについて説明します。 | | | | テキストP147～185の概要を整理し、慢性障害について整理する（4時間）。 | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「スポーツ指導者のためのスポーツ医学 改訂第2版」小田清一、福林徹、河野一郎 編集編（南江堂） ISBN:978-4-524-24034-0（生協で購入してください。） \ 3,360 | | 小テスト：20% 定期試験：80% S:各回の内容を理解（小テスト）し、定期試験において9割程度の理解をしていること。A:各回の内容を理解（小テスト）し、定期試験において8割程度の理解をしていること。B:各回の内容を理解（小テスト）し、定期試験において7割程度の理解をしていること。C:各回の内容を理解（小テスト）し、定期試験において6割程度の理解をしていること。 | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | | |
| 「スポーツ外傷・障害マニュアル」 ISBN:4-7529-3020-X \ 3,200 「わかる！スポーツ傷害 第1版」 ISBN:978-4-524-26487-2 \ 3,240 「種目別スポーツ傷害の診療」 ISBN:978-4-524-23886-6 \ 6,700 | | スポーツ現場での実体験を通しながら講義を進めていきます。傷害や病気により運動を中断せざるを得ない状況を想定し、予防や対処法について学んで欲しいと願います。運動学や解剖学の知識を整理しておくこと。理解しやすいです。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--------------|--|---|------|----------------|--|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 運動適応論 | | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SA26004 | 研究室 | S-15 |
| 担当者 | 山本 薫 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 指導士 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| <p>生体は様々な環境や刺激に対して適応能をもって運動およびトレーニングを行っています。例えば暑熱環境下での運動における発汗や皮膚血流の増加、高地環境での運動に対する赤血球の増加や肺動脈圧の上昇および心肥大(右心室肥大)、寒冷環境下での運動に対する酸素消費量の増加など、それぞれの環境下での運動に対して適応的変化がみられます。この講義ではさまざまな環境刺激(高圧、低圧、低酸素、暑熱、寒冷、水中)に対する生体の適応およびそのしくみと運動能との関係についての講義を行います。</p> | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| <p>身体活動は日常の健康生活や競技スポーツの場で重要な効果をもたらします。健康運動の指導や競技スポーツのトレーニングに際しては運動の生理学的適応課程を見ながら目標のレベルに到達することが可能です。本講座は、さまざまな運動およびトレーニングに対する体の適応のメカニズムを理解し、日々の生活や運動を行い、自分の体をよい適応状態に持っていけるようになることが目標です。</p> | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| <p>パワーポイントを活用した講義を基本に進めます。関連資料・スライド資料等は可能なものについて随時配布します。</p> | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 講義の進め方、注意事項等について説明します。 | | | | | 自分の身長・体重・心拍数・血圧(測定時間も)を測定して記録し、初回に持参する。(4時間) | | | | |
| 2 | 運動と筋肉 | 運動・トレーニングに対する筋肉の適応について学びます | | | | | 運動が筋肉に及ぼす影響について調べてみる(4時間) | | | | |
| 3 | 運動とエネルギー代謝 | 運動・トレーニングに対するエネルギー代謝の適応について学びます | | | | | 運動が代謝に及ぼす影響について調べてみる(4時間) | | | | |
| 4 | 運動と呼吸器 | 運動による呼吸機能の適応変化について学びます。 | | | | | 運動が呼吸器に及ぼす影響について調べてみる(4時間) | | | | |
| 5 | 運動と循環器 | 運動による循環器系(心臓から動脈、毛細血管静脈に至るまで)の適応変化について学びます。 | | | | | 運動が循環器に及ぼす影響について調べてみる(4時間) | | | | |
| 6 | 運動と神経 | 運動・トレーニングが神経系の運動調節の適応について学びます | | | | | 運動が神経系に及ぼす影響について調べてみる(4時間) | | | | |
| 7 | 運動と内分泌(ホルモン) | 運動によって分泌されるホルモンにはどんな種類があるか学びます。 | | | | | 運動がホルモン分泌に及ぼす影響について調べてみる(4時間) | | | | |
| 8 | 運動と血液・尿、免疫 | 運動によって血液・尿・免疫系はどんな影響をうけるか、運動との関係について学びます。 | | | | | 運動が血液動態に及ぼす影響について調べてみる(4時間) | | | | |
| 9 | 暑熱環境下の体温と運動 | 高温に対して体はどう適応してゆくのか、暑熱馴化のメカニズムについて学びます。 | | | | | 暑い地域や国にいる人の体の特徴について調べてみる(4時間) | | | | |
| 10 | 寒冷環境下の体温と運動 | 寒冷に対して体はどう適応してゆくのか、寒冷馴化のメカニズムについて学びます。 | | | | | 寒い地域や国にいる人の体の特徴について調べてみる(4時間) | | | | |
| 11 | 水中での運動 | 水中環境、水の特性、潜水のメカニズムについて学びます | | | | | 水中運動が身体に及ぼす特徴について調べてみる(4時間) | | | | |
| 12 | 高所・低酸素環境下の運動 | 高地や低酸素環境に対して体はどう適応してゆくのかについて学びます。高地トレーニングについて、最近の傾向(トレーニングは低地で、生活は低酸素環境で行う)についても学びます | | | | | 人が運動もしくはトレーニング地として活用している高所はどんな地域にあるか調べてみる(4時間) | | | | |
| 13 | 陸上・持久性トレーニング | 持久性トレーニングに対する筋・血管の形状や機能の適応について学びます | | | | | 持久性トレーニングが身体に及ぼす影響について調べてみる(4時間) | | | | |
| 14 | 筋力競技トレーニング | 筋力系トレーニングに対する筋・血管の形状や機能の適応について学びます | | | | | 筋力系トレーニングが身体に及ぼす影響について調べてみる(4時間) | | | | |
| 15 | 加齢と運動 | 加齢によって起こる筋、神経、内分泌、免疫系の変化について学びます。 | | | | | 加齢が身体に及ぼす影響について多面的に調べてみる(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| (講義にて配布します。)必要に応じて参考資料のプリントを配布します。 | | | | | | 定期試験：60% 課題：20% 出席レポート：20% レポートは指定日までに提出すること。期日に遅れて提出した場合1/2以下の評価とする。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「運動適応の科学」竹宮 隆著(杏林書院) ISBN: 978-4-7644-1036-7 「改訂版 運動生理学の基礎と発展」春日規克・竹倉宏明著(フリースペース) ISBN: 9784434075698 | | | | | | 体重・心拍数・血圧は毎週同じ時間帯に測定しておくことよ。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|---|------|----------------|---|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 運動生理学 | | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナバ'リング | SA26005 | 研究室 | S-24 |
| 担当者 | 河野 史倫 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスア- | 月曜日4限 | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士、第一種衛生、ト指、ホ°・レ指、中一(保体)、高一(保体)、中一(保健)、高一(保健) | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 健康になるため、または健康を維持するために運動を行います。運動は様々な生理的刺激となり、カラダはそれに対して適応する過程で運動効果が表れます。スポーツの場面においてパフォーマンスを向上するためにトレーニングを行うことは、カラダの適応能力をさらに引き出しているということになります。本科目では、運動がどのような生理的刺激となり、身体機能にどのような影響を与えるのかについて講義を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 運動がどのような生理的刺激となるのか、運動によってカラダはどんな反応を示すのか、それらを結びつけるメカニズムを理解し的確に説明できること、運動がなぜ健康づくりに重要なのかを科学的に考察できるようになることを目標とします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 講義は指定のテキストに沿って進めていきます。板書やスライドも必要に応じて併用します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 運動と疾病 | 生活習慣や加齢に伴う疾病について、若年期の生理機能と比較しながらテキストとスライドを使って解説します。 | | | | | テキストの14章を読んでおくこと(4時間) | | | | |
| 2 | 代謝 | 運動中のエネルギー代謝について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | 授業ノートをまとめ直し、テキストの5章を読んでおくこと(4時間) | | | | |
| 3 | 骨格筋1 | 筋の構造と収縮の仕組み、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | 授業ノートをまとめ直し、テキストの1章を読んでおくこと(4時間) | | | | |
| 4 | 骨格筋2 | 筋の種類と性質の違いについて、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | テキストの1章を読んでおくこと。前回の講義内容を復習しておくこと。(4時間) | | | | |
| 5 | 神経1 | 骨格筋がどのように神経支配を受けているのか、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | 授業ノートをまとめ直し、テキストの2章を読んでおくこと。(4時間) | | | | |
| 6 | 神経2 | 筋力調節、神経筋で起こる反射について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | テキストの2章を読んでおくこと。前回の講義内容を復習しておくこと。(4時間) | | | | |
| 7 | 神経・筋の可塑性 | 運動・トレーニングによる神経・筋の変化について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | 授業ノートをまとめ直し、テキストの1章-2章を読み直しておくこと。(4時間) | | | | |
| 8 | 前半のまとめ | 前半の講義内容に関する試験を実施し、解答と解説を行います。 | | | | | 第1回~第7回の授業で作成したノートを復習し、重要な点は説明できるようにする。(4時間) | | | | |
| 9 | 呼吸 | 酸素の取り込みと消費、運動強度による酸素消費量の変化について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | テキストの3章を読んでおくこと。授業後は、7章もしっかり読んでおくこと。(4時間) | | | | |
| 10 | 循環 | 心機能と運動による血圧変化について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | テキストの4章を読んでおくこと。授業後は、7章もしっかり読んでおくこと。(4時間) | | | | |
| 11 | 体温 | 体温と体水分調節、運動や暑熱による脱水や熱中症について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | テキストの6章と10章を読んでおくこと。授業後は、7章もしっかり読んでおくこと。(4時間) | | | | |
| 12 | 運動と栄養 | 栄養によるエネルギー代謝やトレーニング効果の変化、サプリメントの効果について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | テキストの8章と12章を読んでおくこと。(4時間) | | | | |
| 13 | 骨 | 骨の構造と運動負荷の影響、宇宙飛行士の骨密度低下について、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | テキストの11章を読んでおくこと。(4時間) | | | | |
| 14 | 免疫 | 運動による免疫機能の変化、筋損傷した時の免疫システムについて、テキストとスライドを使って解説します。 | | | | | テキストの9章を読んでおくこと。(4時間) | | | | |
| 15 | 老化 | 加齢に伴う身体機能の変化や運動による老化予防の仕組みについて解説します。 | | | | | 授業後はノートをまとめ、重要な点は説明できるようにすること。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「運動生理学 生理学の基礎から疾病予防まで」小山勝弘、安藤大輔、山北満哉、北川淳、小野悠介、藤田諒著 小山勝弘、安藤大輔編(三共出版) ISBN:978-4-7827-0687-9(生協で購入してください。) | | | | | | 小テスト:30% 定期試験:70% S:各種生理機能について深く理解しているだけでなく、それらの知識を活用し実際に生体内で起こる事象についての確かな説明および考察ができる。A:授業内容を細部まで理解し、毎時間のまとめの内容以外の問題も解ける。B:毎時間のまとめの内容を完全に理解し、問われ方が変わっても正解できる。C:毎時間のまとめの内容を理解し、それらに関する試験問題が解ける。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 必要に応じてプリント等を配布します。 | | | | | | 生体機能の可塑性は複雑な仕組みであり、まだ分かっていないこともたくさんあります。本講義で得た知識を使って、実際に運動やトレーニングの方法や妥当性を科学的に考えることができるようになってほしいです。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------|---|------|--------|----------------|------------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | スポーツ医学 | | 学年学期 | 3・4年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SA36006 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 能勢 博・田邊 愛子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 実践指導者、日体協が指、日体協が指 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| ヒトでは安静時に比べ運動時には代謝レベルは最大8倍に、トップアスリートでは16倍にまで上昇しますが、それに伴い生体は各種恒常性調節系の能力をその最大限にまで発揮させます。一方、トレーニングや栄養摂取はそれら調節系能力を改善しますが、ヒトの恒常性維持能力の可塑性や環境適応能力には限界があり、それらを理解し現場での問題解決に生かします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| エネルギーの摂取、燃焼、運動、酸素摂取、運搬、排泄のメカニズムについて理解します。 そのメカニズムを向上させるための運動トレーニングおよび食事摂取方法について理解します。 トップアスリートに加え中高年を中心とした一般人の健康維持および疾患治療としての運動トレーニング方法を理解します。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義はスライドとプリントを用いて行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | スポーツ医科学とは? | イントロダクション | | | | シラバスを読み、スポーツ医学に関することについて調べておく(4時間) | | | | |
| 2 | 運動時のエネルギー消費 | 基質代謝、呼吸商、アシドーシス、エネルギー供給系についてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配付プリントの復習(4時間) | | | | |
| 3 | 運動時のエネルギー回復 | 筋グリコーゲン回復、エネルギー摂取のタイミング、アスリートの健康管理についてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 4 | 運動と骨格筋 | 骨格筋の形状と特性、筋収縮、筋繊維タイプ、随意最大筋力についてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 5 | 運動と呼吸 | 換気の基本、運動中の換気亢進についてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 6 | 運動と循環 | 心電図、心拍出量、運動時の血圧、循環調節についてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 7 | 運動と神経、内分泌 | 脳の運動中枢、運動時のホルモン分泌・制御についてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 8 | 運動と体温調節 | 熱産生・放散経路、体温調節中枢と効果器、高温化の運動、暑熱馴化とトレーニングについてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 9 | 筋力トレーニング(1) | 等尺性・等張性収縮、神経系の適応についてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 10 | 筋力トレーニング(2) | 筋力トレーニングの方法、測定方法についてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 11 | 持久性トレーニング(理論編) | 最大酸素摂取量、Fickの法則についてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 12 | 持久性トレーニング(実践編) | 最大酸素摂取量、トレーニング不可の算出、血液量、トレーニング効果を上げる方法についてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 13 | 中高年の運動処方(1) | 中高年の体力、モチベーション、介護予防、スポーツと健康についてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 14 | 中高年の運動処方(2) | インターバル速歩、地域密着型スポーツクラブについてスライドとプリントにもとづき解説します。 | | | | 配布プリントの予習・復習(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめ | | | | 疑問点の整理(4時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| プリントを配布します。 | | 受講態度：30% 受講態度は、授業への参加度(発言・取組み)で評価します。 課題レポート・試験：70%で評価します。 SIは90%以上の場合、AIは90点未満～80点以上の場合、BIは80点未満～70点以上の場合、CIは70点未満～60点以上の場合、DIは60点未満不合格 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「やさしい生理学【改訂第6版】」彼末一之、能勢 博編(南江堂) ISBN：978-4-524-26229-8 看護師、理学療法士などパラメディカルスタッフを対象とした教科書 | | 「まず、自分自身がより強くなりたい」という体育系の部活に属する学生に受講してほしい、と思います。生理学などの本を読んで、人間の身体の基本的な構造、役割などを把握しておくようにしてください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------|----------------------------|------|---|----------------|---|-------|---------|-----|-----|
| 科目名 | リハビリテーション概論 | | 学年学期 | 3・4年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SA36007 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 赤羽 勝司 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスア- | | | |
| 関連資格 | 指導士、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 健康増進領域に関わる主要疾患のリハビリテーションを中心に進めていきます。リハビリテーションにおける医学的背景を学び、社会的活動・教育の現場指導に役立つように学習していきます。本講義では、医学的リハビリテーションにおける対象者について学び、疾病・障害がどのように発生し、どのように回復または進行していくのか理解を深めるようにします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 医学的リハビリテーションの基礎を理解し、その後につながる介護予防や健康増進におけるリハビリテーションの重要性を整理することができることを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 主要疾患の講義を進めながら、障害別身体的特徴を学び、健康増進や教育およびスポーツ指導の現場における障害者との関わりの理解を深めていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | リハビリテーション概論 | リハビリテーション概論について説明します。 | | | | リハビリテーションの理念について整理する(4時間)。 | | | | |
| 2 | リハビリテーション概論 | 医療と保健・福祉との関わりについて説明します。 | | | | テキストP5～9の概要を整理し、医療と保健・福祉との関わりについて整理する(4時間)。 | | | | |
| 3 | リハビリテーション概論 | コメディカルとの関わりについて説明します。 | | | | テキストP35～73の概要を整理し、医療チームについて整理する(4時間)。 | | | | |
| 4 | 障害別リハビリテーション | 関節拘縮について説明します。 | | | | テキストP130～135の概要を整理し、関節拘縮について整理する(4時間)。 | | | | |
| 5 | 障害別リハビリテーション | 筋力低下について説明します。 | | | | テキストP136～142の概要を整理し、筋力低下について整理する(4時間)。 | | | | |
| 6 | 障害別リハビリテーション | 運動麻痺について説明します。 | | | | テキストP143～148の概要を整理し、運動麻痺について整理する(4時間)。 | | | | |
| 7 | 障害別リハビリテーション | 失語・失認・失行について説明します。 | | | | テキストP158～167の概要を整理し、失語・失認・失行について整理する(4時間)。 | | | | |
| 8 | 障害別リハビリテーション | 高次脳機能障害について説明します。 | | | | テキストP168～169の概要を整理し、高次脳機能障害について整理する(4時間)。 | | | | |
| 9 | 疾患別リハビリテーションの概要 | 脳卒中のリハビリテーションについて説明します。 | | | | テキストP190～198の概要を整理し、脳卒中のリハについて整理する(4時間)。 | | | | |
| 10 | 疾患別リハビリテーションの概要 | 神経・筋疾患のリハビリテーションについて説明します。 | | | | テキストP209～221の概要を整理し、神経・筋疾患のリハについて整理する(4時間)。 | | | | |
| 11 | 疾患別リハビリテーションの概要 | 脊髄損傷のリハビリテーションについて説明します。 | | | | テキストP222～227の概要を整理し、脊髄損傷のリハについて整理する(4時間)。 | | | | |
| 12 | 疾患別リハビリテーションの概要 | 切断のリハビリテーションについて説明します。 | | | | テキストP247～253の概要を整理し、切断のリハについて整理する(4時間)。 | | | | |
| 13 | 疾患別リハビリテーションの概要 | 関節リウマチのリハビリテーションについて説明します。 | | | | テキストP247～253の概要を整理し、関節リウマチのリハについて整理する(4時間)。 | | | | |
| 14 | 疾患別リハビリテーションの概要 | 小児疾患のリハビリテーションについて説明します。 | | | | テキストP258～262の概要を整理し、小児疾患のリハについて整理する(4時間)。 | | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめをします。 | | | | 全講義内容を整理し、要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「リハビリテーション総論 改訂第2版」 椿原彰夫編(診断と治療社) ISBN:978-4-7878-1160-8(生協で購入してください。) | | | | 小テスト:20% 定期試験:80% S:各回の内容を理解(小テスト)し、定期試験において9割程度の理解をしていること。A:各回の内容を理解(小テスト)し、定期試験において8割程度の理解をしていること。B:各回の内容を理解(小テスト)し、定期試験において7割程度の理解をしていること。C:各回の内容を理解(小テスト)し、定期試験において6割程度の理解をしていること。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「入門リハビリテーション概論【第7版】」中村隆一・佐直信彦 編編(医歯薬出版) ISBN:978-4-263-21326-1 \6,264 「リハビリテーション基礎医学」(医学書院) ISBN:978-4-260-24348-3 | | | | 医学的リハビリテーションを中心に講義を進めるため、機能解剖学を復習した上で受講が理解を深めます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|---|---|------|----------------|---|---------------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 運動と遺伝子 | | | 学年学期 | 3・4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SA36008 | 研究室 | S-22 |
| 担当者 | 中島 弘毅 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 遺伝子を扱う学問である分子生物学は、1953年にワトソンとクリックによりDNAのらせん構造が打ち立てられて以来急速に発展を遂げています。遺伝子は、私たちの身体をつくる設計図であり、運動能力も遺伝子に影響を受けることが明らかになってきています。本講義では、遺伝子が運動、健康とどのように関わっているのかについて学習します。具体的には、遺伝子とは何かから始まり、運動と遺伝子との関わり、また運動のDNAに及ぼすエピジェネティクス効果についても触れます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 分子生物学視点から運動、健康に関わる事象を考えることができる基礎的知識を修得します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 基本的には教科書を用いて授業を進めます。必要に応じて資料としてプリントも配布します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 生命とは何か | 地球における生物の誕生から自己保存、自己複製能と種の多様性を持ち、進化してきたことを学びます。 | | | | | 遺伝子と多様性の関係について復習する。(4時間) | | | | |
| 2 | 遺伝するとは | 遺伝子が種々の性質を作り出す設計図であることを学びます。運動能力と遺伝子の関係、放射線による遺伝子への影響とうについても考えてみましょう。 | | | | | 遺伝子の重要性について復習する。(4時間) | | | | |
| 3 | 遺伝子の本体とDNAの構造について | 遺伝子の本体とは何か、DNAの構造はどの様になっているのかについて学びます。 | | | | | 遺伝子の構造について復習しておく。(4時間) | | | | |
| 4 | 一流スプリンターのACTN3遺伝子のタイプにつ | 一流スプリンターとACTN3遺伝子のタイプの違いとその仕組みについて解説します。 | | | | | ACTN3遺伝子の働きについて復習しておく。(4時間) | | | | |
| 5 | 持久力と遺伝子との関係について | エリスロポイエチン受容体 (EPOR) 遺伝子を取り上げ、持久力と遺伝子の関係について解説します。 | | | | | EPOR遺伝子の働きについて復習しておく。(4時間) | | | | |
| 6 | 筋持久力、高山病と遺伝子の関係について | アンギオテンシン 変換酵素 (ACE) 遺伝子を取り上げ、筋持久力トレーニングに対するトレーニングと遺伝子の関係について解説します。 | | | | | ACE遺伝子の働きについて復習しておく。(4時間) | | | | |
| 7 | 筋肥大と遺伝子との関係について | 筋肥大にかかわる成長因子を取り上げ、遺伝子がどのようにかかわっているかについて解説します。 | | | | | 筋肥大と遺伝子との関係について復習しておく。(4時間) | | | | |
| 8 | 運動と免疫機能について | 運動と上気道感染リスクについてJカーブ、Sカーブについて解説すると共に自然免疫と獲得免疫について解説します。 | | | | | Jカーブ、Sカーブについて復習しておく。(4時間) | | | | |
| 9 | 運動と自然免疫、老化との関係について | 運動とASC遺伝子の働き、自然免疫との関係について解説します。 | | | | | 運動と自然免疫との関係について復習しておく。(4時間) | | | | |
| 10 | 運動とエピジェネティクスについて | 運動がDNAのメチル化に及ぼす効果について解説します。 | | | | | エピジェネティクスの意義について復習しておく。(4時間) | | | | |
| 11 | 運動の脳機能への影響について | 運動が脳機能にどのように影響するか、脳機能にかかわる遺伝子を取り上げ解説します。 | | | | | 運動の脳機能への効果について復習しておく。(4時間) | | | | |
| 12 | 運動と寿命との関係について | 運動と寿命との関係についてと長寿遺伝子について解説します。 | | | | | 運動の寿命への効果について復習しておく。(4時間) | | | | |
| 13 | 遺伝子ドーピングについて | 今まで学習してきた運動にかかわる遺伝子を振り返りながら、ゲノム編集と遺伝子ドーピングの可能性について解説します。 | | | | | 遺伝子ドーピングが何をもたらすのかについて復習する。(4時間) | | | | |
| 14 | 運動のがん予防効果について | 運動によるがんに対する効果と抑制モデルについて解説します。 | | | | | 運動のがん予防のメカニズムについて復習しておく。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 遺伝子診断、遺伝子操作について考えます。 | | | | | 遺伝子操作、遺伝子診断に対しての考えを復習する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「Q&A運動と遺伝」大野秀樹他編(大修館書店) ISBN:4-469-26474-1(生協で購入してください。) | | | | | | レポート:10% 定期試験:90% レポートと定期試験を総合評価し、95点以上をS評価、80点以上をA評価、70点以上をB評価、60点以上をC評価とします。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「細胞の分子生物学(第4版)」アルバート他著(株)ニュートンプレス 中村桂子他監訳 「運動分子生物学」(有限会社ナップ) 大日方昂監修 | | | | | | 講義計画に該当する内容をテキストなどから探し、読んでおいてください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------------|---|------|---|----------------|---------------------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | メディカルチェックの理論と実習 | | 学年学期 | 3・4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SA36009 | 研究室 | S-15 |
| 担当者 | 山本 薫・江原 孝史 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 指導士 | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 健康運動指導士は運動のための内科的メディカルチェックの重要性を理解し、その内容を説明できることが求められています。本講義では、メディカルチェックの内容とその流れ及び結果を踏まえたリスク層別化の説明、問診や検査の内容とその基準、運動負荷心電図検査の必要性と実施方法の理解、を中心に解説するとともに重要な項目について実習を行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 運動におけるメディカルチェックの重要性と内容を理解し、その内容と流れを説明することができるようになる。運動負荷試験の目的を理解し、内容と方法を説明することおよび評価することができる。運動負荷心電図検査の電極装着部位を理解し安全対策をとれるようになる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スライド、DVDなどの視聴覚教材やプリントを用いた講義、そして各種検査と運動負荷心電図検査実習を組みあわせて行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | メディカルチェックについて | メディカルチェックの重要性とその意義について説明します。 | | | | メディカルチェックの効果についての資料等を読む。テキストp587(4時間) | | | | |
| 2 | 臨床検査 | 臨床検査の種類と読み方、血液、心臓、肝臓、腎臓などの各臓器の変化に特有な検査データとデータの読み方について学びます。 | | | | 臨床検査の主要なマーカーを覚える。テキストp573(4時間) | | | | |
| 3 | 心臓の解剖と働き | 心臓の構造とポンプ機能、循環機能について学びます。 | | | | 心臓の解剖、特に冠状動脈について予習する。テキストp159(4時間) | | | | |
| 4 | 血圧の特徴と仕組み | 安静時の血圧を測定します。様々な測り方での測定値を比較し、その原因を考えます。 | | | | 血圧の仕組みを調べます。テキストp579(4時間) | | | | |
| 5 | 呼吸器 | 肺の働きと病気(COPD、肺がん、肺炎)について学びます。スパイロメーターの使い方、パルスオキシメーターの原理を学びます。 | | | | 一秒量と努力性肺活量を測る。テキストp579(4時間) | | | | |
| 6 | ドーピング・服薬と治療薬について | ドーピングの歴史と定義、JOCでの検査方法、服薬者への注意点について学びます。 | | | | 最近のドーピングの事例を調べる。テキストp602、JADAのHP(4時間) | | | | |
| 7 | 心電図(1) | 心電図の基礎と記録法 読み方(1) 正常心電図の特徴と読み方について学びます。 | | | | 心電図の決まりを復習する。テキストp580(4時間) | | | | |
| 8 | 心電図(2) | 心電図の基礎と記録法 読み方(2) 異常心電図の特徴と読み方について学びます。 | | | | 正常と異常心電図を読み、レポートする。テキストp580(4時間) | | | | |
| 9 | 心電図(3) | 心電図記録法(実習) 心電計の電極を取り付け心電図をとります。 | | | | 自分の心電図を読みレポートする。テキストp580(4時間) | | | | |
| 10 | 突然死と救命救急法 | 運動中突然死の死因およびその救命救急法を学びます。(演習) | | | | 突然死の事例を調べる。テキストp533(4時間) | | | | |
| 11 | 運動負荷試験(1) | 運動負荷試験の意義、方法と適応、禁忌 心電図でチェックすべき変化について学びます。 | | | | 心電図のST変化の意義を学ぶ。テキストp631(4時間) | | | | |
| 12 | 運動負荷試験(2) | 運動負荷試験実習で自転車エルゴメーターを使った負荷試験を行います。(演習) | | | | 自転車エルゴメーター負荷の特徴を学ぶ。テキストp631(4時間) | | | | |
| 13 | 運動負荷試験(3) | 運動負荷試験実習でトレッドミルを使った負荷試験を行います。(演習) | | | | 事前にトレッドミル負荷の特徴を学ぶ。テキストp580~(4時間) | | | | |
| 14 | 運動負荷試験(4) | 運動負荷試験実習で自転車エルゴメーターを使った呼気ガス分析負荷試験(VT測定)を行います。(演習) | | | | 事前に呼気ガス分析測定の特徴を学ぶ。(4時間) | | | | |
| 15 | 運動負荷試験(5)・まとめ | 運動負荷試験実習で自転車エルゴメーターを使った呼気ガス分析負荷試験(VT測定)を行います。(演習) 講義実習全体のまとめ | | | | 事前に呼気ガス分析測定の特徴を学ぶ。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「健康運動指導士養成講習会テキスト(上・下)」財団法人健康・体力づくり事業団体編(別途、指示します。) 必要な時はプリント・資料を配布する。 講義の順番は変更することがあります。 | | | | 定期試験：60% レポート：20% 受講態度：20% 総合評価 S:全講義実習に積極的に参加して質問をし、レポートは指定課題について適切で十分な考察、試験は90%以上得点。A:14回以上講義実習に積極的に参加し、レポートは指定課題について適切な考察、試験は80%以上得点。 B:13回以上講義実習に積極的に参加して、レポートは指定課題について考察、試験は70%以上得点。C:11回以上講義実習に積極的に参加して、レポートは指定課題に回答し、試験は60%以上得点。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「新スポーツのためのメディカルチェック」(南江堂) 村山正博監修 「改訂版 運動生理学の基礎と発展」春日規克・竹倉宏明著(フリースペース) ISBN:978-4-434-07569-8 | | | | 運動生理学、運動処方論を履修済みもしくは履修中であること、体の状態をあらかじめ知ることによって運動することの意義を考えながら講義実習に臨んでください。毎回体調を整えて参加して下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--------------------------|---|---|------|--|------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 栄養学概論 | | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナバ`リング | SL16010 | 研究室 | S-05 |
| 担当者 | 長谷川 尋之 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア` | 水曜日1限 | | |
| 関連資格 | 指導士、ト指、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学生年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 単に栄養素という物質を理解するのではなく、摂取した食品が身体の中でどのように動き、どのように働くのか一連の栄養代謝と健康と食生活の関係について学習します。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 五大栄養素の役割と消化、吸収の過程などの基礎栄養学を理解すること、健康の保持、増進、疾病予防に関する栄養素や食事の役割、健康課題を説明できることとします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 基本的に教科書とパワーポイントスライドを用いて講義を進めます。また必要に応じてプリント配布を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション、栄養と健康 | 授業ガイダンス(本講義の狙い、進め方)を行います。栄養の概念、健康の考え方、健康と栄養の関係について学びます。 | | | | | 第1章を予習し、栄養の定義、栄養素の概要、健康の定義を復習します。(4時間) | | | | |
| 2 | 消化と吸収、栄養と疾病、食物の摂取 | 消化と吸収、栄養素の不足、過剰による疾病、食事リズムと健康への影響について学びます。 | | | | | 第2章を予習し、欠乏症、過剰症の定義と摂取が望ましい摂取を控える栄養素を整理します。(4時間) | | | | |
| 3 | エネルギーの科学 | エネルギー代謝と栄養素の関係、エネルギー収支バランスについて学びます。 | | | | | 第10章を予習し、エネルギー消費量の測定、エネルギーと体重変化の関係を復習します。(4時間) | | | | |
| 4 | 糖質の働き | 糖質の代謝、糖質の働きについて学びます。 | | | | | 第5章を予習、糖質の代謝、働きを復習し、糖質を豊富に含む食品を整理します。(4時間) | | | | |
| 5 | 脂質の働き | 脂質の代謝、脂質の働きについて学びます。 | | | | | 第6章を予習、脂質の代謝、働きを復習し、脂質を豊富に含む食品を整理します。(4時間) | | | | |
| 6 | タンパク質の働き | タンパク質の代謝、タンパク質の働きについて学びます。 | | | | | 第4章を予習、タンパク質の代謝、働きを復習し、タンパク質を豊富に含む食品を整理します。(4時間) | | | | |
| 7 | 脂溶性ビタミンの働き | ビタミンの種類と疾病、脂溶性ビタミンの働きについて学びます。 | | | | | 第7章を予習、脂溶性ビタミンの働きを復習し、脂溶性ビタミンを豊富に含む食品を整理します。(4時間) | | | | |
| 8 | 水溶性ビタミンの働き | 水溶性ビタミンの働きについて学びます。 | | | | | 第7章を予習、水溶性ビタミンの働きを復習し、水溶性ビタミンを豊富に含む食品を整理します。(4時間) | | | | |
| 9 | 多量ミネラルの働き | ミネラルの種類と疾病、多量ミネラルの働きについて学びます。 | | | | | 第8章を予習、多量ミネラルの働きを復習し、多量ミネラルを豊富に含む食品を整理します。(4時間) | | | | |
| 10 | 微量ミネラルの働き | 微量ミネラルの働きについて学びます。 | | | | | 第8章を予習、微量ミネラルの働きを復習し、微量ミネラルを豊富に含む食品を整理します。(4時間) | | | | |
| 11 | 水・電解質の働き | 水の出納、電解質の代謝について学びます。 | | | | | 第9章を予習し、水の働き、電解質バランスを復習します。(4時間) | | | | |
| 12 | 熱中症と水分補給 | 熱中症の発生機序と熱中症予防と熱中症時の対策について学びます。 | | | | | 熱中症予防と水分補給の方法について復習します。(4時間) | | | | |
| 13 | 一般人の栄養と健康課題 | 現在の食事に寄与する健康課題と食事のあり方について学びます。 | | | | | 健康寿命を阻害する三大因子について復習します。(4時間) | | | | |
| 14 | 競技者の栄養と競技力 | 競技者の食事の現状と課題、競技力向上の関係について学びます。 | | | | | 競技者の食事の意義、栄養評価、食事の基本的な形について復習します。(4時間) | | | | |
| 15 | 栄養と健康のまとめ | これまでの講義のまとめとして、自身の健康と食事について考えます。 | | | | | これまでの講義の資料や教科書を復習して講義に臨みます。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「イラスト 基礎栄養学」田村明、小野廣紀、大口健司著(東京数教社) ISBN:978-4-8082-6036-1(生協で購入してください。) | | | | | 定期試験:90%、受講態度:10% 受講態度は、受講票での積極的な質問と授業中の発言を得点化して評価し、定期試験と総合的に評価します。60点以上でC評価、70点以上でB評価、80点以上でA評価とし、概ね95点以上でS評価とします。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| なし | | | | | 慣れない用語や専門用語が多く出てきますが、自分や家族の身近にある食がテーマの講義になります。単に講義を受けるだけで終わらず、日々の食生活や健康と結びつけていきましょう。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------|--|------|---|----------------|---|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | トレーニング科学の理論と実際 | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SA26011 | 研究室 | S-15 |
| 担当者 | 山本 薫・根本 賢一 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士、ト指、日体協が指、日体協アツメ | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| トレーニング科学に関する情報の蓄積に伴い、トレーニング現場に必要な知識も増えています。この授業では、トレーニングの目的に応じた負荷と量を設定し、正確な方法で指導できる実践力を身につけることを目的とします。トレーニングを安全でかつ効果的に行うための手順と方法を理解し、トレーニングの必要性と、実践する際の留意点をも各部位別に学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 筋力や持久力を安全で効果的に向上させるための原則や留意点を理解し、各種のトレーニング実習を通して、その具体的な組み立て方を修得することを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義室とトレーニングルームを併用しながら理論演習という形式で授業を進めていきます。講義はこちらが用意したプリント及びスライドを使用しながら授業を行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス、トレーニング概論 | 授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明します。トレーニングの意義と目的、トレーニング効果を決定する要因について解説します。 | | | | 健康づくりと運動の講義に実施した内容を復習しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 2 | トレーニングの原理・原則 | 効果的にトレーニングを実施するための条件について解説します。 | | | | 各自が行っているトレーニング目的及び内容をまとめておく(4時間)。 | | | | |
| 3 | 体力とトレーニング | 体力の概念、運動トレーニングの有益性について解説します。 | | | | 体力要素の分類を各自でまとめておくこと(4時間)。 | | | | |
| 4 | トレーニングと安全管理 | 安全にトレーニングを実施するための諸条件について解説します。 | | | | 配布したプリント及び内容を復習しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 5 | ウォーミングアップとクーリングダウン及び体操 | ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法、目的別の準備運動実施法及び指導法(理論と実習)について解説します。 | | | | ウォーミングアップ、クーリングダウンの必要性について事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 6 | トレーニング理論と方法 | 持久性体力トレーニングについて解説します。 | | | | 持久性体力を規定する要因、持久性体力を計測する方法について事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 7 | トレーニング理論と方法 | レジスタンストレーニングの理論およびプログラムメニュー作成のための理論と実際について解説します。 | | | | レジスタンストレーニングの名称について事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 8 | トレーニング理論と方法 | パワー・スピードトレーニングについて解説します。 | | | | パワー、スピードの体力テストの方法について事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 9 | トレーニング理論と方法 | ストレッチングと柔軟性トレーニングについて解説します。 | | | | 柔軟性を規定する要因について事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 10 | トレーニング理論と方法 | レジスタンストレーニングの目標設定と効果測定のための形態計測方法、およびその手順について解説します。 | | | | カウンセリングした内容を基に、パートナーのトレーニング目標をまとめておくこと(4時間)。 | | | | |
| 11 | トレーニング | 最大筋力(IRM)の測定方法と実施手順について解説します。 | | | | パートナーの形態計測結果、体力測定の結果を活用できるように整理しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 12 | トレーニング計画 | 最大筋力の測定データを基に、トレーニングメニューを作成します(実習)。 | | | | 作成したトレーニングメニューの内容がトレーニングに適当なものが再確認しておく(4時間)。 | | | | |
| 13 | トレーニングの実践と指導 | 13,14回でレジスタンストレーニング実施者と指導する者を入れ替えて、トレーニングパートナーの指導をします(実習)。 | | | | トレーニング実施した者、指導した者それぞれの立場での感想、反省をまとめておく(4時間)。 | | | | |
| 14 | トレーニングの実践と指導 | 13,14回でレジスタンストレーニング実施者と指導する者を入れ替えて、トレーニングパートナーの指導をします(実習)。 | | | | トレーニング実施した者、指導した者それぞれの立場での感想、反省をまとめておく(4時間)。 | | | | |
| 15 | 体験報告とまとめ | パートナーのトレーニング指導(及び実施)での報告と、第1から14回までの講義のまとめをします。 | | | | これまでの講義及び実習で使用したプリントを中心に復習しておくこと(4時間)。 | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 必要時にこちらでポイントを記したプリントを用意します。 | | | | 定期試験：70% レポート：10% 課題：20% S:授業内容をきわめて高度に理解するとともに、探求姿勢をもって課題演習等に取り組み高度な活動成果を示している。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題演習に取り組み良好な活動を示している。B:授業内容のおおそを理解するとともに、与えられた課題演習等に誠実に取り組み、授業のねらいで求める活動成果の2/3程度の達成が認められる。C:授業内容の一部を理解するとともに、授業のねらいで求める活動成果の1/2程度の達成が認められる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「健康運動指導士養成講習会テキスト(下)」健康・体力づくり事業財団著(南江堂) 「JATIトレーニング指導者テキスト」(大修館書店) | | | | トレーニングルームでの実習時には運動着、室内シューズを必ず持参してください。毎回の講義終了前に、次回講義の概要や予習等について説明をします。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|------------------------|-------------------------------------|---|------|----------------|---|--|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 運動と物理学 | | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SA26012 | 研究室 | N-05 |
| 担当者 | 丸山 文男 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスター | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | 指導士、日体協 [®] 指 | | | | 履修条件 | | 1年後期「力学の基礎」を受講しているもしくは高校で「物理」を履修していること | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 力学の基礎で学んだ内容を大きさを持った物体の運動に発展させ、具体的な競技や運動に適用して、運動のメカニズムをよりよく理解できるようにします。基礎科学的な視点から現象を理解すれば、運動そのものの見方や視点もそれまでとは変化し、競技の技術をアップするポイントの明確化や、さらなる競技力向上が期待されます。競技時の体の動きを、物理的な視点から理解し説明できるようになることが、この講義のねらいであり到達目標でもあります。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 運動を力学的に考えられるようになることです。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 競技の内容を説明し、どのような原理でそれが実現するのか物理学の視点から理解します。講義の中でどのような力が働いているのか、それがどのようなメカニズムで生じているのかなどを考えながら進めます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 力学の基礎の復習 | 力学の基礎の復習と本講義の内容との関係など、講義計画の概要説明。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 2 | 力について | 力のつりあいはベクトルの作図で考えます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 3 | 運動量保存則 | 運動量保存則・力積：野球におけるバットコントロールとグラブさばき。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 4 | 力学的エネルギー保存則 | 力学的エネルギー保存則：走り高跳び・棒高跳び。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 5 | 仕事とエネルギー | 全身運動と仕事・エネルギー。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 6 | 剛体の運動 | 剛体の運動と質点の運動の比較。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 7 | 剛体の回転 | 剛体の運動の運動方程式と慣性モーメント、角運動量の導入。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 8 | 角運動量 | 角運動量保存則と運動：フィギュアスケートと回転運動、ハンマー投げなど。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 9 | 歩く動作 | 陸上での運動1・動作各論：歩行 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 10 | 重心とバランス | 陸上での運動2・動作各論：重心とバランス | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 11 | ベルヌーイの定理 | 流体中での運動：ベルヌーイの定理 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 12 | 球の回転と運動 | マグナス力と競技：テニス・野球など球技の変化球について | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 13 | 熱 | 水中・水泳運動1：比熱、熱容量、熱伝導 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 14 | 浮力、揚力、抵抗 | 水中・水泳運動2：浮力・抵抗 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 15 | 運動の力学 | 期末試験の傾向と対策(まとめにかえて) | | | | | 授業全体を振り返り、定期試験に備える。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「総合物理1-力と運動・熱-」 岡友正他著(数研出版) ISBN:978-4-410-81203-3(別途、指示します。) 「フォローアップドリル物理 力と運動・熱と気体」数研出版編集部編(数研出版) ISBN:978-4-410-26541-9(生協で購入してください。) プリント等を配布する | | | | | | 定期試験：100% S:授業内容を深く理解し、複雑な応用問題を解くことができる。 A:授業内容をよく理解し、応用問題を解くことができる。 B:授業内容を理解し、簡単な問題を解くことができる。 C:授業内容をほぼ理解し、例題を解くことができる。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「健康運動指導士養成講習会テキスト上巻」((財)健康・体力づくり事業財団) | | | | | | 準備学習として健康運動指導士講習会テキストを事前に読んでおくことを勧めています。現象を科学的にとらえ、それを自分の言葉で説明できるようになりましょう。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|---|------|--|-----------------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 運動と栄養 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL26013 | 研究室 | S-05 |
| 担当者 | 長谷川 尋之 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オイスアワ | 水曜日1限 | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士、ト指、日本協協 [®] 指、日本協協 [®] 中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 スポーツと栄養 | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 身体活動量の多い市民から競技者まで、最高のパフォーマンスを発揮するための食生活について学習します。運動栄養学を科学的根拠に基づき理解を促し、個人や競技特性に応じた食品選択、適切なタイミングの食事摂取について解説します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツの競技特性と期分けに応じた栄養管理、食事選択の考え方を理解するとともに、自身への活用、他者への指導に運動栄養学をアウトプットできるようになることです。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 基本的に教科書とパワーポイントスライドを用いて講義を進めます。また必要に応じてプリント配布を行います。演習形式や学習内容の確認テストを行うこともあります。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション、栄養学概論 | 授業ガイダンス(本講義の狙い、進め方)を行います。食物と栄養素と食品について学び、自身の食生活を振り返ります。 | | | | 1章を予習し、授業までに日々の食事を記録、体重測定をしたりしておきます。(4時間) | | | | |
| 2 | スポーツ栄養の基本的な考え方 | 運動と栄養の効果、競技者の三原則、競技者の食事の目的を学び、理想の食事バランスを学びます。 | | | | 1章を予習し、理想の食事バランスについて復習し日々の食事選択に活用し、記録します。(4時間) | | | | |
| 3 | 運動とエネルギー | エネルギー産生、エネルギーの内訳について学び、エネルギー消費量の測定方法を学びます。 | | | | 2章を予習し、エネルギー消費量の測定方法、エネルギーの算出方法を復習します。(4時間) | | | | |
| 4 | エネルギー必要量 | エネルギー収支と体重変化、推定エネルギー必要量の簡易な算出方法を学びます。 | | | | 2章を予習し、推定エネルギー必要量の算出方法を復習、応用できるようにします。(4時間) | | | | |
| 5 | 運動のためのエネルギー源 | エネルギー産生に重要な糖質と脂質について代謝と補給方法について学びます。 | | | | 3章を予習し、講義内容を復習し、糖質の摂取量を算出できるようにします。(4時間) | | | | |
| 6 | 体づくりの栄養と食事 | たんぱく質の代謝と必要量、摂取方法について学びます。 | | | | 5章を予習し、アミノ酸の種類、たんぱく質の質、量を測定する方法を復習します。(4時間) | | | | |
| 7 | スポーツとビタミン | ビタミンの種類、働き、スポーツで気をつけるビタミンについて学びます。 | | | | 6章を予習し、エネルギー代謝とビタミン、抗酸化作用とビタミンを復習します。(4時間) | | | | |
| 8 | スポーツとミネラル | ミネラルの種類と働き、スポーツで気をつけるミネラルについて学びます。 | | | | 7章を予習し、骨とミネラル、貧血とミネラルについて復習します。(4時間) | | | | |
| 9 | 運動中の栄養補給 | スポーツ活動中の水分補給の方法、内容について学びます。 | | | | 4章を予習し、熱中症予防と対策について復習します。(4時間) | | | | |
| 10 | 体重管理、体重階級制のあるスポーツの栄養 | 体重管理が必要な競技の理解、望ましい体重管理、体重、身体組成の測定方法について学びます。 | | | | 8章を予習し、身体組成の測定方法について復習します。(4時間) | | | | |
| 11 | 競技特性と栄養、食事 | 瞬発系・パワー系スポーツ、持久系スポーツの栄養と食事の特徴、現状と課題について学びます。 | | | | 9章、10章を予習し、競技特性と種目を整理し講義内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 12 | 競技特性と栄養、食事 | 球技、チームスポーツ、冬季スポーツの栄養と食事の特徴、現状と課題について学びます。 | | | | 11章、12章を復習し、競技特性と種目を整理し講義内容を復習します。(4時間) | | | | |
| 13 | ジュニアアスリート、女性アスリートの栄養、食事 | 発育、発達に関係するジュニアアスリート、特有の健康課題をもつ女性アスリートの栄養、食事管理について学びます。 | | | | 13章を予習し、発育、発達と女子アスリートの3主徴を復習します。(4時間) | | | | |
| 14 | スポーツ選手の栄養サポート | 栄養サポートの現状と課題、栄養管理の具体的な方法、教育の実際について学びます。 | | | | 14章、15章を予習し、講義の内容を復習して、日々の食事の改善に取り組みます。(4時間) | | | | |
| 15 | サプリメント | サプリメントの利用とドーピング問題、サプリメントを選ぶ場合の考え方について学びます。 | | | | 16章を予習し、サプリメントの種類、情報収集の方法、ドーピングについて復習します。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「市民からアスリートまでのスポーツ栄養学」岡村浩嗣、藤井久雄、河合美香、宮崎志帆、小清水孝子、横田由香里、柳沢香絵著岡村浩嗣編(八千代出版) ISBN:978-4-8429-1539-5(生協で購入してください。) | | | | 定期試験:90%、受講態度:10% 受講態度は、受講票での積極的な質問と授業中の発言を点数化して評価し、定期試験と総合的に評価します。60点以上でC評価、70点以上でB評価、80点以上でA評価とし、概ね95点以上でS評価とします。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「ジムに通う人の栄養学」岡村浩嗣著(講談社) | | | | 競技に取り組む学生、指導者を指す学生など、それぞれの視点で目的意識を持ち講義内容の予習、復習、そして現場での実践に取り組んでください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|-----------------------------|--|------|------|----------------|--|---------|-----|------|
| 科目名 | 分子生物学 | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL26014 | 研究室 | S-01 |
| 担当者 | 山田 一哉 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日1限 | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| 生命現象を分子のレベルで理解しようとするのが、分子生物学です。近年の組み換えDNA技術の進歩により、分子生物学は非常に速いスピードで発展しています。また、医療や食品にも応用されるなど、数多くの関連分野への広がりを示しており、皆さんの今後の日常生活にも様々な場面で深く関与すると思われます。本講義では、特に遺伝子発現の基本的制御とホルモンや神経伝達物質などのシグナルによる発現調節メカニズムの面から詳しく紹介します。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| 本講義では、分子生物学が明らかにした基本的概念・専門用語の定義・方法論を他人に説明できるようになるまで理解することを目的とします。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 基本的にはプリントと教科書を用いて座学形式で授業を進めます。課題として、演習問題を9回分課します。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ゲノムの構造 | ゲノムとは何か?その構造は?について学びます。 | | | | 教科書のp250-p252を読んでおくこと。講義後、演習問題1を提出すること。(4時間) | | | |
| 2 | DNA の複製と修復 | 遺伝子の本体である DNA の精緻な複製のメカニズムについて学びます。 | | | | 教科書の第17章の該当部分を読んでおくこと。講義後、演習問題2を提出すること。(4時間) | | | |
| 3 | 遺伝子の転写と RNA プロセシング | 遺伝子発現の最初の段階である DNA から RNA への遺伝情報の転写と mRNA への成熟過程のメカニズムを学びます。 | | | | 教科書のp254-p257を読んでおくこと。講義後、演習問題3を提出すること。(4時間) | | | |
| 4 | 転写促進機構 | 原核生物での遺伝子の転写制御機構をオペロン説をモデルとして学びます。 | | | | 教科書の第17章(p261-p262)を読んでおいてください。(4時間) | | | |
| 5 | 転写促進機構 | 真核生物での遺伝子の転写促進機構について時期・組織特異的発現メカニズムの観点から学びます。 | | | | 教科書の第17章の該当部分を読んでおくこと。(4時間) | | | |
| 6 | 転写抑制機構 | 真核生物での遺伝子の転写抑制機構について、DNA メチル化やヒストン脱アセチル化の面から学びます。 | | | | 教科書の第17章の該当部分を読んでおくこと。講義後、演習問題4を提出すること。(4時間) | | | |
| 7 | 翻訳 | mRNA に写し取られた遺伝情報から、生命の表現型であるタンパク質がどのようにして作られるかについて学びます。 | | | | 教科書のp257-p260を読んでおくこと。講義後、演習問題5を提出すること。(4時間) | | | |
| 8 | 細胞内情報伝達総論 | 細胞同士の間で行われる環境情報分子による伝達メカニズムの全体像について学びます。 | | | | 教科書のp222-p224を読んでおくこと。講義後、演習問題6を提出すること。(4時間) | | | |
| 9 | 受容体からのシグナル伝達経路 | G蛋白質共役型受容体からの 3 量体 G タンパク質を介した情報伝達について学びます。 | | | | 教科書の第16章(p226-p227)を読んでおくこと。(4時間) | | | |
| 10 | 受容体からのシグナル伝達経路 | チロシンキナーゼ関連受容体のもつチロシンキナーゼ活性を介した情報伝達経路について学びます。 | | | | 教科書のp228-p229を読んでおくこと。講義後、演習問題7を提出すること。(4時間) | | | |
| 11 | ホルモンの作用機序 | ホルモン作用の階層的フィードバック調節と細胞外シグナル分子による遺伝子の転写調節について学びます。 | | | | 教科書の第16章(p230)を読んでおくこと。(4時間) | | | |
| 12 | ステロイドホルモンとその受容体 | ステロイドホルモンによる遺伝子の転写調節機構について学びます。 | | | | 教科書のp261-p262を読んでおくこと。講義後、演習問題8を提出すること。(4時間) | | | |
| 13 | 栄養素による遺伝子発現の制御 | グルコースやコレステロールによる遺伝子の転写調節機構について学びます。 | | | | 教科書の第17章の該当部分を読んでおくこと。(4時間) | | | |
| 14 | 栄養素による遺伝子発現の制御 | 脂溶性ビタミンによる遺伝子の転写調節機構やミネラルによる転写後調節機構について学びます。 | | | | 教科書第17章の該当部分を読んでおくこと。講義後、演習問題9を提出すること。(4時間) | | | |
| 15 | 遺伝子多型、先天性代謝異常症、ゲノムインプリンティング | 遺伝子変異と体質や疾患との関わりやエピジェネティックな変化が遺伝子発現にもたらす影響について学びます。 | | | | 教科書のp270-p273を読んでおくこと。(4時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「管理栄養士養成課程 化学・生化学」大村正史・本三保子・山田一哉編(理工図書) ISBN:9784844607861(生協で購入してください。) | | 定期試験:95% 課題:5% 定期試験:95% 課題:5% 試験60-69点でC。試験70-79点でB。試験80-95点でA。演習課題をすべて期限内に提出したうえで試験90点以上でS。 | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一編(南江堂) ISBN:9784524261994 | | 分子生物学は、スポーツ科学においても今後より重要性が高くなる分野です。かなり専門的な授業になります。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|------|--|----------------|----|--|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 体力測定と評価 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパ [®] リング | SA26015 | 研究室 | S-21 | |
| 担当者 | 根本 賢一 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日5限 | | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士、ト指、日体協 [®] 指、日体協 [®] マシ | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| <p>適当な運動プログラムを提供するためにも、複数の体力要素についての測定を行い、得られた測定値を評価基準と比較して適切に評価する必要があります。形態および機能に関する種々の項目を理解するとともに得られた結果を適正に評価する手法を学びます。特に、心肺持久力の指標である最大酸素摂取量や無酸素性作業閾値や、筋力についての様々な測定法や意義を理解し得られたデータの解析法まで理解していきます。</p> | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| <p>形態および各機能に関する種々の測定方法とその意義を理解し、適正に測定・評価できる力を修得することを目標とします。</p> | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| <p>第1回から9回までは、講義室にてこちらで用意したプリントとスライドを利用しながら授業を進めていきます。10回から14回までは実際にフィールド及びトレーニングルーム内にある測定機器・装置などを用いながらの演習形式で授業を行います。</p> | | | | | | | | | | | |
| <p>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p> | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明します。 | | | | | 各自がこれまでに経験した体力測定項目を挙げ、その実施法についてまとめておくこと(4時間)。 | | | | |
| 2 | 体力測定の活用法 | 体力測定の目的及び活用法、評価方法(平均値、標準偏差、伸び率、標準得点)について解説します。 | | | | | 標準得点を使用した評価方法についてよく復習しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 3 | 身体組織の測定法と評価 | 体脂肪測定法、推定誤差が生じる原因、体脂肪率を推定する種々の計算、皮下脂肪分布と男女差、身体活動量と皮下脂肪分布について解説します。 | | | | | 配布資料をよく読み、特に体脂肪測定量の原理と測定方法について理解を深めておくこと(4時間)。 | | | | |
| 4 | 体力と運動能力・体力構成要素の測定法 | 適正な体力測定の条件、体力と運動能力の関係、年齢に伴う体力水準の変化および性差、体力を構成する項目の測定方法と評価法について解説します。 | | | | | 配布資料を読み、適正な測定条件と項目別に測定方法と評価法について理解を深めておくこと(4時間)。 | | | | |
| 5 | 新体力テストの測定とその評価 | 新体力テストの測定項目及び評価法、健康と関連する体力要素について解説します。 | | | | | 本日配布した資料をよく読み、新体力テストの実施法を復習しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 6 | 持久性体力の測定および評価法 | 最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値について解説します。 | | | | | 専門用語を事前に調べ、直接法による測定方法とその判定法について復習しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 7 | 筋力測定とその評価 | 筋力測定の意義、筋力測定実施の留意点、筋力測定方法とその評価法について解説します。 | | | | | 専門用語を事前に調べ、筋力測定法とその評価法について復習しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 8 | 介護予防に関する体力測定とその評価 | 介護予防の考え方、介護予防事業とその対象者、介護保険制度(又は以外)の介護予防事業について解説します。 | | | | | 専門用語を事前に調べる。配布資料を読み、介護保険制度について理解を深めておくこと(4時間)。 | | | | |
| 9 | 介護予防に関する体力測定とその評価 | 介護予防における体力測定の意義と測定項目、高齢者の身体活動能力について解説します。 | | | | | 高齢者の体力測定での留意点と実施法について調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 10 | 中年者のフィールドテスト(新体力テストの実施法) | 新体力テストの測定項目を実際に測定します。 | | | | | 第5回目の講義内容をよく復習しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 11 | 中年者のフィールドテスト(測定値に対する評価法) | 第10回目の講義で測定したデータを基に、評価表を作成します。 | | | | | 前回の各自及びグループのデータを事前に整理しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 12 | 高齢者の体力測定(持久力) | 高齢者の持久力測定の意義、持久力測定実施上の留意点、持久力測定方法と評価法について解説します。 | | | | | 前回の講義後に配布した資料をよく読み、専門用語を事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 13 | 高齢者の体力測定(筋力) | 高齢者の筋力測定の意義、筋力測定実施上の留意点、筋力測定方法と評価法について解説します。 | | | | | 前回の講義後に配布した資料をよく読み、専門用語を事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 14 | 体力評価の実施・データ加工・フィードバックについて | 第12、13回の講義で測定したデータを基に評価表を作成します(V02maxの推定含む)。 | | | | | 第12、13回で測定した各自及びグループのデータを事前に整理しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 15 | 講義全体のまとめ | 第1回～14回までの講義のまとめを行います。 | | | | | これまでの講義で配布した資料及び内容をよく復習しておくこと(4時間)。 | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 各回こちらでポイントを記したプリントを用意します。 | | | | <p>定期試験：70% レポート：10% 課題：20%</p> <p>S:授業内容をきわめて高度に理解するとともに、探求姿勢をもって課題演習等に取り組み高度な活動成果を示している。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題演習に取り組み良好な活動を示している。B:授業内容のおおそを理解するとともに、与えられた課題演習等に誠実に取り組み、授業のねらいで求める活動成果の2/3程度の達成が認められる。C:授業内容の一部を理解するとともに、授業のねらいで求める活動成果の1/2程度の達成が認められる。</p> | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| <p>「健康運動実践指導者用テキスト」(財団法人健康・体力づくり事業財団) 「健康づくりのための体力測定評価法」(金芳堂)</p> | | | | <p>健康運動実践指導者の資格取得を目指す以上、常にその自覚を持って授業に臨んでください。トレーニングルームでの実習時には運動着、室内シューズを必ず持参してください。</p> | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--|------|------|---|----|--|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツカウンセリング | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパ [®] リング | SA26016 | 研究室 | S-20 |
| 担当者 | 齊藤 茂 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスア [®] | 水曜日2限 | | |
| 関連資格 | 日体協 [®] 指 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義では、スポーツ選手が抱えるであろうスランプや競技不安等の心理的な課題とどのように向き合っていくか、自分のこととして考えていきます。また、指導者のメンタルマネジメントを目的として、指導者が心理的な課題を抱えた選手とどのように関わっていくか考える際に応用できるであろう、カウンセリングの基本的な理論や姿勢について学んでいきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 受講者各自が、それぞれのテーマを自分のこととして考え、自らの日常生活や競技場面に応用できるようになること、また、指導者になった際に応用できるようなカウンセリングの基本的な知識や姿勢を獲得すること、が到達目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義中心に、スポーツ選手のインタビューや競技場面を題材としたビデオ、DVD等の視聴覚教材等を活用しながら、作業や討議によって授業を進めます。また、カウンセリングの事例を提示し、それについて検討を行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンス | 競技スポーツと「こころ」の関わりについて、トップアスリート等の視聴覚教材や受講生の実体験を通して考えます。 | | | | | シラバスを熟読する。心とはどのようなものか、事前に各自が図示して持参する。(4時間) | | | |
| 2 | ガイダンス | 前回に続き、競技スポーツと「こころ」の関わりについて、トップアスリート等の視聴覚教材や受講生の実体験を通して考えます。 | | | | | 自身の経験に基づき、レポートを作成する。(4時間) | | | |
| 3 | 指導者のメンタルマネジメント : カウンセリングの基本 | 河合隼雄の「心理療法のモデル」を中心に、カウンセリングの基本的な考え方について理解を深めていきます。 | | | | | 自己分析レポートを作成する。(4時間) | | | |
| 4 | 指導者のメンタルマネジメント : カウンセリングの基本 | 前回に続き、カウンセリングの基本的な考え方について理解を深めていきます。 | | | | | 心理テストの結果について自己分析を行う。(4時間) | | | |
| 5 | 指導者のメンタルマネジメント : カウンセリングにおける現実 | カウンセリングにおける「現実」の捉え方について理解を深めていきます。 | | | | | コースバケットを熟読してから授業にのぞみ、復習を行う。(4時間) | | | |
| 6 | 指導者のメンタルマネジメント : カウンセリングの科学性 | 「科学的」及び「因果律」的な思考について考察したうえで、カウンセリングにおける「科学性」について理解を深めていきます。 | | | | | コースバケットを熟読してから授業にのぞみ、復習を行う。(4時間) | | | |
| 7 | 指導者のメンタルマネジメント : カウンセリング技法 | カウンセリングにおいて用いられる「技法」について理解を深めていきます。 | | | | | コースバケットを熟読してから授業にのぞみ、復習を行う。(4時間) | | | |
| 8 | 事例検討 | 事例検討を通して、カウンセリングについての理解を深めていきます。 | | | | | 事例検討についての感想を作成する。(4時間) | | | |
| 9 | 事例検討 | 引き続き、事例検討を通して、カウンセリングについての理解を深めていきます。 | | | | | 事例検討についての感想を作成する。(4時間) | | | |
| 10 | メンタルマネジメントの方法 : メンタルトレーニングとスポーツカウンセリング | メンタルトレーニングにおける基本的な考え方について学びます。また、メンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの違いについて考えます。 | | | | | コースバケットを熟読してから授業にのぞみ、復習を行う。(4時間) | | | |
| 11 | メンタルマネジメントの方法 : 自己への気づき | 自分を知り、自分をつくることについて理解を深めます。 | | | | | コースバケットを熟読して(4時間)から授業にのぞみ、復習を行う。 | | | |
| 12 | メンタルマネジメントの方法 : 不安への向き合い方 | 「不安」や「緊張」等について理論的に理解し、その向き合い方について学びます。 | | | | | コースバケットを熟読してから授業にのぞみ、復習を行う。(4時間) | | | |
| 13 | スポーツ指導者に必要な医学的知識 | スポーツによる精神障害について、テキスト(コースバケット)をもとに理論的に学びます。 | | | | | コースバケットを熟読してから授業にのぞみ、復習を行う。(4時間) | | | |
| 14 | スポーツ指導者に必要な医学的知識 | 引き続き、スポーツによる精神障害、及びその対策についてテキスト(コースバケット)をもとに理論的に学びます。また、適宜視聴覚教材を用いながら、具体例を提示します。 | | | | | コースバケットを熟読してから授業にのぞみ、復習を行う。(4時間) | | | |
| 15 | 講義のまとめ | カウンセリングの基本的な考え方がスポーツ指導等の現場において、どのように応用できるかについて受講生同士で議論し、本講義のまとめをします。 | | | | | 課題作成を行う。(4時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| コースバケット(参考文献等の資料を集めた冊子)を授業の中で配布します。 | | | | | 定期試験:50% 出席レポート:30% 受講態度:20% S:授業内容を様々な事象に対して応用ができるレベルに理解し、与えられた課題にも積極的かつ探究的に取り組んでいる。A:授業内容を理解し、与えられた課題にも積極的に取り組んでいる。B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題すべてに誠実に取り組んでいる。C:授業内容について最低限理解し、与えられた課題にもおおよそ取り組んでいる。 なお、受講態度は課題等に取組む姿勢により評価します。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「心理療法序説」河合隼雄著(岩波書店) 「心理療法の第一歩:こころの臨床ファンダメンタル」中島登代子編著(創元社) | | | | | 将来、指導者や教員を真剣に目指していることを履修条件とします。よって、授業の中で行なう共同作業や話題提供等々は積極的に参加してください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-----------------|--------------------------|------|--|----------------|-----------------------------|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | バイオメカニクス | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SA26017 | 研究室 | N-05 |
| 担当者 | 丸山 文男 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスター | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 「運動と物理学」を履修していること | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 「運動と物理学」で学んだ内容を、具体的な体の動きに適用して、動きのメカニズムを理解できるようにします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 競技時の体の動きを、物理的な視点から理解し説明ができるようになることです。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 体の動きがどのような原理によるかを物理学の視点から理解します。どのような力がはたらいているか、それがどのようなメカニズムで生じているかを考えていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | バイオメカニクスとは | 授業の計画と内容の説明 | | | | 教科書序章を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 2 | バイオメカニクスの基礎(1) | エンジンとしての筋とエネルギーの供給を学びます。 | | | | 教科書1章1,2を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 3 | バイオメカニクスの基礎(2) | 運動の指令と調節機構、体の構造と運動を学びます。 | | | | 教科書第1章3,4を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 4 | バイオメカニクスの基礎(3) | 運動と力学の法則 | | | | 教科書第1章5を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 5 | バイオメカニクスの実際(1) | 立つ動作を分析します。 | | | | 教科書第2章1を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 6 | バイオメカニクスの実際(2) | 重心の求め方を学びます。 | | | | 教科書第2章1を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 7 | バイオメカニクスの実際(3) | 歩く動作を分析します。 | | | | 教科書第2章2を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 8 | バイオメカニクスの実際(4) | 走る動作を分析します。 | | | | 教科書を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 9 | バイオメカニクスの実際(5) | 高く跳ぶ動作を分析します。 | | | | 教科書を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 10 | バイオメカニクスの実際(6) | 遠くへ跳ぶ動作を分析します。 | | | | 教科書を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 11 | バイオメカニクスの実際(7) | 投げる動作を分析します。 | | | | 教科書を復習し課題を行います。(4時間) | | | | |
| 12 | バイオメカニクスの実際(8) | 打つ動作を分析します。 | | | | 教科書を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 13 | バイオメカニクスの実際(9) | 泳ぐ動作を分析します。 | | | | 教科書を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 14 | バイオメカニクスの実際(10) | 滑る動作を分析します。 | | | | 教科書を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 15 | バイオメカニクスの実際(11) | 回転運動を分析します。 | | | | 教科書を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「スポーツ バイオメカニクス入門」金子公宥著(杏林書院) ISBN:9784764410794(生協で購入してください。) | | | | 定期試験:90% 課題:10% 課題を課すことがあります。 S:授業内容を深く理解し、複雑な応用問題を解くことができる。 A:授業内容をよく理解し、応用問題を解くことができる。 B:授業内容を理解し、簡単な問題を解くことができる。 C:授業内容をほぼ理解し、例題を解くことができる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 適宜紹介します。 | | | | 動作を科学的にとらえ、自分の言葉で説明してみましょう。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------|--|----------------|--------|------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツコーチング論 | | 学年学期 | 3・4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SC36018 | 研究室 | S-20 |
| 担当者 | 齊藤 茂 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 水曜日2限 | | |
| 関連資格 | ト指、日体協ト指、日体協アツメ、中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>体育の授業やスポーツの指導場面における諸問題について、心理学的な視点から概観し、選手が力を発揮し成果をあげるためには指導者は何をすべきか考えます。また、優れた指導者のコーチングの例や、実際のコーチング場面で問題となりうるテーマを題材として取り上げながら講義を進めていきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>心理学的な理論と実際のコーチング場面を結び付けて考察することにより、各自が実際の指導場面に応用できる考え方や技法を習得することが本講義の到達目標です。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>講義を中心に、授業内容に適した指導者のインタビューや競技場면을題材としたビデオ、DVD等の視聴覚教材等を活用しながら、作業や討論等によって授業を進めます。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p> | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | スポーツ指導者とはどうあるべきか、そのあり方について具体的な事例を通して考えます。 | | | | 講義で扱う実際に起こりうる事態に対する対処について考える。(2時間) | | | | |
| 2 | 指導者にとって大切なこと | 指導者の心構え、視点、及び役割に関して、具体的な一流指導者の指導哲学を通して、トップアスリートを育てるために指導者が持つべき視点について学びます。 | | | | 一流指導者の指導哲学に関する著作を1冊読む(レポート課題提出)(6時間)。 | | | | |
| 3 | 指導者にとって大切なこと | トップアスリートを育成・強化するための方法とその評価について学ぶ。また、世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成における指導者の役割について、具体的な事例を参考にしながら学びます。 | | | | トップアスリートと指導者の関係性について、具体的な事例をもとに考えてみる。(4時間) | | | | |
| 4 | 指導者にとって大切なこと | 指導哲学ワークショップを通して、指導者の心構え・視点、役割について考えます。 | | | | 指導者にとって大切なことについて、自分なりの考えをまとめてくる。(4時間) | | | | |
| 5 | 指導者にとって大切なこと | スポーツ指導者の倫理、及び体罰問題について、実際の事例を取り上げ考えます。また、指導者の「褒める」と「叱る(怒る)」という行為について、受講者がどう考えているか、ディベートを行います。 | | | | スポーツ指導者の倫理、特に体罰問題について、自分なりの考えをまとめてくる。(4時間) | | | | |
| 6 | 指導者にとって大切なこと | プレーヤーとの関係づくり、及びチームマネジメントについて、テキスト(コースパケット)をもとに学びます。 | | | | 「選手の心をつかむために」を読む(レポート課題提出)。(6時間) | | | | |
| 7 | 指導者にとって大切なこと | 競技力を向上させるためのチームマネジメントについて、テキスト(コースパケット)をもとに学びます。 | | | | 配布されたコースパケットの該当部分について熟読する。(4時間) | | | | |
| 8 | 指導者にとって大切なこと | 競技力を向上させるためのチームマネジメントについて、チームビルディングの実習を通して学びます。 | | | | チームビルディングの実習における体験について、レポートにまとめる。(4時間) | | | | |
| 9 | 指導者にとって大切なこと | ミーティングの方法の理論について、テキスト(コースパケット)をもとに学びます。 | | | | 効果的なミーティングの方法について考えてくる。(2時間) | | | | |
| 10 | 指導者にとって大切なこと | 効果的なミーティングの方法について、グループに分かれてディベートを行います。 | | | | より効果的なミーティングの方法についてまとめる(レポート作成)。(4時間) | | | | |
| 11 | トップアスリートの育成・強化の方法とその評価 | 運動技能を指導する際に知っておきたいスポーツ科学の理論(言語による指導)について、テキスト(コースパケット)をもとに理論的に学びます。 | | | | 配布されたコースパケットの該当部分について熟読する。(4時間) | | | | |
| 12 | トップアスリートの育成・強化の方法とその評価 | フィードバックの種類と効果的な利用法、及び視覚的な指導・筋運動感覚的な指導及び動きのイメージを引き出す言葉(言語による指導)についてテキスト(コースパケット)をもとに理論的に学びます。 | | | | 配布されたコースパケットの該当部分について熟読する。(4時間) | | | | |
| 13 | 運動学習から導かれる効果的な指導 | 運動上達の仕組み、及び運動学習の概念について、テキスト(コースパケット)をもとに理論的に学びます。 | | | | 配布されたコースパケットの該当部分について熟読する。(4時間) | | | | |
| 14 | 運動学習から導かれる効果的な指導 | 練習の組織化と計画について、テキスト(コースパケット)をもとに理論的に学びます。 | | | | 配布されたコースパケットの該当部分について熟読する。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 「コーチングの心理」について、テキスト(コースパケット)をもとにこれまでの講義全般についてのまとめ及び試験対策を行い、理解を深めます。 | | | | コースパケットを見直し、理解できていない点があれば明らかにしておく(4時間)。 | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| コースパケット(参考文献等の資料を集めた冊子)を授業の中で配布します。 | | <p>定期試験：60% 課題：20% 受講態度：20%</p> <p>S：授業や課題に対して積極的かつ探究的に取組み、授業内容を様々な事象に対して応用ができるレベルにまで理解している。A：授業や課題に対して積極的に取組み、授業内容を理解している。B：授業や課題に対して積極的に取組み、授業内容をおおよそ理解している。C：授業内容について最低限理解している。</p> | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「新版：運動指導の心理学・運動学習とモチベーションからの接近」杉原隆著(大修館書店) | | ・授業の中で行なう共同作業や話題の提供等への積極的な参加を望みます。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|--|------|---|----------------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 分子栄養学 | | 学年学期 | 3・4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL36019 | 研究室 | S-08 |
| 担当者 | 沖嶋 直子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 水曜日3限 | | |
| 関連資格 | 中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 近年研究の進展が著しい分子生物学で用いられている技術が栄養や食品の分野でどのように利用されているかについて学ぶ事、そこから自分なりの考えを持ち、それを卒業後、社会に出てから公私にわたって活かしてゆける事を目的としています。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 栄養や医療に関わる諸問題を解決できるようになるため、科学的に正しい情報を収集し、その情報をもとに自分なりの判断や選択ができるようになる事、さらに、一般の人々に対して科学的に正しい情報を伝達できるようになる事が到達目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 前半数回で分子生物学の復習を行い、後半ではその技術が栄養学や医療の分野でどのように利用されているかを座学ならびに実験を通して学びます。それを踏まえてグループワークを行い、自分の考えをまとめると共に他の受講生の考えにも触れてもらいます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 分子生物学の基礎 | DNAとRNA、タンパク質について学びます。 | | | | 分子生物学で学んだ内容を復習しておいて下さい。(4時間) | | | | |
| 2 | 分子生物学の基礎 | 分子生物学的研究手法について~PCRとその応用について学びます。 | | | | 分子生物学で学んだ内容を復習しておいて下さい。(4時間) | | | | |
| 3 | 分子生物学の基礎 | 分子生物学的研究手法について~DNAアレイ、siRNAなどについて学びます。 | | | | 分子生物学で学んだ内容を復習しておいて下さい。(4時間) | | | | |
| 4 | 分子生物学の基礎 | ヒトゲノム計画について学びます。 | | | | 分子生物学で学んだ内容を復習しておいて下さい。(4時間) | | | | |
| 5 | 分子生物学の基礎 | 遺伝子多型と疾患、栄養について学びます。 | | | | 基礎栄養学(遺伝子と栄養)を復習しておいて下さい。(4時間) | | | | |
| 6 | 分子生物学の栄養学への応用 遺伝子組換え農作物 | 遺伝子組換え農作物とそれを利用した食品(原理)について学びます。 | | | | 食品衛生学(遺伝子組換え食品)を復習しておいて下さい。(4時間) | | | | |
| 7 | 分子生物学の栄養学への応用 遺伝子組換え農作物 | 遺伝子組換え農作物とそれを利用した食品(応用)について学びます。 | | | | 第6回の講義の復習(4時間) | | | | |
| 8 | グループワーク | 遺伝子組換え農作物とそれを利用した食品について、まとめと討論を行います。 | | | | 第6、7回の講義の復習をしておいて下さい。(4時間) | | | | |
| 9 | グループワーク | 遺伝子組換え農作物とそれを利用した食品について、討論と発表を行います。 | | | | 第8回で討論不足のグループは討論を時間外で行っておく事。発表準備もしておく事。(4時間) | | | | |
| 10 | 分子生物学の栄養学への応用 栄養と遺伝子 | 生活習慣病と遺伝子と栄養(肥満と遺伝子多型)について学びます。 | | | | 第5回および基礎栄養学(遺伝子と栄養)を復習しておいて下さい。(4時間) | | | | |
| 11 | 分子生物学の栄養学への応用 栄養と遺伝子 | 生活習慣病と遺伝子と栄養(栄養素の利用と遺伝子多型)について学びます。 | | | | 第5回および10回の復習をしておいて下さい。(4時間) | | | | |
| 12 | 分子生物学の栄養学への応用 栄養と遺伝子 | 生活習慣病と遺伝子と栄養 ALDH一塩基多型実験を行います。 | | | | 第5回、10回、11回の復習をしておいて下さい。(4時間) | | | | |
| 13 | グループワーク | 生活習慣病と遺伝子と栄養について、まとめと討論を行います。 | | | | 第5回、10~12回の復習をしておいて下さい。(4時間) | | | | |
| 14 | グループワーク | 生活習慣病と遺伝子と栄養について、討論と発表を行います。 | | | | 第13回で討論不足のグループは討論を時間外で行う事。発表準備もしておく事。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | これまでの講義のまとめと総括を行います。 | | | | 第1~14回の復習をしてきて下さい。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「栄養科学シリーズNEXT 分子栄養学」沖嶋直子、山田一哉他著宮本賢一他編(講談社)(別途、指示します。)平成30年4月頃には出版予定ですが、遅れた場合は別途指示します。上記のテキストの他、パワーポイント資料やプリント等を用いて講義します。 | | | | 定期試験:80% 受講態度:20% 受講態度は、レポート提出やグループワークへの関わりへの積極性で判断します。グループワークで司会や発表者に自主的になるなど、特に積極的だった者をS、討論に積極的に参加した者をA、討論に加わっていた者をB、あまり討論に加わっていなかった者をC、全く討論に加わっていなかった者をDとします。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「バイオ食品 社会的受容にむけて」日本国際生命科学協会編(建邦社) ISBN:4-7679-6057-6 C3077 大谷明、栗飯原景昭監修 「遺伝子工学」近藤昭彦、柴崎誠司(編著)著(化学同人) ISBN:978-4- | | | | この講義は、分子生物学を履修済みかつ理解している事が前提です。そうでない学生は受講登録前に必ず相談して下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|------------------|--|----------------|------|----|---|---------|-----|------|
| 科目名 | 運動処方論 | 学年学期 | 3・4年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SA36020 | 研究室 | S-21 |
| 担当者 | 根本 賢一 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | 指導士、ト指 | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| 運動は健康維持のために重要であることは間違いありません。そこで、運動の効用を最大限に引き出し、危険性を最大限に抑えることが重要で、運動の種類、強度、時間、頻度など各個人に合った運動条件を決めることが必要となります。即ち、各個人に適した運動処方を決めることが重要で、その基本的条件は「安全であること」、「効果が大きいこと」、「楽しいこと」です。最終的に、様々な生活習慣病に対する運動プログラムの立案が出来ることを目的とします。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| 運動処方の目的は各個人の運動能力の維持と増進ですが、この目的達成のために、まず安全であることが最優先されるべきです。このことを理解しつつ、運動生理学やトレーニング科学等の基礎的な知識を応用しながら、運動処方を作成できることを目標とします。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 内容は実生活と関連づけて理解できるように、具体的な事例を多く取り入れた講義内容とします。講義はこちらが用意したプリント及びスライドを使用しながら授業を行います。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス、運動処方とは | 授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方についての説明します。さらに、運動処方が運動指導者としてもいかに重要なものかについて解説します。 | | | | 運動処方を作成する上で必要となる情報は何かあるかを調べておくこと(4時間)。 | | | |
| 2 | 運動プログラム作成の理論 | ケーススタディとリスク層別化について解説します。 | | | | ケース別に低リスク者、中等度リスク者、高リスク者を判断できるように復習しておくこと(4時間)。 | | | |
| 3 | 運動プログラム作成の理論 | 運動処方の基本原則、トレーニングの原則について解説します。 | | | | トレーニング科学の理論と実際及び体力測定と評価で行った内容を総復習しておくこと(4時間)。 | | | |
| 4 | 心拍数による運動処方 | %HRmax、%HRRによる方法について解説します。 | | | | %HRmaxと%HRRによる方法によって計算された値の違いについて理解を深めておくこと(4時間)。 | | | |
| 5 | 代謝方程式を利用した運動処方 | 代謝に関する方程式の機能(歩行、走行、自転車、踏み台昇降)について解説します。 | | | | 酸素摂取量、Metsについて復習する。また、本時間で行った計算を復習しておくこと(4時間)。 | | | |
| 6 | 代謝方程式を利用した運動処方 | 単位の換算、酸素摂取量・仕事量の算出(歩行、走行)について解説します。 | | | | 公式を利用して歩行、走行時の酸素摂取量や仕事量を算出できるように復習しておくこと(4時間)。 | | | |
| 7 | 代謝方程式を利用した運動処方 | 酸素摂取量・仕事量の算出(自転車エルゴメーター、踏み台昇降ほか)について解説します。 | | | | 自転車エルゴメーターなどの酸素摂取量や仕事量を算出できるように復習しておくこと(4時間)。 | | | |
| 8 | 減量に対する運動処方 | エネルギーバランス、体重管理、体脂肪を減らすための運動処方について解説します。 | | | | 講義時に配布したプリントをよく読み理解しておくこと(4時間)。 | | | |
| 9 | 持久性体力向上のための運動処方 | 最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値をベースとした目標運動強度の設定について解説します。 | | | | 最大酸素摂取量の測定法及び、無酸素性作業閾値の算出方法について復習しておくこと(4時間)。 | | | |
| 10 | 生活習慣病に対する適切な運動療法 | 糖尿病、高血圧に対する運動処方について解説します。 | | | | 運動が禁忌となるケースについて事前に調べておくこと(4時間)。 | | | |
| 11 | 生活習慣病に対する適切な運動療法 | 腰痛、膝痛に対する運動処方について解説します。 | | | | 運動が禁忌となるケースについて事前に調べておくこと(4時間)。 | | | |
| 12 | 運動プログラム作成上の注意 | リスク保有者、服薬者などに対する運動処方の作成について解説します。 | | | | 前回の講義終了後に配布したプリントの専門用語について調べておくこと(4時間)。 | | | |
| 13 | 運動処方の実際 | アスリートを中心とするスポーツ施設(フィールド)での、運動処方の実際を紹介しします。 | | | | トレーニングメニューを作成する際に実施する測定項目について調べておくこと(4時間)。 | | | |
| 14 | 運動処方の実際 | 医療機関に併設されている健康増進施設での、運動処方の実際を紹介しします。 | | | | 医療機関で運動指導がされている事例について調べておくこと(4時間)。 | | | |
| 15 | まとめ | 1回～14回の講義のまとめを行います。 | | | | これまでの講義で配布したプリント及び内容をよく復習しておくこと(4時間)。 | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 講義内容に応じて資料をその都度配布します。 | | 課題：10% 定期試験：90% S:例題から難しい応用問題が解ける、高い意欲を持っている。A:やや難しい応用問題が解ける。B:応用問題が解ける。C:授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「運動生理学、エネルギー、栄養、ヒューマンパフォーマンス」(杏林書院) 田口貞義善ら監訳 「運動処方の実際」池上晴夫著(大修館書店) ISBN:4-469-16321-X-C3375 | | 運動処方について身近な問題として捉えるよう日頃心がけること。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------------------|---|------|---|----------------|----------------------|-------|---------|-----|-----|
| 科目名 | トレーナー実習 | | 学年学期 | 3・4年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SA36021 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 関 賢一 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実習 | オイスア- | | | |
| 関連資格 | 日体協 [※] 指 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義ではスポーツ選手のコンディショニングとリコンディショニングについて学びます。競技力向上・障害予防・リハビリ、3つの柱のコンディショニングについて、ストレッチ・マッサージ・テーピング・ファンクショナルトレーニングといった様々なコンディショニング、その概要や方法について実技を含めて学習し、現場での活動に役立つ技術の習得を目指します。また姿勢・柔軟性の評価についても学習を深め、コンディショニングとどのようにリンクするのも学習を深めていきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 人間の身体の仕組みを理解することが出来、更に身体の姿勢や柔軟性や関節・筋の機能を的確に評価することで身体の特徴を理解し、その課題を克服するための手段を習得できることを目標とする。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 主に実習形式です。最初に概要を学習し、さらに具体的な方法についてスポーツ現場を意識して学習します。基礎学力として筋肉の働きや走行についての知識が必要です。資料は授業で配布する予定です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | コンディショニング概論・リコンディショニング概論 | コンディショニング・リコンディショニング概要についての説明をします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 2 | 評価1 | 身体の評価方法について姿勢・関節弛緩性を中心に説明をします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 3 | 評価2 | 評価方法、ダイナミックアライメント、柔軟性などを中心に説明をします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 4 | 傷害予防のためのコンディショニング概論 | 傷害を予防するためコンディショニングを中心に説明します。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 5 | 柔軟性の理論と実践 | 柔軟性向上のためのストレッチングについて科学的根拠を用いた手法を紹介しします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 6 | コアの役割と機能そしてエクササイズ演習 | 体幹の機能を向上させるためのコアエクササイズの概要と方法を紹介しします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 7 | ウォーミングアップとクールダウン演習 | 具体的なそれぞれの手法について、身体を動かしながら体感し学習しします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 8 | 各種アジリティーエクササイズ演習 | 競技特性を考慮した様々な敏捷性改善の方法を紹介しします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 9 | フィールドテスト | 現場で使えるフィールドテストについての概要と実践しします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 10 | 腰痛のリコンディショニング | 腰痛に対する概要とそしてその対処方法であるコンディショニングを学習しします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 11 | 膝痛のリコンディショニング | 膝痛に対する概要とそしてその対処方法であるコンディショニングを学習しします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 12 | 肩痛のリコンディショニング | 肩痛に対する概要とそしてその対処方法であるコンディショニングを学習しします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 13 | リハビリ概論 | リハビリのための様々なコンディショニング概論を中心に紹介しします。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 14 | スポーツマッサージ | スポーツ競技をする上で役に立つマッサージ方法について基本的な方法を学びます。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| 15 | テーピング | 現場で直ぐに使えるテーピングについて学びます。 | | | | 配布資料を事後に復習すること。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 随時必要な資料を配付します。 | | | | 定期試験：90% レポート：10% S：授業内容を高度に理解するとともに、例題からは難しい応用問題が解ける。 A：授業内容を理解し、積極的な姿勢で課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「トレーナーズバイブル」(医道の日本社) ISBN: 978-4-7529-3081-5 \ 6,930 | | | | 実技が毎回行われますので運動しやすい服装で参加しましょう。指導者として何を大切にしなければならないのか、運動指導がしっかり伝わる方法も身につけていきます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|------|---|------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 健康づくりと運動 | | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL16022 | 研究室 | S-21 |
| 担当者 | 根本 賢一 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士、レ・コティ(通常)、日体協協*指、日体協アヌネ、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 健康の維持・増進を図ることや体力の向上を目的とした場合、やみくもに身体を動かすのではなく、各個人に適した運動計画(何の目的で、どのような運動で、どのくらいの時間)を立てて実践することで、運動の効果を効率良く獲得することが出来ることです。本講義では、有酸素性運動、無酸素性運動の様式上の違い及び無酸素性作業閾値についても理解を深めるとともに、各種運動の効果的で且つ安全な実施法とその効果についても解説をしていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 運動不足による生活習慣病が蔓延する現代社会に即応した、健康づくりのための運動トレーニングに関する基礎的な知識を習得することを目標とします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 基本的には教科書とスライドを用いながら授業を進めます。しかし、教科書のみではなく、必要に応じてプリントも配布して使用します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | なぜ健康が大切か | 高齢化する我が国の現状と健康づくり施策について、健康運動指導士の社会的役割について解説します。 | | | | | 健康づくり施策と健康運動指導士について事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 2 | 運動基準・運動指針 | 運動指針2006、身体活動基準2013とアクティブガイドについて解説します。 | | | | | 健康づくりのための身体活動についての理解を深めておくこと(4時間)。 | | | | |
| 3 | 生活習慣病と運動 | 生活習慣病と生活習慣の関連、生活習慣病予防のための運動について解説します。 | | | | | 健康な生活習慣と、生活習慣病発症予防についてまとめておくこと(4時間)。 | | | | |
| 4 | トレーニング概論 | トレーニングの原理・原則について解説します。 | | | | | 効果的にトレーニングを実施するためには何が必要か事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 5 | トレーニングの基礎理論 | トレーニング条件と反応・トレーニング強度について解説します。 | | | | | 前回講義で挙げた専門用語について事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 6 | 有酸素性運動と無酸素性運動 | 有酸素性運動・無酸素性運動の特徴、運動効果について解説します。 | | | | | 有酸素性運動・無酸素性運動の特徴を各自で調べて整理しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 7 | 有酸素性運動と無酸素性運動 | 最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値について解説します。 | | | | | 最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値が意味するもの、評価法と合わせて整理しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 8 | 身体活動強度とエネルギー | 身体活動強度の違いによるエネルギー供給の仕組みについて解説します。 | | | | | 前回講義で挙げた専門用語について事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 9 | ウォーキング・ジョギング | ウォーキング、ジョギングの運動特性について解説します。 | | | | | 配布した資料を参考に、ウォーキングとジョギングの特性をそれぞれ整理しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 10 | ウォーキング・ジョギング | ウォーキング、ジョギングの実施法とその運動効果について解説します。 | | | | | 配布資料を参考に、ウォーキングとジョギングの実施法と効果について整理しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 11 | ストレッチング | ストレッチングの種類とその目的、効果について解説します。 | | | | | ストレッチングの実施法(留意点含む)について事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 12 | レジスタンストレーニング | レジスタンス運動の分類、至適強度の設定法、トレーニングの実際について解説します。 | | | | | レジスタンストレーニングの実施法(留意点含む)について事前に調べておくこと(4時間)。 | | | | |
| 13 | ウォーミングアップとクーリングダウン | ウォーミングアップ、クーリングダウンの目的とその実施法について解説します。 | | | | | 講義時に配布したプリントを基に理解を深めておくこと(4時間)。 | | | | |
| 14 | 運動プログラムの作成 | 健康づくりと運動プログラムの作成の基礎及びポイントについて解説します。 | | | | | 心拍数の計測法、推定最高心拍数の算出法を確認し、%HRR法については復習しておくこと(4時間)。 | | | | |
| 15 | まとめ | 1回～14回までの講義内容のまとめをそれ以前に使用したスライドをもとに行います。 | | | | | これまでの講義で配布したプリント及び内容を復習しておくこと(4時間)。 | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「人生はピンピンきりワークブック誰でもできる健康運動実践法」根本賢一著(オフィスエム社) ISBN:978-4-900918-94-8(生協で購入してください。) | | | | | 定期試験:80% 出席レポート:20% S:授業内容をきわめて高度に理解し、毎回のレポートも高度なものを提出している。 A:授業内容を良く理解し、毎回のレポートも良好なものを提出している。 B:授業内容のおおよそを理解し、毎回のレポートも提出している。 C:授業内容の2/3を理解し、毎回のレポートも提出している。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「健康運動指導士養成講習会テキスト(上・下)」(財団法人健康・体力づくり事業財団) 「健康運動実践指導者用テキスト」(財団法人健康・体力づくり事業財団) | | | | | 健康運動指導士及び健康運動実践指導者の資格取得を目指す者に限らず、豊かな暮らしを営む基本である「健康づくり」を学ぶ以上、常に社会の動向に目を向け問題意識を持って授業に臨んでください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------------------------|--|----------------|------|--|----|-------------------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | 健康運動指導実習 | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SA16023 | 研究室 | S-15 |
| 担当者 | 山本 薫 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実習 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 身体組成およびウォーキング・ジョギング、自体重筋トレなどの健康運動の特徴と、運動トレーニングの効果的で安全な方法を理解し、中高年者を対象にした指導の習得を目指します。様々な運動強度でトレーニングを実施しながら、自覚的な感覚・心拍数などの測定を含め、指導に必要な知見を得て指導に生かしていきます。指導者として必要な知識・技術に加え、思いやりのこころを持って指導にあたる大切さを学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 日本や諸外国における健康づくりの施策を理解する。中高年に対して安全で効果的な運動指導方法を習得する。健康づくりのための身体活動・体力向上のトレーニング理論と実践を踏まえ、的確な指導ができるようになる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義室と体育館を併用しながら理論演習という形式で授業を進めていきます。健康づくり運動の基礎的知識を習得し、専門用語の理解を深め、実際に運動プログラムも作成します。演習の内容や順番は調整変更することがあります。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 健康とは | オリエンテーション、授業の目標、展開内容について説明をします | | | | | シラバス、テキスト及び参考書を熟読すること(1時間) | | | |
| 2 | 健康づくりの施策と健康増進について | 健康と健康増進の概念(WHO健康の定義、オタワ憲章)、日本における健康づくりの施策(身体活動基準・指針)について説明します | | | | | 参考書の第一章を熟読すること(1時間) | | | |
| 3 | ウォーミングアップ・クーリングダウン | ウォーミングアップ・クーリングダウンの実施方法と注意点を説明します。 | | | | | 運動習慣について、実施頻度の高い種目を調査してくること(1時間) | | | |
| 4 | ウォーキング・ジョギングの特性について | ウォーキングの正しいフォームや注意点及び効果、運動強度を基にした消費カロリーの計算方法など、その運動特性を説明します。また実習を交えて指導します。 | | | | | ウォーキングについて調べておくこと、計算機を用意しておくこと(1時間) | | | |
| 5 | ウォーキングプログラム | ウォーキング(低/中/高強度)の消費エネルギー消費量の算出方法を理解し、強度設定や頻度などプログラムを作成する時の注意点を説明します | | | | | テキスト・参考書を熟読し、計算機を用意しておくこと(1時間) | | | |
| 6 | ジョギングプログラム | ジョギングの運動効果、基本的フォーム、注意点を説明します。また、運動強度から算出する消費エネルギーと指導上の注意点について実習を交えて指導します。 | | | | | ジョギングの強度とその効果について調べておくこと(1時間) | | | |
| 7 | ストレッチングの理論と実際 | ストレッチングの種類と特性について、機能解剖学からその説明をします。また、効果や実施上のポイントについて実習を交えながら解説します。 | | | | | ストレッチングの種類について調べておくこと(1時間) | | | |
| 8 | 体脂肪と除脂肪体重 | 体脂肪率の測定方法とそのメカニズム、メリットとデメリットを説明します。また、体脂肪率の評価方法について解説します。 | | | | | テキスト・参考書を熟読すること(1時間) | | | |
| 9 | ウォーキング・ジョギング時の安全管理 | ウォーキング・ジョギング時の暑熱環境下の運動時体温変化と熱中症などについて、ウォーキング・ジョギングにおけるポイント(効果的な水分摂取タイミングなど)を説明します。 | | | | | 熱中症について調べておくこと(1時間) | | | |
| 10 | 筋肉の構造と筋力発揮のメカニズム | 筋線維のタイプを収縮特性と代謝特性に基づいて分類し、筋力発揮の特性と運動の関係を説明します | | | | | 事前に配布するプリントを熟読すること(1時間) | | | |
| 11 | 健康運動づくり運動の実際(静的レジスタンストレーニング) | レジスタンス運動の分類を筋活動様式からみて特徴を学び、適切なプログラムの立案と目的別トレーニングの指導方法を習得します | | | | | テキスト・参考書を熟読すること(1時間) | | | |
| 12 | 健康運動づくり運動の実際(動的レジスタンストレーニング) | 自重や身近な用具を使用したトレーニング方法、サーキットトレーニングなどを理解します | | | | | テキスト・参考書を熟読すること(1時間) | | | |
| 13 | 中高年者の為の健康づくり運動の理論 | 中高年齢者のロコモ予防のためのレジスタンス運動プログラム作成の理論について説明します。 | | | | | 中高年齢者運動のプログラムを調べてくること(1時間) | | | |
| 14 | 中高年者の為の健康づくり運動の実際 | 中高年齢者のロコモ予防のためのレジスタンス運動プログラムを作成します。期末試験に向けて説明します。 | | | | | 運動プログラムを準備しておくこと(1時間) | | | |
| 15 | 健康運動指導のまとめ | 健康づくり運動を総合的に捉え、幅広い視点から指導できるように、作成した運動プログラムの内容についてディスカッションとワールドカフェ方式で討論を行います。 | | | | | 今までに配布したプリントを復習しておくこと(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「人生はピンピンきらりワークブック誰でもできる健康運動実践法」(オフィスエム社) ISBN:978-4-900918-94-8(生協で購入してください。) 「【10歳若返る!】インターバル速歩の秘密」(ことう書房)編 | | | | | レポート:25% 定期試験:50% 受講態度:25% | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「健康運動指導士養成講習会テキスト(上・下)」(財団法人健康・体力づくり事業団体)編 「健康運動実践指導者用テキスト」(財団法人健康・体力づくり事業団体 | | | | | 健康運動指導士や実践指導者資格希望者など、豊かな暮らしを営む為の「健康づくり」を学ぶ者は、常に社会の動向に目を向け問題意識を持って授業に臨んで下さい。実習は運動着で体育館シューズを持参すること | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|------------------------|---|------|------|----------------|--|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ実技（エアロビックダンス） | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16024 | 研究室 | S-17 |
| 担当者 | 田邊 愛子 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | アイスア- | 木曜日5限 | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士、ト指 | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | |
| | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| エアロビックダンスの特性と効果についての認識を踏まえ、ダンスの一連の運動動作を実習し、その特徴や留意点を認識することを目的とします。運動を提供する相手の性別、年齢、体力、目的によって運動強度の水準に違いがあることを理解した上で、速さや動きなどにより変わってくる運動強度を、心拍数の上がり方などで確かめながら、反応の違いを実習します。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| 服装、用具、シューズ、床の性質などの条件があることや音楽の特徴や指導上の注意事項を理解した上で、実際に運動プログラムを作り、実施する上での留意事項を認識しながら、指導できるようになることを目標とします。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 教科書を基に、エアロビックダンスの基礎を机上で学び、平行して実際に体を動かしての実技も行います。受身の授業ではなく、実際に指導者として人前に立つことも経験していきます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方についての説明をします。正しい姿勢を身に着け、学生同士でチェックをしたり、指導したりする経験をしていきます。 | | | | 正しい姿勢を常に心がける（1時間） | | | |
| 2 | エアロビックダンスの特性や効果、受講者の特性 | エアロビックダンスが持つ特性や効果について、説明します。また、受講者の年代や性別の特性の違いを説明します。後半は、エアロビックダンスを実際に体験します。 | | | | テキストP131、132を事前に読んでおく。特性や効果について、復習する。（1時間） | | | |
| 3 | ステップ | ローインパクトやハイインパクトの、さまざまなステップの名称や種類を紹介します。 | | | | ステップの種類を覚えるとともに、テレビCMやダンスシーンなど日常目にするステップを意識する（ | | | |
| 4 | 動きの展開 | さまざまなステップを組み合わせた、ステップに合わせて上肢の動きを組み合わせ、さらに動きを展開させていく方法を説明し、実践します。 | | | | 複数のステップを組み合わせた動きを考えてくる（1時間） | | | |
| 5 | ウォーミングアップ | 静的ストレッチと動的ストレッチの違いや、ウォーミングアップの重要性を説明し、エアロビックダンスのウォーミングアップに必要な動きを実践します。また、事前学修で考えてきたステップを実践し、 | | | | ステップの種類をかえて、組み合わせを考えてくる。自分の安静時心拍数を計ってくる（1時間） | | | |
| 6 | 強度の調整 | 心拍数などから運動強度を推定する方法を説明し、自分の目標心拍数を計算します。また、動きの中で運動強度を調整する方法を説明して実践します。 | | | | 自分が考えた組み合わせを、反復の中で強度を上げていくものを作成する（1時間） | | | |
| 7 | 音楽 | 音楽のBPMや曲調、音の構成などを説明します。BPMによっても強度が変わることも説明し、体験します。 | | | | 日常に聞く音楽で、音の構成やカウントを意識する（1時間） | | | |
| 8 | 指導の方法 | 声や動作で指示を出すキューイングなど、指導の技法を説明します。また、学生同士で自分が考えた動きを、タイミングなどに気をつけながら指導を実践します。 | | | | 動きを考えると同時に、指示を出すタイミングや声のかけ方などをシュミレーションする（1時間） | | | |
| 9 | 筋力トレーニング | 自重負荷を使った筋力トレーニングを説明し、体験します。前回に引き続き、強度アップやキューイングを意識した指導の体験も行います。 | | | | トレーニングの内容を復習。必要なものは日常に取り入れる。（1時間） | | | |
| 10 | クールダウン | 運動時のクールダウンの必要性を説明し、実践します。キューイングなどを意識した指導の体験も引き続き行います。 | | | | 実技発表に向け、動きを完成させていく（1時間） | | | |
| 11 | グループ作成、発表 | 個々での作成、指導も行いつつ、グループで意見を出しあって動きを作り上げます。 | | | | 実技発表に向けて、動きを完成させていく（1時間） | | | |
| 12 | 傷害、環境 | エアロビックダンスによる障害や、安全に行うためのプログラミング、シューズや服装の注意などを説明します。 | | | | 実技発表に向けて、動きを完成させる（1時間） | | | |
| 13 | 実技発表（第1グループ） | 第1グループの実技発表を行います。他のグループは発表グループの指示に従って実際に指導を受けます。 | | | | 発表準備及び反省（1時間） | | | |
| 14 | 実技発表（第2グループ） | 第2グループの実技発表を行います。他のグループは発表グループの指示に従って実際に指導を受けます。 | | | | 発表準備及び反省（1時間） | | | |
| 15 | 実技発表（第3グループ） | 第3グループの実技発表を行います。他のグループは発表グループの指示に従って実際に指導を受けます。 | | | | 発表準備及び反省（1時間） | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「健康運動実践指導者用テキスト」財団法人 健康・体力づくり事業財団編（別途、指示します。） | | 実技：70% 定期試験：30% 「実技」は、授業内で行う実技発表です。95%以上のより高いレベルに達すればS、80%以上の理解度をA、70%以上をB、60%以上をCとします。 | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | | |
| なし | | 将来、指導者になることを想定して授業を進め、最終的には人への指導を全員が行います。指導者として、相手にわかりやすい言葉使いや説明の仕方、見本になる姿勢など、日頃から意識を持ち、授業にも臨んで下さい。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------|---|----------------|------|----|---------|--|-----|------|--|
| 科目名 | 看護学概論（セルフヘルスケア） | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SA16025 | 研究室 | S-19 | |
| 担当者 | 中島 節子 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 火曜日3限 | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 看護は「人が健康的な日常生活をその人なりに支障なく送れるように配慮すること」で、職業としての看護実践ばかりではなく、自身の健康の維持・増進のために『看護する』ことを含めて理解します。本講義は、健康生活に必要なセルフヘルスケア能力を身につけるために、基礎的知識と実践力を獲得することをめざします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 健康増進の基礎的知識について学び、自己の健康増進の方法を考えることができる。 疾病予防の方法を理解することができる。 自己の生活を振り返り、自身の健康に対する意識を高め、健康行動をとることができる | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 基礎的な知識について講義を行います。また、雑誌、新聞記事等の資料から現状を把握し、意見交換を行います。簡単な看護技術演習も実施します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション 健康とは | オリエンテーションを行います。健康の定義 自己の健康管理の現状を考察します。 | | | | | 健康についてレポート作成（4時間） | | | |
| 2 | 健康の指標、健康づくり | 健康に関する統計データ(平均寿命、死因、乳児死亡率、出生率など)を分析し、健康問題の変遷を考えます。また、現代の健康に関する課題を検討します。国や県の健康づくり施策の実施状況を学びます。 | | | | | 統計の分析方法や健康問題を復習する。（4時間） | | | |
| 3 | 健康づくり食育 | 栄養から考える健康づくりについて学習します。自己の食生活についてチェックし健康な食生活について考えます。 | | | | | 栄養について復習し、自己の食生活を分析する。（4時間） | | | |
| 4 | 健康づくり 運動 | 運動から考える健康づくりについて学習します。自己の体力測定を実施し、その結果について分析し、運動を取り入れた生活を考えます。 | | | | | 体力について調べ、自己の体力測定の結果を分析する。（4時間） | | | |
| 5 | 健康づくり 感染症 | 感染症の法的根拠について学びます。また、感染症の種類と実態、感染症予防の方法について学習します。 | | | | | 感染症について復習し、自己の感染症の既往をまとめる。（4時間） | | | |
| 6 | 疾病予防 生活習慣病 | 糖尿病、高血圧など代表的な生活習慣病の特徴と予防法について学びます。 | | | | | 疾病予防についての保健だよりを作成する。（4時間） | | | |
| 7 | 疾病予防 がん | がんについて基礎知識を学びます。部位別がん疾患の特徴、がんの治療法、がんの予防法についての現状を学びます。 | | | | | がんについてまとめ、事例についてレポートを作成する。（4時間） | | | |
| 8 | 健康観察の方法 | 健康観察の方法を学びます。実際にバイタルサインの測定方法を学び、バイタルサインの結果のとらえ方を学び今後の活動につなげていきます。 | | | | | バイタルサインの測定方法を復習し、測定結果を分析する。（4時間） | | | |
| 9 | ライフステージと健康課題について | 各ライフステージの発達課題についてまとめ、各健康課題への対応を考えます。 | | | | | 健康に関する新聞記事についてレポートを作成する。（4時間） | | | |
| 10 | 高齢者 | 加齢現象と高齢化社会の課題について考えます。 | | | | | 高齢社会の課題について調べる。高齢者の特徴を復習する。（4時間） | | | |
| 11 | 人の死 | 死について（安楽死、尊厳死、脳死などを含めて）考えます。 | | | | | 人の死についてレポートを作成する。（4時間） | | | |
| 12 | 母子保健 | 妊娠、出産の経過について学びます。妊孕性と望まない妊娠を避けるために避妊の方法と長所、短所について学びます。 | | | | | 母子保健についてまとめる。（4時間） | | | |
| 13 | 依存症 | 飲酒、喫煙、薬物などが健康に及ぼす影響を学び、現状を把握します。啓発活動の方法や予防する方策を考えます。 | | | | | 飲酒、喫煙、薬物乱用について復習する。（4時間） | | | |
| 14 | 心の病気 | 現代社会の代表的な精神疾患 思春期のメンタルヘルスについて現状を学び、対応について考えます。 | | | | | 精神疾患の特徴と対応についてまとめる。（4時間） | | | |
| 15 | セルフケア不足の人への援助 | セルフケアが不足している人への援助の方法について考える。健康づくりに関して学んだことをまとめます。 | | | | | 授業で学んだことをまとめ、自己のセルフケア能力を高める方策をレポートする。（4時間） | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 必要に応じて資料を配布します。 | | 定期試験：70% 課題：30% S：授業内容を高度に理解し、自己の健康課題を解決する方法に応用することができる。 A：授業内容を理解し、自己の健康課題を明確にし、解決する方法を見出すことができる。 B：授業内容のおおよそを理解し、自己の健康課題を明確にすることができる。 C：授業内容の60%は理解でき、健康の重要性を説明できる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | | | |
| 「最新看護学 学校で役立つ看護技術」中桐佐智子他著（東山書房） 「看護教諭のための看護学 改訂版」藤井寿美子他著（大修館書店） 必要時紹介していきます。 | | 日常生活を健康的に過ごすためのセルフケアの方法を学びます。一般的な病気の予防や感染防止対策行動など学生生活を送る上でも役に立つように進めていきます。看護教諭を目指す場合には、導入的位置付けの科目になります。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------------|--|------|---|----------------|--------------------------------------|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ実技（水中運動） | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SA26026 | 研究室 | S-17 |
| 担当者 | 田邊 愛子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | オイスター | 木曜日5限 | | |
| 関連資格 | 実践指導者、指導士 | | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 水という特殊な場所での運動であることから、水の特性と水中での生理学についての理解を深める。また、運動を実施する上での安全確保、身体のバランスの取り方、動き方など、陸上とは違う注意点や特色を実習を通して習得することを目的とします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 運動を提供する相手の性別、年齢、体力、目的によって運動強度の水準に違いがあることを理解した上で運動プログラムを作り、指導を実施するうえでの留意事項を認識しながら、実際に指導することを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 水の特性や水中運動の基礎を机上で学び、実際にプールの中で体を動かしての実技も行います。受身ではなく、実際に指導者として人前に立つことも経験します。実技は学外のプールを使用するため、バス等で移動して実施します。4日の学外実習を行う予定です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業概要、学習目標、授業の進め方などについて説明をします。また、水という特殊な場所での授業になるため、さまざまな注意点を説明します。 | | | | テキストP147を事前に読む（1時間） | | | | |
| 2 | 実技・ウォーキング | 水中歩行、水中ジョギングのバリエーションについて、説明しながら実践します。 | | | | 内容を復習・記録する（1時間） | | | | |
| 3 | 実技・トレーニング | 水中で行うレジスタンス運動を実践します。 | | | | 内容を復習・記録する（1時間） | | | | |
| 4 | 実技・ストレッチング、リラクゼーション | 水中で行うストレッチングやリラクゼーションを実践します。 | | | | 内容を復習・記録する（1時間） | | | | |
| 5 | 実技・アクアビクス体験 | アクアビクスを実践します。 | | | | テキストP140～144を読む（1時間） | | | | |
| 6 | 座学・水、水中運動の特性 | 浮力、抵抗、水圧、水温など、水が持つ特性や、体に及ぼす影響について説明します。 | | | | テキストP140～144を事前に読む。特性などについて復習する（1時間） | | | | |
| 7 | 実技・呼吸、浮き沈み、姿勢 | 水が持つ特性を考えながら、水の中にもぐったり浮いたりする経験をします。また、水泳の基本になる呼吸を練習します。 | | | | 内容を復習・記録する（1時間） | | | | |
| 8 | 実技・水泳（クロール、背泳ぎ） | クロールと背泳の泳ぎ方を説明し、練習します。 | | | | 内容を復習する（1時間） | | | | |
| 9 | 実技・水泳（平泳ぎ、バタフライ） | 平泳ぎとバタフライの泳ぎ方を説明し、練習します。 | | | | 内容を復習する（1時間） | | | | |
| 10 | 座学・水中運動のプログラミングと指導方法 | 水中運動のプログラミングや、プールサイドからと水中からの指導のメリットとデメリットについて説明します。 | | | | テキストP144～147を事前に読んでおく（1時間） | | | | |
| 11 | 実技・水中運動のプログラミング | 運動の展開方法や指導の仕方を説明し、実践します。 | | | | 内容を復習し、発表の内容を考える（1時間） | | | | |
| 12 | 実技・プログラミング発展 | 実技発表に向けて、実際にプログラムを立て、指導を練習します。 | | | | 内容を復習し、発表の内容を考える（1時間） | | | | |
| 13 | 安全に対する注意、傷害など | 水中運動によって起きる障害や、安全な指導の仕方を説明します。 | | | | テキストP147～148を事前に読む（1時間） | | | | |
| 14 | 実技発表（第1グループ） | 第1グループの実技発表をします。他のグループは発表グループの指示に従って実際に指導を受けます。 | | | | 発表準備、反省（1時間） | | | | |
| 15 | 実技発表（第2グループ） | 第2グループの実技発表をします。他のグループは発表グループの指示に従って実際に指導を受けます。 | | | | 発表準備、反省（1時間） | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「健康運動実践指導者用テキスト」財団法人 健康・体力づくり事業財団編（別途、指示します。） | | | | 実技：70% レポート：30% 「実技」は、授業内で行う実技発表です。レポートとは受講態度（遅刻、早退、意欲など）を評価します。95%以上のより高いレベルに達すればS、80%以上の理解度をA、70%以上をB、60%以上をCとします。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | |
| なし | | | | 会場の都合や天候等で講義計画が変更になる場合もあります。集中講義で、特殊な環境での授業になります。体調には十分留意してください。将来、指導者になることを想定して授業を進めていきます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------------------------|---|------|------|--|----|-------------------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | 健康運動指導実習 | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナパ'リング | SA26027 | 研究室 | S-17 |
| 担当者 | 田邊 愛子・根本 賢一・川島 均・中島 節 子・熊谷 麻紀 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実習 | オフィスアワー | 木曜日5限 | | |
| 関連資格 | 指導士 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 健康・スポーツ科学における測定の方法の主なものを取り上げ、その測定法と評価を習得し、実際に得られたデータをどのような形で処理し活用しているのかを理解します。学んだ様々な理論について、実際に行われたそれぞれの運動と関連させて、測定出来る技術、及び、得られたデータを適切に評価しデータの加工まで出来るようにします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 健康・スポーツ科学における測定理論と方法を理解し、得られたデータを適切に評価できるようにします。様々な測定を通して、レポートにまとめることで分析能力、論理的思考力を向上させることを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 各回、測定の意義をまずは理解し、続いてその測定手順、実際の測定、結果の整理及び評価、レポート課題という順で授業を進めます。実際の測定は7~8名を1グループとして実施していきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業のねらいと、進め方、評価方法などについて、全体説明を行った後に、各担当者から説明を行います | | | | | シラバスを熟読すること(1時間) | | | |
| 2 | 体力測定 | 柔軟性・平衡性・敏捷性測定を体育館およびトレーニングルームにて実施します | | | | | 体調管理に配慮し、測定項目についての注意点を学習しておくこと(1時間) | | | |
| 3 | データ整理およびレポート作成方法について | 測定したデータをもとにレポートを作成する上での注意点を全体講義します | | | | | 測定結果をまとめておくこと(1時間) | | | |
| 4 | 等尺性筋力測定と評価 | 等尺性筋力測定を実施したのち、得られたデータから班員で考察をし、レポートを作成します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。(1時間) | | | |
| 5 | 等速性筋力測定と評価 | 等速性筋力測定を実施したのち、得られたデータから班員で考察をし、レポートを作成します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。(1時間) | | | |
| 6 | 無酸素パワー測定と評価 | 無酸素パワー測定を実施したのち、得られたデータから班員で考察し、レポートを作成します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。(1時間) | | | |
| 7 | 心肺持久力測定と評価 | 心肺持久力を簡易法で測定したのち、得られたデータから班員の最大酸素摂取量推定値を算出し、レポートを作成します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。(1時間) | | | |
| 8 | 筋力測定と評価 | マシントレーニングを実施する上での1RM測定の意義と方法論を学び、実践を通して評価考察し、レポートを作成します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。(1時間) | | | |
| 9 | 携帯型運動量連続測定装置を用いた歩行テスト | 携帯型運動量連続測定装置を用いた歩行テスト測定を実施したのち、得られたデータから班員で考察します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。(1時間) | | | |
| 10 | 携帯型運動量連続測定装置を用いた歩行テストの評価 | 携帯型運動量連続測定装置を用いた歩行テスト測定を実施したのち、得られたデータから班員で考察しレポートを作成します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。(1時間) | | | |
| 11 | 体組成、形態測定 | インピーダンスおよびキャリパーなどを用いた体脂肪率の測定手技を習得し、得られたデータから班員で考察しレポートを作成します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。(1時間) | | | |
| 12 | 血圧測定 | 自動血圧計および水銀柱などを用いた血圧の測定手技を習得し、得られたデータから班員で考察しレポートを作成します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。(1時間) | | | |
| 13 | 最大酸素摂取量測定 | 呼気ガス分析装置を使用し、最大酸素摂取量および無酸素性作業閾値を算出します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。(1時間) | | | |
| 14 | 最大酸素摂取量測定と評価 | 呼気ガス分析装置を使用し、最大酸素摂取量および無酸素性作業閾値を算出し、得られたデータから班員で考察しレポートを作成します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。(1時間) | | | |
| 15 | 講義全体のまとめ | 講義全体のまとめを全体説明し、各担当者から試験に関する説明も行います | | | | | これまでのレポートを復習すること(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 各回こちらで実習の課題及び評価のポイントを記したプリントを用意します。 | | | | | 定期試験：50% 課題：50% 各実習においてレポート点(授業への取り組み姿勢を含む)を50%、試験を50%としその総合評価が95%以上のより高いレベルに達すればS、80%以上の理解度をA、70%以上をB、60%以上をCとします。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「健康運動指導士養成講習会テキスト(下)」(財団法人健康・体力づくり事業財団) | | | | | 健康運動指導士の資格取得を目指す以上、常にその自覚を持つこと。測定を各回実際に行いますので、必ず運動着、シューズを持参で授業に臨んでください。予習の指示がある場合は、必ず予習してから講義に臨んで下さい。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|--|-----------------|------|---|----------------|------------------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ実技（フィットネス） | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL26028 | 研究室 | S-17 |
| 担当者 | 田邊 愛子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | オイスア- | 木曜日5限 | | |
| 関連資格 | 指導士 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講座では、これまでの学習の中から健康づくり概論を理解した上で、健康づくりのための身体活動プログラムや、実際に健康教室の現場で行われている様々なエクササイズなどの体験や学びから、様々なライフステージにおける適切な運動プログラムの作成プログラムができるようになることを目的とします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 健康づくりのための身体活動プログラムとして、ヨガや太極拳・エアロビクスなどの有酸素運動から、レジスタンストレーニングなどの運動プログラムを作成し、目的別に応じたプログラムの展開と適切な指導ができるようになることを目指します。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 体育館およびトレーニングルームを利用しながら講義、実践を交え展開します。グループに分かれ課題プログラム作成し発表を取り入れながら、運動強度などプログラムの構成や体験した感想や反省を発表する。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方、評価方法についての全体説明を行います。 | | | | | シラバスを熟読しておくこと（1時間） | | | |
| 2 | 運動プログラム作成の基礎 | 健康づくりと運動プログラムの作成の基礎を説明し実践します。 | | | | | テキストを熟読すること（1時間） | | | |
| 3 | レジスタンストレーニングの基礎と応用 | レジスタンストレーニングの基礎と応用、自重負荷トレーニングとチューブトレーニングの理論の理解をした後に実践を行います。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める（1時間） | | | |
| 4 | 有酸素運動（太極拳とは） | 太極拳の歴史、基礎、応用体験し、心拍数を用いて運動強度を算出する。班分けののち発表テーマを決定します。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める（1時間） | | | |
| 5 | 健康づくりのための体力向上プログラム(1) | 中高齢者を対象とした、ストレッチング、チェロビクスの理論と実践を行う。ウォーミングアップ、クーリングダウンが身体へ及ぼす効果について全体説明します。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進め、発表資料を作成する（1時間） | | | |
| 6 | 健康づくりのための体力向上プログラム(2) | 中高齢者を対象とした、エアロビクスとレジスタンストレーニングの運動プログラムを作成し実践を行います。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進め、発表資料を作成する（1時間） | | | |
| 7 | 健康づくりのための体力向上プログラム(3) | 中高齢者を対象とした、ウォーキング、ジョギングの理論を説明したのち、運動プログラムの作成と実践を行います。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進め、発表資料を作成する（1時間） | | | |
| 8 | 健康づくりのための体力向上プログラム(4) | 中高齢者を対象とした、ボールエクササイズの運動プログラムの作成と実践を行います。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進め、発表資料を作成する（1時間） | | | |
| 9 | 健康づくりのための体力向上プログラム(5) | 後期高齢者の身体特性を理解し、体力向上のための運動プログラムの作成と実践を行います。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進め、発表資料を作成する（1時間） | | | |
| 10 | 健康づくりのための体力向上プログラム(6) | 障がい者を対象とした身体特性を理解し、運動プログラムの作成と実践を行います。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進め、発表資料を作成する（1時間） | | | |
| 11 | 補助と負荷設定について | 運動プログラムの進行、機械を用いない有酸素運動の指導の注意点と目的に応じた負荷設定ができるようにします。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める（1時間） | | | |
| 12 | 有酸素運動（ボクササイズとは） | ボクササイズの種類、基礎、応用体験し、心拍数を用いて運動強度を算出します。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める（1時間） | | | |
| 13 | 有酸素運動（ヨガとは） | ヨガの歴史、基礎、応用体験し、心拍数を用いて運動強度を算出します。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める（1時間） | | | |
| 14 | 自己評価と全体評価 | 自己の発表内容を分析し評価する。また、他者の発表を相互検討し考察をまとめレポート提出します。 | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める（1時間） | | | |
| 15 | 全体のまとめ | 講義全体のまとめと評価方法についての説明をします | | | | | レポート提出をすること（1時間） | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 特に指定しません。 | | | | | 受講態度：30% 課題：70% 模擬授業における受講態度や課題への取り組み姿勢を受講態度として評価します。「課題」は、授業内で行う実技発表です。95%以上のより高いレベルに達すればS、80%以上の理解度をA、70%以上をB、60%以上をCとします。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | |
| 「運動実践指導者養成用テキスト」（財団法人健康・体力づくり事業財団） | | | | | 有酸素運動および筋力トレーニングの理論などの基本的知識を身につけていた方が望ましいです。ジャージ着用、運動のできる支度で挑むこと。また、テキストを読みトレーニングの注意事項を熟知しておくこと。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------|---|---|------|---|------|---------------------------------------|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 健康相談活動 | | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 2 | ナバ'リング | SC36029 | 研究室 | S-19 |
| 担当者 | 中島 節子 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | 養教一 | | | | | 履修条件 | 教職課程履修者 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 近年、保健室を訪れる子ども達は、身体的な症状だけでなく心の問題やその子を取り巻く環境の問題を伴っている場合が多くなっています。ここでは養護教諭が、子ども達の様々な健康相談に対応できる基本的能力を獲得することを目的とします。子ども達の発育、発達を踏まえ、養護教諭の行う健康相談活動の意義や方法を学び、実践に必要な判断力、観察力やコミュニケーション能力を高めます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 心と身体の両面への対応である健康相談活動の基本と一連のプロセスを理解している。 健康相談活動を行う基本的な態度、観察力、コミュニケーション能力を身につける。 養護教諭としての実践能力を身につける。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 講義のみでなく、事例を使った演習を行いながら双方向の授業を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方について説明します。養護教諭が行う健康相談の目的と特質について学習します。 | | | | | 養護教諭の健康相談について既習学習を復習する。(4時間) | | | | |
| 2 | 子どもの発達段階と健康課題の特徴 | 社会の変化と子どもの健康問題の変遷について学びます。子どもの発達段階に応じた心身の健康課題を取り上げて分析し討議します。 | | | | | 子どもの発達段階と各時期の健康問題をまとめ、対応策を考える。(4時間) | | | | |
| 3 | 健康相談の基礎 | 健康相談の対象の理解と問題の理解、相談の方法について学びます。事例を通して具体的な対応を考えます。 | | | | | 事例についての基本的な内容を予習しレポートする。(4時間) | | | | |
| 4 | 健康相談の情報とアセスメント | 事例を通して基本を学びます。必要な情報とは何か、情報の分析方法、優先順位の考え方、アセスメントを考え、討議します。 | | | | | 事例についての発達段階と問題について基本的な内容を予習復習する。(4時間) | | | | |
| 5 | 健康相談の展開 | 事例を通して基本を学びます。必要な情報とは何か、それらの情報を判断し対応する過程を考え討議します。情報収集は実際にロールプレイングしながらコミュニケーションの方法を学びます。 | | | | | 事例についての発達段階と問題について基本的な内容を予習復習する。(4時間) | | | | |
| 6 | 健康相談における記録 | 相談記録の目的、記録の書き方について学習します。事例検討のためのまとめ方を学び、実際に事例検討を行います。 | | | | | 健康相談における記録について予習、復習する。(4時間) | | | | |
| 7 | 健康相談の実際 応急手当 | 身体の問題をかかえた事例(応急手当で話を聞き、対応することで終了する事例)について、情報の分析、問題解決の方法(児童生徒への支援)について討議します。 | | | | | 応急手当の方法の基本について復習する。事例を検討する。(4時間) | | | | |
| 8 | 健康相談の実際 保健室頻回来室児 | 身体の問題をかかえた事例(頻回に保健室に来室する事例)について、情報の分析、問題解決の方法(児童生徒への支援の方法)について討議します。 | | | | | フィジカルアセスメントの方法について復習する。事例を検討する。(4時間) | | | | |
| 9 | 健康相談の実際 慢性疾患を抱えた児 | 身体の問題をかかえた事例(長期に関わる必要がある事例)について、情報の分析、問題解決の方法(児童生徒への支援)について討議します。 | | | | | 疾患について復習し、事例を分析する。(4時間) | | | | |
| 10 | 健康相談の実際 精神 | 精神の問題(不登校、虐待の事例)の事例について、情報収集の方法、収集した情報の分析をして何が問題かをとらえます。また問題解決の方法(児童生徒、家族への支援、関連機関)について討議します。 | | | | | 不登校、虐待など学校における課題について学習する。(4時間) | | | | |
| 11 | 健康相談の実際 精神疾患 | 精神の問題をかかえた事例(心身症、精神疾患の事例)について、疾患の特徴と照らし合わせて考え、解決の方法(児童生徒、家族への支援)について討議します。 | | | | | 発達障害、精神疾患について予習復習する。(4時間) | | | | |
| 12 | 健康相談の実際 発達障害 | 精神野発達に関する健康問題をかかえた事例(発達障害、特別支援学校の児童生徒の事例)について、疾患の特徴と照らし合わせて考え、解決の方法(児童生徒、家族への支援)について検討します。 | | | | | 発達障害、精神疾患について予習、復習する。(4時間) | | | | |
| 13 | 健康相談の実際 養護教諭 | 健康相談における今日的課題と対応について、教育現場の養護教諭(外部講師)が具体的な事例を通して講義します。 | | | | | 授業内容を復習整理する。(4時間) | | | | |
| 14 | 健康相談の実際 臨床心理士 | 健康相談における今日的課題と連携について、臨床心理士が具体的な事例を通して講義します。 | | | | | 授業内容を復習整理する。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 関連機関との連携やコーディネーションについて整理します。養護教諭が行う健康相談についてまとめます。 | | | | | 授業を振り返り復習する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 必要な資料は配布します。 | | | | | 定期試験:70% レポート:20% 実技:10% S:事前事後の課題を提出でき、内容を理解して事例に応用することができる。 演習も個別に応じた対応ができ積極的ににかかわることができる。 A:事前事後の課題を提出でき、内容を理解して事例に対応することができる。演習も個別に対応ができている。 B:事前事後の課題の提出ができ、事例につなげて考えることができる。演習は基本的な対応はできる。 C:事前事後の課題の提出ができている。演習は指導すればできる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「養護教諭の行う健康相談 第12版」井手元美奈子ほか著(東山書房) 「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」(ぎょうせい) | | | | | 養護教諭専門科目の2年次配当科目の履修が終了した人が履修してください。この授業は、子どもの発育、発達、人体の解剖生理、疾患等の基本の上になり立っているため関連科目の復習をしておいてください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------------|---|------|--|----------------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 健康運動指導現場実習（補助実習） | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SA36030 | 研究室 | S-21 |
| 担当者 | 根本 賢一 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実習 | オフィスアワー | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | 指導士 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 健康運動指導者として必要とされる知識・技法を習得するとともに、健康づくりが展開されている現場で活動する他職種・関係機関の役割と連携のあり方を理解してもらいます。健康運動指導の際に必要なスキルを今一度確認し、実際に中高齢者を対象に運動指導を行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 指導者として、単に知識や技術を相手に伝えるのではなく、どのような形でどのように伝えれば相手に理解され、また何に配慮して行くことが必要なのかを指導の現場から学び、実践力を修得することを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 前半は教科書を用いて授業を進めます。しかし、教科書のみではなく、必要に応じて運動処方事例などのプリントも配布して使用します。後半は、大学近隣の地域より毎回30名程度の中高齢者の方々に来学頂き実際に運動指導を行っていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス、指導者としての心構え | 授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明する。運動指導者としての必要な心構えについて解説します。 | | | | 2年次までに修得した健康運動指導士関連の科目について復習をしておくこと(1時間)。 | | | | |
| 2 | 健康づくりと運動プログラム | 健康づくりのための身体活動量とそのプログラムについて解説します。 | | | | 事前に、加齢変化と身体活動の必要性についてまとめておくこと(1時間)。 | | | | |
| 3 | 運動指導計画 | 運動指導プログラム作成とそのポイントについて解説します。 | | | | 前回講義で配布した運動指導プログラム例をよく見ておくこと(1時間)。 | | | | |
| 4 | 運動プログラム作成 | 運動指導プログラムを実際に作成し、検討します。 | | | | 講義前までに、プログラムを作成し設定期限までに提出すること(2時間)。 | | | | |
| 5 | 運動指導の安全対策 | リスク保有者などに対する運動指導の留意点について解説します。 | | | | 危険因子を有する者への運動指導のポイント及び留意点についてまとめておくこと(2時間)。 | | | | |
| 6 | 運動指導における相談面接技法 | 運動指導プログラム作成時に必要な項目の聞き取り(アンケート含む)について解説し、グループにて演習を行います。 | | | | スクリーニングの内容について理解を深めておくこと(2時間)。 | | | | |
| 7 | 介護予防に関する体力測定の実習 | 機器を含めての形態及び体力測定の実施をトレーニングルームを使用して演習を行います。 | | | | 体力測定と評価の講義で行った内容を復習しておくこと(2時間)。 | | | | |
| 8 | 評価方法と運動処方 | 前回講義で得られた値からの評価と運動プログラム作成し、検討します。 | | | | 前回講義で実施したデータを整理しておくこと(1時間)。 | | | | |
| 9 | 現場実習 | 地域の中高齢者の方を大学のトレーニングルームへ招き、カウンセリング及び体力測定を実施します。 | | | | カウンセリング内容、体力測定項目を確認して測定データをプログラムに反映させておくこと(2時間)。 | | | | |
| 10 | 現場実習 | 地域の中高齢者の方を大学のトレーニングルームへ招き、ストレッチングの指導を実際に行います。 | | | | 各部位別にストレッチングのポイントを事前に復習しておくこと(1時間)。 | | | | |
| 11 | 現場実習 | 地域の中高齢者の方を大学のトレーニングルームへ招き、ウォーキング、ジョギングの指導を実際に行います。 | | | | ウォーキング、ジョギングの指導のポイントを事前に復習しておくこと(1時間)。 | | | | |
| 12 | 現場実習 | 地域の中高齢者の方を大学のトレーニングルームへ招き、自重負荷トレーニングの指導を実際に行います。 | | | | レジスタンストレーニングについての指導のポイントを事前に復習しておくこと(1時間)。 | | | | |
| 13 | 現場実習 | 地域の中高齢者の方を大学のトレーニングルームへ招き、マシン筋力トレーニングの指導を実際に行います。 | | | | マシンの特徴を再度確認し、安全にトレーニング指導ができるように準備しておくこと(1時間)。 | | | | |
| 14 | 指導体験発表 | 各自が作成した指導案と実際に行えた指導内容と比較しつつ、指導の経験から得たことについて各自に発表をしてもらいます。 | | | | 毎回の指導後に改善点など反省をまとめておくこと(1時間)。 | | | | |
| 15 | 講義全体のまとめを行います。 | 第1から14回までの講義内容のまとめ | | | | これまでの講義で配布したプリント及び内容を復習しておくこと(1時間)。 | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「人生はピンピンきりワークブック誰でもできる健康運動実践法」根本賢一著(オフィスエム社) ISBN:978-4-900918-94-8(生協で購入してください。) | | | | 定期試験：20% レポート：20% 課題：60% S:授業内容をきわめて高度に理解するとともに、探求姿勢をもって課題演習等に取り組み高度な活動成果を示している。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題演習に取り組み良好な活動を示している。B:授業内容のおおよそを理解するとともに、与えられた課題演習等に誠実に取り組み、授業のねらいで求める活動成果の2/3程度の達成が認められる。C:授業内容の一部を理解するとともに、授業のねらいで求める活動成果の1/2程度の達成が認められる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「効果的な運動の理論と指導法特定保健指導における運動指導マニュアル」(サンライフ企画) | | | | 「健康運動指導現場実習(補助実習)」を履修する学生はこれまでに展開されてきた「健康運動指導士」対応になっている科目を全て修得済みであることとします。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|------------------|--|------|------|--|--------|----------------------------------|-----|------|--|
| 科目名 | 健康運動指導現場実習（指導実習） | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SA46031 | 研究室 | S-17 | |
| 担当者 | 田邊 愛子 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実習 | オフィスア- | 木曜日5限 | | | |
| 関連資格 | 指導士 | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 近年、健康づくりが重要視され、その中でも予防医学に取り組む機関や施設は増加傾向にあります。その中で、官・民・学共同で取り組んでいる松本市熟年体育大学や民間フィットネスクラブ、健康増進施設、病院などのそれぞれの理念や概要を学ぶと共に、実施されている取り組みを現場で体験し、運動指導者の専門家としての視野を広げることを目指します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| これまでの学習を生かして指導力を磨き、健康増進施設での研修を通して、社会との関わりの中でコミュニケーション能力（表現力）を習得し健康運動指導士の役割を確認します。最終的には、年齢や性別、疾患の有無など、幅広い対象者へ安全で効果的な運動処方ができるようになることを最終目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 初回に本実習での注意事項を説明します。担当する健康増進施設や民間フィットネスクラブ、医療機関など提携している実習先での課題に基づき、学内で実習を行った後に、現場実習となります。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業ガイダンス | | | | | シラバスを熟読すること（1時間） | | | |
| 2 | 実習計画について | 実習中におけるマナーと現場実習での注意点を全体指導し、服装、交通手段の確認を行います | | | | | 事前に配布する注意事項が書かれたプリントを熟読すること（1時間） | | | |
| 3 | 実習課題について | 現場実習先の決定と実習事前課題について説明をします | | | | | 実習先についてアクセス方法などを確認しておくこと（1時間） | | | |
| 4 | 現場実習（事前実習） | 各実習先の課題に則り、指導案を作成するための全体指導を行った後に、実習先ごとのグループワークを行います | | | | | 課題に対する指導案の構想を練っておくこと（1時間） | | | |
| 5 | 現場実習（事前実習） | 前回の指導案の構想を具体化し、実演を交えて実習を行います。指導案の完成を目指します。 | | | | | 指導案を修正しておくこと（1時間） | | | |
| 6 | 現場実習 | 松本市熟年体育大学や民間フィットネスクラブ、健康増進施設、医療機関における現場実習に行き、実習先の担当者の指示に従い、安全面での管理や理念などの説明を受けたのちに実習計画と最終目標を立てます。 | | | | | 集合時間、持ち物などの確認をしておくこと（1時間） | | | |
| 7 | 現場実習 | 松本市熟年体育大学や民間フィットネスクラブ、健康増進施設、医療機関における現場実習に行き、実習先の担当者の指示に従い、実習計画に沿って運動指導や運動療法について実習を進めます。 | | | | | 振り返りと実習先での新たな課題などを準備しておくこと（1時間） | | | |
| 8 | 現場実習 | 松本市熟年体育大学や民間フィットネスクラブ、健康増進施設、医療機関における現場実習に行き、実習先の担当者の指示に従い実習計画に沿って指導者としての役割と指導方法について実習を進めます。 | | | | | 振り返りと実習先での新たな課題などを準備しておくこと（1時間） | | | |
| 9 | 現場実習 | 松本市熟年体育大学や民間フィットネスクラブ、健康増進施設、医療機関における現場実習に行き、実習先の担当者の指示に従い、作成した指導案をもとに実習を進めます。 | | | | | 振り返りと実習先での新たな課題などを準備しておくこと（1時間） | | | |
| 10 | 現場実習 | 松本市熟年体育大学や民間フィットネスクラブ、健康増進施設、医療機関における現場実習に行き、実習先の担当者の指示に従い、実習グループ内で指導の評価を相互に行います。 | | | | | 振り返りと実習先での新たな課題などを準備しておくこと（1時間） | | | |
| 11 | 現場実習 | 松本市熟年体育大学や民間フィットネスクラブ、健康増進施設、医療機関における現場実習に行き、実習先の担当者の指示に従い対象者の特徴を的確に捉え運動指導の実習を進めます。 | | | | | 振り返りと実習先での新たな課題などを準備しておくこと（1時間） | | | |
| 12 | 現場実習 | 松本市熟年体育大学や民間フィットネスクラブ、健康増進施設、医療機関における現場実習に行き、今までの経験と反省を生かし実習先の担当者の指示に従い実習を進めます | | | | | 振り返りと実習先での新たな課題などを準備しておくこと（1時間） | | | |
| 13 | 現場実習（振り返り） | 現場実習での自己振り返りをレポートにまとめ発表し、グループごとに検討します。 | | | | | 実習のまとめをし、レポートにまとめておく（1時間） | | | |
| 14 | 現場実習（振り返り） | 現場実習での自己振り返りをレポートにまとめ発表し、グループごとに検討します。 | | | | | 実習のまとめをし、レポートにまとめておく（1時間） | | | |
| 15 | 健康運動指導士とは | 本実習を終了するにあたり、実習の全体の振り返りを行います。また、健康運動指導士の資格取得試験の説明も実施します。 | | | | | 実習ノートとレポートを提出できるようにまとめておくこと（1時間） | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「ピンピンきらり」（オフィスエム） ISBN:978-4-900918-87-0（生協で購入してください。） 「ピンピンきらりワークブック」（オフィスエム） ISBN:978-4-900918-94-8（生協で購入してください。） | | | | | 受講態度：30% 課題：70% 実習中および実習に向けての課題への取り組み姿勢を受講態度として評価します。95%以上のより高いレベルに達すればS、80%以上の理解度をA、70%以上をB、60%以上をCとします。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | |
| なし | | | | | 現場実習とは社会に出る前の最終段階です。運動指導者としての自覚を持ち積極的に参加して下さい。服装はジャージ着用、遅刻は厳禁とします。また、学外実習となりますので、各自保険などの手続きを確認しておいてください。 | | | | | |

| 科目名 | 介護職員初任者研修 | | 学年学期 | 1・2・3・4年前期 | 単位数 | 6 | ナパリング | SA16032 | 研究室 | S-19 |
|--|---------------------|--|------|------------|----------------|---|--------|---------|-----|------|
| 担当者 | 中島 節子・廣瀬 豊 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義は、介護職員初任者研修の修了資格取得(長野県介護職員初任者研修課程修了)を目的としています。介護職員初任者研修は、「介護に携わるものが、業務を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにすること」を目的としています。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 基本的な介護を実践するために最低限必要な知識や技術を獲得し、介護職員初任者研修の資格を取得すること。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義形式による介護に関する知識の取得、実技形式による介護技術の取得、そして介護施設等にて行われる実習により、実際の介護現場における実践的な訓練を行います。但し、実習は講義や実技にて一定の条件をクリアすることが求められます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 説明会&試験 | 介護職員初任者研修に際してのガイダンスを行います。また、受講希望者多数の場合、試験によって受講者を選考します | | | | 『介護職員初任者研修講座のしおり』を事前に読んでおくこと。(1時間) | | | | |
| 2 | 職務の理解 | 介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に取り組むための学習を行います。 | | | | 介護と介護サービスについて予習する。(4時間) | | | | |
| 3 | 介護における尊厳の保持・自立支援 | 人権と尊厳の保持、QOLの考え方、ノーマライゼーションについて学びます。 | | | | 人権と尊厳を支える介護についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 4 | 介護における尊厳の保持・自立支援 | 虐待防止・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度の概要について学びます。 | | | | 介護における虐待、身体拘束等について調べまとめる。(4時間) | | | | |
| 5 | 介護における尊厳の保持・自立支援 | 自立に向けた介護の考え方(自立支援や介護予防)について学びます。 | | | | 自立支援と介護予防について予習する。(4時間) | | | | |
| 6 | 介護の基本 | 介護職の役割、専門性と多職種との連携、介護従事者の倫理について学びます。 | | | | 介護職の専門性、多職種との連携について予習する。(4時間) | | | | |
| 7 | 介護の基本 | 介護職における安全の確保とリスクマネジメント、介護職員の安全衛生について学びます。 | | | | 介護職における安全の確保とリスクマネジメント、安全衛生についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 8 | 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | 介護保険制度について学びます。制度創設の背景や介護保険のしくみ、介護保険以外のサービスについて理解します。 | | | | 介護保険制度について予習する。(4時間) | | | | |
| 9 | 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | 介護における医療と福祉の連携、介護職と医行為、リハビリテーションとの連携について学びます。 | | | | 介護と医療の連携について予習する。(4時間) | | | | |
| 10 | 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | 障害者総合支援法について学びます。障害者総合支援法制度の背景やしくみ、サービスについて理解します。 | | | | 障害者総合支援法についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 11 | 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | 個人の権利を守るその他の制度(生活保護制度、成年後見制度、虐待防止関連法)について学びます。 | | | | 個人の権利を守る制度についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 12 | 介護におけるコミュニケーション技術 | 介護における利用者や家族とのコミュニケーションの意義や目的、コミュニケーションの方法を学びます。 | | | | 介護におけるコミュニケーション技術についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 13 | 介護におけるコミュニケーション技術 | 介護におけるチーム内のコミュニケーションや、多職種との連携のためのコミュニケーションに必要な技術(記録技術など)を学びます。 | | | | 介護におけるチームのコミュニケーションについてまとめる。(4時間) | | | | |
| 14 | 老化の理解 | 老化に伴うこととからだの変化と日常について学びます。 | | | | 高齢者と健康、高齢者に多い病気と日常生活上の留意点についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 15 | 老化の理解 | 高齢者と健康、高齢者に多い病気と日常生活上の留意点について、学びます。 | | | | 高齢者と健康、高齢者に多い病気と日常生活上の留意点についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 16 | 認知症の理解 | 認知症を取り巻く状況、医学的側面からみた認知症の基盤と健康管理について学びます。 | | | | 認知症を取り巻く状況、認知症の基盤と健康管理についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 17 | 認知症の理解 | 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活、家族への支援の方法について学びます。 | | | | 認知症に伴う変化と日常生活、家族への支援の方法についてまとめる。(4時間) | | | | |
| 18 | 障害の理解 | 障害の基礎的理解・障害の医学的側面の基礎的知識、家族の心理の理解について学びます。 | | | | 障害の基礎的理解・障害の医学的側面の基礎的知識、家族の心理についてまとめる。(4時間) | | | | |

| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | |
|---|------------------------------------|---|--|
| 回 | テーマ | 内容 | 事前事後学修 |
| 19 | 介護の基本的な考え方 | 介護の理論と法的根拠について学びます。 | 介護の理論と法的根拠についてまとめる。（4時間） |
| 20 | 介護に関するところのしくみの基礎的理解 | 学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識について学びます。 | 学習と記憶、感情と意欲についてまとめる。（4時間） |
| 21 | 介護に関するところのしくみの基礎的理解 | 自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因について学びます。 | 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因についてまとめる。（4時間） |
| 22 | 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識について学びます。 | 人体の各部の動きと運動器に関する基礎知識をまとめる。（4時間） |
| 23 | 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 中枢神経系と末梢神経系に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、ところとからだを一体的にとらえることを学びます。 | 中枢神経系と末梢神経系、自律神経と内部器官に関する基礎知識をまとめる。（4時間） |
| 24 | 生活と家事 | 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について学びます。 | 家事援助についてまとめる。（4時間） |
| 25 | 快適な居住環境整備と介護 | 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法について学びます。 | 快適な住環境と介護についてまとめる。（4時間） |
| 26 | 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 整容に関する基礎知識、整容の支援技術について講義及び演習を行います。 | 整容に関する基礎知識をまとめる。（4時間） |
| 27 | 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 整容に関する支援技術について講義及び演習を行います。 | 整容に関する支援技術をまとめ演習レポートを作成する。（4時間） |
| 28 | 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 移動・移乗に関する基礎知識について、講義及び演習を行います。 | 移動・移乗に関する基礎についてまとめる。（4時間） |
| 29 | 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | さまざまな移乗・移動に関する用具とその活用方法について演習を含めて学びます。 | さまざまな移乗・移動方法をまとめ演習レポートを作成する。（4時間） |
| 30 | 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 介護職員にとって負担の少ない移動・移乗の支援方法、移動と社会参加の留意点と支援について、講義及び演習を行います。 | 移動の支援をする時の留意点と演習レポートをまとめる。（4時間） |
| 31 | 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護食事に関連した | 食事にに関する基礎知識、環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援について学びます。 | 食事にに関する基礎知識、支援方法をまとめ、演習レポートを作成する。（4時間） |
| 32 | 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 入浴、清潔保持に関する基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法について学びます。 | 入浴、清潔の保持に関する基礎知識をまとめる。（4時間） |
| 33 | 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | さまざまな入浴・清潔を保つための方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学び、清潔保持の支援方法の演習を行います。 | 清潔保持の方法を考え、演習レポートをまとめる。（4時間） |
| 34 | 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法について学びます。 | 排泄に関する基礎知識についてまとめる。（4時間） |
| 35 | 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について演習を行います。 | 排泄の援助方法を考え、演習レポートをまとめる。（4時間） |
| 36 | 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法を学びます。 | 睡眠についての基礎知識を予習復習する。（4時間） |
| 37 | 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について、講義及び演習を行います。 | 快い睡眠の支援方法を考え、演習レポートをまとめる。（4時間） |
| 38 | 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 | 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援について学びます。 | 終末期の介護についてまとめる。（4時間） |
| 39 | 介護過程の基礎的理解 | 専門性を活かした介護課程の展開について学びます。 | 介護過程の展開について予習する。（4時間） |
| 40 | 総合生活支援技術演習 | 生活場面、障害状況の異なる事例を通して、具体的な介護内容及び介護の留意点などについて学びます。 | 事例についての援助の必要性を考え、介助方法を考える。（4時間） |
| 41 | 総合生活支援技術演習 | 生活場面、障害状況の異なる事例を通して、具体的な介護内容及び介護の留意点などについて学びます。 | 事例についての援助の必要性を考え、介助方法を考える。（4時間） |
| 42 | 総合生活支援技術演習 | 生活場面、障害状況の異なる事例を通して、具体的な介護内容及び介護の留意点などについて学びます。 | 事例についての援助の必要性を考え、介助方法を考える。（4時間） |
| 43 | 実習（12時間） | 介護実習（6時間）、訪問介護サービス同行訪問（6時間） 実習先・日程については講義を進めながら調整していきます。 | 実習場の情報収集や介護技術の復習をする。実習での学びを記録し振り返る。（6時間） |

| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | |
|--|------|--|--------------------------|
| 回 | テーマ | 内容 | 事前事後学修 |
| 44 | 振り返り | 振り返り、就業への備えと研修終了後における継続的な研修の必要性について学びます。 | 指定された振り返りレポートに取り組む。（2時間） |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | |
| 「介護職員初任者研修課程テキスト（第1版）3巻+サブテキスト3巻」日本医療企画編（日本医療企画）（講義にて配布します。）費用は受講料の中からまかなわれます。 | | 定期試験：30% 実技：30% 課題：20% レポート：20% 定期試験は資格認定の規定により正答率70%を超えない場合は資格及び単位認定はされない。S:授業内容を高度の理解し、根拠に基づき相手に配慮した技術を提供することができる。A:授業内容を理解し、相手に配慮した技術を提供できる。B:授業内容のおおよそを理解し、基本的な技術はできる。C:授業内容の70%を理解し、指導すれば基本的な技術はできる。 | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | |
| なし | | 利用者の生活に直接関わる専門職であるため、講義に望む姿勢は厳しいものが求められます。なお、受講費用・実習施設など詳しい情報については、「松本大学介護職員初任者研修実施要領」を確認して下さい。 | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---|--|------|------|----|----------|---|-----|------|--|
| 科目名 | 現代スポーツ論 | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リ'ング | SL16033 | 研究室 | S-14 | |
| 担当者 | 等々力 賢治 | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | ウイ'ス'ア'ー | 木曜日3限 | | | |
| 関連資格 | レ'ク'コ'デ'イ(通常)、ト'指、日体協'指、日体協'ア'マ'ネ、中一(保体)、高一(保体) | 履修条件 | | | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | | |
| | A B C | | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義は、現代スポーツに関する基礎的な知識を習得し、それを多角的な視点から理解することを目的としています。ワールドワイドな広がりをもつ、経済的・政治的・社会的諸関係を深めつつある現代スポーツについて多様な視点から理解を深め、今後の方向性についても探ります。また、現代スポーツは、テレビの強い影響もあって、変化・変貌を余儀なくされています。それについて、スター・プレイヤーの海外移籍や企業スポーツの崩壊等といった身近で具体的な事例を取り上げ、その原因や背景を明らかにします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 本講義の学修到達目標は、現代スポーツに関する基礎的な用語や概念を習得し、それを経済的・政治的・社会的な関係の中でより多角的に理解できるようになることです。併せて、今後の我が国スポーツの発展について、本講義での学習を踏まえ、自分なりの意見や見解を持てるようになることも到達目標にしています。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本講義は、新聞の切り抜きなどを利用し、時事的な話題等も含めて進めることを基本とします。また、ビデオを適宜使用すると共に、各時間「受講票」に質問事項などを記載してもらい、次時にはそれに答えることで理解をより深めます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本講義の進行計画・展開及び評価方法等を確認します。 | | | | | 事前：シラバスをよく読んでおく。事後：配付資料にある講義内容をよく確認する。(4時間) | | | |
| 2 | 文化としてのスポーツ | 今日のスポーツは、歴史の中で様々に変容を遂げてきており、その意味で、各時代の民族性や生活様式などを反映した文化です。それを、マス・フットボールからサッカーへの発展を一例に示します。 | | | | | 事前：配付資料をよく読んでおく。事後：講義時の資料を読み直し理解を深める。(4時間) | | | |
| 3 | 社会的に存在するスポーツ | オリンピックに顕著のように、巨額の費用や開催都市・国家の理解や協力が必要であり、当事国に大きな影響をもたらします。このように、スポーツは、社会的諸関係の中で存在するものなのです。 | | | | | 事前：配付資料をよく読んでおく。事後：2020年東京大会について調べた問題点を調べる。(4時間) | | | |
| 4 | 米国スポーツ界の人種問題 | スポーツ大国であり平等・公平な国である(と言われる)米国ですが、その実態は必ずしもそうではありません。アフリカ系アメリカ人の三大プロ・スポーツへの進出史などを通じて、それを明らかにします。 | | | | | 事前：配付資料をよく読んでおく。事後：人種問題に関する新聞記事などを調べる。(4時間) | | | |
| 5 | ボーダレス・グローバル化 | 1990年代以降、世界のトップ・スポーツ界で顕著になったスター・プレイヤーの海外移籍の背景には、ビジネス化に伴って展開されてきた「グローバル化戦略」があります。具体例を挙げて実態を探ります。 | | | | | 事前：配付資料をよく読んでおく。事後：配布資料を読んで復習し理解を深めます。(4時間) | | | |
| 6 | 高騰するテレビ放映権料 | 前時で扱った「グローバル化戦略」について、それを支えるのがテレビ放映権料であり、それが近年高騰していること及び、それがもたらすルール変更などについて、問題点なども含め概観します。 | | | | | 事前：配付資料をよく読んでおく。事後：近年のルールの変更事例を調べてみる。(4時間) | | | |
| 7 | スポーツのプロ化 | 1993年のJリーグ創設に象徴的なように、スポーツのプロ化が進んできました。その背景になにがあったのか。長期不況下で衰退した企業スポーツと地域の大きな期待という、二つの観点から明らかにします。 | | | | | 事前：配付資料を読んでおく。事後：企業スポーツの休廃部の事例について調べてみる。(4時間) | | | |
| 8 | 企業スポーツの歴史と役割 | 我が国のスポーツ界を支えてきたのは、学校体育と共に企業スポーツです。その歴史と特徴について、「日本型経営」という観点からその優位性と問題点を概観し、今後のあり方について考えてみます。 | | | | | 事前：「日本型経営」について調べておく。事後：身近な企業スポーツを調べてみる。(4時間) | | | |
| 9 | 企業スポーツの現状 | 「日本型経営」と密接な関係にある企業スポーツは、長期不況の中で休廃部を余儀なくされ、急速に衰退してきました。その状況を概観し、プレイヤーの人権及びプロ化等を含め、今後のあり方を展望します。 | | | | | 事前：企業スポーツの休廃部状況を調べておく。事後：配付資料をよく読み理解を深める。(4時間) | | | |
| 10 | 環境問題とスポーツ | 環境問題とスポーツ、一見関係ないように思われますが、ゴルフ場造成と自然破壊、温暖化に伴うスキー場の閉鎖等の例は、それが間違いであることを示しています。両者の関係を知り、その共存の道を探ります。 | | | | | 事前：環境問題に関する国際的動向を調べておく。事後：配付資料を読みよく復習する。(4時間) | | | |
| 11 | ドーピング問題の現状 | ドーピングは、現代スポーツが抱える最大の問題の一つです。ドーピングの定義と歴史、国際的なアンチ・ドーピングの動向についても触れ、スポーツの発展方向に合致した解決策を考えます。 | | | | | 事前：ドーピング関係の記事を読んでおく。事後：配布資料を読んで理解を深める。(4時間) | | | |
| 12 | 変貌する障がい者スポーツ | 障がい者スポーツの歴史は比較的新しいのですが、パラリンピックやプロの出現に見られるように、その隆盛には目覚ましいものがあります。その歴史を概観した上で、今後の発展方向についても展望します。 | | | | | 事前：関連する記事や書籍等を読んでおく。事後：車椅子テニスについて調べ理解する。(4時間) | | | |
| 13 | 女性スポーツの隆盛 | 各種テレビ中継に見られるように、今日、女性スポーツは活気を呈し全盛期にあります。とはいえ、それが順調に発展してきたわけでも、問題がないわけでもありません。そうした観点に立って概観します。 | | | | | 事前：スポーツ中継中の男女比を調べておく。事後：配付資料をよく読んで復習する。(4時間) | | | |
| 14 | 広がる地域クラブスポーツ | 近年、スポーツと地域の関わりが深くなっています。それを象徴するのがJリーグであり、総合型地域スポーツクラブの相次ぐ創設です。そうした動向の概要と共に、その背景を明らかにします。 | | | | | 事前：地域クラブについて調べておく。事後：地域クラブを訪れ、実際に活動してみる。(4時間) | | | |
| 15 | 国策としてのスポーツ振興 | 経済規模という観点からすれば、我が国のスポーツ振興は依然として貧しいと表現せざるを得ません。ナショナル・トレーニングセンターの設置意義や役割なども含め、先進国と比較しつつ振興策を考えます。 | | | | | 事前：教科書P.67～78を読んでおく。事後：配付資料をよく読んで復習し、理解を深める。(4時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 本講義は、新聞記事などの配付資料を利用して進めます。 | | 定期試験：75% レポート：10% 出席レポート：15% 成績評価は上記3つの要素を合わせて行います。評価基準は次のとおりです。 S:各週の講義内容を関連づけて理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって取り組み、講義外の諸課題も理解し解決方法を示すことができる。 A:講義内容を理解し、積極的な探求姿勢で各課題に取り組み理解できる。 B:講義内容の大凡を理解し、課題に誠実に取り組み、講義外の課題にも関心を寄せることができる。 C:講義内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組むことができる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「グローバル化と日本のスポーツ」等々力賢治著(創文企画) ISBN:978-4-86413-032-5 他 スポーツ関連書籍が沢山出版されていますので、講義内に適宜紹介します。 | | 自らの経験に基づくスポーツ観に関じこもることなく、多角的で柔軟な見方や考え方で講義に臨んで欲しい。変化・変貌著しい現代スポーツが対象なので、事前学修の一環としてテレビ・新聞報道などに常に関心を持ってください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|------------------------|--|---|------|---|------|--|---------|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 近代スポーツ史 | | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SL16034 | 研究室 | S-22 | |
| 担当者 | 中島 弘毅 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 火曜日2限 | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体) | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | | |
| <p>私たちが歴史を学ぶことの意義は、「自分の現在を今までの過去の経験に関連させることで、自分がどこから来たのか、どこに向けて進んでいるのかの位置確認をし、未来に向けて何ができるのかの手がかりを獲得する思考作業」です。本講義では、スポーツがどこから来たのか、どこに向けて進んでいるのかを見据えながら、私たちは、未来に向けて何ができるのかを考えてゆくための基礎的知識の獲得を目指します。ここでは、主として17世紀後半から第2次世界大戦までを主として取り扱い、概観して行きます。</p> | | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | | |
| <p>スポーツがどの様に行われ、発展してきたのかをその時代背景と絡め合わせながら理解してゆきます。その基礎知識をベースとしながら現代のスポーツ現象を捉え、スポーツが今後どうあるべきかを考える基礎的能力を身につけます。</p> | | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | | |
| <p>基本的には教科書を用いて授業を進めます。必要に応じて資料としてプリントも配布して使用します。毎回、ミニテストを行いません。</p> | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | | |
| 1 | ガイダンス | 歴史を学ぶ意義について、スポーツ史とは何かについて理解します。 | | | | | 正しい選択をするためにはどうしたらよいかを考え、まとめます。(4時間) | | | | | |
| 2 | 人類の進化とスポーツ | 人類の進化が身体文化としてのスポーツの発生にどの様に寄与したかを考えます。文書資料が存在しない時代のスポーツ史について現住する自然民族のスポーツの状況から読み解きます。 | | | | | 人類の進化における4つの出来事とスポーツの発生についてまとめます。(4時間) | | | | | |
| 3 | 古代の体育・スポーツ | 古代ギリシア・ローマの体育・スポーツとオリンピア競技について学びます。 | | | | | 古代ギリシアとローマの体育・スポーツの違いについてまとめます。(4時間) | | | | | |
| 4 | 中世の体育・スポーツ | 中世ヨーロッパにおいてどのような身体訓練やスポーツ活動が行われていたのかをその時代背景を理解しながら学びます。 | | | | | 中世に行われていたスポーツと現代のスポーツとを関連させて考え、まとめます。(4時間) | | | | | |
| 5 | 日本中世の体育・スポーツ | 日本における古代スポーツから中世におけるスポーツの変化について概観します。 | | | | | 当該時期にどのようなスポーツが行われていたのか、現代行われているスポーツと比べ、まとめよう。 | | | | | |
| 6 | ルネッサンスと体育・スポーツ | ルネッサンス期における体育思想を理解します。 | | | | | 時代の変化と体育思想の関係についてまとめます。(4時間) | | | | | |
| 7 | 日本近世の体育・スポーツ | 武士の体育・スポーツと近世の養生思想について学びます。 | | | | | 近世日本の養生論を現代と結び付けてまとめます。(4時間) | | | | | |
| 8 | 国民国家の形成と近代体育の成立について(1) | 近代教育思想と体育について学びます。 | | | | | 啓蒙思想の果たした役割についてまとめます。(4時間) | | | | | |
| 9 | 国民国家の形成と近代体育の成立について(2) | 汎愛主義と学校体育の実践について学びます。 | | | | | 汎愛主義と学校体育への影響についてまとめます。(4時間) | | | | | |
| 10 | 国民国家の形成と近代体育の成立について(2) | 国民国家と学校体育の関係について学びます。 | | | | | 国民国家の成立が学校体育にどのような影響を及ぼしたかをまとめます。(4時間) | | | | | |
| 11 | 近代スポーツの発達と近代オリンピックの創始 | パブリック・スクールのスポーツと近代スポーツの普及について学びます。 | | | | | パブリック・スクールでスポーツが取り入れられた意義についてまとめます。(4時間) | | | | | |
| 12 | 日本近代学校体育の成立 | 日本近代学校体育の成立過程について学びます。 | | | | | 時代背景と日本の近代学校体育成立過程の関係についてまとめます。(4時間) | | | | | |
| 13 | 近代スポーツの移入について | 欧米近代スポーツの日本への移入について学びます。 | | | | | どのように日本で近代スポーツが広がって行ったかをまとめます。(4時間) | | | | | |
| 14 | 近代体育・スポーツの展開 | アマチュアリズムとプロフェッショナルリズムについて学びます。 | | | | | アマチュアリズムの発生と影響についてまとめます。(4時間) | | | | | |
| 15 | まとめ | 時代背景がスポーツに及ぼす影響を考えながら、スポーツ文化をどのように展開することが望まれるのかを考えます。 | | | | | 正しい判断と歴史学習の意義についてまとめます。(4時間) | | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「体育・スポーツ史概説」木村吉次 編著(市村出版) ISBN:978-4-902109-19-1(生協で購入してください。) | | | | | 定期試験:70% レポート:30% S:95点以上 A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「スポーツ史講義」稲垣正浩・谷釜了正著(大修館書店) ISBN:4-469-26299-4 「現代史を学ぶ」沢内謙著(岩波新書394) ISBN:4-00-430394-X | | | | | 現代のスポーツ、未来のスポーツの在り方を考えながら授業に臨んでみましょう。 講義計画に該当する内容をテキストから探し、読んでおいてください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|------|--|----------------|---|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツと法 | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL26035 | 研究室 | S-18 |
| 担当者 | 新井 喜代加 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | 日体協 [※] 指、日体協 [※] マツ、中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツと法は密接な関係にあり、とりわけスポーツが高度化と大衆化と二極化している現代において、その関係はより広くより深くなっています。これに伴いスポーツに関する法は増加・多様化しており、スポーツ法学の対象も多岐に渡ります。本講義では、スポーツの普及・振興に関わる基本的課題をはじめ、暴力・体罰、ジェンダーとスポーツ、障害者スポーツ等、人権に関わる現代的課題、さらにスポーツ事故の法的責任等、スポーツと法が関わるテーマを取り上げます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| (1) スポーツと法の関わりを認識できる (2) スポーツに関する問題・課題を法的視点から捉えることができる (3) 実際に身の回りで生じているスポーツに関する問題を法的視点から検討することができる | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本講義は、配布資料(レジメ)に沿って進めます。授業のテーマに関連する法が出てきた際には、スポーツ六法で確認します。また、スポーツに関する問題・課題を扱った新聞記事等もテキストとして積極的に取り上げます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業のねらい、授業内容、評価方法、詳細な留意事項等について解説します | | | | 事前：シラバスを読む/事後：本授業のルールと配布資料の内容を確認する(4時間) | | | | |
| 2 | スポーツ法の概説 | レジメに沿って、スポーツ国家法、スポーツ固有法、スポーツ国際法について解説します | | | | 事前：テキスト「序説」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 3 | スポーツ権と法 | レジメに沿って、国際憲章、国内のスポーツ権論について解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】1スポーツ基本法」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 4 | スポーツ振興と法 | レジメに沿って、スポーツ振興法、スポーツ基本法、諸外国のスポーツ振興関連法について解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】2スポーツの行政と政策」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 5 | スポーツ団体と法 | レジメに沿って、団体自治の原則、罪刑法定主義、処分・制裁・救済について解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】3スポーツ関係団体」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 6 | ドーピングと法 | レジメに沿って、世界アンチ・ドーピング条約、世界アンチ・ドーピング機構、日本アンチ・ドーピング機構について解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】1スポーツ基本法」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 7 | 暴力・体罰とスポーツ法 | レジメに沿って、懲戒権、公務員上の責任、民事責任、刑事責任について解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】9スポーツ事故」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 8 | ジェンダーとスポーツ法1 | レジメに沿って、女性差別撤廃条約、ブライトン宣言、タイトル について解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】6スポーツの享受と平等」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 9 | ジェンダーとスポーツ法2 | レジメに沿って、セクシャル・ハラスメント、トランス・ジェンダー競技者の参加資格について解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】6スポーツの享受と平等」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 10 | 障害者とスポーツ法 | レジメに沿って、障害者スポーツに関する国際規定、国内外における障害者スポーツに関する法について解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】6スポーツの享受と平等」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 11 | スポーツ事故と法的責任1 | レジメに沿って、道義的責任、法的責任、スポーツ指導者・管理者の注意義務について解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】9スポーツ事故」を読む/事後：テキスト752-754頁を読む(4時間) | | | | |
| 12 | スポーツ事故と法的責任2 | レジメに沿って、法的責任の減免、免責同意書、危険引き受けの原則について解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】9スポーツ事故」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 13 | スポーツ事故と法的責任3 | レジメに沿って、損害賠償、スポーツ保険、災害共済給付制度について解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】11スポーツの補償」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 14 | スポーツ事故と法的責任4 | レジメに沿って、スポーツのリスクマネジメントについて解説します | | | | 事前：テキスト「【解説】12スポーツの安全管理」を読む/事後：配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 授業の総括として模試を実施します | | | | 事前：試験勉強をする/事後：試験勉強をする(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「標準テキストスポーツ法学」日本スポーツ法学会監修著浦川道太郎・吉田勝光・石堂典秀・松本泰介・入澤充編(イデール研究所) ISBN:978-4-87168-580-1(生協で購入してください。) | | | | 定期試験：50% 出席レポート：40% 課題：10% 出席レポート(40%)は第1回が1点、第2～14回が各3点です。評価基準は次の通りです。S：授業内容を十分理解し、批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、難解な応用問題が解ける/A：授業内容を理解し、探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、応用問題が解ける/B：授業内容を大体理解し、積極的に課題に取り組み、授業で出題したレベルの問題が解ける/C：授業内容を大体理解し、課題に取り組み、基本問題が解ける | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「導入対話によるスポーツ法学〔第2版〕」井上洋一・小笠原正・川井圭司・齋藤健司・諏訪伸夫・濱野吉生・森浩寿編(不磨書房) ISBN:978-4-7972-8541-3 | | | | 積極的な態度で授業に臨み、授業で学習したことを必ず復習して下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------------|---|------|--|----------------|---|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツマネジメント論 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SL26036 | 研究室 | S-18 |
| 担当者 | 新井 喜代加 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスア- | 火曜日5限 | | |
| 関連資格 | レ・コディ(通常)、日体協指、日体協アサネ、中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツマネジメントは、現場における実践との連携を重視する学問であり、スポーツの多くの場面に関係してきます。本講義では、スポーツマネジメントの基礎理論を理解し、総合型地域スポーツクラブのマネジメントについて検討します。また、昨今、注目されているリスクマネジメントの視点から、学校およびスポーツ関係組織におけるスポーツのマネジメントについて検討します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツマネジメントの理論および実践的方法について理解し、スポーツに関する事象についてマネジメントの側面から捉えることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| できる限りテキストに従って講義を進めていきます。また、講義に関連する新聞記事等もテキストとして取り上げます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業のねらい、授業内容、評価方法、詳細な留意事項等について解説します | | | | 事前：シラバスを読む/事後：本授業のルールと配布資料の内容を確認する(4時間) | | | | |
| 2 | スポーツマネジメントの基礎知識1 | テキストを用いて、スポーツ組織のマネジメントについて解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 3 | スポーツマネジメントの基礎知識2 | テキストを用いて、スポーツ組織の人材マネジメント、スポーツボランティアのマネジメントおよびスポーツ組織の財務について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 4 | スポーツマネジメントの基礎知識3 | テキストを用いて、スポーツ組織のプロダクト、サービスの特性、スポーツサービスに特有の機能及びホスピタリティについて解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 5 | スポーツマネジメントの基礎知識4 | テキストを用いて、事業のマーケティングおよびマーケティング調査と必要な情報分析について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 6 | スポーツマネジメントの基礎知識5 | テキストを用いて、マーケティングの活動手順およびマーケティング・ミックスの決定について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 7 | 総合型地域スポーツクラブの育成と運営1 | テキストを用いて、総合型地域スポーツクラブづくりの背景、創設および自主運営に必要な条件について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 8 | 自己点検(中間チェック) | 第1~7回までの授業の復習として、個々人が試験の予想問題および解答を作成します(アクティブラーニングの実施) | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 9 | 総合型地域スポーツクラブの育成と運営2 | テキストを用いて、顧客とスタッフの定義およびNPO法人格の取得手続について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 10 | 総合型地域スポーツクラブの育成と運営3 | テキストを用いて、ボランティアスタッフの確保、活動拠点の確保、指定管理者制度、財源の確保について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 11 | 体育およびスポーツのリスクマネジメント1(グループプロジェクト) | グループプロジェクトについて解説し、グループを決定します | | | | 事前：テキストの第1章を読む/事後：グループで取り組む課題を検討する(4時間) | | | | |
| 12 | 体育およびスポーツのリスクマネジメント2(グループプロジェクト) | 体育およびスポーツのリスクマネジメントに関する概念を解説し、グループで取り組む課題を決定し、それに関する資料を収集します | | | | 事前：テキストの第1章を再読する/事後：グループの課題に取り組み(4時間) | | | | |
| 13 | 体育およびスポーツのリスクマネジメント3(グループプロジェクト) | グループレポートのアウトラインを作成し、進捗状況を報告します | | | | 事前：グループの課題に取り組み/事後：グループレポートを執筆する(4時間) | | | | |
| 14 | 体育およびスポーツのリスクマネジメント4(グループプロジェクト) | グループレポートをまとめ、互いのレポートを読み、提出します | | | | 事前：グループレポートの内容を確認する/事後：リスクマネジメントについて復習する(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 授業の総括として模試を実施します | | | | 事前：試験勉強をする/事後：試験勉強をする(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目(第12刷)」公益財団法人日本体育協会編(別途、指示します。)講義にてレジュメとして配布します。 | | | | 定期試験：50% 出席レポート：40% 課題：10% 出席レポート(40%)は第1回が1点、第2~14回が各3点です。評価基準は次の通りです。S：授業内容を十分理解し、批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、難解な応用問題が解ける/A：授業内容を理解し、探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、応用問題が解ける/B：授業内容を大体理解し、積極的に課題に取り組み、授業で出題したレベルの問題が解ける/C：授業内容を大体理解し、課題に取り組み、基本問題が解ける | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「よくわかるスポーツマネジメント」柳沢和雄ほか編(ミネルヴァ書房) ISBN: 978-4-623-08014-4 「体育・部活のリスクマネジメント」小笠原正・諏訪伸夫編(信山社) | | | | 積極的な態度で授業に臨み、授業で学習したことを必ず復習してください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--------------|---|------|------|----------------|--|----------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツメディア論 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパ`リ`ン`グ | SB26037 | 研究室 | S-14 |
| 担当者 | 等々力 賢治 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | ウイ`ス`ワ`ー | 水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 隔年開講（2018年度開講せず）。 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義では、スポーツとメディアの関わりについて、その歴史の概略を理解し、相互依存を極限まで高めつつある今日のテレビとスポーツの関係についても、高騰する放映権料を例に分析します。また、今日のスポーツがメディア抜きに語れないものであるという観点に立って、両者の関わりを功罪両面から分析し把握した上で、スポーツ・ジャーナリズムの意義や重要性についても知識を深めます。また、よく分からなかったところについては「受講票」に記載してもらい、次時に回答、説明し理解をより深める一助とします。 | | | | | | | | | | |
| 学習到達目標 | | | | | | | | | | |
| 本講義の学習到達目標は、まず、スポーツとメディアの関係性について、英国における新聞とサッカー、我が国におけるラジオと野球等を例に理解することです。また、テレビとオリンピックを例に両者の相互依存関係とそれに伴う問題点について理解を深め、インターネット全盛時代におけるスポーツとメディアのあり方について自分なりの意見や見解を持てるようになることも到達目標にします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本講義では、新聞記事などを使ってスポーツとメディアの歴史的な関わりを具体例を見、近年頻繁に起こっているルール改変などスポーツの変容とそれに伴う諸問題を明らかにします。また、インターネットの普及・拡大とスポーツの関わりについても追究します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本講義の進行計画・展開及び評価方法等を確認します。 | | | | 事前：シラバスに目を通しておく。事後：配布資料にある各時間の講義内容を確認する。（4時間） | | | | |
| 2 | スポーツメディアとは | メディアとはなにか。よく耳にする言葉ですが、その定義は明確には認識されていないのではないのでしょうか。大量情報とその媒介・伝達者であるとされますが、それを、スポーツに関わって的確に把握します。 | | | | 事前：配布資料をよく予習しておく。事後：類義語を調べ、その違いについて整理する。（4時間） | | | | |
| 3 | スポーツと新聞メディア | 18世紀英国における新聞とサッカーの関係を例に、前者の技術発展と後者の様式の発展と統一を、産業革命に伴う鉄道網の発達、そして新聞販売部数の拡大と観戦者数の増加という相互依存関係の視点から見ます。 | | | | 事前：18世紀英国について調べておく。事後：配布資料を参考にルールの変遷を調べる。（4時間） | | | | |
| 4 | 高校野球と新聞社 | 我が国における新聞社と野球の関係について、まず、朝日新聞社による「野球害毒論」報道と、その後の甲子園大会の創設と後援等を例に概観します。また、読売新聞社のプロ野球創設についても扱います。 | | | | 事前：「野球害毒論」について調べておく。事後：新聞社の後援イベントを調べ整理する。（4時間） | | | | |
| 5 | 我が国スポーツ新聞の特性 | 前時で扱った新聞社と野球の密接な関わり方は、日本独自のものであり、大会運営では評価されます。が、他方、その問題点を報ずることに消極的になるなど、批判的ジャーナリズムの不在にも通じています。 | | | | 事前：批判的ジャーナリズムを調べておく。事後：各社の野球報道姿勢を比較して調べる。（4時間） | | | | |
| 6 | ラジオと野球の大衆化 | ラジオの出現は、実況中継という形でスポーツの躍動感をリアルに伝えることを可能にしました。それは、スポーツの大衆化を促すと共に、ラジオの販売数の増加、普及に繋がっていくことにもなったのです。 | | | | 事前：ラジオのスポーツ報道を直に聞いてみる。事後：ベルリン大会の実況中継を調べる。（4時間） | | | | |
| 7 | ラジオ体操の普及と国家 | 身体活動の普及という点でラジオ体操は特異な歴史を有しますが、それについて、同一動作と時間の強制的な一致による「国民身体の囲い込み」という観点から明らかにします。 | | | | 事前：ラジオ体操の普及状況を調べておく。事後：戦時下のスポーツについて調べる。（4時間） | | | | |
| 8 | 活字媒体と電波媒体の比較 | 新聞とラジオというメディアについて、スポーツ報道におけるそれぞれの特徴を、蓄積性や同時性といった観点で比較し明らかにします。また、放送番組としてのスポーツの価値向上についてみます。 | | | | 事前：これまでの配付資料を復習しておく。事後：ラジオの実況中継を聞いて論述する。（4時間） | | | | |
| 9 | 街頭テレビとプロレス | 我が国でテレビが普及するのは1950（昭和25）年頃からですが、その様子について、ビデオ「街頭テレビとプロレス中継」を使い紹介します。それを参考に、テレビのリアルティとはなにか明らかにします。 | | | | 事前：テレビの普及史を調べる。事後：視聴したビデオについてレポートにまとめる。（4時間） | | | | |
| 10 | オリンピックの商業主義化 | 第二次大戦後、世界的にテレビによるスポーツ中継が進みますが、それを決定づけたのが1984年のロサンゼルス・オリンピックでした。このことについて、オリンピックの商業主義化との関係からみます。 | | | | 事前：近代オリンピック史を調べておく。事後：ピーター・ユベロスについて調べる。（4時間） | | | | |
| 11 | 高騰するテレビ放映権料 | ロサンゼルス大会を機にオリンピックの商業主義化が進み、テレビ放映権料が収入の三本柱の一つとなりました。以後、最も安定した収入源として重視され、次第に高騰していく過程を明らかにします。 | | | | 事前：スポーツの商業主義化について調べておく。事後：配付資料をよく読んで復習する。（4時間） | | | | |
| 12 | テレビ・マネーの功罪 | テレビ放映権料は次第に高騰していき、やがて、あまりの高額ゆえに「テレビ・マネー」と称されるようになります。それは、スポーツ界を潤すと同時に、様々な問題も惹起することになりました。 | | | | 事前：オリンピックのテレビ放映権料を調べておく。事後：ルールの変更事例を調べる。（4時間） | | | | |
| 13 | IT時代のスポーツ | 近年、発展目覚ましいインターネットは、テレビの同時性と新聞の蓄積性という特徴を合わせ持ちます。さらに重要なのは、双方向性です。それが、スポーツにどのような影響を及ぼすか考えてみます。 | | | | 事前：活字・電波両媒体の特徴を整理しておく。事後：インターネットの影響を調べる。（4時間） | | | | |
| 14 | 地域スポーツとメディア | 近年、各分野でグローバル化が著しいのですが、一方、地域スポーツとローカルメディアの関係もまた注目されるようになってきました。その背景を、グローバル化への対抗という視点から明らかにします。 | | | | 事前：グローバル化について予習しておく。事後：身近な地域スポーツについて調べる。（4時間） | | | | |
| 15 | スポーツとメディアの今後 | 講義のまとめとして、極めて密接な関係を築いてきたスポーツとメディアについて、それを相対化しよりよい方向性を展望します。また、メディア・リテラシーとスポーツ・リテラシーの関係性を確認します。 | | | | 事前：一連の講義内容をまとめておく。事後：両者の今後の方向性について述べてみる。（4時間） | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| テキストは使用せず、新聞の切り抜きやビデオなどを使用して進めます。 | | 定期試験：70% レポート：15% 出席レポート：15% 成績評価は上記3つの要素を合わせて行います。評価基準は次のとおりです。 S:各週の講義内容を関連づけて理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢で取り組み、講義外の課題も理解し解決方法を示すことができる。A:講義内容を理解し、積極的な探求姿勢で課題に取り組み理解できる。B:講義内容の大凡を理解し課題に関心を寄せることができる。C:講義内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | | | |
| 「グローバル化と日本のスポーツ」等々力賢治著（創文企画） ISBN：978-4-86413-032-5 他 他にも関連書籍が沢山出版されています。積極的に読んでみてください。 | | スポーツとメディアの関わりを理解する材料は、週末に開催、放映される各種競技会など沢山あります。そうしたものをただ漫然と眺めるのではなく、事前学習の一端として、講義内容と結び付けて理解するよう心がけてください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|---|--|----------------|------|--|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 地域社会とスポーツ | | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SB26038 | 研究室 | S-18 |
| 担当者 | 新井 喜代加 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスア- | 火曜日5限 | | |
| 関連資格 | 日体協 [※] 指、日体協 [※] マテ | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 地域社会においてスポーツのあり方は多様化している。本講義では、地域社会におけるスポーツの持つ2つの機能すなわち目的・手段的機能を理解し、地方自治体によるスポーツ行政をはじめ、地域スポーツクラブの施策と運営、地方自治体によるスポーツ産業振興等について検討します。また、具体例を通じて、地域社会におけるスポーツのあり方について検討します。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 地域社会におけるスポーツのあり方を理解し、それに関する課題について検討することができる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| できる限りテキストに従って講義を進めていきます。また、講義に関連する新聞記事等もテキストとして取り上げます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業のねらい、授業内容、評価方法、詳細な留意事項等について解説します | | | | | 事前：シラバスを読む/事後：本授業のルールと配布資料の内容を確認する(4時間) | | | | |
| 2 | 地域社会におけるスポーツのあり方 | テキストを用いて、地域社会におけるスポーツの機能について解説します | | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 3 | 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり | テキストを用いて、日本におけるスポーツ振興に関わる代表的な法令、中央スポーツ行政組織および地方スポーツ行政組織について解説します | | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 4 | 都道府県の総合計画とスポーツ政策 | テキストを用いて、都道府県の総合計画および総合計画におけるスポーツ関連方策について解説します | | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 5 | スポーツクラブと総合型地域スポーツクラブ | テキストを用いて、スポーツクラブの種類および総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義について解説します | | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 6 | 総合型地域スポーツクラブ | テキストを用いて、「スポーツライフ」と「クラブライフ」および総合型地域スポーツクラブの設立と運営について解説します | | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 7 | スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブ | テキストを用いて、スポーツ少年団の組織づくり、スポーツ少年団の活動と内容およびスポーツ少年団を核とした総合型地域スポーツクラブについて解説します | | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 8 | 自己点検(中間チェック) | 第1~7回までの授業の復習として、個々人が試験の予想問題および解答を作成します(アクティブラーニングの実施) | | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 9 | スポーツ産業の振興策 | テキストを用いて、スポーツ産業、スポーツ産業の生成と発展、スポーツ産業をめぐる法整備およびスポーツ産業の振興策について解説します | | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 10 | 地方自治体によるスポーツ産業振興 | テキストを用いて、地方自治体によるスポーツ産業振興をスポーツを用いた地域産業の振興と捉え、プロスポーツの誘致とスポーツイベントの誘致について解説します | | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 11 | プロジェクト1/4 | 討議を通じて個々人が興味のある歴史上の人物について理解を深めます(アクティブラーニングの実施) | | | | | 事前：興味のある歴史上の人物を調べる/事後：興味のある歴史上の人物を調べる(4時間) | | | | |
| 12 | プロジェクト2/4 | 討議を通じて個々人の生まれ育った地域における問題・課題について検討します(アクティブラーニングの実施) | | | | | 事前：地域の問題・課題を調べる/事後：地域の問題・課題について理解する(4時間) | | | | |
| 13 | プロジェクト3/4 | 興味のある歴史上の人物に架空のインタビューを実施し、個々人の生まれ育った地域における問題・課題を運動・スポーツを用いて解決する方法を探ります(アクティブラーニングの実施) | | | | | 事前：インタビュー構成を考える/事後：インタビューを構成・執筆する(4時間) | | | | |
| 14 | プロジェクト4/4 | 興味のある歴史上の人物に架空のインタビューを実施し、個々人の生まれ育った地域における問題・課題を運動・スポーツを用いて解決する方法を発表します(アクティブラーニングの実施) | | | | | 事前：インタビューを完成させる/事後：プロジェクトを提出する(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 授業の総括として模試を実施します | | | | | 事前：試験勉強をする/事後：試験勉強をする(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 必要に応じて資料を配布します。 | | | | 定期試験：50% 出席レポート：35% 課題：15% 評価基準は次の通りです。S：授業内容を十分理解し、批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、難解な応用問題が解ける/A：授業内容を理解し、探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、応用問題が解ける/B：授業内容を大体理解し、積極的に課題に取り組み、授業で出題したレベルの問題が解ける/C：授業内容を大体理解し、課題に取り組み、基本問題が解ける | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目(第10刷)」公益財団法人日本体育協会編 地方自治体のスポーツに関連する内容を扱います。 「スポーツ政策論」菊幸一他編(成文堂) ISBN:978-4-7923-8067-0 | | | | 積極的な態度で授業に臨み、授業で学習したことを必ず復習してください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------|--|------|------|----------------|--|-----------------|---------|-----|------|
| 科目名 | プロ・スポーツ論 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SB26039 | 研究室 | S-14 |
| 担当者 | 等々力 賢治 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | ウイスキー | 水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | 隔年開講（2019年度開講）。 | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義では、英米両国のプロ・スポーツの歴史を辿った上で、両者を比較して特徴を明らかにします。また、今日のプロ・スポーツについて、財政的・組織的構造や特徴、問題点などについて学び、それと比較しつつ我が国におけるプロ・スポーツの現状を分析し、今後の可能性について考えます。よく分からなかった内容については「受講票」に記載してもらい、次時にそれについて回答、説明することを通じていくその内容理解を図ります。また、提出したレポートは添削し返却するよう努めます。 | | | | | | | | | | |
| 学習到達目標 | | | | | | | | | | |
| 本講義における学習到達目標は、プロ・スポーツ史の概略並びに英米両国の組織的相違点と、今日のプロ・スポーツにおける基本的な組織的・財政的構造などについて、関連する用語なども含め理解することです。また、近年著しいプロ化の背景を分析した上で、今後さらに発展していくために必要な事柄について自己の意見や見解を持つことも到達目標にしています。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本講義では、プロ・スポーツの歴史を辿った上で、今日的な状況を新聞の切り抜きなどを使って概観し、関連資料によって組織的・財政的構造について学習します。また、可能であれば、松本山雅が信濃グランセローズ関係者の話を伺うことも考えています。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本講義の進行計画・展開及び評価方法等を確認します。 | | | | 事前:シラバスに目を通しておく。事後:配付資料にある各時間の講義内容を確認する。(4時間) | | | | |
| 2 | プロ・スポーツとは | プロ・スポーツとはなにか。古代オリンピックでもあった金銭の授受のみでなく、ゲームを商品とするリーグ戦など日常的・組織的な経済活動と捉えられます。プレイヤーの状況やリーグの形態も様々です。 | | | | 事前:古代オリンピックについて調べておく。事後:プロ・スポーツについて調べてみる。(4時間) | | | | |
| 3 | 「する者」と「みる者」の分離 | 産業革命の進展は大量の労働者を輩出し、その中から多数の「みる者」と「する者」を生み出しますが、やがて両者は分離し、後者はプロ成立の必要条件である観戦者化=大量消費者化へと繋がっていきます。 | | | | 事前:英国の産業革命について調べておく。事後:プロ成立の諸条件について整理する。(4時間) | | | | |
| 4 | 産業革命とサッカーの成立 | 英国におけるサッカーのプロ化を取り上げ、プロ・スポーツの成立過程を概観します。産業革命に伴って鉄道網が発達し、地域クラブ間交流が活発化してルールと組織が統一され今日のサッカーへと至ります。 | | | | 事前:サッカールールの変遷史を調べておく。事後:サッカーの発展史を整理してみる。(4時間) | | | | |
| 5 | 英国型と米国型の比較 | 英国のプロ・サッカーの「ホームタウン制度」に対し、米国の野球などは、当初からビジネス化し収益の確保・拡大を目指して「フランチャイズ制度」を敷いています。両者を比較し特徴を明らかにします。 | | | | 事前:米国のプロ・スポーツについて調べておく。事後:野球の成立・普及史を調べる。(4時間) | | | | |
| 6 | 参入障壁と戦力均衡の追求 | 前時で扱った「フランチャイズ制度」は、ビジネスとしてのプロ・スポーツを象徴するシステムです。参入障壁によって他者の安易な参入を許さず、他方、活力維持のために戦力均衡を図らねばなりません。 | | | | 事前:プロ・スポーツと一般企業の違いを調べておく。事後:参入障壁の実態を整理する。(4時間) | | | | |
| 7 | プロ・スポーツの収支構造 | プロ・スポーツ組織の財政構造を、具体的な収入項目と支出項目を挙げながら分析します。その際、「リーグ分担金」と「リーグ配分金」に注目し、それを「共存共栄」及び「戦力均衡」と結び付けて理解します。 | | | | 事前:プロ・スポーツの観客数について調べておく。プロ野球とリーグを財政比較する。(4時間) | | | | |
| 8 | 財としてのプロ・スポーツ | ゲームを商品とするプロ・スポーツは、基本的にはサービス財を扱うビジネスです。したがって、選択財と最終消費財という性格を免れ得ず、その収支状況もまた不安定にならざるを得ません。 | | | | 事前:物財とサービス財の特徴について調べておく。事後:不安定性の克服策を考える。(4時間) | | | | |
| 9 | プロ化の必然性と現状 | これまで扱ったプロ・スポーツに関する知識を踏まえ、1990年代半ば以降の目覚ましいプロ化の動向について、国際競技力の向上を背景とする必然性という観点から分析し、我が国における可能性を探ります。 | | | | 事前:近年プロ化した事例を調べてみる。事後:スポーツの高度化についてレポートする。(4時間) | | | | |
| 10 | スポーツ発展の牽引者 | 近年、我が国では、サッカーのJリーグを筆頭に種々のスポーツでプロ化が進んできました。その運営は容易ではありませんが、スポーツの発展という観点から、その意義と役割を明らかにします。 | | | | 事前:バスケットボール界の動向を調べる。事後:大衆化と高度化の関係を整理する。(4時間) | | | | |
| 11 | プロ・スポーツの困難点 | プロ・スポーツの維持・運営は容易ではありませんが、それを、高額な人件費と初期投資などの財政面、競合相手の増加といった面などから分析し、今後のさらなる発展を見すえて対策を考えてみます。 | | | | 事前:プロ・プレイヤーの年俵を調べ比較しておく。事後:配付資料を整理しまとめる。(4時間) | | | | |
| 12 | セカンドキャリア問題 | アマ・プロを問わず、プレイヤーは肉体的な限界から活動を離れることを余儀なくされます。そうした実態を、選手寿命と引退年齢から明らかにすると共に、引退後のセカンドキャリア問題について考えます。 | | | | 事前:プロ・プレイヤーの引退について調べておく。事後:JリーグのCSCについて調べる。(4時間) | | | | |
| 13 | トリプルミッション | これまでの講義で扱ったように、プロ化が著しい反面、その運営には様々な困難が伴います。それを克服するには、勝利・普及・市場の三つのミッションをバランスよく追求することが不可欠です。 | | | | 事前:プロ化に際する困難点を整理しておく。事後:GMの位置づけと役割について調べる。(4時間) | | | | |
| 14 | 地域プロ・スポーツの意義 | 近年著しいプロ化に関わって言われるのが「地域密着」「地域貢献」です。それは、「ホームタウン制度」と「フランチャイズ制度」の両特性を持ち、地域プロ・スポーツ発展の要石なのです。 | | | | 事前:「地域密着」「地域貢献」を調べる。事後:我が国スポーツ体制についてレポートする。(4時間) | | | | |
| 15 | フロントランナーとして | 今後もスポーツのプロ化は不可避であり、その価値を高めていくことが求められます。その一環として、ドーピングや八百長の否定、社会貢献活動への取組などが、個々のプレイヤーには求められます。 | | | | 事前:一連の講義内容をノートにまとめる。事後:ドーピングや八百長の事例をまとめる。(4時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| テキストは使用せず、新聞の切り抜きやビデオなどを使用して進めます。 | | 定期試験：70% レポート：15% 出席レポート：15% 成績評価は上記3つの要素を合わせて行います。評価基準は次のとおりです。 S:各週の講義内容を関連づけて理解し、探求姿勢をもって取り組み、講義外の課題も理解することができる。A:講義内容を理解し、積極的な探求姿勢で課題に取り組み理解できる。B:講義内容の大凡を理解し、課題に誠実に取り組み関心を寄せることができる。C:講義内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | | | |
| 「プロ・スポーツ論」内海和雄著（創文企画） ISBN：4-921164-25-8 他プロ・スポーツ関連書籍は、おもしろく読めるものが沢山出版されていますので、是非とも手にしてみてください。 | | 今日のプロ化の背景にはテレビ放映権料の高騰があります。したがって、可能な限り2年前期科目である「スポーツメディア論」を履修しておいてください。また、事前に、関連するテレビ報道や新聞記事などに目を向けてください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-----------------|--|--|--------|------|---|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツビジネス論 | | 学年学期 | 3・4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SB36040 | 研究室 | S-14 |
| 担当者 | 等々力 賢治 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | ウイスキー | 木曜日3限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義は、各種スポーツ産業を例に、スポーツビジネスに関する基礎的な用語や概念を習得し、その現状と果たすべき役割などについて理解を深めます。また、スポーツビジネスの構造や特性を明らかにし、バブル経済崩壊後の長期不況の中で縮小・停滞を余儀なくされている現状を分析し、健闘している分野を鳥瞰し今後の発展方策を探ります。その上で実際に、3人~5人でグループをつくり、関連企業を訪問調査しレポートにまとめ、発表し討議に付します。なお、レポート作成の過程では、適宜アドバイス、添削を行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 本講義の学修到達目標は、スポーツビジネスに関連する基礎的な用語や概念を理解、習得し、さらに、その構造と特性について理解することです。加えて、現状を把握するために企業を訪問調査し、レポートにまとめること、そして、それを発表し討議することを通じて理解を深めることも到達目標にしています。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本講義は、まず、『レジャー白書』などを使ってスポーツビジネスの現状に対する理解を深め、フィットネスクラブやスポーツ観戦などの市場構造や現状を具体的に把握、検討します。その上で、身近なスポーツ企業をグループで訪問調査しレポートにまとめます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本講義の進行計画・展開及び評価方法等を確認します。 | | | | 事前:シラバスに目を通しておく。事後:配布資料にある各時間の講義内容を確認する。(4時間) | | | | |
| 2 | スポーツビジネスとは | スポーツビジネスとは、スポーツを商品として扱い利益を得ることを目的とする行為、活動です。それを具体的に担うのがスポーツ産業であり、スポーツに関わる「モノ・場・サービス」の提供者であるのです。 | | | | 事前:ビジネスという概念を調べておく。事後:モノとサービスについて整理してみる。(4時間) | | | | |
| 3 | スポーツ市場規模の推移 | 我が国におけるスポーツ市場規模を見ると、1980年に3兆円でしたが90年には約6兆円に急成長し、その後は、バブル経済崩壊に伴う長期不況下で4兆円前後で推移してきています。 | | | | 事前:前時の配布資料をよく読んでおく。事後:資料の種目別規模の推移をグラフ化する。(4時間) | | | | |
| 4 | スポーツ市場領域の広がり | スポーツビジネスとはスポーツに関わる「モノ・場・サービス」の提供者であり、それゆえ対象領域は極めて広いのです。加えて、異業種からの参入によってハイブリッド性が大きな特徴となっています。 | | | | 事前:ハイブリッドの意味を調べておく。事後:ゴルフを例に領域の多様性を確認する。(4時間) | | | | |
| 5 | 時間消費・立地重視型産業 | スポーツ活動に、一定の時間と場所が不可欠であるのは多言を要しません。したがって、関連産業(ビジネス)もまた同様であり、時間消費型・立地重視型産業という特性を不可避的に備えることとなります。 | | | | 事前:産業特性という用語を調べておく。事後:特性を、実際のスポーツで確認してみる。(4時間) | | | | |
| 6 | スポーツ財(商品)の概要 | 3時限目に配布した資料に基づいて、スポーツ財を物財とサービス財に分類し、それぞれの規模と推移を把握します。加えて、この他に、する場所=スポーツスペースや公営ギャンブルといった領域が存在します。 | | | | 事前:3時限目の資料に目を通し確認しておく。事後:競馬など公営ギャンブルを調べる。(4時間) | | | | |
| 7 | スポーツ需要の概要 | 一般的に、市場を構成するのは、これまで扱った産業=供給者と商品、そして需要です。本時は、スポーツ需要=消費者の二極化とアクティブ派の増加という観点から見、前者の解決策を探ります。 | | | | 事前:市場の構成要素について学んでおく。事後:アクティブ派の増加の影響を調べる。(4時間) | | | | |
| 8 | ゴルフ市場の規模と構造 | ゴルフ関連市場は、我が国のスポーツ市場の約35%を占めます。しかもそれは、クラブなどのモノ、プレーヤーなどのサービス、そしてゴルフ場というスペースなど多岐にわたり、大きな影響を及ぼします。 | | | | 事前:戦後のゴルフブームを調べておく。事後:身近なゴルフ練習場を訪れ利用してみる。(4時間) | | | | |
| 9 | フィットネス市場の構造 | フィットネスクラブは、1980年代に、我が国のスポーツ市場がサービス産業化を進めた際の象徴的な存在でした。それは、激化する競争環境下で、次々に新たな商品を開発して市場に投入してきています。 | | | | 事前:フィットネスクラブ史を調べておく。事後:身近な施設を訪れ実際に利用してみる。(4時間) | | | | |
| 10 | スポーツ観戦市場の構造 | スポーツ観戦市場は、プロ・スポーツ市場と同義です。最高のモノや場所=スペースを使い、最高のサービスを提供するプロ・スポーツは、スポーツ市場発展の牽引役ですが、現在はまた小粒です。 | | | | 事前:Jリーグの市場規模を調べておく。事後:戦後のプロ・スポーツ市場の推移を調べる。(4時間) | | | | |
| 11 | 関連企業への訪問調査準備 | 関連企業を訪問調査するにあたって、グループ、テーマ、調査内容、訪問対象・期日などを決定する必要があります。まずグループメンバーを確定した上で、それらの確認作業を進めます。 | | | | 事前:訪問企業の候補を各自考えておく。事後:対象企業にアポを取り訪問の了解を得る。(4時間) | | | | |
| 12 | 関連企業への訪問調査 | 前時で確認した諸項目に基づいて、訪問先にアポを取って説明し了解を得て訪問します。その際は、あらかじめ用意した質問内容を中心に聞き取りを行い、内容をメモ書きして後日整理します。 | | | | 事前:訪問先企業にアポを取って了解を得る。事後:聞き取った内容を整理しまとめる。(4時間) | | | | |
| 13 | 作成要領の確認と執筆 | レポート執筆にあたって、体裁や字数など必要な事項について共通に理解し、企業を訪問し聞き取った内容に基づいて実際に執筆を進めます。先立って、メンバー間で意見交換し統一性を持たせるよう努めます。 | | | | 事前:聞き取った内容を整理しておく。事後:執筆前に意見交換し統一性を持たせる。(4時間) | | | | |
| 14 | レポート報告と討議(1) | 執筆したレポートを基に、レジュメやパワーポイントを作成して発表に臨みます。発表時間10分、討議8分を目安に進め、論点を明確にして討議が積極的に進められるよう努めます。 | | | | 事前:発表者、司会、タイムキーパーを決めておく。事後:討議を参考に修正を加える。(4時間) | | | | |
| 15 | レポート報告と討議(2) | 執筆したレポートを基に、レジュメやパワーポイントを作成して発表に臨みます。発表時間10分、討議8分を目安に進め、論点を明確にして討議が積極的に進められるよう努めます。 | | | | 事前:前時の発表を参考に内容を修正する。事後:討議を参考に修正を加えて提出する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| テキストは使用せず、『レジャー白書』などの資料を適宜使って進めます。 | | | レポート:70% 小テスト:15% 出席レポート:15% 成績評価は、グループレポートの出来具合を中心に行います。評価基準は次のとおりです。S:調査内容が明確で、レポートもまとまって取り組み、報告会でも成果が明示されている。A:調査内容が明確であり、一貫性が担保され、成果が明示されている。B:調査の体をなし、分担して執筆されており、報告会でも成果が明示されている。C:レポートは規定の字数を満たしているが、調査が十分でないなど準備不足が垣間見える。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「スポーツMBA」広瀬一著(創文企画) ISBN:4-921164-44-4 他 スポーツ・ビジネスに関連する連する書籍は、国内外を問わず沢山出版されています。積極的に手にしてみてください。 | | | スポーツビジネスに対する興味・関心を大切に、グループで実際に訪問調査を行い、レポート化してもらうことを予定しています。したがって、そうしたことを厭わず、積極的に参加することを強く要望します。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---|--|------|--------|----------------|--------------------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ行政・政策論 | | 学年学期 | 3・4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SB36041 | 研究室 | S-18 |
| 担当者 | 新井 喜代加 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | レク・コティ(通常)、日体協スポーツ指、レク・コティ(教育)、日体協アスナ、スポーツレク指、中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 日本ではスポーツの普及・振興のために国及び地方レベルのスポーツ行政組織がそれぞれのスポーツ政策を実施しています。本講義では、国および地方レベルにおけるスポーツ行政・政策に関する制度、組織および施策等について理解を深めます。また、特定領域におけるスポーツ政策に関する問題・課題についても検討します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツ行政・政策に関する基本的知識を修得し、スポーツ行政・政策に関する問題・課題を検討することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| できる限りテキストに従って講義を進めていきます。また、講義に関連する新聞記事等もテキストとして取り上げます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業のねらい、授業内容、評価方法、詳細な留意事項等について解説します | | | | 事前：シラバスを読む/事後：本授業のルールと配布資料を確認する(4時間) | | | | |
| 2 | スポーツ行政・政策の研究 | スポーツ行政・政策に関する研究の意義、動向、課題等について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 3 | スポーツ行政・政策の組織 | 国及び地方レベルにおけるスポーツ行政組織について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 4 | スポーツ行政・政策の形成過程 | 国および地方レベルにおけるスポーツ政策の形成過程について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 5 | スポーツ行政・政策の財政 | スポーツ財政の意義、実態および課題について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 6 | スポーツの振興計画 | スポーツの行政計画の体系および実施について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 7 | スポーツ政策の主体と構造 | スポーツ政策ネットワークおよびスポーツ組織と行政のパートナーシップについて解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 8 | スポーツの大衆化政策 | スポーツ基本法およびスポーツ基本計画等に基づき生涯スポーツ行政・政策や健康体力行政・政策について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 9 | 競技スポーツ行政・政策 | 日本および諸外国における競技スポーツ行政・政策、競技団体のガバナンスおよびアンチドーピング政策について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 10 | スポーツ施設と行政・政策 | 日本におけるスポーツ施設の現状と課題について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 11 | 学校体育行政・政策 | 日本における学校体育行政・政策をはじめ、運動部活動の政策、体育教員を巡る諸施策について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 12 | 地方自治体のスポーツ行政・政策 | 日本の地方自治体におけるスポーツ行政・政策について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 13 | 地域スポーツクラブとその施策 | 日本の地域スポーツクラブの代表例である総合型地域スポーツクラブに関する行政・政策について解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 14 | スポーツと地域社会 | コミュニティの資源としてのスポーツについて解説します | | | | 事前：前授業の配布資料を読む/事後：本授業の配布資料を復習する(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 授業の総括として模試を実施します | | | | 事前：試験勉強をする/事後：試験勉強をする(4時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 適宜配布します。 | | 定期試験：50% 出席レポート：40% 課題：10% 出席レポート(40%)は第1回が1点、第2～14回が各3点です。評価基準は次の通りです。S：授業内容を十分理解し、批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、難解な応用問題が解ける/A：授業内容を理解し、探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、応用問題が解ける/B：授業内容を大体理解し、積極的に課題に取り組み、授業で出題したレベルの問題が解ける/C：授業内容を大体理解し、課題に取り組み、基本問題が解ける | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「スポーツ政策の現代的課題」諏訪伸夫ほか編(日本評論社) ISBN: 978-4-535-58514-0 「スポーツ政策論」菊幸一ほか著(成文堂) ISBN: 978-4-792-38067-0 | | 積極的な態度で授業に臨み、授業で学習したことを必ず復習してください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---------------|--|------|--------|----------------|----|---|---------|-----|------|--|
| 科目名 | スポーツ・マーケティング論 | | 学年学期 | 3・4年後期 | 単位数 | 2 | ナパ リング | SB36042 | 研究室 | S-14 | |
| 担当者 | 等々力 賢治 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | ワイズア- | 水曜日3限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本講義では、「スポーツのマーケティング」と「スポーツによるマーケティング」の二者について、それぞれ事例を挙げて理解を深めます。前者ではスポーツプロダクトを効率よく提供するための戦略を中心に、また、後者ではスポンサー企業の行う「スポーツ・スポンサーシップ」を中心に、それぞれ関連する諸概念・知識を学びます。その上で、マーケットリサーチの初歩であるアンケート調査をグループで行い、レポートにまとめて報告会で発表し討議に付します。なお、レポート作成の過程では適宜アドバイスを行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 本講義の学習到達目標は、マーケティングに関する諸概念と知識を学習、習得し、さらに、それをスポーツ分野に適用した際の問題点などについて理解を深めることです。また、それを基に、実際にグループでアンケート調査を行い、レポートにまとめること、そして、それを発表し討議することも到達目標にしています。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 本講義では、まず、一般的なマーケティングについて理解し、スポーツ分野における具体例を挙げてその理解を進めます。その上で、グループで、近隣のスポーツニーズをリサーチするアンケート調査に取り組み、レポートにまとめ報告会で発表し討議に付します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本講義の進行計画・展開及び評価方法等を確認します。 | | | | | 事前:シラバスをよく読んでおく。事後:配付資料にある各時の講義内容を確認する。(4時間) | | | | |
| 2 | マーケティングとは | まず一般的なマーケティングの定義について学びます。それは、財をより多く売ろうと展開される、売り手の側の「仕組みづくり」を意味し、明確な意図を持って積極的に仕掛ける組織的な活動です。 | | | | | 事前:配付資料をよく読んでおく。事後:講義時の資料を読み直し理解をより深める。(4時間) | | | | |
| 3 | マーケティングの多様性 | 自然成長を経て成熟しつつある経済社会ではマーケティング活動が不可欠であり、そのことは、マーケティングの名称の多様さを見れば明らかです。その一つにスポーツ・マーケティングがあります。 | | | | | 事前:マーケティングの種類を調べておく。事後:スポーツ・マーケティングを調べる。(4時間) | | | | |
| 4 | スポーツ市場の概要 | スポーツ市場を対象に展開されるスポーツ・マーケティングの概要について触れます。スポーツ市場は、長期不況下で縮小・停滞を余儀なくされていますが、潜在需要は高く、今後も伸びる可能性を秘めています。 | | | | | 事前:定義を中心に復習しておく。事後:スポーツ市場について整理しレポートする。(4時間) | | | | |
| 5 | スポーツプロダクト | スポーツ市場に投入されるプロダクト(製品)について分析します。バットやボールのようなモノと、各種スクールのプログラムのようなサービスに大別されますが、さらにそれは競技ごとに細分化されます。 | | | | | 事前:マーケットを構成する要素を調べておく。事後:モノとサービスの規模を調べる。(4時間) | | | | |
| 6 | スポーツ需要・消費者 | マーケティング活動の前提は、そこにスポーツに対する需要があり消費者がいることです。それについて、愛好者数等を基に分析すると共に、最終・選択消費財というスポーツ財の性格を押さえ分析します。 | | | | | 事前:スポーツ愛好者数を調べておく。事後:スポーツ財の性格について復習しておく。(4時間) | | | | |
| 7 | 3C分析とターゲティング | 前時までに学んだ内容を前提に、マーケティングをどのように展開する(実践プロセス)のか学びます。まず、3C分析を行って情報を収集、分析し把握した上で、ターゲットとするセグメントを特定します。 | | | | | 事前:スポーツ産業について調べておく。事後:3C分析及びSTP分析について復習する。(4時間) | | | | |
| 8 | マーケティングミックス | 前時で扱った3C分析とターゲティングに基づいて、基本的なマーケティング・プランを策定することを学びます。その際利用する、4つのPの組み合わせ(マーケティング・ミックス)が極めて重要です。 | | | | | 事前:2回目のマーケティングの定義を復習しておく。事後:扱った用語を整理しておく。(4時間) | | | | |
| 9 | マーケット戦略の策定 | マーケティング・ミックスに応じた市場戦略の展開について学び、併せて、新製品の普及過程とPLCについて学びます。また、生産と消費の同時性など、サービス財の基本的な諸性格についても扱います。 | | | | | 事前:ターゲティングについて復習しておく。事後:サービス財の性格をまとめておく。(4時間) | | | | |
| 10 | アンケートの企画・準備 | スポーツ・ニーズを調査するにあたって、グループ、テーマ、調査対象・内容などを決定する必要があります。まずグループメンバーを確定し、それらについて討議し確定していきます。 | | | | | 事前:アンケート調査の内容を考えておく。事後:アンケート内容を検討し確定する。(4時間) | | | | |
| 11 | アンケート用紙の作成 | 前時で確認した諸項目に基づいてアンケート用紙を作成します。その際、回答と集計のしやすさに留意すると共に、回答者のプライバシーに配慮したものにするなど、アンケート作成の基本も学びます。 | | | | | 事前:参考になるアンケートを探しておく。事後:作成したものを仮に実施してみる。(4時間) | | | | |
| 12 | アンケート調査の実施 | 前時に作成したアンケート用紙を利用し調査を実施します。その際、対象者に対する説明と了解などを落着度なく行うことが必要であり、グループメンバーが相互に注意して進めることが必要になります。 | | | | | 事前:調査対象者に対し連絡しておく。事後:アンケート結果を手早く正確に集計する。(4時間) | | | | |
| 13 | 執筆要領の確認と執筆 | レポート執筆にあたって、体裁や字数など必要な事項を共通に理解し、アンケート結果に基づいて執筆を進めます。なお、執筆に先立って、メンバー間で意見交換し統一性を持たせるよう努めます。 | | | | | 事前:アンケート結果を整理しておく。事後:執筆前に意見交換を行い共通理解を図る。(4時間) | | | | |
| 14 | レポート報告と討議(1) | 執筆したレポートを基に、レジュメやパワーポイントを作成して発表に臨みます。発表時間8分、討議時間7分を目安に進め、論点を明確にして討議が積極的に行われるよう努めます。 | | | | | 事前:発表者、司会者、タイムキーパーを決めておく。事後:討議を参考に修正を行う。(4時間) | | | | |
| 15 | レポート報告と討議(2) | 執筆したレポートを基に、レジュメやパワーポイントを作成して発表に臨みます。発表時間8分、討議時間7分を目安に進め、論点を明確にして討議が積極的に行われるよう努めます。 | | | | | 事前:前時の発表を参考に内容を修正する。事後:討議を参考に修正を加え、提出する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | | |
| テキストは使用せず、種々の資料を使用して進めます。 | | レポート:70% 小テスト:15% 出席レポート:15% 成績評価は、グループレポートの出来具合を中心に行います。評価基準は次のとおりです。S:アンケート内容が独創的で、レポートもまとまって取り組み成果と課題が明示されている。A:アンケート内容が明確であり、レポートも一貫性が担保され、取り組み成果が明示されている。B:レポートが規定の字数を満たしており、成果が明示されている。C:レポートは規定の字数を満たしているものの、アンケートが簡易など、事前準備の不十分さが垣間見える。 | | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | | |
| 「スポーツマーケティング」原田・藤本・松岡著 原田 宗彦編(大修館書店) ISBN:4-469-26546-2 他 関連した書籍が多数出版されており、講義でも適宜紹介します。 | | 講義は、スポーツ財の普及・拡大方策を学習内容としますので、「スポーツビジネス論」を学んでおいてください。また、グループ・レポート作成のための企業訪問・調査等を厭わず積極的に行うよう強く要望します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|------|------|--|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | レクリエーション論 | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SA16043 | 研究室 | S-22 |
| 担当者 | 中島 弘毅 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスアワ | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | 実践指導者、レク・インスト、レク・コーディネイ(通常)、レク・コーディネイ(教育)、スポ・レク指、中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 現代社会は、物質的豊かさから心の豊かさを求める時代へと変化してきています。このような中においては、レクリエーションおよび余暇は人生の中で主要な位置を占め、より重要性を増してきています。ここでは、現代社会におけるレクリエーションの必要性を学ぶとともに、レクリエーション支援およびレクリエーションサービスなどについての基礎的知識の習得を目指します。また、余暇先進国を事例に取り、我が国のあり方について考えます。レクリエーションイベント企画実践の場も用意いたします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 日本の現代社会における課題を理解し、レクリエーションを通してどのような支援ができるのかを考える能力を身につけます。また、レクリエーション支援に必要なプログラムの企画立案についても学び、企画立案し、プレゼンテーションする能力を身につけます。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| テキストを用いながら、各テーマについて説明していきます。また、その都度、テーマに対して自ら考えることを大切にしながら共に、グループワークを取り入れながらそれぞれの意見を出し合い、議論を深めていきたいと思います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 本講義の概要と進め方について、また、レクリエーション資格について説明します。豊かさとは何かについて考えます。 | | | | 豊かさとは何かについてまとめます。(4時間) | | | | |
| 2 | 現代社会における問題について | 現代社会における問題点、QOLの時代における余暇の位置づけを通して人生・社会を豊かにするために何が重要なのかを考えます。 | | | | 現代社会の問題について調べてくる。真の豊かさについて復習する。(4時間) | | | | |
| 3 | レクリエーションの意義、必要性について | レクリエーションの語源、レクリエーションの概念の変遷について学びます。 | | | | レクリエーションの定義について調べてくる。(4時間) | | | | |
| 4 | 遊び学説について | 遊びの生理学的な価値と遊びの社会的な価値について学びます。 | | | | 遊びの定義について調べてくる。(4時間) | | | | |
| 5 | レクリエーション運動の歴史について | 古代ギリシャのレジャー観と古代ローマのレジャー観について学びます。 | | | | 両者の違いについて復習しまとめ。(4時間) | | | | |
| 6 | 近現代におけるレクリエーションの歴史について | 産業革命から米国におけるレクリエーションの広がりについて学びます。 | | | | 産業革命とレクリエーションの展開について調べてくる。(4時間) | | | | |
| 7 | レクリエーション支援について | レクリエーション支援の概念、使命、種類と方法、行動指針について学びます。 | | | | レクリエーション支援者に期待される役割について復習し、まとめ。(4時間) | | | | |
| 8 | ライフスタイルとレクリエーションについて | ライフステージごとの課題に対して「心の元気」を目的とするレクリエーション活動を媒体として、スポーツを取り込む効果と重要性について考えます。 | | | | ライフステージごとの課題を選択し、どのようなレク支援ができるかを調べ、まとめ。(4時間) | | | | |
| 9 | レクリエーション事業とは | レクリエーション事業の考え方、事業展開の手順(Plan-Do-See)、企画段階の実際について学びます。また、個々人のアセスメントに基づいたプログラム計画企画書の内容について学びます。 | | | | 個々人のアセスメントに基づいたプログラム計画について復習する。(4時間) | | | | |
| 10 | レクリエーションイベントの企画について | レクリエーションイベントの企画書に必要な内容及び市民を対象としたプログラムの作り方と安全管理について学びます。レクリエーション事業の展開方法 | | | | レクリエーションイベントにおける安全管理について調べてくる。(4時間) | | | | |
| 11 | レクリエーションイベント企画の実際(1) | グループでレクリエーションイベントのアイデアを出し合い、企画書の骨子を作成します。 | | | | 役割分担をして、担当部分を完成させる。(4時間) | | | | |
| 12 | レクリエーションイベント企画の実際(2) | グループでレクリエーションイベントの企画書を作成します。 | | | | 発表原稿を作成する。(4時間) | | | | |
| 13 | レクリエーションイベント企画の実際(3) | パワーポイントでプレゼンテーション用のスライドを作成し、発表原稿を完成させ、練習をします。 | | | | より良いプレゼンテーションを実施するために練習をし、質疑応答対策を立てる。(4時間) | | | | |
| 14 | レクリエーションイベント計画のプレゼンテーション(1) | レクリエーションイベント計画のプレゼンテーションを行います。 | | | | 他者のプレゼンテーションを聞き、気づきをまとめ、復習する。(4時間) | | | | |
| 15 | レクリエーションイベント計画のプレゼンテーション(2) | レクリエーションイベント計画のプレゼンテーションとまとめを行います。 | | | | 他者のプレゼンテーションを聞き、気づきをまとめ、復習する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「レクリエーション支援の基礎」(財)日本レクリエーション協会編(財)日本レクリエーション協会) ISBN:978-4-931180-81-9 (生協で購入してください。) | | | 課題:30% 定期試験:50% レポート:10% 出席レポート:10% 課題には、プレゼンテーションとレク現場体験を含みます。S:95点以上 A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「スポレク活動で健康寿命を延伸」公益財団法人 日本レクリエーション協会編 | | | 積極的に仲間と議論をし、テーマについて考えて行きましょう。講義計画に該当する内容をテキストから探し、読んでおきましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|---|---|------|----------------|----|---|---------|-----|------|
| 科目名 | レクリエーション実技 (ゲーム) | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16044 | 研究室 | S-23 |
| 担当者 | 犬飼 己紀子 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | アイスワー | 火曜日4限 | | |
| 関連資格 | レク・インスト、レク・コーディネイ(通常)、レク・コーディネイ(教育)、ホスピタリティ | 履修条件 | | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| レクリエーション活動としてのゲームを体験する中で、参加者一人ひとりの意欲を引き出し楽しく心地良い場を創造するために、指導者・支援者がどのような姿勢で関わるかが求められるかについて学びます。また、これまでスポーツと疎遠だった人々に対し活動への参加を促し、継続に向けた意欲を引き出すための方法や関わり方について学びます。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| 基本のレクリエーション財(ゲーム)を学習し、アイスブレイク時に応用するスキルを習得します。また、自身がこれまで親しんできたスポーツの魅力とは何であったかを内省することで、スポーツもまたレクリエーションの範疇であることに気付いていきます。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| ゲームの数々を実際に体験し、自分や仲間の感情が変化することを学びます。さらに、そのプロセスで仲間と相互に影響し合っていることに気付いていきます。後半ではリーダーとして模擬体験をします。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | 支援者としてのレクリエーション学を学ぶことの意味を確認します。レクリエーションゲームの数々が「財」と呼ばれることの意味を学びます。 | | | | 自分にとってのレクリエーションとは何かを改めて考える。(1時間) | | | |
| 2 | アイスブレイク「財」としてのゲーム | アイスブレイクの実際を体験し、実施前後の自分の感情の変化を、感情測定尺度POMSで測ります。POMSの集計をします。 | | | | 本時の活動を振り返り自分や仲間の感情の変化についてPOMSの結果を踏まえ感想を書くこと。(1時間) | | | |
| 3 | 心を解放に向けるゲームの手法 | ゲームを展開する中で、参加者個々人の感情に気づいていきます。支援者として必要な「許容的雰囲気づくり」を仲間との相互作用の中で生む姿勢を学びます。記録ノート提出について説明をします。 | | | | 「プラスストローク」の意味と態度を学ぶこと。活動記録ノートへの記録。(1時間) | | | |
| 4 | 勝敗が決定するゲーム | じゃんけんゲームの数々を体験します。偶然性により勝敗が決まるじゃんけんゲームで、技能に関係なく競い合える事の楽しさを知り、活用のバリエーションを考えます。 | | | | これまでに体験したことのあるじゃんけんゲームを挙げ、記録ノートに書き出すこと。(1時間) | | | |
| 5 | ゲームの展開法 | 集団で行うゲームの展開とは、ゲームを羅列することではないことを知り、活動の流れと構図についてのノウハウを学びます。参加対象者の状態を洞察し、それに沿った展開法が重要な流れになることを学びます。 | | | | 活動記録ノートを順次提出すること。提出の翌週に、教員からコメントを入れ返却します。(1時間) | | | |
| 6 | ホスピタリティを学ぶ | レクリエーションは「財」を提供する支援者の態度や関わり方に左右されることを学びます。ホスピタリティの意味を知り、活動に参加する自分の表情や、態度、言動に気づくことを学びます。 | | | | ホスピタリティの語源を調べる。活動記録ノートの提出と返却。(1時間) | | | |
| 7 | 対象理解と動機づけ(子ども) | 4~5人のグループになり授業を進めます。幼児~子どもも集団を取り上げ、現代の子どもたちが抱える課題を書き出します。そのうえで課題に挙げた対象に向けた活動プログラムの組み立て事例を体験します。 | | | | 小学生の体力、運動能力の傾向を調べること。活動記録ノートの提出と返却。(1時間) | | | |
| 8 | 活動評価と方法 | 運動への興味関心を促し継続するための方法として「レク式体力チェック」などを例に運動効果を評価する手法を学ぶ。 | | | | 中高年の生活実態について調べること。(1時間) | | | |
| 9 | 対象理解と動機づけ(高齢者) | 4~5人のグループになり授業を進めます。人生経験豊富な世代に向けた活動支援の工夫として、体力の衰えを感じ始める前期高齢者に向けた様々なプログラム提供の方法を考えます。 | | | | 高齢者の健康運動志向を探ること。活動記録ノートの提出と返却。(1時間) | | | |
| 10 | 対象理解と動機づけ(支援を必要とする人) | アセスメントの重要性を学びます。特に個別のプログラムが求められる障がい者や高齢者に対し、レクリエーション活動に携わる支援者としての姿勢について学びます。(DVD視聴覚教材等含む) | | | | 尊厳・人権についての理解を深めること。活動記録ノートの提出と返却。(1時間) | | | |
| 11 | 異年齢交流で繋がりを創る | 現代に必要とされる異年齢交流の場づくりについて、対象者の特性、多様性など個性ある対象を想定し、リーダー(支援)の在り方を考えます。 | | | | 活動場面を想定し、インストラクションするゲームを例に挙げ、言葉かけをノートに書き出すこと。(1時間) | | | |
| 12 | 自己紹介ゲームの手法 | グループでゲームを活用した自己紹介を実施します。メンバーの自己紹介を見聞きして、全員でフィードバックしあいます。グループで、次回から実施する活動支援に向けた計画書を作成します。 | | | | ゲームの展開法を参考に、計画書を作成し提出する。(1時間) | | | |
| 13 | リード体験 | グループでゲームの展開を実施します。CSSの活用や、参加学生からのフィードバックをもらい、指導体験後の自己評価をし、次回に生かします。 | | | | 実施体験後のフィードバックで得たことを次回に生かすため、記録ノートに書きとめること。(1時間) | | | |
| 14 | リード体験 | グループが順次ゲームの展開を実施します。CSSの活用や、参加学生からのフィードバックをもらい、指導体験後の自己評価をし、次回に生かします。 | | | | 実施体験後のフィードバックで得たことを次回に生かすため、記録ノートに書きとめること。(1時間) | | | |
| 15 | 活動企画 | これまで習得したゲーム(財)を実践し、応用系や活用のバリエーションを創造的に発展させます。グループでアイデアを重ねます。 | | | | 「財としてのレクリエーションとその可能性」(仮)を記録ノートの最終ページに書き提出すること。(1時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「前レク財100連発カード」犬飼己紀子 監修著長野県レクリエーション協会編(龍共印刷株式会社)(講義にて配布します。) | | 実技:50% 出席レポート:30% 課題:20% S:レク・ゲーム活用の効果を知り、場に応じた「財」活用の組み立てと展開ができる。A:レク・ゲームいろいろを習得し、場に合わせた活動を考えることができる。B:レク・ゲームの展開法如何で、参加者の感情に起こる違いに気づくことができる。C:ゲームのルール説明を順序だてて行うことができる。 | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「レクリエーション支援の基礎」 ISBN:978-4-931180-81-9 「スポーツ活動で健康寿命を延伸」(日本レクリエーション協会) スポーツ・レクリエーション指導者 テキスト | | 自分が楽しめていない活動は、相手にとっても楽しく感じられるものではありません。活動展開する中で、まずは自分の感情に気づいていきましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------------|--|------|------|----|-------|--|-----|------|--|
| 科目名 | レクリエーション実技（芸術・文化） | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL16045 | 研究室 | S-22 | |
| 担当者 | 中島 弘毅 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | オイスアワ | 火曜日2限 | | | |
| 関連資格 | レク・インスト、レク・コーディネ(通常)、ホム・レク指 | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義では、レクリエーション実技としてレクリエーション財を自らが提供できるようにその活動・種目について学びます。クラフトを主として取り上げ、作成・体験を通して基礎的技能を身につけることを目的とします。個々で作品の制作を行うことを基本としますが、仲間と協力しながら作業を進めることの大切さと楽しさも感じてください。また、作品の制作過程および完成した作品を通して楽しさを味わいます。あわせて、その作品の制作指導ができるように、まとめる作業も行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 身近なもので様々な作品を作り上げることの感動を味わい、作品制作方法を学ぶことにより、他者に作成指導ができる基礎的知識の習得を目指します。3H (Hand,Head,Heart)を念頭におきながら制作ができるようになります。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 個々人で作品を完成させ、その作品をつくる感動を味わいます。また、作品の制作過程での気づき、学びについて意見交換を行います。作品の制作の仕方についてその都度まとめていきます。アウトキャンパススタディも実施します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンス | 本講義の概要と進め方について | | | | | 次週に向けて必要な道具の準備をする。（1時間） | | | |
| 2 | マイ箸を作ろう！ | 竹でオリジナルの世界で一つだけの思いをこめた箸を作ります。竹の特徴、ナイフの使い方も合わせてマスターします。 | | | | | 作品を完成させ、制作過程を復習し、まとめる。（1時間） | | | |
| 3 | マイ箸を鑑賞しよう。 | オンリーワンの箸を完成させます。また、他者がどのような思いを持って作品を仕上げたかを共有し、作品の素晴らしさをお互いに評価します。 | | | | | 完成品の写真を撮り、レポートを仕上げる。（1時間） | | | |
| 4 | 部屋に飾ろう、思い出の焼き板作り！ | 杉板を使って焼き板を作ります。木を炙る事によって美しい木目が浮かび上がります。そこに、自らの想いを表現します。 | | | | | 作品の制作過程を復習し、まとめる。（1時間） | | | |
| 5 | 焼き板を鑑賞しよう | 焼き板を完成させ、振り返りをおこないます。他者の作品への想いを共有して、オリジナル性と良い点を見抜く目を養います。 | | | | | 作品を写真に取り、レポートをまとめる。（1時間） | | | |
| 6 | 上高地へ行こう！ | 自然の不思議を発見し、気づく目を養います。上高地に出かけ、動植物、地理、歴史について知識を深め、自然が学びの宝庫であることと「心の元気」を回復する場であることを学びます。 | | | | | 上高地へ行っての気づきをまとめる。（1時間） | | | |
| 7 | 上高地での発見、気づきをまとめよう。 | グループで上高地での発見、気づきをまとめることによって、自然散策がスポーツレクリエーションの重要な活動種目であり、自然豊かな土地に身を置くことによる「心の元気」回復に寄与することに気づきます。 | | | | | パワーポイントを完成させ、発表の練習をする。（1時間） | | | |
| 8 | 上高地の自然についてのプレゼンテーション | 各グループによるプレゼンテーションを通して、自然散策が「心を元氣」にするスポーツレクリエーションの有効な手段であることに気づき、その方法論と基本的知識について学修します。 | | | | | プレゼンテーションをして、また聞いての気づきについて復習し、まとめる。（1時間） | | | |
| 9 | オリジナルのネックレスを作ろう！ | オープン粘土を使って、自分でしてもいい、あげてもいい、そんなオリジナルなネックレス作りをします。粘土を練りながら、作品のイメージを練り上げてゆきます。 | | | | | 作品の作り方についてまとめる。（1時間） | | | |
| 10 | オリジナルのネックレス作り！その2 | オープンでの温度調節について学びます。調節ができる紐の結び方についても学びます。 | | | | | 作品を完成させて写真を撮り、制作過程を復習し、まとめる。（1時間） | | | |
| 11 | 作品鑑賞会 | 作品に表れた他者の思いを共有します。実に様々な作品がたった一つの粘土から生まれることに気づきます。 | | | | | レポートを仕上げる。（1時間） | | | |
| 12 | あなたと私のエッグキャンドル！ | エッグキャンドルの作り方を学びます。様々な色の世界と香りの世界を作り出します。 | | | | | 作品の制作過程を復習し、まとめる。（1時間） | | | |
| 13 | エッグキャンドルの土台作りと鑑賞会 | エッグキャンドルの土台作りをします。土台に飾られた色鮮やかなエッグキャンドルを楽しみます。 | | | | | 写真を撮ってレポートをまとめる。（1時間） | | | |
| 14 | 手作りアイスに挑戦！ | 手作りで美味しいアイスを作ります。グループで作り方について打合せをします。身近なもので、チョット一工夫。それでまた作りたくなる美味しいアイスが出来上がることの感動と美味しさを味わいます。 | | | | | 作り方を調べ、レポートにまとめる。（1時間） | | | |
| 15 | 手作りアイスの感動を味わおう！&まとめ | 前半：アイス作り。後半：全体の振り返り。ホム・ファーベルトとも言われる人間。3H、即ち物を使い自作する、想いを込めてオリジナルを創ることの楽しさ、素晴らしさ、その必要性について考えます。 | | | | | 作品を作ることの意義について考え、レポートを作成する。（1時間） | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 必要に応じてプリントを配布します。 | | 受講態度：40% レポート：60% 受講態度は、授業への積極的な参加、仲間との協力、発言、準備、片づけ等について評価します。S:95点以上 A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | | | |
| 「レクリエーション支援の基礎」(財)日本レクリエーション協会編(財)日本レクリエーション協会) ISBN: 978-4-931180-81-9 | | ・本授業はレクリエーションインストラクターの資格を取得しようとする学生のための科目です。 ・道具、材料を各自で用意することも必要となります。 | | | | | | | | |

| 科目名 | グループワーク・トレーニング | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL26046 | 研究室 | S-23 |
|--|---------------------|--|------|------|----------------|---|-------|---------|-----|------|
| 担当者 | 犬飼 己紀子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | アイスワー | 火曜日4限 | | |
| 関連資格 | レ・コディ(通常)、レ・コディ(教育) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>社会生活を送る上で欠かせないのが人間関係構築力です。演習形式で進めるこの授業では、グループのメンバー間に発生する相互作用を活用して自らの「関係力」を磨くための授業です。演習を通して、人との効果的な関わり方に気づき、所属しているグループにある課題やチームの目標に向け、学びを日常化していくための演習授業です。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>社会に存在するあらゆるグループにおいて、他者と協働することの意味や大切さを知ることです。その上で、グループ活動においてそのプロセスに気づき、多様な価値観を持つ人同士が、対話的に交流するスキルと問題解決能力を身に着けることを目標とします。一つ上のコミュニケーション能力を体得することを目指します。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>毎時間、グループワークで進めます。グループに与えられる課題にメンバーで取り組みます。活動中にグループ内に起こっている事に光を当て、「ふりかえり」で気づいたことを、次のワークに生かすラボラトリー(実験)トレーニング形式の授業です。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 「グループワーク・トレーニング」は、社会生活に必要な人間関係を構築する力を磨く学びです。本演習の場は実験室(ラボラトリー)であり、体験を積み重ね(トレーニング)自分への気づきを促します。 | | | | 実験とトレーニングの体験授業であることを認識し、自己目標を立てる。(1時間) | | | | |
| 2 | アイスブレイク | 人が初めて出会う、そんな場における効果的なコミュニケーションの取り方を、自己紹介ワークの体験から学びます。 | | | | 事前・事後にテキスト第 章を読み、本講義のねらいを理解すること。(1時間) | | | | |
| 3 | コミュニケーションを学ぶ | グループに起こりがちな緊張と不安からくる身構えをほぐし、自己表現をしやすくするワークをします。体験後のミニ講義では初対面における4つの懸念を知り、自分の感情に気づいていきます。 | | | | 振り返りを共有し合うことで生まれた気づきを日常に生かす。テキスト第 章を読むこと。(1時間) | | | | |
| 4 | コミュニケーションのズレ | 他者との意思疎通の場面で起こる受け取り方の違いを学ぶ「情報伝達」のワークをします。伝え手の情報が、聞く人それぞれにどのように受け取られるかのワークの後、聞き方についてのミニ講義をします。 | | | | 自分では気づいていない話し方や行動に意識を向けること。(1時間) | | | | |
| 5 | 話し方と聞き方 | 日常の対人関係において、相手の話しをどのように聞いてきたかに気づきます。「聞くワーク」を実施し、聞くことにも技術(スキル)があることを学びます。 | | | | 場に応じた聞き方を日常で実施すること(気づきの日常化)。(1時間) | | | | |
| 6 | コミュニケーションとは | インタビューカードによる「交流ワーク」をします。自分の行動を振り返り、日常でとりがちな行動に気づいていきます。ミニ講義では、コミュニケーションの構造を理論的におさえます。 | | | | 日常での人との「やり取り」を可視化する。気づきを日常化に向けて。(1時間) | | | | |
| 7 | 協力を学ぶワーク | グループで与えられた課題を解決するワークを実施します。目標に向けて活動する一人ひとりの行動に気づき、グループ活動にはメンバーの果たす役割があることを知り、課題解決に必要な機能について学びます。 | | | | 機能集団の一員として、メンバー各人の果たしていた役割に気づいておく。(1時間) | | | | |
| 8 | 他者と協働するスキルを学ぶ | 集団の一員として集団の目標に参画し、その責任を分担する協働者としての姿勢を学びます。グループワーク・トレーニングにおける「ふりかえり」が否定論にならないために、「ふりかえり」の方法を学びます。 | | | | 自分に気づく、次回演習に生かす。(1時間) | | | | |
| 9 | グループ討議の仕方 | グループが課題達成に向かうときの、効果的なリーダーシップのあり方など、メンバーが互いに分担して果たす役割があることを体験的に学びます。 | | | | 日常に生じるリーダーシップの場面を意識化すること。(1時間) | | | | |
| 10 | 合意形成による決定 | グループ内で、自分とは異なる価値観や提案を持つ他者の存在を受けとめ、メンバーと合意形成(コンセンサス)する討議の仕方を学びます。時間がかかる決定法ですが、真剣に向き合うと深い学びが得られます。 | | | | 多数決やジャンケンによる決定と合意形成の決定による結果の違いを知る。(1時間) | | | | |
| 11 | グループ内の感情に気づく | 課題や目標に向け、グループ討議の中で起こるメンバーの動きや感情に気づく力を養います。自分の感情に気づいて相手と向き合います。互いに影響し合ってグループが動いていることを知ります。 | | | | 相互作用とは何か、自分は何に影響されたかを振り返り、日常における他者との交流場面に生かす。 | | | | |
| 12 | グループプロセス | ロールプレイを兼ねたワークを実施します。役割討論会では、指定されたキャラクターになりきって話し合いに参加します。演じる中で自分の内面に起こる感情に気づくと、そこから自分を知ることにもなります。 | | | | メンバーから知らされる自分の行動について、これを素直に受けとめる。(1時間) | | | | |
| 13 | ホスピタリティ | ホスピタリティとは何かを学びます。相手の関心に関心を寄せる、という他者との向き合い方や、振る舞いを学びます。他者理解・自己肯定の態度を具体的な「ふりかえり」から気づきあいます。 | | | | これまでのトレーニングを見返して、日常での関係構築に生かすこと。(1時間) | | | | |
| 14 | 自己概念 | 「私の自画像」ワークを実施します。前半は自分と向き合い、後半はグループ内でシェアします。自分が知っている自分と、他者から見た自分の違いを知らせあい、アイスビルドとして自己肯定に向けます。 | | | | これまでのグループワークでの気づきを振り返って、自己発見と新しい目標につなげること。(1時間) | | | | |
| 15 | 日常化に向けて | 様々なワークを実施した中で気づいたことを、日常化につなげます。自己成長のベクトルにのせる学習法として「今、ここ」での行動を気づきにかえ日常化するトレーニング形式の学習方を再確認します。 | | | | 気づき学習で得たことを具体的な行動に変えること。レポートの提出をすること。(1時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| (別途、指示します。) | | <p>出席レポート:70% 課題:30%</p> <p>S:自分の対人関係の在り方を知り、相手の感情・相互の間に起こっていることに気づくことで、自身の対人関係構築力を見直し成長することができる。A:自分の言動が他者に与える影響を知り、対人関係に生かすことができる。B:他者との交流において聞く力、相手に伝わる伝え方の工夫や努力ができる。C:自分の想いや考えを相手に伝わるように表現できる。</p> | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| <p>「新グループワーク・トレーニング」監修財団法人)日本レクリエーション協会著木内直男編(日本グループワークトレーニング協会) ISBN:4-89659-309-X</p> | | <p>「対人関係における自分のあり方」に気づくことからスタートします。自分の目標を定め、実験だと思ってグループ活動を楽しんでください。一部体育館での授業となります。活動しやすい服装で参加してください。</p> | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------------|---|------|------|----|---------|--|-----|------|--|
| 科目名 | レクリエーションサービス論 | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SL26047 | 研究室 | S-23 | |
| 担当者 | 犬飼 己紀子 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 水曜日2限 | | | |
| 関連資格 | レク・ユティ(通常)、ｽﾌﾟ・レク指 | 履修条件 | | | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | | |
| | A B C | | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 人間の権利としての豊かな生活実現に向け、身近な地域の余暇活動支援を目指します。総合型地域スポーツクラブ・放課後児童クラブ・高齢者余暇生活支援事業などの事例を取り上げ、日常的・継続的な地域活動の場づくりについて学びます。事業の基本構想に沿った全体計画・個別企画の推進の実際に触れ、それぞれの事業評価をもとに、組織の資源であるスタッフ間における課題の共有や、意思決定の重要性に気づき、魅力ある組織づくりや事業展開について学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| これまで自身が親しんできたスポーツの魅力の本質とは何かを知り、指導者としてスポーツと疎遠になりがちな人々に向け、活動への動機づけと継続に向けた事業企画力、及びレク支援技術を磨くことを目的とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| グループで情報収集と整理をし、各事業の基本構想についての共有を図ります。日常的・継続的活動を目標に全体計画・個別企画の作成をします。企画会議に主体参加することで意思決定に至るプロセスを学びます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | レクリエーション支援の目標と理念を再確認します。向き合う相手にとって心地よい態度を基本とする支援者の姿勢を磨くために、対象を知って発揮するホスピタリティーの姿勢について学びます。 | | | | | レクリエーション実技、支援実習の記録を持参すること。(4時間) | | | |
| 2 | 魅力ある事業をつくる | 第2期スポーツ基本計画に謳われた「一億総スポーツ社会」に向けた社会運動として、「スポーツ・レクリエーション」をテーマに取り上げる。 | | | | | レクリエーション主体は誰の何を指すかを考える。(4時間) | | | |
| 3 | スポーツ・レクリエーションとは | スポーツを通じて人々の豊かな生活の実現を目指すという「スポレク」の定義・目的を捉え、事業を安全に運営するための安全管理の基礎・重要性を学びます。 | | | | | 地方新聞紙面から自身の関心事を切り取る。活動団体の資料を検索すること。(4時間) | | | |
| 4 | スポーツ活動への参加促進 | 4~5人のグループになります。スポレク事業の対象者として地域のスポーツ未実施者を掘り起し、動機づけから継続に向けた事業の企画立案を通してライフステージ毎に異なる掘り起しの手法を学習します。 | | | | | 対象は誰なのか、関連情報を探すこと。(4時間) | | | |
| 5 | 地域のニーズを探る | グループで地域課題を取り上げ、解決に向けた方策を考えます。事業運営において対象者の楽しさを誘い、継続意欲につながる支援者の関わり方や展開方法について十分な討議を重ね課題の共有を図ります。 | | | | | 活動参加している人、活動に参加していない人双方の声を拾うこと。(4時間) | | | |
| 6 | 効果的会議法 | 課題解決に向け、レクリエーション企画を作成します。スタッフ同士、グループ討議を進める中で、自分とは違う考えや刺激は自身の発想を広げ、多様なニーズへの対応を可能とすることを学びます。 | | | | | 課題に向け自身の企画案を作成して提案できるようにすること。(4時間) | | | |
| 7 | 支援姿勢とファシリテート | 課題解決に向け、レクリエーション企画を作成します。レク支援の対象を理解する以前に、討議し合う支援スタッフの意見や主張の受け止めあいを可能にする姿勢を学びます。 | | | | | 企画の提案を持ち寄ること。(4時間) | | | |
| 8 | 事業企画 | 誰に向けて何を目的に、どのように進めるか、そしてその評価の視点はなど企画段階で十分な意見交換を重ねプログラム案を作成します。グループでプレゼンテーションに向け準備をします。 | | | | | 企画をプレゼンテーションする態度姿勢を確認すること。(4時間) | | | |
| 9 | 事業企画 | 事業の短期目標・中期目標・長期目標の視点を持ち一回ずつのプログラム展開法を組み立てます。支援場面を想定してグループ内で各自の担当を決めます。 | | | | | 具体的支援の場でのインストラクションの方法を練習すること。(4時間) | | | |
| 10 | トレーナー・トレーニング | 模擬体験をします。活動場面で参加者に向き合う際に、相手に伝わる話し方、行動、態度など具体的な活動について体験的に学びます。(態度・姿勢。声の大きさトーン・向きなど。) | | | | | 活動を振り返り、対象者の反応を真摯に受け止め学びとすること。(4時間) | | | |
| 11 | 危機管理 | 実施母体の責務としての危機管理(保険、参加者掌握、会場管理、案内内容)の重要性を学び、作成したグループの企画書を見直します。 | | | | | 企画案についての危険予測を挙げる。(4時間) | | | |
| 12 | 運営財務管理 | 運営の管理(備品、保険、人件費、会場費、参加費)財務管理。予算、決算書の作成を体験します。様々な補助制度について情報収集し、その活用について学びます。 | | | | | 事業運営と経費のバランスを考えること。(4時間) | | | |
| 13 | 事業の魅力と継続 | レクリエーション支援においては、対象者(主体)が得るもののみならず、企画運営する支援者に返されるものがあることが重要です。これは、事業継続の重要なポイントであることを学びます。 | | | | | 支援者が得るものとは何かを、事業評価の中で考えること。(4時間) | | | |
| 14 | グループ発表 | 模擬事業について「PDCAの流れ」に沿って、まとめと発表をします。 | | | | | ホスピタリティーの姿勢を随所に発揮することができたか。(4時間) | | | |
| 15 | 個人への支援 | レクリエーション支援活動は、個人支援が基本です。まずは身近な他者に目を向けてみましょう。関係性の中に、課題がきっと見つかります。 | | | | | 「私がレクリエーション支援で目指すこと。(仮)」レポート提出すること。(4時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「スポレク活動で健康寿命を延伸」財)日本レクリエーション協会編(講義にて配布します。) | | 定期試験:60% レポート:40% S:レクリエーションの価値を知り、身近な社会的課題に関心を持ち事業を企画推進することができる。A:身近な社会的課題に向けレクリエーション事業を企画し運営スタッフとして機能できる。B:レクリエーション活動が社会的課題に効果があることを知り企画・運営することができる。C:レクリエーション活動を通し、スタッフとして事業運営に携わることができる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「レクリエーション支援の基礎」財)日本レクリエーション協会編 | | これまでに体験したアウトキャンパススタディ等での地域活動参加体験を基に、「支援実習」に生かしてください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|----------------------|--|------|------|----|---|---------|-----|------|
| 科目名 | レクリエーション支援実習 | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL36048 | 研究室 | S-23 |
| 担当者 | 犬飼 己紀子 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実習 | オイスカー | 火曜日4限 | | |
| 関連資格 | レク・コーディネ(通常)、ｽﾌﾟ・ﾚｸ指 | 履修条件 | | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| 身近な地域社会の課題に対し、レクリエーション支援を通じて向き合う人の状態に寄り添う活動展開の技法を学びます。これまでに学習したことを活用して、活動企画・実践・評価・課題発見まで一連の流れを体験し、魅力ある事業運営のノウハウを学び、その具体的な働きかけについて見通す目を養います。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| 地域に展開されているレク関連事業の情報を収集します。レク支援を必要とする対象を決定し、目標を持って支援活動に参加します。実習先でのレク資源活用の実際や財務、接遇、コミュニケーションなど、実習を重ねることで、前回の実習で課題とした自らの目標に向かいスキルアップすることを目的とします。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 3回の参加実習と企画運営の実習1回を課します。各回の実習前後に、記録ノートの提出をしてください。実習は通常授業時間外の実施ですが、終了後に学内で報告会を開きます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | これまで受講したレクリエーション関連授業で認識している、個々の「レク観」について確認しあいます。その上で、本授業において実施する支援実習の進め方や、実習の目的について知らせます。 | | | | 1年次レク実技「記録ノート」を手元に置き、見直すこと。(1時間) | | | |
| 2 | 実習先紹介 | 実習先を一覧にして知らせます。各自、予定に組み込み参加する実習を明確にします。実習に際し自己課題と目標の設定をします。 | | | | 実習日時について各自の予定に組み込むこと。安易なキャンセルは認めません。 | | | |
| 3 | 参加実習 | 参加者として、実習現場(学外)に臨みます。事業名称、主催団体、参加対象、目的や活動のねらい、指導者の姿勢など記録ノートに記載不足のないよう(イン)リーダーとしての自覚を持って臨みます。 | | | | 実習対象について事前調べを十分にすること。終了後は記録ノートを提出すること。(2時間) | | | |
| 4 | 報告会・討議 | 事業参加の記録ノートをもとに、一人ひとり報告をします。話し合う中で、同じ事業に参加していても見聞きすること、受け止め方の違いが起こることを知り、次回の実習に生かすようにします。 | | | | 次回実習について前調べをし、体験を重ねるうえで目標を再設定すること。(1時間) | | | |
| 5 | 参加実習 | 参加者として、実習現場(学外)に臨みます。前回の実習経験を踏まえ、本実習での目標に向け積極的に行動し、可能な範囲でゲームリードなどインストラクションにチャレンジします。 | | | | 参加事業について事前調べを十分にすること。終了後は記録ノートを提出すること。(1時間) | | | |
| 6 | 報告会・討議法 | 記録ノートをもとに、実習の報告をします。初回の実習で得た学びと次回への課題を、2回目の実習に活かすことができたか、自らの目標と評価をし、仲間と討議しながら次回実習の目標を定めます。 | | | | 次回実習の目標設定をすること。(1時間) | | | |
| 7 | 参加実習 | 3回目の参加実習です。可能な範囲でゲームリードなどインストラクションにチャレンジします。活動への視点に加え、事業運営がどのようになされているのかへの視点を持って臨みます。 | | | | 参加事業について事前調べを十分にすること。終了後は記録ノートを提出すること。(1時間) | | | |
| 8 | 報告会・討議法 | 事業参加の記録ノートをもとに、一人ひとり報告をします。同じ事業に参加していても見聞きすること、受け止め方の違いを話し合う中で感じあい、気づきを次回の実習に生かすよう明確にします。 | | | | 「企画運営」実習の目標設定を立てる。(2時間) | | | |
| 9 | 体力測定の方法・実習計画 | 3回の参加実習で得たことをもとに、グループで1事業の企画作成をします。対象者アセスメント、体力測定の方法、運動の目的やねらい、企画運営、広報活動、スタッフ配置、危険回避など学びます。 | | | | 事業運営や企画作成のための情報収集をすること。(1時間) | | | |
| 10 | 支援実習の企画発表プレゼンテーション | グループで1つの事業の企画作成をします。対象者アセスメント、活動の目的やねらい、企画運営、広報活動、集客の方法予算決算、スタッフ配置、危険回避など、長・中・短期計画の作成をします。 | | | | 地方紙等の情報から地域のニーズを探ること。(1時間) | | | |
| 11 | 実習(企画・運営) | 活動の目的やねらい、企画運営、広報活動、集客の方法予算決算、スタッフ配置、危険回避など企画内容のプレゼンテーションの作成と発表の準備をします。 | | | | 対象とする事業体を明確にし、企関連情報を集める。(1時間) | | | |
| 12 | 実習(企画・運営) | 対象集団に向け企画実施に向け、運営や活動内容など具体的にイメージし事業提案を発表します。 | | | | 目標に向けた実体験を記録に残すこと。(2時間) | | | |
| 13 | 実習(企画・運営) | 活動の運営スタッフとして、これまでの実習で得たことを振り返り、主体的運営への参加について明確にします。事業後はPDCAに沿ってまとめ、実習の成果とします。 | | | | 記録ノートに書き、提出すること。(1時間) | | | |
| 14 | 報告・発表の準備 | 実習記録ノートをもとに、グループで報告します。まとめにあたって、報告のポイントを絞ります。実習体験報告、発表。 | | | | 次週、実習報告会に向けプレゼンテーションの準備をすること。(1時間) | | | |
| 15 | 報告・発表 | 実習体験報告、発表会を開く。今、レクリエーションを必要とする「場」の拡大。レクリエーションを効果的に活用できる「場」や「対象」など、社会的課題についてまとめます。 | | | | 社会的課題とレクリエーション支援についてまとめる。(1時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「後レク財100連発」犬飼己紀子 監修著長野県レクリエーション協会編(龍共印刷株式会社)(講義にて配布します。) | | 出席レポート:30% 課題:30% レポート:40% S:習得した技術を、対象者に向けアレンジ・応用して指導展開することができる。 A:実習に向け対象者理解を軸に、PDCAサイクルで次回実習時の課題・目標を明確にし、対象に応じたレクリエーション支援ができる。 B:毎回の実習記録の提出に記した次回実習の課題を明確にし、対象に向き合うことができる。 C:活動に際し、計画通り進める努力が感じられる。 | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「ｽﾌﾟｰﾝによる元気な若者社会を創るために 報告書」小西亘編(公益財団法人、日本レクリエーション協会) 「ｽﾌﾟｰﾝ活動で健康寿命を延伸」丸山 正 他著(日本レクリエーション協会) ｽﾌﾟｰ | | 実習計画と記録を次回実習に生かすため、各実習のねらいと目標を具体化させて臨みましょう。そのために対象理解は欠かせません。先修科目はレクリエーション実技「レクリエーション論」です。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------|---|------|------|----------------|--|-------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 体育実技（体づくり・ダンス） | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL26049 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 田玉 雅美・橋爪 みつる | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | アイスワ- | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 体ほぐし、体づくりの運動のねらいと基本の動きを理解します。リズムの特徴をおさえ、リズムによって体幹を使った自由な全身運動で踊ることの楽しさを体感します。フォークダンス・現代的なリズムのダンスの技能を習得し、解放された体と環境の中で身体表現し、創作ダンスをグループで創る活動プロセスを学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| リズムによって全身運動の心地よさを体感し、自由な身体表現を引き出すための雰囲気づくり、指導者としての自己解放と表現力を身に着け、指導案作成と実施に向けた手法を学ぶことを目的とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 夏季休暇中に開講します。4日間の集中授業として体ほぐし、リズムにのり、動きを創る、指導の方法を身に着けるまで一連の流れを集中的に進めます。外部講師2名による授業です。連絡や掲示に注意して下さい。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 体づくり運動を兼ねウォームアップのいろいろを学びます。イメージしながらストレッチや、2人組み・4人組・全員で輪になり動きの多様さを学ぶなど心をほぐす運動をします。 | | | | 自分の体を知る。導入として有効な教材なので記録を欠かさないこと。(1時間) | | | | |
| 2 | 動きを引き出す | 身近にある材料を使い、動きを自然に引き出します。個々の感じ方によってそれぞれの表現が異なる動きの面白さを学びます。 | | | | 人の動きを観察する。楽しんで参加すること。(1時間) | | | | |
| 3 | フォークダンスを学ぶ | 世界の音楽と文化から土着のフォークダンスがどのようにして出来たのかや、日本の盆踊りの発祥と成り立ちを学習します。日本のフォークダンスを実際に踊って学んでいきます。 | | | | 松本地区の盆踊りを覚え、地域の行事を考察しておくこと。(1時間) | | | | |
| 4 | 動きをまねる | いろいろな動きを考えます。仲間の動きをまねることで動きの多様さに気づくと同時に、自己解放に向けた動きにもチャレンジします。 | | | | 楽しい動き、意外性のある動きに気づくこと。(1時間) | | | | |
| 5 | 現代的なリズムのダンス | テンポのある音楽にのせて、ダウンビートで全身で動きを刻む学習をします。体幹を使った動きを続けながら、ステップを踏みながら自由に動く踊りを楽しみます。 | | | | リズムの取り方やステップの復習をすること。(1時間) | | | | |
| 6 | 現代的なリズムのダンス | を通して自然な流れで体を動かし、ステップの完成を目指します。発表する楽しさと、見る楽しさ、サポートの大切さを学習します。 | | | | 学習したステップの熟練と、アレンジを考えること。(1時間) | | | | |
| 7 | 空間を利用した動き | 二人組で上下左右などの対照的な空間を学んだり、身近な素材を利用した動きと空間の美しさを学びます。 | | | | 空間の美しさから、どのような感情が伝わるかを考えること。(1時間) | | | | |
| 8 | テーマと動きの発見 | 花火、ジェットコースター、紙ずもう など自由なテーマを選びます。グループのメンバーでテーマにあったイメージを出しあい、動きで表現していきます。 | | | | テーマに沿った物語(流れ)を考えること。(1時間) | | | | |
| 9 | 動きから感情を表現する | これまでの動きをさらに大きく広げながら、空間イメージと動きをつなげていきます。ひとつひとつの動作から感じられる人間の情動や感情を学んでいきます。 | | | | 普段の動作の中で情動と直結している動きを考える。(1時間) | | | | |
| 10 | 創作ダンス | これまで学習した内容をフィードバックしながら、ダイナミックさや感情表現にグループで挑戦します。そのためのテーマと手法を話し合い、決定していきます。 | | | | テーマに合う音楽を探しておくこと。(1時間) | | | | |
| 11 | 創作ダンス | 前回決定したテーマに沿ったダンスを創作します。動きの多様さ、表現の強弱など、テーマをイメージした動きを仲間と練り上げていく力を磨きます。 | | | | 自分の考えや意見を発表できるようにしておく。(1時間) | | | | |
| 12 | 創作ダンス | グループでの創作活動では、動きながら意見交換することが有効です。テーマからイメージする動きをリズムの違いや空間利用を応用することで思いがけず、豊かな表現にかわっていくことを学びます。 | | | | 動きを引き出すための声掛けの工夫。(1時間) | | | | |
| 13 | 発表のための空間利用 | 発表に向け、魅せる動きの工夫と練習を重ねます。VTRに撮り、グループの表現(作品)や自分の動きを客観的に見ることで、工夫を試みさらに磨き上げていきます。 | | | | 動きの練り上げと再構築。(1時間) | | | | |
| 14 | 発表 | 全グループの作品を発表をします。互いの群舞を観ることで、表現の多様さ、個性の面白さ、表現することの楽しさなどを振り返ります。 | | | | グループの発表を観る。(1時間) | | | | |
| 15 | 振り返り | 「踊る」という表現に取り組む中で、各自が解放されていくプロセスを振り返ります。踊りを創る過程でメンバーとの自由で解放された交流が生まれること「それを生む指導とは」についてレポートを課します。 | | | | 踊ること、体で表現することを楽しむ「ダンス」の授業展開についてレポートにまとめる。(1時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 授業時に伝えます。資料で進めます。 | | 実技:30% 受講態度:50% レポート:20% S:活動の中心となり目標達成のために意欲的に課題に取り組み、各回の授業内容を十分理解し、豊かな発想で動きや表現につなげることができる。A:目標達成のために意欲的に課題に取り組み、各回の授業内容を理解し、動きや表現につなげることができる。B:目標達成のために課題に取り組み、各回の授業内容を理解し、動きにつなげることができる。C:目標達成を理解し、課題に取り組みすることができる。(受講態度は各基準に表記しているとおりです) | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「明日からトライ!ダンスの授業」中村恭子・宮本乙女・中村なおみ著全国ダンス・表現運動授業研究会編(大修館書店) ISBN:978-4-469-26722-8C3075 | | 自由に体を動かすことの心地良さを体感しましょう。好きなリズム、心と響け合うリズムにのり、自分を解放させる感覚を学ぶことの意味を、生徒に伝えることのできる学習展開法を一緒に学びましょう。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------------------------|---|---|------|------|---|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 体育実技（器械運動） | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16050 | 研究室 | E-13 |
| 担当者 | 川島 均 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | アイスア- | 木曜日3限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習は、器械運動のなかでもマット・鉄棒・跳び箱の種目において、回転・懸垂・跳躍・支持・バランスなど基本的な技の理想型を理解し、それらを習得することを目的としています。それぞれの種目の技を解説しながら紹介しますが、それに挑戦して体得を目指す過程において、自ら調べてレポートにまとめたり、お互いに教え合ったりしながら、技の出来具合について観察力を身につけることも目指します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 器械運動の基本的な技を実施することができる。器械運動の基本的な技のメカニズムを説明することができる。器械運動の基本的な技の練習方法を説明することができる。他の受講生の技の習得を助けることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本演習は第二体育館で行います。マット・鉄棒・跳び箱の基本技について説明するので、それらを習得できるよう練習します。また、技の理想型や練習方法などをレポートにまとめ、それをもとに練習あるいは教えあうなどして進めます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業内容に関するガイダンス、器具の設置、ストレッチ、倒立 | 授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方についての説明をするとともに、各器具の安全な設置について説明しながら実施します。実技課題の一つである倒立も実施します。 | | | | 事前にシラバスを読んでおく。授業後、倒立を練習し、実技課題について調べておく(1時間)。 | | | | |
| 2 | マット運動の基本系 : 接地系 | 前転、開脚前転、伸膝前転、後転、開脚前転、伸膝後転について説明・解説します。練習のあとに技量審査をします。 | | | | 倒立の練習をする。実施した技と次回実施する技について映像などを見てイメージする(1時間)。 | | | | |
| 3 | マット運動の基本系 : 倒立系 | 倒立前転や後転倒立、側転について解説し、練習のあとに技量審査をします。 | | | | 倒立の練習をする。実施した技と次回実施する技について映像などを見てイメージする(1時間)。 | | | | |
| 4 | マット運動の基本系 : ほん転系 | 頭跳ね起きや前方倒立回転跳びなどについて解説し、練習のあとに技量審査をします。 | | | | 倒立の練習。指定された日までにマット運動についてレポートを作成しておく(1時間)。 | | | | |
| 5 | マット運動の基本系 : マット技のおさらい | すべてのマット技についておさらいし、練習のあとに改めて技量審査をします。 | | | | 倒立の練習。跳び箱運動について映像などを採り、イメージをつける(1時間)。 | | | | |
| 6 | 跳び箱運動の基本系 : 技の紹介・練習 | ロイター板の蹴り方や手の着き方について説明します。また、開脚跳び、台上前転、前方倒立回転跳びについて紹介・解説します。各技にトライします。 | | | | 倒立の練習。実施した技について映像などを採り、イメージをつける(1時間)。 | | | | |
| 7 | 跳び箱運動の基本系 : 技量審査 | 跳び箱の開脚跳び、台上前転、前方倒立回転跳びについて練習のあと、技量審査をします。 | | | | 倒立の練習。指定された日までに跳び箱運動についてレポートを作成しておく(1時間)。 | | | | |
| 8 | 鉄棒運動の基本系 : 技の紹介・練習 | 鉄棒の基本的握り方や支持状態あるいはそこからの降り方などを紹介します。また、逆上がり、前方支持回転、後方支持回転、け上がりを紹介・解説します。各技にトライします。 | | | | 倒立の練習。実施した技について映像などを採り、イメージをつける(1時間)。 | | | | |
| 9 | 鉄棒運動の基本系 : 技量審査 | 鉄棒の逆上がり、前方支持回転、後方支持回転、け上がりについて練習のあと、技量審査をします。 | | | | 倒立の練習。指定された日までに鉄棒運動についてレポートを作成しておく(1時間)。 | | | | |
| 10 | トランポリン | トランポリンを使った基本的な技を紹介・解説します。一つ一つの技について体験し、練習します。 | | | | 倒立の練習。実施した技について映像などを採り、イメージをつける(1時間)。 | | | | |
| 11 | マット、鉄棒、跳び箱の総合練習 | 各種目のなかでクリアしていない技について、レポートに書いた方法を駆使して練習します。適宜技量審査を受けていきます。 | | | | 倒立の練習。できない技の映像などを見て、技のメカニズムと練習法をおさらいする(1時間)。 | | | | |
| 12 | 練習方法の実践・検討 | レポートにあった練習方法について一つ一つ実践し、それについての意見交換をしながら効果的な練習方法について検討します。 | | | | 倒立の練習。受講生が実施した技の映像などから、レポートの練習法を修正してみる(1時間)。 | | | | |
| 13 | グループ練習 | グループを作り、そこに設定したリーダー等を中心として観察、指導、練習します。適宜技量審査を受けていきます。 | | | | 倒立の練習。受講生が実施した技の映像などから、レポートの練習法を修正してみる(1時間)。 | | | | |
| 14 | グループ練習 | グループを組み直して設定したリーダー等を中心として観察、指導、練習します。適宜技量審査を受けていきます。 | | | | 倒立の練習。受講生が実施した技の映像などから、レポートの練習法を修正してみる(1時間)。 | | | | |
| 15 | グループ練習 | 少人数のグループを作り、そこに設定したリーダー等を中心として観察、指導、練習します。適宜技量審査を受けていきます。 | | | | 指定された日までにレポートを作成する(1時間)。 | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| なし。必要に応じてプリントを配布します。 | | | 実技:40% レポート:50% 受講態度:10% S:実技が高い完成度ですべて実施でき、分かりやすく納得性の高いレポートが書け、他の受講生に適切なアドバイスができる。A:実技がほぼ実施でき、図解されたレポートが書け、他の受講生にアドバイスすることができる。B:実技がおおよそ実施でき、レポートに誠実に取り組み、他の受講生を助けることができる。C:実技の多くを実施でき、レポートに誠実に取り組み、他の受講生を助けることができる。(受講態度は評価基準に明記していただいております) | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 必要に応じて紹介する。 | | | できる・できないことによる感情を伴いながら個人差が大きく生じる科目です。実際の運動場面を意識して学習を進めてください。事前事後学習をしっかりと行って講義に臨んでください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-----------------|---|------|----------------|--|----|--|---------|-----|--|
| 科目名 | 体育実技（陸上競技） | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL36051 | 研究室 | |
| 担当者 | 小松 茂美 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | アイスワ- | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 各種目の特性について理解し、基本的な技術を身につけるとともに、競技会(記録会)運営ができる資質や能力を養うことを目的としています。学校体育で取り上げられる陸上競技の走・跳・投の種目に幅広く取り組み、各種目の初歩的な内容についての指導方法を学び、ルールや審判方法などの運営面についての理解も深めます。また、運動経験を通して陸上競技の本質的な楽しさや、安全な学習活動の指導方法の工夫についても理解し、実践できるようになることを目的としています。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 陸上競技の走・跳・投種目の基本的な身体の使い方について学び、分かり易く説明できるようになること。本講義の運動経験をとおして陸上競技の持つ本質的な楽しさに触れ、初歩的な技術や指導法について理解し、実践できるようになること。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 実技だけでなく、指導方法や競技ルールなどの基本的な知識を身につけることを同時に展開していきます。さらに、体育の授業を意識したマネジメント方法について学ぶため、競技運営上の問題点についても触れていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 基本的な身体の使い方 | オリエンテーション 授業計画について概略を説明します。また、ウォーミング・アップ及び、歩と走の基本的な動きについて、実践しながら学びます。 | | | | | レポート提出準備: 本時のまとめ(1時間) | | | |
| 2 | 短距離走 | 短距離走の基本的な動きづくり 基本的な動きと練習法、腕振り的重要性について理解し、実践しながら学びます。 | | | | | 事前学習: 走運動の動き レポート提出準備: 本時のまとめ(1時間) | | | |
| 3 | 短距離走 | 短距離走の基本的な組み立てについて スタートからゴールまでの走り方について理解し、実践しながら学びます。 | | | | | 事前学習: 100m走の走り方 レポート提出準備: 本時のまとめ(1時間) | | | |
| 4 | リレー | バトンパスについて バトンパスの技術と理論(タイムロスの少ないバトンパスについて)理解し、実際にリレー競技に取り組み実践しながら学びます。 | | | | | 事前学習: タイムロスの少ないバトンパス/1回~4回の授業レポート提出/(2時間) | | | |
| 5 | 中長距離走 | 中・長距離走の基本 短距離走との走法の違いについて、呼吸法やペース配分について理解します。また、インターバルトレーニングを実際に体験します。 | | | | | 事前学習: 長距離を走る時の呼吸法/レポート提出準備: 本時のまとめ/(1時間) | | | |
| 6 | 障害走 | 障害走の基本 ハードリング技術の基本動作(踏切動作、着地動作、踏切から着地まで)について実践し、安全なハードル走の指導についても学びます。 | | | | | 事前学習: ハードリングの技術 レポート提出準備: 本時のまとめ(1時間) | | | |
| 7 | 障害走 | 障害走の基本 リズムカルにインターバルを走るために必要なポイントを理解し、実践し、その指導法についても学びます。 | | | | | 事前学習: ハードル走で陥りやすい技術的欠点/5回~7回の授業レポート提出/(2時間) | | | |
| 8 | 走幅跳 | 走幅跳の踏切動作 基本的な踏切動作及び跳躍走の基本について理解し、実践しながら学びます。 | | | | | 事前学習: 遠くへ跳ぶための踏切動作の基本/レポート提出準備: 本時のまとめ/(1時間) | | | |
| 9 | 走幅跳 | 走幅跳の助走と空中姿勢 助走(踏切板で踏切るために)、空中動作及び着地動作について理解し、実践しながら学びます。 | | | | | 事前学習: 踏切板で踏み切るための助走法/レポート提出準備: 本時のまとめ/(1時間) | | | |
| 10 | 走高跳 | 走高跳(背面跳)の助走と踏切動作 踏切動作の基本及び助走の基本的な考え方について理解し、実践しながら学びます。 | | | | | 事前学習: 背面跳の助走の理論 レポート提出準備: 本時のまとめ(1時間) | | | |
| 11 | 走高跳 | 走高跳(背面跳)の空中動作と着地動作 空中動作と着地動作について実践しながら、その指導法も含め学びます。 | | | | | 事前学習: ケガをしない背面跳の着地動作/8回~11回の授業レポート提出/(2時間) | | | |
| 12 | 砲丸投 | 砲丸投の基本について 基本的な投擲動作(グライド、突き出し)について理解し、身体の使い方を実践しながら学びます。 | | | | | 事前学習: 砲丸投の身体の使い方 レポート提出準備: 本時のまとめ(1時間) | | | |
| 13 | 円盤投・やり投 | 円盤投・やり投の基本について 基本的な投擲動作について理解し、身体の使い方を実践しながら学びます。 | | | | | 事前学習: 安全な投擲練習 レポート提出準備: 本時のまとめ(1時間) | | | |
| 14 | 模擬競技会 | 記録会 競技会形式での記録会の実施(選択した競技種目の自己記録の測定及び他者の記録測定を通して、競技会運営について学びます。) | | | | | 事前学習: 記録測定の基本的なルールの確認/12回~14回の授業レポート提出/(2時間) | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめ 走・跳・投種目の基本的な技術及び基本動作の練習法について、これまで学んだことを復習・実践し、より確かなものにします。 | | | | | 事前学習: 各自の課題 レポートの提出(2時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「中学校学習指導要領解説 - 保健体育編 -」文部科学省編(東山書房) ISBN: 9784827814637 (生協で購入してください。) 「高等学校学習指導要領解説 - 保健体育編 -」文部科学省編(東山書房) ISBN: 9784827814811 (生協で購入してください。) | | | | | 受講態度: 30%、出席レポート: 30% 実技: 30% レポート: 10% 受講態度(A: 意欲的・積極的、B: 普通、C: 消極的とし、出席状況を加味)、出席レポート(授業レポート)・レポート(A: 理解・整理できている、B: 概ねできている、C: 不十分)、実技(A: 授業で見本を示すことができ技術的説明ができる、B: 授業で部分的に見本を示すことができ技術的説明ができる、C: 授業で見本を示すには不十分であるが技術的説明ができる)を総合的に評価します。全ての項目がA評価の場合、S評価の検討をします。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「陸上競技指導教本アンダー16・19[初級編]基礎から身につく陸上競技」日本陸上競技連盟著(大修館書店) ISBN: 9784469267471 | | | | | 実技科目なので体調には十分留意してください。また、将来、指導者になることを想定して授業を進めていきますので、受身ではなく、姿勢や態度にも留意して授業に臨んでください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------|--|------|------|--|-----------------------------|--------------------------------------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 体育実技 A (バレーボール) | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL26052 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 矢崎 律子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | オイスター | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| バレーボールは、ネット型スポーツの代表格として、わが国においては学校体育にも組み込まれ、生涯スポーツはもとよりプロスポーツとしても人気のスポーツです。本講義では、学校体育および地域指導者としての知識とスキルの習得を目指します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| バレーボール未経験者であっても、コート作り、審判方法、ゲームの基礎まで学修することを目指します。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義前半では基礎技術と練習方法を、後半ではルールと審判などを学びます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | バレーボールの基礎 | オリエンテーション(授業の進め方)を行います。 | | | | | シラバスを読んでおくこと(1時間)。 | | | |
| 2 | バレーボールの基礎 | 基礎技術と練習(1) ボールキャッチ・アンダーハンドパスの技術を習得します。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 3 | バレーボールの基礎 | 基礎技術と練習(2) アンダーハンドパス・オーバーハンドパスの技術を習得します。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 4 | バレーボールの基礎 | 基礎技術と練習(3) サーブの技術を習得します。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 5 | バレーボールの基礎 | 基礎技術と練習(4) サーブカット・トスの技術を習得します。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 6 | バレーボールの基礎 | 基礎技術と練習(5) スパイクの技術を習得します。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 7 | バレーボールの基礎 | 基礎技術と練習(6) スパイクの技術を習得し、ルールと審判の基礎について学びます。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 8 | バレーボールの基礎 | 基礎技術と練習(7) スパイク・ブロックの技術の修得、ルールと審判についての理解を深めます。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 9 | バレーボールの基礎 | 基礎技術と練習(8) スパイク・ブロックの技術の修得、ルールと審判の実際をゲームを通じて体験します。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 10 | バレーボールの応用 | ゲームの実際(1) ローテーション・チーム戦術を意識しながらゲームを行います。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 11 | バレーボールの応用 | ゲームの実際(2) ルールと審判を意識しながらゲームを行います。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 12 | バレーボールの応用 | ゲームの実際(3) ルールと審判を意識しながらゲームを行います。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 13 | バレーボールの応用 | ゲームの実際(4) ルールと審判を意識しながらゲームを行います。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 14 | バレーボールの応用 | ゲームの実際(5) ルールと審判を意識しながらゲームを行います。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること(1時間)。 | | | |
| 15 | バレーボールの応用 | ゲームの実際(6) ルールと審判を意識しながらゲームを行います。 | | | | | 事後:バレーボールノートを作成すること。まとめをしておくこと(1時間)。 | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 講義内で適宜プリントを配布して進めます。 | | | | | 受講態度:30% レポート:30% 定期試験:40% 受講態度:実技運営協力姿勢があるか、危険行為を回避しているか、チームのメンバーとして協働しているかを問います。レポート:講義ごとに作成してもらったノートの提出、記述内容を問います。定期試験:講義内で配布する事項を理解しているかを問います。 上記ポイントについて、95%以上到達は「S」、80%以上到達は「A」、70%以上到達は「B」、60%以上到達は「C」として評価します。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 別途指示します。 | | | | | 積極的な学習姿勢を望みます。「できた」という体験の積み重ねにより、バレーボールをより好きになってくれたならうれしいです。 | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------|---|------|------|------------------------------|-------|--|-----|------|
| 科目名 | 体育実技 B1 (テニス) 中島弘クラス | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16053 | 研究室 | S-22 |
| 担当者 | 中島 弘毅 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | オイスター | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある。 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| 本授業では、テニスの基礎的技術の習得およびゲームを楽しむためのルールの理解と試合の進め方の習得を目指します。また、ゲームにおける基礎的な戦術についても理解し、「身体」でのプレーによる楽しみから、考えてプレーすることの楽しみも味わいます。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| グリップの握り方からフォアハンドストローク、バックハンドストローク、サービス、ボレーなどの技術習得と自らがゲームを進めることができるようにルールおよびコールの仕方を学習します。また、如何にコートを有効に使うか、そして、打ち方、ボールの回転、打点、ポジション等によってボールのコースがどの様に決まってくるかという法則性を学んでいきます。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| ペアー、またはグループで相互に助け合いながら、技術および知識の習得を目指します。基本技術の学習後、ゲーム形式の学習に展開して行きます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | |
| 1 | ガイダンス | 本講義の概要と進め方について理解します。 | | | | | グリップの握り方について調べてきましょう。(1時間) | | |
| 2 | フォアハンドストローク | 用具になれると共に、フォアハンドストロークの基礎的技術を習得します。 | | | | | フォアハンドストロークのポイントについてまとめてきます。(1時間) | | |
| 3 | バックハンドストローク | バックハンドストロークの基礎的技術を習得を習得します。 | | | | | バックハンドストロークのグリップについてまとめてきましょう。(1時間) | | |
| 4 | ボールコントロール | サービスエリア内ラリーを中心とした練習を展開し、面、打点、ボールの回転、ステップについて学んでゆきます。 | | | | | 面、スイング方向、スイングスピードとボールの軌道についてまとめてます。(1時間) | | |
| 5 | 楽にボールを打とう | 半面ラリーを中心とした練習を展開し、体重移動、腰の回転を意識してボールを打つことを学習します。 | | | | | 力を入れなくとも楽にボールを打つためには、何が大切かを考えましょう。(1時間) | | |
| 6 | サービス | サービスの基本技術を学習します。 | | | | | サービスの種類と打ち方についてまとめてます。(1時間) | | |
| 7 | ボレー | フォアハンドボレー&バックハンドボレーについて基礎的技術を学習します。 | | | | | フォアハンドのポイントについてまとめてます。(1時間) | | |
| 8 | スマッシュ | スマッシュの基本的技術について学習します。 | | | | | スマッシュを打つときのグリップと打点についてまとめてます。(1時間) | | |
| 9 | ミニゲーム | ゲームのすすめ方とコールの仕方について学習します。 | | | | | ゲームのすすめ方についてまとめてきます。(1時間) | | |
| 10 | ダブルスのミニゲーム | ダブルスでの2ゲームマッチを行いゲームに慣れます。 | | | | | コールの仕方についてまとめてきます。(1時間) | | |
| 11 | ダブルスのミニゲーム(2) | ダブルスでの3ゲームマッチを行いながら、ポジションと配球について考えます。 | | | | | ダブルス時のポジションについて調べてきます。(1時間) | | |
| 12 | シングルのミニゲーム | シングルでの3ゲームマッチを行いながら、ポジションと配球について考えます。 | | | | | シングルスでのつなぎ、つくり、決め球についてまとめてます。(1時間) | | |
| 13 | チーム対抗戦 | チームを作り、団体戦を行います。団体戦を通してお互いにアドバイスをしながらスキルの向上を図り、目標に向かって協力しあうことの素晴らしさを味わいます。 | | | | | チームで勝つためには何が必要かを考えます。(1時間) | | |
| 14 | チーム対抗戦(2) | 団体戦を通してお互いにアドバイスをしながらスキルの向上を図り、目標に向かって協力しあうことの素晴らしさを味わいます。 | | | | | チームにはどのような役割があり、その中で自分がどのような役割を果たし方を考えます。(1時間) | | |
| 15 | まとめ | スキルチェック&まとめ | | | | | 打点と身体の使い方についてまとめてましょう。(1時間) | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「硬式テニス」丸山薫著(池田書店) | | 受講態度:20% 実技:70% 小テスト:10% 受講態度は、授業への積極的参加、行動、協力的態度、準備、片付け等について評価します。実技テストを行いません。S:95点以上 A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「硬式テニスの基本と練習法」塚越巨著(東西社) | | ラケットは大学で用意するが、技術の向上の為に自分のラケットを用意すると良い。服装は、運動着を着用するものとする。靴は、運動靴でそこが平らなものであればよいが、テニスシューズを用意することが望ましい。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------|---|----------------|------|------------------------------|-------|-----------------------------------|-----|------|--|
| 科目名 | 体育実技 B 1 (テニス) 河野クラス | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16053 | 研究室 | S-24 | |
| 担当者 | 河野 史倫 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | オイスター | 月曜日5限 | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある。 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| テニスの基礎的技術の習得およびゲームを楽しむためのルールの理解と試合の進め方の習得を目指します。また、ゲームにおける基礎的な戦術についても理解し、「身体」でのプレーによる楽しみから、考えてプレーすることの楽しみも味わいます。テニス未経験者に教えることができるよう、技術や練習のやり方を習得します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 各種ショットの技術、ルール、コート上でのマナーを習得し、ゲームを楽しめるようになることを到達目標とします。また、サーブやラリーを成功させゲームやポイントの内容を高めることができるだけでなく、回転や打ち分けを使って戦術的なプレーができるようになることが最終的な達成目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| クラス内でチームを作り練習ならびに団体戦形式の試合を行います。単発的な練習から徐々に対人練習や戦術パターンの展開などの練習に発展させていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業全体の流れと評価の説明、チーム分けを行います。 | | | | | コートの名称やルールについて調べる。(1時間) | | | |
| 2 | ラケットワークとミニラリー | ラケットを使った基本的な操作技術を練習します。 | | | | | 事後学習としてラケットワークの練習を行っておく。(1時間) | | | |
| 3 | フォアハンドストローク | フォアハンドストロークの技術練習を行います。 | | | | | 事後学習として打ち方の練習を行っておく。(1時間) | | | |
| 4 | バックハンドストローク | バックハンドストロークの技術練習を行います。 | | | | | 事後学習として打ち方の練習を行っておく。(1時間) | | | |
| 5 | 打ち分け | フォアハンド、バックハンドの両方を使って左右に打ち分ける練習を行います。 | | | | | 事後学習として打ち方の練習を行っておく。(1時間) | | | |
| 6 | ラリー | 対人でのラリーおよびポイントゲームを行います。 | | | | | 対人でのラリーに十分に慣れるよう事後学習を行う。(1時間) | | | |
| 7 | サーブ | サーブのルールやグリップ、基本的な打ち方を練習します。 | | | | | 事後学習として打ち方の練習を行っておく。(1時間) | | | |
| 8 | サーブ&レシーブ | 1stサーブと2ndサーブの打ち分け、レシーブからの展開を練習します。 | | | | | 事後学習としてサーブが入るように練習を行っておく。(1時間) | | | |
| 9 | ボレーとポーチ | ダブルスの基本戦術：雁行陣でのラリーとポーチのためのボレー練習を行います。 | | | | | 事後学習としてボレー練習を行っておく。(1時間) | | | |
| 10 | ダブルス | ゲーム形式でプレーし、ゲームの進め方、ポイントの取り方を習得します。 | | | | | 事後学習としてビデオなどで試合を閲覧しルールを確認する。(1時間) | | | |
| 11 | チーム対抗戦(練習) | ダブルスゲームによる団体戦を行います。 | | | | | 苦手なショットの練習を行っておく。(1時間) | | | |
| 12 | チーム対抗戦1 | ダブルスゲームによる団体戦を行います。 | | | | | 苦手なショットの練習を行っておく。(1時間) | | | |
| 13 | チーム対抗戦2 | ダブルスゲームによる団体戦を行います。 | | | | | 苦手なショットの練習を行っておく。(1時間) | | | |
| 14 | チーム対抗戦3 | ダブルスゲームによる団体戦を行います。 | | | | | 苦手なショットの練習を行っておく。(1時間) | | | |
| 15 | 技術の確認 | 各ショットの正確性やラリーの技術を試験します。 | | | | | 与えられた課題についての練習を行っておく。(1時間以上) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 使用しません。 | | 受講態度：20% 実技：80% 受講態度は、授業への積極性、コートでの立ち振る舞い方、練習量などで評価します。テニス経験者は、チーム内での協調性や技術的サポートの姿勢も評価します。 S：Aの中でも、特に上達が著しかった者。 A：Bの条件に加え、ゲームで戦術を実践できる。 B：Cの条件に加え、ラリーを長く続けることができる。 C：基本ショットの打ち方を習得し、自立してゲームを進めることができる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 使用しません。 | | テニスは生涯スポーツとしての人口が多いスポーツです。楽しみ方を覚えて、健康やコミュニケーションのためのツールとして活用できるようになってほしいと考えています。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------|--|------|------|--|------------------------------|------------------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | 体育実技 B2(卓球) | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16054 | 研究室 | S-22 |
| 担当者 | 中島 弘毅 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | オイスアワ | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある。 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読書科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講は、卓球における基本的知識、技術、ルール、マナー、またその考え方について学び、卓球を指導する上での基本的技術の習得を目指します。また、ゲームするなかで自らの課題を発見し、その課題解決のための練習に取り組みながら、駆け引きができるゲームの楽しさを目指します。是非、ゲームを楽しみながら卓球の知識・技術などを習得して欲しいと思います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 卓球における基本的知識、技術、ルール、マナーについて学び、説明できるようにします。技術的には、リズム良くドライブでのラリーが続けることができる技術の習得を目指します。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本授業は、隔年開講です。分習法と全習法を織り交ぜながら、自らの課題を常に認識しながら、技術の向上を図ることを目指します。ペア、またはグループで相互に助け合いながら、技術および知識の習得を目指します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンス | 本授業の進め方について説明します。 | | | | | ラケットの握り方について調べてくる。(1時間) | | | |
| 2 | 用具に慣れる | ラリーをすることによって、ボールと用具に慣れます。ラケットの握り方、構え、フットワークについて学びます。 | | | | | 構えとフットワークについて調べてくる。(1時間) | | | |
| 3 | フォアハンド | フォアハンドの基本を学びます。多球練習で多くのボールを打ち、面、打点、スイングの仕方、フットワークについて学びます。 | | | | | フォアハンドのポイントについて調べてくる。(1時間) | | | |
| 4 | バックハンド | バックハンドショットの基本を学びます。多球練習で多くのボールを打ち、面、打点、スイングの仕方、フットワークについて学びます。 | | | | | フォアハンドショットのポイントについて調べてくる。(1時間) | | | |
| 5 | サーブ&サーブレシーブ | サーブのルールと打ち方、サーブレシーブについて学びます。 | | | | | サーブのルールについて調べてくる。(1時間) | | | |
| 6 | ツッツキ | ツッツキの打ち方を学びます。 | | | | | ツッツキの打ち方のポイントについて調べてくる。(1時間) | | | |
| 7 | フォアハンドドライブ | フォアハンドドライブの打ち方を学びます。 | | | | | フォアハンドドライブの打ち方のポイントについて調べてくる。(1時間) | | | |
| 8 | カット | カットの打ち方を学びます。 | | | | | カットの打ち方のポイントを調べてくる。(1時間) | | | |
| 9 | スマッシュ | スマッシュの打ち方を学びます。 | | | | | スマッシュの打ち方のポイントについて調べてくる。(1時間) | | | |
| 10 | シングルのゲーム | シングルのルールを覚え、リーグ戦を行います。3球目攻撃を意識します。 | | | | | シングルのルールを調べてくる。(1時間) | | | |
| 11 | シングルのゲーム(2) | シングルのリーグ戦を行います。つなぎ、つくり、決め球を意識します。 | | | | | つくりのパターンを復習する。(1時間) | | | |
| 12 | ダブルスのゲーム | ダブルスのルールを覚え、リーグ戦を行います。 | | | | | ダブルスのルールを調べてくる。(1時間) | | | |
| 13 | ダブルスのゲーム(2) | ダブルスのリーグ戦を行います。コンビネーションを意識して行います。 | | | | | パートナーの生かし方について復習する。(1時間) | | | |
| 14 | 団体戦 | チームを作り団体戦を行います。リーグ戦をします。 | | | | | チームとして勝つためには何をしたら良いかを考えてくる。(1時間) | | | |
| 15 | 団体戦&まとめ | 団体戦のリーグ戦を行います。 | | | | | チームの中で自分は何のような役割を果たしたか考える。(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 必要に応じて資料を配布します。 | | | | | 受講態度:10% 実技:70% 小テスト:10% 課題:10% 受講態度は、授業への積極的参加、行動、協力的態度、準備、片づけ等について評価します。実技テストを行いません。s:95点以上、A:80点以上、B:70点以上、C:60点以上。実技テストはラリーの回数、質で評価します。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「卓球 基本と練習メニュー」大江正人監修著(池田書店) ISBN:978-4-262-16323-9 | | | | | 授業に積極的に取り組み、課題達成に向けて、自ら楽しむことを期待します。運動服、体育館シューズを用意して下さい。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------|---|----------------|------|------|--|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 体育実技 C (バドミントン) | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16055 | 研究室 | S-15 |
| 担当者 | 山本 薫 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | ウェア | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本授業では、バドミントンの主要な攻撃技術であるスマッシュをラリーの中で使えるようになることを中心に、多様な技術の獲得・向上を図り、サーブやレシーブ技術についても獲得・向上するよう練習を計画的に積み重ねます。また、その成果を確かめるために、あるいは相手との駆け引きを学ぶために練習試合を行い、学習のまとめとしてチーム総当たりのリーグ戦を行います。さらに、各種の練習やゲーム(運営)などについて、グループ内部で教え合い、協力・共同して行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 本授業の学習到達目標は、まずスマッシュが打てるようになることであり、その他の試合を行うために必要な諸技術についても獲得・向上させ、試合の中で使えるようになることです。そのために、メンバー間で工夫して積極的に教え合い、練習準備を協力・共同して行うなど、グループ内の凝集性を高めることも到達目標にします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 授業は、前半部では技術練習を中心に、後半部ではその成果の確認も含めゲームに重点をおいて展開します。また、準備方法や安全に対する配慮なども含め最低限必要なルールを学習する時間を設けます。バドミントンに関するレポートも課します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本授業の進行計画・展開及び評価方法等を確認します。 | | | | 事前:シラバスをよく読んでおく。事後:配付資料にある授業内容を確認しておく。(1時間) | | | | |
| 2 | 実技の進め方の確認 | 実際に体育館に集合し、コート数や用具の収納されている倉庫の場所、準備運動や教員からの連絡方法、貴重品や持ち物の扱い方に関する注意事項等を確認し、以降の授業の円滑な進行を図ります。 | | | | 事前:専用ウエア・シューズを用意する。事後:授業終了時に指示する。(1時間) | | | | |
| 3 | スマッシュの練習(1) | まずスマッシュの打ち方について、シャトルを捉える位置と高さ、ラケットの面の作り方などを説明した上で、二人一組で打ち合います。その際、気づいたことについて積極的に声を掛け合うようにします。 | | | | 事前:スマッシュについて調べておく。事後:スマッシュを打つ際の注意点を復習する。(1時間) | | | | |
| 4 | スマッシュの練習(2) | ラリーの中でスマッシュを打てるようになります。その際、落ちてくるシャトルがラケットを持つ側の肩の上にくるよう、ポジショニングを重視します。上手いかわりに者にアドバイスしより多く打たせます。 | | | | 事前:スマッシュの打ち方をイメージしておく。事後:授業終了時に指示する。(1時間) | | | | |
| 5 | スマッシュの練習(3) | ラリーの中でスマッシュをより上手く打てるようになるよう、繰り返し練習します。その際、シャトルの飛び方からラケット面の作り方をフィードバックし調整していきます。併せて、レシーブの練習もします。 | | | | 事前:シャトルの落下点と打点をイメージしてみる。事後:授業終了時に指示する。(1時間) | | | | |
| 6 | ドロップの練習 | スマッシュと同じ姿勢から、打つ瞬間に力を抜くドロップを学びます。レシーブ側のタイミングを外す技術は、攻撃バリエーションを増やすので、力の抜き方とラケット面の作り方を中心に練習します。 | | | | 事前:ドロップについて調べておく。事後:ラケット面の作り方を復習しイメージ化する。(1時間) | | | | |
| 7 | サーブの練習 | 次時からの練習ゲームに備えてサーブを練習します。サーブを打つ順番、打つ場所、サーブに対する守側の位置取りなどを中心に練習します。これらの点を意識して繰り返し練習します。 | | | | 事前:サーブの順番について調べておく。事後:授業終了時に指示する。(1時間) | | | | |
| 8 | 練習・確認ゲーム(1) | これまで練習してきたスマッシュ、ドロップ、サーブなどを、実際のゲームの中で使ってみます。ゲームに慣れると共に、練習成果を確認し、次の練習課題を見つけることを目的に行います。 | | | | 事後:ダブルスの組み合わせを確認しておく。事後:ゲームを基に次時の課題を確認する。(1時間) | | | | |
| 9 | 練習・確認ゲーム(2) | これまで練習してきたスマッシュ、ドロップ、サーブなどを実際のゲームの中で使ってみます。ゲームに慣れると共に、練習成果を確認し、次の練習課題を見つけ、メンバー間で共有するよう努めます。 | | | | 事前:前時で見つけた課題を整理しておく。事後:本時を参考に次時の内容を考えておく。(1時間) | | | | |
| 10 | グループ別練習 | 前2回の練習・確認ゲームを参考に、グループ別に練習を行います。リーダーは、メンバー間でよく話し合って練習内容を定めるよう十分配慮します。また、バドミントンに関するレポート課題を課します。 | | | | 事前:本時の練習内容について考えておく。事後:レポート課題について調べを進める。(1時間) | | | | |
| 11 | リーグ戦(1) | これまでの練習の総仕上げとして、チーム総当たりのリーグ戦を5週にわたって行います。ゲームのないチームは、ルール学習を踏まえて審判を行います。また、ゲームの前後ではチーム別に練習します。 | | | | 事前:ダブルスの組み合わせを工夫しておく。事後:次時のゲーム前練習を相談しておく。(1時間) | | | | |
| 12 | リーグ戦(2) | これまでの練習の総仕上げとして、チーム総当たりのリーグ戦を5週にわたって行います。ゲームのないチームは、ルール学習を踏まえて審判を行います。また、ゲームの前後ではチーム別に練習します。 | | | | 事前:ゲーム前の練習内容を確認しておく。事後:レポート課題の執筆を進める。(1時間) | | | | |
| 13 | リーグ戦(3) | これまでの練習の総仕上げとして、チーム総当たりのリーグ戦を5週にわたって行います。ゲームのないチームは、ルール学習を踏まえて審判を行います。10回目まで課したレポートを提出します。 | | | | 事前:ゲーム前の練習内容を確認しておく。事後:本時のゲームについて分析してみる。(1時間) | | | | |
| 14 | リーグ戦(4) | これまでの練習の総仕上げとして、チーム総当たりのリーグ戦を5週にわたって行います。ゲームのないチームは、ルール学習を踏まえて審判を行います。また、ゲームの前後ではチーム別に練習します。 | | | | 事前:ゲーム前の練習内容を確認しておく。事後:本時のゲームについて分析してみる。(1時間) | | | | |
| 15 | リーグ戦(5) | 練習の総仕上げとしてのリーグ戦の最終戦を行います。ゲームのないチームは、ルール学習を踏まえて審判を行います。ゲーム終了後、まとめとして課すレポートの確認を含め本授業の反省を行います。 | | | | 事前:ゲーム前の練習内容を確認しておく。事後:本授業のレポートを執筆、提出する。(1時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付して進めます。 | | 実技:70% レポート:15% 出席レポート:15% 成績評価は、上記3つの要素を中心に総合的に行います。評価基準は次のとおりです。S:積極的に練習に取り組み、獲得技術を適切に使い、他のメンバーに教えるなど指導力を発揮できる。A:積極的に練習に取り組み、獲得技術を適切に使い、他のメンバーと協力して教えることができる。B:毎時積極的に練習に取り組み、獲得技術を適切に使い、他のメンバーと協力できる。C:毎時積極的に練習に取り組み、獲得技術を適切に使うことができる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 特に指定しません。 | | 不注意からの事故を防ぐために、上手・下手を問わず周囲に注意しつつ積極的に楽しく参加してください。また事前学習の一端として、バドミントン放映等を意識的に視聴し、イメージを豊かにしておいて下さい。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------|---|------|--|----------------|--|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 体育実技 A (バスケットボール) | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL26056 | 研究室 | S-21 |
| 担当者 | 根本 賢一 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | オイスアワ | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| バスケットボールに関する基礎的な知識と基本技術(シュート、ドリブル、パス、ディフェンスなど)を獲得し、その上でチームプレーの構築と理解を図ります。まずは少人数からの練習を行い、その上で集団での戦術向上を図ります。毎回、個人技術練習とミニゲームを行いながら、仲間とのコミュニケーションを深めます。また、バスケットボールのルールを理解し、履修者全員がゲームの審判やオフィシャルを出来るようにします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 汗をかくという爽快感を体験しながら、バスケットボールに関する基礎的な知識、技術、戦術、ルールなどを習得することを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 個人技術の基本説明と練習と、チームプレーの構築と理解を、少人数からの練習を通して身につけていきます。各自がチーム内で積極的に動き役割を果せるように試合時間を多くとり、後半のリーグ戦の際には学生諸君が中心に審判やオフィシャルの運営を行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明します。さらに、2回目以降のグループ分けを行い、ルール解説をします。 | | | | バスケットボールでのルールについて各自で調べておくこと(1時間)。 | | | | |
| 2 | 個人技能 | ボールハンドリング、パス、ターンの方法を解説し実践します。 | | | | 基本的なストップ&ステップ、各種パスのポイントを復習しておくこと(1時間)。 | | | | |
| 3 | 個人技能 | ボディコントロール、パス、ドリブルの方法を解説し実践します。 | | | | ドリブル、パスを片手で左右同時にスムーズにできるようにしておくこと(1時間)。 | | | | |
| 4 | シューティング | レイアップ、ジャンプシュートを中心にバリエーションドリルの方法を解説し実践します。 | | | | 左右でレイアップシュートができ、ジャンプシュートが打てるようにしておくこと(2時間)。 | | | | |
| 5 | オフェンス | 1対1の攻防、2対2の攻防、ハーフコート・ゲームの方法を解説し実践します。 | | | | シュートでフィニッシュできるようにパッシング、ドリブルのスキルを確認しておくこと(1時間)。 | | | | |
| 6 | オフェンス | 2対2の攻防、3対4の攻防、ハーフコート・ゲームの方法を解説し実践します。 | | | | スクリーンプレーにおけるルール、インサイド及びアウトサイドのパターンを調べる(1時間)。 | | | | |
| 7 | マンツーマンディフェンス | 対人防御と対人防御に対する攻撃法の方法を解説し実践します。 | | | | ディフェンスの基本姿勢について復習し、マンツーマンディフェンスの特徴を調べる(1時間)。 | | | | |
| 8 | ゾーンディフェンス | 地域防御と地域防御に対する攻撃法の方法を解説し実践します。 | | | | ゾーンディフェンスの各パターンの特徴を調べておくこと(1時間)。 | | | | |
| 9 | ファーストブレイク | 速攻攻撃法、簡易ルールによるゲームの方法を解説し実践します。 | | | | 攻守の切替を素早くできるようにターン及びドリブル、パッシングの練習をしておくこと(1時間)。 | | | | |
| 10 | フルコートゲーム | 第1リーグ戦を行います。なお、ゲームを行っていないチームが審判及びオフィシャルを担当してゲームの運営について学びます。 | | | | ディフェンスのチーム・ルールの確認をしておくこと(1時間)。 | | | | |
| 11 | フルコートゲーム | 第2リーグ戦を行います。なお、ゲームを行っていないチームが審判及びオフィシャルを担当してゲームの運営について学びます。 | | | | ディフェンスのチーム・ルールが徹底されていたか、本日のゲームを分析しておくこと(1時間)。 | | | | |
| 12 | フルコートゲーム | 第3リーグ戦を行います。なお、ゲームを行っていないチームが審判及びオフィシャルを担当してゲームの運営について学びます。 | | | | 前回のゲームの課題をチーム内で共有し課題克服のために何をすべきかを明らかにする(2時間)。 | | | | |
| 13 | フルコートゲーム | 第4リーグ戦を行います。なお、ゲームを行っていないチームが審判及びオフィシャルを担当してゲームの運営について学びます。 | | | | オフェンス・プレーのタイミングの合わせなどをチームで練習しておくこと(2時間)。 | | | | |
| 14 | フルコートゲーム | 第5リーグ戦を行います。なお、ゲームを行っていないチームが審判及びオフィシャルを担当してゲームの運営について学びます。 | | | | 多彩なオフェンスパターンが展開できるようにチーム練習をしておくこと(2時間)。 | | | | |
| 15 | まとめ | 左右のドリブル及びターン、レイアップシュートとジャンプシュートについての個人技能の習得度についての確認を行い実技評価とします。 | | | | 利き手ではないドリブル及びシューティングの練習を特に行っておくこと(1時間)。 | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 必要に合わせてポイントを記したプリントを用意します。 | | | | レポート: 20% 実技: 40% 課題: 40% S: 高度な技術と理論を習得するための課題等に極めて積極的に取り組み、高度な成果を示している。A: 高度な技術と理論を習得するための課題等に積極的に取り組み、良好な成果を示している。B: 基本的な技術と理論を習得するための課題等に積極的に取り組み、2/3程度の成果を示している。C: 基本的な技術と理論を習得するための課題等に取り組み、1/2程度の成果を示している。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「バスケットボールのルールと審判法」(大修館) | | | | 保健体育教職資格取得を目指す以上、常にその自覚を持って授業に臨んでください。第一体育館で毎回行いますが、必ず運動着に着替え、室内シューズに履き替えておくこと。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------|--|------|---|----------------|---|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 体育実技 B(サッカー)一般クラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16057 | 研究室 | S-20 |
| 担当者 | 齊藤 茂 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | オイスター | 水曜日2限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義では、サッカーを通じた身体活動の面白さを体験することを目的とします。また、ボールをコントロールするために手以外の体を合理的に使うサッカー独自の運動特性を理解し、生涯にわたってサッカー(スポーツ)を楽しむことができるような下地をつくります。さらに、様々なトレーニングを自らが体験し、効果的な指導方法を学びます。なお、日本サッカー協会指導者ライセンス(公認C級コーチ)の取得を希望する学生は、別途開講されている講義を受講してください。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| パス、トラップ、リフティングおよびドリブル等の基本技術の練習から、戦術練習へ発展させ、最終的にはゲームを成立させるようになることを到達目標とします。また、サッカーに関する専門的な知識やその指導方法を身につけることも目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義の前半は、身体を動かす練習やリフティングを行います。次に、足でボールを扱うパス、ドリブル、シュート等の技術練習を行い、講義の後半はゲームを行います。講義は大学に隣接する松商学園総合グラウンド(人工芝)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | ガイダンス:授業参加に際しての注意事項等について解説を行います。 | | | | 日頃からサッカーに興味を持ち、様々なメディアを通じた情報収集を行ってください。(1時間) | | | | |
| 2 | サッカーの動きに慣れる | サッカーの動きに慣れることを目的としたステップ練習や、様々なゲームを通じたコーディネーション能力を高めるためのトレーニングについて解説し、体験的に学びます。 | | | | 各自でステップ等の復習を行う。また、学んだトレーニング方法等についてはまとめる。(1時間) | | | | |
| 3 | インサイドパス | 技術練習(1) インサイドパスの基本技術について解説し、体験的に学びます。 | | | | 各自でインサイドパスの復習を行い、そのポイントをまとめておく。(1時間) | | | | |
| 4 | トラップ | 技術練習(2) トラップの基本技術について解説し、体験的に学びます。 | | | | 各自でトラップの復習を行い、そのポイントをまとめておく。(1時間) | | | | |
| 5 | インステップキック | 技術練習(3) インステップキックの基本技術について解説し、体験的に学びます。 | | | | 各自でインステップキックの復習を行い、そのポイントをまとめておく。(1時間) | | | | |
| 6 | ドリブル | 技術練習(4) ドリブルの基本技術について解説し、体験的に学びます。 | | | | 各自でドリブルの復習を行い、そのポイントをまとめておく。(1時間) | | | | |
| 7 | シュートの基本技術 | 技術練習(5) シュートの基本技術について解説し、体験的に学びます。 | | | | 各自でシュートの復習を行い、そのポイントをまとめておく。(1時間) | | | | |
| 8 | ヘディング | 技術練習(6) ヘディングの基本技術について解説し、体験的に学びます。 | | | | 各自でヘディングの復習を行い、そのポイントをまとめておく。(1時間) | | | | |
| 9 | 攻撃 | 戦術練習(1) 攻撃の方法について解説し、体験的に学びます。 | | | | 様々なメディアを通じて攻撃シーンの情報収集を行う。(1時間) | | | | |
| 10 | 守備 | 戦術練習(2) 守備の方法について解説し、体験的に学びます。 | | | | 様々なメディアを通じて守備シーンの情報収集を行ってください。(1時間) | | | | |
| 11 | 連携 | 戦術練習(3) サッカーにおける連携の重要性について解説し、体験的に学びます。 | | | | 様々なメディアを通じて連携シーンの情報収集を行う。(1時間) | | | | |
| 12 | 制約付きゲーム | ゲーム(1) 5対5のゲームを体験します。 | | | | 様々なメディアを通じて、試合観戦を行ってください。(1時間) | | | | |
| 13 | 制約付きゲーム | ゲーム(2) 5対5のゲームを発展させ、8対8のゲームを体験します。 | | | | 様々なメディアを通じて、試合観戦を行ってください。(1時間) | | | | |
| 14 | フルコートゲーム | ゲーム(3) 5対5、及び8対8のゲームを発展させ、11対11のゲームを体験します。 | | | | 様々なメディアを通じて、試合観戦を行ってください。(1時間) | | | | |
| 15 | フルコートゲーム | ゲーム(4) 第14回に引き続き、11対11のゲームを体験します。 | | | | 様々なメディアを通じて、試合観戦を行ってください。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 必要に応じてプリントを配布します。 | | | | 受講態度:60% 実技:20% レポート:20% リフティングの実技試験があります。規定された回数をクリアすることが単位修得の最低条件となります。S:強い向上心をもって積極的に授業に参加をし、技術面においても大きな成果があった。A:強い向上心をもって積極的に授業に参加をした。B:向上心を持って授業に参加をした。C:積極的に授業に参加をした。なお、受講態度は授業内における課題等に取組む姿勢により評価します。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 必要に応じて紹介します。 | | | | 運動するために適した服装(スポーツウェアやシューズ(スパイクは不可)等)を各自で用意してください。また、天候等の理由でグラウンドが使えない場合は体育館、もしくは教室にて行うことがあります。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------------------|---|------|------|----------------|--|---|---------|-----|-----|
| 科目名 | 体育実技V B (サッカー) 資格取得コース | | 学年学期 | 1年通年 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16057 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 飽田 敏 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実習 | オイスアワ- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 日本サッカー協会公認C級指導者資格取得を目指す者。また、講義は通常のみならず | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>(公財)日本サッカー協会公認C級コーチの資格取得ができるコースです。実技10単位時間、講義14単位時間、実際のサッカー指導(指導実践)を6単位時間実施します。時間数は初回講義で説明します。また、指導実践は集中講義形式で実施します。テキスト代(¥11,880)、JFA受講料(¥2,062)が必要となります。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>サッカー指導者として必要な知識と基本的なサッカー指導の技能を身につけ、主に小学生以下の年代の子供たちの指導ができることを目標とします。子どもたちを導くために必要なコミュニケーションスキルやプレーや行動を観察してそれを分析し、練習を計画する力をつけること、子どもたちを導く大人としてのあるべき態度を身につけることも目標です。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>サッカーを指導するうえで必要な知識を講義で学び、グラウンドで10のテーマの実技を行う中で、講義で学んだ知識を実技における指導の内容やプレーと合わせながら、指導の方法(コーチング法)を学びます。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 講義(ガイダンス) | ガイダンスとして、本科目を受講するうえで必要な事項に加え、指導者とは・世界をスタンダードとした強化策等について説明します。 | | | | | シラバスを熟読すること(1時間) | | | |
| 2 | 実技(ゲームとコーディネーション) | ウォーミングアップの実際と土台となるコーディネーション力を高めるエクササイズを行い、この年代でのゲームへのアプローチについて学びます | | | | | 講義資料の確認と実技について該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |
| 3 | 講義(技術・戦術論) | サッカーの特性、プレーの目的、攻撃・守備の目的および原理原則についてテキストをふまえて解説します。 | | | | | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |
| 4 | 実技(ゴールキーパー) | ゴールキーパーの基本的技術およびその指導方法について実技を通して学びます。 | | | | | 実技のオーガナイズの確認と該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |
| 5 | 講義(ゴールキーパー、技術・戦術論) | 求められるゴールキーパー像育成に対する考え方、テクニックの重要性と指導方法等についてテキストを基に解説します。 | | | | | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |
| 6 | 実技(観る) | 「観る」をテーマに、実際にプレーする中で、オーガナイズで獲得させたいものが引き出せることを学びます。 | | | | | 実技オーガナイズの確認と該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |
| 7 | 講義(コーチング法1) | コーチングの目的、プレーの分析、それに基づくプランニング等についてテキストを基に解説します。 | | | | | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |
| 8 | 実技(ボールフィーリング&ドリブル) | 地面・空中でのボールの扱い方、ドリブルの構成要素とその指導法について実技を通して学びます。 | | | | | 実技オーガナイズを確認し、該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |
| 9 | 講義(コーチング法) | コーチングにおける働きかけの考え方、コーチングの方法、トレーニングの留意点についてテキストを基に解説します。 | | | | | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |
| 10 | 実技(パス&コントロール) | パスとコントロールの基本技術について構成要素から指導する方法について実技を通して学びます。 | | | | | 実技オーガナイズとコーチングについて該当部分のテキストを読み確認する(1時間) | | | |
| 11 | 講義(発育発達と一貫指導) | 育成年代に必要な発育発達の知識および、長期的視野に立った指導等についてテキストを基に解説します。 | | | | | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |
| 12 | 実技(シュート) | 様々なキックと、シュートについて基本技術およびその指導法について実技を通して学びます。 | | | | | 実技オーガナイズとコーチングについて該当部分のテキストを読み確認する(1時間) | | | |
| 13 | 講義(指導実践のガイダンス、実技の振り返り) | 指導実践に関し指導計画の作成の仕方、実践の方法について説明します。また、実践計画作成の参考となるよう、実技からの内容を解説します。 | | | | | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |
| 14 | 指導実践1 | 実技、のテーマについて、ウォーミングアップとトレーニングを実際に指導します。 | | | | | ディスカッション内容をもとに講義資料を確認し、指導計画を修正する(1時間) | | | |
| 15 | 指導実践2 | 第14回に引き続き、実技からテーマのウォーミングアップとトレーニングを実際に指導します。 | | | | | ディスカッション内容をもとに講義資料を確認し、指導計画を修正する(1時間) | | | |
| 16 | 指導実践3 | 第15回に引き続き、実技からテーマのウォーミングアップとトレーニングを実際に指導します。 | | | | | ディスカッション内容をもとに講義資料を確認し、指導計画を修正する(1時間) | | | |
| 17 | 講義(指導者の役割) | では指導者としての大人の役割やこの年代にふさわしいゲーム環境について、では指導者のかかわり方やあり方についてテキストを基に解説します。 | | | | | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |
| 18 | 講義(メディカル)グループワーク | ケガ、障がいの予防、応急処置、栄養の摂り方などについてテキストを基に解説します。グループワークでは、17回で学んだ暴力根絶についてディスカッションします。 | | | | | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む(1時間) | | | |

| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | |
|--|-------------------------|--|----------------------------------|
| 回 | テーマ | 内容 | 事前事後学修 |
| 19 | 実技（守備のテクニック） | 守備におけるON,OFFのテクニックとその指導法について実技を通して学びます。 | 実技オーガナイズを確認し、該当部分のテキストを読む（1時間） |
| 20 | 実技（守備 ボールを奪う） | ゴールを守りながら相手のボールを奪うことができるようになるためのオーガナイズの考え方や指導法について実技を通して学びます。 | 実技オーガナイズを確認し、該当部分のテキストを読む（1時間） |
| 21 | 実技（ポジション サポート） | 攻撃時にボールを失わず相手ゴールを目指すために、特にサポートについて、トレーニングオーガナイズの工夫について実技を通して学びます。 | 実技オーガナイズを確認し、該当部分のテキストを読む（1時間） |
| 22 | 講義（審判）実技の振り返り | 技術（指導者）と審判の協調、たくましい選手の育成への取り組みとUJについてテキストを基に解説するとともに、実技 について振り返ります。 | 講義資料の確認と、該当部分のテキストを読む（1時間） |
| 23 | 実技 ゴールを目指す（相手をはずす） | 今まですべての実技の積み上げをふまえて攻撃の目的であるゴールを奪うために必要なテクニックとその指導法について実技を通して学びます。 | 実技オーガナイズを確認し、該当部分のテキストを読む（1時間） |
| 24 | 通信教育課題、レポート発表、指導実践ガイダンス | 課題レポートについて具体的な内容を発表します。90分間行う指導実践の計画および評価について解説します。 | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む（1時間） |
| 25 | グループワーク | グループに分かれてトレーニングの全体像をふまえた90分間の指導実践計画を作成します。 | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む（1時間） |
| 26 | 指導実践2（発表） | これまで学修した指導方法および指導計画に応じて、実技 から のテーマで小・中学生を対象に実際に指導を行います（第26-28回は連続して講義を行います）。 | これまでの講義資料、テキストおよび指導計画の確認をする（1時間） |
| 27 | 指導実践2（発表） | これまで学修した指導方法および指導計画に応じて、実技 から のテーマで小・中学生を対象に実際に指導を行います（第26-28回は連続して講義を行います）。 | これまでの講義資料、テキストおよび指導計画の確認をする（1時間） |
| 28 | 指導実践2（発表） | これまで学修した指導方法および指導計画に応じて、実技 から のテーマで小・中学生を対象に実際に指導を行います（第26-28回は連続して講義を行います）。 | これまでの講義資料、テキストおよび指導計画の確認をする（1時間） |
| 29 | 講義のまとめ | これまで学修してきたことを振り返り、講義のまとめを行います。 | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む（1時間） |
| 30 | 講義（今後に向けて） | 今後、サッカーの指導者およびプレーヤーとして活動していくことについて考えを深めます。 | 講義資料の確認と該当部分のテキストを読む（1時間） |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | |
| 日本サッカー協会の指導者テキスト（¥11,880）を使用します。受講決定後、発注します | | 受講態度：30% 定期試験：20% 実技：50% 受講態度30%にはレポート提出、実技を含みます。定期試験（筆記試験）20%、実技50%の実技とは「指導の実践」（実際の指導）のことで、授業におけるサッカー実技の技能は受講態度に含まれます。 全ての講義・実技を受講し、合格しないと資格付与はありません。 | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | |
| 「しつけと体罰」森田ゆり著（童話館出版） ISBN：978-4-88750-044-C0036 指導者の役割 暴力根絶にかかわる参考図書です。 「言語技術」が日本のサッカーを変える」田嶋 幸三著（光文社新書） | | 公認指導者の資格を取得するためのコースです。資格登録には修了合格後、自分でWEB上から登録手続きをする必要があります。天候等でグラウンドが使えない場合は、体育館・教室で行う場合があります。 | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------------------|---|----------------|------|------|--|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 体育実技 C (ハンドボール) | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16058 | 研究室 | S-17 |
| 担当者 | 田邊 愛子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | オイスター | 木曜日5限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| ハンドボールの基礎知識としてルールの認識 特に他競技との違い(ダブルドリブル、オーバーステップ等)、多様なパスおよびシュートの種類を把握したのちに競技の特殊性を実感して頂くため 実戦形式による実技を重点的に進めていきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| ハンドボールのルールの把握及び多様なパス、シュートの習得を経て、ポジションごとのシュートが打てるようにする。様々な攻防をゲーム形式で各々が体験できるようにすることが目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 基本的には実技を中心に授業を進めます。ルール等につきましては、ウェキベディアで紹介されているので受講される方は各自で必ず確認(必読)して下さい。その詳細については、体育館での実技を主に説明し進めていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ルール解説 他競技(特にバスケットボール)とのルールの違いについて | ウォームアップ、ルール解説、ハンドボールの特殊性について解説し理解を深めます。 | | | | ハンドボールの歴史について調べておく。(1時間) | | | | |
| 2 | ボールの扱い馴れ | パス、キャッチボールの基本動作について解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールの基本動作やルールについて調べておく。(1時間) | | | | |
| 3 | 多様なパス方法の習得 | パスの使い分け(ラテラルパス、プッシュパス、ショルダーパス)について解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールのパスの使い分け方とその習得方法について調べておく。(1時間) | | | | |
| 4 | 走りながらのパスを習得するために実技を行います。 | ランニングパス、三角パス、四角パスについて解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールの具体的なパスと場面における有効性について調べておく。(1時間) | | | | |
| 5 | スタンダードなシュートを習得するために実技を行います。 | 各種シュート(ランニング、スタンディング、ジャンプ)について解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールの各種シュートについて調べておく。(1時間) | | | | |
| 6 | フェイントシュートの習得 | 各種シュート(逆足、両足、ポスト)について解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールのポジション別のシュートの有効性について調べておく。(1時間) | | | | |
| 7 | フェイントの考え方・使い方の習得 | シュートに有効なステップワークについて解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールの各種ステップワークについて調べ、攻守の切り替えのタイミングを予習(1時間) | | | | |
| 8 | ゴールキーパーの役割 | ゴールキーパーの役割、考え方、位置取りについて解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールのゴールキーパーについて調べておく。(1時間) | | | | |
| 9 | ウィング、ピボットのシュートの習得 | ポジション別シュートの特殊性(バック、ウィング、ピボットプレーヤー)について解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールのポジション別の各種シュートを調べ、場面による選択肢について予習(1時間) | | | | |
| 10 | 走りながらのシュートを習得するために実技を行います。 | 速攻によるゲーム支配の優位性について解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールの速攻とその有効性について調べておく。(1時間) | | | | |
| 11 | 実戦形式による攻防の習得 | 2対1、3対2等人数の優位性について解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールの各場面における優位性について調べておく。(1時間) | | | | |
| 12 | 実戦形式による攻防の習得 | 2対1等の数的優位性を作り出すシステムについて解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールの具体的な場面のシステムや動き方について調べておく。(1時間) | | | | |
| 13 | 実戦形式による攻防の習得 | 2対2、3対3等同数の実践について解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールの同数の実践について調べておく。(1時間) | | | | |
| 14 | 実戦形式による攻防の習得 | ゲーム形式による攻防について解説し、実技をします。 | | | | ハンドボールの試合での攻防の流れについて確認をしておく。(1時間) | | | | |
| 15 | 習得したシュート技術の確認 | 講義全体のまとめをします。 | | | | ランニング、スタンディング、ジャンプ、両足ワンクロス、アウトインの5種類のシュート(1時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| なし | | 受講態度：70% 実技：30% 受講態度は取り組み姿勢、出席回数などを評価します。実技試験では授業のプロセスの中で身につけたスキルを評価します。95%以上のより高いレベルに達すればS、80%以上の理解度をA、70%以上をB、60%以上をCとします。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「2010年度 ハンドボール競技規則」(日本ハンドボール協会) 「イベント ハンドボール」(株)イベントスポーツ | | この競技は走、跳、投、守が含まれた総合スポーツの要素が多分に含まれています。是非ハンドボールの魅力を味わってみてください。但し、真摯に取り組んで頂ける方限定でお願いします。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------|--|------|--|----------------|--|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 体育実技 (ソフトボール) | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL26059 | 研究室 | S-18 |
| 担当者 | 新井 喜代加 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | ウイスキー | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本授業では、中学・高等学校の生徒にソフトボールの指導ができるようになることを目的とします。そのためにソフトボール指導者に必要な基本的および専門的な技術と指導法を習得します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| (1)ソフトボールの基本的な知識や技術を習得し、指導に活かすことができる (2)習得した知識や技術、指導法を仲間と共有し、さらなる改善につなげることができる (3)ソフトボールの簡易大会を運営することができる | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本講義は、一斉指導、グループ指導、個別指導を併用して実施します。授業はグラウンドで実施します。ただし、天候により、体育館或は教室に変更することがあります。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業のねらい、授業内容、評価方法、留意事項等について解説し、チーム分けをします | | | | 事前：シラバスを読む/事後：本授業のルールとソフトボールのルールを確認する(1時間) | | | | |
| 2 | 基本的技術の習得1 | 守備1：実技を通じてピッチング(ウインドミル投法)の技術を習得します | | | | 事前：ウインドミル投法について調べる/事後：ウインドミル投法の注意点を復習する(1時間) | | | | |
| 3 | 基本的技術の習得2 | 守備2：実技を通じてピッチング(ウインドミル投法)の技術を習得します | | | | 事前：ウインドミル投法をイメージする/事後：ウインドミル投法の注意点を復習する(1時間) | | | | |
| 4 | 基本的技術の習得3 | 守備3：実技を通じてキャッチボールの技術を習得します | | | | 事前：キャッチボールについて調べる/事後：キャッチボールをする際の注意点を復習する(1時間) | | | | |
| 5 | 基本的技術の習得4 | 守備4：実技を通じてゴロ取りの技術を習得します | | | | 事前：ゴロ取りについて調べる/事後：ゴロ取りをする際の注意点を復習する(1時間) | | | | |
| 6 | 基本的技術の習得5 | 攻撃1：実技を通じてバッティング(ヒッティング)の技術を習得します | | | | 事前：バッティングについて調べる/事後：バッティングをする際の注意点を復習する(1時間) | | | | |
| 7 | 基本的技術の習得6 | 攻撃2：実技を通じてバッティング(ヒッティング)の技術を習得します | | | | 事前：スイングをイメージする/事後：スイングの際の注意点を復習する(1時間) | | | | |
| 8 | 基本的技術の習得7 | 攻撃3：実技を通じてバッティング(バント)の技術を習得します | | | | 事前：バントについて調べる/事後：バントをする際の注意点を復習する(1時間) | | | | |
| 9 | 基本的技術の習得8 | 攻撃4：実技を通じて走塁の技術を習得します | | | | 事前：走塁について調べる/事後：走塁の際の注意点を復習する(1時間) | | | | |
| 10 | 戦術 | チームで戦術を立て、試合で実践します | | | | 事前：攻守の戦術について調べる/事後：チームごとに試合分析をする(1時間) | | | | |
| 11 | 審判、運営および記録 | 討議および実践を通じて試合運営に関する基本的な知識と技術を習得します | | | | 事前：審判・運営等について調べる/事後：審判・運営等をする際の注意点を復習する(1時間) | | | | |
| 12 | 試合1 | これまでの授業で習得した基本的な技術・戦術および審判・運営等の技術を発揮する場として試合を実施します | | | | 事前：チームごとにゲーム展開をイメージする/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間) | | | | |
| 13 | 試合2 | これまでの授業で習得した基本的な技術・戦術および審判・運営等の技術を発揮する場として試合を実施します | | | | 事前：チームごとにゲーム展開をイメージする/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間) | | | | |
| 14 | 試合3 | これまでの授業で習得した基本的な技術・戦術および審判・運営等の技術を発揮する場として試合を実施します | | | | 事前：チームごとにゲーム展開をイメージする/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間) | | | | |
| 15 | 試合4 | 討議により設定した特別ルールのもと試合を実施します | | | | 事前：楽しくゲームができる特別ルールを考える/事後：本授業のレポートを作成する(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 特に指定せず、必要に応じて授業で資料を配布します | | | | 出席レポート：60% 実技：20% レポート：20% 評価基準は次の通りです。S:批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、習得した基本的技術を用いてチームメイトと楽しくゲームを展開し、指導することができる/A:探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、習得した基本的技術を用いてチームメイトとゲームを展開することができる/B:与えられた課題に誠実に取り組み、習得した基本的技術をゲームに活かすことができる/C:与えられた課題に誠実に取り組み、習得した基本的技術を実践することができる | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 特に指定しません | | | | 履修者数を抽選により調整する場合があります、40人程の予定です | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------|--|----------------|--|------|---|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 体育実技 1 (柔道) | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL26060 | 研究室 | S-13 |
| 担当者 | 岩間 英明・佐久 信雄 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | ウイスキー | 火曜日5限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本授業は我が国固有の運動文化である柔道を指導的立場に立って理解することを目的としています。そのため、基本動作や基本の技を用いて相手の変化に応じた攻防や、習熟の度合いに応じて得意技による攻防ができることを目標とします。また、武道の伝統的な考え方や行動の仕方、所作を理解するとともに、柔道の本質的な楽しさや安全な学習活動の指導方法の工夫についても学んでいきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 柔道指導に必要な基礎的な実技能力と基礎知識の理解が学習のねらいとなります。具体的には技能では「受け身」「投げ技の基本動作」「固め技の基本動作」、基礎知識では「理合い」「礼法」「所作」などを身につけることが目標です。また、併せて簡易試合を指導できる「指導方法」の習得も目指してください。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本講義は基本の動作や技について実技を通して学び、併せて指導者として必要な知識・スキルを身につけられるようにします。本講義は集中講義のため、実技テストならびにレポートの提出を単位修得の条件とします。また、柔道着は各自で用意をしてください。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンスと基礎知識(1) | 本授業の内容と学習の流れを照らし合わせながら、「柔道」の概観について考察していきます。 | | | | 事前にシラバスをよく読む。2つの内容についてレポートをまとめる。(1時間) | | | | |
| 2 | ガイダンスと基礎知識(2) | 本授業の内容と学習の流れと照らし合わせながら、柔道の基礎知識として「柔道の歴史と特性」について考察していきます。 | | | | 事前にシラバスをよく読む。内容についてレポートをまとめる。(1時間) | | | | |
| 3 | ガイダンスと基礎知識(3) | 本授業の内容と学習の流れと照らし合わせながら、柔道の基礎知識として「柔道を通して育む“生きる力”」について考察していきます。 | | | | 事前にシラバスをよく読む。内容についてレポートをまとめる。(1時間) | | | | |
| 4 | 柔道の基本となる動きづくり | 基礎知識として(ア)精力善用・自他共栄 (イ)礼法 (ウ)柔道着の扱い方を学びます。また、柔道のための体ほぐし運動についても考えていきます。 | | | | 事前・事後に教科書や資料を読み理解を確実にする。(1時間) | | | | |
| 5 | 投げ技の基本動作(1) | 投げ技の基本動作である(ア)姿勢と組み方 (イ)進退動作 (ウ)崩しと体さばきについて学習します。 | | | | 事前・事後に教科書や資料を読み理解を確実にする。実技の自主練習を行う。(1時間) | | | | |
| 6 | 投げ技の基本動作(2) | 投げ技の基本動作の習得と併せて受け身を学習します。受け身は(ア)後ろ受け身 (イ)横受け身 (ウ)横転受け身 (エ)前受け身 (オ)前回り受け身を行います。 | | | | 事前・事後に教科書や資料を読み理解を確実にする。実技の自主練習を行う。(1時間) | | | | |
| 7 | 固め技の基本動作 | 固め技の基本動作を学習します。(ア)攻撃に必要な基本動作 (イ)防御に必要な基本動作 (ウ)簡単な攻め方と返し方を行います。 | | | | 事前・事後に教科書や資料を読み理解を確実にする。実技の自主練習を行う。(1時間) | | | | |
| 8 | 固め技 | 試合形式の練習ができるよう固め技の応用を行います。(ア)抑え技(袈裟固め、横四方固め、上四方固め、縦四方固め、肩固め) (イ)固め技の連絡変化 (ウ)固め技の自由練習及び簡易な試合 | | | | 事前・事後に教科書や資料を読み理解を確実にする。実技の自主練習を行う。(1時間) | | | | |
| 9 | 基本動作と投げ技の関連 | ゆっくりとした動作で崩し、体さばき、受け身の感覚を身につけていきます。投げ技は(体落とし、大腰、支え釣り込み足、小内刈り、大内刈り)ですが、投げる動作に重点を置かずに学習します。 | | | | 事前・事後に教科書や資料を読み理解を確実にする。実技の自主練習を行う。(1時間) | | | | |
| 10 | 投げ技(1) | 投げ技のうち手技である「体落とし」と、腰技である「大腰」に取り組みます。頭を打たないように受け身の指導に重点を置きます。 | | | | 事前・事後に教科書や資料を読み理解を確実にする。実技の自主練習を行う。(1時間) | | | | |
| 11 | 投げ技(2) | 投げ技のうち足技である「膝車、支え釣り込み足、小内刈り、大内刈り、出足払い、送り足払い、大外刈り」に取り組みます。前同様に受け身の指導に重点を置きます。 | | | | 事前・事後に教科書や資料を読み理解を確実にする。実技の自主練習を行う。(1時間) | | | | |
| 12 | 柔道の動きづくり | 足技を中心に柔道の動きづくりを行います。特に技の連絡変化(投げ技、投げ技、返し技)など、実際の試合で多く見られる動きを中心に学習していきます。 | | | | 事前・事後に教科書や資料を読み理解を確実にする。実技の自主練習を行う。(1時間) | | | | |
| 13 | 柔道の理合い | 柔道形の練習を行いながら理合いについての理解を深めます。投げの形の手技:(背負い投げ、浮き落とし、肩車)腰技:(釣り込み腰、払い腰)、足技:(送り足払い、支え釣り込み足)を学習します。 | | | | 事前・事後に教科書や資料を読み理解を確実にする。実技の自主練習を行う。(1時間) | | | | |
| 14 | まとめ(1) 試合 | 試合の仕方と審判の仕方について学習し、簡易な試合ならびに試合を実施する際の指導上の留意点について学習します。 | | | | 事前・事後に教科書や資料を読み理解を確実にする。特に指導方法は十分復習しておく。(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ(2) 実技評価 | 授業の総まとめとして、受け身、投げ技、固め技、試合などを通して、実技能力の評価をします。 | | | | 実技の復習を十分しておく。事故防止についてレポートをまとめる。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「柔道 授業づくり教本」公益財団法人 全日本柔道連盟編(講義にて配布します。) 一般書店では購入できません | | | | 実技:70% レポート:30% 受け身、固め技、投げ技の実技試験と講義期間中提出する課題レポートを総合的に評価します。実技は正しい受け身ができ、固め技、投げ技の動きが安全にできることが単位認定の条件でありC評価です。さらにSは受け身を含めた全ての技に切れがあり、正しく、的確に行うことができること。Aは全ての技が正しくできること。Bは全ての技が概ね正しくできることが基準となります。レポートはその内容により得点化し、実技と併せて最終的な評価とします。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「新しい柔道の授業づくり」本村清人 他著(大修館書店) ISBN:9784469265231 | | | | 集中講義の武道ですので、相互に安全に配慮すると共に、体調には十分留意してください。また、将来、指導者になることを想定して授業を進めていきますので、受身ではなく、姿勢や態度にも留意して授業に臨んでください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------|--|------|------|--|----|-----------------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | 体育実技 2 (剣道) | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL26061 | 研究室 | S-16 |
| 担当者 | 江原 孝史 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | オイスアワ | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 我が国固有の武道の一つである剣道を理解しその技を体得することを目的としています。そのため、剣道の基本動作や気剣体一致の打突、基本の技を学び、相手の変化に応じた攻防や、間合いのとり方、得意技による攻防ができることを目標とします。また、武道の伝統的な考え方や礼、所作、稽古方法を理解するとともに、剣道の本質的な楽しさや安全な学習活動の指導方法の工夫についても学んでいきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 基本打ち(面、小手、胴)が正しい動作で正確に打突部位を打つことができる。切り返しを正しく打ちかつ受けることができる。二段技(小手面)を打つことができる。応じ技(小手抜き面、小手払い面、面抜き面)を打つことができる。正しく、礼と蹲踞ができる。防具を片付け、防具を正しくつけることができる。はかまと胴着を着ることができる。はかまをたたむことができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本講義は基本動作や基本の技について実技を通して学び、併せて指導者として必要な知識・スキルを身につけられるようにします。また、なお、講義の中では、模擬的に実際に指導者として人前に立つことも経験します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンス | 剣道とは、基本動作・礼の所作、目付の仕方を学びます。 | | | | | 礼の所作を復習する。(1時間) | | | |
| 2 | 体捌き | すり足と中段の構え、素振り、剣道着の着方とたたみ方、竹刀の各部の名称を学び実習します。 | | | | | 足運びを復習する。(1時間) | | | |
| 3 | 基本打突 面 | 打突の基本(気剣体一致)について学びます。防具なしでの面打ち(ふりかぶっての面打ち、竹刀で受ける面打ち)を練習します。 | | | | | 面の打ち方の復習(1時間) | | | |
| 4 | 基本打突 小手 | 小手打ち(振りかぶっての小手、竹刀で受ける小手打ち)を練習します。 | | | | | 小手の打ち方の復習(1時間) | | | |
| 5 | 基本打突 胴 | 胴打ち(竹刀で受ける胴打ち)を練習します。 | | | | | 胴の打ち方の復習(1時間) | | | |
| 6 | 防具のつけ方 | 面ひもの結び方、防具のつけ方、手ぬぐいのかぶり方を学び実習します。 | | | | | それぞれの道具のつけ方の復習をします。(1時間) | | | |
| 7 | 面と防具をつけての稽古 | 面をつけての基本技(大きく振りかぶっての面、小手、胴打ち)を練習します。気剣体一致を意識して行います。 | | | | | 防具なしで行う時との感覚と実際の動きとの違いを認識する。(1時間) | | | |
| 8 | 左右面と切り返し、二段技 | 左右面(正確に打突する)と切り返し、二段の技(大きく振りかぶっての小手面打ち)を練習します。 | | | | | 二段技では足運びの復習をする。(1時間) | | | |
| 9 | 引き技 | 引き面(引き小手、引き胴)を練習します。相手との間合いをしっかりとって打ちます。 | | | | | 足の運びを復習する。(1時間) | | | |
| 10 | 応じ技 | すり上げ技(小手すり上げ面・小手返し面)を練習します。約束稽古(打つ部位を限定する、面のみ、あるいは小手のみ)を練習します。 | | | | | すりあげ技を復習する。(1時間) | | | |
| 11 | 稽古(けいこ)方法 | 掛稽古、地稽古、見取稽古のそれぞれの特徴について学び稽古します。 | | | | | 稽古の種類を復習する。(1時間) | | | |
| 12 | 試合稽古 | 個人戦、団体戦、抜き勝負について学び、試合を行います。 | | | | | 事後に試合方法のビデオを見る。(1時間) | | | |
| 13 | 日本剣道型 | 日本剣道型と木刀を使った基本稽古法を学び練習します。 | | | | | ビデオで剣道型と基本稽古法を見かえす。(1時間) | | | |
| 14 | 模擬授業 | 模擬授業、基本打ちと切り返し、防具のつけ方の指導方法を学びます。 | | | | | ビデオで指導方法をチェックする。(1時間) | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめと紅白戦を行います。 | | | | | ビデオで紅白戦をふりかえる。(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「中学校学習指導要領解説 - 保健体育編 -」文部科学省編(東山書房) ISBN:9784827814637(生協で購入してください。) 「高等学校学習指導要領解説 - 保健体育編 -」文部科学省編(東山書房) ISBN:9784827814811(生協で購入してください。) | | | | | 実技:90% 受講態度:10% 実技は技の習得度に応じて評価します。 受講態度は、実技への取り組み姿勢、態度で評価します。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「新しい剣道の授業づくり」巽申直 他著(大修館書店) ISBN:9784469265552 | | | | | 武道ですので、相互に安全に配慮すると共に、体調には十分留意し集中して授業にのぞんでください。また、将来、指導者になることを想定して授業を進めていきますので、姿勢や態度にも留意して授業に臨んでください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------------|--|--|------|------|---|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 体育実技 (水泳) | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SC16062 | 研究室 | S-05 |
| 担当者 | 長谷川 尋之 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | アイスアワ | 水曜日1限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体) | | | | 履修条件 | 講義の性格上、抽選により履修者数の調整をする場合がある | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本実技は「クロール」「平泳ぎ」「背泳ぎ」「バタフライ」の各泳法の習得し、陸上とは異なる水の特性や水中運動の生理学を理解し、より効果的な指導方法の学びや水泳指導力の向上を目指します。また、重大事故に繋がりにくい水泳指導の安全管理について知識と対応を学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 技能面では「クロール」「平泳ぎ」「背泳ぎ」「バタフライ」の各泳法で25m以上泳げる泳力と、基本的な泳ぎ方ができることが目標とする。また併せて、複数の泳法を組み合わせて泳いだり、長い距離を泳いだりできる泳力の獲得も目指す。さらに、具体的な水泳指導の方法や安全管理についての知識と実践力を身につける。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 実技を通して泳法や水の特性、安全管理について学び、指導者として必要な知識とスキルを身につけられるようにします。また、各泳法の技術ポイントや指導方法、安全指導についてレポートをまとめ、知識を確実なものとしします。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業計画・展開及び評価方法、留意点等の確認をします。また、VTRを使って泳法の確認、技術用語の確認、ルールなど、学習に必要な知識を理解します。 | | | | 事前にシラバスを読み、技術を予習し、さらに安全指導について復習します。(1時間) | | | | |
| 2 | 安全指導、浮き沈み、ストリームライン姿勢 | 水泳学習における安全指導についてプールサイドで実際に行っていきます。また、水泳初心者や基礎技術として浮き沈みやストリームラインについて学習します。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容を復習します。(1時間) | | | | |
| 3 | クロール(1) | ストリームラインの姿勢から、キック(パタ足)・ストローク(腕のかき)について、技術ポイントを理解した上で、クロールの基礎技術を習得します。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容を復習します。(1時間) | | | | |
| 4 | クロール(2) | バランスの取れた面かぶりクロールに、プレス(息つぎ)の技術を加えていきます。さらに、ターン(普通のターン、フリップターン)の技術ポイントを理解した上で、クロールを完成させます。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容をレポートにまとめます。(1時間) | | | | |
| 5 | 平泳ぎ(1) | ストリームラインの姿勢から、平泳ぎのキック(かえる足)について、技術ポイントを理解した上で、正確なキックを学習します。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容を復習します。(1時間) | | | | |
| 6 | 平泳ぎ(2) | 平泳ぎのストロークの技術ポイントを理解した上で、ストロークを完成させます。さらに、キックとのコンビネーションがとれたストロークを学習し、タイミングの良い動きを習得します。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容を復習します。(1時間) | | | | |
| 7 | 平泳ぎ(3) | プレスのタイミングと水の抵抗を考えた動き方を学習し、より良いコンビネーションの平泳ぎとするとともに、スタートやターン直後の動作の練習し、平泳ぎを完成させます。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容をレポートにまとめます。(1時間) | | | | |
| 8 | 背泳ぎ(1) | 仰向けのストリームラインの姿勢から、キック(パタ足)・ストローク(腕のかき)について、技術ポイントを理解した上で、背泳ぎの基礎技術を習得します。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容を復習します。(1時間) | | | | |
| 9 | 背泳ぎ(2) | 背泳ぎのスタートやターン(普通のターン、フリップターン)、さらにバサ口の技術ポイントを理解した上で、背泳ぎを完成させます。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容をレポートにまとめます。(1時間) | | | | |
| 10 | バタフライ(1) | ストリームラインの姿勢から、平泳ぎのキック(ドルフィンキック)について、技術ポイントを理解した上で、正確なキックを学習します。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容を復習します。(1時間) | | | | |
| 11 | バタフライ(2) | バタフライのストロークの技術ポイントを理解した上で、ストロークを学習します。さらに、キックとのコンビネーションを考えながら、プレス(息つぎ)を学習し、タイミングの良い動きを習得します。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容を復習します。(1時間) | | | | |
| 12 | バタフライ(3) | キック、ストローク、プレスのタイミングが合ったコンビネーションの取れたバタフライを練習するとともに、スタート、ターン直後の動作を学習し、バタフライを完成させます。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容をレポートにまとめます。(1時間) | | | | |
| 13 | 個人メドレー(1) | 4泳法を使った100m個人メドレーに取り組みます。また同時に、逆とびこみについての段階的指導を実際に体験しながら、飛び込みによるスタートができるようにします。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容を復習します。(1時間) | | | | |
| 14 | 個人メドレー(2) | 正式なルールに基づいたスタート、ターンを加えた個人メドレーを完成させます。その際、タイムや泳法などを確認する実技テストも実施します。 | | | | 事前・事後に資料を読み、理解を確実にし、授業内容をレポートにまとめます。(1時間) | | | | |
| 15 | 講義全体のまとめ | これまでの学習を振り返り、水泳を苦手とする学習者にどのように指導したらよいかを考察します。 | | | | これまでの学習に基づき、4泳法の中から1泳法を選び、指導方法をレポートにまとめます。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 適宜資料を配付します。 | | | 実技：70% レポート：30% 4泳法それぞれの実技試験と講義期間中提出する課題レポートを総合的に評価します。実技は4泳法が25m以上泳げることが単位認定の必須条件でC評価です。実技(泳力)とレポート(指導方法)を得点化し、70点以上でB評価、80点以上をA評価とします。S評価は4泳法の正しい泳法、技術を習得し、指導できるものとします。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「水泳指導教本 第2版」日本水泳連盟編(大修館書店) ISBN: 9784469267082 | | | 集中講義での授業になるため、体調には十分留意してください。また、将来、指導者になることを想定して授業を進めていきますので、受身ではなく、姿勢や態度にも留意して授業に臨んでください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--|--|------|------|----------------|---|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ実技 (ニュースポーツ)(犬飼クラス) | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL16063 | 研究室 | S-23 |
| 担当者 | 犬飼 己紀子 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | アイスアー | 水曜日2限 | | |
| 関連資格 | レク・インスト、レク・コーディネイ(通常)、レク・コーディネイ(教育)、スル・レク指 | 履修条件 | | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| 誰もが参加し親しむことのできる運動やスポーツ環境について学びます。各スポーツ種目の特性を知り、競技というよりゲーム性や「場」を共有する人々の交流をねらい、行う人(対象者)の状態に合うスポーツの展開法や実践について学びます。ニュースポーツと称して紹介されている様々な種目を始め、既存スポーツのルールや用具をアレンジし学生自ら創り上げるスポーツの実践を目指します。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| スポーツ基本法にうたわれた「多様なスポーツの機会」に照らし合わせ、ニュースポーツのコンセプトを理解すること。ゲームそのものに含まれる楽しさと同時に、活動する参加者の感情に楽しさをもたらす指導・関わりの姿勢を身につけることが目標です。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 仲間と創り上げる毎回の活動を「記録ノート」に残してください。競技者間に生じる相互作用に気づきレクリエーション支援の技法として、ゲームのアレンジや実施まで、スポーツの楽しさを伝える方法や態度を学びます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | 「運動は苦手」という人にも楽しく活動できるスポーツとは何かを考えます。人々が生涯を通じて運動やスポーツに親しむことを可能にする資源としてニュースポーツを学び、提供できる指導者として学びます。 | | | | これまでのスポーツ体験を振り返っておくこと。(0.5時間) | | | |
| 2 | アイスブレイクのゲーム | 運動能力や技術に左右されず、交流を主目的としたコミュニケーションゲームを実施し、偶然性が生むグループでできるチーム編成の手法を学びます。 | | | | カブグループが集団に及ぼす影響について、関わり方を考えておく。(1時間) | | | |
| 3 | キンボールとリードアップゲーム | 目に楽しい「キンボール」という素材を活用し、活動への動機付けの効果を知ります。様々なリードアップゲームで、競技の特性と危険回避の方法を学びます。 | | | | ルールを確認をして、ゲームの進め方を復習しておく。(1時間) | | | |
| 4 | キンボール審判とゲームの進行 | キンボールルールの特徴「エースの居ないスポーツ」は、メンバー全員の参加がなければゲームが成立しません。ニュースポーツとしてのキンボールのねらいについて確認します。 | | | | 毎時間、自らがリーダーとしてゲームを進めるゲームの方法をイメージする。(1時間) | | | |
| 5 | キンボール ゲーム | 3チームで対戦するゲームの特徴を生かし、試合の組み合わせを考えます。ルールを理解し、審判、進行への協力など主体的にゲームを進行する態度を学びます。 | | | | 活動運営者として自分の態度を考えること。(1時間) | | | |
| 6 | インディアカ | インディアカの特徴とルールを確認します。グルーピングからゲームの進行まで学生のリードで進めます。インディアカボールに慣れる運動を考えて指導体験をします。 | | | | 取り扱い器具の多様さを知り、会場準備を含め、対応を考える。(1時間) | | | |
| 7 | インディアカ ゲーム | ゲームを進める当事者として、インリーダーとしての態度や姿勢を学びます。自分のチーム以外の人の動きも意識において、全体に気配りする目と態度を身につけます。 | | | | ニュースポーツのねらいに沿った効果的な交流について自身の目標を定めること。(1.5時間) | | | |
| 8 | インディアカ ゲーム | 自分の力と技術を発揮して、対戦チームと競技としてのインディアカを楽しみます。ニュースポーツは、実施する人の力量に合わせて楽しむことができるスポーツであることを体験的に学びます。 | | | | 競技としてのインディアカの魅力についてまとめる。(1時間) | | | |
| 9 | リングテニス | ラケット操作を必要としないテニスです。ネット種目の形態をとらなくとも、幼児から高齢者まで、投捕だけで楽しめる素材であることを、活動アレンジの幅の広さから学びます。 | | | | リングを使った遊びを創作する。(1時間) | | | |
| 10 | リングテニス ゲーム | リングの投捕とステップの制限が戦略と工夫を生むことの楽しさを学びます。本時では、学生の運動能力を十分に発揮しながら、対戦チームとのゲームや、団体戦の複合的な面白さも学びます。 | | | | チーム戦をすることで、ゲームの楽しさが変わることを知る。(1時間) | | | |
| 11 | リングテニス 団体戦 | チームメンバーの個性、能力を知り、メンバー間の交流を図りながらダブルス、シングルスとの組み合わせを工夫し、対戦チームとゲームをします。 | | | | ニュースポーツ体験は、日常の人間交流に影響するかについてまとめる。(1時間) | | | |
| 12 | ふらばーるバレー | 変形ボールの予測不能な動きを楽しみます。スポーツ経験者のパターン化された反応がミスと呼ぶ、という特性を活用したスポーツの面白さがあります。技術よりも互いの声掛けが勝因につながることを学びます。 | | | | 変形ボールを活用したスポーツの楽しさの理由はどこにあるか探る。(1時間) | | | |
| 13 | ふらばーるバレー | ふらばーるバレーボールの予測が難しい動きに対応するには、仲間同士が声を掛け合うことが欠かせません。プラスのストロークがゲームの楽しさを醸し出していることに気がつきます。 | | | | スポーツの特徴を意識すること、チームとして協力できることに何があったかを考える。(1時間) | | | |
| 14 | バブルサッカー リードアップゲーム | バブルに入り、体当たりや自由な回転を楽しむことで、バブルサッカー用具の特性を学びます。 | | | | バブルサッカーのルールを確認する。用具の特性と活用方法を考える。(1時間) | | | |
| 15 | スポーツを楽しむとは | ニュースポーツについて自分の捉え方を確認します。単に軽いスポーツ、新しいスポーツという捉え方ではないことを再確認します。生涯スポーツ指導者としての姿勢、役割についてレポートにまとめます。 | | | | 指導者・リーダーとしての姿勢で臨めたかを振り返る。(1時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「後 lek財100連発カード」犬飼己紀子 監修著長野県レクリエーション協会編(龍共印刷株式会社)(講義にて配布します。) | | 受講態度:50% レポート:50% S:スポーツ基本計画を理解し、指導者としてニュースポーツの活用方法を習得しようとしている。A:ニュースポーツのコンセプトを理解し、スポーツを対人関係構築に向けたツールとして活用する力を身につけている。B:スポーツへの解釈の幅を広げ、これまでスポーツで培ってきた能力を発揮し指導者として参加者にかかわる姿勢を身につけている。C:スポーツへの解釈の幅を広げ、初めて体験するスポーツへの興味を持ち活動に参加している。 | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「ニュースポーツ事典」日本レクリエーション協会編 | | スポーツに親しもうとする全ての人にとって、運動することの楽しさを引き出すことのできる指導者の姿勢を学んでください。指導者として相応しい姿勢・服装を求めます。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|------------------------|--|---|------|---|------|---------------------------------------|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ実技（ニュースポーツ）（山本クラス） | | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16063 | 研究室 | S-15 |
| 担当者 | 山本 薫 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実技 | アイスワ- | | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 誰もが参加し親しむことのできる運動やスポーツ環境について学びます。各スポーツ種目の特性を知り、競技というよりゲーム性や「場」を共有する人々の交流をねらい、行う人（対象者）の状態に合うスポーツの展開法や実践について学びます。ニュースポーツと称して紹介されている様々な種目を始め、既存スポーツのルールや用具をアレンジし学生自ら創り上げるスポーツの実践を目指します。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| ゲームそのものに含まれる楽しさと同時に、活動する参加者の感情に楽しさをもたらす指導・関わりの姿勢を身につけることを目的とします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 競技者間に生じる相互作用に気づきレクリエーション支援の技法として、ゲームのアレンジや実施まで、スポーツの楽しさを伝える方法や態度を学びます。種目の内容と順番は変更することがあります | | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 「運動は苦手」という人にも楽しく活動できるスポーツとは何かを考えます。人々が生涯を通じて運動やスポーツに親しむことを可能にする資源としてニュースポーツを学び、提供できる指導者像を学びます。 | | | | | これまでのスポーツ体験を振り返っておくこと。 | | | | |
| 2 | ウォーミングアップゲーム（ガッツフリスビー） | ディスクスポーツの特徴とルールを確認します、スローとキャッチの基本技術について学び、ウォーミングアップに活用します。 | | | | | ガッツの歴史や発展、現状について調べる | | | | |
| 3 | アルティメット（1） | アルティメットにおける基礎技術・ルールの理解とゲームの進め方について学びます。 | | | | | アルティメットの歴史や発展、現状について調べる | | | | |
| 4 | アルティメット（2） | アルティメットにおける基礎技術・ルールの理解。フォーメーション・ルールとゲームの進め方について学びます。 | | | | | ルールを確認をして、ゲームの進め方を予習しておく。 | | | | |
| 5 | アルティメット（3） | アルティメットにおける基礎技術・ルールの理解。フォーメーション・ルールとゲームの進め方について学びます。 | | | | | 指導者として自分の態度を考えること。 | | | | |
| 6 | ノルディックウォーキング（1） | 基本的なテクニック（ヘルスレベル）を身につける。10ステッププログラムの1～6までをマスターします。 | | | | | ノルディックウォーキングの歴史や発展、現状について調べる | | | | |
| 7 | ノルディックウォーキング・ダッシュ（2） | フィットネスレベルのテクニックを身につける。10ステッププログラムの1～6までをマスターします。 | | | | | ノルディックウォーキングの種目特性についての自身の考えをまとめる | | | | |
| 8 | キックベースボール（1） | キックベースの特徴とルールを確認します。蹴る、捕る、投げる、走塁する技能を身に付け、簡単なルールのゲームを学びます。 | | | | | キックベースボールに関連するスポーツやその歴史やルールについて調べる。 | | | | |
| 9 | キックベースボール（2） | チームの特徴が生かせるように、ルールや作戦を工夫してゲームを行うことを学びます。 | | | | | キックベースボールのルールを確認する。 | | | | |
| 10 | キックベースボール（3） | チームの特徴が生かせるように、ルールや作戦を工夫してゲームを行うことを学びます。 | | | | | キックベースボールのルールを確認する。 | | | | |
| 11 | インディアカ | インディアカの特徴とルールを確認します。グルーピングからゲームの進行まで学生のリードで進めます。インディアカボールに慣れる運動を考えて指導体験をします。 | | | | | インディアカの種目特性についての自身の考えをまとめる | | | | |
| 12 | インディアカゲーム | インディアカの特徴とルールを確認します。グルーピングからゲームの進行まで学生のリードで進めます。インディアカボールに慣れる運動を考えて指導体験をします。 | | | | | インディアカの種目特性についての自身の考えをまとめる | | | | |
| 13 | インディアカ ゲーム | ゲームを進める当事者として、インリーダーとしての態度や姿勢を学びます。自分のチーム以外の人の動きも意識において、全体に気配りする目と態度を身につけます。 | | | | | ニュースポーツのねらいに沿った効果的な交流について自身の目標を定めること。 | | | | |
| 14 | 指導案作成 & 指導実習 | ニュースポーツについて自分の捉え方を確認します。単に軽いスポーツ、新しいスポーツという捉え方ではないことを再確認します。生涯スポーツ指導者としての姿勢、役割についてレポートにまとめます。 | | | | | 指導者・リーダーとしての姿勢で臨めたかを振り返る。 | | | | |
| 15 | 指導案作成 & 指導実習 | ニュースポーツについて自分の捉え方を確認します。単に軽いスポーツ、新しいスポーツという捉え方ではないことを再確認します。生涯スポーツ指導者としての姿勢、役割についてレポートにまとめます。 | | | | | 指導者・リーダーとしての姿勢で臨めたかを振り返る。 | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 必要に応じて資料を配布します。プリントを配布して進めます。 | | | | | 受講態度：60% レポート：40% 指導者として様々な対象に向き合う場面を想定し、ニュースポーツ展開の目的を理解し、場に合ったルールの工夫や応用のしかたなど柔軟な姿勢と参加者との相互交流の姿勢を評価する。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | |
| 「ニュースポーツ事典」日本レクリエーション協会編 | | | | | スポーツに親しもうとする全ての人にとって、運動することの楽しさを引き出すことのできる指導者の姿勢を学んでください。指導者として相応しい姿勢・服装を求めます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|-------------|---|---|--|----------------|------|---|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | スノーボード | | | 学年学期 | 1・2・3・4年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL16064 | 研究室 | S-20 |
| 担当者 | 齊藤 茂・川島 均 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実習 | アイスアワ | 水曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | 履修者が多数の場合は、抽選となります。 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| スノーボードの楽しさと醍醐味を体感し、冬の自然に親しむことを本講義の目的とします。技術レベルごとに少人数のグループに分け、基礎的な技術指導から高度な技術習得を目指します。また、講習時にビデオ撮影を行い、講習後の時間を利用したフォームの修正も必要に応じて行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 初心者はスノーボードを安全に楽しむことを目標に、リフトを使って滑る楽しさを十分味わえるレベルを目指します。また、上級者はリフトやゴンドラを活用し、滑る技術と理論を学び、バランスのとれたフォームで安定した滑走を目指します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 実習は2泊3日の予定で行います。また、ガイダンス、及び事前講習（DVD学習）には必ず参加をしてください。なお、実習費20,000円程度が必要となります。実習費は実習場所により変わります（事前に徴収します）。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス（出席必須） | 実習の概要について、配布資料を用いて説明を行います。 | | | | | 受講を希望する学生はシラバスを熟読した上で、必ず出席をしてください。（2時間） | | | | |
| 2 | 事前講習（DVD学習） | 基本的な技術について、DVD学習（JSBASノーボード教本）を行います。 | | | | | DVD映像を参考に、各自がイメージトレーニングを行ってください。（2時間） | | | | |
| 3 | 実習1日目 | 実習1日目は基礎練習を行います。初心者はブーツのはき方、板の脱着、および転び方から学びます。中・上級者は技術レベルによる班分けを行い、各自の技術レベルに応じた講習を行います。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（1時間） | | | | |
| 4 | 実習1日目 | 引き続き、基礎練習を行います。適宜、ビデオ撮影を行い、フォームのチェックを行います（中・上級者が中心となります）。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（1時間） | | | | |
| 5 | 実習1日目 | 引き続き、基礎練習を行います。適宜、ビデオ撮影を行い、フォームのチェックを行います（中・上級者が中心となります）。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（1時間） | | | | |
| 6 | 実習1日目 | 引き続き、基礎練習を行います。適宜、ビデオ撮影を行い、フォームのチェックを行います（中・上級者が中心となります）。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（2時間） | | | | |
| 7 | 実習2日目 | 実習2日目は応用練習を行います。初級者もリフトを使い、スムーズなターンを目指します。中・上級者はよりきれいなカービングターンを目指して練習します。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（1時間） | | | | |
| 8 | 実習2日目 | 引き続き、応用練習を行います。適宜、ビデオ撮影を行い、フォームのチェックを行います（全ての受講生が対象となります）。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（1時間） | | | | |
| 9 | 実習2日目 | 引き続き、応用練習を行います。適宜、ビデオ撮影を行い、フォームのチェックを行います（全ての受講生が対象となります）。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（1時間） | | | | |
| 10 | 実習2日目 | 引き続き、応用練習を行います。適宜、ビデオ撮影を行い、フォームのチェックを行います（全ての受講生が対象となります）。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（2時間） | | | | |
| 11 | 実習3日目 | 実習3日目は総合滑走となります。すべての受講生は各々の技術レベルに応じ、各自がバランスのとれたフォームで安定した滑走を目指します。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（1時間） | | | | |
| 12 | 実習3日目 | 引き続き、総合滑走となります。適宜、ビデオ撮影を行い、フォームのチェックを行います（全ての受講生が対象、即時、ゲレンデ上で映像によるフィードバックも行います）。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（1時間） | | | | |
| 13 | 実習3日目 | 引き続き、総合滑走となります。適宜、ビデオ撮影を行い、フォームのチェックを行います（全ての受講生が対象、即時、ゲレンデ上で映像によるフィードバックも行います）。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（1時間） | | | | |
| 14 | 実習3日目 | 引き続き、総合滑走となります。適宜、ビデオ撮影を行い、フォームのチェックを行います（全ての受講生が対象、即時、ゲレンデ上で映像によるフィードバックも行います）。 | | | | | ビデオや講師からのフィードバックによって、各自フォームチェックを行ってください。（2時間） | | | | |
| 15 | まとめ | 実習を通して身につけた技術や感覚、実習を通しての感想等についてレポートにまとめます。 | | | | | レポートの作成を行い、指定された期日までに提出をしてください。（2時間） | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 特に指定はしません。必要に応じて紹介します。 | | | | 実技：80% レポート：20% S：強い向上心をもって積極的に全日程に参加をし、技術面においても大きな成果があった。A：強い向上心をもって積極的に全日程に参加をした。B：積極的に全日程に参加をした。C：全日程の3分の2以上に参加をした。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | | |
| 必要に応じて適宜配布します。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・集中型の履修形態となります（例年は2月に実施します）。 ・天候等の理由により、予定が変更されることがあります。 ・技能レベルについては問いません（初心者でも構いません）。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--|------|---|----------------|---|-----------|---------|-----|------|
| 科目名 | 野外活動 | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナパ`リ`ング | SL26065 | 研究室 | S-22 |
| 担当者 | 中島 弘毅・各教員 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実習 | オ`ィ`スア`ワ` | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | レ`ク`・`ィ`ン`スト、レ`ク`・`ィ`ン`スト(通常)、レ`ク`・`ィ`ン`スト(教育) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 野外活動とは、キャンプ、ハイキング、スキー、カヌーといった文字通りの野外活動、動植物や星の観察といった自然・環境学習活動、そして、自然物を使った工作や自然の中での音楽会といった文化・芸術活動などを包括する総合的な活動を指します。本授業では、体験学習としての「野外活動」を行います。自然の中で集団生活や環境を生かした様々なプログラムを体験し、「体験学習」の意味と効果学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 野外活動を通して、野外活動に必要で欠かせない知識、身支度、火の取り扱い、仲間との協力など基本的な知識・技能・態度を身に付け、自然に親しむ資質や力を磨くことを目的とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 学内での事前ガイダンスを踏まえ、2年生全員で2泊3日の宿泊型キャンプに参画します。グループで生活を共にするとともに、期間中は選択プログラムとして個別の活動体験に参加します。(参加費用として10,000円程度が必要となります。) | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 宿泊型集中授業としての本講義の進め方について、目的、ねらい、参加費用等基本的な内容を説明します。 | | | | 野外・集団生活に必要な個人情報・健康状態等の申請をする(既往症・アレルギーなど)(1時間) | | | | |
| 2 | 野外での生活 | キャンプの概要をおさえ、共に過ごすグループのメンバーと役割分担をして仕事内容を把握します。選択プログラムの参加希望種目を申し出ます。 | | | | 活動拠点のキャンプ地の自然の情報を調べる。役割に必要な準備をする。(準備品・食材購入)(1時間) | | | | |
| 3 | 野外活動 | キャンプ生活開始時に、自己解放と人間関係づくりを目的としてアイスブレイク(ゲーム)に参加します。共に活動する仲間の表情や変容する姿をリーダーの視点で見出し、仲間との交流を意識して進めます。 | | | | 活動を振り返り、自分の感情に気づいておく。個別の感想や気づきをメモ・と分かち合う。(1時間) | | | | |
| 4 | 野外活動 | ロウエレメント、アドベンチャープログラムなど、キャンプ地の環境を活用した自然体験プログラムに参加します。挑戦や葛藤、協力や支え合いなどの体験を通しチームとしてつながっていくプロセスを学びます。 | | | | 外部インストラクターによるプログラム活動開始に際し、進行・紹介など準備を整える。(1時間) | | | | |
| 5 | 野外活動と生活(食) | 野外炊飯の方法を体験を通して学びます。日常離れのキャンプ生活で摂る食事の楽しさを体感します。環境保全の配慮をした野外での食のありがたさを学びます。(火のおこし方、食材の準備、片づけ) | | | | 野外炊飯の方法について事前に調べる。体験を次回(翌日)に生かす。(1時間) | | | | |
| 6 | 野外活動と生活(夜) | 暗闇体験、天体観測、たき火を囲むなど選択プログラムに参加します。ゆっくりと流れる時間の中で自分との対話、また仲間との交流を深める時間を過ごします。 | | | | キャンプ地で可能な夜の活動を考える。安全確保・危機管理について感じたことを記録する。(1時間) | | | | |
| 7 | 野外活動と生活(休息) | 野外生活における自らの体力保持・健康管理は集団生活に欠かせない努力義務という認識を持って自己管理をします。 | | | | 一日の活動を振り返る。翌日のプログラムの準備(健康管理)をする。(1時間) | | | | |
| 8 | 活動プログラム | キャンプファイヤーの檣の組み方、点火の方法、自然への配慮など実施の基本を学び、ねらいに即してプログラムを組み立て実施します。 | | | | キャンプのねらいを再確認し、役割分担と進行ができたか、参加者の声を集約しまとめる。(1時間) | | | | |
| 9 | 活動プログラム | マウンテンバイク(インストラクター)による指導を受けます。スポーツとしてのマウンテンバイクの技術を習得し、持てる力を最大限発揮し、活動の醍醐味を体感します。 | | | | ズボットとしてバイクを体験した前後の感覚の違い、チームメンバー間の意識の違いをまとめる。(1時間) | | | | |
| 10 | 活動プログラム | カヌー(インストラクター)による指導を受けます。スポーツとしてのマウンテンバイクの技術を習得し、持てる力を最大限発揮し、活動の醍醐味を体感します。 | | | | カヌーを体験した前と後の感覚の違い、チームメンバー間の意識の違いをまとめる。(1時間) | | | | |
| 11 | 活動プログラム | 登山案内人指導のもとで登山の知識・技術を学習し、持てる力を最大限発揮して、活動の醍醐味を体感します。 | | | | 登山を体験した前と後の感覚の違い、チームメンバー間の意識の違いをまとめる。(1時間) | | | | |
| 12 | 活動プログラム | ハイレメント・ツリークライミング(インストラクター)による指導を受けます。プログラムのねらいである「自己決定、自分と向き合う。」が主軸の活動体験をし自己と向き合います。 | | | | 挑戦する自分・支える自分の言動に気づき、日常に生かすことを考え、まとめる。(1時間) | | | | |
| 13 | 活動プログラム | 川に親しむ、地域の文化に親しむなどキャンプ地の特徴を生かしたプログラムや、自然物を活用したクラフトなど様々な自然体験プログラムを知り、野外活動の豊かさ創造的なプログラムの数々を学びます。 | | | | 作品を完成する、報告会に向け、活動グループ毎まとめをする。(1時間) | | | | |
| 14 | 振り返り | キャンプ日程全体を振り返り、各自が感じたことを共有します。グループワークの総まとめとして話し合い、その内容を発表します。 | | | | 選択プログラムの体験報告をし合い仲間の報告から多様なプログラムの魅力をまとめる。(1時間) | | | | |
| 15 | 報告会 | 野外活動で体験したことや発生したこと、発見したことを学内報告会の発表用にグループでまとめます。 | | | | 聞く人に伝わる発表の仕方に努める。グループで意見交換し、情報を寄せまとめる。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 講義内でプリントを配布して進めます。 | | | | 受講態度：60% レポート：40% 受講態度は、役割分担、協力的態度、活動への積極的参加、発言、発表等について評価します。S:95点以上 A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「アイスブレイク」石田 易司著(有)エルビス社 ISBN:4-900581-18-6 活動別参考図書を講義内で紹介します。 | | | | 自分の持つ力を、グループ内でどのように発揮する(機能させる)かに挑戦しよう。体験学習をする中で、互いの価値観を受け止め、相互の気づきを次の活動に生かす姿勢で臨んでください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------------|---|------|--------|----------------|---|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 野外教育 | | 学年学期 | 3・4年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36066 | 研究室 | S-23 |
| 担当者 | 犬飼 己紀子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実習 | オイスアワ | 火曜日4限 | | |
| 関連資格 | レク・インスト、レク・コーディネイ(通常)、レク・コーディネイ(教育) | | | | 履修条件 | 「野外教育」を同時に履修すること。 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツ健康学科2年次生履修の「野外活動」のキャンプリダーとして必要な技術・指導法を学ぶための授業です。野外での集団生活を進めるうえで必要になるコミュニケーションワーク(ゲーム)や、野外炊事の薪割り・火つけを実際に体験して、参加者に指導できるような練習します。このほか、教育キャンプでの生活に必要な係について具体的な役割分担を通じてリーダーとしての姿勢を学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 「野外活動」参加者の集団生活と体験学習をサポートするための知識と技術とチームワークを身につけます。具体的には、自然を生かした活動の企画・立案・準備・運営に携わる中で、履修者同士が自分達で声を掛け合い、コミュニケーションワークを効果的に実施しながら協同作業を行うことです。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| ガイダンス、コミュニケーションワーク実習、訓練と下見のためのキャンプ(ラボランド黒姫、1泊2日、6月中の土日)、2年生のガイダンス指導(7月)、係の仕事・自主企画の準備(分担後随時開始)。5,000円程度の費用(宿泊・食材)がかかります。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | この授業のねらいと具体的な作業を確認します。履修の意思決定をして下さい。 | | | | 初回授業日を教務課に確認する。履修を迷っている場合も出席する。(0.5時間) | | | | |
| 2 | 仲間作り | コミュニケーションワーク(ゲーム)をお互いに提供し合います。指導者と学習者の両方の視点から検討を加えることで、実践的に指導力を向上させます。 | | | | 体験したことのあるゲームのルール等を確認する。(1時間) | | | | |
| 3 | 役割分担 | 集団生活を運営するために、プログラム、炊事、会計、連絡、記録、安全・保健、といった係活動の担当を決め、6月のキャンプで予定演習します。仕事内容を理解し、係同士で連携できるようにします。 | | | | 仕事の内容を具体的に把握し、7月のガイダンスで2年生に説明できるようにしておく。(1時間) | | | | |
| 4 | 役割分担 | ゼミグループのアドバイザー、もしくは、本部の物品管理スタッフとして集団生活を運営します。自分達で話し合いながら責任を持って準備して下さい。 | | | | 担当別の作業を確認し必要な物品を揃える。役割分担表を作成する。(1時間) | | | | |
| 5 | プログラムの企画・立案 | 9月のキャンプのテーマを決め、全体像を共有できるようにしておきます。自分たちの主導する活動を確認し、担当を分担する雨天プログラムも考えます。 | | | | 9月のキャンプ全体の流れを把握しておく。担当者同士で準備を進める。(1.5時間) | | | | |
| 6 | 実地踏査 | 集団生活を営みながら、現地の下見をします。プログラムをどのように提供するか考え、自分たちの動きを具体的にシミュレーションします。用具・参加者への連絡事項・今後の課題、等をリストアップします。 | | | | 学内や現地での各プログラムのねらい、役割分担、指示の出し方を明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 7 | 指導実習 | コミュニケーションワーク(ゲーム)をお互いに提供し合います。100人以上の規模を想定し、スムーズな進行の実施と、ねらいに即した効果を得るための技術を習得します。 | | | | アイスブレイク、グループワークを調べて指示の練習をする。(1時間) | | | | |
| 8 | チームビルディング | アドベンチャープログラム(ローエレメント、ハイロースコース)における、グループの変容を体験します。挑戦や葛藤、協力や支え合いなどを意識的にとらえ、チームとして活動する過程を体験的に学びます。 | | | | アイスブレイク、グループワークを実施し、感想や気づきを他者と分かち合う。(1時間) | | | | |
| 9 | ナイトプログラム | 夜の活動プログラムを企画立案します。参加者に、夜の自然を感じながらどのような体験をしてもらいたいのか考え、複数の選択制プログラムを開発準備します。 | | | | 担当するプログラムを決定し、実地踏査や必要な準備を進める。(1時間) | | | | |
| 10 | キャンプファイヤー | 井桁の組み方、点火の方法、自然への配慮など、キャンプファイヤーを実施するための知識や技術を習得します。ファイヤーマスター(司会者)、ファイヤーキーパー(火の管理者)も配置した実習です。 | | | | 施設への連絡、役割分担、9月のキャンプでの企画を考えて準備をする。(1時間) | | | | |
| 11 | 野外炊事 | 薪割り、火起こしの技術を習得します。火や刃物の安全な扱いを確認し、指導できるようにします。グループ内の作業が特定の人に偏らないように配慮し、十分なコミュニケーション・時間管理のもとで調理します。 | | | | メニューに必要な食材を考え、一人で指導できるようになるまで練習する。(2時間) | | | | |
| 12 | ファシリテーション | 振り返りの進行や、グループの協力・コミュニケーションを引き出すために、参加者に対する、支援的指導方法を学びます。 | | | | 活動時に起こる色々なことに気づいて自分の行動を変えていけるようにする。(1時間) | | | | |
| 13 | 危機管理 | 自分の健康管理、参加者達の健康観察、活動場所の安全対策、スタッフ間のコミュニケーション、教員との連携、外部インストラクターとの連絡、天候の予測、装備の支度、などを実習します。 | | | | 気づきのメモをまとめ、次の活動や話し合いに生かす。(1時間) | | | | |
| 14 | 参加者説明会の準備 | 説明会の役割分担と、作業確認をします。説明資料作りなどの作業を担当別、もしくは個人で進めていきます。会場の予約、備品の借用など、大学とのやり取りをする。教員への依頼事項も明確にします。 | | | | しおり作り(記録係)、健康チェック表作成する。(1時間) | | | | |
| 15 | 参加者説明会の実施 | 2年生への事前説明会において、司会進行をします。全体的に目を配り、自分たちから声をかけて雰囲気作りに努めます。 | | | | しおりの内容を理解し、ガイダンス時の説明、疑問に答えられるようにする。(1時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 初回ガイダンスで提示します。 | | 受講態度：60% レポート：40% S:自らの体験をもとに野外活動で起こりうる状況をイメージし、仲間に提案し討議し対応を具体化することができる。A:野外活動における多様な役割を知り、リーダーシップを発揮している。B:活動場面をイメージしサポーターとして自ら行動する姿勢がある。C:活動プログラムを理解し、技術を習得する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「キャンプ指導者入門」日本キャンプ協会著 | | この授業は、話し合いや協同作業がメインです。仕事に責任を持ち、自ら苦勞をかけて下さい。雨具、靴などは、活動に適したものを各自で用意してください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------------|---|----------------|--------|------|-------------------|---|---------|-----|------|
| 科目名 | 野外教育 | | 学年学期 | 3・4年前期 | 単位数 | 1 | ナバ'リング | SL36067 | 研究室 | S-23 |
| 担当者 | 犬飼 己紀子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 実習 | ウイスキー | 火曜日4限 | | |
| 関連資格 | レク・インスト、レク・コーディネイ(通常)、レク・コーディネイ(教育) | | | | 履修条件 | 「野外教育」を同時に履修すること。 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| スポーツ健康学科2年生履修「野外活動」に、ゼミグループのアドバイザーもしくは本部の物品管理スタッフとして参加します。事前ガイダンスから2泊3日のキャンプ期間中を通して、係別の仕事を指南したり、自分たちで企画した活動プログラムを実施したり、と、主導的に動くことが求められます。専門のインストラクターや教員が指導する活動プログラムには、助手として参加します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 教育キャンプに参加する集団に向け、自然を生かした活動を安全で効果的に運営し、仲間との協力を促進するための援助技術を身に着けます。具体的にはリーダーとして、係の仕事を的確に説明し参加者の主体的な取り組みを促すこと、担当グループをサポートしファシリテーションできるようになることです。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 2年生へのガイダンス(学内)と、キャンプ(ラポランド黒姫、2泊3日、9月上旬)の、全日程に帯同し、実際の運営・指導を体験的に学習してもらいます。宿泊・食事は個人負担となるので、参加費用=10,000円程度がかかります。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンス | 宿泊型集中授業としての本講義の進め方について、目的、ねらい、参加費用等基本的な内容を確認します。ゼミアドバイザー、本部スタッフの役割を明確に2年生へ伝え、支援にあたります。 | | | | | 質問に答えられるよう、プログラム全体について理解しておく。(1時間) | | | |
| 2 | 野外での生活 | プログラム、炊事、会計、連絡、記録、安全・保健、といった係活動を分担して、集団生活を運営します。事前ガイダンス以降キャンプ期間中も通して、報告、連絡、相談をしながら係の2年生に指南します。 | | | | | 担当教員からの指示を受け、本部機能を整える。記録係は、しおりを作る。(1時間) | | | |
| 3 | 物品管理 | プログラムに必要な物品を事前に把握します。大学から持参した物品は、「本部」を設営して収納し、本部スタッフが貸し出しの管理をします。宿泊施設から拝借する物品は、事前に問い合わせます。 | | | | | 必要な物品は、本部スタッフに随時伝える。次年度へ引き継ぐことをリストアップする。(1時間) | | | |
| 4 | コミュニケーションワーク | 仲間作りゲームを実施し、参加者達の緊張を和らげます。人間関係が円滑になるような基盤作りを努めます。 | | | | | 担当者を決め、実施方法を話し合っ練習しておく。効果についての振り返りをする。(1時間) | | | |
| 5 | 目的/対象に合わせたレクリエーションワーク | ローエLEMENT、アドベンチャープログラムにおける、グループの変容を観察します。挑戦や葛藤、協力や支え合いなどの体験を通し、参加者たちがチームとしてつながっていくプロセスを学びます。 | | | | | グループワーク、チームの基本的な知識を持っておく。感想や気づきを他者と分かち合う。(1時間) | | | |
| 6 | 野外炊事 | 自分たちの食事作りと、2年生の指導をします。メニューや火着けの指導のほか、各グループ内の作業が特定の人に偏っていないか、コミュニケーションがとれているか、火や刃物の扱いなどに目を配ります。 | | | | | 炊事係の指示を促し調理道具・食材の衛生的な管理。会計係の管理での食材の購入。(1時間) | | | |
| 7 | ナイトプログラム | 自然を生かした夜の活動プログラムを企画して実施します。環境に合った服装や必要な持ち物を指導し、参加者の安全を確保します。 | | | | | 必要物品を本部に申請しておく。参加者にどのような効果が与えられたかが振り返りを行う。(1時間) | | | |
| 8 | 健康管理 | 参加者が、自身の体力・健康を保持できるよう、休憩時間を確保します。ケガや事故の起こらぬよう参加者達の様子に目を配り、変化があれば直ちに対処します。 | | | | | 安全・保健係は事前にチェックシートを作成しておく。期間中の参加者に健康管理を促す。(1時間) | | | |
| 9 | 活動プログラム | マウンテンバイクによる指導を受けます。インストラクターのサポートをしながら、参加者の変容を観察する。負傷者、はぐれてしまう者が出ぬよう注意しながら活動します。 | | | | | 持ち物、服装などをインストラクターに確認して参加者に伝える。活動の効果を振り返る。(1時間) | | | |
| 10 | 活動プログラム | カヌーによる指導を受けます。インストラクターのサポートをしながら、参加者の変容を観察します。水難事故の防止にも努めます。 | | | | | 持ち物、服装などをインストラクターに確認して参加者に伝える。活動の効果を振り返る。(1時間) | | | |
| 11 | 活動プログラム | 登山による指導を受けます。ルート確認、歩行のペース配慮など、インストラクターのサポートをしながら、参加者の変容を観察します。 | | | | | 持ち物、服装などをインストラクターに確認し参加者に伝える。活動の効果について振り返る。(1時間) | | | |
| 12 | 活動プログラム | ハイエLEMENT・ツリークライミングによる指導を受けます。高所の苦手な参加者のフォロー、インストラクターのサポートをしながら、参加者の変容を観察します。 | | | | | 持ち物、服装などをインストラクターに確認し、参加者に伝える。活動の効果について振り返る。(1時間) | | | |
| 13 | 活動プログラム | 川あそびなど、自然に親しむ活動の指導を受けます。指導にあたる教員の助手をしながら、参加者の変容を観察します。 | | | | | 持ち物、服装などを指導者に確認し、参加者に伝える。活動の効果について振り返る。(1時間) | | | |
| 14 | 活動プログラム | キャンプファイヤーを実施します。2年生が主体的に動き、楽しめるようなサポートをします。 | | | | | テーマを話し合い、プログラムを立案する。2年生、教員の関わり方を明確に伝える。(1時間) | | | |
| 15 | 振り返り | 夜のミーティングにて、その日の出来事を語り、総括します。2年生のゼミグループでは、語らいの進行役をし、スタッフミーティングでは、各担当からの情報交換や翌日の活動確認を行います。 | | | | | フィードバックの基本を知っておく。ここでの気づきをレポート課題に取り入れ、学び深める。(1時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 初回授業で提示します | | 受講態度：60% レポート：40% S:教育キャンプの目的を理解し、全日程を掌握しリーダー集団と協働して活動中に起こる様々な課題に対応することができる。A:キャンプの目的を理解し、参加者の主体的活動を促す態度でリーダーの役割を担うことができる。B:リーダーの一員として活動中に生じる課題に気づき、解決に向け自ら努力することができる。C:リーダーとしての自分の役割を自覚し、全日程に関わることができる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「グループの力を生かす」プロジェクトアドベンチャージャパン著 「対立がちからに」ウィリアム・J.クレイドラー他(プロジェクトアドベンチャージャパン:訳)著 | | 集合から解散まで全日程参加が必須です。大学を出発して帰るまで、引者としての自覚を持って主体的に取り組んで下さい。「野外教育」を履修しない人は、「野外教育」の履修はできません。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------|--|------|---|----------------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ科学入門 | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL26068 | 研究室 | S-24 |
| 担当者 | 河野 史倫・各教員 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義では3年次のゼミナール選択および4年次の卒業研究を視野に入れ、スポーツ領域における様々な研究に触れながら、研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的には、学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、研究への向学心を身につけることを目的とします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 多方面からスポーツを捉える視点を養い、大学で学ぶことの意味をより明確にすることを到達目標とします。また、レポートのまとめ方やプレゼンテーションの仕方など、専門分野に必要な能力を向上させることも目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| ゼミ単位での活動の場合は、教員やゼミ生との相互的なコミュニケーションを行いながら課題を達成していきます。学年全体での講話実施、合同企画や基礎学習などの演習も行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 2年次履修状況・学生生活について全体指導(個別把握)をします。 | | | | 自分の履修状況を把握しておく(1時間) | | | | |
| 2 | スポーツ大会の企画 | 2年生で実施するスポーツ大会の企画立案を行います。単にプレーヤーとして楽しむだけのスポーツではなく、大会の運営や企画など、スポーツマネジメントの実際を学びます。 | | | | 実施するスポーツのルールや運営方法について学修しておき、企画案を作成する。(1時間) | | | | |
| 3 | スポーツ大会 | 屋外でサッカーを行います。実際の競技のスキルだけではなく、大会の運営や企画なども学べます。 | | | | 事前にチーム分けや対戦スケジュールを作成しておく。(1時間) | | | | |
| 4 | スポーツ大会 | 体育館で行えるバレーボールとバスケットボールを行います。実際の競技のスキルだけではなく、大会の運営や企画なども学べます。 | | | | 事前にバレーボールとバスケットボールのルールを学修しておく。(1時間) | | | | |
| 5 | クラスの時間(キャリア談話) | 卒業後の進路や資格取得、各種職業などについてゼミ内で発表・討論を行います。 | | | | 現在目指している職業や資格について、職種の特徴やどんな学修が必要なのか調べる。(1時間) | | | | |
| 6 | 基礎教養 | 各科目に分かれ、小テストを教材にした基礎教養の解説を行います。 | | | | 一般教養について自分の得手不得手を考え、講義後に教養分野の学習方法をまとめる。(1時間) | | | | |
| 7 | 基礎教養 | 各科目に分かれ、小テストを教材にした基礎教養の解説を行います。 | | | | 一般教養について自分の得手不得手を考え、講義後に教養分野の学習方法をまとめる。(1時間) | | | | |
| 8 | 春期課題確認テスト | 春期課題の確認テストを行います。 | | | | 春期課題の不正解問題などを解決し、全科目の復習をしておく。(1時間) | | | | |
| 9 | 先輩講話 | 4年生の就職活動の状況や大学生活における学びについて話を聞き、自身の進路についての考えを深めます。 | | | | 現在目指している職業や資格について、職種の特徴やどんな学修が必要なのか調べる。(1時間) | | | | |
| 10 | 研究テーマを考える | 卒業研究を想定して研究テーマを考え、ゼミ内で発表します。 | | | | 発表用のスライドを作成し、発表練習をしておく。(1時間) | | | | |
| 11 | 研究テーマを考える | 卒業研究を想定して研究テーマを考え、ゼミ内で発表します。 | | | | 発表用のスライドを作成し、発表練習をしておく。(1時間) | | | | |
| 12 | 確認テスト解説 | 確認テストの成績返却と解説を実施します。 | | | | 事後学習として不正解問題の見直しと再解答を行う。(1時間) | | | | |
| 13 | 野外活動準備 | 野外活動の履修を決定して各グループごとの目標を設定します。 | | | | 事前に各自の野外活動の目標を考えておく。(1時間) | | | | |
| 14 | レポートの書き方 | 目的に合ったレポートの書き方を学び、レポートを作成します。 | | | | 設定した課題について情報収集し、レポートを作成する。(1時間) | | | | |
| 15 | 野外活動準備 | 野外活動での活動内容を確認して係別行動のシュミレーションを行います。 | | | | 事前に各自の係の内容を確認しておく。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 各教員が内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。 | | | | 定期試験：40% レポート：20% 受講態度：40% 講義内外を通して科せられる課題やレポートの内容及びその提出状況と、各種の活動を通してどのような受講態度であったか、積極性や組織内での協調性を総合的に評価します。Sはそのいずれもが極めて良好な状況であった場合とします。Aはそれらが良好な状況である場合。Bはそれらが概ね良好である場合。Cは科せられた内容が実施できた場合とします。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| なし | | | | 1年次の「基礎ゼミⅠ、Ⅱ」の単位を修得していることが履修の条件となります。また、演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業、および討論への積極的な参加が望まれます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------------|---|------|------|--|----|--|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ科学入門 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL26069 | 研究室 | S-24 |
| 担当者 | 河野 史倫・各教員 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 月曜日4限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義では3年次のゼミナール選択および4年次の卒業研究を視野に入れ、スポーツ領域における様々な研究に触れながら、研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的には、学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、研究への向学心を身につけることを目的とします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 多方面からスポーツを捉える視点を養い、大学で学ぶことの意味をより明確にすることを到達目標とします。また、レポートのまとめ方やプレゼンテーションの仕方など、専門分野に必要な能力を向上させることも目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| ゼミ単位での活動の場合は、教員やゼミ学生との相互的なコミュニケーションを行いながら課題を達成していきます。学年全体での講話実施、合同企画や基礎学習などの演習も行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 後期ガイダンス | 後期授業の履修状況確認、野外活動のまとめを行います。 | | | | | 自分の履修状況を把握しておく(1時間) | | | |
| 2 | 野外活動の検討・スポフェスの企画検討 | 野外活動での活動内容のまとめや、スポフェスの企画を2グループ同時進行の形で行います。 | | | | | 事前に野外活動・スポフェスでの活動内容などのデータ・資料などを準備しておく。(1時間) | | | |
| 3 | 野外活動・スポフェス企画の発表 | 野外活動及びスポフェス企画について、全体での活動内容や企画内容について共通理解を図ります。 | | | | | それぞれの活動毎、プレゼンのデータを準備しておく。(1時間) | | | |
| 4 | 基礎教養 | 各科目に分かれ、小テストを教材にした基礎教養の解説を行います。 | | | | | 一般教養について自分の得手不得手を考え、講義後に教養分野の学習方法をまとめる。(1時間) | | | |
| 5 | 夏期課題確認テスト | 夏期課題の確認テストを行います。 | | | | | 春期課題の不正解問題などを解決し、全科目の復習をしておく。(1時間) | | | |
| 6 | クラスの時間(キャリア談話) | 各分野での就職やキャリア形成、将来像などについて講話します。 | | | | | 現在目指している職業や資格について、職種の特徴やどんな学修が必要なのか調べる。(1時間) | | | |
| 7 | クラスの時間(キャリア談話) | 各分野での就職やキャリア形成、将来像などについて講話します。 | | | | | 現在目指している職業や資格について、職種の特徴やどんな学修が必要なのか調べる。(1時間) | | | |
| 8 | 確認テスト解説 | 確認テストの成績返却と解説を実施します。 | | | | | 事後学習として不正解問題の見直しと再解答を行う。(1時間) | | | |
| 9 | ゼミ選びオリエンテーション | 来年度のゼミの選択の仕方や各ゼミの研究内容などを紹介します。 | | | | | 事前に来年度選びたいゼミや卒業研究のテーマとして興味のあることを考えておく。(1時間) | | | |
| 10 | ゼミ選びオリエンテーション | 来年度のゼミの選択の仕方や各ゼミの研究内容などを紹介します。 | | | | | 事前に来年度選びたいゼミや卒業研究のテーマとして興味のあることを考えておく。(1時間) | | | |
| 11 | ゼミ選びオリエンテーション | 来年度のゼミの選択の仕方や各ゼミの研究内容などを紹介します。 | | | | | 事前に来年度選びたいゼミや卒業研究のテーマとして興味のあることを考えておく。(1時間) | | | |
| 12 | クラスの時間(キャリア談話) | 卒業後の進路や資格取得、各種職業などについてゼミ内で発表・討論を行います。 | | | | | 現在目指している職業や資格について、職種の特徴やどんな学修が必要なのか調べる。(1時間) | | | |
| 13 | クラスの時間(専門ゼミについて) | 専門ゼミ選びについて疑問・質問などを挙げ、解決していきます。 | | | | | 事前に来年度選びたいゼミを考慮しておく。(1時間) | | | |
| 14 | ゼミ選択相談 | 来年度の入りたいゼミの担当教員と相談をします。 | | | | | 事前に来年度選びたいゼミを考慮しておく。(1時間) | | | |
| 15 | まとめ | 1年間の振り返りを各ゼミで行います。 | | | | | 資料やスライドを事前に作成しておく。(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 各教員が内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。 | | | | | 定期試験：40% 受講態度：60% 講義内外を通して科せられる課題やレポートの内容及びその提出状況と、各種の活動を通してどのような受講態度であったか、積極性や組織内での協調性を総合的に評価します。Sはそのいずれもが極めて良好な状況であった場合とします。Aはそれらが良好な状況である場合。Bはそれらが概ね良好である場合。Cは科せられた内容が実施できた場合とします。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| なし | | | | | 1年次の「基礎ゼミⅠ、Ⅱ」の単位を修得していることが履修の条件となります。また、演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業、および討論への積極的な参加が望まれます。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---------------|---|---|------|----------------|------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36070 | 研究室 | S-14 |
| 担当者 | 等々力 賢治 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 木曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本演習では、1・2年次に学んだ基礎的な知識・教養をベースに、スポーツを巡って生起している諸問題について分析・検討し、相互に意見交換し、議論すると共に、具体的な取組として、グループ単位でテーマを設定し、文献や資料を購読して参考にしたり、各種スポーツ産業を実際に訪問・調査するなどしてレポートにまとめ、現状に対する理解を深めます。なお、レポート作成の過程では適宜アドバイス、添削を行い、よりよいものになるよう努めます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 本演習の学修到達目標は、グループ単位でテーマを設定し、文献や資料を購読し参考にしたり各種スポーツ産業を実際に訪問・調査するなどしてレポートにまとめ、報告し議論に付すことによって、スポーツに関連する諸知識のいっそうの深化及び体系化を図ることです。また、レポート作成に必要なテーマ設定や章立ての方法などについて理解し、修得することも到達目標にしています。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 本演習では、まず新聞記事などを材料に報告、議論し、その後、スポーツ産業を訪問・調査するなどしてレポートにまとめ発表すると共に、それを巡って議論を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 演習の年間計画、内容などを確認した上で、ゼミ長・副ゼミ長などを決め、次時以降の自主的運営について共通理解を図ります。また、次時からの新聞記事を題材にした報告に備え担当者(順番)を決めます。 | | | | | 事前:シラバスをよく読んでおく。事後:次時からの報告に備え新聞記事を探しておく。(1時間) | | | | |
| 2 | レポート・報告方法の確認 | 一時間当たり4人~5人を目安に3週にわたって報告、議論を行うことを前提に、レポート対象及び方法などについて、記事の選択理由や焦点、さらに議論したい事柄、論点等を明記することを確認します。 | | | | | 事前:レポートしたい記事を探しておく。事後:記事を読んでレポートを作成してみる。(1時間) | | | | |
| 3 | 新聞記事レポート報告(1) | まず、レポート報告の方法(時間、司会者など)について確認した上で、順番を決め、手順に従って4人程度を目安に発表し、一つずつ議論に付します。その際、議論したい事柄(論点)を明示するよう求めます。 | | | | | 事前:レポートを執筆し報告準備をしておく。事後:議論を参考にレポートを書き直す。(1時間) | | | | |
| 4 | 新聞記事レポート報告(2) | 前時と同じように、4人程度を目安にレポート報告を行い、議論に付します。その際、レポートの作成方法について要件を満たしているか確認し、話し方等についても必要であれば注意します。 | | | | | 事前:レポートを執筆し報告準備をしておく。事後:議論を参考にレポートを書き直す。(1時間) | | | | |
| 5 | 新聞記事レポート報告(3) | 前時に引き続き、残りのレポート報告を行い、議論に付します。それを題材に、必要に応じて、質問の仕方や答え方、あるいは論点の提示など、議論の仕方についても学びます。 | | | | | 事前:レポートを執筆し報告準備をしておく。事後:議論を参考に書き直し提出する。(1時間) | | | | |
| 6 | グループレポート作成準備 | 前時の個人レポートの作成・報告を踏まえ、今次からのグループレポート作成のために、今後の予定、グループメンバー(3人~5人程度)の決定などを行います。その際、グループ責任者も決めておきます。 | | | | | 事前:個人レポートを書き直し提出する。事後:メンバー等必要事項記載用紙を提出する。(1時間) | | | | |
| 7 | テーマの選択と決定 | 決まったメンバーで、調べてみたいことなどについて相談しておおよそを決定し、調査・訪問対象を確定すると共に、今後の日程などについても相談し、決定します。質問については、シート化し提出します。 | | | | | 事前:調査したいことを考えておく。事後:調査・訪問対象等記載した用紙を提出する。(1時間) | | | | |
| 8 | 調査・訪問の実施(1) | 前時の相談、確認にしがって、実際に図書館や企業などに行き、資料を調べたり、聞き取り調査などを行います。その後、その内容についてメンバー間で意見交換し、レポート作成に備えます。 | | | | | 調査・訪問予定を確認しておく。事後:調べたり聞き取った事柄を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 9 | 調査・訪問の実施(2) | 前時の相談、確認にしがって、実際に図書館や企業などに行き、資料を調べたり、聞き取り調査などを行います。その後、その内容についてメンバー間で意見交換し、レポート作成に備えます。 | | | | | 事前:調査・訪問の予定を確認しておく。事後:調べたり聞き取った事柄を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 10 | レポート執筆要領の確認 | レポートを作成するために必要な事柄を記載した「グループレポート執筆要領」を基に、字数(枚数)等の体裁、内容構成などを確認します。その上で、メンバー各人の執筆担当部分(章)を相談して決めます。 | | | | | 事前:調べたり聞き取った事柄を整理しておく。事後:担当部分を確認し各自執筆する。(1時間) | | | | |
| 11 | 各自の分担執筆(1) | 前時に確認した担当部分に基づいて、各自でレポート執筆を進めます。その際、字数・行数、ポイント、余白等について確認し、共通化を図っていきましょう求めます。 | | | | | 事前:担当部分(章)の執筆を進める。事後:他のメンバーと執筆に関して意見交換する。(1時間) | | | | |
| 12 | 各自の分担執筆(2) | 執筆については、字数・枚数に制限が課されていることを踏まえ、書き込むべき内容と省くべき内容それぞれについて、他のメンバーとよく相談しながら進める必要があり、それを求めます。 | | | | | 事前:担当部分(章)の執筆を進める。事後:他のメンバーと執筆に関して議論しておく。(1時間) | | | | |
| 13 | 各自執筆分の突き合わせ | 各自が執筆したものを持ち寄って読み合わせを行い、内容に一貫性を持たせるべく努めます。それを受けて、最終章あるいは「まとめ」について意見交換・集約し、その内容と執筆担当者を決めます。 | | | | | 事前:レポート執筆の体裁を確認しておく。事後:修正箇所を確認の上、執筆を進める。(1時間) | | | | |
| 14 | レポートの仕上げと提出 | 各自の分担分と「まとめ」を相互に読み合い、意見交換するなどして確認します。その上で、400字詰原稿用紙一枚に、レポート作成に取り組んでの意見や感想などを書き、レポートの最末尾に添付します。 | | | | | 事前:添付する意見や感想などを考えておく。事後:意見等を添付しレポートを提出する。(1時間) | | | | |
| 15 | レジュメ作成要領の確認 | 後期のスポーツ健康演習ではレポート報告会の予定なので、それに備えて、提出したレポートを基に報告用レジュメの作成準備に入ります。そのために、必要な事柄を記載した「作成要領」を確認します。 | | | | | 事前:レジュメについて調べておく。事後:意見交換をしながらレジュメ執筆を進める。(1時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | | |
| 特に指定しません。 | | レポート:50% 課題:20% 出席レポート:30% 成績評価は、レポートの執筆・提出状況を中心に、前半期に課す課題及び出席レポート等を合わせて行います。評価基準は次のとおりです。S:探求的思考力をもって取り組み、レポート内容が独創的であり、講義外の課題をも包含している。A:探求的・意欲的に取り組み、レポート内容と課題が明確にされている。B:意欲的に取り組み、レポート内容が明確にされている。C:意欲的に取り組み、レポート内容の独創性が必ずしも十分ではない。 | | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | | |
| 「現代スポーツのバースペクティブ」菊 幸一編(大修館書店) ISBN:4-469-26613-2 スポーツ関連書籍が沢山出版されています。ドンドン読み漁ってください。 | | ゼミ活動として、何回かJリーグ松本山雅のホームゲームにボランティア参加することを予定しています。ゲーム運営など、プロスポーツの実際を知る絶好の機会を予め積極的に取り組んでください。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------|--|---|------|------|----------------|---|---------|-----|------|--|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36070 | 研究室 | S-23 | |
| 担当者 | 犬飼 己紀子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 火曜日4限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 「健康」とは、目的ではなく自分らしく生きるために自らが育て上げていくものと捉え、自分らしさとは何かについて内省します。他者と向き合い様々な価値観と出会うことで自分の世界を広げましょう。仲間との活発な「やり取り」の中でコミュニケーションについて学びます。アウトキャンパスでは「あそび」をキーワードに、向き合う人たちの自己解放を引き出す技術を体験的に学びます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 指導とは運動技術だけではないことを学びます。広い世代向け「こころの健康」を主目的として楽しさを引き出すプログラムの実践と応用で、対象者の運動の継続と主体的参加を促す指導スキルを身につけます。多様な対象者との交流から、身近に起こっている社会的課題を発見します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| ゼミナールでは、仲間と対話による交流のスキルを学びます。アウトキャンパスではホスピタリティー・マインドで接し、広い世代に対応可能となる運動行動への動機付け、参加の促しなど具体的な方法について学びます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 2年間を見通したゼミナール活動における学習目標について意見交換し、個々の想いや姿勢を共有します。 | | | | | 仲間の関心の向きを知り、ゼミで学ぶ目的・目標を持つ。(1時間) | | | | |
| 2 | 異質を受容する | 目指す領域が異なるゼミ仲間との交流を通し、異質の集合体について考えます。様々な自己紹介、自己表現のあり方を受け止め、互いの会話・主張に関心を寄せます。 | | | | | 自分を表現する。他者を知り、受けとめる。(1時間) | | | | |
| 3 | グループワーク | グループワークを通じ、自己表現の仕方に気づき周囲に何が伝わっているかを共有します。ゼミ仲間の特徴が概観できたところで、今後の活動を進めるにあたりゼミ活動に必要な役割を決めます。 | | | | | 社会的役割、自然発生的な役割についてこれまでの体験を振り返り集団内での機能について考える。 | | | | |
| 4 | コミュニケーションワーク | アウトキャンパスの計画を立案(グループワーク)する中で、話し合う仲間の様子、関心の寄せ方に気づいていきます。(プロセス重視) | | | | | 「相手の関心に関心を寄せる」とは何かについて、ワークを振り返ることで学ぶ。(1時間) | | | | |
| 5 | コミュニケーションワーク | アウトキャンパスの計画を立案(グループワーク)する中で、話し合う仲間の様子、関心の寄せ方に気づいていきます。(プロセス重視) | | | | | のワーク体験で気づいた自分の言動を日常化に向ける。(1時間) | | | | |
| 6 | コミュニケーションワーク 演習 | アウトキャンパスに向け、活動に向けた模擬演習(指導体験)を通し、自己表現と相手に伝わる話し方、行動について学びます。 | | | | | 楽しさを誘う具体的行動、表現力の練習。(1時間) | | | | |
| 7 | アウトキャンパスの企画 | アウトキャンパスでの活動計画作成、そのための話し合いにおけるファシリテーターとしての参加と手法を学びます。あわせて対象理解と、その状況に沿った関係構築の方法を学びます。 | | | | | 話し合いを促進するための自分の言動、仲間の言動に気づきファシリテーターの技法について考える。 | | | | |
| 8 | 活動体験 | 地域の活動に参加します。これまで進めてきた「異質の交流」、「相手の関心に関心を寄せる」などコミュニケーション力を磨く場として、参加者との交流に臨みます。 | | | | | 事前学習を現場で生かすことができただか、活動体験での素直な自分の感想をメモしておく。(1時間) | | | | |
| 9 | 記録と振り返り | 活動を振り返り記録に起こします。活動計画と実施に関する記録・評価。対人との相互作用における自分の目標と気づきについての2点について分けて記録します。 | | | | | コミュニケーションを磨くための活動参加との認識を持ち、気づきの日常化を目指すこと。(1時間) | | | | |
| 10 | 報告発表 | 活動の振り返り記録を基に発表をします。共通の活動に参加し、共に時間を過ごしたゼミ生の一人ひとりの観点、受け取り方の違いに気づいていきます。 | | | | | 互いの報告を聞き、次回実習における自らの目標を定める。(1時間) | | | | |
| 11 | コミュニケーションワーク 演習 | アウトキャンパスに向け、活動に向けた模擬演習(プレゼンテーション体験)を通して、自己表現と相手に伝わる話し方、行動について学びます。 | | | | | 対象によって異なる関心の方向性とは何かへの気づき、楽しさを誘う表現力の練習。(1時間) | | | | |
| 12 | アウトキャンパスの企画 | アウトキャンパスでの活動計画作成のための話し合いをします。そこでファシリテーターとしての参加と手法を、仲間と自由に伝え合う中で磨き合います。 | | | | | 話し合いを促進するための自分の言動、仲間の言動に気づきファシリテーターの技法について考える。 | | | | |
| 13 | 活動体験 | 地域の活動に参加する。これまで進めてきた「異質の交流」、「相手の関心に関心を寄せる」などコミュニケーション力を磨く場として、参加者との交流を進めます。 | | | | | 対象理解と状況に沿った関係構築の方法を学ぶこと。(1時間) | | | | |
| 14 | 記録と振り返り | 活動を振り返り記録をとります。記録のとり方についてポイントをおさえる。活動計画と実施に関する記録・評価。対人との相互作用における自分の目標と気づきについて分けて記録をします。 | | | | | コミュニケーションを磨くための活動参加との認識を持ち、気づきの日常化を目指すこと。(1時間) | | | | |
| 15 | まとめと自己課題 | ゼミ仲間との対話で進めた企画会議や、アウトキャンパスでの実践姿勢を振り返り、自身の対人関係の在り方に気づき、今後の課題として掲げ発表し合います。 | | | | | 互いの報告を聞き、自身の課題を明確にする。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「知的好奇心」波多野諄余夫 稲垣佳世子著大橋善光編(中央公論新社) ISBN:978-4-12-100318-8 (別途、指示します。) | | | 出席レポート:30% 小テスト:50% 実技:20% S:健康・教育の分野で幅広い対象に向き合い、自身の課題を絞り研究への道筋を立てている。A:実習の中から課題発見をし自分の考えを持って研究に取り組もうとしている。B:実習の中で関心・課題を絞りつつあり指導教員のサポートを期待している。C:実習には向き合うが問題・課題を研究としてとらえることに難しさを訴えている。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 時節に合った書籍を紹介します。 | | | コミュニケーション・スキルを磨きましょう。まずは、自分に気づくことからスタートです。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------|--|-----------------|--|------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパ'リング | SL36070 | 研究室 | S-16 |
| 担当者 | 江原 孝史 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習では、生活習慣、睡眠、食事、健康などの問題についてアプローチしていきます。特に大学生の生活習慣の問題について焦点をあててゆきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 自分で血圧を測り、食事の栄養バランスを評価でき、動脈血酸素飽和度(Spo2)、体脂肪、腹囲を測定し、BMIを計算して肥満度を知り、自分の健康状態を知り、それぞれのデータの持つ意味を説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| いろいろな測定機器を扱い、人間の健康状態のデータを計測します。それぞれのデータの持つ意味を考えながら、データを得るにはさまざまな条件があり環境も影響することを学びながら授業を進めます。ニュースや新聞で健康に関する問題をチェックします。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 年間を通したゼミ活動について皆でディスカッションしながら考えてゆきます。 | | | | 卒業生の発表会の内容を読んでくる(1時間) | | | | |
| 2 | 子供の健康をとりまく問題 | 現在、子供の健康で何が問題になっているかを考えて議論します。 | | | | 新聞やニュースでこどもの健康の問題をチェックする(1時間) | | | | |
| 3 | 成人の健康をとりまく問題 | 現在、成人の健康で何が問題になっているかを考えて議論します。 | | | | 新聞やニュースで成人の健康の問題をチェックする(1時間) | | | | |
| 4 | 高齢者の健康をとりまく問題 | 現在、高齢者の健康で何が問題になっているかを考えて議論します。 | | | | 現在、高齢者の健康で何が問題になっているかを考えて議論します。新聞やニュースで高齢者の健康 | | | | |
| 5 | 女性の健康をとりまく問題 | 現在、女性の健康で何が問題になっているかを考えて議論します。 | | | | 新聞やニュースで女性の健康の問題をチェックする(1時間) | | | | |
| 6 | 男性の健康をとりまく問題 | 現在、男性の健康で何が問題になっているかを考えて議論します。 | | | | 新聞やニュースで男性の健康の問題をチェックする(1時間) | | | | |
| 7 | 健康について | 自覚的に健康であるのはどんな状態であるかについて考えます。 | | | | 健康とはなにかを考えてくる(1時間) | | | | |
| 8 | 健康診断 | 健康診断健康診断ではどんなこと調べるか、健康状態を知るのにはどんな機器があるか、その種類と測定方法について学びます。 | | | | 過去に受けた健康診断について調べる(1時間) | | | | |
| 9 | 健康診断の課題 | 健康診断の課題健康診断の問題点を調べる、過去の健康診断と現在の健康診断の違いについて学びます。 | | | | 健康診断についての資料を捜す。(1時間) | | | | |
| 10 | 課題を探す | こどもから成人、高齢者、女性、男性それぞれの健康に関する話題から課題を見つける作業をします | | | | 資料を調べる。(1時間) | | | | |
| 11 | こどもの健康に関する課題の発表 | こどもの健康に関する課題について調べて発表会を行います。 | | | | こどもの健康に関する資料を調べる。(1時間) | | | | |
| 12 | 成人の健康に関する課題の発表 | 成人の健康に関する課題について調べて発表会を行います。 | | | | 成人の健康に関する資料を調べる。(1時間) | | | | |
| 13 | 高齢者の健康に関する課題の発表 | 高齢者の健康に関する課題について調べて発表会を行います。 | | | | 高齢者の健康に関する資料を調べる。(1時間) | | | | |
| 14 | 女性の健康に関する課題の発表 | 女性の健康に関する課題について調べて発表会を行います。 | | | | 女性の健康に関する資料を調べる。(1時間) | | | | |
| 15 | 男性の健康に関する課題の発表 | 男性の健康に関する課題について調べて発表会を行います。 | | | | 男性の健康に関する資料を調べる(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「健診・健康管理専門職のためのセミナー生活習慣病」田中 逸著(日本医事新報社) ISBN:978-4-7849-5396-7 | | | | レポート:80% 受講態度:20% S:実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が特に優れている。A:実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が優れている。B:実習に誠実に取り組み、実習課題の内容も良である。C:実習課題の内容が可である。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「世界一長寿な都市はどこにある」 | | | | 講義形式の勉強ではないので、みずから積極的に問題や課題に取り組む姿勢が大事です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|---|------|---|----------------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36070 | 研究室 | S-22 |
| 担当者 | 中島 弘毅 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>社会の変化に伴い、スポーツに関係する事象から様々な問題を見ることができます。本ゼミでは、その事象が現代社会とどの様につながっているのかを歴史的視点を含めながら考えて行きます。4年次に卒論を執筆することを念頭に論文を読むことによってその構成について学びます。また、研究目的を明らかにするための研究方法及び分析方法、結果の表し方、考察の仕方について学びます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>「スポーツと社会がどの様に関わっているのか」「何のために、誰のためにスポーツは存在するのか」「どうしてその様な現象が起きているのか」など、スポーツを通して社会を読み解く視点を養い、説明できるようにします。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>主としてテキスト・論文を読みすすめながら授業を展開します。本年度は共通テーマとして、環境が児童および園児に及ぼす影響について考えて行きます。担当者はレジュメを作成し発表を行います。保育園等における運動能力調査なども行います。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p> | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | ゼミ活動の概要とゼミの進め方(抄読と共通テーマ)について説明します。ゼミ内の役割分担について話し合います。 | | | | 自分の関心事項についてまとめます。(1時間) | | | | |
| 2 | 運動遊び支援のポイントについて | ゼミ活動で行われる運動遊び支援のポイントについて理解を深めます。自分の18番を見つけてみましょう。毎時間順番で簡単なゲームをします。 | | | | 運動遊び支援のポイントについてまとめます。(1時間) | | | | |
| 3 | 子どもの体力の現状と原因について | 子どもも体力の現状及び子どもを取り巻く環境の問題等から体力低下の原因について理解します。また、幼児の運動能力測定の仕方について学びます。 | | | | 「子どもの体力向上のための総合的な方策について」を読みます。(1時間) | | | | |
| 4 | 子どもの育成とその環境の諸問題 | 我が国の子どもの育成とその環境の諸問題について理解します。 | | | | 「我が国の子どもを元気にする環境づくりのための国家的戦略の確立に向けて」を読みます。 | | | | |
| 5 | 子どもの育成環境に関わる政策について | 我が国の子どもの育成環境に関わる政策の諸問題について理解を深めます。 | | | | 「我が国の子どもを元気にする環境づくりのための国家的戦略の確立に向けて」を読みます。 | | | | |
| 6 | 子どもを元気にする環境づくりの戦略について | 我が国の子どもを元気にする環境づくりの戦略について理解を深めます。 | | | | 「我が国の子どもを元気にする環境づくりのための国家的戦略の確立に向けて」を読みます。 | | | | |
| 7 | 子どもの育成空間の課題と提言 | 「我が国の子どもの育成環境の改善にむけて - 育成空間の課題と提言 - 」の背景、現状、問題点について理解します。 | | | | 「我が国の子どもの育成環境の改善にむけて - 育成空間の課題と提言 - 」を読みます。(1時間) | | | | |
| 8 | 子どもの育成空間の課題と提言(2) | 「我が国の子どもの育成環境の改善にむけて - 育成空間の課題と提言 - 」の提言について理解します。 | | | | 「我が国の子どもの育成環境の改善にむけて - 育成空間の課題と提言 - 」を読みます。(1時間) | | | | |
| 9 | 生育空間の課題と提言の検証 | 「我が国の子どもの育成環境の改善にむけて - 生育空間の課題と提言 - の事後調査結果より、子どもの力の回復に向けた環境整備について理解します。 | | | | 「我が国の子どもの育成環境の改善にむけて - 生育空間の課題と提言 - の検証」を読みます。 | | | | |
| 10 | 生育空間の課題と提言の検証(2) | 安全・安心と遊びが両立するコミュニティ形成及び子どもに関連する横断的施策及び総合的調整権限を有する組織について理解します。 | | | | 「我が国の子どもの育成環境の改善にむけて - 生育空間の課題と提言 - の検証」を読みます。 | | | | |
| 11 | 子どもの育成方法の課題と提言 | 我が国の子どもの育成環境の改善にむけて育成方法(生活方法・メディア・大人のかかわり等の面)から現状の問題と改善の方向について理解します。 | | | | 我が国の子どもの育成環境の改善にむけて - 育成方法の課題と提言 - (H23)を読みます。1時間 | | | | |
| 12 | 子どもの育成方法の課題と提言(2) | 我が国の子どもの育成環境の改善にむけて育成方法の改善への提言について理解します。 | | | | 我が国の子どもの育成環境の改善にむけて - 育成方法の課題と提言 - (H23)を読みます。1時間 | | | | |
| 13 | 論文の構成と読み方 | 研究論文を読みながら、論文がどのような構成になっているのかについて理解を深めます。また、どの様に論文を探すのかについて学びます。論文の探し方としてCiNiiの使い方等を学びます。 | | | | 自分で論文を探してきます。(1時間) | | | | |
| 14 | 論文の発表 | 自分で探してきた論文を第1グループが発表します。 | | | | 卒論のテーマを絞り込みます。(1時間) | | | | |
| 15 | 論文の発表(2) | 自分で探してきた論文を第2グループが発表します。 | | | | 仮の卒論のテーマを決めます。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| <p>「「アクセプトされる英語医学論文を書こう」」ネル・L・ケネディ著(メジカルビュー社) ISBN:4-89553-969-5 資料を講義内容に応じて、適宜配布します。</p> | | | | <p>受講態度:70% レポート:30% 受講態度は、授業及びゼミ活動への積極的参加、協力的態度、役割分担、発言、発表等について評価します。総合評価で95点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとします。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| <p>「「戦後日本のスポーツ政策その構造と展開」」関春南著(大修館書店) ISBN:4-469-26362-1 適宜、必要な資料を配布します。</p> | | | | <p>問題意識を持ち、積極的に議論をして行きましょう。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------|---|--|------|------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36070 | 研究室 | S-21 |
| 担当者 | 根本 賢一 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本授業では、健康づくりの意義を考えるとともに、自治体や企業内で取り組まれている健康づくりのプログラムやその指導法について考察します。また、運動プログラム作成の際に必要な、持久性体力や筋力などの体力要素に加え、歩行分析機、筋電計を使用した計測と評価手法を学びます。さらに、こうした学習を通して、各自の身体活動に対する認識を深めたり、健康づくりに関する課題を掘り起こしたりしながら、健康づくりの方策も探っていきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 個人、集団を問わず健康づくりに有効なプログラム作成とその指導ができる能力を身につけることを目指します。また、ゼミナールの中のディスカッションを通して議論の仕方を学習すると共に、論理的思考力や批判的思考力、情報リテラシーあるいはプレゼンテーション能力などを向上させる目標となります。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 教員からの一方的な講義ではなく皆さんからの発言や調査内容発表を中心に進めていきます。また、学外での活動は、実際に地域や企業に出向き、そこで展開されているプログラムや指導内容について学んでいきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考えていきます。 | | | | 事前にシラバスを読む。本ゼミ卒業生の発表会の内容を読み、ゼミ活動の構想を立てる(1時間)。 | | | | |
| 2 | 高齢化の到来(1) | 健康寿命の延伸がなぜ必要なのかについて考察・討議します。 | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく(1時間)。 | | | | |
| 3 | 高齢化の到来(2) | 加齢に伴い生理的・機能的変化がどのように起き、またそれに伴う様々な問題について考察・討議します。 | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく(1時間)。 | | | | |
| 4 | 高齢化の到来(3) | 運動・身体活動支援を展開する上での課題について考察・討議します。 | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は課題の視点を整理しておく(1時間)。 | | | | |
| 5 | 高齢化の到来(4) | グループ1が考える運動・身体活動支援プログラムについて考察・討議します(1)。 | | | | 健康づくりに有効な支援プログラムについて調べておく(1時間)。 | | | | |
| 6 | 高齢化の到来(5) | グループ2が考える運動・身体活動支援プログラムについて考察・討議します(2)。 | | | | 健康づくりに有効な支援プログラムについて調べておく(1時間)。 | | | | |
| 7 | 運動・身体活動支援の実際(1) | 自治体(松本市)での展開されている健康づくり教室を見学し、教室の内容と指導法について考察します。(1) | | | | 実際に行われていた指導について、各場面毎に分析しておく(1時間)。 | | | | |
| 8 | 運動・身体活動支援の実際(2) | 自治体(安曇野市)での展開されている健康づくり教室を見学し、教室の内容と指導法について考察します。(2) | | | | 実際に行われていた指導について、各場面毎に分析しておく(1時間)。 | | | | |
| 9 | 運動・身体活動支援の実際(3) | 自治体での取組を見学した上で見えてきた課題や評価できる内容について考察・討議します。 | | | | 課題及び評価出来る事項についてそれぞれ整理し、発表出来るように準備しておく(1時間)。 | | | | |
| 10 | 運動・身体活動支援の実際(4) | 企業内(池の平ホテル)で展開されている健康づくり教室を見学し、教室の内容と指導法について考察します。(1) | | | | 実際に行われていた指導について、各場面毎に分析しておく(1時間)。 | | | | |
| 11 | 運動・身体活動支援の実際(5) | 企業内(aw)で展開されている健康づくり教室を見学し、教室の内容と指導法について考察します。(2) | | | | 実際に行われていた指導について、各場面毎に分析しておく(1時間)。 | | | | |
| 12 | 運動・身体活動支援の実際(6) | 企業での取組を見学した上で見えてきた課題や評価できる内容について考察・討議します。 | | | | 課題及び評価出来る事項についてそれぞれ整理し、発表出来るように準備しておく(1時間)。 | | | | |
| 13 | 運動・身体活動量の測定と評価(1) | 身体活動量の様々な測定法について学び、実習を通して運動指導の場面を想定した指導演習を行います。 | | | | 授業後には指導時に留意することを整理しておく(1時間)。 | | | | |
| 14 | 運動・身体活動量の測定と評価(2) | エネルギー消費量の推定法について学び、実習を通して運動指導の場面を想定した指導演習を行います。 | | | | 授業後には指導時に留意することを整理しておく(1時間)。 | | | | |
| 15 | 講義全体のまとめ | 第1回～14回までの講義の復習を行います。 | | | | これまでに配布した資料及び自分が作成したレポートをよく読み復習しておくこと(1時間)。 | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 各回こちらでポイントを記したプリントを用意します。 | | | 課題：50% レポート：50% S: 高度な測定技術及び指導のための理論を習得するための課題等に極めて積極的に取り組み、高度な成果を示している。A: 高度な測定技術及び指導のための理論を習得するための課題等に積極的に取り組み、良好な成果を示している。B: 基本的な測定技術及び指導のための理論を習得するための課題等に積極的に取り組み、2/3程度の成果を示している。C: 基本的な測定技術及び指導のための理論を習得するための課題等に取り組み、1/2程度の成果を示している。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「身体活動科学における研究方法」(NAP) ISBN: 4-931411-39-8 | | | 学外での健康づくり現場に出かけることも多いため、本講義以外の時間も活動として入ってきます。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------|---|------|---|----------------|--|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36070 | 研究室 | S-13 |
| 担当者 | 岩間 英明 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | ワイスア- | 火曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習では体育授業や運動部活動などの学校体育、スポーツクラブやスポーツ少年団などの地域スポーツといった主に子どもたちを取り巻くスポーツ環境についての諸問題を中心に考察します。また、それらに付帯するスポーツの指導方法に関する課題についても、運動構造分析を手がかりに探究していきます。さらに、こうした学習を通して、各自のスポーツ活動に対する認識を深めたり、問題意識を掘り起こしたりしながら、スポーツ指導に関する論理形成を図ることを目的としています。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツ指導に関する知見に基づいた課題発見能力を身につけ、様々な観察法や分析法を理解し、課題解決能力の向上を目指します。また、ゼミナールの中のディスカッションを通して議論の仕方を学習すると共に、論理的思考力や批判的思考力、情報リテラシーあるいはプレゼンテーション能力などを向上させることが目標となります。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 様々なスポーツ活動の実践事例や先行研究などの資料を利用して授業を進めていきます。また、ディスカッションや共同研究などの時間も多く、主体的な学習姿勢を望みます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考えていきます。 | | | | 事前にシラバスを読んでくる。本ゼミ卒業論文を読み、ゼミ活動の構想を立てる。(1時間) | | | | |
| 2 | 体育授業を取り巻く諸問題(1) | 現在、学校における体育授業においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。(主として体育教師に関わる問題) | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 3 | 体育授業を取り巻く諸問題(2) | 現在、学校における体育授業においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。(主として授業構想に関わる問題) | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 4 | 体育授業を取り巻く諸問題(3) | 現在、学校における体育授業においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。(主として評価に関わる問題) | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 5 | 体育授業を取り巻く諸問題(4) | 現在、学校における体育授業においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。(主として指導方法に関わる問題) | | | | テーマについて事前学習を進める。体育授業に関する課題をレポートにまとめる。(1時間) | | | | |
| 6 | 運動部活動を取り巻く諸問題(1) | 現在、運動部活動においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。(主として顧問・指導者に関わる問題) | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 7 | 運動部活動を取り巻く諸問題(2) | 現在、運動部活動においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。(主として練習の内容や方法、大会運営に関わる問題) | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 8 | 運動部活動を取り巻く諸問題(3) | 現在、運動部活動においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。(主として練習環境や社会との関連に関わる問題) | | | | テーマについて事前学習を進める。運動部活動に関する課題をレポートにまとめる。(1時間) | | | | |
| 9 | 地域スポーツを取り巻く諸問題(1) | 現在、スポーツクラブ・スポーツ少年団などの地域スポーツにおいてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。(主として指導者に関わる問題) | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 10 | 地域スポーツを取り巻く諸問題(2) | 現在、スポーツクラブ・スポーツ少年団などの地域スポーツにおいてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。(主として指導方法や練習内容、大会運営に関わる問題) | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 11 | 地域スポーツを取り巻く諸問題(3) | 現在、スポーツクラブ・スポーツ少年団などの地域スポーツにおいてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。(主として練習環境や社会との関連に関わる問題) | | | | テーマについて事前学習を進める。地域スポーツに関する課題をレポートにまとめる。(1時間) | | | | |
| 12 | スポーツをめぐる様々な問題 | 企業スポーツやプロスポーツなどを含めたスポーツ全般に関する問題点を考察・討議します。 | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 13 | 先行研究や文献の利用(1) | 自己の課題に関する先行研究や文献の探し方を理解して、実際に読み、まとめていきます。 | | | | 事前に自分が興味を持った課題を決める。先行研究や文献をよく読み、まとめてみる。(1時間) | | | | |
| 14 | 先行研究や文献の利用(2) | 自己の課題に関する先行研究や文献について、まとめてみます。 | | | | 先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間) | | | | |
| 15 | 課題発表会に向けての準備 | 自己の課題について、先行研究や文献で補強しながら、パワーポイントを使った発表ができるように準備を始めます。また、夏休み中の活動計画も併せて考えていきます。 | | | | 先行研究や文献を自己の課題に利用できるようにしておく。発表会の準備をする。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 講義内容に応じて資料をその都度配布します。 | | | | 課題:50% 受講態度:50% 受講態度はディスカッションなどの学習状況で、それらを総合的に評価します。課題の内容にはその過程も含み、受講態度には学内での活動はもちろん、学外での実習等の活動状況も含み評価対象とします。Sは上記の全ての内容が優れているもの。Aは良好だったもの。Bは概ね良好だったもの。Cは全ての内容に取り組みただけのものとする。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| テーマに応じた参考図書や資料を指示します。 | | | | 一人一人が自分の意見を述べ合ったり、実習をしたりしながら、授業を展開していきますので、積極的に授業に参加する姿勢が重要です。また、自ら問題意識を持ち、新聞・雑誌等にも目を向け、主体的に学習を進めることが大切です | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------|--|------|------|--|----|------------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパ`リング | SL36070 | 研究室 | S-15 |
| 担当者 | 山本 薫 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オイスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>最大酸素摂取量の測定等、実験の手法を学びます。コンピュータの活用能力を身につけます(卒論作成や就職のために必要です)。文献、参考資料(書籍、新聞、雑誌)を探して読み込み、その内容を簡潔にまとめ、報告します。資料は参考文献として記録を残します(書籍・論文名、著者、雑誌発行号、引用(参考)ページ等)。学外活動にて健康運動指導について学びます。これらの活動を通して卒論作成、健康運動の指導者を目指すための準備をすすめていきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>スポーツ健康学学生としての運動生理学を基本にした専門知識と教養を身につけ、各方面での支援・指導者人材として成長することで。卒業研究に活用する実験実習を身につけます。また社会貢献を通じて、社会の一員としての自覚を養います。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>毎回担当を決めて順番に1分間スピーチ、まとめレポート報告、および各種測定実習を重ねていきます。予定が決まれば学外健康運動指導にも出かけます(要事前準備)。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | ゼミでの活動内容、スケジュール、卒業論文作成に向けての心構え、実験室活用、健康運動指導活動等について説明します。 | | | | | ゼミ活動における抱負を考えておく(1時間) | | | |
| 2 | 実験・測定・運動指導演習 | 身体組成・血圧・心拍数の測定、運動指導実習、1分間スピーチ、3,4年合同ミーティングを行います。 | | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | |
| 3 | 実験・測定・運動指導演習 | 酸素摂取量・心拍数・血圧の測定、運動指導実習、1分間スピーチを行います。 | | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | |
| 4 | 実験・測定・運動指導演習 | 最大酸素摂取量・心拍数・血圧の測定、運動指導実習、1分間スピーチを行います。 | | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | |
| 5 | 実験・測定・運動指導演習 | 最大酸素摂取量・心拍数・血圧の測定、運動指導実習、1分間スピーチを行います。 | | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | |
| 6 | 実験・測定・運動指導演習 | 最大酸素摂取量・心拍数・血圧の測定、乳酸濃度の測定と解析、運動指導実習、1分間スピーチを行います。 | | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | |
| 7 | 実験・測定・運動指導演習 | VT時酸素摂取量(その他数値)の測定・解析、運動指導実習、1分間スピーチを行います。 | | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | |
| 8 | 実験・測定・運動指導演習 | VT時酸素摂取量(その他数値)の測定・解析、運動指導実習、1分間スピーチを行います。 | | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | |
| 9 | 実験・測定・運動指導演習 | 等張性筋力(マシン使用)の測定と運動指導実習、1分間スピーチを行います。 | | | | | 実施内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | |
| 10 | 実験・測定・運動指導演習 | 等張性筋力(マシン使用)の測定と運動指導実習、1分間スピーチを行います。 | | | | | 実施内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | |
| 11 | 実験・測定・運動指導演習 | 等張性筋力(マシン使用)の測定と運動指導実習、1分間スピーチを行います。 | | | | | 実施内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | |
| 12 | 課題文献学習 | 課題文献の要約と発表およびディスカッションを行います。 | | | | | 事前に担当分野の要約(1時間) | | | |
| 13 | 課題文献学習 | 課題文献の要約と発表およびディスカッションを行います。 | | | | | 事前に担当分野の要約(1時間) | | | |
| 14 | 課題文献学習 | 課題文献の要約と発表およびディスカッションを行います。 | | | | | 事前に担当分野の要約(1時間) | | | |
| 15 | 前期活動のまとめと反省 | 前期演習活動を振り返り、興味が湧いた内容を深く掘り下げて調べます。 | | | | | 前期を振り返り参考文献を読んで紹介の準備をする(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「健康運動指導士養成講座テキスト」(別途、指示します。) | | | | | <p>受講態度：70% レポート：30%</p> <p>総合評価(S:全ての実験実習に積極的に参加して質問をし、課題レポートは指定された課題について適切で十分な考察が来ている。A:14回以上出席し、実験実習に積極的に参加して質問をし、課題レポートは指定課題について適切な考察が来ている。B:13回以上出席し、実験実習に積極的に参加して質問をし、課題レポートは指定課題について考察が来ている。C:11回以上出席し、実験実習に積極的に参加して課題レポートは指定課題に回答している。</p> | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「改訂版スポーツ測定評価学-からだの形と働きを測る」角田直也、須藤明治著(文化書房博文社) ISBN:978-4830112201 | | | | | 実験実習をする機会が多々あるので、いつも運動のできる準備(服装・室内靴)をしておいてください。常に体調を整えておいてください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-----------------|--|------|------|---|----|--|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36070 | 研究室 | S-18 |
| 担当者 | 新井 喜代加 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 究極的には体育およびスポーツの普及・振興を目指しつつ、具体的には体育およびスポーツの普及・振興を阻害する問題・課題を理解し、その解決策を探るための基礎理論や分析・研究方法を学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツに関わる法、政策、マネジメント等に関する諸問題について理解を深め、具体的な研究テーマと分析・研究方法の設定につなげることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| ゼミ形式で実施します。新聞をテキストにしてスポーツ問題を理解してから、スポーツと法、行政、政策、マネジメント或いはジェンダー等に関する文献の講読を通して基礎理論を学び、さらに学術論文の講読を通して分析・研究方法を理解します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業目標、授業計画、授業の進め方、評価方法、詳細な留意事項等について解説します | | | | | シラバスを読む/事後:授業のルールや内容を確認する(1時間) | | | |
| 2 | スポーツに関する諸問題の報告1 | 討議を通じて、スポーツに関する諸問題について検討します | | | | | スポーツ問題を扱った新聞記事を探す/事後:記事のスポーツ問題を理解する(1時間) | | | |
| 3 | スポーツに関する諸問題の報告2 | 討議を通じて、スポーツに関する諸問題について検討します | | | | | スポーツ問題を扱った新聞記事を探す/事後:記事のスポーツ問題を理解する(1時間) | | | |
| 4 | スポーツに関する諸問題の報告3 | 討議を通じて、スポーツに関する諸問題について検討します | | | | | スポーツ問題を扱った新聞記事を探す/事後:記事のスポーツ問題を理解する(1時間) | | | |
| 5 | スポーツに関する諸問題の報告4 | 討議を通じて、スポーツに関する諸問題について検討します | | | | | スポーツ問題を扱った新聞記事を探す/事後:記事のスポーツ問題を理解する(1時間) | | | |
| 6 | スポーツに関する諸問題の報告5 | 討議を通じて、スポーツに関する諸問題について検討します | | | | | スポーツ問題を扱った新聞記事を探す/事後:記事のスポーツ問題を理解する(1時間) | | | |
| 7 | スポーツに関する文献の講読1 | スポーツと法、行政、政策或はマネジメント等に関する文献の講読を通じて、基礎理論を学びます | | | | | 指定された文献を読み込む/事後:文献の内容を復習する(1時間) | | | |
| 8 | スポーツに関する文献の講読2 | スポーツと法、行政、政策或はマネジメント等に関する文献の講読を通じて、基礎理論を学びます | | | | | 指定された文献を読み込む/事後:文献の内容を復習する(1時間) | | | |
| 9 | スポーツに関する文献の講読3 | スポーツと法、行政、政策或はマネジメント等に関する文献の講読を通じて、基礎理論を学びます | | | | | 指定された文献を読み込む/事後:文献の内容を復習する(1時間) | | | |
| 10 | スポーツに関する文献の講読4 | スポーツと法、行政、政策或はマネジメント等に関する文献の講読を通じて、基礎理論を学びます | | | | | 指定された文献を読み込む/事後:文献の内容を復習する(1時間) | | | |
| 11 | スポーツに関する文献の講読5 | スポーツと法、行政、政策或はマネジメント等に関する文献の講読を通じて、基礎理論を学びます | | | | | 指定された文献を読み込む/事後:文献の内容を復習する(1時間) | | | |
| 12 | スポーツに関する文献の講読6 | スポーツと法、行政、政策或はマネジメント等に関する文献の講読を通じて、基礎理論を学びます | | | | | 指定された文献を読み込む/事後:文献の内容を復習する(1時間) | | | |
| 13 | スポーツに関する文献の講読7 | スポーツと法、行政、政策或はマネジメント等に関する文献の講読を通じて、基礎理論を学びます | | | | | 指定された文献を読み込む/事後:文献の内容を復習する(1時間) | | | |
| 14 | スポーツに関する文献の講読8 | スポーツと法、行政、政策或はマネジメント等に関する文献の講読を通じて、基礎理論を学びます | | | | | 指定された文献を読み込む/事後:文献の内容を復習する(1時間) | | | |
| 15 | スポーツに関する文献の講読9 | スポーツと法、行政、政策或はマネジメント等に関する文献の講読を通じて、基礎理論を学びます | | | | | 指定された文献を読み込む/事後:文献の内容を復習する(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| それぞれの研究に適した文献や資料を適宜紹介します。 | | | | | レポート:50% 課題:50% 評価基準は次の通りです。S:授業内容を十分理解し、批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、独創性の高い考えを文章で表現できる/A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、自分の考えを文章で表現できる/B:授業内容を大体理解し、積極的に課題に取り組み、自分の考えを他者に伝えることができる/C:授業内容を大体理解し、与えられた課題に取り組み、自分の考えを他者に伝えることができる | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| それぞれの研究に適した文献や資料を適宜紹介しますが、「スポーツと法」、「スポーツ行政・政策論」、「スポーツマネジメント論」、「地域社会とスポーツ」等の授業で使用したテキスト及び参考書も活用して下さい。 | | | | | お互いの研究に興味・関心をもって(面白い点を見つけて)、活発な議論が展開されるよう学生同士で工夫してください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------|------------------------------|-----------------|--|------|---|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36070 | 研究室 | S-24 |
| 担当者 | 河野 史倫 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 地球上で生活する我々は、重力に逆らって姿勢を保持しなければいけません。そのため「抗重力筋」と呼ばれる種類の骨格筋は、体重を支えるために持続的に活動することを強いられます。その結果「抗重力筋」はエネルギー代謝や筋持久力に優れた特性を獲得しますが、重力のない宇宙空間へ行くと「抗重力筋」の機能が著しく低下します。『筋肉を抗重力筋仕様にするメカニズム』の解明を目指すことを柱として、各学生の卒業研究テーマを決定するための演習を行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 実験動物の飼育方法やサンプルの取り扱い、組織染色、タンパク質および遺伝子発現解析の方法を習得することが基本的な目標です。それらの解析データから、実験結果の妥当性や結果が示す事象を考察できるようになることが最終的な目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 実際に実験を行い、その中で知識や実験方法、考え方を学んでもらいます。基本的には、個別に研究指導して進めていきますが、定期的に研究計画や進捗を発表・討論する機会を設けます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 研究全体の流れと進め方について説明します。 | | | | 研究の背景について復習し、与えられた文献を次回までに読んでおくこと。(1時間) | | | | |
| 2 | 研究概要の紹介 | 文献を教材にして研究の経緯や背景を学習します。 | | | | 与えられた文献を次回までに読んでおくこと。(1時間) | | | | |
| 3 | 研究概要の紹介 | 文献を教材にして研究の経緯や背景を学習します。 | | | | 与えられた文献を次回までに読んでおくこと。(1時間) | | | | |
| 4 | 研究概要の紹介 | 文献を教材にして研究の経緯や背景を学習します。 | | | | 与えられた文献を次回までに読んでおくこと。(1時間) | | | | |
| 5 | 動物実験手法の習得 | ラット、マウスの飼育方法や実験モデルについて練習します。 | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(1時間) | | | | |
| 6 | 動物実験手法の習得 | ラット、マウスの飼育方法や実験モデルについて練習します。 | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(1時間) | | | | |
| 7 | 動物実験手法の習得 | ラット、マウスの飼育方法や実験モデルについて練習します。 | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(1時間) | | | | |
| 8 | 各種解析方法の習得 | 組織化学解析方法の練習を行います。 | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(1時間) | | | | |
| 9 | 各種解析方法の習得 | 組織化学解析方法の練習を行います。 | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(1時間) | | | | |
| 10 | 各種解析方法の習得 | 組織化学解析方法の練習を行います。 | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(1時間) | | | | |
| 11 | 各種解析方法の習得 | 遺伝子解析方法の練習を行います。 | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(1時間) | | | | |
| 12 | 各種解析方法の習得 | 遺伝子解析方法の練習を行います。 | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(1時間) | | | | |
| 13 | 各種解析方法の習得 | 遺伝子解析方法の練習を行います。 | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(1時間) | | | | |
| 14 | 各種解析方法の習得 | タンパク質解析方法の練習を行います。 | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(1時間) | | | | |
| 15 | 各種解析方法の習得 | タンパク質解析方法の練習を行います。 | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 必要な資料はプリントなどで配布します。 | | | | 課題:100% S:Aの条件に加え、データの取得が既に開始できている。 A:Bの条件に加え、実験技術を習得している。 B:Cの条件に加え、国際誌の論文を読むことができる。 C:割り当てられた実験に全て参加し、研究の趣旨を理解できている。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 必要な資料はプリントなどで配布します。 | | | | エビジェネティクスという考え方をキーワードに、骨格筋の性質を決めるメカニズム、抗重力筋の特性を獲得するメカニズムに迫っていきます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------|---|-----------------|--|------|---|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL36070 | 研究室 | S-20 |
| 担当者 | 齊藤 茂 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 水曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 次年度行う卒業研究を視野に入れ、心理学に関する文献購読や心理テストを通して、様々な視点やレベル(深さ)から人の心を理解することを目指します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 人の心について様々な視点・レベルから理解することを目指します。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 指定された課題文献についてディスカッションを行います。また、実際に心理テストを体験してもらいます。さらに、実際のスポーツの指導場面等のフィールドに出てデータ収集を行い、研究に必要な実践的な知識・技術を習得するための実習を行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 講義の進め方や課題文献の紹介等を行います。 | | | | 事前にシラバスを読み、本講義の目的について理解しておく。(1時間) | | | | |
| 2 | 人の心とは | 課題文献 に関して担当者A、及びBの取り上げたテーマについて、ディスカッションを行います。 | | | | 課題文献 の指定箇所を熟読し、ディスカッションに参加できるように準備を行う。(1時間) | | | | |
| 3 | 人の心とは | 課題文献 に関して担当者C、及びDの取り上げたテーマについて、ディスカッションを行います。 | | | | 課題文献 の指定箇所を熟読し、ディスカッションに参加できるように準備を行う。(1時間) | | | | |
| 4 | 人の心とは | 課題文献 に関して担当者E、及びFの取り上げたテーマについて、ディスカッションを行います。 | | | | 課題文献 の指定箇所を熟読し、ディスカッションに参加できるように準備を行う。(1時間) | | | | |
| 5 | 人の心とは | 課題文献 に関して担当者G、及びHの取り上げたテーマについて、ディスカッションを行います。 | | | | 課題文献 の指定箇所を熟読し、ディスカッションに参加できるように準備を行う。(1時間) | | | | |
| 6 | 人の心とは | 課題文献 に関してフリーディスカッションを行います。 | | | | 課題文献 の指定箇所を熟読し、ディスカッションに参加できるように準備を行う。(1時間) | | | | |
| 7 | 人の心とは | 引き続き、課題文献 に関してフリーディスカッションを行います。 | | | | 課題文献の指定箇所を熟読し、ディスカッションに参加できるように準備を行う。(1時間) | | | | |
| 8 | 人の心とは | 引き続き、課題文献に関してフリーディスカッションを行い、人の心をどうとらえれば良いのか、概念的なまとめを行います。 | | | | 課題文献 の指定箇所を熟読し、ディスカッションに参加できるように準備を行う。(1時間) | | | | |
| 9 | 心理テスト | 心理テスト(主要5因子性格検査)について、体験を通して学びます。 | | | | 心理テストの自己分析レポートを作成する。(1時間) | | | | |
| 10 | 心理テスト | 心理テスト(YG)について、体験を通して学びます。 | | | | 心理テストの自己分析レポートを作成する。(1時間) | | | | |
| 11 | 心理テスト | 心理テスト(MMPI)について、体験を通して学びます。 | | | | 心理テストの自己分析レポートを作成する。(1時間) | | | | |
| 12 | 心理テスト | 心理テスト(ロールシャッハテスト)について、相互体験を通して学びます。 | | | | 心理テストの自己分析レポートを作成する。(1時間) | | | | |
| 13 | 心理テスト | 心理テスト(バウムテスト)について、体験を通して学びます。 | | | | 心理テストの自己分析レポートを作成する。(1時間) | | | | |
| 14 | 心理テスト | 心理テスト(風景構成法)について、体験を通して学びます。 | | | | 心理テストの自己分析レポートを作成する。(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 卒業研究執筆を念頭に置き、夏季休業中の課題、及び後期のゼミの進め方について解説をし、意見交換を行います。 | | | | 卒業研究のテーマにつなげるため、問題意識を明確にしていく。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 受講者の希望に合わせて指定します。また、プリント資料を適宜配布します。 | | | | 課題:40% S:講義内のディスカッションを常にリードし、なおかつ与えられた課題にも積極的かつ探究的に取り組んでいる。A:講義内のディスカッションにおいて重要な役割を果たし、なおかつ与えられた課題にも積極的に取り組んでいる。B:講義内のディスカッションに対して積極的に参加し、与えられた課題すべてに誠実に取り組んでいる。C:講義内のディスカッションに対して参加しようとし、与えられた課題に取り組んでいる。 なお、受講態度はディスカッションや課題等に取組む姿勢により評価します。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| プリント資料を適宜配布します。 | | | | ・発表責任者は、割り当てられた発表に責任を持ってください。 ・積極的な姿勢を持って、ゼミに参加してください。 ・実際のフィールドに出るため、正課の授業時間外に行うこともあります。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------|---|------|------|--|----|---|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36070 | 研究室 | S-17 |
| 担当者 | 田邊 愛子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 木曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習では、1・2年次に学んだ健康づくりを科学的根拠に基づき、知識を広げていくことを目的とします。健康づくりへの理解を深め、4年時に取り組む卒業論文へのテーマや、研究目的が定まることを到達目標とします。実際に健康教室の企画・運営と学び、総合理解を深めることを目的としています。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 健康づくりを幅広く捉え、健康づくりの施策や健康教室の実際を理解し、様々なライフステージにおける運動処方を実習を通して学び、実際に運動処方できるようになることを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 有酸素運動および筋力トレーニングの知識を再確認し、健康教室などの現場での実習も行います。医学、体力科学、栄養学、ジェンダー問題を含む社会的側面などすべての面から、健全・快適に競技を続けるために必要な事を学んでいきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の狙いと2年間を見通したゼミナール活動について説明します | | | | | シラバスを熟読すること(1時間) | | | |
| 2 | スポーツにおける性差を考える | アライメントの違いを性差から考え、機能解剖学からそれぞれの特徴を理解できるようにします | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める(1時間) | | | |
| 3 | スポーツにおける性差を考える | 体力とスポーツ障害および性差が起因する生活習慣病について考えます | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める(1時間) | | | |
| 4 | スポーツにおける性差を考える | 循環器応答について性差から考えます | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める(1時間) | | | |
| 5 | 健康教室を取り巻く環境 | 中高齢者を対象とした様々な運動教室の取り組みの実態を調査し、問題点を考察・討議します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | |
| 6 | 健康教室を取り巻く環境 | 中高齢者を対象とした様々な運動教室の取り組みの実態を調査し、問題点を考察・討議します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | |
| 7 | 健康教室を取り巻く環境 | 後期高齢者を対象とした様々な運動教室の取り組みの実態を調査し、問題点を考察・討議します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | |
| 8 | 健康教室を取り巻く環境 | 成長期の児童を対象とした様々な運動教室の取り組みの実態を調査し、問題点を考察・討議します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | |
| 9 | アスリートと競技生活 | アスリートと競技生活についてトレーニング方法論についての実際を学びます | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | |
| 10 | アスリートと競技生活 | アスリートと競技生活について栄養面からその実態と効果的な摂取理論を理解できるようにします | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | |
| 11 | データ解析と評価 | 最大酸素摂取量からAT値を算出し、LT値を求める手技と得られた値から比較検討し評価します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | |
| 12 | データ解析と評価 | 最大酸素摂取量からAT値を算出し、運動プログラムを作成します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | |
| 13 | データ解析と評価 | 等尺性筋力および等速性筋力を測定する技能を取得し、相互に測定しあい評価できるようにします | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | |
| 14 | データ解析と評価 | 等尺性筋力および等速性筋力を測定する技能を取得し、相互に測定しあい評価できるようにします | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | |
| 15 | データ解析と評価 | 測定結果をもとに、データのフィードバックを考察し相互に検討し、得られた値から目的別に運動プログラムを作成します | | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 講義内容に応じて資料をその都度配布します。 | | | | | 受講態度：50% 課題：50% 実習に向けた指導案作成および実習での取り組み姿勢を受講態度として評価します。各課題については授業の中で説明します。95%以上のより高いレベルに達すればS、80%以上の理解度をA、70%以上をB、60%以上をCとします。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| テキストに準ずる | | | | | 加齢による体力の変化、男性・女性が有する特有の悩みなどを具体的に学びます。興味を持って学ぶことを目的とします。無断欠席や遅刻を厳禁とします。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|-------------|---|--|------|------|----------------|-----------------------------------|---------|-----|------|--|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36070 | 研究室 | S-19 | |
| 担当者 | 中島 節子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 火曜日3限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 地域や学校などで健康増進が取り組まれています。その現状を知り、課題解決に向けてどのような方策が行われているのか理解を深めます。また、実際に保健・医療・福祉が人々にどのようにかかわっているのか、どのような職種の人がいるのかを知ることで、将来の健康づくりのための地域や学校現場、施設などで連携するのに役立ちます。健康に関する現状を知り、実際に人々とかかわりながら実践につなげていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 健康づくりのための課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を理解することができる。 ゼミナールの中でのディスカッションを通して議論の仕方や論理的思考力や批判的思考力を身につけることができる。 プレゼンテーション能力を身につけることができる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 健康に関する現代的な課題を理解し、実際に医療・福祉施設や学校等の現場を訪問することで見聞を広め、指導方法などを学びます。またディスカッションやプレゼンテーションを取り入れながら個々の能力を高めていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方について説明します。今後の活動について検討します。自己紹介を行います。 | | | | | 自己紹介ができるように考えてくる。(1時間) | | | | |
| 2 | 現代の健康課題 | 「自分の考える健康」について発表し、健康の保持増進に向けて必要なことを討議します。 | | | | | 健康課題について様々な資料を集め考える。(1時間) | | | | |
| 3 | 健康の保持増進 | 「自分の考える健康」について健康の保持増進に向けて必要なことを指導案を作成して実践する。 | | | | | 指導案を作成し、必要な資料を作成する。(1時間) | | | | |
| 4 | 健康の保持増進 | 「自分の考える健康」について健康の保持増進に向けて必要なことを指導案を作成して実践する。 | | | | | 指導案を作成し、必要な資料を作成する。(1時間) | | | | |
| 5 | 健康の保持増進 | 「自分の考える健康」について健康の保持増進に向けて必要なことを指導案を作成して実践する。 | | | | | 指導案を作成し、必要な資料を作成する。(1時間) | | | | |
| 6 | 健康の保持増進 | 「自分の考える健康」について健康の保持増進に向けて必要なことを指導案を作成して実践する。 | | | | | 指導案を作成し、必要な資料を作成する。(1時間) | | | | |
| 7 | 研究とは 量的研究 | 量的データの収集方法を学びます。量的データの収集方法として、体力測定の方法、健康チェックの方法などを実際に行い、データの整理の方法を学びます。 | | | | | 体力測定の方法、健康チェックの方法について学習してくる。(1時間) | | | | |
| 8 | 量的研究 質問紙法 | 質問紙の作成方法と分析方法について学びます。 | | | | | 収集したデータを整理し、分析する。(1時間) | | | | |
| 9 | 質的研究 | 質的研究とはについて概説します。質的研究のデータ収集方法について学び、実際にインタビューなどを行います。 | | | | | 収集したデータを整理し、分析する。(1時間) | | | | |
| 10 | 質的研究データの分析 | インタビューで収集したデータを整理し分析方法を学びます。 | | | | | 分析結果を整理する。(1時間) | | | | |
| 11 | 文献検索 | 文献検索の方法を学び、共通の文献を読み意見交換しながら文献の読み方を学びます。 | | | | | 関心ある文献を探し、抄読会の準備をする。(1時間) | | | | |
| 12 | 文献の抄読会 | 各自が抽出した論文を発表し、意見交換をします。研究方法と論文のまとめ方を学習します。 | | | | | 抄読会の準備をする。他の人の論文を読み考察する。(1時間) | | | | |
| 13 | 文献の抄読会 | 各自が抽出した論文を発表し、意見交換をします。研究方法と論文のまとめ方を学習します。 | | | | | 抄読会の準備をする。他の人の論文を読み考察する。(1時間) | | | | |
| 14 | 自己の課題を検討 | 各自が先行研究などを調べた結果、自分は何を明確にしたいのかを発表し、お互いに意見交換を行います。 | | | | | 自己の課題について発表できるように資料を作成する。(1時間) | | | | |
| 15 | 課題解決の方法とまとめ | 課題を解決するためにどのような方法が良いのかを検討、修正し、その方法を学びます。全体のまとめをします。 | | | | | 方法についての資料を集め学習する。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 必要に応じて資料等を配布します。 | | | 課題：50% レポート：50% レポートは、作成と発表を含めて評価します。S：授業内容を高度に理解し、探究心をもち自発的に行動できる。A：授業内容を理解し、自発的に行動できる。B：授業内容のおおよそを理解し、行動できる。C：授業内容の60%は理解でき、人に促されて行動する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 必要に応じて紹介します。 | | | 新聞やニュースなどで取り上げられている健康問題や保健・医療・福祉の現状に関心を持ってください。実習では、事前準備を行い、積極的にかかわり、失礼のないように接遇を身につけて臨んでください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|----------------|--|---|------|------|----------------|--|---------|-----|--|--|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパ'リング | SL36070 | 研究室 | | |
| 担当者 | 小松 茂美 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本演習では、スポーツを取り巻く状況について考察しながら、スポーツの指導に関する方法や課題についても、探究します。そして、こうした学習を通して、スポーツ活動に対する課題や問題意識を掘り起こし、認識を深めながら、スポーツの指導に関する知識や技能を高め、スポーツに関わることの意識向上を図ります。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| スポーツ活動の現場に関する課題を見出し、その課題解決に向けた対応力の向上を目指します。また、課題の洗い出しや課題解決に向けたディスカッションをとおして、建設的な議論の在り方を学ぶとともに、プレゼンテーション能力などを向上させることを目標とします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 様々なスポーツ活動の実践事例や先行研究などの資料を利用して授業を進めます。また、ディスカッションや共同で取り組む時間も多く、主体的に取り組む姿勢が不可欠です。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業のねらいと2年間を見通した活動について考えます。 | | | | | 事前にシラバスを読み、ゼミ活動の構想を立てる。(1時間) | | | | |
| 2 | スポーツを取りまく諸課題 | スポーツ全般に関する問題点を考察・討議します。 | | | | | テーマについて事前学習をしておく。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 3 | 地域スポーツを取りまく諸課題 | 地域におけるスポーツ活動の指導者に関する課題について、考察・討議します。 | | | | | テーマについて事前学習をしておく。授業後は課題を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 4 | 地域スポーツを取りまく諸課題 | 地域におけるスポーツクラブ等の練習内容や指導方法に関する課題について、考察・討議します。 | | | | | テーマについて事前学習をしておく。授業後は課題を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 5 | 地域スポーツを取りまく諸課題 | 地域におけるスポーツクラブ等の活動環境や大会の在り方に関する課題について、考察・討議します。 | | | | | テーマについて事前学習をしておく。授業後は課題を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 6 | 体育の授業に関する諸課題 | 体育の授業を担っている体育科教員に関する課題について、考察・討議します。 | | | | | テーマについて事前学習をしておく。授業後は課題を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 7 | 体育の授業に関する諸課題 | 体育の授業内容やその全体構成に関する課題について、考察・討議します。 | | | | | テーマについて事前学習をしておく。授業後は課題を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 8 | 体育の授業に関する諸課題 | 体育の授業がその後のスポーツライフに与える影響について、考察・討議します。 | | | | | テーマについて事前学習をしておく。授業後は課題を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 9 | 運動部活動を取りまく諸課題 | 運動部活動における顧問や指導者に関する課題について、考察・討議します。 | | | | | テーマについて事前学習をしておく。授業後は課題を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 10 | 運動部活動を取りまく諸課題 | 運動部活動の練習内容やその年間の内容構成に関する課題について、考察・討議します。 | | | | | テーマについて事前学習をしておく。授業後は課題を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 11 | 運動部活動を取りまく諸課題 | 運動部活動の練習環境や大会の在り方に関する課題について、考察・討議します。 | | | | | テーマについて事前学習をしておく。授業後は課題を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 12 | 運動部活動を取りまく諸課題 | 運動部活動と競技スポーツのつながりに関する課題について、考察・討議します。 | | | | | テーマについて事前学習をしておく。授業後は課題を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 13 | 課題学習 | 自己課題に関する先行研究や文献の探し、実際に読み、考察を進めます。 | | | | | 事前に自分が興味を持った課題を決める。先行研究や文献をよく読み、まとめてみる。(1時間) | | | | |
| 14 | 課題学習 | 先行研究や文献を参考に進めた考察をまとめます。 | | | | | 先行研究や文献をよく読み、まとめておく。(1時間) | | | | |
| 15 | 課題学習 | 自己の課題について、パワーポイントを使用した発表ができるよう準備を始めます。また、今後の活動計画も併せて考えていきます。 | | | | | 先行研究や文献を自己の課題に利用できるようにしておく。発表会の準備をする。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「講義内容に応じて、資料を配布します。」 | | | 課題：50% 受講態度：50% 課題の内容は、課題の洗い出しやまとめに至る過程も含み、受講態度は、ディスカッションなどの学習状況及び実習等の活動状況も含み評価します。Sは上記の全ての内容が優れているもの。Aは良好だったもの。Bは概ね良好だったもの。Cは全ての内容に取り組みめたものとしします。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「課題に応じた参考書や資料に関するアドバイスをします。」 | | | 自分の意見を述べ合ったり、実習をしたりしながら、授業を展開していきますので、自ら問題意識を持ち、主体的・積極的に授業に参加し、学習を進める姿勢が重要です。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|------------|-------------------------------------|-----------------|---|------|-------------------------------|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパ'リング | SL36070 | 研究室 | N-05 |
| 担当者 | 丸山 文男 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オイスアワ | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 1, 2年次に学んだ基礎的な知識をベースに, スポーツと力学, スポーツと気象について, 教科書を輪読することで理解を深めます. 関心を持ったテーマをまとめ, 4年次の「卒業論文」作成に向けての準備を進めます. | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツと力学, スポーツと気象についての理解を深め, 関心のあるテーマを見つけることです. | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本演習では, スポーツと力学, スポーツと気象についての教科書の輪読を行い理解を深めます. その中から関心のあるテーマを見つけます. | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本演習の年間計画, 内容を理解します. | | | | 授業プリントを復習し, 課題を行います。(4時間) | | | | |
| 2 | 研究方法 | 研究の方法を学びます. | | | | 授業プリントを復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 3 | スポーツと力学(1) | 教科書「スポーツ バイオメカニクス入門」を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 4 | スポーツと物理(2) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 5 | スポーツと物理(3) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 6 | スポーツと物理(4) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 7 | スポーツと物理(5) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 8 | スポーツと気象(1) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 9 | スポーツと気象(2) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 10 | スポーツと気象(3) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 11 | スポーツと気象(4) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 12 | スポーツと気象(5) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, レポートの準備を行います。(4時間) | | | | |
| 13 | レポート作成(1) | 自分が関心を持ったテーマをまとめます. | | | | 教科書を復習し, レポートの準備を行います。(4時間) | | | | |
| 14 | レポート作成(2) | 自分が関心を持ったテーマをまとめます. | | | | レポート発表会の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 15 | レポート報告会(1) | レポートを発表します. | | | | 出された意見をもとにレポートの見直しを行います。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「理科系の作文技術」木下是雄著(中公新書)(生協で購入してください。) 「スポーツ バイオメカニクス入門」金子公宥著(杏林書院)(生協で購入してください。) 「総合物理1-力と運動・熱-」園友正和他著(数研出版) ISBN:978-4-410-81203-3(生協で購入してください。) | | | | レポート:50% 出席レポート:50% 成績評価は, レポートの内容と, 毎時の発表内容で評価します。 S:探究的思考力を持って取り組み内容が独創的で明確である。 A:探究的意欲的に取り組み内容と課題が明確にされている。 B:意欲的に取り組み内容が明確にされている。 C:意欲的に取り組んでいるが内容の明確性が弱い。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「理系のためのレポート論文完全ナビ」見延庄士郎著(講談社)適宜紹介します。 | | | | 教科書をよく理解し, 調べてみたいテーマを積極的に探します。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------|--|------|------|----------------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパ`リング | SL36071 | 研究室 | S-14 |
| 担当者 | 等々力 賢治 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | ワイズア- | 水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習では、1・2年次に学んだ基礎的な知識・教養をベースに、スポーツを巡って生起している諸問題について分析・検討し、相互に意見交換し、議論すると共に、4年生次の「卒業論文」作成に向けてテーマ設定し、文献や資料の検索、章立ての具体的方法などについて学び、準備を進めます。なお、レポート作成の過程では適宜アドバイス、添削を行い、よりよいものになるよう努めます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 本演習の学修到達目標は、スポーツに関連する諸知識のいっそうの深化及び体系化を図ること及び、「卒業論文」作成の準備を進める中で、論文の作成方法や文献・資料の検索方法などについて具体的に学び修得することです。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本演習では、まず、前期の「スポーツ健康演習」で取り組んだグループレポートの報告会を行い、その後、4年次の「卒業論文」作成を前提にテーマや章立て、そして関連文献・資料の検索などに取り組み、それらについても報告し討議に付します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | レジュメの作成・提出 | レジュメの執筆を進め、その内容についてメンバーで意見交換して必要な修正を随時行います。いずれにしても、レポート内容を可能な限り共有すべく努め、それを反映させたものを提出します。 | | | | 事前:レジュメの構成について確認しておく。事後:作成、確したレジュメを提出する。(1時間) | | | | |
| 2 | レポート報告会(1) | 本時から2週にわたって、作成したグループレポートの報告会を行い議論に付します。報告10分、質疑8分、3グループとし、前時に作成したレジュメやパワーポイントなどを使用して行います。 | | | | 事前:報告者など必要な人員配置を決めておく。事後:議論を受けて必要な修正をする。(1時間) | | | | |
| 3 | レポート報告会(2) | 残りのグループレポートの報告会を行い議論に付します。作成したレジュメやパワーポイントなどを使用し、前時の報告会なども参考に、他のゼミ生により分かりやすいものとなるよう努めます。 | | | | 事前:報告会に向けて準備しておく。事後:レポートの評価を、評価用紙に記入する。(1時間) | | | | |
| 4 | 「卒論」作成予定の確認 | 「卒業論文」の執筆にあたって、「卒論」とはなにか、どのような手順で作成していくのかなどといった点について説明し、確認します。12000字執筆するには、それなりの準備が必要になります。 | | | | 事前:「卒論」作成予定について」を読んでおく。事後:各自執筆希望を考えてみる。(1時間) | | | | |
| 5 | 「卒論」のテーマ探し(1) | 「卒業論文」の執筆にあたって、まずどのようなテーマにするのか、各自の興味や関心、あるいは過去の卒論テーマなどを参考に考えてみます。その際、領域や分野なども考慮することを求めます。 | | | | 事前:各自テーマについて考えておく。事後:考えたテーマを実際に文字にし確認する。(1時間) | | | | |
| 6 | 「卒論」のテーマ探し(2) | 卒業論文」の執筆にあたって、まずどのようなテーマにするのか、各自の興味や関心、あるいは過去の卒論テーマなどを参考に考えてみます。その際、領域や分野なども考慮することを求めます。 | | | | 事前:過去の「卒論」を参考に考えてみる。事後:考えたテーマを実際に文字にしてみる。(1時間) | | | | |
| 7 | 「卒論」テーマの作成方法 | 「卒業論文」のテーマを作成する際に必要な事柄について確認し、執筆の一助とします。テーマが一番表現したいものを表すことや、メインテーマとサブテーマの関係等を大切にすることを理解します。 | | | | 事前:テーマをいくつか書いてみる。事後:メインテーマとサブテーマを考えてみる。(1時間) | | | | |
| 8 | 各自でのテーマ作成 | 前時の講義を参考に、メインテーマとサブテーマを考えてみます。より抽象的かつ大きな範囲を表すメインテーマに対し、サブテーマはより具体的かつ限られた範囲を示しますが、その逆もあります。 | | | | 事前:メインとサブの関係について調べておく。事後:メインとサブを意識し考えてみる。(1時間) | | | | |
| 9 | テーマの報告と議論(1) | 作成したテーマを、5・6人ずつ報告して議論に付し、出された意見等をテーマのシェイプアップの一助とします。その際、出された意見で共通するものについては、報告者以外にも普遍化するよう努めます。 | | | | 事前:報告するテーマを決定しておく。事後:議論での意見を参考に必要な修正を加える。(1時間) | | | | |
| 10 | テーマの報告と議論(2) | 各自が作成したテーマを、5・6人ずつ報告して議論に付し、出された意見等をテーマのシェイプアップの一助とします。その際、共通する意見については、報告者以外にも普遍化するよう努めます。 | | | | 事前:報告するテーマを再考しておく。事後:必要な修正を加え確定したものを提出する。(1時間) | | | | |
| 11 | 「卒論」章立ての作成方法 | 章立ての方法について共通に理解します。当ゼミの「卒論」は12000字を最低字数としますので、5章程度が妥当であること及び、それぞれの章の位置づけと関係などについて確認し、理解を深めます。 | | | | 事前:配付資料をよく読んでおく。事後:章立ての方法についてよく復習しておく。(1時間) | | | | |
| 12 | 各自での章立ての作成 | 前時で扱った章立てに必要な事項を再度確認し、それに基づいて、各自実際に章立てを行ってみます。その際、研究対象に関する時間認識や現状認識、さらに今後の改革事項や報告性等を考慮するよう求めます。 | | | | 事前:実際に章立てをしてみる。事後:今時の章立てを再考しシェイプアップしておく。(1時間) | | | | |
| 13 | 章立ての報告と議論(1) | 各自が行った章立てを、テーマと合わせて報告し議論に付します。その際、章立ての一貫性や各章の関係が分かりやすくなっているかどうか等について意見交換し、また問題点を共有するようにします。 | | | | 事前:報告に備えシェイプアップしておく。事後:議論を参考に必要であれば修正する。(1時間) | | | | |
| 14 | 「卒論」発表会への参加 | 12月下旬に予定されている4年生の「卒業論文発表会」に出席し、その運営を担う他、発表を聴講して議論に参加し、現在行っているテーマと章立てに活かすようにします。 | | | | 事前:4年生の発表要旨を読んでおく。事後:聴講内容等についてレポートにし提出する。(1時間) | | | | |
| 15 | 章立ての報告と議論(2) | 各自が行った章立てを、5・6人ずつテーマと合わせて報告し議論に付します。その際、章立ての一貫性や各章の関係が分かりやすくなっているかどうか等について意見交換し、問題点を共有するようにします。 | | | | 事前:報告に備えシェイプアップしておく。事後:議論を踏まえ、必要であれば修正する。(1時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 特に指定しません。 | | レポート:50% 課題:30% 出席レポート:20% 成績評価は、レポートの執筆・提出状況を中心に、前半期に課す課題及び出席レポート等を行って行います。評価基準は次のとおりです。S:探求的思考力をもって取り組み、レポート内容が独創的であり、講義外の課題をも包含している。A:探求的・意欲的に取り組み、レポート内容と課題が明確にされている。B:意欲的に取り組み、レポート内容が明確にされている。C:意欲的に取り組んでいるものの、レポート内容の独創性が必ずしも十分ではない。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 各自、自らの「卒論」作成に適した文献や資料を探してください。 | | ゼミ活動として、何回かJリーグ松本山雅のホームゲームにボランティア参加することを予定しています。ゲーム運営など、プロスポーツの実際を知る絶好の機会ですので積極的に取り組んでください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------------|--|-----------------|--|------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36071 | 研究室 | S-23 |
| 担当者 | 犬飼 己紀子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 水曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 健康を「体」と「こころ」の両面からとらえます。こころの健康は人間関係に左右されるとの認識を持ち、自分に気づき他者に気づき、間に何が起きているかに気づくことで対人関係構築力を磨きます。他者と向き合い様々な価値観と出会うことで自分の世界を広げましょう。アウトキャンパスでは「楽しさ」をキーワードに、向き合う人たちの自己解放を引き出す技術を学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 指導とは技術だけではないことを学びます。広い世代向け「こころの健康」を主目的として楽しさを引き出すプログラムの実践と応用で、対象者の運動の継続と主体的参加を促す指導スキルを身につけます。多様な対象者との交流で発見した問題を研究課題として卒業研究計画を立てます。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 広い世代に対応可能な人間交流のスキルを磨くことを主眼として、地域の活動に参加し対象に向き合います。個々の体験を記録に起こし、発表し合うことで 自己の課題を明確にしていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 活動参加対象の決定とアセスメント | 自主活動として、希望する団体について必要な情報を収集し、目的を明確にして臨むための準備を進めます。 | | | | 外部団体への参加については、ゼミ担任への事前の連絡、必要な手続きを踏むこと。(1時間) | | | | |
| 2 | 自主活動への参加 | 自主活動として、希望する団体・事業体に赴きます。目的を意識し活動への参加をします。 | | | | 終了後の報告、参加団体への礼状を欠かさないこと。(1時間) | | | | |
| 3 | 活動体験レポート報告 | 自主参加活動をレポートにまとめ報告し、ゼミ内で意見交換して進めます。参加した活動の事業体、参加対象者、主催目的、参加者意識、活動内容など明記し、自分の参加目的と成果についても報告します。 | | | | 聞く姿勢を持ち報告会に参加する。意見交換の場で活発な討議ができる参加姿勢を磨くこと。 | | | | |
| 4 | 活動体験レポート報告 | 自主参加活動をレポートにまとめ報告し、ゼミ内で意見交換して進めます。参加した活動事業体、参加対象者、主催目的、参加者意識、活動内容など明記するとともに、自分の参加目的と成果について報告します。 | | | | 聞く姿勢を持ち報告会に参加する。意見交換の場で活発な討議ができる参加姿勢を磨く。(1時間) | | | | |
| 5 | 活動体験レポート報告 | 自主参加活動をレポートにまとめ報告し、ゼミ内で意見交換して進めます。参加した活動事業体、参加対象者、主催目的、参加者意識、活動内容など明記するとともに、自分の参加目的と成果について報告します。 | | | | 聞く姿勢を持ち報告会に参加する。意見交換の場で活発な討議ができる参加姿勢を磨く。(1時間) | | | | |
| 6 | 研究レポートについて | 地域社会に起こる問題を課題として取り上げる。研究課題として取り上げた動機やきっかけなどを明らかにし、自身の関心の向きをゼミ生と共有します。 | | | | 新聞を読む、社会課題に触れる。関心のある記事を集める。(1時間) | | | | |
| 7 | 研究レポートの作成について | 地域社会に生じる問題を研究課題として取り上げ、関連する先行研究など情報を収集するとともに学術文章に慣れていきます。 | | | | 先行研究の引用について文章に取り込むルールを知る。(1時間) | | | | |
| 8 | 研究レポート執筆 | 書式、文体、字数などレポート提出の様式について説明を受け、作成に入ります。 | | | | レポートテーマは、見た人が内容の予測できる具体性があるか、周囲の意見を聞く。(1時間) | | | | |
| 9 | 研究レポート情報の集め方 | 図書館利用、インターネットからの情報収集など、検索のいろいろを活用して情報を集めます。 | | | | 引用、参考など文末に明記する。先行研究等を参考に記載方法を知る。(1時間) | | | | |
| 10 | レポート仕上げと提出 | 研究レポートを執筆要綱に照らし合わせ仕上げ。提出原稿のほか、手元に原稿を残すこと。卒論発表会のスタッフの役割分担を決めます。 | | | | 提出前に10回以上読み返すこと。(1時間) | | | | |
| 11 | 4年ゼミ生の研究発表 | ゼミ先輩の研究発表を聞き、研究の着眼点、研究方法、結論までの流れ、また発表形態・姿勢など参考にし、研究レポートの発表に取り入れれます。 | | | | 卒業研究発表会運営スタッフとしての準備心構え。(1時間) | | | | |
| 12 | 研究レポート発表 | 発表用レジュメを用意し、パワーポイント6枚程度にまとめ、研究レポートの発表をする。発表時間は質疑を交え8分とします。 | | | | レポート作成から発表までを体験し、感想を400字程度にまとめて提出する。(1時間) | | | | |
| 13 | 卒業研究発表の聴講 | 卒業研究発表を聞いて、これまでの体験に重ね合わせ次年度の卒業研究に向けて見通しを立てます。卒業研究発表会のスタッフとして自分の役割を務め、2年生に向け自ゼミの紹介を進める意識を持ちます。 | | | | 卒業研究発表会の運営側から発表を聞いて感じたこと、次年度の研究課題へのイメージをまとめる。 | | | | |
| 14 | 卒業研究課題への見通し | 次年度に取り組みたい課題への動機を明らかにし、1年間の見通しを立てる。体験レポートも含め、これまでに集めた関連情報をまとめます。 | | | | 卒業研究課題について構想していることを自由に書き出し、提出する。(1時間) | | | | |
| 15 | 卒業研究テーマ検討 | 卒業研究課題について発表、テーマ設定について目的を明らかにし、互いの研究の方向性を共有します。 | | | | 研究課題を明確にするために時間を有効に使うこと、活動への参加や情報収集を計画的に進める。 | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「論理的に話す技術」山本昭生著新田光敏編(ソフトバンククリエイティブ株式会社) ISBN:978-4-7973-5566-6 進捗状況に合わせ指示する | | | | 課題:50% レポート:30% 実技:20% S:健康・教育の分野で幅広い対象に向き合い、自身の課題を絞り研究への道筋を立てている。A:実習の中から課題発見を自分の考えを持って研究に取り組もうとしている。B:実習の中で関心・課題を絞りつつあり指導教員のサポートを期待している。C:実習には向き合うが問題・課題を研究としてとらえることに難しさを訴えている。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「知的な好奇心」稲垣佳世子著(中公新書) ISBN:978-4-100318-8 | | | | 学外に実践の場を求め、指導や支援の機会を多く体験します。学生には指導者として社会参加するに相応しい姿勢を求めます。体験の中から自らの課題を発見してください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------|---|-----------------|------|--|----------------|------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパ'リング | SL36071 | 研究室 | S-16 |
| 担当者 | 江原 孝史 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習では、生活習慣、睡眠、食事、健康などの問題についてアプローチしていきます。特に大学生の生活習慣の問題について焦点をあててゆきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 自分で血圧を測り、食事の栄養バランスを評価でき、動脈血酸素飽和度(Spo2)、体脂肪、腹囲を測定し、BMIを計算して肥満度を知り、自分の健康状態を知り、それぞれのデータの持つ意味を説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| いろいろな測定機器を扱い、人間の健康状態のデータを計測します。それぞれのデータの持つ意味を考えながら、データを得るにはさまざまな条件があり環境も影響することを学びながら授業を進めます。ニュースや新聞で健康に関する問題をチェックします。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 課題発表の評価 | 仲間とそれぞれの課題発表に対する相互評価をします。 | | | | | 仲間とディスカッションする。(1時間) | | | |
| 2 | 課題発表の評価と問題点 | それぞれの課題発表に対する評価と問題点を探ります。 | | | | | 仲間とディスカッションする。(1時間) | | | |
| 3 | 血圧測定 | 血圧測定の方法と原理、手技、測定するときの正しい姿勢について学びます。 | | | | | 自宅で起床直後の血圧を測定する。(1時間) | | | |
| 4 | 高血圧 | 高血圧の種類と問題点について調べディスカッションします。 | | | | | 高血圧の問題を新聞等で探す。(1時間) | | | |
| 5 | 高血圧の治療 | 高血圧にはどういった治療があるか調べます | | | | | 高血圧の治療方法を調べる。(1時間) | | | |
| 6 | 糖尿病 | 糖尿病の定義、分類について勉強します。 | | | | | 糖尿病に関する問題を探します。(1時間) | | | |
| 7 | 糖尿病の合併症 | 糖尿病の合併症について勉強します | | | | | 合併症の頻度を調べます。(1時間) | | | |
| 8 | 糖尿病の治療 | 糖尿病の従来までの治療にはどんなものがあるか調べます。 | | | | | 糖尿病の治療方法について調べます。(1時間) | | | |
| 9 | 最新の糖尿病の治 | 最新の糖尿病の治療について学びます。 | | | | | 最新の治療について調べます(1時間) | | | |
| 10 | ロコモティブシンドローム | ロコモティブシンドロームとは何か、その背景を調べます。 | | | | | 運動器について勉強します。(1時間) | | | |
| 11 | ロコチェックとロコトレ | ロコチェックの方法について調べます。立ち上がりテスト、2ステップテストを実施します。 | | | | | ロコトレを行います。(1時間) | | | |
| 12 | メタボリックシンドローム | メタボリックシンドロームとは何か調べます | | | | | 腹囲を測定します。(1時間) | | | |
| 13 | COPD(慢性閉塞性肺疾患) | 慢性閉塞性肺疾患とはなにが学びます。特になにが問題なのか。パルスオキシメーターの使い方を学びます。 | | | | | 自分のSpO2を測定する(1時間) | | | |
| 14 | 肥満 | 肥満とその問題について学びます。 | | | | | 自分のBMIを計算します。(1時間) | | | |
| 15 | まとめ | 自分の興味がある病気についてまとめます | | | | | レポートを作成します。(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「健診・健康管理専門職のためのセミナー生活習慣病」田中 逸編(医事新報社) ISBN:978-4-7849-5396-7 | | | | | レポート:80% 受講態度:20% S:実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が特に優れている。A:実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が優れている。B:実習に誠実に取り組み、実習課題の内容も良である。C:実習課題の内容が可である。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「世界一長寿な都市はどこにある」 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) 講義形式の勉強ではないので、みずから積極的に問題や課題に取り組む姿勢が大事です。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------|--|------|---|----------------|-----------------------------|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパ'リング | SL36071 | 研究室 | S-22 |
| 担当者 | 中島 弘毅 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>社会の変化に伴い、スポーツに関係する事象から様々な問題を見ることができます。本ゼミでは、その事象が現代社会とどの様につながっているのかを歴史的視点を含めながら考えて行きます。4年次に卒論を執筆することを念頭に論文を読むことによってその構成について学びます。また、研究目的を明らかにするための研究方法及び分析方法、結果の表し方、考察の仕方について学びます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>「スポーツと社会がどの様に関わっているのか」「何のために、誰のためにスポーツは存在するのか」「どうしてその様な現象が起きているのか」など、スポーツを通して社会を読み解く視点を養い、説明できるようにします。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>主としてテキスト・論文を読みすすめながら授業を展開します。本年度は共通テーマとして、環境が児童および園児に及ぼす影響について考えて行きます。担当者はレジュメを作成し発表を行います。保育園等における運動能力調査なども行います。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p> | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 仮テーマの決定の発表と今後の研究予定について | 仮テーマの決定の発表と今後の研究計画について考えます。学園祭にむけての活動について議論します。 | | | | 今後の研究計画について考えてきます。(1時間) | | | | |
| 2 | 仮テーマの決定の発表と今後の研究予定について(2) | 仮テーマの決定をし、今後の研究計画について発表し、検討、修正します。学園祭にむけての活動について議論し、準備します。 | | | | 今後の研究計画について修正し、清書します。(1時間) | | | | |
| 3 | 論文の構成について | 論文の全体像を思い描き、論文の枠組みについて考えます。 | | | | 自分のテーマの全体像を思い描きましょう。(1時間) | | | | |
| 4 | IMRAD以外について | 仮テーマに基づいてIMRAD以外の部分について書いてみましょう。 | | | | IMRAD以外を書きます。(1時間) | | | | |
| 5 | 序論について | 序論の果たす役割、序論で書く内容について理解します。 | | | | 序論を書いてみます。(1時間) | | | | |
| 6 | 研究方法について | 研究方法の果たす役割と研究方法で書く内容について理解します。 | | | | テーマに合った研究方法を考えます。(1時間) | | | | |
| 7 | 結果について | 結果の果たす役割と結果で書く内容、関連性と信頼性、結果の構造について理解します。 | | | | 結果で書く内容についてまとめます。(1時間) | | | | |
| 8 | 表について | 結果の果たす役割と表の構成について学びます。 | | | | 表を書いて見ましょう。(1時間) | | | | |
| 9 | 図について | 図の効果的な使い方、書き方について | | | | 図を書いて見ましょう。(1時間) | | | | |
| 10 | 考察について | 考察のねらい、考察の書き方について学びます。 | | | | 考察の書き方についてまとめます。(1時間) | | | | |
| 11 | タイトルについて | 仮タイトルとタイトルとの違い、タイトルのねらいと良いタイトルの特徴について学びます。 | | | | タイトルを書いてみましょう。(1時間) | | | | |
| 12 | 抄録について | プレゼンテーション | | | | 抄録のねらいと抄録の書き方について学びます。(1時間) | | | | |
| 13 | 論文発表 | 自らのテーマに沿った論文を調べてきて発表します。 | | | | 論文を調べてきます。(1時間) | | | | |
| 14 | 論文発表(2) | 自らのテーマに沿った論文を調べてきて発表します。 | | | | 論文を調べてきます。(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめをします。また、今後の予定を立てます。 | | | | 今後の予定をまとめます。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| <p>「アクセプトされる英語医学論文を書こう」ネル・L・ケネディ著メジカルビュー社編 ISBN:4-89553-969-5</p> | | | | <p>受講態度：70% レポート：30% 受講態度は、授業及びゼミ活動への積極的参加、協力的態度、役割分担、発言、発表等について評価します。評価は、95点以上でS、80点以上でA、70点以上でB、60点以上でCとします。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| <p>「戦後日本のスポーツ政策その構造と展開」関春南著(大修館書店) ISBN:4-469-26362-1 適宜、必要な資料を配布します。</p> | | | | <p>問題意識を持ち、積極的に議論をして行きましょう。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------|--|------|---|----------------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36071 | 研究室 | S-21 |
| 担当者 | 根本 賢一 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>本授業では、健康づくりの意義を考えるとともに、自治体や企業内で取り組まれている健康づくりのプログラムやその指導法について考察します。また、運動プログラム作成の際に必要な、持久性体力や筋力などの体力要素に加え、歩行分析機、筋電計を使用した計測と評価手法を学びます。さらに、こうした学習を通して、各自の身体活動に対する認識を深めたり、健康づくりに関する課題を掘り起こしたりしながら、健康づくりの方策も探っていきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>個人、集団を問わず健康づくりに有効なプログラム作成とその指導ができる能力を身につけることを目指します。また、ゼミナールの中のディスカッションを通して議論の仕方を学習すると共に、論理的思考力や批判的思考力、情報リテラシーあるいはプレゼンテーション能力などを向上させる目標となります。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>教員からの一方的な講義ではなく皆さんからの発言や調査内容発表を中心に進めていきます。また、学外での活動は、実際に地域や企業に出向き、そこで展開されているプログラムや指導内容について学んでいきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 体力測定法と評価(1) | 運動指導の実際の現場(いきいき診断ルーム)で、体力測定(持久性体力、筋力等)を実際にどのように測定し、そのデータどう活用しているのかを見学します。(1) | | | | 体力測定がなぜ運動指導現場で必要なのかについて調べておく(1時間)。 | | | | |
| 2 | 体力測定法と評価(2) | 運動指導の実際の現場(梓水苑)で、体力測定(持久性体力、筋力等)を実際にどのように測定し、そのデータどう活用しているのかを見学します。(2) | | | | 体力測定後のデータの活用はどのようにされているのかについてレポートにまとめる(1時間)。 | | | | |
| 3 | 体力測定法と評価(3) | 呼気ガス分析装置を用いた持久性体力の測定法についてを学びます。 | | | | 呼気ガス分析装置の使用法について整理しておく(1時間)。 | | | | |
| 4 | 体力測定法と評価(4) | 呼気ガス分析装置を用いて、ゼミ生相互に測定及び評価をします。 | | | | 呼気ガス分析装置を使用したゼミ生の関係論文を読んでおく(1時間)。 | | | | |
| 5 | 体力測定法と評価(5) | 歩行分析装置を用いた歩行姿勢の計測法を学びます。 | | | | 歩行時の姿勢指導はなぜ必要なのかについて調べておく(1時間)。 | | | | |
| 6 | 体力測定法と評価(6) | 歩行分析装置を用いて、ゼミ生相互に測定及び評価をします。 | | | | 歩行分析装置を使用したゼミ生の関係論文を読んでおく(1時間)。 | | | | |
| 7 | 体力測定法と評価(7) | 筋力測定装置を用いた最大筋力の測定法を学びます。 | | | | 授業で使用した筋力測定についての手順、機器の操作法について整理しておく(1時間)。 | | | | |
| 8 | 体力測定法と評価(8) | 筋力測定装置を用いて、ゼミ生相互に測定及び評価をします。 | | | | 筋力測定装置を使用したゼミ生の関係論文を読んでおく(1時間)。 | | | | |
| 9 | 表面筋電計を利用する(1) | 筋電図で何が分かるのかということについて理解します。 | | | | 筋電計を使用したゼミ生の関係論文を読んでおく(1時間)。 | | | | |
| 10 | 表面筋電計を利用する(2) | 筋電計を使用し、その計測方法を理解します。 | | | | 筋電計の使用法について配布したプリントとあわせ整理しておく(1時間)。 | | | | |
| 11 | 表面筋電計を利用する(3) | 筋電計で計測したデータの整理と解析法について理解します。 | | | | データ解析について復習しておく(1時間)。 | | | | |
| 12 | 卒業研究のテーマを探す(1) | これまでの学習や討議を基に、卒業研究のテーマを決めていきます。 | | | | 卒業研究のテーマを考え、それに関する資料を収集し始めてみる(1時間)。 | | | | |
| 13 | 卒業研究のテーマを探す(2) | これまでの学習や討議を基に、卒業研究のテーマを決めていきます。 | | | | 卒業研究のテーマを考え、それに関する資料を収集し始めてみる(1時間)。 | | | | |
| 14 | テーマ発表(1) | 自分の卒業研究のテーマについて、発表・検討します(1グループ)。 | | | | 発表資料を用意する。テーマについてレポートにまとめる(1時間)。 | | | | |
| 15 | テーマ発表(2) | 自分の卒業研究のテーマについて、発表・検討します(2グループ)。 | | | | 発表資料を用意する。テーマについてレポートにまとめる(1時間)。 | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 各回こちらでポイントを記したプリントを用意します。 | | | | <p>課題：50% レポート：50%</p> <p>S: 高度な測定技術及び指導のための理論を習得するための課題等に極めて積極的に取り組み、高度な成果を示している。A: 高度な測定技術及び指導のための理論を習得するための課題等に積極的に取り組み、良好な成果を示している。B: 基本的な測定技術及び指導のための理論を習得するための課題等に積極的に取り組み、2/3程度の成果を示している。C: 基本的な測定技術及び指導のための理論を習得するための課題等に取り組み、1/2程度の成果を示している。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「身体活動科学における研究方法」(NAP) ISBN: 4-931411-39-8 | | | | 学外での健康づくり現場に出かけることも多いため、本講義以外の時間も活動として入ってきます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------|---|------|---|----------------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL36071 | 研究室 | S-13 |
| 担当者 | 岩間 英明 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 火曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習では体育授業や運動部活動などの学校体育、スポーツクラブやスポーツ少年団などの地域スポーツといった主に子どもたちを取り巻くスポーツ環境についての諸問題を中心に考察します。また、それらに付帯するスポーツの指導方法に関する課題についても、運動構造分析を手がかりに探究していきます。さらに、こうした学習を通して、各自のスポーツ活動に対する認識を深めたり、問題意識を掘り起こしたりしながら、スポーツ指導に関する論理形成を図ることを目的としています。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツ指導に関する知見に基づいた課題発見能力を身につけ、様々な観察法や分析法を理解し、課題解決能力の向上を目指します。また、ゼミナールの中のディスカッションを通して議論の仕方を学習すると共に、論理的思考力や批判的思考力、情報リテラシーあるいはプレゼンテーション能力などを向上させることが目標となります。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 様々なスポーツ活動の実践事例や先行研究などの資料を利用して授業を進めていきます。また、ディスカッションや共同研究などの時間も多く、主体的な学習姿勢を望みます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 課題発表会(1) | 主としてスポーツの指導方法に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について、発表・討議します。 | | | | 発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間) | | | | |
| 2 | 課題発表会(2) | 主として学校体育に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について、発表・討議します。 | | | | 発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間) | | | | |
| 3 | 課題発表会(3) | 主として一般的なスポーツ・体育に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。 | | | | 発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間) | | | | |
| 4 | 運動構造の分析(1) | スポーツ指導に必要な運動構造の分析の仕方について学び、実習を通して相互に指導し合ってみます。(主として基礎的運動動作を扱います) | | | | 事前に運動学の復習をしておく。授業後は指導の要点をまとめる。(1時間) | | | | |
| 5 | 運動構造の分析(2) | スポーツ指導に必要な運動構造の分析の仕方について学び、実習を通して相互に指導し合ってみます。(主としてクローズドスキルを扱います) | | | | 事前に運動学の復習をしておく。授業後は指導の要点をまとめる。(1時間) | | | | |
| 6 | 運動構造の分析(3) | スポーツ指導に必要な運動構造の分析の仕方について学び、実習を通して相互に指導し合ってみます。(主としてオープンスキルを扱います) | | | | 事前に運動学の復習をしておく。授業後は指導の要点をまとめる。(1時間) | | | | |
| 7 | 運動構造の分析(4) | 運動構造に基づいた指導方法について、実習を通して学びます。(器械運動 マット) | | | | 事前に運動学の復習をしておく。授業後は指導の要点をまとめる。(1時間) | | | | |
| 8 | 運動構造の分析(5) | 運動構造に基づいた指導方法について、実習を通して学びます。(器械運動 跳び箱) | | | | 事前に運動学の復習をしておく。授業後は指導の要点をまとめる。(1時間) | | | | |
| 9 | 運動構造の分析(6) | 運動構造に基づいた指導方法について、実習を通して学びます。(球技 ゴール型) | | | | 事前に運動学の復習をしておく。授業後は指導の要点をまとめる。(1時間) | | | | |
| 10 | 運動構造の分析(7) | 運動構造に基づいた指導方法について、実習を通して学びます。(球技 ネット型) | | | | 事前に運動学の復習をしておく。授業後は指導の要点をまとめる。(1時間) | | | | |
| 11 | 運動構造の分析の活用 | 運動構造の分析で得られた知見を指導にどのように活用するか考えます。 | | | | 事前に運動構造の分析の立場から指導例を考えておく。(1時間) | | | | |
| 12 | 体育・スポーツの存在論 | 「人間にとって体育・スポーツはなぜ必要なのか」という根源的な問いについて考えていきます。 | | | | テーマについて事前学習を進める。体育・スポーツの存在をレポートにまとめる。(1時間) | | | | |
| 13 | 卒業研究のテーマを探す(1) | これまでの学習や討議を元に、卒業研究のテーマを決めるための資料について検討していきます。 | | | | 卒業研究のテーマを考え、それに関する資料を収集し始めてみる。(1時間) | | | | |
| 14 | 卒業研究のテーマを探す(2) | これまでの学習や討議あるいは、前時に検討した資料を元に、卒業研究のテーマを決めていきます。 | | | | 卒業研究のテーマを考え、それに関する資料を収集し始めてみる。(1時間) | | | | |
| 15 | テーマ発表 | 自分の卒業研究のテーマについて発表し、全員で一人一人のテーマについて検討し合います。 | | | | 発表資料を用意する。テーマについてレポートにまとめる。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 講義内容に応じて資料をその都度配布します。 | | | | 課題:50% 受講態度:50% 受講態度はディスカッションなどの学習状況で、それらを総合的に評価します。課題の内容にはその過程も含み、受講態度には学内での活動はもちろん、学外での実習等の活動状況も含み評価対象とします。Sは上記の全ての内容が優れているもの。Aは良好だったもの。Bは概ね良好だったもの。Cは全ての内容に取り組めたものとします。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| テーマに応じた参考図書や資料を指示します。 | | | | 一人一人が自分の意見を述べ合ったり、実習をしたりしながら、授業を展開していきますので、積極的に授業に参加する姿勢が重要です。また、自ら問題意識を持ち、新聞・雑誌等にも目を向け、主体的に学習を進めることが大切です | | | | | | |

| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36071 | 研究室 | S-15 |
|---|----------------|---|------|--|----------------|------------------------------|-------|---------|-----|------|
| 担当者 | 山本 薫 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オイスアワ | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>最大酸素摂取量の測定等、実験の手法を学びます。コンピュータの活用能力を身につけます(卒論作成や就職のために必要です)。文献、参考資料(書籍、新聞、雑誌)を探して読み込み、その内容を簡潔にまとめ、報告します。資料は参考文献として記録を残します(書籍・論文名、著者、雑誌発行号、引用(参考)ページ等)。学外活動にて健康運動指導について学びます。これらの活動を通して卒論作成、健康運動の指導者を目指すための準備をすすめていきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>スポーツ健康学科学学生としての運動生理学を基本にした専門知識と教養を身につけ、各方面での支援・指導者人材として成長することで。卒業研究に活用する実験実習を身につけます。また社会貢献を通じて、社会の一員としての自覚を養います。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>毎回担当を決めて順番に1分間スピーチ、まとめレポート報告、および各種測定実習を重ねていきます。予定が決まれば学外健康運動指導にも出かけます(要事前準備)。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 後期のゼミ活動について活動内容やスケジュールの説明、面談を実施します。 | | | | 卒後進路について調べて説明できるようにしておく(1時間) | | | | |
| 2 | 実験・測定・健康運動指導演習 | 最大無酸素パワー測定、乳酸濃度の測定と結果解析、ディスカッションを行います。 | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | | |
| 3 | 実験・測定・健康運動指導演習 | 最大無酸素パワー測定、乳酸濃度の測定と結果解析、ディスカッションを行います。 | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | | |
| 4 | 実験・測定・健康運動指導演習 | 最大無酸素パワー測定、乳酸濃度の測定と結果解析、ディスカッションを行います。 | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | | |
| 5 | ゼミ内卒論中間発表会参加 | ゼミ4年生の卒論中間発表会参加およびディスカッション | | | | 感想をレポートにまとめて提出(1時間) | | | | |
| 6 | 実験・測定・健康運動指導演習 | 最大無酸素パワートレーニング、乳酸濃度の測定と結果解析、ディスカッションを行います。 | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | | |
| 7 | 実験・測定・健康運動指導演習 | 等速性・等尺性筋力の測定と結果解析(Biodex活用)ディスカッションを行います。 | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | | |
| 8 | 実験・測定・健康運動指導演習 | 等速性・等尺性筋力の測定と結果解析(Biodex活用)、ディスカッションを行います。 | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | | |
| 9 | 実験・測定・健康運動指導演習 | 等速性・等尺性筋力の測定と結果解析(Biodex活用)、ディスカッションを行います。 | | | | 測定内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | | |
| 10 | 健康運動処方学習 | 疾患別運動指導方法について割り当てられた課題を報告しディスカッションします。 | | | | 内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | | |
| 11 | 健康運動処方学習 | 疾患別運動指導方法について割り当てられた課題を報告しディスカッションします。 | | | | 内容をレポートにまとめて提出(1時間) | | | | |
| 12 | ゼミ内卒論発表予演会参加 | ゼミ内卒論発表予演会に参加、ディスカッションを行います。 | | | | 事前に卒論抄録の読込(1時間) | | | | |
| 13 | 卒論発表会参加運営 | 卒業研究発表会の内容をしっかり聞いて質問、意見、感想等を必ず述べます。感想メモ提出します。 | | | | 事前に卒論抄録の読込(1時間) | | | | |
| 14 | 健康運動指導学習 | 疾患別運動指導方法について割り当てられた課題を報告しディスカッションします。 | | | | 事前に自己文献の要約作成(1時間) | | | | |
| 15 | 演習まとめと卒論テーマの決定 | 卒論テーマに関する文献の読み込みおよびディスカッションを実施します。卒論テーマの決定に向けて討論をします。 | | | | 事前に興味ある文献の要約を作成する(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| <p>「健康運動指導士養成講座テキスト」(別途、指示します。) 「健康運動実践指導者養成講座テキスト」(別途、指示します。)</p> | | | | <p>受講態度：70% レポート：30% 総合評価(S:全ての実験実習に積極的に参加して質問をし、課題レポートは指定された課題について適切で十分な考察が来ている。A:14回以上出席し、実験実習に積極的に参加して質問をし、課題レポートは指定課題について適切な考察が来ている。B:13回以上出席し、実験実習に積極的に参加して質問をし、課題レポートは指定課題について考察が来ている。C:11回以上出席し、実験実習に積極的に参加して課題レポートは指定課題に回答している。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| <p>「運動処方の指針」アメリカスポーツ医学会著日本体力医学会体力科学編集委員会編(南江堂) ISBN:978-4-524-26216-8</p> | | | | <p>実験実習をする機会が多々あるので、いつも運動のできる準備(服装・室内靴)をしておいてください。常に体調を整えておいてください。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------|---------------------------------------|---|------|------|---|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL36071 | 研究室 | S-18 |
| 担当者 | 新井 喜代加 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 火曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 究極的には体育およびスポーツの普及・振興を目指しつつ、具体的には体育およびスポーツの普及・振興を阻害する問題・課題を理解し、その解決策を探るための基礎理論や分析・研究方法を学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツに関わる法、政策、マネジメントおよびジェンダー等に関する諸問題について理解を深め、具体的な研究テーマと分析・研究方法の設定につなげることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| ゼミ形式で実施します。新聞をテキストにしてスポーツ問題を理解してから、スポーツと法、行政、政策、マネジメント或いはジェンダー等に関する文献の講読を通して基礎理論を学び、さらに学術論文の講読を通して分析・研究方法を理解します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 学術論文の報告1 | 討議を通じて、学術論文の研究目的、分析・研究方法、課題等について検討します | | | | 事前：関心のある学術論文の概要をまとめる/事後：学術論文の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 2 | 学術論文の報告2 | 討議を通じて、学術論文の研究目的、分析・研究方法、課題等について検討します | | | | 事前：関心のある学術論文の概要をまとめる/事後：学術論文の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 3 | 学術論文の報告3 | 討議を通じて、学術論文の研究目的、分析・研究方法、課題等について検討します | | | | 事前：関心のある学術論文の概要をまとめる/事後：学術論文の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 4 | 学術論文の報告4 | 討議を通じて、学術論文の研究目的、分析・研究方法、課題等について検討します | | | | 事前：関心のある学術論文の概要をまとめる/事後：学術論文の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 5 | 学術論文の報告5 | 討議を通じて、学術論文の研究目的、分析・研究方法、課題等について検討します | | | | 事前：関心のある学術論文の概要をまとめる/事後：学術論文の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 6 | 学術論文の報告6 | 討議を通じて、学術論文の研究目的、分析・研究方法、課題等について検討します | | | | 事前：関心のある学術論文の概要をまとめる/事後：学術論文の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 7 | 学術論文の報告7 | 討議を通じて、学術論文の研究目的、分析・研究方法、課題等について検討します | | | | 事前：関心のある学術論文の概要をまとめる/事後：学術論文の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 8 | 学術論文の報告8 | 討議を通じて、学術論文の研究目的、分析・研究方法、課題等について検討します | | | | 事前：関心のある学術論文の概要をまとめる/事後：学術論文の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 9 | 学術論文の報告9 | 討議を通じて、学術論文の研究目的、分析・研究方法、課題等について検討します | | | | 事前：関心のある学術論文の概要をまとめる/事後：学術論文の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 10 | 学術論文の報告10 | 討議を通じて、学術論文の研究目的、分析・研究方法、課題等について検討します | | | | 事前：関心のある学術論文の概要をまとめる/事後：学術論文の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 11 | 卒業研究のテーマ設定1 | 先行研究を検討し、まとめる/事後：先行研究の内容を復習する(4時間) | | | | 先行研究を検討し、まとめる/事後：先行研究の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 12 | 卒業研究のテーマ設定2 | 先行研究を検討し、まとめる/事後：先行研究の内容を復習する(4時間) | | | | 先行研究を検討し、まとめる/事後：先行研究の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 13 | 卒業研究のテーマ設定3 | 先行研究を検討し、まとめる/事後：先行研究の内容を復習する(4時間) | | | | 先行研究を検討し、まとめる/事後：先行研究の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 14 | 卒業研究のテーマ設定4 | 先行研究を検討し、まとめる/事後：先行研究の内容を復習する(4時間) | | | | 先行研究を検討し、まとめる/事後：先行研究の内容を復習する(1時間) | | | | |
| 15 | 卒業研究のテーマ設定5 | 先行研究を検討し、まとめる/事後：先行研究の内容を復習する(4時間) | | | | 先行研究を検討し、まとめる/事後：先行研究の内容を復習する(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| それぞれの研究に適した文献や資料を適宜紹介します。 | | | レポート：50% 課題：50% 評価基準は次の通りです。S：授業内容を十分理解し、批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、独創性の高い考えを文章で表現できる/A：授業内容を理解し、探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、自分の考えを文章で表現できる/B：授業内容を大体理解し、積極的に課題に取り組み、自分の考えを他者に伝えることができる/C：授業内容を大体理解し、与えられた課題に取り組み、自分の考えを他者に伝えることができる | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| それぞれの研究に適した文献や資料を適宜紹介しますが、「スポーツと法」、「スポーツ行政・政策論」、「スポーツマネジメント論」、「地域社会とスポーツ」等の授業で使用したテキスト及び参考書も活用して下さい。 | | | お互いの研究に興味・関心をもって(面白い点を見つけて)、活発な議論が展開されるよう学生同士で工夫してください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------|---------------------------------|---|------|----------------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパ・リング | SL36071 | 研究室 | S-24 |
| 担当者 | 河野 史倫 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 月曜日4限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 地球上で生活する我々は、重力に逆らって姿勢を保持しなければいけません。そのため「抗重力筋」と呼ばれる種類の骨格筋は、体重を支えるために持続的に活動することを強いられます。その結果「抗重力筋」はエネルギー代謝や筋持久力に優れた特性を獲得しますが、重力のない宇宙空間へ行くと「抗重力筋」の機能が著しく低下します。『筋肉を抗重力筋仕様にするメカニズム』の解明を目指すことを柱として、各学生の卒業研究テーマを決定するための演習を行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 実験動物の飼育方法やサンプルの取り扱い、組織染色、タンパク質および遺伝子発現解析の方法を習得することが基本的な目標です。それらの解析データから、実験結果の妥当性や結果が示す事象を考察できるようになることが最終的な目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 実際に実験を行い、その中で知識や実験方法、考え方を学んでもらいます。基本的には、個別に研究指導して進めていきますが、定期的に研究計画や進捗を発表・討論する機会を設けます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 実験計画 | プレ実験のための情報収集と実験の計画について意見交換をします。 | | | | 与えられた作業ならびに文献の検索、読解を行っておくこと。(1時間) | | | | |
| 2 | 実験計画 | プレ実験のための情報収集と実験の計画について意見交換をします。 | | | | 与えられた作業ならびに文献の検索、読解を行っておくこと。(1時間) | | | | |
| 3 | プレ実験 | 卒業研究のためのプレ実験を実施します。 | | | | 与えられた実験を行い、結果をまとめておくこと。(1時間) | | | | |
| 4 | プレ実験 | 卒業研究のためのプレ実験を実施します。 | | | | 与えられた実験を行い、結果をまとめておくこと。(1時間) | | | | |
| 5 | プレ実験 | 卒業研究のためのプレ実験を実施します。 | | | | 与えられた実験を行い、結果をまとめておくこと。(1時間) | | | | |
| 6 | プレ実験 | 卒業研究のためのプレ実験を実施します。 | | | | 与えられた実験を行い、結果をまとめておくこと。(1時間) | | | | |
| 7 | プレ実験 | 卒業研究のためのプレ実験を実施します。 | | | | 与えられた実験を行い、結果をまとめておくこと。(1時間) | | | | |
| 8 | プレ実験 | 卒業研究のためのプレ実験を実施します。 | | | | 与えられた実験を行い、結果をまとめておくこと。(1時間) | | | | |
| 9 | プレ実験 | 卒業研究のためのプレ実験を実施します。 | | | | 与えられた実験を行い、結果をまとめておくこと。(1時間) | | | | |
| 10 | プレ実験 | 卒業研究のためのプレ実験を実施します。 | | | | 与えられた実験を行い、結果をまとめておくこと。(1時間) | | | | |
| 11 | プレ実験 | プレ実験の結果をまとめ、スライドを使って発表します。 | | | | 与えられた実験を行い、結果をまとめておくこと。発表用のスライドを作成する。(1時間) | | | | |
| 12 | プレ実験 | プレ実験の結果をまとめ、スライドを使って発表します。 | | | | 与えられた実験を行い、結果をまとめておくこと。発表用のスライドを作成する。(1時間) | | | | |
| 13 | 本実験デザイン | 卒業研究のテーマを検討し、実験計画および準備を行います。 | | | | 文献の収集、追加実験実施など、与えられた作業を行っておくこと。(1時間) | | | | |
| 14 | 本実験デザイン | 卒業研究のテーマを検討し、実験計画および準備を行います。 | | | | 文献の収集、追加実験実施など、与えられた作業を行っておくこと。(1時間) | | | | |
| 15 | 本実験デザイン | 卒業研究のテーマを検討し、実験計画および準備を行います。 | | | | 文献の収集、追加実験実施など、与えられた作業を行っておくこと。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 必要な資料はプリントなどで配布します。 | | | 課題:100% S:年度内に論文または学会等で研究発表ができる A:自立して実験を進めており、十分なデータを取得している B:実験および解析の手法を習得し、自立して実験が進められる C:割り当てられた実験に全て参加し、サンプル解析を行っている | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 必要な資料はプリントなどで配布します。 | | | エビジェネティクスという考え方をキーワードに、骨格筋の性質を決めるメカニズム、抗重力筋の特性を獲得するメカニズムに迫っていきます。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|----------|--|---|------|------|----------------|--------------------------------------|---------|-----|------|--|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36071 | 研究室 | S-20 | |
| 担当者 | 齊藤 茂 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オイスアワ | 水曜日2限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 次年度行う「卒業研究」を視野に入れ、定性的研究法、及び定量的研究法といった研究の方法論に関する文献講読や実習を通して理解を深め、その技法の習得を目指します。また、各自の卒業研究のデザインについて、ゼミ内でディスカッションを行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 心理学領域において科学的に研究を進める手法を理解し、実際の研究に活用できるスキルを身につけることを到達目標とします。また、卒業研究のテーマを決定します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 定性的研究法、及び定量的研究法に関する文献を講読し、必要に応じて解説をします。また、次年度本格的に取り組む卒業研究のテーマを決定するために、研究デザインについてのディスカッションを行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 定量的研究法 | 定量的研究法の基本的な事項について理解を深めるために、理論的な解説を行います。 | | | | | 課題文献の指定箇所を熟読し、研究方法について理解を深めておく。(1時間) | | | | |
| 2 | 定量的研究法 | 定量的研究法(平均、分散、及び標準偏差)について理解を深めるために、理論的な解説を行います。 | | | | | 課題文献の指定箇所を熟読し、研究方法について理解を深めておく。(1時間) | | | | |
| 3 | 定量的研究法 | 定量的研究法(t検定、及び分散分析)について理解を深めるために、理論的な解説を行います。 | | | | | 課題文献の指定箇所を熟読し、研究方法について理解を深めておく。(1時間) | | | | |
| 4 | 定量的研究法 | 定量的研究法(カイ二乗検定)について理解を深めるために、理論的な解説を行います。 | | | | | 課題文献の指定箇所を熟読し、研究方法について理解を深めておく。(1時間) | | | | |
| 5 | 定量的研究法 | 定量的研究法(方法、及び結果の執筆方法)について理解を深めるために、理論的な解説を行います。 | | | | | 課題文献の指定箇所を熟読し、研究方法について理解を深めておく。(1時間) | | | | |
| 6 | 定性的研究法 | 定性的研究法の基本的な事項について理解を深めるために、理論的な解説を行います。 | | | | | 課題文献の指定箇所を熟読し、研究方法について理解を深めておく。(1時間) | | | | |
| 7 | 定性的研究法 | 定性的研究法(データ収集の方法)について理解を深めるために、理論的な解説を行います。 | | | | | 課題文献の指定箇所を熟読し、研究方法について理解を深めておく。(1時間) | | | | |
| 8 | 定性的研究法 | 定性的研究法(データ分析の方法)について理解を深めるために、理論的な解説を行います。 | | | | | 課題文献の指定箇所を熟読し、研究方法について理解を深めておく。(1時間) | | | | |
| 9 | 定性的研究法 | 定性的研究法(データ分析の方法)を実際に体験します。 | | | | | 課題文献の指定箇所を熟読し、研究方法について理解を深めておく。(1時間) | | | | |
| 10 | 定性的研究法 | 定性的研究法(方法、及び結果の執筆方法)について理解を深めるために、理論的な解説を行います。 | | | | | 課題文献の指定箇所を熟読し、研究方法について理解を深めておく。(1時間) | | | | |
| 11 | 研究デザイン | 担当者A、及びBの卒業研究のテーマについて、ゼミ内でディスカッションを行います。 | | | | | 各自の研究テーマに関連する先行研究を見つけてくる。(1時間) | | | | |
| 12 | 研究デザイン | 担当者C、及びDの卒業研究のテーマについて、ゼミ内でディスカッションを行います。 | | | | | 各自の研究テーマに関連する先行研究を見つけてくる。(1時間) | | | | |
| 13 | 研究デザイン | 担当者E、及びFの卒業研究のテーマについて、ゼミ内でディスカッションを行います。 | | | | | 各自の研究テーマに関連する先行研究を見つけてくる。(1時間) | | | | |
| 14 | 研究デザイン | 担当者G、及びHの卒業研究のテーマについて、ゼミ内でディスカッションを行います。 | | | | | 各自の研究テーマに関連する先行研究を見つけてくる。(1時間) | | | | |
| 15 | 研究デザイン | 各自が卒業研究のテーマを決定し、春季休業中の課題、及び次年度のゼミの進め方について解説をし、意見交換を行います。 | | | | | 各自の研究テーマに関連する先行研究を見つけてくる。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 受講者の希望に合わせて指定します。また、プリント資料を適宜配布します。 | | | 課題:40% 受講態度:60% S:講義内のディスカッションを常にリードし、なおかつ与えられた課題にも積極的かつ探究的に取り組んでいる。A:講義内のディスカッションにおいて重要な役割を果たし、なおかつ与えられた課題にも積極的に取り組んでいる。B:講義内のディスカッションに対して積極的に参加し、与えられた課題すべてに誠実に取り組んでいる。C:講義内のディスカッションに対して参加しようとし、与えられた課題に取り組んでいる。 なお、受講態度はディスカッションや課題等に取組む姿勢により評価します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| プリント資料を適宜配布します。 | | | ・研究テーマを何にするか、日常生活から関心をもって過ごしてください。 ・卒業研究は次年度を通じて取り組むため、自らが楽しめる研究テーマを設定してください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------|--|--|------|------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36071 | 研究室 | S-17 |
| 担当者 | 田邊 愛子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 木曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習では、1・2年次に学んだ健康づくりを科学的根拠に基づき、知識を広げていくことを目的とします。健康づくりへの理解を深め、4年時に取り組む卒業論文へのテーマや、研究目的が定まることを到達目標とします。実際に健康教室の企画・運営と学び、総合理解を深めることを目的としています。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 健康づくりを幅広く捉え、健康づくりの施策や健康教室の実際を理解し、様々なライフステージにおける運動処方を実習を通して学び、実際に運動処方できるようになることを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 有酸素運動および筋力トレーニングの知識を再確認し、健康教室などの現場での実習も行います。医学、体力科学、栄養学、ジェンダー問題を含む社会的側面などすべての面から、健全・快適に競技を続けるために必要な事を学んでいきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 統計 | 卒業論文作成に向け、データの解析方法の基礎を復習します | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 2 | 統計 | 論文で使われているデータの読み方、統計方法について、文献を使用し指導します | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 3 | 統計 | 文献を用いて、表やグラフの見方から検定方法を読み時を習得します | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 4 | 先行研究と文献の利用 | 文献収集方法を理解し、テーマに沿って先行研究を進めます | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 5 | 先行研究と文献の利用 | 文献収集方法を理解し、テーマに沿って先行研究を進めます | | | | テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間) | | | | |
| 6 | 健康教室での現場実習(1) | 中高齢女性を対象とした健康教室の企画・運動プログラムの作成と教室を開催します | | | | 運動プログラムを作成する。準備物などの確認をしておく。(1時間) | | | | |
| 7 | 健康教室での現場実習(2) | 前回の反省を生かし、中高齢女性を対象とした健康教室の企画・運動プログラムの作成と教室を開催します | | | | 運動プログラムを作成する。準備物などの確認をしておく。(1時間) | | | | |
| 8 | 健康教室での現場実習(3) | 運動習慣のない中高齢者を対象とした健康教室の企画・運動プログラムの作成と教室を開催します | | | | 運動プログラムを作成する。準備物などの確認をしておく。(1時間) | | | | |
| 9 | 健康教室での現場実習(4) | 前回の反省を生かし、運動習慣のない中高齢者を対象とした健康教室の企画・運動プログラムの作成と教室を開催します | | | | 運動プログラムを作成する。準備物などの確認をしておく。(1時間) | | | | |
| 10 | 健康教室での現場実習(5) | 中高齢男性を対象とした健康教室の企画・運動プログラムの作成と教室を開催します | | | | 運動プログラムを作成する。準備物などの確認をしておく。(1時間) | | | | |
| 11 | 健康教室での現場実習(6) | 後期高齢者を対象とした施設内での運動プログラム作成のための体力測定を実施します | | | | 運動プログラムを作成する。準備物などの確認をしておく。(1時間) | | | | |
| 12 | 健康教室での現場実習(7) | 後期高齢者を対象とした施設内での運動プログラムの作成と教室開催を実施します | | | | 運動プログラムを作成する。準備物などの確認をしておく。(1時間) | | | | |
| 13 | 健康教室での現場実習(8) | 前回の反省をもとに、後期高齢者を対象とした施設内での運動プログラムの作成と教室を実施します | | | | 運動プログラムを作成する。準備物などの確認をしておく。(1時間) | | | | |
| 14 | フィードバックと評価 | 健康教室開催後のまとめを発表し、相互検討します | | | | 全体評価と自己評価にわけ、発表内容を考えスライドを作成する。(1時間) | | | | |
| 15 | 卒業論文のテーマを探す | これまでの学習や討議を元に、卒業論文作成に向け自分のテーマについて発表し検討しあいます | | | | 発表資料を用意する。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 講義内容に応じて資料をその都度配布します。 | | | 受講態度：50% 課題：50% 実習に向けた指導案作成および実習での取り組み姿勢を受講態度として評価します。各課題については授業の中で説明します。95%以上のより高いレベルに達すればS、80%以上の理解度をA、70%以上をB、60%以上をCとします。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| テキストに準ずる | | | 加齢による体力の変化、男性・女性が有する特有の悩みなどを具体的に学びます。興味を持って学ぶことを目的とします。無断欠席や遅刻を厳禁とします。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------|--|------|------|---|----|-----------------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36071 | 研究室 | S-19 |
| 担当者 | 中島 節子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オイスア- | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 地域や学校などで健康増進が取り組まれています。その現状を知り、課題解決に向けてどのような方策が行われているのか理解を深めます。また、実際に保健・医療・福祉が人々にどのようにかかわっているのか、どのような職種の人がいるのかを知ることで、将来の健康づくりのための地域や学校現場、施設などで連携するのに役立ちます。健康に関する現状を知り、実際に人々とかかわりながら実践につなげていきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 健康づくりのための課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を理解することができる。 ゼミナールの中でのディスカッションを通して議論の仕方や論理的思考力や批判的思考力を身につけることができる。 プレゼンテーション能力を身につけることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 健康に関する現代的な課題を理解し、実際に医療・福祉施設や学校等の現場を訪問することで見聞を広め、卒業研究のテーマを絞っていきます。またディスカッションやプレゼンテーションを取り入れながら個々の能力を高めていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 課題解決のテーマ | 各自が先行研究などを調べた結果、自分は何を明確にしたいのかを発表し、お互いに意見交換を行います。 | | | | | 自己の課題について、発表準備をする。(1時間) | | | |
| 2 | 課題解決の方法 | 課題を解決するためにどのような方法が良いのか検討、修正し、その方法を学びます。 | | | | | 方法についての資料を集め学習する。(1時間) | | | |
| 3 | プレゼンテーションの作成方法 | プレゼンテーションの作成方法を学びます。 | | | | | 決められたテーマでプレゼンテーションを作成する。(1時間) | | | |
| 4 | 論文の書き方 | 基礎教養の学習と小論文の書き方を学びます。 | | | | | 問題の復習予習を行います。(1時間) | | | |
| 5 | 論文の添削 | 基礎教養の学習と小論文を書いたものをお互いに添削します。 | | | | | 問題の復習予習を行います。(1時間) | | | |
| 6 | 集団討議 | 事例についての集団討議を行います。 | | | | | 課題について学習してきます。(1時間) | | | |
| 7 | 模擬授業、事例 | ロールプレイングなどでミニ授業を展開し、お互いに検討します。 | | | | | 課題について学習してきます。(1時間) | | | |
| 8 | 文献の検討 | 健康教室のテーマについての資料を探し、分析し健康教室の目的を明確にします。 | | | | | 資料を読み込みそれぞれに指導案を考えること。(1時間) | | | |
| 9 | 体験計画を立てる | 体験したい内容、場所を決め、資料収集、行動計画を立案する。 | | | | | 資料収集、行動計画の立案をする。(1時間) | | | |
| 10 | 体験しよう | 地域、学校、病院、施設などで自分の興味のある場所で現場実習した内容をまとめ報告し、共有します。 | | | | | 実習先の概要を調べていきます。実習での学びをまとめます。(1時間) | | | |
| 11 | 体験しよう | 地域、学校、病院、施設などで自分の興味のある場所で現場実習した内容をまとめ報告し、共有します。 | | | | | 実習先の概要を調べていきます。実習での学びをまとめます。(1時間) | | | |
| 12 | 体験しよう | 地域、学校、病院、施設などで自分の興味のある場所で現場実習した内容をまとめ報告し、共有します。 | | | | | 実習先の概要を調べていきます。実習での学びをまとめます。(1時間) | | | |
| 13 | 研究テーマの検討 | これまでの学習や討議をもとに、卒業研究のテーマを決めていきます。個別指導を行います。 | | | | | 研究テーマに関する資料を探す。(1時間) | | | |
| 14 | 研究テーマの検討 | これまでの学習や討議をもとに、卒業研究のテーマを決めていき、関連する資料収集を行います。個別指導を行います。 | | | | | 研究テーマに関する資料を探す。(1時間) | | | |
| 15 | 卒業研究のテーマ発表 | 各自が考えた卒業研究のテーマと研究方法を発表し、意見交換しながら検討します。 | | | | | 発表資料を作成する。(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 必要に応じて資料等を配布します。 | | | | | レポート:50% 課題:50% 課題:50% 出席レポート:50% 受講態度は、意見交換時の積極性や外部での見学時の態度も含めます。レポートは、作成と発表を含めて評価します。S:授業内容を高度に理解し、探究心をもち自発的に行動できる。A:授業内容を理解し、自発的に行動できる。B:授業内容のおおよそを理解し、行動できる。C:授業内容の60%は理解でき、人に促されて行動する。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 必要に応じて紹介します。 | | | | | 新聞やニュースなどで取り上げられている健康問題や保健・医療・福祉の現状に関心を持ってください。実習では、事前準備を行い、積極的にかかわり、失礼のないように接遇を身につけて臨んでください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------|--|--|------|------|--|--------|---------|-----|--|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | SL36071 | 研究室 | |
| 担当者 | 小松 茂美 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習では、スポーツ健康演習の学習を踏まえ、スポーツを取り巻く状況について考察しながら、スポーツの指導に関する方法や課題についても、探究します。そして、こうした学習を通して、スポーツ活動に対する課題や問題意識を掘り起こし、認識を深めながら、スポーツの指導に関する知識や技能を高め、スポーツに関わることの意識向上を図ります。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツ活動の現場に関する課題を見出し、その課題解決に向けた対応力の向上を目指します。また、課題の洗い出しや課題解決に向けたディスカッションをとおして、建設的な議論の在り方を学ぶとともに、プレゼンテーション能力などを向上させることを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 様々なスポーツ活動の実践事例や先行研究などの資料を利用して授業を進めます。また、ディスカッションや共同で取り組む時間も多く、主体的に取り組む姿勢が不可欠です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス及び課題発表会 | 主として学校現場に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について、発表・討議します。 | | | | 学習の見通しをまとめてくる。発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間) | | | | |
| 2 | 課題発表会 | 主としてスポーツの指導方法に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について、発表・討議します。 | | | | 発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する(1時間) | | | | |
| 3 | 課題発表会 | 主としてスポーツ全般に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。 | | | | 発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する(1時間) | | | | |
| 4 | スポーツ指導に必要な運動構造の分析 | 歩く、走る等の基礎的な運動構造の分析の仕方について学び、相互に指導し合う実習を通し理解を深めます。 | | | | 事前に運動学の復習をしておく。授業後は要点をまとめる。(1時間) | | | | |
| 5 | スポーツ指導に必要な運動構造の分析 | 主としてクロズスキルに関する運動構造の分析の仕方について学び、相互に指導し合う実習を通し理解を深めます。 | | | | 事前に運動学の復習をしておく。授業後は要点をまとめる。(1時間) | | | | |
| 6 | スポーツ指導に必要な運動構造の分析 | 主としてオープンスキルに関する運動構造の分析の仕方について学び、相互に指導し合う実習を通し理解を深めます。 | | | | 事前に運動学の復習をしておく。授業後は要点をまとめる。(1時間) | | | | |
| 7 | スポーツ指導に必要な運動構造の分析 | 基礎体力向上に繋がる運動(トレーニング内容)について、考察・討議します。 | | | | 各自が持っている知識や情報を整理しておく。授業後は分野別にまとめる。(1時間) | | | | |
| 8 | スポーツとは何か | 学校体育が、私達の生活にどのような影響を与えているのか、どのような影響を及ぼす可能性があるのかについて、考察・討議します。 | | | | テーマについて事前学習をする。討議された内容をまとめる。(1時間) | | | | |
| 9 | スポーツとは何か | 地域のスポーツ活動が、私達の生活にどのような影響を与えているのか、どのような影響を及ぼす可能性があるのかについて、考察・討議します。 | | | | テーマについて事前学習をする。討議された内容をまとめる。(1時間) | | | | |
| 10 | スポーツとは何か | 「私達の生活にスポーツはなぜ必要なのか」というテーマについて考察・討議します。 | | | | テーマについて事前学習をする。スポーツの果たす役割をまとめる。(1時間) | | | | |
| 11 | 卒業研究テーマの模索 | これまでの学習や討議を元に、卒業研究のテーマを模索し、参考になると思われる資料について検討します。 | | | | 卒業研究のテーマを考え、それに関する資料収集を始める。(1時間) | | | | |
| 12 | 卒業研究テーマの模索 | これまでの学習や討議あるいは、前時に検討した内容を元に、卒業研究のテーマを決めます。 | | | | 卒業研究のテーマを考え、それに関する資料収集を始める。(1時間) | | | | |
| 13 | テーマ発表 | 学校現場に関する卒業研究テーマを設定した人のテーマ発表を聞き、全員で検討します。 | | | | 発表資料を用意する。テーマについてレポートにまとめる(1時間) | | | | |
| 14 | テーマ発表 | スポーツの指導方法に関する卒業研究テーマを設定した人のテーマ発表を聞き、全員で検討します。 | | | | 発表資料を用意する。テーマについてレポートにまとめる(1時間) | | | | |
| 15 | テーマ発表 及びまとめ | スポーツ全般に関する卒業研究テーマを設定した人のテーマ発表を聞き、全員で検討します。各自のテーマを確認します。 | | | | 発表資料を用意する。テーマについてレポートにまとめる(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「講義内容に応じて、資料を配布します。」 | | | 課題：50% 受講態度：50% 課題の内容はその過程も含み、受講態度はディスカッションなどの学習状況及び学内での活動、学外での実習等の活動状況も含み評価します。Sは上記の全ての内容が優れているもの。Aは良好だったもの。Bは概ね良好だったもの。Cは全ての内容に取り組みえたものとしします。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「課題に応じた参考書や資料に関するアドバイスをします。」 | | | 自分の意見を述べ合ったり、実習をしたりしながら、授業を展開していきますので、自ら問題意識を持ち、主体的・積極的に授業に参加し、学習を進める姿勢が重要です。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------|-----------------------------------|------|--|----------------|-----------------------------|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ健康演習 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | SL36071 | 研究室 | N-05 |
| 担当者 | 丸山 文男 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オイスター | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 1,2年次に学んだ基礎的な知識をもとに, スポーツと力学, スポーツと気象の教科書の輪読を行い, 関心のあるテーマを見つけ, 卒論のテーマを決めます. | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| スポーツと力学, スポーツと気象についての理解を深め, 関心のあるテーマを見つけ, 研究計画を立てることです. | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 前期に続いて, スポーツと力学, スポーツと気象の教科書の輪読を続け, 4年時の「卒業論文」のテーマを探します. | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | レポート報告会(2) | 前回の報告会の結果を受け, 夏休み中に深めたレポートを発表します. | | | | レポート発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 2 | スポーツと物理(6) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 3 | スポーツと物理(7) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 4 | スポーツと物理(8) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 5 | スポーツと物理(9) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 6 | スポーツと物理(10) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 7 | スポーツと気象(6) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 8 | スポーツと気象(7) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 9 | スポーツと気象(8) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 10 | スポーツと物理(11) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 発表の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 11 | スポーツと物理(12) | 教科書を輪読し, 内容を説明します. | | | | 教科書を復習し, 卒論のテーマを考えます。(4時間) | | | | |
| 12 | 卒論テーマ探し(1) | 卒論のテーマを考えます. | | | | 教科書を復習し, 研究計画を考えます。(4時間) | | | | |
| 13 | 卒論テーマ探し(2) | 卒論のテーマを考えます. | | | | 教科書を復習し, 研究計画を考えます。(4時間) | | | | |
| 14 | 卒論発表会への参加 | 4年生の発表を聞き参考にします. | | | | 卒論テーマ発表会の準備を行います。(4時間) | | | | |
| 15 | 卒論テーマ発表会 | 卒論テーマ及び研究計画を発表します. | | | | 出された意見をもとに研究計画を練り直します。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 適宜紹介します. | | | | レポート:50% 出席レポート:50% 成績評価は, レポートの内容と, 毎時の発表内容で評価します. S:探究的思考力で取り組み内容が独創的で明確である. A:探究的意欲的に取り組み内容と課題が明確にされている. B:意欲的に取り組み内容が明確にされている. C:意欲的に取り組んでいるが内容の明確性が弱い. | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 適宜紹介します. | | | | 教科書をよく理解し, 調べてみたいテーマを積極的に探します. | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------|--|------|------|----------------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL36072 | 研究室 | S-14 |
| 担当者 | 等々力 賢治 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 木曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 現代スポーツの変化・変貌には著しいものがあります。にもかかわらず、それを対象とする諸研究が、スポーツの独自性や価値などを十分に踏まえたものであるとは必ずしも言えません。本演習では、その不十分さを押さえつつ、スポーツビジネス及び現代スポーツが抱える諸問題を追究し、解決方法を探ったものを「卒業論文」としてまとめるべく取り組みます。そのために、テーマや章立てを考工工夫していくことにくわえ、課した執筆内容を適宜提出してもらい添削した上で返却することを繰り返します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 本演習の学習到達目標は、履修者の興味・関心を大切にしつつ、テーマ設定や章立ての方法などについて理解し、参考資料の収集・引用方法などを修得することが第一です。さらに、それを基にゼミメンバー間での能動的な論議を通じて文章作成に取り組み、より充実した「卒業論文」を作成するために必要な能力を高めることが最終的な目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本演習では、「卒論」執筆に必要な事柄を学んだ上で実際に書き始め、節目節目で報告して議論し、それを参考に修正を加えていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本演習の学習計画・内容などを把握した上で、ゼミ長・副ゼミ長などを決め、次時以降の自主的運営について共通理解を図ります。また、3年次に取り組んだ「卒論」のテーマ・章立てについて確認します。 | | | | 事前:シラバスをよく読んでおく。事後:「卒論」のテーマ・章立てを確認しておく。(4時間) | | | | |
| 2 | テーマ・章立ての確認 | 3年次の「スポーツ健康演習」で取り組んだ「卒論」のテーマ・章立てについて、各自修正し、あらためて提出してもらいます。その際、まったく構想を変える者については、別途指導、確認します。 | | | | 事前:テーマ・章立てを見直しておく。事後:演習終了時に指示する。(4時間) | | | | |
| 3 | 参考文献・資料について | 参考文献・資料の必要性を確認し、探し方等について共通理解を深めます。関連すると思われる著書や雑誌、過去の「卒論」や新聞記事等を図書館、研究室などで探し、必要ならコピーすることを確認します。 | | | | 事前:前年度の「卒論」に目を通しておく。事後:実際に参考文献・資料を探してみる。(4時間) | | | | |
| 4 | 参考文献・資料の収集(1) | 各自、実際に図書館や研究室などに行って参考になりそうな文献・資料を漁ってみます。その際、掲載文章の末尾に記載されている参考文献・資料に目を通し、役に立ちそうなものをメモしておきます。 | | | | 事前:実際に参考文献・資料を探してみる。事後:探した文献・資料を整理しておく。(4時間) | | | | |
| 5 | 参考文献・資料の収集(2) | 各自、実際に図書館や研究室などに行って参考になりそうな文献・資料を漁ってみます。その際、掲載文章の末尾に記載されている参考文献・資料に目を通し、役に立ちそうなものをメモしておきます。 | | | | 事前:実際に参考文献・資料を探してみる。事後:文献・資料を整理し報告文章を作成する。(4時間) | | | | |
| 6 | 文献・資料の報告準備 | 各自が探した文献・資料の中から代表的なものを選び、その内容について報告し議論に付して意見などをもらいます。そのために、よく読み込んだ上で、要領よくまとめ報告用レジュメを準備します。 | | | | 事前:文献・資料に目を通し内容を把握する。事後:代表的なものを読み込みまとめる。(4時間) | | | | |
| 7 | 文献・資料の報告(1) | 前時に準備した報告用文献・資料について、報告10分、質疑8分程度を目処に、毎時間4名程度、3週にわたって報告し討議します。その際、個別報告の中でも、他に関連する事柄や事項は普遍化を図ります。 | | | | 事前:全員が報告用のレジュメを作成しておく。事後:討議での指摘を受け修正する。(4時間) | | | | |
| 8 | 文献・資料の報告(2) | 準備した報告用文献・資料について、報告10分、質疑8分程度を目処に、毎時間4名程度、3週にわたって報告し討議します。その際、個別報告の中でも、他に関連する事柄や事項は普遍化を図ります。 | | | | 事前:前時の討議を受け必要な修正を行う。事後:討議での指摘を受け修正を加える。(4時間) | | | | |
| 9 | 文献・資料の報告(3) | 準備した報告用文献・資料について、報告10分、質疑8分程度を目処に、毎時間4名程度、3週にわたって報告し討議します。その際、個別報告の中でも、他に関連する事柄や事項は普遍化を図ります。 | | | | 事前:前時の討議を受け修正を行う。事後:全員修正したレジュメを作成し提出する。(4時間) | | | | |
| 10 | 下書き3000字執筆(1) | 前時までのテーマ・章立て、参考文献・資料の収集などを踏まえ、実際に「卒論」の執筆に入ります。とりえず、各自、夏休みまでに3000字を目指して下書きに取り組み、提出します。 | | | | 事前:テーマ・章立てなどを再吟味しておく。事後:各自執筆を進める。(4時間) | | | | |
| 11 | 下書き3000字執筆(2) | 各自、これまでのテーマ・章立て、参考文献・資料収集などを踏まえ、実際に「卒論」の執筆に入ります。とりえず、夏休みまでに3000字を目指して下書きに取り組み、提出することとします。 | | | | 事前:論文執筆を進める。事後:執筆を進める。質問等は、適宜、研究室で意見交換する。(4時間) | | | | |
| 12 | 下書き3000字執筆(3) | 各自、これまでのテーマ・章立て、参考文献・資料の収集などを踏まえ、実際に「卒論」の執筆に入ります。とりえず、夏休みまでに3000字を目指して下書きに取り組み、提出することとします。 | | | | 事前:論文執筆を進める。事後:執筆を進める。質問等は、適宜、研究室で意見交換する。(4時間) | | | | |
| 13 | 脚注、図表の扱いについて | 各自執筆を進める中で引用や用語説明などがあることを想定し、脚注の付け方について指導、確認します。また、図表の利用と挿入方法、タイトルと出所の付け方などについても指導し、確認します。 | | | | 事前:論文執筆を進める。事後:脚注、図表等を確認し、適確に整理、記載していく。(4時間) | | | | |
| 14 | アンケート調査について | 「卒論」執筆を進める中でアンケート調査が必要になった場合を仮定し、その内容や方法などについて指導し、確認します。その際、プライバシーに配慮すること及び、有効性等についてアドバイスします。 | | | | 事前:論文執筆を進める。事後:アンケート調査実施者は、素案を作成し指導を受ける。(4時間) | | | | |
| 15 | 夏休み中の取組の確認 | 執筆した下書き3000字分を提出します。アンケートを行いたい者は、それを持参し、内容や体裁などについて確認し修正します。また、夏休み中執筆を進め、9月末の後期開始時に6000字分を提出します。 | | | | 事前:アンケート実施者は完成させておく。事後:下書き6000字を目指して執筆を進める。(4時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 特に指定せず、適宜紹介します。 | | レポート:70% 課題:30% 成績評価は、「卒業論文」の内容・体裁にくわえ、資料集など取組姿勢も重視します。評価基準は次のとおりです。S:研究目的が明確で独創的であり、関連する先行研究を渉猟し、研究の成果と課題が明示されている。A:研究目的が明確であり、関連する先行研究を把握し、研究の成果と課題が明示されている。B:研究目的が明確であり、研究の成果と課題が明示されている。C:研究目的が示されており、最低限の執筆字数を満たし、研究の成果と課題が示されている。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 各自の研究内容に則した書籍・資料等を適宜紹介しますが、自分の研究に関するものを常日頃から意識的に探し、読み漁ってください。 | | 「卒業論文」執筆は学生生活の仕上げでもあり、積極的に取り組むよう強く求めます。また、Jリーグ松本山雅のホームゲームへのボランティアを予定していますので、その際は積極的に参加してください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------|--|------|--|----------------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL36072 | 研究室 | S-23 |
| 担当者 | 犬飼 己紀子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 火曜日4限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 「人間の生きがい」や「豊かさ・快さ」は人々の健康観とどのように関係しあっているのでしょうか。その健康観を支える地域社会の創造に向けた組織づくりや事業計画、また活動を継続する環境の設定等、3年次までの活動体験から得た具体事例を振り返り、自らの課題を明確にして、卒業研究に取り組みます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 何を課題として、どのように探り、何がわかったのか、今後どのように生かしていくのかについて章立てをして論述し、卒業論文として仕上げます。また、研究の成果を、聞く人に分かりやすくプレゼンテーションすることを目指します。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| テーマを設定するまでに十分な討議を重ね、問題・課題意識を明確にします。活動の運営、研究方法、資料検索等テーマ課題に合うやり方をゼミナールの仲間と討議・共有し合い、論述する力と発表時の表現力を身につけていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 卒業論文作成の意味 | 1年間の研究活動の流れについて確認します。卒業論文にまとめる意味と価値を理解し、それぞれが研究に関心を抱き、主体的に取り組む姿勢を持つようにします。 | | | | 3年次に積んだ体験を踏まえ、自身の課題を明確にし、年間計画を立てる。(4時間) | | | | |
| 2 | グループ討議 | 3年次に課題としたテーマを振り返り、発見した課題を出しあい、自分の関心のあるテーマを絞り込んでいきます。 | | | | 研究テーマを絞るための関心事を研究の動機として文章化し、報告できるようにする。(4時間) | | | | |
| 3 | 相互検討、意見交換 | 研究テーマ、題材についてゼミ内で発表します。仲間の意見を参考に、先行研究や文献を探るなど、情報の収集をします。研究のねらいと根拠を明確にしていきます。 | | | | 関連資料、先行研究の収集。進展状況の報告ができるよう、常に研究テーマへの意識を持つ。(4時間) | | | | |
| 4 | 研究の方法 | 先行研究や文献を探るなど、情報の収集をします。各自の研究テーマに沿って方法の検討をします。対象や団体がある場合は現状を知るなど研究の立脚点を明確にします。 | | | | 関連資料、先行研究の収集。進展状況の報告ができるよう、常に研究テーマへの意識を持つ。(4時間) | | | | |
| 5 | 資料・データ収集 | 収集した文献資料等を整理し関連付けします。各自の研究テーマに沿って資料活用を検討をします。対象や団体がある場合は問い合わせを訪問するなど各自研究を進めます。 | | | | 必要資料を整理すること。進展状況の報告ができるよう、研究テーマへの意識を持つ。(4時間) | | | | |
| 6 | 研究への取り組み中間報告 | 各自の研究計画で進めます。ゼミ学生の研究テーマに関心をもち役立ち情報の提供をし合います。仲間の報告を積極的に聴き、意見交換をして進めます。 | | | | 計画に沿って研究を進める。(4時間) | | | | |
| 7 | 研究への取り組み中間報告 | 各自の研究計画で進めます。ゼミ学生の研究テーマに関心をもち役立ち情報の提供をし合います。仲間の報告を積極的に聴き、意見交換をして進めます。 | | | | 計画に沿って研究を進める。(4時間) | | | | |
| 8 | 研究への取り組み中間報告 | これまでのまとめや、迷い、新たな課題を中間報告として交換します。それぞれの進捗状況を順次報告します。仲間の報告を積極的に聴き意見交換をして進めます。 | | | | 研究の方向性、方法を再確認する。個別の指導を受ける。(4時間) | | | | |
| 9 | 研究への取り組み中間報告 | 各自の研究計画で進めます。仲間の報告を積極的に聴き意見交換をして互いに助言し合います。これまでのまとめや、迷い、新たな課題を中間報告の場で協議しながら進めます。 | | | | 進展具合を確認し、必要な見直しをする。(4時間) | | | | |
| 10 | 研究への取り組み中間報告 | それぞれの研究方法で進めます。データ・資料収集・分析を始めます。これまでのまとめをし、迷いや新たな課題に向かいます。 | | | | 研究経過を中間レポートとして書き留める。(6時間) | | | | |
| 11 | 研究への取り組み中間報告 | 各自の研究計画で進めます。データ・資料収集・分析など互いの進捗状況を報告し意見交換をします。 | | | | 研究経過を中間レポートとしてまとめていくこと。(6時間) | | | | |
| 12 | 研究への取り組み中間報告 | それぞれの研究方法で進めます。データ・資料収集・分析など互いの進捗状況を報告し意見交換をします。 | | | | 研究経過を中間レポートとしてまとめ、ゼミ内で行う報告会の準備をすること。(4時間) | | | | |
| 13 | 中間報告と今後の計画 | 前期中の取り組みをゼミ内で報告します。ゼミ学生の発表を聞き、質問や提案、感想などを交換し、夏季休暇に向けて後半の研究の進め方の目標を定めます。 | | | | ゼミ学生や教員の意見をもとに研究の方向や流れを再構築すること。(4時間) | | | | |
| 14 | 中間発表と今後の計画 | 前回の中間発表を受けて再構築した今後の計画を再度報告します。ゼミ学生の計画を確認し、活動サポートが必要な場合は互いに協力し合うなど、以後の計画を立てます。 | | | | 夏季休暇中の研究の方法と計画を組み立てること。(2時間) | | | | |
| 15 | 中間報告の見直しと今後の計画 | 中間発表で指導教員やゼミ学生からのフィードバックで得た意見を、夏季休暇以降の研究活動に落とし込み、今後の研究計画書を作成します。 | | | | 章立てに沿って、諸言・研究の動機について文章化する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「大学生のためのレポート・論文術」小笠原喜康著 ISBN:4-06-149603-4 (別途、指示します。) 研究の方向に沿う論文・書籍等、適宜紹介します。 | | | | 出席レポート:20% 課題:30% レポート:50% S:多面的に情報収集を行い、計画的に研究を進める。A:課題を明確にし、必要な調査・資料収集など計画的に進めている。B:計画的に研究を進め、中間発表にまとめ発表した。C:課題を明確にすることに手間取ったが、周囲から助力を得て、進めている。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 別途指示します。 | | | | 社会に意識向け、関心を持ち問題・課題を発見する目を養います。課題を明確にし、関連資料の収集・必要な実践体験と記録を基に、常に探求心をもって取り組みましょう。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------|---|-----------------|--|------|---------------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL36072 | 研究室 | S-16 |
| 担当者 | 江原 孝史 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 3年次の学習を基礎として、さらにそれを発展させて卒業論文にまとめます。テーマとしては、大学生の生活習慣、睡眠とスポーツ、睡眠障害、疲労の原因と疲労回復素材についてなど、アンケートとさまざまな機器を用いて客観的なデータをとりながらまとめてゆきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 資料とデータのまとめから、文章表現力、論文の書き方、論理的な思考ができる。学生同士のディスカッションを通して、他人の考え方を受け入れるとともに、自分の意見の表出ができるようになること。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 個々に対応しながら、適宜全体でディスカッションしていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 全体の流れをつか | 年間のスケジュールをみて、研究テーマと計画をたてて計画書の作成にとりかかります。 | | | | どんなテーマについての研究をするかアイデアを練る。(4時間) | | | | |
| 2 | 研究テーマの検討 | さまざまなテーマの中から自分にあったもの、興味をひかれるものをいくつか選びます。 | | | | テーマについて思いついたものをメモしておく。(4時間) | | | | |
| 3 | 研究テーマの吟味 | 研究テーマが実現可能なものか、方法をどうするか慎重に吟味します。 | | | | 過去の先行研究を調べてみる。(4時間) | | | | |
| 4 | 研究テーマの最終検討 | 実現可能なテーマについて最終的に詰めてゆく、研究方法、手段などについて調べます。 | | | | 研究方法の種類を調べる。(4時間) | | | | |
| 5 | 発表と討論 | 資料等を用いてテーマのプレゼンテーションを行い、仲間の意見を聞きお互いの意見交換をします。 | | | | プレゼンテーション準備(4時間) | | | | |
| 6 | プレゼンの反省と再検 | プレゼンテーション時にでてきた問題点を洗い出し、個別指導します。 | | | | 問題点の整理(4時間) | | | | |
| 7 | データ収集(1)分析機器 | データを集めるための準備、装置等のチェックと点検、作動の確認をします。 | | | | それぞれの測定機器の取扱説明書をよく読んでおく。(4時間) | | | | |
| 8 | データ収集(2)アンケート | アンケートの収集の準備、項目立てとアンケート原稿を作成します。 | | | | アンケートでどんな内容を聞いたらいかがか考えておく。(4時間) | | | | |
| 9 | データ収集 | 分析機器(スパイロメーター、パルスオキシメーターなど)の使用とアンケートを実施します。 | | | | データの管理(4時間) | | | | |
| 10 | データのまとめ | 得られたデータ(一秒量、動脈血酸素飽和度など)をまとめます。 | | | | データの整理(4時間) | | | | |
| 11 | データの解析 | 得られたデータを解析して、それが十分なものが吟味します。 | | | | 解析方法をあらかじめ検討しておく。(4時間) | | | | |
| 12 | データの解析と再収集 | データを解析し足りないデータがあれば補充します。 | | | | データのチェックと補充(4時間) | | | | |
| 13 | 論文作成準備 | 得られたデータ、資料から論文にまとめられるか調べます。 | | | | 文献を調べる(4時間) | | | | |
| 14 | 論文の構成 | 論文のおおまかな組み立てを考えます。 | | | | いろいろな論文の書き方を調べる。(4時間) | | | | |
| 15 | 論文作成 | 予備的な論文を書いてみる、細かいことにはこだわらず最後まで書きます。 | | | | 原稿の推敲(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「現代生命科学」東京大学生命科学教科書編集委員会編(羊土社) ISBN:978-4-7581-2053-1 | | | | 課題:100% S:課題に積極的に取り組みかつ質問し、課題の内容が特に優れている。A:課題に積極的に取り組みかつ質問し、課題の内容が優れている。B:課題に誠実に取り組み、課題の内容も良である。C:課題の内容が可である。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病」田中 逸著(日本医事新報社) ISBN:978-4-7849-5396-7 | | | | 時間のかかるそして学生生活でもっとも大きな仕事になります。あせらずにじっくりと取り組むことが大事です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-----------------|---|-----------------|------|---|----------------|-----------------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL36072 | 研究室 | S-22 |
| 担当者 | 中島 弘毅 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>今までの学習をベースに設定した研究テーマに沿って、どのように解決して行くかを学びます。具体的には、テーマに関する資料を収集し、読み込みます。その資料の分析を通して、自らの主張を論理的に展開し、卒論を仕上げます。今までの学習をベースに各自がテーマを設定します。テーマに関する資料を収集し、読み込みます。その資料の分析を通して、自らの主張を論理的に展開し、まとめて行きます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 設定した課題に対して、適切な方法を用いて課題を解決してゆく力、論理的に文を組み立て、表現する力を身につけます。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 前半は、研究計画を策定します。同時に関係する資料を収集し、読み込んでいきます。後半においては、収集した資料を用いて論文を完成させます。各授業時に、それぞれの進捗状況を報告し、全員で議論をしていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 研究計画の策定 | 各自の研究テーマの確認とこれからの研究計画を立てます。 | | | | | 研究計画を考え、まとめます。(4時間) | | | |
| 2 | 先行研究について | テーマに関係する論文を集め、主要参考文献をリストアップします。 | | | | | 論文検索をします。(4時間) | | | |
| 3 | 研究方法の検討 | 参考文献を基にしながら、研究目的に最適な研究方法を策定します。 | | | | | 研究方法を策定します。(4時間) | | | |
| 4 | 研究方法の検討(2) | 参考文献を基にしながら、研究目的に最適な研究方法を策定します。 | | | | | 研究方法を策定します。(4時間) | | | |
| 5 | 章立てについて | 全体の構成を考え、章立てをします。 | | | | | 章立てを考えます。(4時間) | | | |
| 6 | 章立てについて(2) | 全体の構成を考え、章立てをしたものを検討します。 | | | | | 章立てを考えます。(4時間) | | | |
| 7 | アンケート調査について | 調査票作成の仕方について学習します。 | | | | | 調査票を作成します。(4時間) | | | |
| 8 | 調査票の作成 | 調査票を作成し、完成させます。 | | | | | 調査票を完成させます。(4時間) | | | |
| 9 | データの入力方法について | パソコンを使用してのエクセルへのデータ入力方法について学びます。 | | | | | 統計的分析方法を学習します。(4時間) | | | |
| 10 | 統計処理の仕方について | 有意差検定の種類と概要について学びます。自分の研究にあった統計処理方法を理解します。 | | | | | 有意差検定の種類と概要について復習します。(4時間) | | | |
| 11 | 有意差検定について | 自分の研究でどのような方法で有意差検定を行うのかを学び、その方法について学びます。PCによるSPSSを利用した統計処理方法を学びます。 | | | | | 統計的分析方法を学習します。(4時間) | | | |
| 12 | 中間発表用のスライド作り | 中間発表に向けてスライド作りを行います。 | | | | | 中間発表用のスライドを作成します。(4時間) | | | |
| 13 | 中間発表用のスライド作り(2) | 中間発表に向けて作ったスライドをゼミ内で発表し、プレゼンテーションの練習をすると共に卒論をより良いものに仕上げてください。 | | | | | 中間発表用のスライドの修正をします。(4時間) | | | |
| 14 | 議論&執筆(1) | 各自が書き上げてきたところ、進行状況をゼミ内で発表し、全員で議論します。議論の結果を受けて内容を修正してゆきます。 | | | | | 各自論文の執筆・修正をします。(4時間) | | | |
| 15 | 議論&執筆(2) | 各自がデータの分析状況、論文の執筆状況を提出し、ゼミ内で発表します。全員で議論し、議論の結果を受けて内容を修正します。また、今後の予定を練り直します。 | | | | | 各自論文の執筆・修正をします。今後の予定を練り直します。(4時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「レポートの組み立て方」 木下是雄著(ちくまライブラリー) | | | | | 課題:30% レポート:50% 受講態度:20% 卒業論文を主とし、ゼミ及びゼミ活動への参加状況及び取り組み(意欲)を総合して評価します。S:95点以上 A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「「アクセプトされる英語医学論文を書こう」」ネル・L・ケネディ著(メジカルビュー社) | | | | | 問題意識を明確にし、積極的に議論をし、卒業論文を完成させましょう。入力・分析・執筆作業は授業時間外に行うことが求められます。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------------------|--|-----------------|---|------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL36072 | 研究室 | S-21 |
| 担当者 | 根本 賢一 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 卒業研究論文を完成させることを通して、課題解決のための研究の計画、研究の方法、データ処理・解析方法と技術、結果の考察、論文のまとめ方、発表技術などを総合的に学習することを目標とします。これまでに展開されてきた関連科目や「スポーツ健康演習」で学んだ内容を基に、各自が研究テーマとして選択した内容をさらに追求していきます。まず問題が提起され、どのような資料から、どんな結果が得られ、どのような結論が導きだされたかを、客観的に・論理的にまとめていきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことが最大の目標となります。また同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力の獲得や向上も広い意味の学修目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 研究計画の立案と実施をし、毎週の授業時にはその経過を発表し議論をしていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 卒業論文作成スケジュールの確認 | 卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。 | | | | 事前に研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を完成する(4時間)。 | | | | |
| 2 | 研究テーマの再確認 | 研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、自分の置かれている状況に照らし合わせて、現実的に可能かどうか再確認します。 | | | | 事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す(4時間)。 | | | | |
| 3 | 研究テーマの検討(1) | 各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、その発表内容について相互に検討する。 | | | | 発表者は発表準備をしておく。発表された内容について、自分なりに調べてみる(4時間)。 | | | | |
| 4 | 研究テーマの検討(2) | 各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、その発表内容について相互に検討する。 | | | | 発表者は発表準備をしておく。発表された内容について、自分なりに調べてみる(4時間)。 | | | | |
| 5 | 研究テーマの検討(3) | 各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、その発表内容について相互に検討する。 | | | | 発表者は発表準備をしておく。発表された内容について、自分なりに調べてみる(4時間)。 | | | | |
| 6 | 研究テーマの最終検討と資料・データの収集(1) | 研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて、資料・データ収集(準備を含む)を開始する。 | | | | 検討結果を受けて最終的なテーマ設定をする。資料・データ収集の準備に取りかかる(4時間)。 | | | | |
| 7 | 資料・データの収集(2) | 資料・データ収集に関して個別指導をします。 | | | | 各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる(4時間)。 | | | | |
| 8 | 資料・データの収集(3) | 資料・データ収集に関して個別指導をします。 | | | | 各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる(4時間)。 | | | | |
| 9 | 論文構成を考える。資料・データの収集(4) | 論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。 | | | | 事前に論文構成を考える。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる(4時間)。 | | | | |
| 10 | 章立てを検討する。資料・データの収集(5) | 章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関しても個別指導をします。 | | | | 章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる(4時間)。 | | | | |
| 11 | 章立ての最終検討と決定。論文の書き方(1) | 章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。 | | | | 章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する(4時間)。 | | | | |
| 12 | 論文の書き方(2)および、論文の初稿を作成する(1) | 論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに(研究の動機・目的)」の作成に取りかかります。 | | | | 論文の書き方を理解し、第1章を執筆する(4時間)。 | | | | |
| 13 | 論文の初稿を作成する(2) | 第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。 | | | | 事前に第1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する(4時間)。 | | | | |
| 14 | 論文の初稿を作成する(3) | 第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。 | | | | 事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する(4時間)。 | | | | |
| 15 | 夏休みの研究・執筆計画を立てる。 | 研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。 | | | | 夏休みにやるべき内容についてまとめる(4時間)。 | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 各回こちらでポイントを記したプリントを用意します。 | | | | 課題:100% 課題について:S:きわめて高度に課題を仕上げている。A:高度に課題を仕上げている。B:良好に課題を仕上げている。C:課題を仕上げている。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村慎一・山次俊介著(杏林書院) ISBN:978-4-7644-1162-3 | | | | 卒業研究はやらされるものではなく、自ら積極的に取り組むものです。4年間の集大成という気持ちで全力で取り組んでください。毎回の講義終了前に、次回講義の概要や予習等について説明をします。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------------------|--|------|--|----------------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL36072 | 研究室 | S-13 |
| 担当者 | 岩間 英明 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 火曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習は3年次の健康演習をはじめ、これまでの学習を基礎として研究を深めながら、卒業論文のデータや資料をまとめます。卒業研究の方向性は、保健体育授業、体育的行事、運動部活動など、学校におけるスポーツ活動や健康教育全般に関する内容。実技指導などの運動方法に関する内容。の大ききは2つの分野が中心となりますが、体育・スポーツだけでなく、学校が抱える今日的課題や、生徒指導に関わる問題も含め、学校教育全体・スポーツ界全体にも目を向け、広い視野から考察をすすめていきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことが最大の目標となります。また同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力の獲得や向上も広い意味の学修目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 各自の研究テーマに応じてそれぞれ個別に指導することが多くなりますが、各自の研究を受講者全体で相互に議論する機会も設定し、問題の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 卒業論文作成スケジュールの確認 | 卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。 | | | | 事前に研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を完成する。(4時間) | | | | |
| 2 | 研究テーマの再確認 | 研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、自分の置かれている状況に照らし合わせて、現実的に可能かどうか再確認します。 | | | | 事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。(4時間) | | | | |
| 3 | 研究テーマの検討(1) | 各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、その発表内容について相互に検討する。(担当は1班) | | | | 発表者は発表準備をしておく。発表された内容について、自分なりに調べてみる。(4時間) | | | | |
| 4 | 研究テーマの検討(2) | 各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、その発表内容について相互に検討する。(担当は2班) | | | | 発表者は発表準備をしておく。発表された内容について、自分なりに調べてみる。(4時間) | | | | |
| 5 | 研究テーマの検討(3) | 各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、その発表内容について相互に検討する。(担当は3班) | | | | 発表者は発表準備をしておく。発表された内容について、自分なりに調べてみる。(4時間) | | | | |
| 6 | 研究テーマの最終検討と資料・データの収集(1) | 研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて、資料・データ収集(準備を含む)を開始する。 | | | | 検討結果を受けて最終的なテーマ設定をする。資料・データ収集の準備に取りかかる。(4時間) | | | | |
| 7 | 資料・データの収集(2) | 資料・データ収集に関して個別指導をします。 | | | | 各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。(4時間) | | | | |
| 8 | 資料・データの収集(3) | 資料・データ収集に関して個別指導をします。 | | | | 各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。(4時間) | | | | |
| 9 | 論文構成を考える。資料・データの収集(4) | 論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。 | | | | 事前に論文構成を考えてくる。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。(4時間) | | | | |
| 10 | 章立てを検討する。資料・データの収集(5) | 章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。 | | | | 章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。(4時間) | | | | |
| 11 | 章立ての最終検討と決定。論文の書き方(1) | 章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。 | | | | 章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。(4時間) | | | | |
| 12 | 論文の書き方(2)および、論文の初稿を作成する(1) | 論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに(研究の動機・目的)」の作成に取りかかります。 | | | | 論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。(4時間) | | | | |
| 13 | 論文の初稿を作成する(2) | 第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。 | | | | 事前に第1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。(4時間) | | | | |
| 14 | 論文の初稿を作成する(3) | 第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。 | | | | 事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。(4時間) | | | | |
| 15 | 夏休みの研究・執筆計画を立てる。 | 研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。 | | | | 夏休みにやるべき内容についてまとめる。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。 | | | | 課題: 20% 卒業研究論文: 80%で評価します。卒業論文はその内容(テーマ、研究方法の適切さ、考察の妥当性、研究目的と結論の整合性)ならびに、その過程を評価対象とします。Sは上記の全ての内容及び過程が優れているもの。Aは内容及び過程が良好だったもの。Bは内容及び過程が概ね良好だったもの。Cは内容がまとまっており、指示された期日に提出できたものとします。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 各自のテーマに応じた参考図書を指示します。 | | | | 課題を自ら探究していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は、自らの研究内容を提示するのはもちろん、仲間の研究にも関心を持つことが、研究を深めます。また、できるだけ多くの関連図書を読むことも重要です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------------|--|------|------|--|----|-----------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL36072 | 研究室 | S-15 |
| 担当者 | 山本 薫 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 卒業研究は、卒業研究スポーツ健康科学演習で学んだ基礎知識を踏まえて運動生理学や実際の運動指導に役立つ専門的知識を活用して自身の興味あるテーマについて自ら調べ、学び、卒業研究(論文)を完成させる。さらにプレゼンテーションの仕方についても学ぶ。また、ゼミの活動や社会の情報を収集を収集することを通して社会性を身につけ、社会人として身につけるべき知識を学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 自分の研究テーマについて仮説を立て、その仮説を検証し、筋道を立てて結論を導くことおよび研究結果を踏まえ、決められた書式に従って文書に記し、他者に対して説明できるようになることを目標とする。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 毎回、各自の卒業研究に関する文献報告や実験測定することを基本に進めます。学外運動指導の依頼を受けて実習も不定期に行います。内容は進行状況や必要性に応じて変更があります。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 卒業研究活動ガイダンス | ゼミでの卒業研究活動についてガイダンス。卒業研究の進め方、文献検索およびまとめレポートについて説明します。(卒論参考文献の提出) | | | | | 自身の卒論テーマに関する文献を見つけ読み込む(4時間) | | | |
| 2 | 研究計画の作成(1) | 研究計画の作成手順を説明します。3年4年合同ミーティング(予定)。 | | | | | 研究計画の資料学習(4時間) | | | |
| 3 | 研究計画の作成(2)or実験測定 | 研究計画作成、添削修正します。参考文献のまとめレポートを発表し全員で討論します。状況に応じて実験・測定を行います。 | | | | | 自身の卒論参考文献を抄読する(4時間) | | | |
| 4 | 研究計画の作成(3)or実験測定 | 研究計画作成、添削修正します。参考文献のまとめレポートを発表し全員で討論します。状況に応じて実験・測定を行います。 | | | | | 自身の卒論参考文献を抄読する(4時間) | | | |
| 5 | 卒論研究計画発表会 | ゼミ内にて卒論研究計画についてディスカッションします。倫理チェックについて学びます。 | | | | | 卒論研究計画発表準備(4時間) | | | |
| 6 | 文献報告or実験測定(1) | 卒論研究計画にそって各自の実験測定を進めます。 | | | | | 卒論研究計画を完成させる(4時間) | | | |
| 7 | 文献報告or実験測定(2) | 卒論実験測定の実施や参考文献まとめレポートの発表およびディスカッションを通じて知識を深めます。 | | | | | 卒論進捗報告と参考文献まとめ作成(4時間) | | | |
| 8 | 文献報告or実験測定(3) | 卒論実験測定の実施や参考文献まとめレポートの発表およびディスカッションを通じて知識を深めます。 | | | | | 卒論進捗報告と参考文献まとめ作成(4時間) | | | |
| 9 | 文献報告or実験測定(4) | 卒論実験測定の実施や参考文献まとめレポートの発表およびディスカッションを通じて知識を深めます。 | | | | | 卒論進捗報告と参考文献まとめ作成(4時間) | | | |
| 10 | 文献報告or実験測定(5) | 卒論実験測定の実施や参考文献まとめレポートの発表およびディスカッションを通じて知識を深めます。 | | | | | 卒論進捗報告と参考文献まとめ作成(4時間) | | | |
| 11 | 文献報告or実験測定(6) | 卒論実験測定の実施や参考文献まとめレポートの発表およびディスカッションを通じて知識を深めます。 | | | | | 卒論進捗報告と参考文献まとめ作成(4時間) | | | |
| 12 | 文献報告or実験測定(7) | 卒論実験測定の実施や参考文献まとめレポートの発表およびディスカッションを通じて知識を深めます。 | | | | | 卒論進捗報告と参考文献まとめ作成(4時間) | | | |
| 13 | 文献報告or実験測定(8) | 卒論実験測定の実施や参考文献まとめレポートの発表およびディスカッションを通じて知識を深めます。 | | | | | 卒論進捗報告と参考文献まとめ作成(4時間) | | | |
| 14 | 卒論進捗報告 | 3,4年ゼミ生合同で卒論の進捗状況を報告します。 | | | | | 卒論の進捗状況報告書を作成します(4時間) | | | |
| 15 | 文献報告or実験測定(9) | 卒論実験測定の実施や参考文献まとめレポートの発表およびディスカッションを通じて知識を深めます。 | | | | | 卒論進捗報告と参考文献まとめ作成(4時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「『各自の先行研究・参考文献』」 「『卒業論文/修士論文の書き方』」 出村慎一・山次俊介著(杏林書院) ISBN:978-4-7644-1162-3 | | | | | 受講態度:60% レポート:40% 卒業研究への取り組み(文献まとめ、実験)60% 卒業研究の内容 40% 総合評価(S:実験結果・文章ともによくまとまって書けている。A:実験結果・文章ともによくまとまって書けている。B:実験結果はよくまとめている、文章は不十分。C:実験結果・文章ともに不十分。D:実験結果・文章ともに評価するに値せず) | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「各自の参考文献」 | | | | | レポートや結果報告はワードを使用し、データにて期限内に提出すること。プレゼンテーションはパワーポイントを使用する。連絡や卒論文章やデータのやり取りは大学のメールアドレスを活用する。確認すること | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------|---|------|------|--|----|--|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL36072 | 研究室 | S-18 |
| 担当者 | 新井 喜代加 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 月曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 受講生個々人が興味・関心をもつ体育およびスポーツにおける法、行政、政策、マネジメントおよびジェンダー等に関する問題に焦点をあて、「スポーツ健康演習」で学んだ基礎理論や分析・研究方法を生かして、研究課題を設定して、それに取り組み、その成果を卒業論文として纏めます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 関心を寄せる体育およびスポーツに関する問題に向き合い、体育およびスポーツに関する法、行政、政策、マネジメントおよび/或はジェンダー等の専門的知識を活かして、その解決策を卒業論文として示すことができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 受講生個々人が設定した研究テーマについて調査・発表し、討議を通じて問題の所在とその解決策の明確化を図ります。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業目標、授業計画、授業の進め方、評価方法、詳細な留意事項等について解説します | | | | | シラバスを読む/事後:授業のルールを確認し、関心のあるテーマについて調べる(8時間) | | | |
| 2 | 卒業研究テーマの設定1 | 討議を通じて研究のテーマ、方法および課題を絞り込みます | | | | | 関心のある研究テーマについて調べる/事後:関心のある先行研究を収集する(8時間) | | | |
| 3 | 卒業研究テーマの設定2 | 討議を通じて研究のテーマ、方法および課題を絞り込みます | | | | | 関心のある研究テーマについて調べる/事後:関心のある先行研究を収集する(8時間) | | | |
| 4 | 卒業研究テーマの設定3 | 討議を通じて研究のテーマ、方法および課題を絞り込みます | | | | | 関心のある研究テーマについて調べる/事後:関心のある先行研究を収集する(8時間) | | | |
| 5 | 卒業研究テーマの設定4 | 討議を通じて研究のテーマ、方法および課題を絞り込みます | | | | | 関心のある研究テーマについて調べる/事後:関心のある先行研究を収集する(8時間) | | | |
| 6 | 卒業研究のアウトラインの設定1 | 討議を通じて論文の章立てを洗練させます | | | | | 論文の章立てを考える/事後:先行研究の検討をしながら章立ても検討する(8時間) | | | |
| 7 | 卒業研究のアウトラインの設定2 | 討議を通じて論文の章立てを洗練させます | | | | | 論文の章立てを考える/事後:先行研究の検討をしながら章立ても検討する(8時間) | | | |
| 8 | 卒業研究のアウトラインの設定3 | 討議を通じて論文の章立てを洗練させます | | | | | 論文の章立てを考える/事後:先行研究の検討をしながら章立ても検討する(8時間) | | | |
| 9 | 卒業研究のアウトラインの設定4 | 討議を通じて論文の章立てを洗練させます | | | | | 論文の章立てを考える/事後:先行研究の検討をしながら章立ても検討する(8時間) | | | |
| 10 | 卒業研究のアウトラインの設定5 | 討議を通じて論文の章立てを洗練させます | | | | | 論文の章立てを考える/事後:先行研究の検討をしながら章立ても検討する(8時間) | | | |
| 11 | 論文の作成1-1 | 討議を通じて考察を深めます | | | | | ゼミで発表する準備をする/事後:発表で頂いた意見等を参考に考察を深める(8時間) | | | |
| 12 | 論文の作成1-2 | 討議を通じて考察を深めます | | | | | ゼミで発表する準備をする/事後:発表で頂いた意見等を参考に考察を深める(8時間) | | | |
| 13 | 論文の作成1-3 | 討議を通じて考察を深めます | | | | | ゼミで発表する準備をする/事後:発表で頂いた意見等を参考に考察を深める(8時間) | | | |
| 14 | 論文の作成1-4 | 討議を通じて考察を深めます | | | | | ゼミで発表する準備をする/事後:発表で頂いた意見等を参考に考察を深める(8時間) | | | |
| 15 | 卒業研究の中間報告 | 中間報告会を実施し、討議を通じてさらに研究を深めます | | | | | 報告会で発表する準備をする/事後:報告会で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| それぞれの研究に適した文献や資料を適宜紹介します。 | | | | | レポート:100% レポートは卒業論文です。評価基準は次の通りです。S:批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に研究課題に取り組み、独創性のある論文にまとめて発表できる/A:探求姿勢をもって積極的に研究課題に取り組み、自身が面白いと思える論文にまとめて発表できる/B:積極的に研究課題に取り組み、自身が面白いと思える論文にまとめて発表できる/C:研究課題に取り組み、それを論文にまとめて発表できる | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| それぞれの研究に適した文献や資料を適宜紹介します。 | | | | | 本演習を履修するにあたって、「スポーツと法」、「スポーツ行政・政策論」、「スポーツマネジメント論」および「地域社会とスポーツ」を受講して下さい。ご自身が面白いと思える研究テーマを選んでください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|-------|---------------------------------|---|------|------|----------------|---|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパ`リング | SL36072 | 研究室 | S-24 | |
| 担当者 | 河野 史倫 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オイスアワ | 月曜日5限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| <p>重力に抗して姿勢を支えるために持続的に活動する骨格筋(抗重力筋)がどのようにその性質を獲得するのか?という大きな研究目的の中で、その一部を明らかにするための研究を行います。実験の動機づけ、デザイン、実施、結果の評価・考察、そして他者へ向けて発表(論文やプレゼン)するところまでが「研究」です。動物実験からサンプル解析、データのまとめまで、一連の作業を担い、卒業研究としてまとめることで、研究のやり方を学び、その重要性や指導現場につなげるための応用法などを考えます。</p> | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| <p>実験・解析の完遂、卒業論文を作成し修正の過程を経て完成版にすること、発表用のスライドを作成しプレゼンテーションの練習を十分に行うことを到達目標とします。</p> | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| <p>個人個人に与えられた研究テーマに沿った動物実験やサンプルの解析を行います。基本的には、個別に研究指導して進めてきますが、定期的に研究計画や進捗を発表・討論する機会を設けます。</p> | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 研究全体の流れと進め方について説明します。 | | | | | 研究の背景について復習し、与えられた文献を次回までに読んでおくこと。(4時間) | | | | |
| 2 | 研究計画 | 卒業研究の概要と計画を発表し全体でディスカッションを行います。 | | | | | 発表スライドをまとめ、関連する文献を読解しておくこと。(4時間) | | | | |
| 3 | 研究計画 | 卒業研究の概要と計画を発表し全体でディスカッションを行います。 | | | | | 発表スライドをまとめ、関連する文献を読解しておくこと。(4時間) | | | | |
| 4 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(4時間) | | | | |
| 5 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(4時間) | | | | |
| 6 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(4時間) | | | | |
| 7 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(4時間) | | | | |
| 8 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(4時間) | | | | |
| 9 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(4時間) | | | | |
| 10 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | 与えられた作業を行い、随時結果を報告すること。(4時間) | | | | |
| 11 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | データ解析に加え、文献の収集や論文作成を行う。(4時間以上) | | | | |
| 12 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | データ解析に加え、文献の収集や論文作成を行う。(4時間以上) | | | | |
| 13 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | データ解析に加え、文献の収集や論文作成を行う。(4時間以上) | | | | |
| 14 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | データ解析に加え、文献の収集や論文作成を行う。(4時間以上) | | | | |
| 15 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | | データ解析に加え、文献の収集や論文作成を行う。(4時間以上) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 必要な資料はプリントなどで配布します。 | | | <p>課題：100% S：Aの条件に加え、卒業論文が完成に近い。 A：Bの条件に加え、論文作成に必要な文献を十分に読んでいる。 B：卒業論文に必要なデータ取得が完了している。 C：実験を進め、サンプル解析やデータ取得が滞りなくできている。</p> | | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 必要な資料はプリントなどで配布します。 | | | <p>自分の研究テーマのみにとどまらず、他の学生の研究にも関わることでより深く骨格筋の仕組みを理解できます。</p> | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|-------------|---|------|------|--|----|--|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL36072 | 研究室 | S-20 | |
| 担当者 | 齊藤 茂 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 水曜日2限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本講義では、学生が自主的に興味のある研究テーマを設定し、教員からの助言や個人指導を通じて学習、および研究を深めることを目的とします。自分の取り組みもうとする研究領域について詳しく調べる中で、これまでの研究をさらに発展させるべき分野を見極め、これまで十分な研究がなされていない題材を見つけることにより具体的な研究テーマを決定したうえで、論文の執筆を開始します。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 自ら研究テーマを設定し研究を深めるという卒業研究執筆の過程を通して、論理的に考える力や自ら課題に取り組む姿勢を身につけることを到達目標とします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 各自が自ら設定した研究テーマについて、それぞれが実際のフィールドに出てデータ収集、及びデータ分析を行います。また、先行研究をもとに、序論部分の論文執筆を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 卒業論文執筆スケジュール等の確認します。 | | | | | 事前に研究テーマを明確にし、先行研究を調べ、研究計画書を作成する。(4時間) | | | | |
| 2 | 研究テーマについて | 各自が設定した研究テーマについて、プレゼンテーションを行います(担当者A、及びB)。 | | | | | 事前に研究テーマを明確にし、先行研究を調べ、研究計画書を作成する。(4時間) | | | | |
| 3 | 研究テーマについて | 各自が設定した研究テーマについて、プレゼンテーションを行います(担当者C、及びD)。 | | | | | 事前に研究テーマを明確にし、先行研究を調べ、研究計画書を作成する。(4時間) | | | | |
| 4 | 研究テーマについて | 各自が設定した研究テーマについて、プレゼンテーションを行います(担当者E、及びF)。 | | | | | 事前に研究テーマを明確にし、先行研究を調べ、研究計画書を作成する。(4時間) | | | | |
| 5 | 研究テーマについて | 各自が設定した研究テーマについて、プレゼンテーションを行います(担当者G、及びH)。 | | | | | 事前に研究テーマを明確にし、先行研究を調べ、研究計画書を作成する。(4時間) | | | | |
| 6 | データ収集 | データ収集について解説を行います。 | | | | | 各自でデータ収集を進める。(4時間) | | | | |
| 7 | データ収集 | データ収集について必要に応じて個別指導を行います。 | | | | | 各自でデータ収集を進める。(4時間) | | | | |
| 8 | データ収集 | 引き続き、データ収集について必要に応じて個別指導を行います。 | | | | | 各自でデータ収集を進める。(4時間) | | | | |
| 9 | 論文執筆の方法 | 論文執筆の方法について指導を行います。 | | | | | 配布する資料を熟読する。(4時間) | | | | |
| 10 | 論文執筆の方法 | 引き続き、論文執筆の方法について指導を行います。 | | | | | 配布する資料を熟読する。(4時間) | | | | |
| 11 | 卒業論文執筆(序論) | 先行研究を調べ、問題の所在を明らかとし、序論の執筆を行います。 | | | | | 先行研究を調べる。(4時間) | | | | |
| 12 | 卒業論文執筆(序論) | 引き続き、先行研究を調べ、問題の所在を明らかとし、序論の執筆を行います。 | | | | | 先行研究を調べる。(4時間) | | | | |
| 13 | 卒業論文執筆(序論) | 先行研究を調べ、問題の所在を明らかとし、序論の執筆を行います(各自のペースに合わせて行う)。 | | | | | 先行研究を調べる。(4時間) | | | | |
| 14 | 卒業論文執筆(序論) | 引き続き、先行研究を調べ、問題の所在を明らかとし、序論の執筆を行います(各自のペースに合わせて行う)。 | | | | | 先行研究を調べる。(4時間) | | | | |
| 15 | 前期の進捗状況の報告会 | 各自の進捗状況の報告会(パワーポイントによるプレゼンテーション)を行います。 | | | | | 進捗状況の報告資料(パワーポイント)を作成する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| プリント資料を適宜配布します。 | | | | | 課題:40% 受講態度:60% S:卒業論文のテーマ設定や序論部分の執筆過程において積極的かつ探究的に取り組んだ。A:卒業論文のテーマ設定や序論部分の執筆過程において積極的に取り組んだ。B:卒業論文のテーマ設定や序論部分の執筆過程において誠実に取り組んだ。C:卒業論文のテーマ設定や序論部分の執筆に取り組んだ。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| プリント資料を適宜配布します。 | | | | | ・研究テーマに関わる問題について、先行文献等を積極的に検索するなど日常生活から関心をもって過ごしてください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--------------------|--|---|--|----------------|------|---|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL36072 | 研究室 | S-17 |
| 担当者 | 田邊 愛子 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 木曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本実習では3年次の健康演習をはじめ、これまでの学習を基礎として研究を深め卒業論文にまとめます。卒業研究の方向性を決定するために、課題を見つけ先行研究、また文献検索の方法を習得します。卒業論文をまとめることで研究計画、研究の方法、データの処理と解析の技術を身につけ、広い視野から考察を深めていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| これまでの学習の復習を行いながら研究を進め、データに基づく卒業論文をまとめるということの総理解と、その手順を説明できるようにする。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 前期は、「健康づくり」における現場の実態とその問題点を検討し、文献を使いながら個別テーマを探していきます。後期は、それぞれの研究の目的に沿ったデータを蓄積し、その結果から様々な考察を考えて論文を完成させていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 卒業論文とは | 卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画を立てます | | | | | 事前に研究テーマを明確にしておく。(4時間) | | | | |
| 2 | 先行研究のリサーチ | 文献検索の方法を習得し、データ収集について説明します | | | | | 興味のある分野について調査をしておく。(4時間) | | | | |
| 3 | 論文とデータについて | 論文の読み方とデータ解析について説明します | | | | | 検定の方法を理論を調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 4 | データ解析と解析方法について | 先行研究の紹介と方向性を探り、研究分野を個別指導します | | | | | 興味のある分野について文献収集、データ収集を準備しておくこと。(4時間) | | | | |
| 5 | 健康づくりの分野における現況と問題点 | 形態および体力測定における性別、年代別における平均値を理解し、評価できるように説明します | | | | | 日本における身体計測、体力測定の評価基準を調査しておくこと。(4時間) | | | | |
| 6 | 研究テーマの検討(1) | 研究課題の取り組み計画について、研究計画書を作成します | | | | | 各自のテーマについて研究計画書を作成しておくこと。(4時間) | | | | |
| 7 | 研究テーマの検討(2) | 研究課題の取り組み計画について、研究計画書を作成し方法論を議論します | | | | | 研究テーマについての方法論について、先行研究と照らし合わせ調査しておくこと。(4時間) | | | | |
| 8 | 研究テーマの検討(3) | 研究課題の取り組み計画について、研究計画書を作成し仮説を立てます | | | | | 研究テーマについての研究計画書と理論に基づく仮説を立てて資料を作成しておくこと。(4時間) | | | | |
| 9 | 論文の構成を考える(1) | 研究テーマについての概要や先行研究について調べた内容を計画書にまとめ発表し、個別指導をします | | | | | 発表者は資料作成し、発表準備をしておく。(4時間) | | | | |
| 10 | 論文の構成を考える(2) | 研究テーマについての概要や先行研究について調べた内容を計画書にまとめ発表し、個別指導をします | | | | | 発表者は資料作成し、発表準備をしておく。(4時間) | | | | |
| 11 | 論文の構想を考える(3) | 論文の構成の方法について全体指導をした後に、各自で章立てを考えて資料を作成します | | | | | 章立ての資料を作成しデータ収集をすすめる。(4時間) | | | | |
| 12 | 章立てを検討する(1) | 章立てを全体指導した後に、相互に検討します | | | | | 章立ての発表準備をしておく。(4時間) | | | | |
| 13 | 章立てを検討する(2) | 章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします | | | | | 章立ての発表準備をしておく。 | | | | |
| 14 | 論文の初稿を作成する(1) | 背景、目的の作成に取り掛かります | | | | | 論文の書き方を理解し執筆する。(4時間) | | | | |
| 15 | 論文の初稿を作成する(2) | 背景、目的、仮説までの流れと理解を深めます | | | | | 論文の書き方を理解し仮説まで執筆する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 適宜プリントを配布します | | | | 受講態度：30% 健康教室などの実習や卒業研究への取り組み姿勢を受講態度とし評価します。 「実技」は、授業内で行う実技発表です。95%以上のより高いレベルに達すればS、80%以上の理解度をA、70%以上をB、60%以上をCとします。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「やさしい生理学」森本武利著 | | | | 4年間の集大成として、論文を一つまとめるということは根気と集中力が必要です。興味を持って自ら知識を高めていく努力を必要とします。測定が正しくでき、解析の基礎知識を身につけておくことが望ましい。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|--|-----------------|--|------|----------------|--------------------------------|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL36072 | 研究室 | S-19 | |
| 担当者 | 中島 節子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 火曜日3限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 現代社会の多様化した健康問題や健康増進について追及したい課題を発掘し、調査・研究を遂行し、結論に到達する過程を学びながら卒業研究を行います。研究は、履修者が興味関心のある中で、疑問に思っていることを明確にするために取り組みます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 運動や健康についての課題を論理的に分析し、課題解決に向けての研究方法を決定することができる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 研究テーマを決め、先行研究の検討を行いながら各自の研究方法を決定していきます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 論文検討 | 各自の興味のあるテーマで選択した論文をクリティークします。 | | | | | 研究計画書を作成する。論文を選びクリティークする。(6時間) | | | | |
| 2 | 研究テーマの検討 | 各自の研究テーマについて発表し、テーマ選定の妥当性についてお互いに討議し、研究テーマの絞り込みをします。 | | | | | 研究計画書を作成する。論文を選びクリティークする。(4時間) | | | | |
| 3 | 研究計画の作成 | 論文検討を行いながら研究テーマを決め、研究方法を検討していきます。 | | | | | 論文検討をする。(4時間) | | | | |
| 4 | 研究方法の検討 | 自己のテーマと目的と照らしあわせ、研究方法を決めていきます。 | | | | | 研究方法を考える。(4時間) | | | | |
| 5 | 研究データの収集・調査票の作成を行います。 | 各自の方法に基づきデータ収集を始めます。協力者への依頼文章の作成を行います。予備調査を行い、質問項目や測定データの妥当性を検討していきます。 | | | | | 調査票の作成、依頼文の作成を行う。(4時間) | | | | |
| 6 | 研究データの収集・調査票の検討をします。 | 各自の方法に基づきデータ収集をします。予備調査を行い、質問項目や測定データの妥当性を検討していきます。 | | | | | 研究方法の見直しをする。(4時間) | | | | |
| 7 | 研究データの収集・調査票の修正をします。 | 各自の方法に基づきデータ収集を始めます。測定方法や質問項目などの修正を行っていきます。 | | | | | 予備調査の結果を集計、分析する。(4時間) | | | | |
| 8 | 研究データの収集・調査票の修正をします。 | 予備調査、予備実験の結果の分析をし、調査票などの修正を行います。 | | | | | 予備調査の結果を集計、分析する。(4時間) | | | | |
| 9 | 中間報告の準備 | 各自の研究の進行状況を報告し、結果が得られたところまで整理し中間報告をする準備をします。 | | | | | 中間報告の資料作成をする。(4時間) | | | | |
| 10 | 中間報告会 | 各自の研究の進行状況を報告し、結果が得られたところまで整理し中間報告をし、意見交換を行います。 | | | | | 研究計画の検討、修正をする。(4時間) | | | | |
| 11 | 中間報告会 | 各自の研究の進行状況を報告し、結果が得られたところまで整理し中間報告をし、意見交換を行います。 | | | | | 研究計画の検討、修正をする。(4時間) | | | | |
| 12 | 論文の書き方 | 論文の書き方の基本を概説します。各自の論文の構成を行い、論文に仕上げていきます。文献の活用の仕方を学びます。 | | | | | 論文のはじめにを書き上げていく。(4時間) | | | | |
| 13 | 論文の書き方 | 論文に書き上げていきます。はじめに、研究方法を記述します。個別指導を行います。 | | | | | 論文のはじめにを書き上げていく。(4時間) | | | | |
| 14 | 研究方法の検討 | 各自の卒業研究の研究方法の検討を行いながらデータ収集を行います。 | | | | | 各自の研究計画に沿って進めます。(4時間) | | | | |
| 15 | 研究方法の検討 | 各自の卒業研究の研究方法の検討を行いながらデータ収集を行います。 | | | | | 各自の研究計画に沿って進めます。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 研究テーマに応じて紹介します。 | | | | レポート:50% 出席レポート:50% レポート評価は、最終的に卒業論文が完成していること。S:研究に積極的に取り組み考察を深め、形式を整え期限までに主体的に完成できる。効果的な発表ができる。A:研究の考察を深め、形式を整え期限までに完成でき、効果的な発表ができる。B:卒業論文の形式を整え期限までに提出できる。発表ができる。C:卒業論文の形式は整えられているが考察などの深まりが少ない。発表はできるが工夫点が少ない。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 必要に応じて紹介します。 | | | | 日常の中での疑問の中からテーマを決め、追求していきます。研究は一人1テーマで行いますが、お互いに切磋琢磨し、考える力や発言する力をつけていきます。時間と手間を惜しまず取り組んでください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|--|-----------------|--|------|--|---------|---------|-----|--|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL36072 | 研究室 | |
| 担当者 | 小松 茂美 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習は3年次の健康演習をはじめ、これまでの学習を基礎として研究を深め、卒業論文にまとめます。卒業研究の方向性は、保健体育授業、運動部活動など学校におけるスポーツ活動や健康教育全般に関する内容、実技指導などの分野に関する内容を中心としますが、学校現場が抱える課題や、スポーツ界全体が抱える課題等、広い視点から考察を進めます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことが目標です。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力、文章表現力やプレゼンテーション能力等の論文作成や発表に必要な能力の獲得や向上も目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 各自の研究テーマに応じて個別学習が中心となりますが、各自の研究を受講者全体で相互に議論する機会を設定し、問題の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深め、論文完成を目指します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 卒業論文発表会までのスケジュールを確認し、研究計画書の作成に取りかかります。 | | | | 事前に研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を作成する。(4時間) | | | | |
| 2 | 研究テーマの確認 | 研究テーマについて「何を」「どのようにして」「どこまで明らかにするのか」について確認します。 | | | | 事前に本時のテーマについて概略をまとめておく。授業後、内容を見直す。(4時間) | | | | |
| 3 | 研究テーマの確認 | 見直しをした研究内容について、現実的に可能かどうか検討・確認します。 | | | | 研究内容について具体的に検討しておく。授業後、内容を見直す。(4時間) | | | | |
| 4 | 研究テーマの検討 | 研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表し、その内容について相互に検討します。(主に学校現場や地域のスポーツ活動に関するテーマを設定した者) | | | | 発表の準備をしておく。発表された内容について調べてみる。(4時間) | | | | |
| 5 | 研究テーマの検討 | 研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表し、その内容について相互に検討します。(主に競技スポーツに関するテーマを設定した者) | | | | 発表の準備をしておく。発表された内容について調べてみる。(4時間) | | | | |
| 6 | 研究テーマの検討 | 研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表し、その内容について相互に検討します。(主にスポーツ活動全般に関するテーマを設定した者) | | | | 発表の準備をしておく。発表された内容について調べてみる。(4時間) | | | | |
| 7 | 研究テーマに関する最終検討と資料・データの収集 | 研究テーマについて内容および計画の最終検討をし、先行研究、文献、アンケート作成等、必要な資料・データ収集(準備を含む)を開始します。 | | | | 検討結果を受け、研究テーマを確定する。資料・データ収集等の準備に取りかかる。(4時間) | | | | |
| 8 | 研究テーマに関する資料・データの収集 | 資料・データ収集、アンケート作成等に関して、個別指導をします。 | | | | 各自の研究テーマの内容に応じた資料・データの収集等を進める。(4時間) | | | | |
| 9 | 研究テーマに関する資料・データの収集 | 資料・データ収集、アンケート作成等に関して、個別指導をします。 | | | | 各自の研究テーマの内容に応じた資料・データの収集等を進める。(4時間) | | | | |
| 10 | 論文構成を考える。資料・データの収集等 | 論文の構成について理解を深め、各自で章立てを大まかに考えてみます。引き続き資料・データ収集等に関する個別指導をします。 | | | | 事前に論文構成を考えてくる。各自の研究テーマ内容に応じた資料・データ収集等を進める(4時間) | | | | |
| 11 | 論文の章立てを検討する。資料・データの収集等 | 章立てを相互に検討し合います。また、個別に指導もします。引き続き資料・データ収集等に関する個別指導をします。 | | | | 章立ての発表準備をする。各自の研究テーマ内容に応じた資料・データ収集等を進める(4時間) | | | | |
| 12 | 章立ての最終検討と決定と論文の書き方 | 章立てを決定し、論文の書き方について再確認をします。 | | | | 章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。(4時間) | | | | |
| 13 | 論文の初稿を作成する | 第1章「研究の動機・目的」の作成に取りかかります。 | | | | 第1章を執筆する。(4時間) | | | | |
| 14 | 論文の初稿を作成する | 各自準備した第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。 | | | | 事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。(4時間) | | | | |
| 15 | 今後の研究・執筆計画を立てる。 | 夏休み明けに初稿が完成できるように、研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や執筆について計画を練ります。 | | | | これまでの進捗状況を踏まえ、夏休みに実施べき内容についてまとめる。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「各自の研究テーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。」 | | | | 受講態度(資料やデータ収集の姿勢)30%、課題:20%、初稿の準備状況:50%として評価します。初稿の準備状況は、進捗状況、研究方法、研究目的と予想される結論の妥当性等を評価対象とします。SIは上記の全ての内容及び過程が優れている者。Aは内容及び過程が良好だった者。Bは内容及び過程が概ね良好だった者。Cは内容がまとまっており、指示された期日に提出できた者となります。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「各自のテーマに応じて、参考となる図書を提示します。」 | | | | 課題を自ら探究していく姿勢が重要です。全体で討議する際は、自らの研究内容を提示するのはもちろん、仲間の研究にも関心を持つことが、研究を深めます。また、できるだけ多くの関連図書を読むことも重要です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|------------|--|-----------------|------|------|----------------|-------------------------|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年前期 | 単位数 | 2 | ナパ [®] リング | SL36072 | 研究室 | N-05 | |
| 担当者 | 丸山 文男 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 火曜日3限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 3年次の演習をもとにして、研究計画をしっかりと立て、実験解析を行います。結果をもとに考察して結論を導きます。実験解析方法、図の作成、文献の利用方法を学びます。章立てを行い卒業論文として仕上げます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 興味関心を大切にしながら積極的に実験解析を行い、「卒業論文」を完成させることです。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 研究計画をしっかりと立てた上で、実験解析を重ね、考察を行い結論を導きます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本演習の年間計画、内容などを理解します。 | | | | | 研究計画を立て始めます。(4時間) | | | | |
| 2 | 研究計画の作成(1) | 実験方法、解析方法をきめます。 | | | | | 研究計画を立てます。(4時間) | | | | |
| 3 | 研究計画の作成(2) | 実験方法、解析方法をきめます。 | | | | | 研究計画を立てます。(4時間) | | | | |
| 4 | 実験・解析(1) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果を整理します。(4時間) | | | | |
| 5 | 実験・解析(2) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果を整理します。(4時間) | | | | |
| 6 | 実験・解析(3) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果を整理します。(4時間) | | | | |
| 7 | 実験・解析(4) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果を整理します。(4時間) | | | | |
| 8 | 実験・解析(5) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果を整理します。(4時間) | | | | |
| 9 | 実験・解析(6) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験考察結果をもとに考察します。(4時間) | | | | |
| 10 | 実験・解析(7) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果をもとに考察します。(4時間) | | | | |
| 11 | 実験・解析(8) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果をもとに考察します。(4時間) | | | | |
| 12 | 中間報告執筆(1) | 実験解析結果をまとめます。 | | | | | 考察をまとめます。(4時間) | | | | |
| 13 | 中間報告執筆(2) | 実験解析結果をまとめます。 | | | | | 考察をまとめます。(4時間) | | | | |
| 14 | 中間発表会(1) | 中間発表を行います。 | | | | | 出された意見をもとに考察を深めます。(4時間) | | | | |
| 15 | 中間発表会(2) | 執筆した中間報告を提出します。 | | | | | 夏休み中に考察を深めます。 | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | | |
| 適宜紹介します。 | | レポート:70% 出席レポート:30% 成績評価は卒業論文の内容に加え、研究への取り組み方で評価します。 S:探究的思考力で取り組み内容が独創的で明確である。 A:探究的意欲的に取り組み内容が明確にされている。 B:意欲的に取り組み内容が明確にされている。 C:意欲的に取り組んでいるが内容の明確性が弱い。 | | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | | |
| 適宜紹介します。 | | 卒業論文は学生生活の総仕上げでもあるので積極的に取り組んでください。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|------------------|--|---|--|----------------|------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL46073 | 研究室 | S-14 |
| 担当者 | 等々力 賢治 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 現代スポーツの変化・変貌には著しいものがあります。にもかかわらず、それを対象とする諸研究が、スポーツの独自性や価値などを十分に踏まえたものであるとは必ずしも言えません。本演習では、その不十分さを押さえつつ、スポーツビジネス及び現代スポーツが抱える諸問題を追究し、解決方途を探ったものを「卒業論文」としてまとめます。したがって、前期の「卒業研究」で検討したテーマや章立てを踏まえ執筆し、それを適宜提出してもらい添削した上で返却することを繰り返し、「卒業論文」として完成させます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 本演習の学習到達目標は、履修者の興味・関心を大切にしつつ、テーマ設定や章立ての方法、参考資料の収集・引用方法などを修得し実践し「論文」にふさわしい文章を作成することが第一です。さらに、それを基にゼミメンバー間での能動的な論議を通じて文章をブラッシュアップし、最終的に「卒業論文」として結実させることが最終的な目標です。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 本演習では、前期の「卒業研究」で学んだ事柄を活かして執筆を進め、節目節目で報告して議論し修正を加えていきます。11月末を目処に書き上げることを目標に取り組み、さらに12月下旬の「卒業研究発表会」に参加し発表します | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 下書き6000字分の提出 | 夏休み中に進めた6000字分の下書きを提出すると共に、夏休み中に加筆訂正を受けた3000字分を受け取り、修正箇所について確認します。さらに、10月末までに下書き9000字を目指します。 | | | | | 事前:下書き6000字分をチェックしておく。事後:指摘の修正を確認し反映させていく。(4時間) | | | | |
| 2 | 下書き9000字執筆(1) | 10月末に下書きを9000字にすることを指して、各自執筆に取り組みます。その際、これまで取り上げてきた脚注の付け方などについてあらためて確認し、“論文らしく”するよう努めることとします。 | | | | | 事前:9000字を目指して執筆を進める。事後:脚注を確認し、必要な修正を施す。(4時間) | | | | |
| 3 | 下書き9000字執筆(2) | 10月末に下書きを9000字にすることを指して、各自執筆に取り組みます。その際、これまで取り上げてきた脚注の付け方や文章の繋がりなどを常に見直しながら執筆を進めます。 | | | | | 事前:下書き9000字を目指して執筆する。事後:文章の繋がりなどに注意し執筆を進める。(4時間) | | | | |
| 4 | テーマ、中見出し等の確認 | 10月末に下書きを9000字にすることを指して、各自執筆に取り組みます。関連して、これまでの執筆の中でテーマや各章の見出しの妥当性などについて確認し、必要であれば修正あるいは訂正を施します。 | | | | | 事前:下書き9000字を目指して執筆を進める。事後:テーマや中見出しを修正しておく。(4時間) | | | | |
| 5 | 下書き9000字分の提出 | 執筆した下書き9000字分を提出します。また、提出済みの6000字の下書きを受け取り、加筆・訂正などについて確認します。また、11月末に下書きを12000字以上とすることを確認します。 | | | | | 事前:事前:下書きを読み直す。事後:6000字の下書きの修正部分を確認しておく。(4時間) | | | | |
| 6 | 下書き12000字以上執筆(1) | 11月末に下書きを12000字以上にすることを指して、各自執筆に取り組みます。その中で、これまでの指導を参考に、必要な修正や訂正、加筆を施します。また、下書きをよく読み直すようにします。 | | | | | 事前:6000字の修正部分を反映させておく。事後:12000字を目指し下書きを進める。(4時間) | | | | |
| 7 | 下書き12000字以上執筆(2) | 11月末に下書きを12000字以上にすることを指して執筆に取り組みます。その中で、「テーマ設定の理由」「明らかにしたいこと」などが明確か注意し、それが不十分であれば明確にすべく取り組みます。 | | | | | 事前:下書きの執筆を進める。事後:下書きを家族や友人に読んでもらうこととする。(4時間) | | | | |
| 8 | 参考文献の記載方法の確認 | 下書きを12000字以上にすることを指して、各自執筆に取り組みます。その中で、注の付け方と共に、「参考文献・資料」の書き方について、著書、雑誌類、新聞、ホームページなどの記載順を確認します。 | | | | | 事前:下書きの執筆を進める。事後:参考文献・資料の記載方法を確認し修正する。(4時間) | | | | |
| 9 | 下書き12000字以上執筆(3) | 11月末に下書きを12000字以上にすることを指して、執筆に取り組みます。その中で、執筆の動機や明らかにしたいことなどが明確であるか否か、また、それが論文全体に反映されているか否か確認します。 | | | | | 事前:下書きの執筆を進める。事後:家族や友人に下書きを読んでもらい修正する。(4時間) | | | | |
| 10 | 「卒論」表紙・目次等の確認 | 下書きを提出し、それを相互に交換して読み、不明な点などについて指摘し合い、必要と判断すれば修正を施します。また、表紙と目次の書き方、作成方法などについて確認します。 | | | | | 事前:12000字以上を目指して執筆を進める。事後:各自、表紙、目次などを作成する。(4時間) | | | | |
| 11 | 「卒論」提出前の最終確認 | 提出した12000字以上の下書きを読み直して必要な修正を施し、より“論文らしく”します。とりわけ、「テーマ設定の理由」「明らかにしたいこと」などが明確であるか否か、再度確認します。 | | | | | 事前:12000字以上を目指して執筆を進める。事後:修正を施しブラッシュアップする。(4時間) | | | | |
| 12 | 口頭発表者の選出 | 完成版の「卒業論文」を提出します。また、口頭発表者を選出します。その際、執筆の動機や明らかにしたいことが明確か否か、また、それが論文全体に反映されているか否かといった点に注意します。 | | | | | 事前:下書きをよく読み直す。事後:文章表現などに修正を施しブラッシュアップする。(4時間) | | | | |
| 13 | 「卒業論文発表会」の準備 | 「卒業論文発表会」に向けて、発表用資料・レジュメ、パワーポイントなどを作成します。また、口頭発表者については、諸資料作成の上、実際にパワーポイントなどを使用して発表してみます。 | | | | | 事前:各自発表用資料を作成しておく。事後:発表会に向けてパワーポイントを作成する。(4時間) | | | | |
| 14 | 「卒業論文発表会」 | 口頭発表者、ポスター発表者共に所定の時間帯に発表します。また、発表を受けて出される質問などに適確に答えられるよう、あらかじめ想定して臨むことを心がけるようにします。 | | | | | 事前:発表会に向けて準備をしつかりする。事後:質問などを控えておく。(4時間) | | | | |
| 15 | 「卒論」の最終仕上げ | 発表会を受けて、あるいは指導を受けて、必要と判断すればあらためて修正を施し最終仕上げとします。 | | | | | 事前:発表会での指摘を確認しておく。事後:「卒業論文」を再確認し提出する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 特に指定せず、適宜紹介します。 | | | | レポート:70% 課題:30% 成績評価は、「卒業論文」の内容・体裁にくわえ、資料集など取組姿勢も重視します。評価基準は次のとおりです。S:研究目的が明確で独創的であり、関連する先行研究を渉猟し、研究の成果と課題が明示されている。A:研究目的が明確であり、関連する先行研究を把握し、研究の成果と課題が明示されている。B:研究目的が明確であり、研究の成果と課題が明示されている。C:研究目的が示されており、最低限の執筆字数を満たし、研究の成果と課題が示されている。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 各自の研究内容に則した書籍・資料等を適宜紹介しますが、自分の研究に関するものを常日頃から意識的に探し、読み漁ってください。 | | | | 「卒業論文」執筆は学生生活の仕上げでもありですので、積極的に取り組むよう強く求めます。また、Jリーグ松本山雅のホームゲームへのボランティアを予定していますので、その際は積極的に参加してください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|------------|---|---|------|------|---|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL46073 | 研究室 | S-23 |
| 担当者 | 犬飼 己紀子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 水曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 卒業研究 で手がけてきた課題に向き合い、研究の方法・先行研究など関連情報の取得から視野を広くし、自らの課題を明確にする過程を通し自分の考えを論理的にまとめ社会に発信する発表力を身に着けます。自己の考えを主張し他者と意見を交える中で新たな発見や考え方を受け止め視野を広げ、深く探究する姿勢を身に着けます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 何を課題として、どのように探り、何がわかったのか、今後どのように生かしていくのかについて章立てをして論述し、卒業論文として仕上げます。また、研究の成果を、聞く人に分かりやすくプレゼンテーションすることを目指します。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 自分の課題に向き合い中間報告をし合うことで、仲間からの指摘や疑問で得た課題をさらに深めていく中で互いに切磋琢磨し合う事で完成した研究を文章に表し、可視化したり口頭で発表する表現力を身につけていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 研究状況の確認 | 文章化することでこれまで進めてきたことの整理をし、研究のねらいと方向を確認します。論文の執筆の仕方について指導をします。 | | | | 章立てに沿って、書けるところから文章化を進める。(4時間) | | | | |
| 2 | 記録と結果の考察 | 各自の研究方法で進めます。資料収集したデータの分析などここまでの進捗状況を報告します。論文の執筆のルールを知り、論文作成を進めます。 | | | | 研究のねらいに沿って論述を組み立て、執筆を進めること。(4時間) | | | | |
| 3 | 論文を書く | 各自の研究を進めます。資料収集したデータの分析などを進めるとともに、論文の全体を概説できるようにします。必要に応じ個別に指導教員に相談します。 | | | | 研究の内容から得た考察について見通しを立てること。(4時間) | | | | |
| 4 | 論文を書く | 結果考察、仮説の検討そして再考察してまとめるなど、論文執筆の途中でも提出をして、教員の指導を受けながら進めます。 | | | | 論文の構成を考え、執筆を進めること。(4時間) | | | | |
| 5 | 論文執筆 | 研究のテーマとねらいに沿って執筆が進んでいるか、大筋の構成がされ、論述できているか見直しをします。 | | | | 論文の構成を考え、執筆を進めること。(4時間) | | | | |
| 6 | 論文まとめと発表 | 論文の仕上げに入ります。ゼミナール内での発表に向け、研究報告のポイントを絞り、パワーポイントの作成を始めます。 | | | | 論文にまとめる。文章を30回以上声に出して読むこと。(4時間) | | | | |
| 7 | 論文まとめと発表 | 論文の仕上げに入ります。ゼミナールでの発表をします。発表内容・技術・資料の使い方など、指導教員やゼミ学生の意見を参考に論文を完成させます。 | | | | 発表形態、発表原稿を考えること。(4時間) | | | | |
| 8 | 抄録を書く | 完成論文を指導教員に提出し、指導を受けます。研究結果について、その成果や伝えたいポイントを明確にして、論文の抄録の作成を始めます。 | | | | 文章校正を丁寧にする。発表に効果的な資料の作成を考える。(6時間) | | | | |
| 9 | 論文完成と提出 | 指導教員の審査を受け通過した論文を、提出の形態に整え論文を完成させます。形式を整えた論文は指導教員のサインを受け、期限内に受付窓口へ提出します。 | | | | 提出前に30回は、声に出して読むこと。(6時間) | | | | |
| 10 | 論文の抄録提出 | 研究成果の何を伝えたいのかを絞り込み、どのような研究であったのか読む人が知りたくなる研究概要を抄録としてまとめます。 | | | | 卒業論文発表に向け、口頭発表・ポスター発表の特徴を生かす資料を作成すること。(6時間) | | | | |
| 11 | 発表準備 | 卒業研究発表会に向け、研究成果のどこをどのように伝えたいのか、ポイントを絞り込み、初めて聞く人に伝わる内容に作成します。 | | | | 発表者としての姿勢を正し、発表に向け十分な練習を行う。(4時間) | | | | |
| 12 | 卒業研究発表 | 卒業研究発表会では、「口頭発表」または「ポスター発表」のどちらか自分の研究成果の報告に合う発表方法で発表をします。 | | | | 発表者としての姿勢を正し、発表に向け十分な練習を行う。(4時間) | | | | |
| 13 | 「論文集」の編集 | 論文集編集に向け、個別の論文の最終校正をします。ゼミ学生の論文を読みあい「校正」を完全にします。論文集を作成するための、原稿の構成・編集作業をします。 | | | | 研究を進めるについて、協力いただいた方への礼状を書く。(2時間) | | | | |
| 14 | 「論文集」の編集 | 論文集の編集作業をします。表紙、編集後記、編集者など文集としての形を整える作業をします。 | | | | 卒業記念論文集作成。(2時間) | | | | |
| 15 | 「論文集」を仕上げる | 大学での学びの集大成としての「卒業論文集」の完成原稿のすべてを整え、必要部数を印刷して教務課に提出して完成を祝います。 | | | | 完成祝い。2年間のゼミ活動、卒業研究を振り返る。(2時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「大学生のためのレポート・論文術」野間佐和子著(講談社) ISBN:4-06-149603-4(別途、指示します。) 進捗状況に合わせ適宜紹介 | | | 課題:80% 受講態度:20% S:多面的に情報収集を行い、計画的に研究を進める。論文の完成後も次の課題に向かっており研究姿勢の習得につながった。A:課題を明確にし、必要な調査・資料収集など計画的に進め論文を完成させ、発表力を身に着けた。B:計画的に研究を進め、論文を仕上げ発表した。C:課題を明確にすることに手間取ったが、周囲から助力を得て、論文を仕上げた。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 進捗状況に合わせ適宜紹介 | | | 社会に意識を向け、関心を持ち問題・課題を発見する目を養います。課題を明確にし、関連資料の収集・必要な実践体験と記録を基に、常に探求心をもって粘り強く取り組む姿勢を期待します。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|-------------|--|-----------------|--|------|----------------|----------------------------------|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL46073 | 研究室 | S-16 | |
| 担当者 | 江原 孝史 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 火曜日3限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 3年次の学習を基礎として、さらにそれを発展させて卒業論文にまとめます。テーマとしては、大学生の生活習慣、睡眠とスポーツ、睡眠障害、疲労の原因と疲労回復素材についてなど、アンケートとさまざまな機器を用いて客観的なデータをとりながらまとめてゆきます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 資料とデータのまとめから、文章表現力、論文の書き方、論理的な思考ができる。学生同士のディスカッションを通して、他人の考え方を受け入れるとともに、自分の意見の表出ができるようになること。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 個々に対応しながら、適宜全体でディスカッションしていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 論文推敲 | 論文の推敲と書き直しをします | | | | | 字句やいいまわし、表現などに注意する。(4時間) | | | | |
| 2 | 中間発表準備 | 原稿づくりと発表時間の計測をします。 | | | | | 時間内に終わるようにプレゼンの流れと話す内容を考える。(4時間) | | | | |
| 3 | 中間発表 | 中間発表してディスカッションで問題点を列挙します。 | | | | | 仲間の発表も参考にする。(4時間) | | | | |
| 4 | 中間発表の反省 | プレゼンの内容の問題点とその対策について考えます。 | | | | | 原稿の読み直し(4時間) | | | | |
| 5 | 最終原稿のための準備 | 論文の流れとデータを再度チェックします。 | | | | | 論文作成の勉強(4時間) | | | | |
| 6 | 2稿目の論文作成(1) | 序から材料、方法までの部分の原稿を作成する。必要であれば文献も挿入します。 | | | | | 原稿の推敲(4時間) | | | | |
| 7 | 2稿目の論文作成(2) | 結果までの部分の原稿を作成する、結果を示すのに必要かつ適切な図表を作成します。 | | | | | 図表の作り方を調べる。(4時間) | | | | |
| 8 | 2稿目の論文作成(3) | 考察と文献の部分までを作成する。必要な文献と論理の展開に注意しながら考察の部分を作成します。 | | | | | 考察の推敲(4時間) | | | | |
| 9 | 最終原稿作製 | 最初から最後まで通して読んでみて適切かどうか吟味します。 | | | | | 論文全体の推敲、文献のチェック(4時間) | | | | |
| 10 | 個別指導 | 個別指導で、論文を添削します。 | | | | | 誤字脱字のチェック(4時間) | | | | |
| 11 | プレゼンテーション準備 | 発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。 | | | | | 発表原稿のチェック(4時間) | | | | |
| 12 | プレゼンテーション予行 | プレゼンテーションの予行をして、時間を計測し時間内におさまるようにします。 | | | | | 原稿の整理(4時間) | | | | |
| 13 | 発表会 | 発表会発表時の質疑応答をチェックして、発表内容を振り返ります。 | | | | | 発表の振り返り(4時間) | | | | |
| 14 | 卒論完成 | 最終原稿を完成させます | | | | | 論文の読み直しと原稿の印刷(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 卒業研究のまとめと研究を完成させるまでの感想、反省点を記録し、先輩の参考にしてもらいます。 | | | | | 卒論記録の作製(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「現代生命科学」東京大学生命科学教科書編集委員会編(羊土社) ISBN:978-4-7581-2053-1 | | | | 課題:100% S:課題に積極的に取り組みかつ質問し、課題の内容が特に優れている。A:課題に積極的に取り組みかつ質問し、課題の内容が優れている。B:課題に誠実に取り組み、課題の内容も良である。C:課題の内容が可である。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病」田中 逸著(日本医事新報社) ISBN:978-4-7849-5396-7 | | | | 時間のかかるそして学生生活でもっとも大きな仕事になります。あせらずにじっくりと取り組むことが大事です。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------|--|-----------------|--|------|-----------------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL46073 | 研究室 | S-22 |
| 担当者 | 中島 弘毅 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 今までの学習をベースに設定した研究テーマに沿って、どのように解決して行くかを学びます。具体的には、テーマに関する資料を収集し、読み込みます。その資料の分析を通して、自らの主張を論理的に展開し、卒論を仕上げます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 設定した課題に対して、適切な方法を用いて課題を解決してゆく力、論理的に文を組み立て、表現する力を身につけます。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 前期に策定した研究計画に基づき、収集した資料を読み込み、分析し、論文を完成させます。各授業時に、それぞれの進捗状況を報告し、全員で議論をしていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ゼミ内発表と討議、執筆(1) | 各自がデータの分析状況、論文の執筆状況を提出し、ゼミ内で発表します。全員で議論します。議論の結果を受けて内容を修正してゆきます。 | | | | 各自論文の執筆・修正をします。(4時間) | | | | |
| 2 | ゼミ内発表と討議、執筆(2) | 各自が書き上げてきた結果を図表にまとめてゼミ内で発表し、全員で議論します。議論の結果を受けて内容を修正してゆきます(第1グループ)。 | | | | 各自論文の執筆・修正をします。今後の予定を練り直します。(4時間) | | | | |
| 3 | ゼミ内発表と討議、執筆(3) | 各自が書き上げてきた結果を図表にまとめてゼミ内で発表し、全員で議論します。議論の結果を受けて内容を修正してゆきます(第2グループ)。 | | | | 結果及び図表の作成、修正を行います。(4時間) | | | | |
| 4 | ゼミ内発表と討議、執筆(4) | 各自が書き上げてきた結果を中心にゼミ内で発表し、全員で議論します。議論の結果を受けて内容を修正してゆきます(第1グループ)。 | | | | 執筆および修正を行います。(4時間) | | | | |
| 5 | ゼミ内発表と討議、執筆(5) | 各自が書き上げてきた結果を中心にゼミ内で発表し、全員で議論します。議論の結果を受けて内容を修正してゆきます(第2グループ)。 | | | | 執筆および修正を行います。(4時間) | | | | |
| 6 | ゼミ内発表と討議、執筆(6) | 各自が書き上げた卒論、特に考察・まとめを中心にゼミ内で発表し、全員で議論します。議論の結果を受けて内容を修正してゆきます。 | | | | 執筆および修正を行います。(4時間) | | | | |
| 7 | ゼミ内発表と討議、執筆(7) | 各自が書き上げた卒論、特に考察・まとめを中心にゼミ内で発表し、全員で議論します。議論の結果を受けて内容を修正してゆきます。 | | | | 執筆および修正を行います。(4時間) | | | | |
| 8 | 卒論の内容確認 | 抄録以外の完成を確認します。図表、参考文献等の詳細について最終確認します。 | | | | 図表の修正をします。(4時間) | | | | |
| 9 | 抄録の作成 | 抄録の作成方法について説明します。 | | | | 抄録を作成します。(4時間) | | | | |
| 10 | 抄録の発表と議論、修正 | 抄録を完成させて、ゼミ内発表を行います。提出書類一式の内容確認をします。 | | | | 卒論提出にあたっての必要な資料一式を準備します。(4時間) | | | | |
| 11 | 卒論の完成 | 卒論提出にあたっての必要な資料一式をそろえます。提出できる状態になっていることを確認します。発表資料の作成を行います。 | | | | 発表資料の作成を行います。(4時間) | | | | |
| 12 | 卒論発表の予行演習(1) | ゼミ内でプレゼンテーションをして仕上がり状況を確認、修正します。発表資料の確認を行います。 | | | | 発表資料の作成、修正を行います。(4時間) | | | | |
| 13 | 卒論発表の予行演習(2) | ゼミ内でプレゼンテーションをして仕上がり状況を確認、修正します。発表資料の確認を行います。 | | | | 発表資料の作成、修正を行います。(4時間) | | | | |
| 14 | 卒論発表 | 完成させた卒論を全体場で発表します。 | | | | プレゼンテーションの練習をします。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 1年間の振り返りをし、今後を展望します。 | | | | 卒論文集の原稿を提出します。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「レポートの組み立て方」木下是雄著(ちくまライブラリー) | | | | 課題:30% レポート:50% 受講態度:20% 課題、レポート、受講態度(授業およびゼミ活動への積極的参加、発言等)の総合評価から95点以上をS評価、80点以上をB評価、70点以上をC評価、60点以上をC評価とする。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「「アクセプトされる英語医学論文を書こう」」ネル・L・ケネディ著(メジカルビュー社) | | | | 問題意識を明確にし、積極的に議論をし、卒業論文を完成させましょう。入力・分析・執筆作業は授業時間外に行うことが求められます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|---|-----------------|------|---|----------------|--|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL46073 | 研究室 | S-21 | |
| 担当者 | 根本 賢一 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 月曜日5限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 卒業研究論文を完成させることを通して、課題解決のための研究の計画、研究の方法、データ処理・解析方法と技術、結果の考察、論文のまとめ方、発表技術などを総合的に学習することを目標とします。これまでに展開されてきた関連科目や「スポーツ健康演習」で学んだ内容を基に、各自が研究テーマとして選択した内容をさらに追求していきます。まず問題が提起され、どのような資料から、どんな結果が得られ、どのような結論が導きだされたかを、客観的に・論理的にまとめていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことが最大の目標となります。また同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力の獲得や向上も広い意味の学修目標です。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 各自の論文完成にむけて作業を進めると同時に、プレゼンテーション能力を高めるための口頭発表の機会を設けていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 論文初稿の発表(1) | 論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。 | | | | | 論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、加筆修正を行う(4時間)。 | | | | |
| 2 | 論文初稿の発表(2) | 論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。 | | | | | 論文の初稿を修正してくる。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う(4時間)。 | | | | |
| 3 | 中間発表プレゼンテーション資料作成 | 中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。 | | | | | 初稿に基づきプレゼンテーションの構想を練る。指導内容を受け資料を作成する(4時間)。 | | | | |
| 4 | 中間発表会 | 中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。 | | | | | プレゼン資料を完成する(4時間)。 | | | | |
| 5 | 論文の第2稿を作成する(1) | 論文の第2稿を個別指導します。 | | | | | 論文の第2稿を作成する(4時間)。 | | | | |
| 6 | 論文の第2稿を作成する(2) | 論文の第2稿を個別指導します。 | | | | | 論文の第2稿を作成する(4時間)。 | | | | |
| 7 | 論文の第2稿を作成する(3) | 論文の第2稿を個別指導します。 | | | | | 論文の第2稿を作成する(4時間)。 | | | | |
| 8 | 論文第2稿の発表・検討 | 論文の第2稿を発表し、相互に検討します。 | | | | | 論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する(4時間)。 | | | | |
| 9 | 論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する(1) | 論文の最終稿を個別指導します。 | | | | | 論文の最終稿を作成する(4時間)。 | | | | |
| 10 | 論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する(2) | 論文の最終稿を個別指導します。 | | | | | 論文の最終稿を作成する(4時間)。 | | | | |
| 11 | 論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する(3) | 論文の最終稿を最終指導をします。また、提出用の卒業論文を相互点検します。 | | | | | 論文の最終稿を完成してくる。最終点検に応じた修正をする(4時間)。 | | | | |
| 12 | ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成 | 3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。 | | | | | プレゼン資料を作成する(4時間)。 | | | | |
| 13 | ゼミ発表会 | 3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。 | | | | | ゼミ発表用プレゼン資料を完成してくる。検討内容を修正する(4時間)。 | | | | |
| 14 | 卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成 | 各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。 | | | | | 卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成してくる。検討内容を修正する(4時間)。 | | | | |
| 15 | 卒業研究のまとめ | 卒業論文の印刷、卒業研究の総まとめを行います。 | | | | | 印刷原稿を完成させてくる(4時間)。 | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 各回こちらでポイントを記したプリントを用意します。 | | | | | 課題:100% 課題について:100% S:きわめて高度な論文を仕上げている。A:高度な論文を仕上げている。B:良好な論文を仕上げている。C:論文を仕上げている。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村慎一・山次俊介著(杏林書院) ISBN:978-4-7644-1162-3 | | | | | 卒業研究はやらされるものではなく、自ら積極的に取り組むものです。4年間の集大成という気持ちで全力で取り組んでください。毎回の講義終了前に、次回講義の概要や予習等について説明をします。 | | | | | | |

| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SL46073 | 研究室 | S-13 |
|--|-----------------------|---|-----------------|---|------|--|--------|---------|-----|------|
| 担当者 | 岩間 英明 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 火曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>本演習は前期の研究をさらに深め、卒業論文にまとめます。卒業研究の方向性は 保健体育授業、体育的行事、運動部活動など、学校におけるスポーツ活動や健康教育全般に関する内容。実技指導などの運動方法に関する内容。の大ききは2つの分野が中心となりますが、体育・スポーツだけでなく、学校が抱える今日的課題や、生徒指導に関わる問題も含め、学校教育全体・スポーツ界全体にも目を向け、広い視野から考察をすすめていきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことが最大の目標です。また同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力の獲得や向上も広い意味の学修目標です。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>各自の研究テーマに応じてそれぞれ個別に指導することが多くなりますが、各自の研究を受講者全体で相互に議論する機会も設定し、問題の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 論文初稿の発表(1) | 論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。 | | | | 論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、加筆修正を行う。(4時間) | | | | |
| 2 | 論文初稿の発表(2) | 論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。 | | | | 論文の初稿を修正してくる。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う。(4時間) | | | | |
| 3 | 中間発表プレゼンテーション資料作成 | 中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。 | | | | 初稿に基づきプレゼンの構想を練り、指導に基づきプレゼン資料を作成する。(4時間) | | | | |
| 4 | 中間発表会 | 中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。 | | | | プレゼン資料を完成する。(4時間) | | | | |
| 5 | 論文の第2稿を作成する(1) | 論文の第2稿を個別指導します。 | | | | 論文の第2稿を作成する。(4時間) | | | | |
| 6 | 論文の第2稿を作成する(2) | 論文の第2稿を個別指導します。 | | | | 論文の第2稿を作成する。(4時間) | | | | |
| 7 | 論文の第2稿を作成する(3) | 論文の第2稿を個別指導します。 | | | | 論文の第2稿を作成する。(4時間) | | | | |
| 8 | 論文第2稿の発表・検討 | 論文の第2稿を発表し、相互に検討します。 | | | | 論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。(4時間) | | | | |
| 9 | 論文の最終稿を作成する(1) | 論文の最終稿を個別指導します。 | | | | 論文の最終稿を作成する。(4時間) | | | | |
| 10 | 論文の最終稿を作成する(2) | 論文の最終稿を個別指導します。 | | | | 論文の最終稿を作成する。(4時間) | | | | |
| 11 | 論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する | 論文の最終稿を最終指導をします。また、提出用の卒業論文を相互点検します。 | | | | 論文の最終稿を完成してくる。最終点検に応じた修正をする。(4時間) | | | | |
| 12 | ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成 | 3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。 | | | | プレゼン資料を作成する。(4時間) | | | | |
| 13 | ゼミ発表会 | 3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。 | | | | ゼミ発表用プレゼン資料を完成してくる。検討内容を修正する。(4時間) | | | | |
| 14 | 卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成 | 各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。 | | | | 卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成してくる。検討内容を修正する。(4時間) | | | | |
| 15 | 卒業研究のまとめ | 卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。 | | | | 印刷原稿を完成させてくる。礼状などの処理を行う。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。 | | | | <p>課題：20% 卒業研究論文：80%で評価します。卒業論文はその内容(テーマ、研究方法の適切さ、考察の妥当性、研究目的と結論の整合性)ならびに、その過程を評価対象とします。Sは上記の全ての内容及び過程が優れているもの。Aは内容及び過程が良好だったもの。Bは内容及び過程が概ね良好だったもの。Cは内容がまとまっており、指示された期日に提出できたものとしします。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 各自のテーマに応じた参考図書を示します。 | | | | <p>課題を自ら探究していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は、自らの研究内容を提示するのはもちろん、仲間の研究にも関心を持つことが、研究を深めます。また、できるだけ多くの関連図書を読むことも重要です。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------|---|---|------|---|------|----------------------------|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL46073 | 研究室 | S-15 |
| 担当者 | 山本 薫 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 卒業研究は、卒業研究スポーツ健康科学演習で学んだ基礎知識を踏まえて運動生理学や実際の運動指導に役立つ専門的知識を活用して自身の興味あるテーマについて自ら調べ、学び、卒業研究(論文)を完成させる。さらにプレゼンテーションの仕方についても学ぶ。また、ゼミの活動や社会の情報を収集を収集することを通して社会性を身につけ、社会人として身につけるべき知識を学ぶ。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 自分の研究テーマについて仮説を立て、その仮説を検証し、筋道を立てて結論を導くことおよび研究結果を踏まえ、決められた書式に従って文書に記し、他者に対して説明できるようになることを目標とする。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 前半はゼミ内卒業研究中間発表に向けて準備を進め、後半は卒論本文の「方法」「結果」「緒言」「考察」と執筆を進め卒論本文と発表用スライド原稿を完成させます。不定期に学外運動指導実習も行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 後期ゼミでの活動について | 卒業研究活動や学外活動について報告します。夏休み中の実験測定結果を報告します。進路や今後のことについて面談します。 | | | | | 夏休み中の卒論実施状況の報告資料を作成する(4時間) | | | | |
| 2 | 後期のゼミ活動について | 3年4年合同ミーティングを行い今後の予定を確認します。 | | | | | 卒論実験測定の準備(4時間) | | | | |
| 3 | 卒業研究実験測定 | 各自の卒業研究テーマにそって実験・測定を進めます。 | | | | | 卒論実験測定の準備(4時間) | | | | |
| 4 | 卒業研究実験測定 | 各自の卒業研究テーマにそって実験・測定を進めます。 | | | | | 卒論実験測定の準備(4時間) | | | | |
| 5 | 卒業研究実験測定 | 各自の卒業研究テーマにそって実験・測定を進めます。 | | | | | 卒論実験測定の準備(4時間) | | | | |
| 6 | 卒業研究ゼミ内中間報告会 | 卒業研究中間報告用抄録案を作成し発表します。発表用スライド案を作成します。 | | | | | 卒論中間報告資料作成(4時間) | | | | |
| 7 | 卒業研究文章等の作成活動(個別討論) | 卒業研究「方法」案を作成し、添削後修正作業を進めます。 | | | | | 卒業研究「方法」案作成(4時間) | | | | |
| 8 | 卒業研究文章等の作成活動(個別討論) | 卒業研究「結果・参考文献」案を提出し、添削後修正します。 | | | | | 卒業研究「結果・参考文献」案作成(4時間) | | | | |
| 9 | 卒業研究文章等の作成活動(個別討論) | 卒論研究「結果」全体についてディスカッションし、考察を深めます。 | | | | | 卒業研究「結果」案完成(4時間) | | | | |
| 10 | 卒業研究文章等の作成活動(個別討論) | 卒業研究「緒言、考察」案を作成し、添削を行います。 | | | | | 卒業研究「緒言、考察」案完成(4時間) | | | | |
| 11 | 卒業研究文章等の作成活動(個別討論) | 卒業研究「本編・抄録」案を作成し提出まとめをおこないます。発表会スライド・ポスター作成について説明します。 | | | | | 発表用スライド・ポスター作成(4時間) | | | | |
| 12 | ゼミ内卒論発表予演会 | ゼミ内で卒論発表予演会を行います。発表原稿を練り直します。 | | | | | 発表スライド・ポスター原稿作成、提出(4時間) | | | | |
| 13 | 卒業研究発表会 | 学科全体発表会。口頭発表やポスター発表を行います。 | | | | | 卒業研究発表準備(4時間) | | | | |
| 14 | 卒業論文最終作成活動(個別) | 卒業論文製本最終作成 | | | | | 卒業論文製本最終作成 | | | | |
| 15 | 卒業研究まとめ(個別) | 卒業論文製本作業。卒業論文まとめ | | | | | 卒業論文製本最終作成 | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「「各自の先行研究・参考文献」」 | | | | | 受講態度：60% レポート：40% 卒業研究への取り組み(文献まとめ、実験)60% 卒業研究の内容 40% 総合評価(S:実験結果・文章ともによくまとめて書けている。A:実験結果・文章ともまとめて書けている。B:実験結果はよくまとめている、文章は不十分。C:実験結果・文章ともに不十分。D:実験結果・文章ともに評価するに値せず) | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「各自の参考文献」 | | | | | レポートや結果報告はワードを使用し、データにて期限内に提出すること。プレゼンテーションはパワーポイントを使用する。連絡や卒論文章やデータのやり取りは大学のメールアドレスを活用する。確認すること | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------|-----------------------|--|------|------|---|-------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL46073 | 研究室 | S-18 |
| 担当者 | 新井 喜代加 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オイスアワ | 火曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 受講生個々人が興味・関心をもつ体育およびスポーツにおける法、行政、政策、マネジメントおよびジェンダー等に関する問題に焦点をあて、「スポーツ健康演習」で学んだ基礎理論や分析・研究方法を生かして、研究課題を設定して、それに取り組み、その成果を卒業論文として纏めます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 関心を寄せる体育およびスポーツに関する問題に向き合い、体育およびスポーツに関する法、行政、政策、マネジメントおよび/或はジェンダー等の専門的知識を活かして、その解決策を卒業論文として示すことができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 受講生個々人が設定した研究テーマについて調査・発表し、討議を通じて問題の所在とその解決策の明確化を図ります。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 16 | 論文の作成2-1 | 討議を通じてさらに研究を深めます | | | | ゼミ発表の準備をする/事後:ゼミ発表で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | | |
| 17 | 論文の作成2-2 | 討議を通じてさらに研究を深めます | | | | ゼミ発表の準備をする/事後:ゼミ発表で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | | |
| 18 | 論文の作成2-3 | 討議を通じてさらに研究を深めます | | | | ゼミ発表の準備をする/事後:ゼミ発表で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | | |
| 19 | 論文の作成2-4 | 討議を通じてさらに研究を深めます | | | | ゼミ発表の準備をする/事後:ゼミ発表で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | | |
| 20 | 論文の作成2-5 | 討議を通じてさらに研究を深めます | | | | ゼミ発表の準備をする/事後:ゼミ発表で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | | |
| 21 | 論文の作成2-6 | 討議を通じてさらに研究を深めます | | | | ゼミ発表の準備をする/事後:ゼミ発表で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | | |
| 22 | 論文の作成2-7 | 討議を通じてさらに研究を深めます | | | | ゼミ発表の準備をする/事後:ゼミ発表で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | | |
| 23 | 論文の作成2-8 | 討議を通じてさらに研究を深めます | | | | ゼミ発表の準備をする/事後:ゼミ発表で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | | |
| 24 | 論文の作成2-9 | 討議を通じてさらに研究を深めます | | | | ゼミ発表の準備をする/事後:ゼミ発表で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | | |
| 25 | 論文の作成2-10 | 討議を通じてさらに研究を深めます | | | | ゼミ発表の準備をする/事後:ゼミ発表で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | | |
| 26 | 論文の作成2-11 | 討議を通じてさらに研究を深めます | | | | ゼミ発表の準備をする/事後:ゼミ発表で頂いた意見等を整理する(8時間) | | | | |
| 27 | 論文概要の作成1 | 討議を通じて、論文の概要を洗練させます | | | | 事前:論文概要の発表準備をする/事後:発表で頂いた意見等を踏まえ概要を修正する(8時間) | | | | |
| 28 | 論文概要の作成2 | 討議を通じて、論文の概要を洗練させます | | | | 事前:論文概要の発表準備をする/事後:発表で頂いた意見等を踏まえ概要を修正する(8時間) | | | | |
| 29 | 卒業研究の発表1 | 卒業研究発表会に向けて予行練習を実施します | | | | 事前:研究発表会の準備をする/事後:予行練習で頂いた意見等を参考に原稿を修正する(8時間) | | | | |
| 30 | 卒業研究の発表2 | 卒業研究発表会に向けて予行練習を実施します | | | | 事前:研究発表会の準備をする/事後:予行練習で頂いた意見等を参考に原稿を修正する(8時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| それぞれの研究に適した文献や資料を適宜紹介します。 | | | レポート:100% レポートは卒業論文です。評価基準は次の通りです。S:批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に研究課題に取り組み、独創性のある論文にまとめて発表できる/A:探求姿勢をもって積極的に研究課題に取り組み、自身が面白いと思える論文にまとめて発表できる/B:積極的に研究課題に取り組み、自身が面白いと思える論文にまとめて発表できる/C:研究課題に取り組み、それを論文にまとめて発表できる | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| それぞれの研究に適した文献や資料を適宜紹介します。 | | | 本演習を履修するにあたって、「スポーツと法」、「スポーツ行政・政策論」、「スポーツマネジメント論」および「地域社会とスポーツ」を受講して下さい。ご自身が面白いと思える研究テーマを選んでください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|------------|-------------------------------|-----------------|---|------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL46073 | 研究室 | S-24 |
| 担当者 | 河野 史倫 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オイスアワ | 月曜日4限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>重力に抗して姿勢を支えるために持続的に活動する骨格筋(抗重力筋)がどのようにその性質を獲得するのか?という大きな研究目的の中で、その一部を明らかにするための研究を行います。実験の動機づけ、デザイン、実施、結果の評価・考察、そして他者へ向けて発表(論文やプレゼン)するところまでが「研究」です。動物実験からサンプル解析、データのまとめまで、一連の作業を担い、卒業研究としてまとめることで、研究のやり方を学び、その重要性や指導現場につなげるための応用法などを考えます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>実験・解析の完遂、卒業論文を作成し修正の過程を経て完成版にすること、発表用のスライドを作成しプレゼンテーションの練習を十分に行うことを到達目標とします。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>個人個人に与えられた研究テーマに沿った動物実験やサンプルの解析を行います。基本的には、個別に研究指導して進めてきますが、定期的に研究計画や進捗を発表・討論する機会を設けます。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p> | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | データ解析に加え、文献の収集や論文作成を行う。(4時間以上) | | | | |
| 2 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | データ解析に加え、文献の収集や論文作成を行う。(4時間以上) | | | | |
| 3 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | データ解析に加え、文献の収集や論文作成を行う。(4時間以上) | | | | |
| 4 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | データ解析に加え、文献の収集や論文作成を行う。(4時間以上) | | | | |
| 5 | 本実験 | 動物実験を実施し、サンプルの解析を行います。 | | | | データ解析に加え、文献の収集や論文作成を行う。(4時間以上) | | | | |
| 6 | 実験結果のまとめ | 解析データから結果について考察し、論文の内容を検討します。 | | | | 解析結果を図にまとめておくこと。(4時間) | | | | |
| 7 | 実験結果のまとめ | 解析データから結果について考察し、論文の内容を検討します。 | | | | 解析結果を図にまとめておくこと。(4時間) | | | | |
| 8 | 卒業論文の作成と修正 | 実験結果を論文にまとめる作業を行います。 | | | | 論文作成に必要な文献を収集し読解しておくこと。論文作成を進めておくこと。(4時間以上) | | | | |
| 9 | 卒業論文の作成と修正 | 実験結果を論文にまとめる作業を行います。 | | | | 論文作成に必要な文献を収集し読解しておくこと。論文作成を進めておくこと。(4時間以上) | | | | |
| 10 | 卒業論文の作成と修正 | 実験結果を論文にまとめる作業を行います。 | | | | 論文作成に必要な文献を収集し読解しておくこと。論文作成を進めておくこと。(4時間以上) | | | | |
| 11 | 卒業論文の作成と修正 | 実験結果を論文にまとめる作業を行います。 | | | | 論文作成に必要な文献を収集し読解しておくこと。論文作成を進めておくこと。(4時間以上) | | | | |
| 12 | 卒業論文の作成と修正 | 実験結果を論文にまとめる作業を行います。 | | | | 論文作成に必要な文献を収集し読解しておくこと。論文作成を進めておくこと。(4時間以上) | | | | |
| 13 | 卒業論文の作成と修正 | 実験結果を論文にまとめる作業を行います。 | | | | 論文作成に必要な文献を収集し読解しておくこと。論文作成を進めておくこと。(4時間以上) | | | | |
| 14 | 発表資料作成 | 卒業研究発表のためのスライド作成と発表練習を行います。 | | | | 発表用のスライドを作成し、事前に発表練習をしておくこと。(4時間) | | | | |
| 15 | 発表資料作成 | 卒業研究発表のためのスライド作成と発表練習を行います。 | | | | 発表用のスライドを作成し、事前に発表練習をしておくこと。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 必要な資料はプリントなどで配布します。 | | | | <p>課題:100%</p> <p>S:卒業条件に加え、論文が投稿できる状態になっている</p> <p>A:卒業条件に加え、論文のパブリッシュに近い状態である</p> <p>B:卒業条件に加え、論文のパブリッシュに向けて準備を進めている</p> <p>C:卒業論文を完成させ、卒業研究発表を行う(卒業条件)</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 必要な資料はプリントなどで配布します。 | | | | <p>自分の研究テーマのみにとどまらず、他の学生の研究にも関わることでより深く骨格筋の仕組みを理解できます。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|----------------------|---|---|------|---|------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | SL46073 | 研究室 | S-20 |
| 担当者 | 齊藤 茂 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 水曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 前期の卒業研究 において学生が自ら興味を持って設定した研究テーマに沿って、方法論、結果、考察、及び結語部分を実際に執筆していきます。また、文献や目次等の体裁も整え、最終稿を提出します。さらに、まずはゼミ内において複数回の発表練習を行い、最終的には卒業研究発表会でプレゼンテーションを行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 前期の卒業研究 に引き続き、卒業研究執筆の過程を通して論理的に考える力や自ら課題に取り組む姿勢を身につけることに加え、効果的なプレゼンテーションを行うための技術を高めることを到達目標とします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 前期の卒業研究 において各自が設定した研究テーマについて、実際に論文の執筆を行います。また、卒業論文発表会に向けて、プレゼンテーションの技術を高めるための発表練習を、発表形態(口頭もしくはポスター)に限らず全員が複数回行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 進捗状況の報告会 | 各自の進捗状況の報告会(パワーポイントによるプレゼンテーション)を行います。 | | | | | 進捗状況の報告資料(パワーポイント)を作成する。(4時間) | | | | |
| 2 | 進捗状況の報告会 | 各自の進捗状況の報告会(パワーポイントによるプレゼンテーション)を行います。 | | | | | 進捗状況の報告資料(パワーポイント)を作成する。(4時間) | | | | |
| 3 | 卒業論文執筆(方法論) | 方法論の執筆方法について確認を行います。 | | | | | 各自で執筆を行う。(4時間) | | | | |
| 4 | 卒業論文執筆(方法論) | 必要に応じて個別指導を行います。 | | | | | 各自で執筆を行う。(4時間) | | | | |
| 5 | 卒業論文執筆(結果・考察) | 結果、及び考察の執筆方法について解説します。 | | | | | 各自で執筆を行う。(4時間) | | | | |
| 6 | 卒業論文執筆(結果・考察) | 結果、及び考察の執筆方法について、必要に応じて個別指導を行います。 | | | | | 各自で執筆を行う。(4時間) | | | | |
| 7 | 卒業論文執筆(結果・考察) | 引き続き、結果、及び考察の執筆方法について、必要に応じて個別指導を各自のペースに合わせて行います。 | | | | | 各自でデータ収集を進める。(4時間) | | | | |
| 8 | 卒業論文執筆(結果・考察) | 結語、及び文献などの執筆方法について確認を行います。 | | | | | 各自でデータ収集を進める。(4時間) | | | | |
| 9 | 卒業論文執筆(結語・文献など) | 結語、及び文献などの執筆方法について確認を行います。 | | | | | 各自で執筆、修正を行う。(4時間) | | | | |
| 10 | 卒業論文執筆(目次や論文の体裁を整える) | 目次や論文の体裁について確認を行います。 | | | | | 配布する資料を熟読する。(4時間) | | | | |
| 11 | 最終稿提出 | 必要に応じて論文の最終稿の個別指導を行います。 | | | | | 最終確認、修正を行う。(4時間) | | | | |
| 12 | ゼミ内卒業研究発表会 | ゼミ内の卒業研究発表会を行います。時間割上可能であれば、3年ゼミ生と合同で行います。 | | | | | プレゼンテーション資料を作成し、練習を行う。(4時間) | | | | |
| 13 | 卒業論文発表会に向けて | ゼミ内発表会を受け、より効果的なプレゼンテーションにするために、資料の改良を行います。 | | | | | 卒業論文発表会のためにプレゼンテーション資料を改良し、発表の練習を行う。(4時間) | | | | |
| 14 | 発表練習 | 口頭発表者、及びポスター発表者を決定したうえで、ゼミ内で発表の練習を行います。また、時間割上可能であれば、3年ゼミ生と合同で行います。 | | | | | 卒業論文発表会のプレゼンテーション資料を作成し、練習を行う。(4時間) | | | | |
| 15 | 卒業研究のまとめ | 卒業研究の総括を行います。 | | | | | 印刷稿を完成させ、必要部数を持参する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| プリント資料を適宜配布します。 | | | | | 課題:50% 受講態度:50% S:卒業論文の執筆過程において積極的かつ探究的に取り組み、優秀な卒業論文を書き上げた。A:卒業論文の執筆過程において積極的に取り組み、内容の濃い卒業論文を書き上げた。B:卒業論文の執筆過程において誠実に取り組み、体裁の整った卒業論文を書き上げた。C:卒業論文を書き上げた。 なお、受講態度は以上の基準のような卒業論文に取組む姿勢により評価します。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| プリント資料を適宜配布します。 | | | | | ・必要に応じて適宜個人指導を行います。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|----------------------|---|-----------------|--|------|----------------|--------------------------------------|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL46073 | 研究室 | S-17 | |
| 担当者 | 田邊 愛子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 木曜日5限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本実習では3年次の健康演習をはじめ、これまでの学習を基礎として研究を深め卒業論文にまとめます。卒業研究の方向性を決定するために、課題を見つけ先行研究、また文献検索の方法を習得します。卒業論文をまとめることで研究計画、研究の方法、データの処理と解析の技術を身につけ、広い視野から考察を深めていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| これまでの学習の復習を行いながら研究を進め、データに基づく卒業論文をまとめるということの総理解と、その手順を説明できるようにする。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 前期は、「健康づくり」における現場の実態とその問題点を検討し、文献を使いながら個別テーマを探していきます。後期は、それぞれの研究の目的に沿ったデータを蓄積し、その結果から様々な考察を考へて論文を完成させていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 論文の初稿を作成する(4) | 背景、目的、仮説までの流れと理解を深めます | | | | | 論文の書き方を理解し仮説まで執筆する。(4時間) | | | | |
| 2 | 論文の初稿を作成する(5) | 背景、目的、仮説までを相互に読み会い、内容および書き方、言い回しについて検討します | | | | | 前回までの検討した結果をまとめておき説明できるようにしておく。(4時間) | | | | |
| 3 | 論文初稿の発表(1) | 論文の初稿を発表し相互に検討します。また、併せて個別指導を行います | | | | | 発表者は論文の初稿を完成させておくこと。(4時間) | | | | |
| 4 | 論文初稿の発表(2) | 論文の初稿を発表し相互に検討します。また、併せて個別指導を行います | | | | | 発表者は論文の初稿を完成させておくこと。(4時間) | | | | |
| 5 | 論文初稿の発表(3) | 論文の初稿を発表し相互に検討します。また、併せて個別指導を行います | | | | | 実験計画書に基づく進捗状況を資料にまとめておく。(4時間) | | | | |
| 6 | 論文初稿の発表(4) | 論文の初稿を発表し相互に検討します。また、併せて個別指導を行います | | | | | 実験計画書に基づく進捗状況を資料にまとめておく。(4時間) | | | | |
| 7 | 実験データの解析方法と統計について(1) | データ分析方法と統計について理解を深め、個別指導を行います | | | | | データ分析し解析結果を発表できるようにしておく。(4時間) | | | | |
| 8 | 実験データの解析方法と統計について(2) | データ分析し、先行研究との比較検討を行います | | | | | 解析結果を先行研究と比較し分析しておくこと。(4時間) | | | | |
| 9 | 実験データの解析方法と統計について(3) | 解析結果について先行研究との比較検討を行い、個別指導をします | | | | | 解析結果を表やグラフにまとめプレゼンできる資料を作成しておく。(4時間) | | | | |
| 10 | 実験データの解析方法と統計について(4) | 結果のまとめを行い、論文の方向性を決めていきます | | | | | 解析結果を表やグラフにまとめプレゼンできる資料を作成しておく。(4時間) | | | | |
| 11 | 結果から考察を考える(1) | 解析結果から考察を作成し、最終稿を完成させるための全体指導を行います | | | | | 考察を考え、説明できるように資料を作成しておく。(4時間) | | | | |
| 12 | 結果から考察を考える(2) | 解析結果から考察を作成し、最終稿を完成させるための個別指導を行います | | | | | 考察を考え、説明できるように資料を作成しておく。(4時間) | | | | |
| 13 | 結果から考察を考える(3) | 最終稿に向けて卒業研究全体のまとめとスライド作成について全体指導を行います | | | | | 修正した考察を考え、最終稿を作成しておく。(4時間) | | | | |
| 14 | ゼミ発表会(1) | 3・4年合同で2班に分かれてゼミ発表会を行い、プレゼンテーション資料を検討します | | | | | プレゼン資料を作成すること。(4時間) | | | | |
| 15 | 卒業研究のまとめ | 卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総合的まとめを行います | | | | | 印刷原稿を完成させてくる。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 適宜プリントを配布します | | | | 受講態度：30% 課題：70% 健康教室などの実習や卒業研究への取り組み姿勢を受講態度とし評価します。課題については授業の中で説明します。95%以上のより高いレベルに達すればS、80%以上の理解度をA、70%以上をB、60%以上をCとします。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「やさしい生理学」森本武利著 | | | | 4年間の集大成として、論文を一つまとめるということは根気と集中力が必要です。興味を持って自ら知識を高めていく努力を必要とします。測定が正しくできること、解析の基礎知識を身につけておくことが望ましい。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------------------|---|---|------|------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL46073 | 研究室 | S-19 |
| 担当者 | 中島 節子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>大学での学びの総仕上げとして、現代社会の多様化した健康問題や健康増進について追及したい課題を発掘し、調査・研究を遂行し、結論に到達する過程を学びながら卒業論文にまとめます。研究は、履修者が興味関心のある中で、疑問に思っていることを明確にするために取り組みます。テーマは、健康づくり、地域保健、学校保健、養護教諭に関連したものなど自分の将来につなげていけるテーマとします。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>運動や健康についての課題を論理的に分析し、卒業論文として結実することができる。 自己の研究の成果を他者に伝えるようにプレゼンテーションができる。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>各自のテーマを決め、研究計画書を作成します。その後は各自で調査研究を進めていきますが、計画書の発表会、中間報告会を行い、プレゼンテーションの技術を磨きます。また、お互いの研究について討議しながら研究手法を学びます。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p> | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 研究の中間発表をし、お互いの学びを深めます。 | 各自の研究の進行状況を報告し、結果が得られたところまで整理し発表して、意見交換を行います。 | | | | 研究計画書を作成する。研究方法を記載し、プレゼンテーションを作成する。(6時間) | | | | |
| 2 | 研究データの収集・調査票の作成を行います。 | 各自の方法に基づきデータ収集を始めます。協力者への依頼文章の作成を行います。データ収集を行います。 | | | | 調査票の作成、依頼文の作成を行う。(4時間) | | | | |
| 3 | 研究データの収集(1) | 各自の方法に基づき倫理的配慮を意識しながら、データの収集を行います。個別指導をします。 | | | | データの収集とデータの整理をしていく。(4時間) | | | | |
| 4 | データの分析の方法 | 自己のテーマと目的と照らしあわせ、集めたデータの分析方法を検討し、分析していきます。 | | | | データを整理し、統計分析する。(4時間) | | | | |
| 5 | データの分析 | 収集したデータを分析し、結果を検討していきます。個別指導を行います。 | | | | データを整理し、統計分析する。(4時間) | | | | |
| 6 | データの分析から結果を作成 | データ分析の結果を検討します。先行研究などと照らし合わせて考察していきます。個別指導をします。 | | | | 統計分析した結果を整理し、プレゼンテーションの準備を行う。(4時間) | | | | |
| 7 | 論文の作成 | 論文に書き上げていきます。参考、引用文献の活用の見直しをします。個別指導を行います。 | | | | 論文作成を進め、中間発表の準備を行う。(4時間) | | | | |
| 8 | 研究の中間発表 | 研究の中間発表を行い、お互いに意見交換を行い修正をします。 | | | | 論文の修正をする。(4時間) | | | | |
| 9 | 論文の作成 | 論文に修正を加え、書き上げていきます。個別指導を行います。 | | | | 論文の修正を加え、書き上げていく。(4時間) | | | | |
| 10 | 論文の作成 | 論文に修正を加え、書き上げていきます。個別指導を行います。 | | | | 論文の修正を加え、書き上げていく。(4時間) | | | | |
| 11 | プレゼンテーションの作成 | 効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか概説します。プレゼンテーション資料を作成します。個別指導を行います。 | | | | プレゼン資料を作成する。(4時間) | | | | |
| 12 | プレゼンテーション | 自己の研究を他者に伝えられるようにプレゼンテーションを行います。 | | | | プレゼンテーションの資料の作成と修正(4時間) | | | | |
| 13 | 論文の作成 | 論文に修正を加え、書き上げていきます。個別指導を行います。 | | | | 論文の修正を加え、書き上げていく。(4時間) | | | | |
| 14 | 抄録の作成 | 抄録を作成します。個別指導を行います。 | | | | 抄録を作成する。(4時間) | | | | |
| 15 | 卒業研究のまとめ | 卒業研究の発表を振り返り、論文の修正を行い、印刷を行います。 | | | | 卒業論文の必要な個所の修正を行い、印刷する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 研究テーマに応じて紹介します。 | | | <p>レポート:50% 課題:50%</p> <p>レポート評価は、最終的に卒業論文が完成していること。S:研究に積極的に取り組み考察を深め、形式を整え期限までに主体的に完成できる。効果的な発表ができる。A:研究の考察を深め、形式を整え期限までに完成でき、効果的な発表ができる。B:卒業論文の形式を整え期限までに提出できる。発表ができる。C:卒業論文の形式は整えられているが考察などの深まりが少ない。発表はできるが工夫点が少ない。</p> | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 必要に応じて紹介します。 | | | <p>日常の中での疑問の中からテーマを決め、追求していきます。研究は一人一テーマで行いますが、お互いに切磋琢磨し、考える力や発言する力をつけていきます。時間と手間を惜しまず取り組んでください。</p> | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------------------|--|-----------------|--|------|---|---------|---------|-----|--|
| 科目名 | 卒業研究 | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | SL46073 | 研究室 | |
| 担当者 | 小松 茂美 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本演習は3年次の健康演習や卒業研究をはじめ、これまでの学習を基礎として研究を深め、卒業論文にまとめます。卒業研究の方向性は、保健体育授業、運動部活動など学校におけるスポーツ活動や健康教育全般に関する内容、実技指導などの分野に関する内容を中心としますが、学校現場が抱える課題や、スポーツ界全体が抱える課題等、広い視点から考察を進めます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことが目標です。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力、文章表現力やプレゼンテーション能力等の論文作成や発表に必要な能力の獲得や向上も目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 各自の研究テーマに応じて個別学習が中心となりますが、各自の研究を受講者全体で相互に議論する機会を設定し、問題の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深め、論文完成を目指します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンスと初稿の発表 | 進捗状況と今後の進め方について確認します。論文の初稿を相互に読み合い討議します。併せて個別指導を行います。 | | | | 論文の初稿を完成して来る。討議・指導された内容について、加筆修正を行う。(4時間) | | | | |
| 2 | 初稿の発表 | 論文の初稿を相互に読み合い討議します。併せて個別指導を行います。 | | | | 論文の初稿を完成して来る。討議・指導された内容について、加筆修正を行う。(4時間) | | | | |
| 3 | 中間発表の資料作成 | 中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と併せて個別指導も行います。 | | | | 初稿に基づきプレゼンの構想を練っておく。指導に基づきプレゼン資料を作成する。(4時間) | | | | |
| 4 | 中間発表 | 中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めて、発表内容について検討します。 | | | | プレゼン資料を作成する。(4時間) | | | | |
| 5 | 中間発表 | 中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めて、発表内容について検討します。 | | | | プレゼン資料を作成する。(4時間) | | | | |
| 6 | 論文の第2稿を作成する | 論文の第2稿の個別指導を参考に、第2稿を作成します。 | | | | 論文の第2稿を作成する。(4時間) | | | | |
| 7 | 論文の第2稿を作成する | 論文の第2稿の個別指導を参考に、第2稿を作成します。 | | | | 論文の第2稿を作成する。(4時間) | | | | |
| 8 | 論文第2稿の発表・検討 | 論文の第2稿を発表し、相互に検討します。個別指導も行います。 | | | | 論文の第2稿を完成させ、発表準備をして来る。検討結果に基づき修正する。(4時間) | | | | |
| 9 | 論文第2稿の発表・検討 | 論文の第2稿を発表し、相互に検討します。個別指導も行います。 | | | | 論文の第2稿を完成させ、発表準備をして来る。検討結果に基づき修正する。(4時間) | | | | |
| 10 | 論文の最終稿を作成する | 論文の最終稿の個別指導を参考に、論文の最終稿を作成します。 | | | | 論文の最終稿を作成する。(4時間) | | | | |
| 11 | 論文の最終稿を作成する | 論文の最終稿の個別指導を参考に、論文の最終稿を作成します。 | | | | 論文の最終稿を作成する。(4時間) | | | | |
| 12 | 論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する。 | 論文の最終稿の最終指導をします。提出用の論文を相互点検します。 | | | | 論文の最終稿を完成して来る。最終点検に応じた修正をする。(4時間) | | | | |
| 13 | ゼミ発表会のプレゼンテーション資料の作成 | 3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。 | | | | プレゼン資料を作成する。(4時間) | | | | |
| 14 | ゼミ発表会 | 3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。 | | | | 卒論発表会用プレゼン資料を作成して来る。検討内容を修正する。(4時間) | | | | |
| 15 | 卒業論文発表会のプレゼンテーション資料の完成とまとめ | 各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を完成し、論文の印刷、礼状の作成など、研究の総まとめを行います。 | | | | 卒論発表会用プレゼン資料の完成と印刷原稿を完成させて来る。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「各自の研究テーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。」 | | | | 課題：20%、卒業研究論文：80%として評価します。卒業論文は内容(研究方法の適切さ、考察の妥当性、研究目的と結論の整合性)ならびに、その過程を評価対象とします。Sは上記の全ての内容及び過程が優れている者。Aは内容及び過程が良好だった者。Bは内容及び過程が概ね良好だった者。Cは内容がまとまっており、指示された期日に提出できた者となります。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「各自のテーマに応じて、参考となる図書を提示します。」 | | | | 課題を自ら探究していく姿勢が重要です。全体で討議する際は、自らの研究内容を提示するのはもちろん、仲間の研究にも関心を持つことが、研究を深めます。また、できるだけ多くの関連図書を読むことも重要です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|----------------|-----------------------------------|---|------|---|------|----------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 卒業研究 | | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | SL46073 | 研究室 | N-05 |
| 担当者 | 丸山 文男 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | 卒業研究 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 研究計画をもとに実験解析を行います。考察を行い結論を導きます。実験解析の方法、図の作成方法、文献の利用方法についても学び「卒業論文」としてまとめます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 研究計画をもとにして、実験解析を重ね、考察し結論を出すことです。さらに、それらを卒業論文として完成させることです。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 研究計画に従って、実験解析を行い、考察を行い結論を出します。それらを卒業論文にまとめます。さらに「卒業論文発表会」に参加して発表します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 実験・解析(1) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果の整理を行います。(4時間) | | | | |
| 2 | 実験・解析(2) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果の整理を行います。(4時間) | | | | |
| 3 | 実験・解析(3) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果の整理を行います。(4時間) | | | | |
| 4 | 実験・解析(4) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果の整理を行います。(4時間) | | | | |
| 5 | 実験・解析(5) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果の整理を行います。(4時間) | | | | |
| 6 | 実験・解析(6) | 研究計画に従って実験解析を行います。 | | | | | 実験解析結果の整理を行います。(4時間) | | | | |
| 7 | 実験解析データのまとめ(1) | 考察を行い結論を導きます。 | | | | | 考察を深めます。(4時間) | | | | |
| 8 | 実験解析データのまとめ(2) | 考察を行い結論を導きます。 | | | | | 考察を深めます。(4時間) | | | | |
| 9 | 論文の書き方 | 論文の書き方を学びます。 | | | | | 章立てを考えます。(4時間) | | | | |
| 10 | 論文作成(1) | 論文を作成します。図と表を準備して書きやすい所から書いていきます。 | | | | | 続きを書いていきます。(4時間) | | | | |
| 11 | 論文作成(2) | 論文を作成します。 | | | | | 続きを書いていきます。(4時間) | | | | |
| 12 | 論文作成(3) | 論文を作成します。並行して発表用のスライドを作成します。 | | | | | スライドを作り発表の練習を行います。(4時間) | | | | |
| 13 | 卒業論文発表会の準備 | 発表の練習を行います。 | | | | | 練習で気がついた問題点を修正します。(4時間) | | | | |
| 14 | 卒業論文発表会 | 自分の研究内容を発表します。 | | | | | 出されたコメントをもとに論文を修正します。(4時間) | | | | |
| 15 | 卒論の最終仕上げ | 提出用論文を仕上げます。 | | | | | 修正を重ねて卒業論文を完成させます。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 適宜紹介します。 | | | | | レポート:70% 出席レポート:30% 成績評価は卒業論文の内容に加え、研究への取り組み方で評価します。 S:探究的思考力で取り組み内容が独創的で明確である。 A:探究的意欲的に取り組み内容と課題が明確にされている。 B:意欲的に取り組み内容が明確にされている。 C:意欲的に取り組んでいるが内容の明確性が弱い。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 適宜紹介します。 | | | | | 卒業論文は学生生活の総仕上げでもあるので積極的に取り組んで下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------|--|------|------|----|-------|---|-----|------|--|
| 科目名 | 地域社会と大学教育（人間健康学部） | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | UL11101 | 研究室 | 学生セク | |
| 担当者 | 住吉 廣行 | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスア | | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | | | | |
| | 健 ス | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義は、初年次教育の意味合いを持たせています。大学のミッション、大学・学部・学科の3ポリシーについて確認します。大学生の特徴を捉えた教育手法を説明し、課題解決型の学びを展開しようとしていること、学生支援についての大学側の考え方がCSの向上にあるのではなく学生をパートナーと見なすというパラダイムシフトを考えていることを説明します。各種センターの機能について説明し、それらを大学生生活の中で活かせるようにします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 大学の教育に対する考え方、大学側が用意している学修支援システムの種類や場所やその機能等について理解すること。そしてそれらを活用するためにも、学生一人一人がこれからの大学生活をどのように送るべきかを十分に考え、カリキュラムの組み方、取得すべき資格、地域連携・ボランティア活動等学生の自主的な活動への参加などについてプランニングが出来るようになること。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| オムニバスでの授業となります。学長、学部長・両学科長、各センター長などが交代で担当します。加えて、大学の「自主独立の精神に基づいて、それぞれの学部に適した内容で前向きな姿勢で講演して下さるゲストをお招きし、熱く語っていただきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 長野県、松本市などの特徴 | 松本大学が立地する長野県、松本市がどのような特色を持った地域であるか、地勢、文化、歴史などから概観し、そのような地で学ぶ事の意義を考える。 | | | | | 事前：パンフレットは熟読する。(2時間)事後：配布したプリントに基づき復習する。(2時間) | | | |
| 2 | 大学設立経緯と学校法人の組織 | 長野県、松本市及び広域連合、松商学園が1/3つ出合った本学の設立経緯、地域立大学と呼ばれる本学及び学生への期待と存在意義、法人組織の全容を紹介する。 | | | | | 事前：配布したプリントを読む。(2時間)事後：本学及び本学部について文章でまとめる。(2時間) | | | |
| 3 | 松本大学の教育手法（帰納的教育手法等）、具体例紹介 | 松本大学の地域連携による多様な取組をいくつか紹介し、それらが学生の成長をどのように促しているかを具体的に把握して貰う。 | | | | | 事前：以前に配布したプリントを読む(2時間)事後：地域連携に必要な資質を考える(2時間) | | | |
| 4 | 本学での国際交流の現状と将来 | 本学の国際交流の現状を具体例を用いて説明し、学生にどのような可能性があるかを確認させる。その中で国際交流委員会が果たす窓口機能の役割も説明する。 | | | | | 事前：グローバル化について検討。(2時間)事後：自身の学修計画に国際を組み込む。(2時間) | | | |
| 5 | 健康安全センターの役割、本学における図書館機能 | 前半は学生の健康を守る者としての健康安全センターの役割を周知し、身体検査結果の解説や喫煙や受動喫煙が体に及ぼす影響に警鐘をならす。後半は大学での学修拠点となる図書館から賢い利用方法を提示する。 | | | | | 事前：キャンパスガイドで健康安全センターと図書館の機能を把握する。(4時間) | | | |
| 6 | 地域づくり考房『ゆめ』の存在意義 | 地域づくり考房『ゆめ』設立の経緯とその理念を理解して貰う。予め準備されたシートに書き込むことによって、自らの地域との関わり方とその可能性を認識する。 | | | | | 事前：活動事例を調べる。(2時間)事後：『ゆめ』を訪問し、活動に触れる。(2時間) | | | |
| 7 | 特別講義「積極的に生きる」 | 特別講師による、これまでの人生経験とそこから育まれた人生観を語っていただき、これからの大学生活を意欲を持って前向きに取り組むことの意味を学んで貰う。 | | | | | 事後：講義を聞いた感想を短くても良いのでまとめる。(4時間) | | | |
| 8 | 学部の理念と特徴、学ぶべき内容 | 学部のACDポリシーを説明し、学びの体系とその狙いなどを語る。2つの学科が存在することに対する大学側の思いや考え方にも触れ、学生の学修意欲を高めたい。 | | | | | 事前：学部の3ポリシーを理解する。(2時間)事後：ポリシーを踏まえ目標を検討する。(2時間) | | | |
| 9 | 学科の理念と特徴、学ぶべき内容 | 2つある内の一つの学科について、どのような学びの可能性があるかを説明し、将来の就職先との関連などにも言及する。具体例に基づき学生のイメージを膨らませる。 | | | | | 事前：学部の3ポリシーを理解する。(2時間)事後：ポリシーを踏まえ目標を検討する。(2時間) | | | |
| 10 | 学科の理念と特徴、学ぶべき内容 | もう一つの学科について、その学科の特徴を踏まえて、上と同じような説明を行い、学生の学びへの意欲を高める。 | | | | | 事前：学部の3ポリシーを理解する。(2時間)事後：ポリシーを踏まえ目標を検討する。(2時間) | | | |
| 11 | 教職センターの役割1 | 教職の免許を取るための学びの枠組みや履修するための諸手続きについて詳細に説明する。卒業要件に含まれない単位取得に伴う時間的な制約についても理解する。 | | | | | 事後：配付された資料を読み、教職センターを訪問し疑問点をなくすようにする。(4時間) | | | |
| 12 | 教職センターの役割2 | 教育実習を含む学びの具体的な内容に加え、先輩である卒業生の状況、教員採用状況などについて理解する。学修支援の体制（試験対策）の利用を促す。 | | | | | 事前：前週配布のプリントを読む(2時間)事後：教職課程を取るか否かを検討する(2時間) | | | |
| 13 | 自らの特徴を理解する | PROGテストの結果とその見方について解説される。自分自身の持つ特徴について考察する機会とする。 | | | | | 事後：結果は一つの参考データであり、これをどのように受け止めるべきかを良く考える。(4時間) | | | |
| 14 | 大学側の学生支援の考え方を理解 | 松本大学が“B”ポリシーとして学生支援を積極的に考えており、学生をカスタマーではなくパートナーとして見ようと考えているが、その哲学を理解して貰う。 | | | | | 事前：事前配布のプリントを読む。(2時間)事後：自分たちに何が出来るかを考える。(2時間) | | | |
| 15 | 松本大学の地方創生戦略と大学教育 授業のまとめ | 松本大学がこれまで実施してきた地域連携活動が認められ、COC（地（知）の拠点）大学として認定された。こうした活動を踏まえ、大学のこれからの地域連携を考える。全講義のまとめ、期末試験の注意点を示 | | | | | 事後：蒼穹を読み松本大学のCOCがどのような内容であったかを学んでおく。(4時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 講義用プリントが配布されます。 | | 定期試験：100% S:大学の使命、教育手法等を正しく理解したうえで、大学生生活に意欲を持ち、卒業に向けた準備学修の計画を立て、試験で特に優れた結果を出すことができる。A:大学の使命、教育手法等を理解したうえで、今後の大学生生活に意欲を持ち、卒業に向けた準備学修の計画ができ、試験で80点以上である。B:大学の使命、教育手法等を概ね理解したうえで、卒業に向けた準備学修の計画ができ試験で70点以上である。C:大学の使命、教育手法等を踏まえ、準備学修の計画がある程度でき、試験で60点以上である。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | | | |
| 本学が発行する各種パンフレットなど。 | | 講義は前の席で聞きたい学生を予め募集し、席を2列ほど確保します。残りの学生は座席指定とします。シラバスをよく読んで、講義に臨んで下さい。受講票に記入された感想、質問、要望には次の時間に答えたいと思います。 | | | | | | | | |

| 科目名 | 知の技法 | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL11102 | 研究室 | A-16 |
|---|----------------|----------------------------------|------|--|----------------|-----------------------------|---------|-------------|-----|------|
| 担当者 | 守 一雄 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 火曜日5限、木曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | 2017年度～ | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>教養ある大人となるための「知の技法」を実習します。「知の技法」は広範囲に及びますが、この授業では言語の活用技術に絞って「読み・書き・聞き・話す」という4つの技能について実習を通して学びます。具体的には、3冊の課題図書を読み、レポートを6回書き、本の内容について6回ディベート(聞き、話す)をします。なお、最終試験の受験資格が与えられるのは「ディベートに5回以上出席し、すべての読後レポートを提出」した者としてします。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>1) 本を決められた期間内に読めるようになる。2) パラグラフ・ライティングで文章が書けるようになる。3) ディベートで相手の主張を正しく聞き取ることができるようになる。4) ディベートで自分の意見を決められた時間内に話すことができるようになる。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>全部で15回の授業のうち、6回を講義と実習、6回を小グループによるディベートに充てます。講義を聞くだけでなく、課題図書を読み、読後レポートを書き、ディベートで聞き、話すことで、言語の4つの機能をフル活用する授業となるようにします。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | この授業の進め方/ディベートのやり方と利点 | | | | 課題図書(1)の読書(4時間) | | | | |
| 2 | パラグラフライティング | レポートの書き方実習(三論点意見文章法)/パラグラフライティング | | | | 課題図書(1)の読書(4時間) | | | | |
| 3 | ディベート | ディベート導入の是非についてディベート | | | | 読後レポート(1)の作成、提出(4時間) | | | | |
| 4 | 相互添削実習 | レポート(1)の返却と相互添削実習 文章推敲の意義と方法 | | | | レポート(1)の書き直し(4時間) | | | | |
| 5 | ディベート | ディベート導入の是非について再度ディベートします | | | | レポート(1)の完成版提出(4時間) | | | | |
| 6 | 意見と感想 | レポート(1)完成版返却とコメント 絶対評価と相対評価 | | | | 課題図書(2)の読書(4時間) | | | | |
| 7 | ディベート | 課題図書(2)に関するテーマについてディベートします | | | | 課題図書(2)のレポート(3)提出(4時間) | | | | |
| 8 | レポート(3)の相互添削実習 | レポート(3)の相互添削実習/三論点文章法の応用 | | | | 読後レポート(3)の推敲、完成版作成(4時間) | | | | |
| 9 | ディベート | 課題図書(2)に関するテーマについてディベートします | | | | レポート(3)の書き直しと完成版(4)の提出(4時間) | | | | |
| 10 | 英語を学ぶことの意義 | レポート(4)返却とコメント/科学的思考方法 | | | | 課題図書(3)の読書(4時間) | | | | |
| 11 | ディベート | 課題図書(3)に関するテーマについてディベートします | | | | 課題図書(3)のレポート(5)提出(4時間) | | | | |
| 12 | 英語学習の実際 | レポート(5)の相互添削実習/三論点文章法の応用 | | | | 読後レポート(5)の推敲、完成版(6)作成(4時間) | | | | |
| 13 | ディベート | 課題図書(3)に関するテーマについてディベートします | | | | 読後レポート(6)の作成、提出(4時間) | | | | |
| 14 | 知の技法まとめ | レポート(6)返却とコメント | | | | 総合的復習(4時間) | | | | |
| 15 | 最終試験・授業アンケート | 最終試験・授業アンケート | | | | 総合的復習(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| <p>「ザ・ディベート」茂木秀昭著(ちくま新書) ISBN:978-4480058928(生協で購入してください。) 課題図書 「残念ながら、その文章では伝わりません」山口拓朗著(たいわ文庫) ISBN:978-4479306597(生協で購入してください。) 課題図書 「英語を制するライティング」キム ジョンキユ著(講談社現代新書)(別途、指示します。) 課題図書</p> | | | | <p>定期試験:100% S:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C:課題すべてを基準レベルで達成した。なお、最終試験では、知識を問うような試験はしません。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 特になし。 | | | | <p>楽な授業ではありませんが、本を読む習慣が付き、文章を書く力がつくはずですが、また、ディベートを通して、自分の主張をわかりやすく話し、相手の主張をしっかりと聞き取れるようになると思います。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------|--|-----------------|------|------|---|---------|---------|-----|--|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL11103 | 研究室 | |
| 担当者 | 各教員 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | 2016年度～ ～2016年度 大学入門 | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 意義ある大学生活を送り、多くのものを学び、それを社会に出た時に発揮できるようにするためにはどうするればよいかについて修得することが、本ゼミナールの学習の目的であると同時に、大学生活の根本的課題です。本ゼミナールでは、そのための具体的方法を、講義、事例研究、実践演習など、様々な学習方法を通して学んでいきます。1年目の大学生活をスムーズに行うための学習方法、時間管理、大学施設・組織の活用方法などを学び、自ら学ぶ姿勢を身につけます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 大学の仕組みを理解し、勉強の仕方を修得し大学生活をスムーズに送ることができることを目標とします。また、本講座での学びが、社会に出た時に必要なスキルの基礎となることを意識し、自ら学ぶ姿勢を身につけることをめざします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 基本的にはテキストを中心に各ゼミ担当の指導が中心となります。しかし、講義や学習内容によっては、演習形式、講演会形式など様々な形態もありますので、学習のねらいや年間計画をきちんと理解して、取り組むことが必要です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本授業のねらいと進め方について確認します。ゼミ内で自己紹介を行い大学生活の目標を明確にします。大学の授業の形式などを示し、大学での学び方を考えます。単位について説明し、授業のとり方について確認 | | | | シラバスを熟読しておくこと(1時間) | | | | |
| 2 | 大学生の学びの仕方(1) | 1週間講義を受けてみて、大学での講義の受け方やノートのとり方などを確認しながら情報交換を行い、今後の講義の受け方に役立てていきます。 | | | | 「履修登録の手引き」を読み、各自の履修を確認する。(1時間) | | | | |
| 3 | 大学生の学びの仕方(2) | 2週間講義を受けてみて、大学での講義の受け方やノートのとり方などを確認しながら情報交換を行い、今後の講義の受け方に役立てていきます。 | | | | テキストの1章を読み、各自の講義ノートの整理を行う。(1時間) | | | | |
| 4 | 大学生の学びの書き方(1) | 学術書や専門分野の入門書、学術的な文章を読む必要性と読み方について学びます。読む前に、難しそうと拒否せず取り組めるように考えます。 | | | | テキストの2章を読み、読み方のテクニックをマスターしておく(1時間) | | | | |
| 5 | 大学生の学びの書き方(2) | 作成したレポートを添削し、客観的に評価します。内容の構成や表現、言葉使いなどを修正します。 | | | | 期日までにレポートを作成しておく(1時間) | | | | |
| 6 | PROG | PROG検査を実施します。 | | | | 事前説明に基づき、実施内容を把握する(1時間) | | | | |
| 7 | 教育企画 | 社会にでるために、視野や可能性を広げるために、実際に海外経験や海外から見た日本についての話を聞き、グローバル化につて学び考えます。 | | | | 講義の内容を含めてレポートをまとめる(1時間) | | | | |
| 8 | スポーツ大会(企画と運営) | スポーツ大会を企画し、準備、運営を学び実践します。スポーツ大会に必要な準備物、役割、プログラム作成などを考えます。 | | | | スポーツ大会に必要な準備物、役割などを話し合う(1時間) | | | | |
| 9 | スポーツ大会(運営と振り返り) | スポーツ大会を企画し、準備、運営を学び実践します。スポーツ大会に必要な準備物、役割、プログラム作成などを考え、実施後に振り返りを行います。 | | | | スポーツ大会に必要な準備物、役割分担などを確認する(1時間) | | | | |
| 10 | 基礎学習 | 高校までに学習した基礎分野の知識を深めるため、英語、数学、国語、社会、時事などを中心に学力の向上を目指し学習します。 | | | | 事前に配布された資料に目を通しておくこと(1時間) | | | | |
| 11 | 大学生の学びの仕方(1) | ゼミ発表とはどのようなことかを学び、方法についての基本を学びます。テーマを決めてゼミ発表のレジュメを作成します。 | | | | テキストの8章を読む。ゼミ発表のレジュメを作成する(1時間) | | | | |
| 12 | 大学生の学びの仕方(2) | レジュメをもとにゼミ発表を行います。お互いの発表を聞き、意見交換を行います。 | | | | テキストの9章をよく読み、お互いのゼミ発表を振り返る(1時間) | | | | |
| 13 | 基礎学習 | 基礎学習の振り返りを実施し、応用問題へ進めていきます。 | | | | 事前に配布された資料に目を通しておくこと(1時間) | | | | |
| 14 | 基礎学習 | 基礎学習を踏まえ、試験問題に取り組み課題を見つけます。 | | | | 事前に配布された資料に目を通しておくこと(1時間) | | | | |
| 15 | 大学生の学びの大学の試験 | 大学の定期試験について概要を解説します。実際に試験に向けての試験勉強の方法、試験対策などについて意見交換をします。 | | | | テキストの10章を読み、試験に向けての疑問点を書きだす(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | |
| 「大学生 学びのハンドブック(改訂版)」世界思想社編集部編(世界思想社) ISBN:9784790715405(生協で購入してください。) 最初の講義までにテキストを購入して持参してください。必要に応じてプリント資料も配布して学習を進めます。 | | | | | | 課題:70% レポート:30% S: B評価の要件に加え、ゼミ活動において特に優れたリーダーシップを発揮している A: B評価の要件に加え、ゼミ内での活動に積極的に参加している B: 情報検索やレポート作成を自立して実行できる C: 大学での学び方を習得し実践できる | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | |
| 必要な場合はプリントなどで配布します。 | | | | | | 大学生活が充実したものになるかどうかは自分自身に懸かっていることを忘れずに、大学生活の基本を学ぶという姿勢で本授業に取り組んでください。 | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|----------------------|---|---|------|---|------|-------------------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール | | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパ'リング | UL11104 | 研究室 | S-17 |
| 担当者 | 田邊 愛子 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 木曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学生年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | 2017年度～ | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 意義ある大学生活を送り、多くのものを学び、それを社会に出た時に発揮できるようにするためにはどうすればよいかについて修得することが、本ゼミナールの学習の目的であると同時に、大学生活の根本的課題です。本ゼミナールでは、そのための具体的方法を、講義、事例研究、実践演習など、様々な学習方法を通して学んでいきます。1年目の大学生活をスムーズに行うための学習方法、時間管理、大学施設・組織の活用方法などを学び、自ら学ぶ姿勢を身につけます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 大学の仕組みを理解し、勉強の仕方を修得し大学生活をスムーズに送ることができることを目標とします。また、本講座での学びが、社会に出た時に必要なスキルの基礎となることを意識し、自ら学ぶ姿勢を身につけることをめざします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 基本的にはテキストを中心に各ゼミ担当の指導が中心となります。しかし、講義や学習内容によっては、演習形式、講演会形式など様々な形態もありますので、学習のねらいや年間計画をきちんと理解して、取り組むことが必要です。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 後期オリエンテーション | 後期の講義予定と進め方について説明します。夏期課題の回収と確認テストまでの勉強の仕方について説明します。 | | | | | シラバスを熟読し、夏期課題で分からなかった部分をまとめておく(1時間) | | | | |
| 2 | キャリア談話 | 資格取得や就職活動などについて先輩と対話を重ね、それぞれの専門について知識を深めていきます。 | | | | | 資格取得に必要な講義などの履修状況を振り返る(1時間) | | | | |
| 3 | 野外活動報告会とスポフェスの企画プレゼン | 2年生が経験した野外活動の報告を聞き、自分たちが行く野外活動のイメージを抱き、夢と心構えを養います。また、2年生が企画するスポフェスのプレゼンテーションを聞き、大学祭への関心を高めます。 | | | | | スポフェスに参加する(1時間) | | | | |
| 4 | スポーツ大会企画 | スポーツ大会を企画し、各ゼミごとに種目・ルールなどを提案しそれぞれの係を決めます。 | | | | | 企画・運営するために必要なものを準備する(1時間) | | | | |
| 5 | スポーツ大会(1) | 企画したスポーツ大会を運営します。 | | | | | スポーツ大会に必要なものを準備する(1時間) | | | | |
| 6 | スポーツ大会(2) | 企画したスポーツ大会を運営します。 | | | | | スポーツ大会に必要なものを準備します(1時間) | | | | |
| 7 | スポーツ大会の振り返り | 企画・運営したスポーツ大会を振り返ります。お互いに意見交換を行います。 | | | | | プレゼンテーションの準備(1時間) | | | | |
| 8 | 薬物防止講座 | 薬物乱用防止のための講座を開講します。 | | | | | 薬物について調べてくる(1時間) | | | | |
| 9 | 基礎学習 | 時事問題についての理解を深めます。 | | | | | 新聞を読んでくる(1時間) | | | | |
| 10 | 基礎教養確認テスト | 今まで大学入門ゼミで学習してきたことを総合的に振り返ります。 | | | | | 今までに配布された資料に目を通すこと(1時間) | | | | |
| 11 | クラスの時間(キャリア談話) | クラス内で1年次の学習の成果を総合的に振り返ります。 | | | | | 講義内容をまとめる(1時間) | | | | |
| 12 | クラスの時間(進路) | 2年次に向けて、資格取得や進路などを | | | | | 講義内容をまとめる(1時間) | | | | |
| 13 | 基礎学習のまとめ | 基礎学習で学んだことをゼミ内で話し合いを行い、それぞれの課題について理解度を把握し復習します。 | | | | | 講義内容をまとめる(1時間) | | | | |
| 14 | クラスの時間(試験に向けて) | 大学の試験に向けて総合的にまとめをします。 | | | | | 事前に配布した資料に目を通す(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 1年間の学習の復習を行い、大学での学びを振り返りながら、2年次に向けての動機づけを行います。 | | | | | テキストを読み返し、1年間の学習の復習をする(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「大学生 学びのハンドブック(改訂版)」世界思想社編集部編(世界思想社) ISBN:9784790715405 (生協で購入してください。) 最初の講義までにテキストを購入して持参してください。必要に応じてプリント資料も配布して学習を進めます。 | | | | | 課題:70% レポート:30% S: B評価の要件に加え、ゼミ活動において特に優れたリーダーシップを発揮している A: B評価の要件に加え、ゼミ内での活動に積極的に参加している B: 情報検索やレポート作成を自立して実行できる C: 大学での学び方を習得し実践できる | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 必要な場合はプリントなどで配布します。 | | | | | 大学生活が充実したものになるかどうかは自分自身に懸かっていることを忘れずに、大学生活の基本を学ぶという姿勢で本授業に取り組んでください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------------|---|----------------|------|-----------------|-----------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 総合英語 (INT) Aクラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12101 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | ミゲル アルバート ション | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英語 (基礎) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。 | | | | 授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間) | | | | |
| 2 | The World's Best-Selling Medicine 1 | ガイドンスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 3 | The World's Best-Selling Medicine 2 | 授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 4 | Fighting Diseases with Diseases 1 | 人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 5 | Fighting Diseases with Diseases 2 | 人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 6 | Saved from Certain Death 1 | 致命的なウイルス感染による病気からの回復について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 7 | Saved from Certain Death 2 | 致命的なウイルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 8 | Dolphins to the Rescue 1 | 動物と人間の不思議な関係について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 9 | Dolphins to the Rescue 2 | 動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 10 | The Gentle Giant from Africa 1 | キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 11 | The Gentle Giant from Africa 2 | キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 12 | Animal Detectives 1 | 猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 13 | Animal Detectives 2 | 猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 14 | How the Kiwi Got Its Name 1 | キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 15 | How the Kiwi Got Its Name 2 | キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「READ THIS! 2」Daphne Mackey, Alice Savage著(Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9 (生協で購入してください。) | | 受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 特になし。 | | 原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------------|---|------|---|-----------------|-----------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 総合英語 (INT) Bクラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12101 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | イサー フィリップ | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英語 (基礎) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。 | | | | 授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間) | | | | |
| 2 | The World's Best-Selling Medicine 1 | ガイドンスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 3 | The World's Best-Selling Medicine 2 | 授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 4 | Fighting Diseases with Diseases 1 | 人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 5 | Fighting Diseases with Diseases 2 | 人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 6 | Saved from Certain Death 1 | 致命的なウイルス感染による病気からの回復について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 7 | Saved from Certain Death 2 | 致命的なウイルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 8 | Dolphins to the Rescue 1 | 動物と人間の不思議な関係について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 9 | Dolphins to the Rescue 2 | 動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 10 | The Gentle Giant from Africa 1 | キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 11 | The Gentle Giant from Africa 2 | キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 12 | Animal Detectives 1 | 猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 13 | Animal Detectives 2 | 猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 14 | How the Kiwi Got Its Name 1 | キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 15 | How the Kiwi Got Its Name 2 | キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「READ THIS! 2」Daphne Mackey, Alice Savage著(Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9 (生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 特になし。 | | | | 原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------------|---|------|---|-----------------|-----------------------------------|---------|-------------|-----|------|
| 科目名 | 総合英語 (INT) Cクラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12101 | 研究室 | A-08 |
| 担当者 | 和田 順一 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日2限、水曜日3限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英語 (基礎) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。 | | | | 授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間) | | | | |
| 2 | The World's Best-Selling Medicine 1 | ガイドンスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 3 | The World's Best-Selling Medicine 2 | 授業の実施方法について理解する。世界で最も売られている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 4 | Fighting Diseases with Diseases 1 | 人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 5 | Fighting Diseases with Diseases 2 | 人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 6 | Saved from Certain Death 1 | 致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 7 | Saved from Certain Death 2 | 致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 8 | Dolphins to the Rescue 1 | 動物と人間の不思議な関係について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 9 | Dolphins to the Rescue 2 | 動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 10 | The Gentle Giant from Africa 1 | キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 11 | The Gentle Giant from Africa 2 | キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 12 | Animal Detectives 1 | 猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 13 | Animal Detectives 2 | 猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 14 | How the Kiwi Got Its Name 1 | キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 15 | How the Kiwi Got Its Name 2 | キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「READ THIS! 2」Daphne Mackey, Alice Savage著(Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9 (生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 特になし。 | | | | 原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------------|--|----------------|-----------------|----|--------|---|-----|-----|--|
| 科目名 | 総合英語 (スポーツ) Aクラス | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12101 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 吉田 美咲 | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | A | B | C | ~2016年度 英語 (基礎) | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本文法を復習します。単に文法を暗記するのではなく、耳と口を使って英語を吸収し、会話を楽しみながら学習します。アウトプットを繰り返し行うことで、重要語彙や文法パターンを自然な形で身に付け、TOEICでもハイスコアを目指せるような土台を築きます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。 基礎文法を使って海外で日常生活ができる程度のスピーキング力を修得している。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| アウトプット中心の体験型学習を通して基礎的な会話を復習します。課題もアウトプットが主になります。Eラーニングを採用し、授業中の問題解答や宿題管理を行います。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス 英語習得のための意識改革と学習方法 | 授業の概要と目標、進め方について説明。英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。Eラーニングツール「チェックリンク(CL)」を登録。 | | | | | 授業内で指示(1時間) | | | |
| 2 | 現在形(Be動詞) First Day of Class | 現在形(Be動詞) am, are, beの違い、否定文、疑問文、命令文 学校での会話とリスニング 自己紹介の仕方 | | | | | P14 A, P16 C (CL) 会話練習、単語、自分の自己紹介を書いてくる(1時間) | | | |
| 3 | 一般動詞の現在形 I Love Bread! | 一般動詞現在形の否定文、疑問文、命令文 パン屋での会話とリスニング グループで自己紹介 | | | | | P20 A, P22 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 4 | 可算名詞と不可算名詞 Pizza Time | 可算名詞、不可算名詞の違い ピザ注文の会話とリスニング メニューの読み方 | | | | | P26 A, P28 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 5 | 代名詞 Not Just a Baker | 代名詞(主格、所有格、目的格、所有代名詞) アルバイトに関する会話とリスニング 好きなバンドを紹介しよう | | | | | P32 A, P34 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 6 | 一般動詞の過去形 What's wrong with Hitomi? | 一般動詞(過去形)の変化、否定文・疑問文 病院での会話とリスニング 1日の予定を言ってみよう | | | | | P38 A, P40 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 7 | 中間テスト | 中間テスト: 2-6講で学んだダイアログを基にした自由会話の口述テスト | | | | | P44 A, P46 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 8 | 前置詞 I Feel Healthy Already! | 時と場所を表す様々な前置詞 食料品店での会話とリスニング 学校と授業について紹介してみよう | | | | | P50 A, P52 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 9 | 未来形 Small Talk | 未来を表す表現(will, be going to) 道案内の会話とリスニング 週末の予定を言ってみよう | | | | | P56 A, P58 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 10 | 現在完了形 Weight Down, Power Up! | 現在完了形(経験、継続、完了) ジムでの会話とリスニング To-Do-Listを書いてみよう | | | | | P62 A, P64 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 11 | 比較級と最上級 It's Nice...And | 比較級・最上級 自転車店での会話とリスニング 比較級で文章を作ってみよう | | | | | P68A, P70 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 12 | 接続詞 Hitomi Wants a New Look | 様々な接続詞(and, or, but, so) 美容室での会話とリスニング 接続詞を使って自分について書いてみよう | | | | | P74 A, P76 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 13 | 動名詞と不定詞 Shopping for Clothes | 動名詞と不定詞の意味 ショッピングでの会話とリスニング 自分の好き嫌いについて書いてみよう | | | | | P80 A, P82 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 14 | 疑問詞 I'm Meeting a Friend | 疑問詞の種類(5W1H) ルームメイトとの会話とリスニング 最近行ったレストランを紹介してみよう | | | | | P86 A, P88 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 15 | 助動詞 Date Night | 様々な助動詞(can, should, must, have to, might) 回転寿司店での会話とリスニング 学校の規則について書いてみよう | | | | | P92 A, P94 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「English Aid」Robert Hickling / Misato Usukura 著(金星堂) ISBN:9784764740365(生協で購入してください。) | | 受講態度:10% 定期試験:30% 課題:30% 小テスト:30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | インターネットでダウンロードした音声を活用した課題が出ます。PC、スマートフォンのいずれかが必要です。英語上達には、積極性と地道な努力が不可欠。英語を話す自分をイメージし、会話を楽しみながら受講してください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------------|--|----------------|-----------------|----|--------|---|-----|-----|--|
| 科目名 | 総合英語 (スポーツ) Bクラス | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12101 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 勝山 庸子 | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | A | B | C | ~2016年度 英語 (基礎) | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本文法を復習します。単に文法を暗記するのではなく、耳と口を使って英語を吸収し、会話を楽しみながら学習します。アウトプットを繰り返し行うことで、重要語彙や文法パターンを自然な形で身に付け、TOEICでもハイスコアを目指せるような土台を築きます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。 基礎文法を使って海外で日常生活ができる程度のスピーキング力を修得している。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| アウトプット中心の体験型学習を通して基礎的な会話を復習します。課題もアウトプットが主になります。Eラーニングを採用し、授業中の問題解答や宿題管理を行います。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス 英語習得のための意識改革と学習方法 | 授業の概要と目標、進め方について説明。英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。Eラーニングツール「チェックリンク(CL)」を登録。 | | | | | 授業内で指示(1時間) | | | |
| 2 | 現在形(Be動詞) First Day of Class | 現在形(Be動詞) am, are, beの違い、否定文、疑問文、命令文 学校での会話とリスニング 自己紹介の仕方 | | | | | P14 A, P16 C (CL) 会話練習、単語、自分の自己紹介を書いてくる(1時間) | | | |
| 3 | 一般動詞の現在形 I Love Bread! | 一般動詞現在形の否定文、疑問文、命令文 パン屋での会話とリスニング グループで自己紹介 | | | | | P20 A, P22 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 4 | 可算名詞と不可算名詞 Pizza Time | 可算名詞、不可算名詞の違い ピザ注文の会話とリスニング メニューの読み方 | | | | | P26 A, P28 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 5 | 代名詞 Not Just a Baker | 代名詞(主格、所有格、目的格、所有代名詞) アルバイトに関する会話とリスニング 好きなバンドを紹介しよう | | | | | P32 A, P34 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 6 | 一般動詞の過去形 What's wrong with Hitomi? | 一般動詞(過去形)の変化、否定文・疑問文 病院での会話とリスニング 1日の予定を言ってみよう | | | | | P38 A, P40 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 7 | 中間テスト | 中間テスト: 2-6講で学んだダイアログを基にした自由会話の口述テスト | | | | | P44 A, P46 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 8 | 前置詞 I Feel Healthy Already! | 時と場所を表す様々な前置詞 食料品店での会話とリスニング 学校と授業について紹介してみよう | | | | | P50 A, P52 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 9 | 未来形 Small Talk | 未来を表す表現(will, be going to) 道案内の会話とリスニング 週末の予定を言ってみよう | | | | | P56 A, P58 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 10 | 現在完了形 Weight Down, Power Up! | 現在完了形(経験、継続、完了) ジムでの会話とリスニング To-Do-Listを書いてみよう | | | | | P62 A, P64 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 11 | 比較級と最上級 It's Nice...And | 比較級・最上級 自転車店での会話とリスニング 比較級で文章を作ってみよう | | | | | P68A, P70 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 12 | 接続詞 Hitomi Wants a New Look | 様々な接続詞(and, or, but, so) 美容室での会話とリスニング 接続詞を使って自分について書いてみよう | | | | | P74 A, P76 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 13 | 動名詞と不定詞 Shopping for Clothes | 動名詞と不定詞の意味 ショッピングでの会話とリスニング 自分の好き嫌いについて書いてみよう | | | | | P80 A, P82 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 14 | 疑問詞 I'm Meeting a Friend | 疑問詞の種類(5W1H) ルームメイトとの会話とリスニング 最近行ったレストランを紹介してみよう | | | | | P86 A, P88 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 15 | 助動詞 Date Night | 様々な助動詞(can, should, must, have to, might) 回転寿司店での会話とリスニング 学校の規則について書いてみよう | | | | | P92 A, P94 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「English Aid」Robert Hickling / Misato Usukura 著(金星堂) ISBN:9784764740365(生協で購入してください。) | | 受講態度:10% 定期試験:30% 課題:30% 小テスト:30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | インターネットでダウンロードした音声を活用した課題が出ます。PC、スマートフォンのいずれかが必要です。英語上達には、積極性と地道な努力が不可欠。英語を話す自分をイメージし、会話を楽しみながら受講してください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------------|--|----------------|----------------|----|--------|---|-----|-----|--|
| 科目名 | 総合英語（スポーツ）Cクラス | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12101 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 小西 さやか | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | A | B | C | ~2016年度 英語(基礎) | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本文法を復習します。単に文法を暗記するのではなく、耳と口を使って英語を吸収し、会話を楽しみながら学習します。アウトプットを繰り返し行うことで、重要語彙や文法パターンを自然な形で身に付け、TOEICでもハイスコアを目指せるような土台を築きます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。 基礎文法を使って海外で日常生活ができる程度のスピーキング力を修得している。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| アウトプット中心の体験型学習を通して基礎的な会話を復習します。課題もアウトプットが主になります。Eラーニングを採用し、授業中の問題解答や宿題管理を行います。プレースメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス 英語習得のための意識改革と学習方法 | 授業の概要と目標、進め方について説明。英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。Eラーニングツール「チェックリンク(CL)」を登録。 | | | | | ゴールの設定、自己学習計画を立てロードマップへ記入する。(1時間) | | | |
| 2 | 現在形(Be動詞) First Day of Class | 現在形(Be動詞) am, are, beの違い、否定文、疑問文、命令文 学校での会話とリスニング 自己紹介の仕方 | | | | | P14 A, P16 C (CL) 会話練習、単語、自分の自己紹介を書いてくる(1時間) | | | |
| 3 | 一般動詞の現在形 I Love Bread! | 一般動詞現在形の否定文、疑問文、命令文 パン屋での会話とリスニング グループで自己紹介 | | | | | P20 A, P22 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 4 | 可算名詞と不可算名詞 Pizza Time | 可算名詞、不可算名詞の違い ピザ注文の会話とリスニング メニューの読み方 | | | | | P26 A, P28 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 5 | 代名詞 Not Just a Baker | 代名詞(主格、所有格、目的格、所有代名詞) アルバイトに関する会話とリスニング 好きなバンドを紹介しよう | | | | | P32 A, P34 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 6 | 一般動詞の過去形 What's wrong with Hitomi? | 一般動詞(過去形)の変化、否定文・疑問文 病院での会話とリスニング 1日の予定を言ってみよう | | | | | P38 A, P40 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 7 | 中間テスト | 中間テスト: 2-6講で学んだダイアログを基にした自由会話の口述テスト 残り時間: 進行形 | | | | | P44 A, P46 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 8 | 前置詞 I Feel Healthy Already! | 時と場所を表す様々な前置詞 食料品店での会話とリスニング 学校と授業について紹介してみよう | | | | | P50 A, P52 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 9 | 未来形 Small Talk | 未来を表す表現(will, be going to) 道案内の会話とリスニング 週末の予定を言ってみよう | | | | | P56 A, P58 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 10 | 現在完了形 Weight Down, Power Up! | 現在完了形(経験、継続、完了) ジムでの会話とリスニング To-Do-Listを書いてみよう | | | | | P62 A, P64 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 11 | 比較級と最上級 It's Nice...And | 比較級・最上級 自転車店での会話とリスニング 比較級で文章を作ってみよう | | | | | P68A, P70 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 12 | 接続詞 Hitomi Wants a New Look | 様々な接続詞(and, or, but, so) 美容室での会話とリスニング 接続詞を使って自分について書いてみよう | | | | | P74 A, P76 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 13 | 動名詞と不定詞 Shopping for Clothes | 動名詞と不定詞の意味 ショッピングでの会話とリスニング 自分の好き嫌いについて書いてみよう | | | | | P80 A, P82 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 14 | 疑問詞 I'm Meeting a Friend | 疑問詞の種類(5W1H) ルームメイトとの会話とリスニング 最近行ったレストランを紹介してみよう | | | | | P86 A, P88 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 15 | 助動詞 Date Night | 様々な助動詞(can, should, must, have to, might) 回転寿司店での会話とリスニング 学校の規則について書いてみよう | | | | | P92 A, P94 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「English Aid」Robert Hickling / Misato Usukura 著(金星堂) ISBN:9784764740365(生協で購入してください。) | | 受講態度:10% 定期試験:30% 課題:30% 小テスト:30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | インターネットでダウンロードした音声を活用した課題が出ます。PC、スマートフォンのいずれかが必要です。英語上達には、積極性と地道な努力が不可欠。英語を話す自分をイメージし、会話を楽しみながら受講してください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------------|---|----------------|-----------------|--|---------|---|-----|------|--|
| 科目名 | 総合英語 (スポーツ) Dクラス | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12101 | 研究室 | N-03 | |
| 担当者 | 藤原 隆史 | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 火曜日5限、木曜日3限 | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | A | B | C | ~2016年度 英語 (基礎) | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本文法を復習します。単に文法を暗記するのではなく、耳と口を使って英語を吸収し、会話を楽しみながら学習します。アウトプットを繰り返し行うことで、重要語彙や文法パターンを自然な形で身に付け、TOEICでもハイスコアを目指すような土台を築きます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。 基礎文法を使って海外で日常生活ができる程度のスピーキング力を修得している。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| アウトプット中心の体験型学習を通して基礎的な会話を復習します。課題もアウトプットが主になります。Eラーニングを採用し、授業中の問題解答や宿題管理を行います。プレースメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス 英語習得のための意識改革と学習方法 | 授業の概要と目標、進め方について説明。英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。Eラーニングツール「チェックリンク(CL)」を登録。 | | | | | ゴールの設定、自己学習計画を立てロードマップへ記入する。(1時間) | | | |
| 2 | 現在形(Be動詞) First Day of Class | 現在形(Be動詞) am, are, beの違い、否定文、疑問文、命令文 学校での会話とリスニング 自己紹介の仕方 | | | | | P14 A, P16 C (CL) 会話練習、単語、自分の自己紹介を書いてくる(1時間) | | | |
| 3 | 一般動詞の現在形 I Love Bread! | 一般動詞現在形の否定文、疑問文、命令文 パン屋での会話とリスニング グループで自己紹介 | | | | | P20 A, P22 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 4 | 可算名詞と不可算名詞 Pizza Time | 可算名詞、不可算名詞の違い ピザ注文の会話とリスニング メニューの読み方 | | | | | P26 A, P28 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 5 | 代名詞 Not Just a Baker | 代名詞(主格、所有格、目的格、所有代名詞) アルバイトに関する会話とリスニング 好きなバンドを紹介しよう | | | | | P32 A, P34 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 6 | 一般動詞の過去形 What's wrong with Hitomi? | 一般動詞(過去形)の変化、否定文・疑問文 病院での会話とリスニング 1日の予定を言ってみよう | | | | | P38 A, P40 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 7 | 中間テスト | 中間テスト: 2-6講で学んだダイアログを基にした自由会話の口述テスト 残り時間: 進行形 | | | | | P44 A, P46 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 8 | 前置詞 I Feel Healthy Already! | 時と場所を表す様々な前置詞 食料品店での会話とリスニング 学校と授業について紹介してみよう | | | | | P50 A, P52 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 9 | 未来形 Small Talk | 未来を表す表現(will, be going to) 道案内の会話とリスニング 週末の予定を言ってみよう | | | | | P56 A, P58 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 10 | 現在完了形 Weight Down, Power Up! | 現在完了形(経験、継続、完了) ジムでの会話とリスニング To-Do-Listを書いてみよう | | | | | P62 A, P64 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 11 | 比較級と最上級 It's Nice...And | 比較級・最上級 自転車店での会話とリスニング 比較級で文章を作ってみよう | | | | | P68A, P70 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 12 | 接続詞 Hitomi Wants a New Look | 様々な接続詞(and, or, but, so) 美容室での会話とリスニング 接続詞を使って自分について書いてみよう | | | | | P74 A, P76 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 13 | 動名詞と不定詞 Shopping for Clothes | 動名詞と不定詞の意味 ショッピングでの会話とリスニング 自分の好き嫌いについて書いてみよう | | | | | P80 A, P82 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 14 | 疑問詞 I'm Meeting a Friend | 疑問詞の種類(5W1H) ルームメイトとの会話とリスニング 最近行ったレストランを紹介してみよう | | | | | P86 A, P88 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| 15 | 助動詞 Date Night | 様々な助動詞(can, should, must, have to, might) 回転寿司店での会話とリスニング 学校の規則について書いてみよう | | | | | P92 A, P94 C (CL) 会話練習、単語(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「English Aid」Robert Hickling / Misato Usukura 著(金星堂) ISBN:9784764740365(生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:10% 定期試験:30% 課題:30% 小テスト:30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | | インターネットでダウンロードした音声を活用した課題が出ます。PC、スマートフォンのいずれかが必要です。英語上達には、積極性と地道な努力が不可欠。英語を話す自分をイメージし、会話を楽しみながら受講してください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|---|----------------|------|-----------------|----------------------------|--------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 総合英語 (スポーツ) Eクラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12101 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 大岩 裕子 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英語 (基礎) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| Eクラス スポーツの世界でも、良い結果を得るためには基礎を大切に地道な練習を毎日続けていくことが求められます。英語の学習もこれと似ています。大学入学までに学んだ基礎文法をもう一度確認・整理することで、「読む、聞く、書く、話す」につながる土台作りを目指します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 基本的な英文法を理解すること。辞書を使い英文の内容を読み取る力をつけること。運動とスポーツに関する英語の表現・語彙を増やすことが目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| テキストとプリント教材を使って授業を進めていきます。プレイズメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス/This is My Classmates/be動詞(現在形) | 英文を支える大黒柱は動詞。その役割と意味を理解しておくことが英語の学習のスタートです。まずはbe動詞から確認していきましょう。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 2 | I Was Sleepy/be動詞(過去形) | be動詞の過去形をいろいろな状況での使い分けを試みましょう。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 3 | I Work Part-time on Weekends/一般動詞の現在時制 | 一般動詞の現在形の使い方のルールを復習しましょう。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 4 | I Bought a New Shirt/一般動詞の過去時制 | 英語では動詞の形を変えることで「~した」と過去のことを表します。現在形と比べながら、過去形の使い方を整理しましょう。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 5 | Are You Going to Study Abroad?/ 未来表現 | 実際にはまだ起こっていないことや、不確実なこと、予想、予定などを伝えるいろいろな表現を学びます。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる(1時間) | | | | |
| 6 | Is He Running?/進行形 | 今まさに目の前で進行している動作を表す現在進行形。実際の場面を想像しながら、進行形の役割を学習します。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 7 | It's Yours/代名詞 | 同じ単語の繰り返しを避けるため、すでに話題に上った人や物を代名詞を使って表します。頻繁に登場するので、代表的な代名詞の意味と働きを理解しておきましょう。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 8 | It's on Your Desk/場所を表す前置詞 | 場所を表す基本的な前置詞を整理しましょう。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 9 | Where Are You Going?/疑問詞 | 誰が、何を、どこで、など具体的な情報を尋ねたいときの疑問文を復習します。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 10 | Have You Ever Played the Piano?/現在完了 | 過去の出来事と現在とを関連づける現在完了形。 have+動詞の過去分詞形の形にも慣れましょう。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる(1時間) | | | | |
| 11 | Shall We Go?/助動詞 | 代表的な助動詞の意味を整理し、実際に使って英文を作ってみましょう。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 12 | Three Cups of Coffee, Please/ 名詞の数 | 英語の名詞は「数えられるもの」と「数えられないもの」という基準で分類されます。日本語との違いを確認しながら、名詞を使うときのルールを学びます。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 13 | Who is the Tallest?/比較 | 英語ではふたつ以上のものを比較する際には形容詞や副詞の形を変化させて表します。比較の三つの形を整理しましょう。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 14 | The Door Was Closed/受動態 | 動作を受ける側を主体にした「~される」と表す文を受動態(受け身)と呼びます。形と使い方を復習しましょう。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| 15 | I Like Cats and Dogs/接続詞/講義全体のまとめ | 接続詞は文と文、語と語を結び働きをします。時、理由、条件などを表す接続詞の使い方を復習しましょう。 | | | | 講義後、サブノート用プリントを完成させる。(1時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「English Illustrated」Kazumi Namiki, Kaori Noro, Susan Adams Yamada著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4063-1(生協で購入してください。) テキストの他にプリント教材、資料を配布します。 | | 受講態度:20% 課題:20% 定期試験:60% 受講態度は、授業への意欲(予習・発言)、課題の提出状況と内容などで、総合的に評価します。S:授業内容をほぼ100パーセント理解し、意欲的に課題に取り組み優秀な成績をおさめている。A:授業内容をよく理解し、積極的に課題に取り組み目標を十分に達成している。B:授業内容をおおそ理解し、真面目に課題に取り組み目標を達成している。C:授業内容の60%程度を理解し、目標にほぼ達している。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| なし | | 辞書は授業中にも使いますから、必ず用意してください。また、毎回の講義終了前に次回講義の概要や予習等について説明をします。予習の指示がある場合は、必ず予習をしてから講義に臨んでください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|------|---|-----------------|-----------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 総合英語 (INT) Aクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12102 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | ミゲル アルバート ション | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英語 (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス・Ice Hotel 1 | ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 2 | Ice Hotel 2 | またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 3 | The Traveling Chef 1 | Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 4 | The Traveling Chef 2 | Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 5 | Sail High in the Sky 1 | Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 6 | Sail High in the Sky 2 | Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 7 | The Mysterious Disappearance of Kaiko 1 | Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 8 | The Mysterious Disappearance of Kaiko 2 | Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 9 | An Ocean of Plastic 1 | Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 10 | An Ocean of Plastic 2 | Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 11 | Ed Pulaski and the Big Burn 1 | Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 12 | Ed Pulaski and the Big Burn 2 | Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考え方を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 13 | The Flying Housewife 1 | Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 14 | The Flying Housewife 2 | Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 15 | Blade Runner | Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「READ THIS! 3」Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 特になし。 | | | | 原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|----------------|-----------------|----|-----------------------------------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 総合英語 (INT) Bクラス | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12102 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | イサー フィリップ | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスア- | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | A | B | C | ~2016年度 英語 (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| 前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| 英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンス・Ice Hotel 1 | ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 2 | Ice Hotel 2 | またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 3 | The Traveling Chef 1 | Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 4 | The Traveling Chef 2 | Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 5 | Sail High in the Sky 1 | Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 6 | Sail High in the Sky 2 | Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 7 | The Mysterious Disappearance of Kaiko 1 | Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 8 | The Mysterious Disappearance of Kaiko 2 | Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 9 | An Ocean of Plastic 1 | Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 10 | An Ocean of Plastic 2 | Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 11 | Ed Pulaski and the Big Burn 1 | Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 12 | Ed Pulaski and the Big Burn 2 | Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考え方を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 13 | The Flying Housewife 1 | Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 14 | The Flying Housewife 2 | Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| 15 | Blade Runner | Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「READ THIS! 3」Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。) | | 受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。 | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 特になし。 | | 原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|------|---|-----------------|-----------------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 総合英語 (INT) Cクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12102 | 研究室 | A-08 |
| 担当者 | 和田 順一 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日2限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英語 (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス・Ice Hotel 1 | ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 2 | Ice Hotel 2 | またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 3 | The Traveling Chef 1 | Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 4 | The Traveling Chef 2 | Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 5 | Sail High in the Sky 1 | Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 6 | Sail High in the Sky 2 | Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 7 | The Mysterious Disappearance of Kaiko 1 | Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 8 | The Mysterious Disappearance of Kaiko 2 | Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 9 | An Ocean of Plastic 1 | Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 10 | An Ocean of Plastic 2 | Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 11 | Ed Pulaski and the Big Burn 1 | Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 12 | Ed Pulaski and the Big Burn 2 | Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考えを理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 13 | The Flying Housewife 1 | Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 14 | The Flying Housewife 2 | Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| 15 | Blade Runner | Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。 | | | | 授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「READ THIS! 3」Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 特になし。 | | | | 原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--|--|----------------|-----------------|----|--------|--|-----|-----|
| 科目名 | 総合英語 (スポーツ) Aクラス | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバ'リング | UL12102 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 吉田 美咲 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | A | B | C | ~2016年度 英語 (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| 総合英語を受講した学生が基礎文法を応用し、TOEICレベルの英語を聞く・読む力を養うクラスです。総合英語に続きリスニング、スピーキングを中心に学習します。これまでの学習スタイルに加えネイティブが話す英語にある音の変化を学び、聞き取れるよう取り組みます。また100字から150字のリーディング問題を難なくとけるよう、サイトトランスレーションの技術を学びます。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| ネイティブスピーカーが話す自然な英語を聞きとり、復唱ができる。 基礎文法に加え、語彙やイディオムを増やし、より自由に英語で自己表現ができる。 簡単な新聞記事なども推測しながら内容把握ができる。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| リスニングにディクテーションを加え、読み書きの力もつけていきます。事前課題は音読などを行い、授業で発表することで課題点が与えられます。映像から話を理解し、同じような場面設定で発話ができるよう練習します。100語程度の長文読解も取り入れます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | |
| 1 | Scene1: It's so nice to meet you! be動詞と一般動詞, 挨拶をする | 授業の概要と目標、授業の進め方を説明。 be動詞と一般動詞の性質や使い方の確認 「握手」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 2 | Scene2: Is he a popular professor?疑問文と否定文, 自己紹介をする | 疑問文と否定文の特徴 自己紹介する際の口語表現 「クラブ活動」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 3 | Scene3: He showed me "a" way 現在形と過去形, 感想を言う | 現在形と過去形の使い方 自分の感想や感情を表す口語表現 「ホームステイ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 4 | Scene4: For here or to go?可算名詞と不可算名詞, 注文をする | 可算名詞と不可算名詞の違いと使い方 注文をする時の口語表現 「キャンパスライフ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 5 | Scene5: She is so beautiful 代名詞, お願いをする | 代名詞の確認 お願いをする時の口語表現 「キャンパスライフ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 6 | Scene6: Catching a cab 前置詞, 場所を説明する | 前置詞の性質と使い方 場所を説明する時の口語表現 「チップ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 7 | 中間テスト(口述) Scene7: How Romantic! | 中間テスト: 1-6講で学んだ内容のロールプレイ発表 残り時間: 形容詞と副詞の違いと使い方 人を描写する際の口語表現 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 8 | Scene8: I'm not feeling well 助動詞, 体調を述べる | 助動詞の種類と使い方 体調を表現するときの口語表現 「旅行保険」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 9 | Scene9: Tickets for a Yankee Game 進行形, 誘う | 進行形の使い方 行動を誘う時の口語表現 「大学スポーツ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 10 | Scene10: What's on the shopping list?接続詞, 誘いを断る | 接続詞の種類 誘いを断る時の口語表現 「健康食」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 11 | Scene11: MoMA is fun! 現在完了形, 聞き直す | 現在完了形の種類と使い方 聞き直す時の口語表現 「フロードウェイ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 12 | Scene12: The "Fourth of July" is coming up 未来形, 予定を尋ねる | 未来形の種類と使い方 予定を尋ねる時の口語表現 「独立記念日」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 13 | Scene13: Who is that guy?!不定詞と動名詞, 提案する | 不定詞と動名詞の性質と使い方 提案する時の口語表現 「カレッジタウン」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 14 | Scene14: You're my friend, 比較級と最上級 | 比較級と最上級の使い方 会話を切り出す時の口語表現 「結婚年齢」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | |
| 15 | まとめ | 口述テスト: グループに分かれ、これまで学んだ内容を使ってフリートーク | | | | | 期末試験に向けての準備(1時間) | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久、本多吉彦 Braven Smillie 著(金星堂) ISBN:9784764740112(生協で購入してください。) | | 受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。PC、スマホのいずれかが必要です。英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。楽しみながら受講して下さい。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|----------------|-----------------|----|--------|--|-----|-----|--|
| 科目名 | 総合英語 (スポーツ) Bクラス | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバ'リング | UL12102 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 勝山 庸子 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | A | B | C | ~2016年度 英語 (初級) | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 総合英語を受講した学生が基礎文法を応用し、TOEICレベルの英語を聞く・読む力を養うクラスです。総合英語に続きリスニング、スピーキングを中心に学習します。これまでの学習スタイルに加えネイティブが話す英語にある音の変化を学び、聞き取れるよう取り組みます。また100字から150字のリーディング問題を難なくとけるよう、サイトトランスレーションの技術を学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| ネイティブスピーカーが話す自然な英語を聞きとり、復唱ができる。 基礎文法に加え、語彙やイディオムを増やし、より自由に英語で自己表現ができる。 簡単な新聞記事なども推測しながら内容把握ができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| リスニングにディクテーションを加え、読み書きの力もつけていきます。事前課題は音読などを行い、授業で発表することで課題点が与えられます。映像から話を理解し、同じような場面設定で発話ができるよう練習します。100語程度の長文読解も取り入れます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | Scene1: It's so nice to meet you! be動詞と一般動詞, 挨拶をする | 授業の概要と目標、授業の進め方を説明。 be動詞と一般動詞の性質や使い方の確認 「握手」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 2 | Scene2: Is he a popular professor?疑問文と否定文, 自己紹介をする | 疑問文と否定文の特徴 自己紹介する際の口語表現 「クラブ活動」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 3 | Scene3: He showed me "a" way 現在形と過去形, 感想を言う | 現在形と過去形の使い方 自分の感想や感情を表す口語表現 「ホームステイ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 4 | Scene4: For here or to go?可算名詞と不可算名詞, 注文をする | 可算名詞と不可算名詞の違いと使い方 注文をする時の口語表現 「キャンパスライフ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 5 | Scene5: She is so beautiful 代名詞, お願いをする | 代名詞の確認 お願いをする時の口語表現 「キャンパスライフ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 6 | Scene6: Catching a cab 前置詞, 場所を説明する | 前置詞の性質と使い方 場所を説明する時の口語表現 「チップ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 7 | 中間テスト(口述) Scene7: How Romantic! | 中間テスト: 1-6講で学んだ内容のロールプレイ発表 残り時間: 形容詞と副詞の違いと使い方 人を描写する際の口語表現 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 8 | Scene8: I'm not feeling well 助動詞, 体調を述べる | 助動詞の種類と使い方 体調を表現するときの口語表現 「旅行保険」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 9 | Scene9: Tickets for a Yankee Game 進行形, 誘う | 進行形の使い方 行動を誘う時の口語表現 「大学スポーツ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 10 | Scene10: What's on the shopping list?接続詞, 誘いを断る | 接続詞の種類 誘いを断る時の口語表現 「健康食」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 11 | Scene11: MoMA is fun! 現在完了形, 聞き直す | 現在完了形の種類と使い方 聞き直す時の口語表現 「ブロードウェイ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 12 | Scene12: The "Fourth of July" is coming up 未来形, 予定を尋ねる | 未来形の種類と使い方 予定を尋ねる時の口語表現 「独立記念日」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 13 | Scene13: Who is that guy?!不定詞と動名詞, 提案する | 不定詞と動名詞の性質と使い方 提案する時の口語表現 「カレッジタウン」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 14 | Scene14: You're my friend, 比較級と最上級 | 比較級と最上級の使い方 会話を切り出す時の口語表現 「結婚年齢」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 15 | まとめ | 口述テスト: グループに分かれ、これまで学んだ内容を使ってフリートーク | | | | | 期末試験に向けての準備(1時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久、本多吉彦 Braven Smillie 著(金星堂) ISBN:9784764740112(生協で購入してください。) | | 受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。PC、スマホのいずれかが必要です。英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。楽しみながら受講して下さい。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|---|----------------|------|--|----|--|---------|-----|-----|
| 科目名 | 総合英語（スポーツ）Cクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12102 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 小西 さやか | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英語(初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 総合英語を受講した学生が基礎文法を応用し、TOEICレベルの英語を聞く・読む力を養うクラスです。総合英語に続きリスニング、スピーキングを中心に学習します。これまでの学習スタイルに加えネイティブが話す英語にある音の変化を学び、聞き取れるよう取り組みます。また100字から150字のリーディング問題を難なくとけるよう、サイトトランスレーションの技術を学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| ネイティブスピーカーが話す自然な英語を聞きとり、復唱ができる。 基礎文法に加え、語彙やイディオムを増やし、より自由に英語で自己表現ができる。 簡単な新聞記事なども推測しながら内容把握ができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| リスニングにディクテーションを加え、読み書きの力もつけていきます。事前課題は音読などを行い、授業で発表することで課題点が与えられます。映像から話を理解し、同じような場面設定で発話ができるよう練習します。100語程度の長文読解も取り入れます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | Scene1: It's so nice to meet you! be動詞と一般動詞, 挨拶をする | 授業の概要と目標、授業の進め方を説明。 be動詞と一般動詞の性質や使い方の確認 「握手」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 2 | Scene2: Is he a popular professor?疑問文と否定文, 自己紹介をする | 疑問文と否定文の特徴 自己紹介する際の口語表現 「クラブ活動」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 3 | Scene3: He showed me "a" way 現在形と過去形, 感想を言う | 現在形と過去形の使い方 自分の感想や感情を表す口語表現 「ホームステイ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 4 | Scene4: For here or to go?可算名詞と不可算名詞, 注文をする | 可算名詞と不可算名詞の違いと使い方 注文をする時の口語表現 「キャンパスライフ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 5 | Scene5: She is so beautiful 代名詞, お願いをする | 代名詞の確認 お願いをする時の口語表現 「キャンパスライフ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 6 | Scene6: Catching a cab 前置詞, 場所を説明する | 前置詞の性質と使い方 場所を説明する時の口語表現 「チップ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 7 | 中間テスト(口述) Scene7: How Romantic! | 中間テスト: 1-6講で学んだ内容のロールプレイ発表 残り時間: 形容詞と副詞の違いと使い方 人を描写する際の口語表現 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 8 | Scene8: I'm not feeling well 助動詞, 体調を述べる | 助動詞の種類と使い方 体調を表現するときの口語表現 「旅行保険」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 9 | Scene9: Tickets for a Yankee Game 進行形, 誘う | 進行形の使い方 行動を誘う時の口語表現 「大学スポーツ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 10 | Scene10: What's on the shopping list?接続詞, 誘いを断る | 接続詞の種類 誘いを断る時の口語表現 「健康食」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 11 | Scene11: MoMA is fun! 現在完了形, 聞き直す | 現在完了形の種類と使い方 聞き直す時の口語表現 「ブロードウェイ」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 12 | Scene12: The "Fourth of July" is coming up 未来形, 予定を尋ねる | 未来形の種類と使い方 予定を尋ねる時の口語表現 「独立記念日」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 13 | Scene13: Who is that guy?! 不定詞と動名詞, 提案する | 不定詞と動名詞の性質と使い方 提案する時の口語表現 「カレッジタウン」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 14 | Scene14: You're my friend, 比較級と最上級 | 比較級と最上級の使い方 会話を切り出す時の口語表現 「結婚年齢」についての長文 | | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | |
| 15 | まとめ | 口述テスト: グループに分かれ、これまで学んだ内容を使ってフリートーク | | | | | 期末試験に向けての準備(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久、本多吉彦 Braven Smillie 著(金星堂) ISBN:9784764740112(生協で購入してください。) | | | | | 受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | | インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。PC、スマホのいずれかが必要です。英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。楽しみながら受講して下さい。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|---|------|--|-----------------|--|--------|-------------|-----|------|
| 科目名 | 総合英語 (スポーツ) Dクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパ'リング | UL12102 | 研究室 | N-03 |
| 担当者 | 藤原 隆史 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 火曜日5限、水曜日2限 | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英語 (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 総合英語を受講した学生が基礎文法を応用し、TOEICレベルの英語を聞く・読む力を養うクラスです。総合英語に続きリスニング、スピーキングを中心に学習します。これまでの学習スタイルに加えネイティブが話す英語にある音の変化を学び、聞き取れるよう取り組みます。また100字から150字のリーディング問題を難なくとけるよう、サイトトランスレーションの技術を学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| ネイティブスピーカーが話す自然な英語を聞きとり、復唱ができる。 基礎文法に加え、語彙やイディオムを増やし、より自由に英語で自己表現ができる。 簡単な新聞記事なども推測しながら内容把握ができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| リスニングにディクテーションを加え、読み書きの力もつけていきます。事前課題は音読などを行い、授業で発表することで課題点が与えられます。映像から話を理解し、同じような場面設定で発話ができるよう練習します。100語程度の長文読解も取り入れます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | Scene1: It's so nice to meet you! be動詞と一般動詞, 挨拶をする | 授業の概要と目標、授業の進め方を説明。 be動詞と一般動詞の性質や使い方の確認 「握手」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 2 | Scene2: Is he a popular professor?疑問文と否定文, 自己紹介をする | 疑問文と否定文の特徴 自己紹介する際の口語表現 「クラブ活動」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 3 | Scene3: He showed me "a" way 現在形と過去形, 感想を言う | 現在形と過去形の使い方 自分の感想や感情を表す口語表現 「ホームステイ」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 4 | Scene4: For here or to go?可算名詞と不可算名詞, 注文をする | 可算名詞と不可算名詞の違いと使い方 注文をする時の口語表現 「キャンパスライフ」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 5 | Scene5: She is so beautiful 代名詞, お願いをする | 代名詞の確認 お願いをする時の口語表現 「キャンパスライフ」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 6 | Scene6: Catching a cab 前置詞, 場所を説明する | 前置詞の性質と使い方 場所を説明する時の口語表現 「チップ」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 7 | 中間テスト(口述) Scene7: How Romantic! | 中間テスト: 1-6講で学んだ内容のロールプレイ発表 残り時間: 形容詞と副詞の違いと使い方 人を描写する際の口語表現 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 8 | Scene8: I'm not feeling well 助動詞, 体調を述べる | 助動詞の種類と使い方 体調を表現するときの口語表現 「旅行保険」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 9 | Scene9: Tickets for a Yankee Game 進行形, 誘う | 進行形の使い方 行動を誘う時の口語表現 「大学スポーツ」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 10 | Scene10: What's on the shopping list?接続詞, 誘いを断る | 接続詞の種類 誘いを断る時の口語表現 「健康食」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 11 | Scene11: MoMA is fun! 現在完了形, 聞き直す | 現在完了形の種類と使い方 聞き直す時の口語表現 「ブロードウェイ」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 12 | Scene12: The "Fourth of July" is coming up 未来形, 予定を尋ねる | 未来形の種類と使い方 予定を尋ねる時の口語表現 「独立記念日」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 13 | Scene13: Who is that guy?!不定詞と動名詞, 提案する | 不定詞と動名詞の性質と使い方 提案する時の口語表現 「カレッジタウン」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 14 | Scene14: You're my friend, 比較級と最上級 | 比較級と最上級の使い方 会話を切り出す時の口語表現 「結婚年齢」についての長文 | | | | 単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 口述テスト: グループに分かれ、これまで学んだ内容を使ってフリートーク | | | | 期末試験に向けての準備(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久、本多吉彦 Braven Smillie 著(金星堂) ISBN:9784764740112(生協で購入してください。) | | | | 受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。PC、スマホのいずれかが必要です。英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。楽しみながら受講して下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------|--|----------------|------|----------------|-------------------------|--------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 総合英語（スポーツ）Eクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12102 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 大岩 裕子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英語(初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 前期で一通り基本的な英文法を復習しました。後期は、日常的な場面をイメージしたコミュニケーションのトレーニングをします。アルバイトや買い物など身近な事柄、日本の文化や生活習慣について英語で発信してみます。前期に学習した「読む・書く」を「聞く・話す」につなげます。健康・スポーツについての最新情報を読み、ボキャブラリーの強化も狙います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 基礎文法の復習、大学生として相応の英語表現と基礎知識を身につけること、実際のコミュニケーションで遭遇する場面をイメージしながら短い英語表現を使えることが目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| テキストとプリント教材を中心に授業を進めます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | Giving Directions and Helping | 日本を訪れる外国人も増えました。英語でも道案内の方法を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 2 | Talking about Yourself | 自己紹介はコミュニケーションの基本です。英語で自分についていろいろなことを言えるようにしましょう。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 3 | Host Family | 自宅に留学生を迎える時に使える英語表現を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 4 | Commuting by Train | 電車の乗り換えを説明する英語表現を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 5 | Taking Classes | 物事を描写、説明するときの英語表現を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 6 | Talking with a Teacher | 会話において「褒め上手」になることは大切です。相手を褒める時の英語表現を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 7 | Finding Friends | 自分の趣味や好みを相手の伝える英語表現を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 8 | Potluck | パーティなど人の集まる場面でのコミュニケーションに役立つ英語表現を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 9 | Sumo | 物事を説明、描写するときの英語表現を練習します。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 10 | Four Seasons | 季節や天気の話は、会話を始める時に便利な話題です。好きな季節について話してみましょう。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 11 | Green Tea | 物事を描写、説明するときの英語表現を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 12 | Japanese Food | 「和食」はユネスコの文化遺産に登録されています。日本の食文化について説明する英語表現を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 13 | Part-time Jobs | アルバイト先で使える英語表現を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 14 | Shopping at a Clothing Shop | 買い物をするとき、接客するときの英語表現を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| 15 | Asakusa | おすすめの観光地を紹介する英語表現を学びます。 | | | | サブノート用プリントを完成させ提出。(1時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「Welcome to Nippon!」Akira tajino著(Asahi Press) ISBN:978-4-255-15613-2(生協で購入してください。)テキストの他にプリント教材を配布します。 | | 受講態度:20% 小テスト:20% 定期試験:60% 受講態度は、授業への意欲(予習・発言)、課題の提出状況とその内容、プレイズメントテストの結果などで、総合的に判断します。S:授業内容をほぼ100%理解し、意欲的に課題に取り組み優秀な成績をおさめている。A:授業内容をよく理解し、積極的に課題に取り組み目標を十分に達成している。B:授業内容をおおよそ理解し、真面目に課題に取り組み、目標を達成している。C:授業内容を60%程度理解し、目標にほぼ届いている。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| なし | | 辞書は必ず用意してください。毎回の講義終了前に次回講義の概要や予習等について説明をします。必ず予習をしてから講義に臨んでください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---|--|-----------------|------|------|--------------------------------------|-------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 総合英語 | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22103 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 大岩 裕子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスター | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 英語 (中級) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 音読は苦手ではありませんか。読めない単語は聞き取れませんし、覚えられないものです。遠回りなようで英文を聞き、声に出して読むことが、リスニングや読解力のアップにつながります。英語を読むことに慣れましょう。スポーツと健康、教育という身近なテーマに関する平易な英文で、「読む」「聞く」「書く」力を鍛えます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 日本語との違いを意識して「相手に届く声」で正確に英語を読むことができること、表現に必要な基本文法を理解し、会話や作文で応用できること、まとまった量の英文の内容を読み取る読解力を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 声を出す機会をできる限り多く設け、ペアワークも取り入れます。予習してあることを前提にテキストを進めますので、ダウンロードした音声を聞き、音読の練習をしてきてください。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス・発声練習と子音の発音 | 自分の呼吸・口形を意識して英語の子音を発音してみましょう。音読しやすい短文で、まずはしっかり声を出すことから始めます。 | | | | ウォーミングアップのテキストの発声練習をしてください。(1時間) | | | | |
| 2 | Warming Up! | 適切なウォーミングアップとクールダウンとは?ストレッチングも効果的です。 | | | | Unit1本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 3 | Sports Nutrition! | アスリートに必要な栄養とは?健康的な食事について学びます。 | | | | Unit2本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 4 | Sevens rugby! | 走力・筋力・体力を備えた選手がぶつかり合うラグビー。オリンピック種目になった7人制ラグビーの誕生について学びます。 | | | | Unit3本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 5 | Athletics! | オリンピックの花、陸上競技について学びます。 | | | | Unit4本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 6 | Weight Training! | 今注目のウェイトトレーニング。効果的な方法とは? | | | | Unit5本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 7 | Women's Soccer! | 人気の女子サッカー。その歴史について学びます。 | | | | Unit6本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 8 | Sports Supplements! | スポーツサプリメントの功罪とは? | | | | Unit7本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 9 | Swimming! | 多くの動物は生まれながらに泳げますが、人は泳ぎ方を教わらなくては泳げません。水泳競技がオリンピック種目になった経緯とは? | | | | Unit8本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 10 | Judo! | 柔道は今や世界で広く愛好されています。柔道の誕生と発展の過程について学びます。 | | | | Unit9本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 11 | Sports Psychology! | 最高の結果につながるメンタルトレーニングとは?スポーツ心理学の観点から考えてみましょう。 | | | | Unit10本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 12 | Equestrian! | 人馬一体となって挑む馬術競技。その奥深さについて学びます。 | | | | Unit11本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 13 | The Paralympic Games and Special Olympic World Games! | パラリンピックとスペシャルオリンピクの歴史について学びます。 | | | | Unit12本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 14 | Gymnastics! | オリンピックでもメダルが期待される体操競技。各種目を詳しく見てみましょう。 | | | | Unit14本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| 15 | Sportsmanship! | 真のスポーツマンシップとは? | | | | Unit15本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「Sports and English」Toshiyuki Sakabe, Matthew J. Cotter, Noriaki Okajima 他 Yoshihiko Shinano著(南雲堂) ISBN:978-4-523-17825-5 C0082(生協で購入してください。) 開講が決まってから購入してください。 | | 定期試験:80% 受講態度:20% 受講態度は、課題の提出状況、授業への意欲(予習、発言)等で総合的に判断します。S:授業内容をほぼ100%理解し、意欲的に課題をこなし優秀な成績をおさめている。A:積極的に課題に取り組み、授業内容をよく理解し、目標を十分に達成している。B:授業をおおよそ理解し、真面目に課題に取り組み目標を達成している。C:授業内容を60%程度理解し、基本目標をほぼ達成している。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| なし | | 自宅で音読の練習をすること。辞書を持参すること。必ず予習をして講義に臨んでください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|---|-----------------|------|--|-----------------|-----------------------------------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 総合英語 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナパ'リング | UL22104 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 大岩 裕子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 英語 (上級) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 音読は苦手ではありませんか。読めない単語は聞き取れませんし、覚えられないものです。遠回りなようにも英文を聞き、声に出して読むことがリスニングや読解力のアップにつながります。英語を読むことに慣れましょう。食・運動・健康・育といった身近なテーマに関する平易な英文で、「読む」「聞く」「書く」力を鍛えます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 日本語との違いを意識して「相手に届く声」で正確に英語を読むことができること、表現に必要な基本文法を理解し、会話や作文で応用できること、まとまった量の英文の内容を読み取る読解力を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 声を出す機会をできる限り多く設け、ペアワークも取り入れます。予習してあることを前提にテキストを進めますので、ダウンロードした音声を読み、音読の練習をしてきてください。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンス・発声練習と子音の発音 | 自分の呼吸・口形を意識して英語の子音を発音してみましょう。音読しやすい短文で、まずはしっかり声を出すことから始めます。 | | | | | ウォーミングアップのテキストの発声練習をしてください。(1時間) | | | |
| 2 | Fuel Your Body and Mind / 心身を育む朝食 | 朝食を摂らないとどのような影響が出てくるのか考えます/ つながる音を意識して読みましょう。 | | | | | Unit1の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 3 | What Helps Keep a Doctor Away? / 医者にかからなくて済むように | 運動不足がもたらす悪影響について考えます/ つながる音、聞こえない音を意識して読みましょう。 | | | | | Unit2の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 4 | laughing Will Save You from Going Crazy / 笑いが心身にもたらす影響は? | 笑いがもたらす効果について考えます / 発音されない子音hとその前後の連結を意識して読みましょう。 | | | | | Unit3の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 5 | The French Paradox / フランス人はなぜ太らないか | フレンチパラドックスとはどのようなものでしょうか/ 隣り合う音同士が影響してできる新しい音を練習しましょう。 | | | | | Unit4の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 6 | Americans' Interest in Sushi / 寿司もわさびも大人気 | 英語で寿司を説明してみましょう。わさびが健康にもたらす効果とは? / 英語の持つ強弱のリズムを意識して読みましょう。 | | | | | Unit5の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 7 | Don't Stay Away from Natto / 納豆を食べるといいことばかり | 納豆の持つ驚くべき効果とは? 納豆が苦手な理由は? / 文の内容と強弱の関係を意識して読みましょう。 | | | | | Unit6の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 8 | Acute Alcohol Intoxication Can Kill You / 急性アルコール中毒 | 急性アルコール中毒の危険性について考えます/ 強くなる音と強勢のある語の差を意識して読みましょう。 | | | | | Unit7の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 9 | Is Snoring a Bad Sign? / いびきは体の危険なサイン | いびきの危険性について考えます/ 舌先で作るtとdの弾き音を練習しましょう。 | | | | | Unit8の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 10 | Getting a Good Night Sleep is a Challenge / 質の良い睡眠をとるには | 睡眠障害とその原因について考えます/ 否定語の意識して読みましょう。 | | | | | Unit9の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 11 | Chocolate and its Magical Power / チョコレートの秘めたる力 | ダークチョコレートの効用について考えます/ 対比している情報を意識して読みましょう。 | | | | | Unit10の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 12 | The Health Risks of Eating Processed Food / どうして加工食品はよくないか | 加工食品を過度に摂取することの問題を考えます/ 句動詞のアクセントを意識して読みましょう。 | | | | | Unit11の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 13 | Is Genetically Modified Food Safe Enough? / 遺伝子組み換え食品の危険性 | 遺伝子組み換え食品の危険性について考えます/ 英語のリズムや音の変化を意識して読みましょう。 | | | | | Unit12の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 14 | Environmental Health Threats / アレルギー反応の怖さを知ろう | アレルギー反応、アナフィラキシーについて考えます/ 音変化を意識した音読をしましょう。 | | | | | Unit13の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。(1時間) | | | |
| 15 | 講義全体のまとめ | 重要表現の復習 | | | | | もう一度音声を聞き、正確に読む練習をしておくこと。(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「Better Health for Every Day」Toshiaki Nishihara / Mayumi Nishihara / Amy Mukamuri 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-3983-3C1082 (生協で購入してください。) 開講が決まってから購入してください。 | | | | | 定期試験:80% 受講態度:20% 受講態度は、課題の提出状況、授業への意欲(予習、発言)等で総合的に判断します。S:授業内容をほぼ100%理解し、意欲的に課題をこなし優秀な成績をおさめている。A:積極的に課題に取り組み、授業内容をよく理解し、目標を十分に達成している。B:授業をおおよそ理解し、真面目に課題に取り組み目標を達成している。C:授業内容を60%程度理解し、基本目標をほぼ達成している。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| なし | | | | | 自宅で音読の練習をすること。辞書を持参すること。必ず予習をして講義に臨んでください。 | | | | | |

| 科目名 | 英会話 Aクラス (総経・人間) | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナパ・リッパ | UL12105 | 研究室 | 非常勤 |
|---|------------------------------|---|------|------|------------------|--|---------|-----|-----|
| 担当者 | フレデリック ガース | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度 (読替科目) | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英会話 (入門) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| <p>さまざまな日常的话题について、英語を聞き、話すことを練習します。 We will practice listening and speaking English about a wide variety of everyday topics.</p> | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| <p>日常的な英会話を修得し、自信を持ってコミュニケーションをとることができる。 Upon finishing this class, students will be able to communicate more confidently in English.</p> | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。 | | | | | | | | | |
| 授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンスGuidance | 授業への導入 Introduction to the class | | | | Preparation for a test.(1h) | | | |
| 2 | Getting to know each other | Get to know each other game | | | | Write a self-introduction.(1h) | | | |
| 3 | Getting to know each other | Teacher interview | | | | Report on an English reading book.(1h) | | | |
| 4 | Dates and Ordinal Numbers | Japanese holidays and events; Birthdays | | | | Write Japanese holidays.(1h) | | | |
| 5 | Dates and Ordinal Numbers | Describing weather around the world | | | | Write about the weather in your hometown.(1h) | | | |
| 6 | Personal Information | Ask and answer questions about yourself | | | | Write about yourself.(1h) | | | |
| 7 | Personal Information | Japanese celebrities | | | | Write about a Japanese celebrity.(1h) | | | |
| 8 | Likes and Dislikes | Ask about likes and dislikes | | | | Write about something you like.(1h) | | | |
| 9 | Likes and Dislikes | Interviews about likes and dislikes; favorites | | | | Write about your favorite.(1h) | | | |
| 10 | Counters and Singular/Plural | Ogui contest; Review singular/plural | | | | Report on an English reading book.(1h) | | | |
| 11 | Counters and Singular/Plural | Card activity to practice singular/plural | | | | Write about "What 's in my refrigerator." (1h) | | | |
| 12 | Wh- Questions | Question formation; Adverbs of frequency | | | | Write about something you like.(1h) | | | |
| 13 | Wh- Questions | Discussion about interests | | | | Write about a T.V. show or movie you like.(1h) | | | |
| 14 | Can and Can ' t | Talk about abilities | | | | Write about some of the things you can do.(1h) | | | |
| 15 | まとめ Review | Review course, prepare for final examination | | | | Prepare for final examination.(1h) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「Talk a Lot, Starter Book, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。) | | <p>課題 : 25% 定期試験 : 25% 授業への参加度 : 25% 努力点 : 25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude:25%, Assignments: 25%. S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。</p> | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意 (学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 辞書 Any dictionary | | いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime. | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------|---------------------------------|-----------------|------|--|------------------|---------------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 英会話 Bクラス (総経・人間) | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12105 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 久田 康子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度 (読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 英会話 (入門) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>ナチュラルで実用的な基礎英会話を、考えなくても自動的にできるまでに習得していくために、スピーキングとリスニングのトレーニングと、ペアでの英語コミュニケーションを重ねていきます。まとめとして、ユニットごとのミニ・プレゼンテーションと、2度の総合プレゼンテーションをすることで重要構文を繰り返し復習し、より正確で自由度の高い会話力とコミュニケーション力を高めていきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>日本語を通さずに直接英語で考えて実用的な基礎英会話ができる達成感を段階的に積み重ねることで、学ぶ意欲と自信を高め、社会にでてからも自主的に学び続けることのできる方法を身に付けていきます。自主的な姿勢で自らとパートナーのコーチになって工夫しながらトレーニングをすることができるようになることをめざします。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>アクティブラーニングを実施し、文法事項の予習クイズの後、テキストに沿ってリスニングとペアワークで話す練習をします。クラスの後半では、完成させた総括課題をクラスの中でシェアして学び合います。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 現状の英語能力の確認のためにプレイズメント・テストを受けます。 | | | | | 基礎的な英語の総復習。 | | | |
| 2 | Unit 1AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 3 | Unit 2AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 4 | Unit 3AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 5 | Unit 4AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 6 | Unit 5AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 7 | Unit 6AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 8 | Presentation[1](課題) | Unit 1-6 テキストを見ないでペアで行う会話試験。 | | | | | Unit 1-6の総復習 | | | |
| 9 | Unit 7AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 10 | Unit 8AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 11 | Unit 9AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 12 | Unit 10AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 13 | Unit 11AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 14 | Unit 12AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 15 | Presentation[2](課題) | Unit 7-12 テキストを見ないでペアで行う会話試験。 | | | | | Unit 7-12の総復習 | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| <p>「Get Real! New Edition Level [1] Student Book 生協様、注文は日本出版貿易に願います」Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson著 (MACMILLAN) ISBN:978-0-230-44708-0 (生協で購入してください。)</p> <p>テキストは毎回使用しますので、早期の購入をお願いします。</p> | | | | | <p>出席レポート: 30% 課題: 40% 定期試験: 30%</p> <p>S: 授業内容を高度に理解し実践力を身に付け批判的思考力に基づく探究姿勢で課題に取り組み難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し実践力を身に付け、積極的な探究姿勢で課題に取り組みやや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおよそを理解し実践することができ、与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C: 授業内容の60%程度を理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p> | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意 (学生へのメッセージ) | | | | | |
| <p>「辞書(例: ジーニアス英和・和英辞典など) 電子辞書を推奨します。」辞書には、作文に役立つ例文が豊富にあり、大変便利です。毎回持参して下さい。</p> | | | | | <p>授業の大半は演習ですので、皆さん一人一人が主役となって自主的な姿勢で活躍してください。また、お互いに助け合い、学び合ってください。</p> | | | | | |

| 科目名 | 英会話 Cクラス (総経・人間) | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12105 | 研究室 | 非常勤 |
|---|------------------------------|--|------|------|---|--|---------|-----|-----|
| 担当者 | フレデリック 加ース | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度 (読替科目) | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英会話 (入門) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| <p>さまざまな日常的话题について、英語を聞き、話すことを練習します。 We will practice listening and speaking English about a wide variety of everyday topics.</p> | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| <p>日常的な英会話を修得し、自信を持ってコミュニケーションをとることができる。 Upon finishing this class, students will be able to communicate more confidently in English.</p> | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。 | | | | | | | | | |
| 授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンスGuidance | 授業への導入 Introduction to the class | | | | Preparation for a test.(1h) | | | |
| 2 | Getting to know each other | Get to know each other game | | | | Write a self-introduction.(1h) | | | |
| 3 | Getting to know each other | Teacher interview | | | | Report on an English reading book.(1h) | | | |
| 4 | Dates and Ordinal Numbers | Japanese holidays and events; Birthdays | | | | Write Japanese holidays.(1h) | | | |
| 5 | Dates and Ordinal Numbers | Describing weather around the world | | | | Write about the weather in your hometown.(1h) | | | |
| 6 | Personal Information | Ask and answer questions about yourself | | | | Write about yourself.(1h) | | | |
| 7 | Personal Information | Japanese celebrities | | | | Write about a Japanese celebrity.(1h) | | | |
| 8 | Likes and Dislikes | Ask about likes and dislikes | | | | Write about something you like.(1h) | | | |
| 9 | Likes and Dislikes | Interviews about likes and dislikes; favorites | | | | Write about your favorite.(1h) | | | |
| 10 | Counters and Singular/Plural | Ogui contest; Review singular/plural | | | | Report on an English reading book.(1h) | | | |
| 11 | Counters and Singular/Plural | Card activity to practice singular/plural | | | | Write about "What 's in my refrigerator." (1h) | | | |
| 12 | Wh- Questions | Question formation; Adverbs of frequency | | | | Write about something you like.(1h) | | | |
| 13 | Wh- Questions | Discussion about interests | | | | Write about a T.V. show or movie you like.(1h) | | | |
| 14 | Can and Can ' t | Talk about abilities | | | | Write about some of the things you can do.(1h) | | | |
| 15 | まとめ Review | Review course, prepare for final examination | | | | Prepare for final examination.(1h) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | |
| 「Talk a Lot, Starter Book, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。) | | | | | <p>課題：25% 定期試験：25% 授業への参加度：25% 努力点：25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude:25%, Assignments: 25%. S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。</p> | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意 (学生へのメッセージ) | | | | |
| 辞書 Any dictionary | | | | | いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime. | | | | |

| 科目名 | 英会話 Dクラス (総経・人間) | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12105 | 研究室 | N-02 |
|---|---|---|------|------|--|---------|-------------|-----|------|
| 担当者 | マレット ショーン | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 月曜日3限、木曜日1限 | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度 (読替科目) | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英会話 (入門) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| <p>どんな状況でも自信を持って英語を使えるようにすることがこのコースの目的です。特に、物事を表現したり、意見を述べたり、説明やプレゼンの仕方を学びます。異文化コミュニケーション、クリティカルシンキング、ポキャブラリーの増強、正確な文法、流暢な会話を目指してください。</p> | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| <p>本コースではスピーキング力を伸ばすために、個人的かつ学術的に興味深いトピックについてディスカッションを行います。「TED Talks」からスピーチを学び、実際に自分の「TED Talks」を作り上げましょう。様々なトピックについて自然で文法的に正しい会話ができるような教材を準備しますので、教員の指示に従い、グループディスカッションやプレゼンで使用するツール持参してください。</p> | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| <p>積極的に授業に参加すること。教員およびクラスメートの話を注意して聞くこと。全ての授業に出席すること。クラスを休むと宿題が出ます。宿題の内容について教員または級友に連絡すること。予習をして遅刻をせずに授業に来ること。</p> | | | | | | | | | |
| 授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション。 | Orientation to this "English Speaking" class. Introduction to the evaluation of this class, as well as to the textbook. | | | Purchase the textbook, and then become familiar with its format. Study ユニット 1. | | | | |
| 2 | ユニット 1- Friends and Family (Lesson 1) | ユニット 1- Friends and Family (Lesson 1) | | | Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 3 | ユニット 1- Friends and Family (Lesson2) | ユニット 1- Friends and Family (Lesson2) | | | Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 4 | ユニット 1- Friends and Family (Lesson3) | ユニット 1- Friends and Family (Lesson3) | | | Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 5 | ユニット 1- Friends & Family (Lesson 4)- Test. | ユニット 1- Friends & Family (Lesson 4)- Chapter Test. | | | Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 6 | ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 1) | ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 1) | | | Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 7 | ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 2) | ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 2) | | | Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 8 | ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 3) | ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 3) | | | Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 9 | ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 4)- Test. | ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 4)- Chapter Test. | | | Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 10 | ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 1) | ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 1) | | | Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 11 | ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 2) | ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 2) | | | Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 12 | ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 3) | ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 3) | | | Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 13 | ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 4)- Test. | ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 4)- Chapter Test. | | | Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 14 | ユニット4: Possessions (Lesson 1) | ユニット4: Possessions (Lesson 1) | | | Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 15 | ユニット4: Possessions (Lesson 2) | ユニット4: Possessions (Lesson 2) ~The final class of this semester . | | | Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「World English Introduction (Second Edition, 2015)」 Martin Milner, Rebecca Chase, And Kristen Johannsen 著 (National Geographic Learning - Cengage) ISBN:978-1-305-08955-6 (生協で購入してください。) | | 定期試験 : 30% 各回のプレゼンテーションに対する評価 70% | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意 (学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「Any English language dictionary.」 | | Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class. | | | | | | | |

| 科目名 | 英会話 Aクラス (総経・人間) | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12106 | 研究室 | N-02 |
|---|--|---|-----------------|---|------|--|---------|-------------|-----|------|
| 担当者 | マレット ショーン | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日3限、水曜日1限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度 (読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 英会話 (基礎) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>どんな状況でも自信を持って英語を使えるようにすることがこのコースの目的です。特に、物事を表現したり、意見を述べたり、説明やプレゼンの仕方を学びます。異文化コミュニケーション、クリティカルシンキング、ポキャブラリーの増強、正確な文法、流暢な会話を目指してください。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>本コースではスピーキング力を伸ばすために、個人的かつ学術的に興味深いトピックについてディスカッションを行います。「TED Talks」からスピーチを学び、実際に自分の「TED Talks」を作り上げましょう。様々なトピックについて自然で文法的に正しい会話ができるような教材を準備しますので、教員の指示に従い、グループディスカッションやプレゼンで使用するツール持参してください。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>積極的に授業に参加すること。教員およびクラスメートの話を注意して聞くこと。全ての授業に出席すること。クラスを休むと宿題が出ます。宿題の内容について教員または級友に連絡すること。予習をして遅刻をせずに授業に来ること。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション。 | Orientation to this "English Speaking II" class. Introduction to the evaluation of this second semester class, as well as to the latter half of the textbook. | | | | Refresh yourself with the textbook. Study the latter half of ユニット 4. | | | | |
| 2 | ユニット4: Possessions (Lesson 3) | ユニット4: Possessions (Lesson 3) | | | | Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 3 | ユニット4: Possessions (Lesson 4) ~ Chapter Test. | ユニット4: Possessions (Lesson 4) ~ Chapter Test. | | | | Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 4 | ユニット 5: Daily Activities (Lesson 1) | ユニット 5: Daily Activities (Lesson 1) | | | | Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 5 | ユニット 5: Daily Activities (Lesson 2) | ユニット 5: Daily Activities (Lesson 2) | | | | Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 6 | ユニット 5: Daily Activities (Lesson 3) | ユニット 5: Daily Activities (Lesson 3) | | | | Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 7 | ユニット 5: Daily Activities (Lesson 4) ~ Chapter Test. | ユニット 5: Daily Activities (Lesson 4) ~ Chapter Test. | | | | Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 8 | ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 1) | ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 1) | | | | Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 9 | ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 2) | ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 2) | | | | Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 10 | ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 3) | ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 3) | | | | Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 11 | ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 4) - Chapter Test | ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 4) - Chapter Test | | | | Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 12 | ユニット 7: Free Time (Lesson 1) | ユニット 7: Free Time (Lesson 1) | | | | Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 13 | ユニット 7: Free Time (Lesson 2) | ユニット 7: Free Time (Lesson 2) | | | | Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 14 | ユニット 7: Free Time (Lesson 3) | ユニット 7: Free Time (Lesson 3) | | | | Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| 15 | ユニット 7: Free Time (Lesson 4) - Chapter Test. | ユニット 7: Free Time (Lesson 4) - Chapter Test. | | | | Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。 | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「Let's Talk 2 Second edition」Leo Jones著 (CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS) ISBN:978-0-521-69284-7 (生協で購入してください。) | | | | 定期試験: 30% 各回のプレゼンテーションに対する評価 70% | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意 (学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「Any English language dictionary.」 | | | | Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class. | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--------------------------------------|---|------|------|---|---------|---|-----|-----|
| 科目名 | 英会話 Bクラス (総経・人間) | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12106 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | フレデリック ガース | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度 (読替科目) | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英会話 (基礎) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| <p>さまざまな日常的话题について、英語を聞き、話すことを練習します。 We will practice listening and speaking English about a wide variety of everyday topics.</p> | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| <p>英会話 で修得した英語能力をさらに向上させ、さまざまな日常的话题について自信をもってコミュニケーションをとることができる。 Upon finishing this class, students will be able to communicate more confidently in English.</p> | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。 | | | | | | | | | |
| 授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | |
| 1 | ガイダンスGuidance | 授業への導入 Introduction to the class | | | | | Preparation for a test.(1h) | | |
| 2 | Simple Present and Describing Things | Listen and guess the creature; Simple present | | | | | Report on an English reading book.(1h) | | |
| 3 | Simple Present and Describing Things | Describing food; Food crossword | | | | | Write a description of an animal or insect.(1h) | | |
| 4 | Family | Talk about relatives | | | | | Bring family pictures.(1h) | | |
| 5 | Family | Ask and answer questions about family and pets | | | | | Report on an English reading book.(1h) | | |
| 6 | Simple Past: Questions and Stories | Ask and answer questions about what you did yesterday, last weekend | | | | | Write about what you did last weekend.(1h) | | |
| 7 | Simple Past: Questions and Stories | Telling a story | | | | | Finish the story on page 33.(1h) | | |
| 8 | Jobs | Talk about jobs and what they are like | | | | | Report on an English reading book.(1h) | | |
| 9 | Jobs | Talk about jobs | | | | | Describe a job.(1h) | | |
| 10 | Making Comparisons | Study comparison forms, then play the Comparison Game | | | | | Write a comparison of two things.(1h) | | |
| 11 | Making Comparisons | Ask and answer comparison and superlative questions | | | | | Write about the most ____ in your life.(1h) | | |
| 12 | Numbers | Numbers: pronunciation, bingo, math game, tell time | | | | | Write about your daily schedule.(1h) | | |
| 13 | Numbers | Ask and answer questions about your daily schedule | | | | | Write about what you did today.(1h) | | |
| 14 | Present and Past Progressive | Ask and answer questions about actions | | | | | Be ready to play the Action Game.(1h) | | |
| 15 | まとめ Review | Review course, prepare for final examination | | | | | Prepare for final examination.(1h) | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | |
| 「Talk a Lot, Starter Book, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。) | | | | | <p>課題: 25% 定期試験: 25% 授業への参加度: 25% 努力点: 25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude: 25%, Assignments: 25%。 S: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。 A: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。 B: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。 C: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。</p> | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意 (学生へのメッセージ) | | | | |
| 辞書 Any dictionary | | | | | いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime. | | | | |

| 科目名 | 英会話 Cクラス (総経・人間) | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12106 | 研究室 | 非常勤 |
|---|---------------------|---------------------------------|-----------------|------|--|------------------|---------------|---------|-----|-----|
| 担当者 | 久田 康子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度 (読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 英会話 (基礎) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 前期より上級の文法事項を含むナチュラルで実用的な基礎英会話を、自動的にできるまでに習得していくために、話す・聴く演習とペアでの英語コミュニケーションを重ねていきます。まとめとして、ユニットごとのミニ・プレゼンテーションと2度の課題発表をすることで、重要構文を繰り返し復習し、より正確で自由度の高い会話力とコミュニケーション力を高めていきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 日本語を通さずに直接英語で考えて実用的な基礎英会話ができる達成感を段階的に積み重ねることで、学ぶ意欲と自信を高めて、社会にでてからも自主的に学び続けることのできる方法を身に付けていきます。自主的な姿勢で自らとパートナーのコーチになって工夫しながらトレーニングをすることができるようになることをめざします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| アクティブラーニングを実施し、文法事項の予習クイズの後、テキストに沿ってリスニングとペアワークで話す練習をします。クラスの後半では、完成させた総括課題をクラスの中でシェアして学び合います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 現状の英語能力の確認のためにプレイズメント・テストを受けます。 | | | | | 基礎的な英語の総復習。 | | | |
| 2 | Unit 1AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 3 | Unit 2AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 4 | Unit 3AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 5 | Unit 4AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 6 | Unit 5AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 7 | Unit 6AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 8 | Presentation[1](課題) | Unit 1-6 テキストを見ないでペアで行う会話試験。 | | | | | Unit 1-6の総復習 | | | |
| 9 | Unit 7AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 10 | Unit 8AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 11 | Unit 9AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 12 | Unit 10AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 13 | Unit 11AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 14 | Unit 12AB | 予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。 | | | | | 予習クイズの準備 | | | |
| 15 | Presentation[2](課題) | Unit 7-12 テキストを見ないでペアで行う会話試験。 | | | | | Unit 7-12の総復習 | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「Get Real! New Edition Level[2] Student Book 生協様、注文は日本出版貿易に願います」Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson著 (MACMILLAN) ISBN: 978-0-230-44710-3 (生協で購入してください。) テキストは毎回使用しますので、早期の購入をお願いします。 | | | | | 出席レポート: 30% 課題: 40% 定期試験: 30% S: 授業内容を高度に理解し実践力を身に付けて批判的思考力に基づく探究姿勢で課題に誠実に取り組み難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し実践力を身に付けて積極的な探究姿勢で課題に取り組みや難しい応用問題が解ける。 B: 授業内容のおおよそを理解し実践力を身に付けて与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C: 授業内容の60%程度を理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意 (学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「辞書(例: ジーニアス英和・和英辞典など) 電子辞書を推奨します。」辞書には、作文に役立つ例文が豊富にあり、大変便利です。毎回持参して下さい。 | | | | | 授業の大半は演習ですので、皆さん一人一人がクラスの主役となって自主的な姿勢で活躍してください。また、お互いに助け合い、学び合きましょう。 | | | | | |

| 科目名 | 英会話 (人間・教育) | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナバ'リング | UL22107 | 研究室 | 非常勤 |
|--|--------------------------------|--|------|------|---|---|---------|-----|-----|
| 担当者 | ルデ'リック ガ-ス | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 英会話 (実践) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| これまで積み上げてきた英文読解の知識を活かし、リーディング力とスピーキング力の強化を行います。身近な時事問題などの簡単なニュース記事を題材に、英文の要点を素早くつかみ、それを基に自分の意見をどう発するか、その方法や伝え方、質問の仕方を学んで、実践の中で読む・話す・聞く力を強化します。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| 英会話 で修得した英語能力をさらに向上させ、さまざまな日常的な話題について自信をもってコミュニケーションをとることができる。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | Guidance | Introduction to the class | | | | Useful language; Getting started.(1h) | | | |
| 2 | Getting to know each other | Ask and answer questions about yourself | | | | Write about yourself.(1h) | | | |
| 3 | Getting to know each other | Get to know your classmates and teacher | | | | Write about a classmate.(1h) | | | |
| 4 | Talking about interests | Ask and answer questions about things you like/dislike | | | | Write about things you like/dislike.(1h) | | | |
| 5 | Talking about interests | Discuss interests; talk about abilities | | | | Write about your abilities.(1h) | | | |
| 6 | Talking about family | Ask and answer questions about families | | | | Bring some pictures of your family.(1h) | | | |
| 7 | Talking about family | Ask and answer questions about families | | | | Prepare to talk about English reading.(1h) | | | |
| 8 | Talking about people | Match descriptions with pictures of people | | | | Write a description of a friend.(1h) | | | |
| 9 | Talking about people | Practice describing people | | | | Write a description of a famous person.(1h) | | | |
| 10 | Talking about work | Describe a job | | | | Write a description of a job.(1h) | | | |
| 11 | Talking about work | Telling time; describing jobs | | | | Write a description of your dream job.(1h) | | | |
| 12 | Talking about past experiences | Talk about what you did yesterday | | | | Write about what you did yesterday.(1h) | | | |
| 13 | Talking about past experiences | Talk about a vacation; Play the Past Tense Game | | | | Write about what you did on vacation.(1h) | | | |
| 14 | Telling stories | Tell a story (based on the T.V. talk show Gokigenyou | | | | A story about something that happened to you.(1h) | | | |
| 15 | まとめ Review | Review course, prepare for final examination | | | | Prepare for final examination.(1h) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | |
| 「Talk a Lot, Book One, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。) | | | | | 課題: 25% 定期試験: 25% 授業への参加度: 25% 努力点: 25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude: 25%, Assignments: 25%。 S: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。 | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | |
| 辞書 Any dictionary | | | | | いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime. | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------|---|-----------------|------|---|------------------|--|---------|-----|-----|
| 科目名 | 英会話 (人間・教育) | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナパ'リ'ング | UL22108 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | フレデリック ガース | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 英会話 (応用) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 総合英語 で学ぶ英文ライティングの知識を活かし、英会話 で学んだ内容をさらに応用して、自分の意見を英文で書いてまとめ発話するスキルを養っていく。グループワークを通じて、自分の趣味や興味のあることを題材に簡単に英語にして発話、それに対して質問をする形式を繰り返し、英語の4技能の全てを定着させていく。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 英会話 . . . で修得した英語能力をさらに向上させ、さまざまな日常的な話題について自信をもってコミュニケーションをとることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | Guidance | Introduction to the class | | | | | Useful language: Getting started.(1h) | | | |
| 2 | Talking about sports | Pronunciation, discussion about sports | | | | | Explain your feelings about sports.(1h) | | | |
| 3 | Talking about sports | Q&A and listening about sports | | | | | Prepare to talk about a reading book.(1h) | | | |
| 4 | Talking about other countries | Discuss foreign countries, people and food. | | | | | Extensive reading.(1h) | | | |
| 5 | Talking about other countries | Talk about foreign countries and languages. | | | | | Write about foreign food.(1h) | | | |
| 6 | Talking about experiences | Talk about things you have done or haven't done. | | | | | Extensive reading.(1h) | | | |
| 7 | Talking about experiences | Interview classmates about their experiences; listening | | | | | Write about an interesting experience.(1h) | | | |
| 8 | Talking about places | Talk about indoor places. | | | | | Extensive reading.(1h) | | | |
| 9 | Talking about places | Giving subway and street directions. | | | | | Write about how to get somewhere.(1h) | | | |
| 10 | Traveling to Hawaii | Making restaurant and airplane reservations. | | | | | Extensive reading.(1h) | | | |
| 11 | Traveling to Hawaii | Plan to visit other Hawaiian islands. | | | | | Write about a trip.(1h) | | | |
| 12 | Talking about Japanese things | Describing Japanese places and things | | | | | Extensive reading.(1h) | | | |
| 13 | Talking about Japanese things | Talk about Japanese New Year and prices in Japan. | | | | | Write about what you do for New Year.(1h) | | | |
| 14 | Talking about future events | Making plans | | | | | Extensive reading.(1h) | | | |
| 15 | Review | Review course. Prepare for final examination. | | | | | Prepare for final examination.(1h) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「Talk a Lot, Book One, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。) | | | | | 課題: 25% 定期試験: 25% 授業への参加度: 25% 努力点: 25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude: 25%, Assignments: 25%. S: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 辞書 Any dictionary | | | | | いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime. | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------|---|-----------------|---|------|---|--------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Aクラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバ`リング | UL12109 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 山浦 かおる | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (入門) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレイズメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。プレイズメントテスト及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る | TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。 | | | | 自分に合った学習計画を作成する(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 リーディング演習 | サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2) | | | | Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング演習 リーディング演習 | Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5) | | | | Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング演習 | Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1) | | | | Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 | Lesson4 許可、依頼、提案(Part2) | | | | Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング演習 小テスト | Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2) | | | | Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング演習 | Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4) | | | | Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 | Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3) | | | | Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング演習 | Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4) | | | | Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 10 | リーディング演習 | Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7) | | | | Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 11 | リーディング演習 | Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7) | | | | Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング演習 小テスト | Lesson5 問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2) | | | | Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング演習 リーディング演習 | Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5) | | | | Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 | | | | |
| 14 | リスニング演習 リーディング演習 | Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6) | | | | Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 | | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 定期試験に向けて自己学習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------|---|------|---|--------------------|---|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Bクラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12109 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 春日 啓子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (入門) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレイズメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。プレイズメントテスト及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る | TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。 | | | | 自分に合った学習計画を作成する(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 リーディング演習 | サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2) | | | | Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング演習 リーディング演習 | Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5) | | | | Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング演習 | Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1) | | | | Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 | Lesson4 許可、依頼、提案(Part2) | | | | Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング演習 小テスト | Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2) | | | | Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング演習 | Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4) | | | | Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 | Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3) | | | | Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング演習 | Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4) | | | | Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 10 | リーディング演習 | Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7) | | | | Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 11 | リーディング演習 | Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7) | | | | Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング演習 小テスト | Lesson5 問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2) | | | | Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング演習 リーディング演習 | Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5) | | | | Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 | | | | |
| 14 | リスニング演習 リーディング演習 | Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6) | | | | Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 | | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 定期試験に向けて自己学習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------|---|------|---|--------------------|---|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Cクラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12109 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 中野 麻里 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (入門) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレイズメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。プレイズメントテスト及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る | TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。 | | | | 自分に合った学習計画を作成する(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 リーディング演習 | サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2) | | | | Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング演習 リーディング演習 | Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5) | | | | Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング演習 | Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1) | | | | Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 | Lesson4 許可、依頼、提案(Part2) | | | | Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング演習 小テスト | Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2) | | | | Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング演習 | Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4) | | | | Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 | Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3) | | | | Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング演習 | Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4) | | | | Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 10 | リーディング演習 | Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7) | | | | Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 11 | リーディング演習 | Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7) | | | | Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング演習 小テスト | Lesson5 問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2) | | | | Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング演習 リーディング演習 | Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5) | | | | Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 | | | | |
| 14 | リスニング演習 リーディング演習 | Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6) | | | | Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 | | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 定期試験に向けて自己学習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------|---|-----------------|---|------|---|--------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Dクラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバ`リング | UL12109 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 勝山 庸子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (入門) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R で320点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。プレイスメントテスト及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る | TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。 | | | | 自分に合った学習計画を作成する(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 リーディング演習 | サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2) | | | | Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング演習 リーディング演習 | Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5) | | | | Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング演習 | Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1) | | | | Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 | Lesson4 許可、依頼、提案(Part2) | | | | Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング演習 小テスト | Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2) | | | | Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング演習 | Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4) | | | | Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 | Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3) | | | | Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング演習 | Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4) | | | | Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 10 | リーディング演習 | Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7) | | | | Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 11 | リーディング演習 | Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7) | | | | Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング演習 小テスト | Lesson5 問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2) | | | | Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング演習 リーディング演習 | Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5) | | | | Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 | | | | |
| 14 | リスニング演習 リーディング演習 | Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6) | | | | Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 | | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 定期試験に向けて自己学習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------------|--|-----------------|--|------|--|--------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Eクラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバ'リング | UL12109 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 清澤 理恵 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (入門) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけで使うものではなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC」を通してTOEIC Bridge 140点以上を目指します。プレイズメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| TOEIC Bridge 120点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。プレイズメントテスト及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。 | | | | 自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング(1時間) | | | | |
| 2 | TOEIC Bridge演習(1回目)課題分析 | 実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。 | | | | テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 3 | 文法演習リスニング Part 1 | 基本文法(名詞・動詞)の問題演習 Part 1 基礎問題 | | | | 文法(名詞・動詞)の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 4 | 文法演習リスニング Part 1 | 基本文法(形容詞・副詞)の問題演習 Part 2 応用問題 | | | | 文法(形容詞・副詞)の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 5 | 文法演習リスニング Part 2 小テスト | 実践テスト Part 2 When 単語テスト | | | | 実践テストの復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 6 | 文法演習リスニング Part 2 | 基本文法(代名詞・助動詞)の問題演習 Part 2 Who | | | | 文法(代名詞・助動詞)の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 7 | 文法演習リスニング Part 2 | 基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習 | | | | 文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 8 | 文法演習リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習 | | | | 文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 9 | 文法演習、小テストリスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(前置詞と接続詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 2 What、Part 5 請求書(基礎問題) | | | | 文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 10 | 文法演習リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(現在形・現在進行形)の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書(実践問題) 単語テスト | | | | 文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 11 | 文法演習リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(現在完了・現在完了進行形)の問題演習 Part 2 How long Part 5 表(基礎問題) | | | | 文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 12 | 文法演習リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(過去形・過去形と現在完了のちがい)の問題演習 Part 2 How far Part 5 表(実践問題) | | | | 文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 13 | 文法演習、小テストリスニング Part 3 リーディング Part 4 | 基本文法(過去進行形・過去完了形)の問題演習 Part 3-4 実践問題演習 | | | | 文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 14 | TOEIC Bridge演習(2回目)課題分析 | 第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト | | | | 間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 定期テストとして行うTOEIC Bridge IPIに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。 | | | | 授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。) 「TOEICテスト英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版) ISBN:978-4053046499(生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 課題:30% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 授業内で紹介します。 | | | | TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------------|--|-----------------|--|------|--|--------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Fクラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバ'リング | UL12109 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 小西 さやか | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (入門) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけで使うものではなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC」を通してTOEIC Bridge 130点以上を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| TOEIC Bridge 110点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。プレイスメントテスト及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。 | | | | 自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング(1時間) | | | | |
| 2 | TOEIC Bridge演習(1回目)課題分析 | 実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。 | | | | テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 3 | 文法演習リスニング Part 1 | 基本文法(名詞・動詞)の問題演習 Part 1 基礎問題 | | | | 文法(名詞・動詞)の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 4 | 文法演習リスニング Part 1 | 基本文法(形容詞・副詞)の問題演習 Part 2 応用問題 | | | | 文法(形容詞・副詞)の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 5 | 文法演習リスニング Part 2 小テスト | 実践テスト Part 2 When 単語テスト | | | | 実践テストの復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 6 | 文法演習リスニング Part 2 | 基本文法(代名詞・助動詞)の問題演習 Part 2 Who | | | | 文法(代名詞・助動詞)の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 7 | 文法演習リスニング Part 2 | 基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習 | | | | 文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 8 | 文法演習リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習 | | | | 文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 9 | 文法演習、小テストリスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(前置詞と接続詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 2 What、Part 5 請求書(基礎問題) | | | | 文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 10 | 文法演習リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(現在形・現在進行形)の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書(実践問題) 単語テスト | | | | 文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 11 | 文法演習リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(現在完了・現在完了進行形)の問題演習 Part 2 How long Part 5 表(基礎問題) | | | | 文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 12 | 文法演習リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(過去形・過去形と現在完了のちがい)の問題演習 Part 2 How far Part 5 表(実践問題) | | | | 文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 13 | 文法演習、小テストリスニング Part 3 リーディング Part 4 | 基本文法(過去進行形・過去完了形)の問題演習 Part 3-4 実践問題演習 | | | | 文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 14 | TOEIC Bridge演習(2回目)課題分析 | 第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト | | | | 間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 定期テストとして行うTOEIC Bridge IPIに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。 | | | | 授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4-901429-57-3 (生協で購入してください。) 「TOEICテスト英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版) ISBN:978-4-901429-57-3 (生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 課題:30% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 授業内で紹介します。 | | | | TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------------|--|-----------------|------|--|--------------------|--|---------|-----|-----|--|
| 科目名 | TOEIC Gクラス | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバ'リング | UL12109 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 櫻井 智子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (入門) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけで使うものではなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC」を通してTOEIC Bridge 120点以上を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| TOEIC Bridge 100点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。プレイスメントテスト及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。 | | | | | 自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング(1時間) | | | | |
| 2 | TOEIC Bridge演習(1回目) 課題分析 | 実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。 | | | | | テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 3 | 文法演習 リスニング Part 1 | 基本文法(名詞・動詞)の問題演習 Part 1 基礎問題 | | | | | 文法(名詞・動詞)の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 4 | 文法演習 リスニング Part 1 | 基本文法(形容詞・副詞)の問題演習 Part 2 応用問題 | | | | | 文法(形容詞・副詞)の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 5 | 文法演習 リスニング Part 2 小テスト | 実践テスト Part 2 When 単語テスト | | | | | 実践テストの復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 6 | 文法演習 リスニング Part 2 | 基本文法(代名詞・助動詞)の問題演習 Part 2 Who | | | | | 文法(代名詞・助動詞)の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 7 | 文法演習 リスニング Part 2 | 基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習 | | | | | 文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 8 | 文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習 | | | | | 文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 9 | 文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(前置詞と接続詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 2 What、Part 5 請求書(基礎問題) | | | | | 文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 10 | 文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(現在形・現在進行形)の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書(実践問題) 単語テスト | | | | | 文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 11 | 文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(現在完了・現在完了進行形)の問題演習 Part 2 How long Part 5 表(基礎問題) | | | | | 文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 12 | 文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(過去形・過去形と現在完了のちがい)の問題演習 Part 2 How far Part 5 表(実践問題) | | | | | 文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 13 | 文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4 | 基本文法(過去進行形・過去完了形)の問題演習 Part 3-4 実践問題演習 | | | | | 文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 14 | TOEIC Bridge演習(2回目) 課題分析 | 第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト | | | | | 間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 定期テストとして行うTOEIC Bridge IPIに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。 | | | | | 授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。) 「はじめてのTOEIC受験」霜村和久著(センゲージラーニング) ISBN:9784863121812(生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 課題:30% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 授業内で紹介します。 | | | | | TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------------------------|--|------|------|---|----|--------------------------------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Aクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12110 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 山浦 かおる | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。ブレイスメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策 | 授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。 | | | | | Eラーニング、文法問題(1時間) | | | |
| 2 | リスニング演習 | Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | |
| 3 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | |
| 4 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | |
| 5 | リスニング演習 | Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | |
| 6 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | |
| 7 | ハーフ模試 通し練習 | ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。 | | | | | Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | |
| 8 | リスニング演習 | Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4) | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | |
| 9 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | |
| 10 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | |
| 11 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | |
| 12 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | |
| 13 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | |
| 14 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7) | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。 | | | | | 期末試験に備える(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | | TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--------------------------------|--|-----------------|------|---|--------------------|--------------------------------|---------|-----|-----|--|
| 科目名 | TOEIC Bクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12110 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 春日 啓子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。ブレイスメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策 | 授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。 | | | | | Eラーニング、文法問題(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 | Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 3 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 4 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 | Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 6 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 7 | ハーフ模試 通し練習 | ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。 | | | | | Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 | Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4) | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 9 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 10 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 11 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 12 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 13 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 14 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7) | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。 | | | | | 期末試験に備える(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | | TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--------------------------------|--|-----------------|------|---|--------------------|--------------------------------|---------|-----|-----|--|
| 科目名 | TOEIC Cクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12110 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 中野 麻里 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。プレイスメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策 | 授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。 | | | | | Eラーニング、文法問題(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 | Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 3 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 4 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 | Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 6 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 7 | ハーフ模試 通し練習 | ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。 | | | | | Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 | Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4) | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 9 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 10 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 11 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 12 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 13 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 14 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7) | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。 | | | | | 期末試験に備える(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | | TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--------------------------------|--|-----------------|------|---|--------------------|--------------------------------|---------|-----|-----|--|
| 科目名 | TOEIC Dクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12110 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 勝山 庸子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。プレイスメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで370点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策 | 授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。 | | | | | Eラーニング、文法問題(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 | Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 3 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 4 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 | Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 6 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 7 | ハーフ模試 通し練習 | ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。 | | | | | Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 | Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4) | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 9 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 10 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 11 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 12 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 13 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング | | | | | 音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間) | | | | |
| 14 | リーディング演習 リスニング演習 | Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7) | | | | | 音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。 | | | | | 期末試験に備える(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | | TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|--|------|------|--------------------|---|---------|-----|-----|--|
| 科目名 | TOEIC Eクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12110 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 清澤 理恵 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC に引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。プレイメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| TOEIC Bridgeで140点を目標せる英語力を身につけている。 英語での基本的な応答がスムーズにできる。 リーディングに必要な、基本的スキルを身につけている。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、エラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 前期を振り返り、目標を達成するために何が必要かを確認します。 | | | | | 前期の内容を復習して授業に臨む。宿題として自己学習の目標を立てる。(1時間) | | | | |
| 2 | 学習方法の確認と実践 文法演習 リスニング Part 2 | 英語学習に必要な学習方法を確認 基本文法(過去完了進行形)の問題演習 Part 2 手段・程度 | | | | | 文法復習、テキストP. 28-29の音読筆写、単語リスト1、エラーニング(1時間) | | | | |
| 3 | 文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(未来を表す表現・未来進行形と未来完了形)の問題演習 Part 2 一般疑問文・平叙文 Part 5 料理法 | | | | | 文法復習、テキストP. 30-31、88-89の復習と音読、エラーニング(1時間) | | | | |
| 4 | 文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(仮定法過去・仮定法過去完了)の問題演習 Part 2 付加疑問文・否定疑問文 Part 5 広告・記事(基礎問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 32、90-91の復習と音読筆写、単語リスト、エラーニング(1時間) | | | | |
| 5 | 文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 実践テスト、小テスト Part 2 選択疑問文 Part 5 広告・記事(実践問題) | | | | | 実践テスト 復習、テキストP. 33、122の復習と音読筆写、単語リスト2、エラーニング(1時間) | | | | |
| 6 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(分詞・受動態)の問題演習 Part 3 Where Part 5 広告・記事(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 40、123の復習と音読筆写、単語リスト3、エラーニング(1時間) | | | | |
| 7 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(受動態のいろいろな形)の問題演習 実践テスト Part 3 Who、Part 5 広告・記事(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 41、126の復習と音読練習、単語リスト3、エラーニング(1時間) | | | | |
| 8 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(不定詞・不定詞を使った文)の問題演習 Part 3 When Part 5 掲示文(基礎問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 42、92-93の復習と音読練習、単語リスト4、エラーニング(1時間) | | | | |
| 9 | 文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(不定詞のいろいろな形・動名詞)の問題演習 Part 3 How、Part 5 掲示文(実践問題) 単語テスト | | | | | 文法復習、テキストP. 43-44、121の復習と音読練習、単語リスト4、エラーニング(1時間) | | | | |
| 10 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(不定詞と動名詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 3 What、Part 5 Eメール(基礎問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 45、94-95の復習と音読練習、単語リスト5、エラーニング(1時間) | | | | |
| 11 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(関係代名詞・そのほかの関係代名詞)の問題演習 Part 3 Why Part 5 Eメール(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 46、124の音読練習、単語リスト5、エラーニング(1時間) | | | | |
| 12 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(注意すべき関係代名詞・関係副詞)の問題演習 Part 4 実践問題演習、Part 3 交通機関 Part 5 手紙(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 47、113-114、125の復習と音読練習、単語リスト6、エラーニング(1時間) | | | | |
| 13 | 文法演習、小テスト リスニング Part 1-3 時間配分について | 基本文法(関係代名詞と関係副詞のちがい)の問題演習 Part 1-2 通し練習、Part 3 ガイドツアー 時間配分確認、単語テスト | | | | | 文法復習、テキストP. 48の復習と音読、単語リスト1-6、エラーニング(1時間) | | | | |
| 14 | 通し練習振り返り 文法演習 リスニング Part 3 | 課題の通し練習を振り返り、課題分析 基本文法(比較級・最上級)の問題演習 実践テスト、Part 4 実践問題演習、Part 3 電話メッセージ | | | | | 文法復習、テキストP. 49、115-116の復習と音読練習、単語リスト7、エラーニング(1時間) | | | | |
| 15 | リスニング Part 2-3 | Part 4 実践問題演習 Part 2-3 部分的に通して練習し、テスト対策 | | | | | テキストP. 113-118、間違った個所の復習と音読練習、単語リスト1-7、エラーニング(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「TOEIC Bridgeスピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサ・チ出版) ISBN:978-4901429573(生協で購入してください。) 「TOEICテスト 英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版)(生協で購入してください。) | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% 試験はTOEIC Bridge IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 授業内で指示します。 | | | TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。エラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|--|------|------|--------------------|---|---------|-----|-----|--|
| 科目名 | TOEIC Fクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12110 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 小西 さやか | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC に引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。プレイメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| TOEIC Bridgeで140点を目標せる英語力を身につけている。 英語での基本的な応答がスムーズにできる。 リーディングに必要な、基本的スキルを身につけている。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、エラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 前期を振り返り、目標を達成するために何が必要かを確認します。 | | | | | 前期の内容を復習して授業に臨む。宿題として自己学習の目標を立てる。(1時間) | | | | |
| 2 | 学習方法の確認と実践 文法演習 リスニング Part 2 | 英語学習に必要な学習方法を確認 基本文法(過去完了進行形)の問題演習 Part 2 手段・程度 | | | | | 文法復習、テキストP. 28-29の音読筆写、単語リスト1、エラーニング(1時間) | | | | |
| 3 | 文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(未来を表す表現・未来進行形と未来完了形)の問題演習 Part 2 一般疑問文・平叙文 Part 5 料理法 | | | | | 文法復習、テキストP. 30-31、88-89の復習と音読、エラーニング(1時間) | | | | |
| 4 | 文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(仮定法過去・仮定法過去完了)の問題演習 Part 2 付加疑問文・否定疑問文 Part 5 広告・記事(基礎問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 32、90-91の復習と音読筆写、単語リスト、エラーニング(1時間) | | | | |
| 5 | 文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 実践テスト、小テスト Part 2 選択疑問文 Part 5 広告・記事(実践問題) | | | | | 実践テスト 復習、テキストP. 33、122の復習と音読筆写、単語リスト2、エラーニング(1時間) | | | | |
| 6 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(分詞・受動態)の問題演習 Part 3 Where Part 5 広告・記事(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 40、123の復習と音読筆写、単語リスト3、エラーニング(1時間) | | | | |
| 7 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(受動態のいろいろな形)の問題演習 実践テスト Part 3 Who、Part 5 広告・記事(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 41、126の復習と音読練習、単語リスト3、エラーニング(1時間) | | | | |
| 8 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(不定詞・不定詞を使った文)の問題演習 Part 3 When Part 5 掲示文(基礎問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 42、92-93の復習と音読練習、単語リスト4、エラーニング(1時間) | | | | |
| 9 | 文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(不定詞のいろいろな形・動名詞)の問題演習 Part 3 How、Part 5 掲示文(実践問題) 単語テスト | | | | | 文法復習、テキストP. 43-44、121の復習と音読練習、単語リスト4、エラーニング(1時間) | | | | |
| 10 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(不定詞と動名詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 3 What、Part 5 Eメール(基礎問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 45、94-95の復習と音読練習、単語リスト5、エラーニング(1時間) | | | | |
| 11 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(関係代名詞・そのほかの関係代名詞)の問題演習 Part 3 Why Part 5 Eメール(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 46、124の音読練習、単語リスト5、エラーニング(1時間) | | | | |
| 12 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(注意すべき関係代名詞・関係副詞)の問題演習 Part 4 実践問題演習、Part 3 交通機関 Part 5 手紙(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 47、113-114、125の復習と音読練習、単語リスト6、エラーニング(1時間) | | | | |
| 13 | 文法演習、小テスト リスニング Part 1-3 時間配分について | 基本文法(関係代名詞と関係副詞のちがい)の問題演習 Part 1-2 通し練習、Part 3 ガイドツアー 時間配分確認、単語テスト | | | | | 文法復習、テキストP. 48の復習と音読、単語リスト1-6、エラーニング(1時間) | | | | |
| 14 | 通し練習振り返り 文法演習 リスニング Part 3 | 課題の通し練習を振り返り、課題分析 基本文法(比較級・最上級)の問題演習 実践テスト、Part 4 実践問題演習、Part 3 電話メッセージ | | | | | 文法復習、テキストP. 49、115-116の復習と音読練習、単語リスト7、エラーニング(1時間) | | | | |
| 15 | リスニング Part 2-3 | Part 4 実践問題演習 Part 2-3 部分的に通して練習し、テスト対策 | | | | | テキストP. 113-118、間違った個所の復習と音読練習、単語リスト1-7、エラーニング(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「TOEIC Bridgeスピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサ-チ出版) ISBN:978-4901429573(生協で購入してください。) 「TOEICテスト 英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版)(生協で購入してください。) | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% 試験はTOEIC Bridge IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 授業内で指示します。 | | | TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。エラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|--|------|------|--------------------|---|---------|-----|-----|--|
| 科目名 | TOEIC Gクラス | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12110 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 櫻井 智子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスワ- | | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (初級) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC に引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。プレイメントテスト成績に基づく少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| TOEIC Bridgeで140点を目標せる英語力を身につけている。 英語での基本的な応答がスムーズにできる。 リーディングに必要な、基本的スキルを身につけている。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 前期を振り返り、目標を達成するために何が必要かを確認します。 | | | | | 前期の内容を復習して授業に臨む。宿題として自己学習の目標を立てる。(1時間) | | | | |
| 2 | 学習方法の確認と実践 文法演習 リスニング Part 2 | 英語学習に必要な学習方法を確認 基本文法(過去完了進行形)の問題演習 Part 2 手段・程度 | | | | | 文法復習、テキストP. 28-29の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 3 | 文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(未来を表す表現・未来進行形と未来完了形)の問題演習 Part 2 一般疑問文・平叙文 Part 5 料理法 | | | | | 文法復習、テキストP. 30-31、88-89の復習と音読、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 4 | 文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 基本文法(仮定法過去・仮定法過去完了)の問題演習 Part 2 付加疑問文・否定疑問文 Part 5 広告・記事(基礎問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 32、90-91の復習と音読筆写、単語リスト、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 5 | 文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5 | 実践テスト、小テスト Part 2 選択疑問文 Part 5 広告・記事(実践問題) | | | | | 実践テスト 復習、テキストP. 33、122の復習と音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 6 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(分詞・受動態)の問題演習 Part 3 Where Part 5 広告・記事(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 40、123の復習と音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 7 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(受動態のいろいろな形)の問題演習 実践テスト Part 3 Who、Part 5 広告・記事(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 41、126の復習と音読練習、単語リスト3、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 8 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(不定詞・不定詞を使った文)の問題演習 Part 3 When Part 5 掲示文(基礎問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 42、92-93の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 9 | 文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(不定詞のいろいろな形・動名詞)の問題演習 Part 3 How、Part 5 掲示文(実践問題) 単語テスト | | | | | 文法復習、テキストP. 43-44、121の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 10 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(不定詞と動名詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 3 What、Part 5 Eメール(基礎問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 45、94-95の復習と音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 11 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(関係代名詞・そのほかの関係代名詞)の問題演習 Part 3 Why Part 5 Eメール(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 46、124の音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 12 | 文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5 | 基本文法(注意すべき関係代名詞・関係副詞)の問題演習 Part 4 実践問題演習、Part 3 交通機関 Part 5 手紙(実践問題) | | | | | 文法復習、テキストP. 47、113-114、125の復習と音読練習、単語リスト6、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 13 | 文法演習、小テスト リスニング Part 1-3 時間配分について | 基本文法(関係代名詞と関係副詞のちがい)の問題演習 Part 1-2 通し練習、Part 3 ガイドツアー 時間配分確認、単語テスト | | | | | 文法復習、テキストP. 48の復習と音読、単語リスト1-6、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 14 | 通し練習振り返り 文法演習 リスニング Part 3 | 課題の通し練習を振り返り、課題分析 基本文法(比較級・最上級)の問題演習 実践テスト、Part 4 実践問題演習、Part 3 電話メッセージ | | | | | 文法復習、テキストP. 49、115-116の復習と音読練習、単語リスト7、Eラーニング(1時間) | | | | |
| 15 | リスニング Part 2-3 | Part 4 実践問題演習 Part 2-3 部分的に通して練習し、テスト対策 | | | | | テキストP. 113-118、間違った個所の復習と音読練習、単語リスト1-7、Eラーニング(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「TOEIC Bridgeスピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサ-チ出版) ISBN:978-4901429573(生協で購入してください。) 「TOEICテスト 英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版)(生協で購入してください。) | | | 受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% 試験はTOEIC Bridge IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 授業内で指示します。 | | | TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------|---|---|------|------|-------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Aクラス | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22111 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 山浦 かおる | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (中級) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。これまでのTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策 | 授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。 | | | | 学習計画を立てる、音読(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 10 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 11 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 14 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 定期試験に向けて自己学習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。) | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC 1Pテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------|---|---|------|------|-------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Bクラス | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22111 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 春日 啓子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (中級) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。 リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。これまでのTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策 | 授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。 | | | | 学習計画を立てる、音読(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 10 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 11 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 14 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 定期試験に向けて自己学習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。) | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC 1Pテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------|---|-----------------|------|---|-------------------------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Cクラス | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 勝山 庸子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (中級) | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| 「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。これまでのTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策 | 授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。 | | | | 学習計画を立てる、音読(1時間) | | | |
| 2 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 3 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 4 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 5 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 6 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 7 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 8 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 9 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 10 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 11 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 12 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 13 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 14 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 定期試験に向けて自己学習(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | |
| 「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC 1Pテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------|---|-----------------|------|---|--------------------|-------------------------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Dクラス | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22111 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 櫻井 智子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (中級) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学習到達目標 | | | | | | | | | | |
| 「TOEIC L・」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。これまでのTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策 | 授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。 | | | | | 学習計画を立てる、音読(1時間) | | | |
| 2 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 3 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 4 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 5 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 6 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 7 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 8 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 9 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 10 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 11 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 12 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 13 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 14 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | | 定期試験に向けて自己学習(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------|---|-----------------|------|---|--------------------|-------------------------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Eクラス | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22111 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 宮坂 るみ | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (中級) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学習到達目標 | | | | | | | | | | |
| 「TOEIC L・」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。これまでのTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策 | 授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。 | | | | | 学習計画を立てる、音読(1時間) | | | |
| 2 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 3 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 4 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 5 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 6 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 7 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 8 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 9 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 10 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 11 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 12 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 13 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 14 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | | 定期試験に向けて自己学習(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------|---|---|------|------|-------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Fクラス | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22111 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 田邊 雅彦 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (中級) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学習到達目標 | | | | | | | | | | |
| 「TOEIC L・」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。これまでのTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策 | 授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。 | | | | 学習計画を立てる、音読(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 10 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 11 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 14 | リスニング・リーディング 問題演習 | Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 定期試験に向けて自己学習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。) | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 参考書は授業内で紹介します。 | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------|--|-----------------|---|------|---------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Aクラス | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22112 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 山浦 かおる | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (実践レベル) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身につけている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。 | | | | 前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 10 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 11 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 14 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 15 | 通し練習 | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) 「TOEIC L&R TEST 標準模試2」神崎正哉、ダニエル・ワーリナ著 (IBC/ブリッシング) ISBN:978-4794604668 (生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書、追加のテキストは授業内で指示します。 | | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかを用意して下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---------------------|--|-----------------|------|---|-----------------------|---------------------------------|---------|-----|-----|--|
| 科目名 | TOEIC Bクラス | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22112 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 春日 啓子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (実践レベル) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身につけている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。 | | | | | 前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 10 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 11 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 14 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 15 | 通し練習 | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) 「TOEIC L&R TEST 標準模試2」神崎正哉、ダニエル・ワーリナ著 (IBC/ブリッシング) ISBN:978-4794604668 (生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書、追加のテキストは授業内で指示します。 | | | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかを用意して下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------|--|------|---|-----------------------|---------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Cクラス | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22112 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 勝山 庸子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (実践レベル) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身につけている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。 | | | | 前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 10 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 11 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 14 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 15 | 通し練習 | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書、追加のテキストは授業内で指示します。 | | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかを用意して下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|---------------------|--|-----------------|------|---|-----------------------|---------------------------------|---------|-----|-----|--|
| 科目名 | TOEIC Dクラス | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22112 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 櫻井 智子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (実践レベル) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身につけている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。 | | | | | 前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 10 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 11 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 14 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 15 | 通し練習 | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書、追加のテキストは授業内で指示します。 | | | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかを用意して下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------|--|------|---|-----------------------|---------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Eクラス | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22112 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 宮坂 るみ | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (実践レベル) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身につけている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。 | | | | 前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 10 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 11 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 14 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 15 | 通し練習 | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書、追加のテキストは授業内で指示します。 | | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかを用意して下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------|--|-----------------|---|------|---------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | TOEIC Fクラス | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22112 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 田邊 雅彦 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | ~2016年度 TOEIC (実践レベル) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。これまでのTOEICスコアに基づくクラス分け、少人数クラス(原則20名以下)で行います。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身につけている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| スマートフォン等を用いた双方向型授業を行い、Eラーニング、ペアワークなどで統合的に学びます。前期のTOEIC結果及び模試結果に基づくカウンセリングを行い、目標未到達の場合は課題や学習方法の指導を行います。クラスは原則少人数(20名以下)です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。 | | | | 前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間) | | | | |
| 2 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 3 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 4 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 5 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 6 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 7 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 8 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 9 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 10 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 11 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 12 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 13 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 14 | リスニング演習 リーディング演習 | Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| 15 | 通し練習 | 実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。 | | | | 単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% 試験はTOEIC IPテストを用います。 S:授業内容を高度に理解し、自ら学ぶ姿勢を持って取り組み、例題より難しい応用問題が解ける。TOEICスコアで著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 参考書、追加のテキストは授業内で指示します。 | | | | 今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかを用意して下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------------------|--|------|--|----------------|--------------------------------------|--------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 中国語（基礎） | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL22113 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 中島 暉 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>本講義は中国語の発音と簡単な会話を学び、中国語の基礎を身に付けることを目的とします。 本講義はテキストを用いて、その内容を「聴く、話す、読む、書く」という練習を繰り返すことによって、標準的な発音および会話能力の定着をはかります。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 受信するだけでなく発信にも使えるような基礎的な文法と会話表現を身に付けることが具体的な目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>声を出すことを大切に、ロールプレイ形式で練習します。 授業に合わせて中国の食文化、習慣などを紹介していきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス、中国語とは | 授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明をします。中国語の特徴を紹介します。 | | | | テキストP6とP7を事前に予習する。（1時間） | | | | |
| 2 | 発音「単母音」、声調 | 中国語の発音（ピンイン）と声調（四声）について説明をします。発音練習を行います。 | | | | テキストP8を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 3 | 発音「子音」、挨拶 | 発音「子音」と簡単な挨拶について説明をします。発音練習を行います。 | | | | テキストP9を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 4 | 発音「子音」、自己紹介 | 発音「子音」と名前の言い方について説明をします。発音と会話練習を行います。 | | | | テキストP9とP14を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 5 | 発音「複合母音」、自己紹介 | 発音「複合母音」と「出身地、職業」の言い方について説明をします。発音と会話練習を行います。 | | | | テキストP14とP15を事前に読み、P16の問題練習をする。（1時間） | | | | |
| 6 | 発音「複合母音」、物事の尋ね方（指示代名詞、疑問詞） | 発音「複合母音」と「これは何ですか？」の使い方について説明をします。発音と会話練習を行います。 | | | | テキストP19を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 7 | 発音「鼻母音」 | 前回学習した内容を使い、会話練習を行います。 | | | | テキストP10とP18を事前に読み、P20の問題練習をする。（1時間） | | | | |
| 8 | 動詞の文 | 「動詞の文」について説明をします。会話練習を行います。 | | | | テキストP22とP23を事前に読み、P24の問題練習をする。（1時間） | | | | |
| 9 | 量詞、形容詞の文、買い物 | 「量詞」、「形容詞の文」と「買い物」をする時に使う表現について説明をします。会話練習を行います。 | | | | 教科書P26とP27を事前に読み、P28の問題練習をする。（1時間） | | | | |
| 10 | 数字、日付、時刻 | 「数字」、「日付」と「時刻」の使い方について説明をします。会話練習を行います。 | | | | 教科書P30とP31を事前に読み、P32の問題練習をする。（1時間） | | | | |
| 11 | 完了、助動詞、食事 | 「完了」、「助動詞」と「食事」の時に使う表現について説明をします。小テストを行います。 | | | | テキストP33～P35を事前に読み、P36問題練習をする。（1時間） | | | | |
| 12 | 所在 | 「所在」を表す表現について説明をします。「～は～にある・いる」と「～したい」を使い、会話練習を行います。 | | | | テキストP35を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 13 | 介詞、反復疑問文、家族名称 | 「介詞」、「反復疑問文」と「家族名称」の呼び方について説明をします。 | | | | 教科書P39を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 14 | 存在、家族構成 | 「存在」と「家族構成」の言い方について説明をします。会話練習を行います。 | | | | 教科書P38を事前に読み、P40の問題を練習する。（1時間） | | | | |
| 15 | 講義全体まとめ | これまで学習した内容をまとめます。 | | | | テキストP8～P40の内容について目を通し、全体の復習をする。（1時間） | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「中国語はじめの一步」竹島金吾 監修 尹景春・竹島毅著（白水社） ISBN:978-4-560-06925-7（生協で購入してください。） 必要に応じて、プリントを配布します。 | | | | 受講態度：30% 小テスト：30% 定期試験：40% S:各回の授業内容を十分理解するとともに、自ら意欲的に課題を取り組み、授業で学んだことを95%以上ができる。A:各回の授業内容を理解するとともに、積極的に課題を取り組み、授業で学んだことを80%以上ができる。B:授業内容について概ね理解し、課題を取り組み、授業で学んだことを70%以上ができる。C:授業内容について理解し、授業で学んだことを60%以上ができる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | |
| 特にありません | | | | 授業中恥ずかしながら声を出して、練習をしましょう。予習と復習を行ってください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------|---|------|--|----------------|-------------------------------------|-------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 中国語（展開） | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL22114 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 中島 暉 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | カイスター | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 中国語 を修得していること | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義では、学習した中国語 をベースに、さらに具体的、実践的な場面での会話能力を習得します。本講義はテキストを用い、その内容を「聴く、話す、読む、書く」という練習を繰り返すことによって、標準的な発音および会話能力の習得を目指します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 受信するだけでなく発信にも使えるような会話能力を身に付けることが具体的な目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 声を出すことを大切に、ロールプレイ形式で練習することを重視します。中国文化についても紹介し、異文化への理解を深めていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス、発音（ピンイン）の確認 | 授業概要、学習目標、授業の進め方、成績評価の仕方について説明をします。発音（ピンイン）の確認をします。 | | | | 学習した「中国語」の内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 2 | 時間量、助動詞、介詞 | 「時間量」、「助動詞」と「介詞」について説明をします。 | | | | テキストP43を事前に読む。授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 3 | アルバイト | 前回学習した内容を使い、「一週間に何回アルバイトがありますか？」などの会話練習を行います。 | | | | テキストP41とP42を事前に読む。P44の問題を練習する。（1時間） | | | | |
| 4 | 過去型、強調 | 「過去形」と「強調」について説明をします。 | | | | テキストP47を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 5 | 介詞、応用 | 「介詞」、「～したことがある」と「～が～に」の使い方について説明をします。 | | | | テキストP47を事前に読み、P48の問題を練習する。（1時間） | | | | |
| 6 | 旅行 | 「あなたは旅行が好きですか?」、「アメリカに行った事がありますか?」などの会話練習を行います。 | | | | テキストP46を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 7 | 動作の様態、助動詞 | 「動作の様態」と「助動詞」について説明をします。 | | | | テキストP51を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 8 | 動詞の重ね型 | 「動詞の重ね型」について説明をします。 | | | | テキストP51を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 9 | できる（能力的・条件的・習得する） | 「できる」を使い、会話練習を行います。 | | | | テキストP50を事前に読み、P52の問題を練習する。（1時間） | | | | |
| 10 | 動作の進行、選択疑問 | 「動作の進行」と「選択疑問」について説明をします。 | | | | テキストP55を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 11 | 趣味 | 前回学習した内容を使い、会話練習を行います。小テストを行います。 | | | | テキストP53～P55を事前に読み、P56の問題を練習する。（1時間） | | | | |
| 12 | 比較、2つの目的語をもつ文 | 「比較」と「2つの目的語をもつ文」について説明をします。 | | | | テキストP59を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| 13 | 予定 | 前回学習した内容を使い、会話練習を行います。 | | | | テキストP57～P59を事前に読み、P60の問題を練習する。（1時間） | | | | |
| 14 | 作文（自己紹介） | 学生自身が実際に中国語で「自己紹介」の作文を書いてみます。 | | | | テキストP61を事前に読んでください。（1時間） | | | | |
| 15 | 講義全体まとめ | これまで学習した内容をまとめます。 | | | | テキストP43～P60の内容について復習をする。（1時間） | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「中国語ははじめの一步」竹島金吾 監修 尹景春・竹島毅著（白水社） ISBN:978-4-560-06925-7（生協で購入してください。） 必要に応じて、プリントを配布します。 | | | | 受講態度：30% 小テスト：30% 定期試験：40% S:各回の授業内容を十分理解するとともに、自ら意欲的に課題を取り組み、授業で学んだことを95%以上ができる。A:各回の授業内容を理解するとともに、積極的に課題を取り組み、授業で学んだことを80%以上ができる。B:授業内容について概ね理解し、課題を取り組み、授業で学んだことを70%以上ができる。C:授業内容について理解し、授業で学んだことを60%以上ができる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | |
| 特にありません。 | | | | 授業中恥ずかしがらずに声を出して、練習を行いましょう。予習と復習を行ってください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------------------|---|-----------------|--|------|--------------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | ハングル（基礎） | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22115 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 林 英美 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| ハングルとは、元来朝鮮半島で使われている言語（韓国語・朝鮮語）を表記するために用いられている文字のことを示しますが、この授業では科目の名称として使用しています。この科目では韓国語・朝鮮語の文字と発音を習得します。また、韓国語の文章が読めるようになり、簡単な日常会話を身につけることを目的とします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 履修生は、ハングルの文字の発音の基礎について学び、読み書きができるようになることを目的とします。また、韓国語の文章が読めるようになり、簡単な日常会話を話せるようになることを目的とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 主にテキストの内容に沿って授業を進めます。書き取り・聞き取り・カードゲームなど様々なミニテストを実施し、会話練習にも取り組みます。ハングル歌・映画・ドラマ等を紹介するほか、朝鮮半島の文化風習についても紹介します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス ハングル・韓国語・朝鮮語について | 授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方についての説明をします。ハングルで用いられている記号の説明をし、韓国語・朝鮮語がどのような言語であるのかを紹介します。 | | | | テキスト第1課1と2を読んで、授業内容の復習をする。(1時間) | | | | |
| 2 | 単母音、ヤ行 | 単母音、ヤ行について学びます。 | | | | テキストP10～18の復習と予習をする。(1時間) | | | | |
| 3 | ワ行 | ワ行について学びます。 | | | | テキストP14～17の復習と予習をする。(1時間) | | | | |
| 4 | 平音 | 平音について学ぶ。 | | | | テキストP18～25の復習と予習をする。(1時間) | | | | |
| 5 | 激音・濃音 | 激音と濃音について学ぶ。 | | | | テキストP18～27の復習をする。(1時間) | | | | |
| 6 | 有声音化 | 平音の有声音化について学ぶ。 | | | | テキストP26～32の復習をする。(1時間) | | | | |
| 7 | これまでのまとめ | テキスト第1課と第2課のまとめをする。 | | | | テキストP10～32の復習をし、P33～35までの予習をする。(1時間) | | | | |
| 8 | パッチム(1) | 鼻音と流音について学ぶ。 | | | | テキストP33～39の復習と予習をする。(1時間) | | | | |
| 9 | パッチム(2) | 口音と日本語のハングル表記について学ぶ。 | | | | テキストP36～43の復習と予習をする。(1時間) | | | | |
| 10 | 発音規則(1) | 連音化、hの弱音化・無音化について学ぶ。 | | | | テキストP40～45の予習と復習をする。(1時間) | | | | |
| 11 | 発音規則(2) | 濃音化について学ぶ。 | | | | テキストP44～47の復習と予習をする。(1時間) | | | | |
| 12 | 発音規則(3) | 激音化について学ぶ。 | | | | テキストP48～49の復習をする。(1時間) | | | | |
| 13 | 発音規則(4) | 口蓋音化・流音化について学ぶ。 | | | | テキストP32～35の復習をする。(1時間) | | | | |
| 14 | アウトキャンパススタディ | 韓国文化を実体験し、韓国語とそれにまつわる文化的理解を深める。 | | | | アウトキャンパススタディに関するレポートを書く。 | | | | |
| 15 | 講義全体まとめ | 前期で学んだ事項を復習する。 | | | | テキストP10～49の復習をする。 | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「おはよう韓国語1」崔柄珠著（朝日出版社） ISBN:978-4-255-55632-1（生協で購入してください。） | | | | 小テスト：20% レポート：10% 定期試験：40% 出席レポート：30% S：授業内容を高度に理解しており、成績評価の合計が100%である。 A：授業内容を理解しており、成績評価の合計が80%～99%である。 B：授業内容を概ね理解しており、成績評価の合計が70%～79%である。 C：授業内容の60%程度を理解しており、成績評価の合計が60%～69%である。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | |
| 「おはよう韓国語1」崔柄珠著（朝日出版社） ISBN：978-4-255-55632-1 適宜お知らせいたします。 | | | | 常日頃から韓国や朝鮮のドラマ・映画、ニュースなどに興味を持ち、ハングルに親しみましょう。また、留学生との交流を図り、学んだ知識を実践で使ってみるよう心掛けましょう。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------|--|---|------|----------------|--|-------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | ハングル (展開) | | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL22116 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 林 英美 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | ハングル を修得していること | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 前期に学んだハングルの文字と発音のルールをベースにして、後期では主に簡単な会話表現・文法について学ぶことを目的とします。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| ハングルの基本的な読み書きを習得している受講生が、語彙、文法、発音に関する知識を深め、日常会話に役立つ表現を学ぶことを目的とします。また、ハングル能力検定試験5級及び韓国語能力試験1級を受験できるレベルの知識習得を目標とします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 対話練習を重視し、語彙・文法・発音を身につけられるようにします。会話・筆記試験を定期的を実施し、習得状況を確認します。映画鑑賞や異文化学習、アウトキャンパススタディによる実践練習を取り入れた楽しい学習方法を伝授します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス、文字と発音 | 文字と発音について学びます。 | | | | | テキストP10-49を復習する。(1時間) | | | | |
| 2 | 第5課自己紹介(1) | 第5課の発音と語彙、文法と表現について学ぶ。 | | | | | テキストP58~67を復習する。(1時間) | | | | |
| 3 | 第5課自己紹介(2) | 第5課のまとめ学習をする。 | | | | | テキストP58~67を復習する。(1時間) | | | | |
| 4 | 第6課~ではありません(1) | 第6課の発音と語彙、文法と表現について学ぶ。 | | | | | テキストP68~77を復習する。(1時間) | | | | |
| 5 | 第6課~ではありません(2) | 第6課のまとめ学習をする。 | | | | | テキストP68~77を復習する。(1時間) | | | | |
| 6 | 第5~6課のリスニングと会話 | 第5~6課のリスニングと会話学習をする。 | | | | | テキストP58~77を復習する。(1時間) | | | | |
| 7 | 第7課~が好きです(1) | 第7課の発音と語彙、文法について学ぶ。第4課「流音の鼻音化」について学ぶ。 | | | | | テキストP78~91を復習する。(1時間) | | | | |
| 8 | 第7課~が好きです(2) | 第7課の重要表現について学ぶ。 | | | | | テキストP78~91を復習する。(1時間) | | | | |
| 9 | 第7課~が好きです(2) | 第7課のまとめ学習をする。 | | | | | テキストP78~91を復習する。(1時間) | | | | |
| 10 | 第8課お誕生日(1) | 第8課の発音と語彙、文法と表現について学ぶ。 | | | | | テキストP92-105を復習する。(1時間) | | | | |
| 11 | 第8お誕生日(2) | 月と曜日、時を表す語を学ぶ。第4課「nの添加(合成語)」について学ぶ。 | | | | | テキストP92-105を復習する。(1時間) | | | | |
| 12 | 第8お誕生日(2) | へヨ体を学び、第8課のまとめ学習をする。 | | | | | テキストP92-105を復習する。(1時間) | | | | |
| 13 | 第9課予定と時間 | 固有数詞と時刻について学ぶ。 | | | | | テキストP110-114を復習する。(1時間) | | | | |
| 14 | アウトキャンパススタディ、第10課 | 5課から10課までの会話表現を用いて、韓国語話者と会話練習をする。異文化体験を通じて、「ハングル」に対する理解を深める。 | | | | | アウトキャンパススタディ参加レポートを作成する。(1時間) | | | | |
| 15 | 全体のまとめ | 第5課から第10課を復習する。 | | | | | テキストP58~125を復習する。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「おやよう韓国語1」崔柄珠著(朝日出版社) ISBN:978-4-255-55632-1(生協で購入してください。) | | | | | | 小テスト:30% 定期試験:30% レポート:10% 受講態度:30% S:授業内容を高度に理解しており、成績評価の合計が100%である。 A:授業内容を理解しており、成績評価の合計が81%~99%である。 B:授業内容を概ね理解しており、成績評価の合計が71%~80%である。 C:授業内容の60%程度を理解しており、成績評価の合計が61%~70%である。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 適宜お知らせいたします。 | | | | | | ハングルIIを履修する学生は、ハングルIを受講していることが条件です。後期から受講を希望する場合、文字の読み書きができることが必須条件です。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|------------------------------|--|--|------|------|-----------------|---|---------|-----|-----|--|
| 科目名 | ICTと情報倫理 | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | UL12201 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 久保田 裕 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学生年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | 2017年度～ | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本講義は、様々な事例を参考に、情報社会における諸問題を理解し、それへの対応力を高めます。情報機器の急速な発展によってインターネット利用が日常化し、メディアの特性や価値を理解することなく情報の発信を行うことにより、著作権侵害、個人情報の漏洩、児童ポルノ、不正アクセス、ネット詐欺など犯罪の加害者、被害者になったり、意図せずに法令に違反するなどの例も後が絶ちません。そうならないために、情報モラルの醸成と情報をめぐる法の精神について考え、人生の生き方を学修します。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| ICTとは何か情報倫理(情報モラル)を学ぶために、人生とは何か、どう生きたいか、情報社会との関わり合いを通し、周囲とのコミュニケーションの重要性を再認識し、大学生生活及び社会生活を有意義で快適、かつ安全に過ごすための基本的な考え方を修得することができる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 授業の学習内容により、資料を作成したり、グループワークや講義形式など様々な形態で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ICTと情報倫理(情報モラル)概要 | 本講義で学ぶ概要を説明します。 | | | | | 自分の履修計画を作成します。(4時間) | | | | |
| 2 | あなたの人生の目標は?(1) | 各自、座右の銘を紹介し、簡単な自己紹介をすることによってプレゼンテーションの実習をします。 | | | | | 著作物(作品)との関わりについて新聞や本を読み、話す内容をまとめておきます。(4時間) | | | | |
| 3 | あなたの人生の目標は?(2) | 2回と同じ。受講生が多いことからテーマを同じにしました。 | | | | | 2回と同じ。(4時間) | | | | |
| 4 | 情報モラルと情報を巡る法律について(1回) | 情報社会で「生きる」ことについて考えます。今この状況を取り切る判断、決断、覚悟、決心について学びます。 | | | | | 自分の人生の振り返りをし、今後について考えます。(4時間) | | | | |
| 5 | 情報モラルと情報を巡る法律について(2回) | 4回に同じ。 | | | | | 4回に同じ。(4時間) | | | | |
| 6 | いわゆる情報法全般について触れ、法の精神を考えます。 | 情報社会の規律としての情報法を学び、規範の意味について考えます。 | | | | | 情報社会で、被害にあったり、加害者になっていないかを検討し、発表します。(4時間) | | | | |
| 7 | 著作権法を学ぶ(1回) | 民法の特別法としての著作権法を学びます。法とモラルの違いを考えながら法へのアプローチを考えます。 | | | | | ネットで著作権法にかかわる条文や事例についてアクセスしておく。(4時間) | | | | |
| 8 | 著作権法を学ぶ(2回) | 1回目講義の復習をしつつ、条文にあたりながら自分の生活と著作権法との関わりを考え、著作物の意味と価値を考えます。 | | | | | 復習すること。(4時間) | | | | |
| 9 | 著作権法を学ぶ(3回) | 人間しか行わない「創作」について考え、自らの表現行為と誰に向けての発信か、さらにどのようなメディアを選択するのか、という観点から情報ツールとの付き合い方を考えます。 | | | | | 著作物の例示からその種類をイメージし、自ら創作してみます。(4時間) | | | | |
| 10 | 著作権法を学ぶ(4回) | 著作権の侵害とその救済について具体的な例をあげ、自分の著作権を守ることを考えます。 | | | | | ICT機器の進歩やメディアの変遷にどのような与えているか考えます。(4時間) | | | | |
| 11 | 著作権検定問題に挑戦し、著作権法を正しく理解しているか。 | 初級著作権検定問題に挑戦。 | | | | | 理解していなかったところの復習をし、確認します。(4時間) | | | | |
| 12 | 検定問題をひとつひとつ自らの判断理由を述べ、全員で議論。 | 正しい著作権法の理解に向けて解説します。 | | | | | 間違えた設問について、と照らし合わせながら復習します。(4時間) | | | | |
| 13 | 12回に続く解説 | 正しい著作権法の理解について解説します。 | | | | | 自分としての倫理感を過去の事例を挙げて改めて考えます。(4時間) | | | | |
| 14 | 松本大学情報モラル10箇条について | 過去の松本大学情報モラル10箇条について検討し、意見交換を行います。 | | | | | 各自が情報モラル10箇条を考えて来ること。(4時間) | | | | |
| 15 | 振り返りとまとめ | もう一度講義内容を振り返り、この講義の意味と価値を考えます。 | | | | | 情報モラルと法(ルール)について、講義で習得した内容のレポートを提出する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「たのしい著作権法」(講義にて配布します。) | | | 受講態度:40% 定期試験:30% 出席レポート:30% S:各回の授業内容をすべて理解し、人生目標を極めて真剣に探究している。 A:各回の授業内容をよく理解し、人生目標を真剣に探究している。 B:各回の授業内容を理解し、人生目標を探究している。 C:各回の授業内容の概要を理解し、人生目標を立てようとしている。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「小さな倫理学入門」山内志朗著(慶応義塾大学出版会株式会社) | | | 情報社会において真偽が定かでない情報が氾濫しています。この時代に生きて未来を創造する学生の皆さんは、情報に流されないように、どう生きるかしっかりと自己確立し、コミュニケーション能力の向上を目指してください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------|---|------|------|----|--------|---------------------------|-----|-----|--|
| 科目名 | 情報処理 (WORD) | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12202 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 内川 小百合 | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスワ- | | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>情報処理を学ぶことは、ひとつはコンピュータ・リテラシーを学ぶこと、つまりコンピュータを使いこなしていくことです。文字を入力することは、その基礎です。さまざまな文書をコンピュータで作成し、編集し、そして保存し、また再利用することは、現代社会の中で、必須の技能といえるでしょう。本講義では、クラウド上の文書管理やビジネスメールの送り方、ワープロソフトWORDを使った正しく速い入力技術の習得、ビジネス文書・図形・表などを作成していくための機能を学んでいきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| Office365の機能を習得し、ファイルの送受信などビジネスで使えるスキルを身につけている。正しいキータッチを習得し、ワープロソフトWORDを使ってビジネス文書・表作成・図形挿入・クリップアートや写真の挿入と編集ができる。日本情報処理検定協会ワープロ検定3級～2級を取得できる力を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 演習形式で進めます。特に正確で素早いキータッチの技術を身につけるために、毎回スピードテストを行っていきます。WORDの機能を知り、その機能を使いこなせるように多くの演習をこなしていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | Office365の概要 | Office365の機能と操作、WORDの起動と終了。 | | | | | Office365の予復習(1時間) | | | |
| 2 | 文書管理、メール送信 | 文書管理(ONE DRIVE)、メール機能、送信練習など | | | | | メール機能について予復習(1時間) | | | |
| 3 | キータッチについて | 正しいキータッチについての解説と演習 | | | | | キータッチの運指練習(1時間) | | | |
| 4 | 日本語入力基礎 | 日本語入力基礎 日本語変換モード、IMEパッド、ファンクションキー及びキータッチ演習 | | | | | キータッチの運指練習(1時間) | | | |
| 5 | 漢字変換について | 漢字変換について(変換、文節区切り、文字の修正) 短文入力・記号の入力演習 | | | | | キータッチによる単語練習(1時間) | | | |
| 6 | 特殊文字の入力 | 特殊文字の入力 アルファベット、カタカナ、特殊文字を含む文章の入力演習 | | | | | キータッチによる短文入力練習(1時間) | | | |
| 7 | 編集機能 | 文字の修正、移動、コピーの演習 | | | | | 練習問題の復習(1時間) | | | |
| 8 | 編集機能 | 文字の書式(フォント・サイズ・ボールド体・イタリック体・下線・囲み・網掛け) | | | | | 練習問題の復習(1時間) | | | |
| 9 | 編集機能 | 文字の書式(拡大縮小・下付き文字・上付き文字・取り消し線・影付きなど) | | | | | 編集機能の復習と入力練習(1時間) | | | |
| 10 | 文書保存 | 文書保存、文書読み込み、再保存(上書き保存、新しいファイル名を付けて保存) | | | | | 入力練習および保存(1時間) | | | |
| 11 | ビジネス文書 | ビジネス文書のページ設定(右詰め、中央揃え、インデント、段落番号、箇条書き) | | | | | ビジネス文書の入力練習(1時間) | | | |
| 12 | 表作成 | 罫線機能、表挿入、線種変更、列幅行高変更、セルの結合と分割、列や行の挿入と削除 | | | | | 表入力練習(1時間) | | | |
| 13 | 画像編集 | 画像の挿入(ワードアート、オートシェイプ、クリップアート) | | | | | 画像挿入および編集の復習(1時間) | | | |
| 14 | ビジネス文書 | 表と画像を含むビジネス文書の完成 | | | | | 表と画像を含む文書の入力練習(1時間) | | | |
| 15 | ビジネス文書 | 会社見学礼状や、内定時の礼状など、学生として出す文書の作成と留意点 | | | | | さまざまな文書を自分の立場で作成してみる(1時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「WORDの基礎」内川小百合著(丸の内ハイデ出版)(生協で購入してください。) | | 受講態度:40% 定期試験:60% | | | | | | | | |
| 「日本語ワープロ検定問題模擬問題集」(日本情報処理検定協会)(生協で購入してください。) | | 受講態度は、授業への参加度(授業への取組、発言等)で評価します。 | | | | | | | | |
| | | S:9割以上の理解度+授業への参加度+実技点が100点。 | | | | | | | | |
| | | A:8割以上の理解度+授業への参加度+実技点が80点以上。 | | | | | | | | |
| | | B:8割程度の理解度+授業への参加度+実技点が70点以上。 | | | | | | | | |
| | | C:8割程度の理解度+授業への参加度+実技点が60点以上。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「知りたい操作がすぐわかるWord2013全機能Bible」西上原裕明著(技術評論社) | | コンピュータの入力技術は本講義でしっかりと身につけてください。講義以外の時間を利用してできるだけキーボードに慣れ、WORDの機能についてよく復習してください。日本語ワープロ検定をぜひ受験しましょう。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------|---|----------------|------|----|--------|------------------------------------|-----|-----|--|
| 科目名 | 情報処理 (EXCEL初級) (スポーツ) | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL12203 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 松澤 みわ子・駒村 明子・河西 文子 | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスワ- | | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| Microsoft Excelを用いた数値情報の加工・分析は、大学における研究分野のみならず、ビジネスシーンでも幅広く用いられています。身の回りの数値データを的確に処理し、自分に必要な情報を加工する道具としてExcelを使いこなせるようにしていきます。入力や計算式の作り方の基本から、セル参照の種類やよく使う算術・論理関数、グラフ作成、印刷などについて学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 日本情報処理技能検定協会が実施している「表計算検定2級」の資格を取得する。または、それと同等の実力を養い、Excelを用いて素早く数値データの集計・加工ができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義はすべてパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。資格取得のためには、作業スピードも重要な要件となるため、時間外にも繰り返し操作することで作業効率の向上を目指します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス 基本操作と計算式 | 授業の進め方、評価方法についてExcelの基本操作および表計算検定4級について学習します。 | | | | | 同レベルの問題を配布するので、復習をしておく。(1時間) | | | |
| 2 | IF関数と端数処理 | 表計算検定3級で必須とされる基礎的な関数や書式設定について学習します。 | | | | | 配布されたプリントをもう一度最初から解答しておく。(1時間) | | | |
| 3 | セルの参照方式 | 表計算検定3級で必須とされるセルの参照方式(相対参照・絶対参照)について学習します。 | | | | | 配布されたプリントをもう一度最初から解答しておく。(1時間) | | | |
| 4 | 判断文(2分岐・3分岐) | 表計算検定3級で必須とされる、IF関数による条件判断や順位付けの関数について学習します。 | | | | | 配布されたプリントをもう一度最初から解答しておく。(1時間) | | | |
| 5 | 表計算検定3級まとめ | これまで学習してきた表計算検定3級のまとめの回です。次回2級へ進むための準備学習も行います。 | | | | | 3級レベルの確認課題を出すので、次回までに解答しておく。(1時間) | | | |
| 6 | 表検索とセル証明 | 表計算検定2級で必須とされる、Vlookup関数を用いた表検索やセル証明について学習します。 | | | | | 授業内にやった模擬問題を確実に解答できるよう復習しておく。(1時間) | | | |
| 7 | グラフ作成 | 表計算検定2級で必須とされる、グラフ作成方法(主に円グラフ)について学習します。 | | | | | 授業内にやった模擬問題を確実に解答できるよう復習しておく。(1時間) | | | |
| 8 | 論理演算子を使った判定 | 表計算検定2級で必須とされる、AND関数、OR関数を理解し、IF関数と組み合わせた処理について学習します。 | | | | | 授業内にやった模擬問題を確実に解答できるよう復習しておく。(1時間) | | | |
| 9 | 論理演算・平均との比較 | 平均との比較を含む複雑な論理演算を使った判定について学習します。 | | | | | 授業内にやった模擬問題を確実に解答できるよう復習しておく。(1時間) | | | |
| 10 | 評価の解き方のまとめ | 表計算検定2級で出題される複雑な多重分岐の解き方に関するまとめの学習を行います。 | | | | | 模擬問題を時間を計りながら次回までに練習しておく。(1時間) | | | |
| 11 | 表計算2級検定試験対策 | 問題集や過去問題を使って規定時間内に解答できるようトレーニングします。 | | | | | 課題が出ますので、時間を計りながら次回までに練習しておく。(1時間) | | | |
| 12 | 表計算2級検定試験対策 | 問題集や過去問題を使って規定時間内に解答できるようトレーニングします。 | | | | | 課題が出ますので、時間を計りながら次回までに練習しておく。(1時間) | | | |
| 13 | 表計算2級検定試験対策 | 問題集や過去問題を使って規定時間内に解答できるようトレーニングします。 | | | | | 課題が出ますので、時間を計りながら次回までに練習しておく。(1時間) | | | |
| 14 | 表計算2級検定試験対策 | 自分の弱点抽出を行い、その部分を解答できるようトレーニングします。 | | | | | 問題を時間を計りながら次回までに練習しておく。(1時間) | | | |
| 15 | 表計算2級検定試験対策 | 自分の弱点抽出を行い、その部分を解答できるようトレーニングします。 | | | | | 問題を時間を計りながら次回までに練習しておく。(1時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「情報処理技能検定模擬問題集・表計算2級」日本情報処理技能検定協会編(生協で購入してください。) | | 課題:20% 定期試験:80% 定期試験は表計算検定2級レベルの内容となります。 A:課題の提出と定期試験または表計算検定において80%程度の技能が認められる B:課題の提出と定期試験または表計算検定において70%程度の技能が認められる C:課題の提出と定期試験または表計算検定において60%程度の技能が認められる | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「情報処理技能検定試験・表計算検定対策問題集(過去問題集)」日本情報処理技能検定協会編 | | 収集した数値データや膨大な情報をいかに正確に効率よく取り扱えるかで、今後の問題解決のスピードが大きく変わります。ぜひともExcel操作に精通して欲しいと思います。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------|--|-----------------|------|---|----------------|---------------------------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 情報処理 (EXCEL上級) | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL22204 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 松澤 みわ子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスワ- | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義は、表計算1級の検定合格を目標とします。楽しくパソコンを操作しながら、Excelの本格的な使い方を身につけます。会社などの仕事で実際に役立つような表計算の実力を身につけることを目的としています。数値データをもとにさまざまな統計処理が行えるようになります。「情報処理」では登場しなかった文字列関数や特殊関数、データベース関数、データの抽出、シート間の連携、複合グラフなどについて学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 本講義は日本情報処理検定協会が実施している「表計算検定1級」以上の資格取得、またはそれと同等の実力をけることを目標とします。Excelを用いて複雑な数値データの集計・加工ができるようになることが目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義はすべてパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。基本解説の後に演習課題を繰り返し行い、さまざまなパターンを経験し、実践力と作業のスピードアップを狙います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業の進め方、評価方法についてExcelの操作復習(表計算2級レベル)を行います。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 2 | 多重判断文等の復習 | 表計算検定2級レベルで必須とされている、多重判断文、表検索等について再確認をします。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 3 | 文字列操作関数 | 表計算検定1級レベルで必須とされている、文字列を操作するLife・Right、CONCATINATE関数などについて解説します。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 4 | 特殊関数 | 表計算検定1級レベルで必須とされている、ABS関数など特殊なについて解説します。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 5 | データベース関数 | 表計算検定1級レベルで必須とされている、DSUM、DAVERAGE、DCOUNT関数などのデータベース関数について解説します。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 6 | データベース関数 | 前回の授業で解説したDSUM、DAVERAGE、DCOUNT関数などのデータベース関数について復習をします。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 7 | 抽出と抽出後のデータ処理 | 表計算検定1級レベルで必須とされている、条件を指定したデータ抽出とそのデータに対する処理について解説します。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 8 | シート間の処理 | 表計算検定初段レベルで必須とされている、複数シートを用いた計算式の作り方を紹介します。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 9 | 複合グラフの作成 | 表計算検定初段レベルで必須とされている、複合グラフやグラフを複数作成する方法を紹介します。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 10 | 検定試験対策 | 総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 11 | 検定試験対策 | 総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 12 | 検定試験対策 | 総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 13 | 検定試験対策 | 総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 14 | 検定試験対策 | 総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| 15 | 検定試験対策 | 総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。 | | | | | 授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「情報処理技能検定模擬問題集・表計算1級」日本情報処理技能検定協会編(生協で購入してください。) | | | | | 定期試験:80% 課題:20% 定期試験は表計算検定1級レベルの内容となります。 A:課題の提出と定期試験または表計算検定において80%程度の技能が認められる B:課題の提出と定期試験または表計算検定において70%程度の技能が認められる C:課題の提出と定期試験または表計算検定において60%程度の技能が認められる | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「カラー図解Excel「超」効率化マニュアル」立山 秀利著(講談社) ISBN:978-4062579995 なし | | | | | 定期試験は、表計算検定1級と同等の問題を予定しています。「情報処理」を履修する学生は「情報処理」を履修し、2級を取得していることが望ましい。Excelの幅広い分野への応用力を養いましょう。 | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------------|---|----------------|------|----|--------|--|-----|-----|
| 科目名 | 情報処理（パワーポイント） | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナバリング | UL22205 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 松澤 みわ子・駒村 明子・河西 文子 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスワ- | | | |
| 関連資格 | 中一(保体)、高一(保体)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健) | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションは、研究発表や教育現場、ビジネスシーンなどで幅広く用いられています。本講義ではプレゼンテーションというコミュニケーション手段の特色をよく理解し、企画立案の段階から訴求力の高い視覚資料の作成方法、内容が伝わる発表技法など、プレゼンテーション全般を扱います。 | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| 効果的なプレゼンテーションのために一連の作業(企画立案～視覚資料の作成～発表まで)ができる。また、PowerPointの操作技能としては、デザインに重点を置き、視覚効果を多様化した資料作成能力(プレゼンテーション作成検定2級レベル)を修得している。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| 講義は主にパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。 授業内にプレゼン・スキルのトレーニングをかねて、一人ひとりプレゼンテーション(個人課題)実施の機会を設けます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業の進め方、評価方法についての説明 PowerPointの基本的な機能を使用して、プレゼンテーション資料の作成方法を確認します(プレゼンテーション作成検定4級)。 | | | | | シラバスの内容を事前に確認 事後は同様の問題で復習を行う。 (1時間) | | |
| 2 | プレゼンの企画立案 | プレゼンの企画段階において重要なことや、ストーリー構成の組み立て方、情報収集の手法について学習します。 | | | | | 授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。(1時間) | | |
| 3 | レイアウト・デザイン | 視覚資料のデザイン決定において重要なことや、テーマの活用方法を学習します。 | | | | | 授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。(1時間) | | |
| 4 | 視覚に訴えるチャート化 | 目に見えない概念や考え方、手順などを説明する際にチャートを活用する方法について学習します。 | | | | | 授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。(1時間) | | |
| 5 | 訴求力を上げるカラー化 | カラーの基礎知識や配色の基本テクニック、カラー化によってプレゼン資料の訴求力を上げるためのポイントを学習します。 | | | | | 授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。(1時間) | | |
| 6 | 数値のビジュアル化とイメージ伝達 | 数値を目的に合わせてビジュアル表現するため、表やグラフの活用方法や具体的なイメージを伝える手段について学習します。 | | | | | 授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。(1時間) | | |
| 7 | 効果的なアニメーション | アニメーション効果、画面切り替えなど特殊効果の活用方法と、事前に行っておくべきさまざまな準備作業について学習します。 | | | | | 授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。(1時間) | | |
| 8 | 発表スキルと質疑応答 | 内容を効果的に相手に伝えるための様々なテクニックや、質疑応答の進め方について学習します。 | | | | | 次回のプレゼン本番に備え、視覚資料を完成させ、所定のフォルダに提出する。(2時間) | | |
| 9 | プレゼン準備とリハーサル | これまで学んだ内容を実際に使って個人毎のプレゼン実施の準備とリハーサルを行います。 | | | | | 次回のプレゼン本番に備え、視覚資料を完成させ、所定のフォルダに提出する。(2時間) | | |
| 10 | プレゼン発表 | 大切な個人ごとのプレゼン発表の回です。発表者はこれまでのプレゼンスキルの成果発表を行い、その他の人は質疑応答の場面で質問者となってもらいます。 | | | | | 事前に関リハーサルを済ませ、必要に応じて発表者用ノートを準備しておく。(2時間) | | |
| 11 | プレゼン発表、またはプレゼン振り返り | 履修者の人数にもよりますが、プレゼン発表の続き、または前回のプレゼン成果発表の振り返りを行います。 | | | | | 事前に関リハーサルを済ませ、必要に応じて発表者用ノートを準備しておく。(2時間) | | |
| 12 | プレゼン検定対策(3級) | プレゼンテーション作成検定3級の模擬問題を解きながら、基本的なスライド作成手順やPowerPointの操作方法を復習します。 | | | | | 練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。(1時間) | | |
| 13 | プレゼン検定対策(2級) | プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めま。 | | | | | 練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。(1時間) | | |
| 14 | プレゼン検定対策(2級) | プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めま。 | | | | | 練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。(1時間) | | |
| 15 | プレゼン検定対策(2級) | プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めま。 | | | | | 練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。(1時間) | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 「情報利活用 プレゼンテーション PowerPoint 2013/2010対応」山崎 紅著(日経BP社) ISBN:978-4-82229-702-2(生協で購入してください。) 教科書は全員が購入してください。 | | 課題:50% 定期試験:50% 定期試験はプレゼンテーション作成検定2級レベルの内容となります A:課題の提出・発表と定期試験において80%程度の技能が認められる B:課題の提出・発表と定期試験において70%程度の技能が認められる C:課題の提出・発表と定期試験において60%程度の技能が認められる | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「プレゼンテーション検定模擬問題集2級」(日本情報処理技能検定協会)検定受験を予定している方は購入をしてください。 | | プレゼンテーションとPowerPointの精通することで、円滑なコミュニケーション能力の向上も期待できます。他の授業においても、積極的にプレゼン発表の機会を得るように心がけてください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|---|------|------|----|--------|--|-----|-----|--|
| 科目名 | 情報処理 (ホームページ) | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL32206 | 研究室 | 非常勤 | |
| 担当者 | 松澤 みわ子・駒村 明子・永田 綾子 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| ホームページは情報の取得と発信の強力なツールであり、高度情報社会における重要な情報メディアと言えます。本講義では、ホームページ作成における初中級レベルの技術を習得することを目的とします。ホームページの基礎知識 (HTML・スタイルシート) を学び、さらにホームページ内で用いるWebコンテンツ (画像、ロゴ、アニメーション) の作成についても学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| ホームページビルダーを使った一連の作業 (サイト作成～Webページやコンテンツ類作成まで) ができる。日本情報処理検定協会が実施している「ホームページ作成検定2級」に合格する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 本講義はコンピュータ教室での実習となります。 使用ソフトは「ホームページ・ビルダー」、「Webアートデザイナー」、「Webアニメーター」です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業の進め方、評価方法についてホームページビルダーを使って初歩的なホームページの作り方を学びます。まずはホームページ作成検定4級レベルに挑戦します。 | | | | | HP検定4級の復習をしておくこと。(1時間) | | | |
| 2 | ホームページビルダー基本操作 | ホームページビルダーの基本操作を習得します。この回ではホームページ作成検定3級レベルに挑戦します。 | | | | | HP検定3級の復習をしておくこと。(1時間) | | | |
| 3 | ページの属性 HP検定対策 (3級) | トップページの作成、およびページ属性について学びます。また、ホームページ作成検定3級の出題範囲について学習します。 | | | | | 教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定3級の復習をしておくこと。(1時間) | | | |
| 4 | 書式の設定 HP作成検定対策 (3級) | さまざまな書式設定やWebで扱うカラーや画像の特徴について学びます。また、ホームページ検定3級の出題範囲について学習します。 | | | | | 教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定3級の復習をしておくこと。(1時間) | | | |
| 5 | 表の作成 HP作成検定対策 (2級) | 表挿入や表編集の方法を学びます。この回からホームページ検定2級に挑戦します。 | | | | | 教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間) | | | |
| 6 | リンクの設定 HP作成検定対策 (2級) | 各ページにリンクを設定する方法を学びます。また、ホームページ検定2級の出題範囲について学習します。 | | | | | 教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間) | | | |
| 7 | リンクの応用 HP作成検定対策 (2級) | ラベルリンク、ロールオーバー、イメージマップなど、リンクの応用を学びます。また、ホームページ検定2級の出題範囲について学習します。 | | | | | 教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間) | | | |
| 8 | HP作成検定対策 (2級) | よく出題されるプロパティを含むHP2級の問題の解き方を学習します。 | | | | | HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間) | | | |
| 9 | HP作成検定対策 (2級) | ボーダーなどのプロパティを含むHP検定2級の問題の解き方を学習します。 | | | | | HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間) | | | |
| 10 | HP作成検定対策 (2級) | ラベルリンクなどを用いた難易度の高いHP検定2級の問題の解き方を学習します。 | | | | | HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間) | | | |
| 11 | HP作成検定対策 (2級) | 検定模擬を実施し、弱点の抽出を行います。 | | | | | HP検定2級の過去問題を配布するので、課題として提出すること。(2時間) | | | |
| 12 | Webページ課題制作 | 新たな題材でホームページ制作の過程を最初から復習していきます。課題「京都物語」サイトの構築を行っていきます。 | | | | | 教科書の総合問題を解いておくこと。(2時間) | | | |
| 13 | Webコンテンツの制作 | Webアートデザイナーを利用し、写真の加工や合成の方法、タイトルロゴやボタンなど、個人課題で使用する素材を制作していきます。 | | | | | 課題の中で利用するオリジナル素材を準備すること。(1時間) | | | |
| 14 | Webコンテンツの制作 | Webアニメーターを利用した文字バナー広告など、個人課題で使用するアニメーション素材を制作します。 | | | | | 課題の中で利用するオリジナル素材を準備すること。(1時間) | | | |
| 15 | Webページ課題仕上げ | 課題「京都物語」を指示に従って完成させていきます。HP作成検定2級に関する復習も行う予定です。 | | | | | 課題を期限までに提出すること。(2時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「よくわかるホームページ・ビルダー19」(FOM出版) ISBN:978-4-86510-207-9 (生協で購入してください。) 教科書に従って演習を進めていきますので、必ず購入してください。 | | 課題:50% 定期試験:50% 定期試験はホームページ作成検定2級レベルの内容となります。 A:課題の提出と定期試験またはHP検定において80%程度の技能が認められる B:課題の提出と定期試験またはHP検定において70%程度の技能が認められる C:課題の提出と定期試験またはHP検定において60%程度の技能が認められる | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意 (学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「ホームページ作成検定試験模擬問題集2級編」日本情報処理検定協会編 検定試験を受験する方はできる限り購入してください。 | | パソコン操作に慣れていることが前提ですが、複雑な操作は多くありませんので誰でも受講可能です。今後、「ホームページ実践」の履修、またはHP作成検定1級取得を目指す人はぜひ履修をしてください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------------|--|------|--|----------------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 日本語入門（異文化理解基礎） | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12301 | 研究室 | E-15 |
| 担当者 | 中村 純子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 水曜日1限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 留学生限定科目 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>大学で学ぶためには、講義を理解し、教科書、参考文献を読み、レポートを作成する能力が必要です。本講義は教科書、参考文献を読むための読解力、レポート作成のための基礎を学びます。まず、論理的な文章に触れ、読解力を養います。それとともにレポートの文体、論理的な文章構成、論理的な表現を学びます。最後に学んだことをもとにテーマを決めて、レポートを作成します。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>論理的な文章の読解、レポートの作成ができるようになることが到達目標です。そのために語彙、表現の幅を広げ、文章の構成、段落の構成に配慮できるようになることを目指します。また、学生同士でレポートをチェックすることで、互いの意見を理解し、自分の意見を表明できるようになることが目標です。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>読解に必要な技能、表現などを演習形式で学んでいきます。さらに、レポートを書くために必要な文体、構成、表現について講義をし、実際に学んだことを基にレポートを作成してもらいます。作成後、互いの文を評価し合い、フィードバックを受けます。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 読解：語のまとめり 作文：表記の仕方 作文「国の有名人」 | 読解のストラテジーとして、語を意味のまとめりでもとらえる観点を学びます。作文では、縦書き、横書き、文体と書き言葉について学び、実際に「国の有名人」について作文を書いてもらいます。 | | | | 文体、書き言葉に注意し、作文を書く（2時間） | | | | |
| 2 | 読解：語のまとめり復習 作文：段落の構成 | 読解は前回と別の文を使い、語のまとめりでもとらえるエクササイズをします。また、作文では段落の構成について学びます。中心文、支持文について説明します。 | | | | 「使役」について復習をし、教科書のP8～15までを読んで、予習をする（2時間） | | | | |
| 3 | 読解：使役 作文：助詞相当語 作文「国の有名人」 | 読解は使役、使役受身、授受表現に注意し、「する」側、「される」側の関係をつかむストラテジーについて学びます。作文は助詞相当語について学びます。作文の合評会を行い、フィードバックを受けます。 | | | | 使役、使役受身、授受表現を含んだ他の文の読解をする（2時間） | | | | |
| 4 | 読解：使役復習 作文：引用表現 | 「する」側、「される」側の関係をつかむストラテジーを使って、読解練習をします。作文は「引用表現」について学びます。最後に引用表現文型を使って「各国の国民性」についての作文を書きます。 | | | | 「各国の国民性」についての作文を完成させる。小テストに備え、復習をする（2時間） | | | | |
| 5 | 読解：文の構造 小テスト | 読解では文の修飾関係を正しく理解するストラテジーについて説明します。さらに今までの読解、作文の書き方について小テストを行い、フィードバックをします。 | | | | 小テストの結果のフィードバックをもとに理解できていない点を復習する（2時間） | | | | |
| 6 | 読解：文の構造復習 作文：間接疑問 作文「日本人の不思議」 | 読解は文の構造の復習をします。作文は間接疑問文について作り方を確認したあと、その文を使って、作文「日本人の不思議」について書いてもらいます。「各国の国民性」のフィードバックをします。 | | | | 作文「各国の国民性」の清書。作文「日本人の不思議」を完成させる（2時間） | | | | |
| 7 | 読解：前件と後件 作文：接続表現 | 読解は前件と後件の関係をつかむことを学びます。作文は接続表現について学びます。小テストに備えて、前回までの復習をします。 | | | | 小テストに備えて該当箇所を復習する（2時間） | | | | |
| 8 | 読解：前件と後件の復習 作文：「日本人の不思議」合評会、小テスト | 読解は前件と後件の復習を行います。作文は「日本人の不思議」の合評会とフィードバックです。また読解と作文の小テストを行います。 | | | | 小テスト結果フィードバック、理解できていない点を復習する。作文の清書をする（2時間） | | | | |
| 9 | 読解：指示詞 作文：レポート作成 レポート文を読む | 読解は指示詞のさすものを見つけるストラテジーを身につけます。作文は調査をもとにしたレポート作成の準備をします。まず、参考になるレポート文の読解をし、到達目標をつかみます。 | | | | インターネット、図書館を利用して、レポートのテーマを考える（2時間） | | | | |
| 10 | 読解：指示詞復習 作文：資料の引用 | 読解は指示詞の復習を行います。作文は資料の引用の仕方について、説明します。また、参考文献の書き方についても学んでもらいます。 | | | | インターネット、図書館を利用して、レポートのテーマを考える（2時間） | | | | |
| 11 | 読解：省略 作文：レポートのテーマ決定・構成 | 読解は省略されているものはなにかを見つけるストラテジーを学びます。作文はレポートのテーマの決定、構成を練ります。図表の書き方も学びます。 | | | | レポートのテーマについて図書館、インターネットを利用し、調査する（2時間） | | | | |
| 12 | 読解：「省略されているもの」復習 作文：文献調査 | 読解は省略されているものはなにかを見つけるストラテジーの復習をします。作文は仮アウトラインを作ります。仮説も立てます。 | | | | レポートのテーマについて、調査する。レポート下書きをする（2時間） | | | | |
| 13 | 読解：関連のある言葉 作文：レポート下書チェック | 読解は関連のある言葉を見つけるストラテジーを学びます。作文はレポートの下書きをして、チェックを受けます。 | | | | レポートを執筆する（2時間） | | | | |
| 14 | 読解：関連ある言葉復習 作文：レポート校正 | 読解は関連ある言葉を見つけるストラテジーの復習をします。作文はレポートの校正を行います。 | | | | レポートを完成させる（2時間） | | | | |
| 15 | レポート合評会 | レポートの合評会を行い、学生同士の作文から様々な視点を学びます。フィードバックを受けて、さらに校正を行います。 | | | | レポートを清書する（2時間） | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| <p>「留学生の日本語 作文編」アカデミック・ジャパニーズ研究会編著（アルク） ISBN:4-7574-0500-6（別途、指示します。） 「留学生のための読解トレーニング」石黒圭他著（凡人社） ISBN:978-4-89358-780-0（別途、指示します。）</p> | | | | <p>受講態度：15% 小テスト：25% 課題：60% 受講態度（合評会などでの発言回数と内容）S:適切な表現で論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、適切かつ正確に伝えられる。A:書き言葉で論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、適切に伝えられる。B:ほぼ適切な表現である程度論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、ほぼ適切に伝えられる。C:ある程度論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、伝えられる。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | |
| <p>「留学生のための論理的文章の書き方」二通信子著（スリーエーネットワーク） ISBN:978-4-88319-257-1</p> | | | | <p>作文は時間外にやらなければならないことが多いです。講義計画に沿って準備してきてください。質問はオフィスアワーに対応します。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------------------|---|-----------------|------|--|----------------|--------------------------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | 日本語応用(異文化理解応用) | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL12302 | 研究室 | E-15 |
| 担当者 | 中村 純子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 水曜日1限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 留学生限定科目 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本授業は、大学のテキスト、参考文献を理解するための読解力を養うことと、場面に合わせた文章を作成することを扱います。具体的には、手紙文、スピーチ原稿、自身および母国の状況をテーマにした作文を扱い、最後に社会問題に関するレポートを作成をします。また、必要な語彙、表現、文法なども学んでいきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 場面に合わせた適切な文章を作成することができるようになることが目標です。そのためには、文章の目的に合わせて、適する語彙、表現の選択のほか、文体、構成にも配慮できるようになることを目指します。また、互いの作文をチェックすること、ディスカッションを通して、様々な視点を学ぶこと、自分の意見を表明できるようになることを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 読解と作文を行います。読解は読解のためのストラテジーを学んでいきます。作文は実際に触れながら、様々な文章の特徴を理解してもらい、その特徴を踏まえ、様々な文章を作成してもらいます。作成後、学生同士、フィードバックも行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業ガイダンス 読解:筆者の意見 作文:はがきの書き方 | 授業の目的、概要、評価の仕方を説明します。読解では文末に注意し、筆者の意見を見抜くストラテジーを学びます。作文では、eメール、はがきの書き方について学び、実際に書く練習をします。 | | | | | 実際にeメールを教員に出す。また、はがきは実際に書き、投函する(2時間) | | | |
| 2 | 読解:「筆者の意見」復習 作文:手紙文の書き方 | 読解は筆者の意見を見抜くストラテジーについて復習をします。作文は手紙文の書き方を学び、実際に書く練習をします | | | | | 手紙文の下書きをしてくる(2時間) | | | |
| 3 | 読解:筆者の立場 作文:スピーチ原稿 | 読解は筆者の立場を見分けるストラテジーを学びます。作文は過去の留学生の書いたスピーチ原稿を参考にし、ブレインストーミングをします | | | | | スピーチのテーマを考え、下書きをする(2時間) | | | |
| 4 | 読解:「筆者の立場」復習 作文:スピーチ原稿の発表の仕方 | 読解は筆者の立場を見分けるストラテジーの復習をします。作文はスピーチ原稿の下書きをチェックし、フィードバックをします。よいスピーチとは何かを考えます。 | | | | | スピーチ原稿の清書、スピーチの練習をする(2時間) | | | |
| 5 | 読解:大切なことのサイン 作文:スピーチ発表会 | 読解は大切なことのサインをつかむストラテジーを学びます。スピーチの発表をし、他学生、教員からフィードバックを得ます。 | | | | | 小テストに備え、復習をする(2時間) | | | |
| 6 | 読解:「大切なことのサイン」復習 作文:アジア賞応募原稿構成 | 読解は「大切なことのサイン」の復習をします。作文はアジア賞に向けて、テーマを考え、構成を練ります。前回のアジア賞応募原稿を読み、到達目標を把握します。 | | | | | アジア賞の応募原稿の下書きを書く(2時間) | | | |
| 7 | 読解:速読 作文:アジア賞応募原稿作成 | 読解は速読のストラテジーを学びます。作文は、作文評価の観点の説明を受けたのち、アジア賞応募原稿の下書きを学生同士、チェックします | | | | | アジア賞応募原稿の清書をする(2時間) | | | |
| 8 | 読解:「速読」復習 作文:アジア賞応募原稿完成、合評会 | 読解は速読の復習、作文はアジア賞原稿の合評会を行い、学生同士、互いの考え方を理解します。 | | | | | アジア賞応募原稿校正をする(2時間) | | | |
| 9 | 読解:話題を見抜く 作文:調査をしてレポートを書く | 読解は文章の話題を見抜くストラテジーを身につけます。作文は社会問題もとにしたレポートの作成をします。テーマ決定のためのブレインストーミングを行います。 | | | | | インターネット、図書館などを利用して、レポートのテーマを考える(2時間) | | | |
| 10 | 読解:「文章の話題を見抜く」復習 作文:仮アウトライン | 読解は「文章の話題を見抜く」ストラテジーの復習をします。作文はレポートのテーマ、構成を決め、仮アウトラインを作成します。 | | | | | 小テストのための復習をする。レポートのテーマについて調べる(2時間) | | | |
| 11 | 小テスト 読解:ストーリーを読む | 小テストをします。読解はストーリーを読むためのストラテジーを学びます。作文は仮アウトラインにのっとって、下書きをします。 | | | | | レポートの下書きを完成させる(2時間) | | | |
| 12 | 読解:「ストーリーを読む」復習 作文:賀状の書き方 | 読解は「ストーリーを読む」の復習をします。作文は賀状の書き方について学びます。 | | | | | レポートの下書きを完成させる(2時間) | | | |
| 13 | 読解:読み間違いを見つける 作文:下書きチェック | 読解は読み間違いを見つけるストラテジーを学びます。作文はレポートの下書きを学生同士観点に沿って、チェックし、フィードバックを得ます。 | | | | | フィードバックをもとにレポートの校正、清書をする(2時間) | | | |
| 14 | 読解「読み間違いを見つける」復習 作文:レポート合評会 | 読解は「読み間違いを見つける」ストラテジーの復習をします。作文はレポート合評会を行い、学生同士、互いの考え方を理解し、ディスカッションを行います。 | | | | | 定期試験に備え、復習をする(2時間) | | | |
| 15 | 総復習 作文:合評会 | 定期試験に備え、総復習をします。作文はレポートの合評会の続きを行い、学生同士、考え方を理解し、ディスカッションを行います。 | | | | | 定期試験に備え、復習をする(2時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「留学生のための読解トレーニング」石黒圭著(凡人社) ISBN:978-4-89358-780-0(別途、指示します。)日本語入門と同じ教科書です。 | | | | | 受講態度:15% 小テスト:20% 課題:45% 定期試験:20% 受講態度(合評会などでの発言回数と内容)S:場面に合わせた文章を適切、かつ正確に作成できる。自分の意見を適切かつ正確に表明できる。A:場面に合わせた文章を適切に作成できる。自分の意見を適切に表明できる。B:場面に合わせた文章をほぼ適切に作成できる。自分の意見をほぼ適切に表明できる。C:場面に合わせた文章を作成できる。自分の意見を表明できる。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「日本語Eメールの書き方」築晶子他著(ジャパンタイムズ) ISBN:4-7890-1184-4 | | | | | 留学生の物の見方、考え方を表明する場でもありますので日頃より見聞を広げてほしいと思います。質問はオフィスアワーで対応します。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|-----------------|------|---|----------------|---|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 日本事情（異文化理解基礎） | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | UL22303 | 研究室 | E-15 | |
| 担当者 | 中村 純子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 水曜日1限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 留学生限定科目 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| この授業は日本人学生と留学生が共に学び合い、異文化コミュニケーションを実践する授業です。地域のグローバル化に伴って、異文化の人との円滑なコミュニケーション力の養成は重要な課題となっています。この授業では、理論として異文化コミュニケーションの特徴、異文化コミュニケーションに対する態度を学び、さらにトレーニング、実際の異文化交流を通して、異文化に対する意識の変革を目指します。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| この授業では、異文化コミュニケーションの特徴、異文化コミュニケーションに対する態度を学び、実際に異文化の人との円滑なコミュニケーションをとれるようになることが目的です。さらに留学生と日本人がテーマに沿ってディスカッションをし、互いの意識改革を行い、多文化共生社会の礎を築くことが目標です。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 講義形式で異文化コミュニケーションに関する理論を説明します。その理論をもとに様々な事例を取り上げ、日本人学生と留学生がディスカッションをし、互いの考え方、価値観、文化が理解できるようにします。また、国際交流活動に参加してもらいます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス 異文化を理解する | 授業の目的、概要、評価の仕方を説明します。異文化コミュニケーションとは何かを考えます。 | | | | | 身近にあった異文化コミュニケーションの経験をレポートにまとめる(2時間) | | | | |
| 2 | 異文化体験発表 新しい常識の発見 | 異文化体験を発表し、異文化が身近であることを理解します。異文化の人と常識が違うことを様々な例を用いて説明します。自分の価値観を絶対正しいと思わない態度を身につけます。 | | | | | 自分の体験で、異文化でなくても、常識の通じなかった経験をレポートにまとめる(2時間) | | | | |
| 3 | 常識が通じなかった体験発表 ステレオタイプ | 常識の通じないというのは異文化だけではないことを理解します。ステレオタイプの定義、要因、そして自らのステレオタイプを考えます。さらに自分、自分の国がどう見られているかを考えます。 | | | | | 世界の様々な国のステレオタイプを調べて、レポートにまとめる(2時間) | | | | |
| 4 | 「ステレオタイプ」発表 文化とコミュニケーション | ステレオタイプについて発表を行い、ステレオタイプの弊害について考えます。文化とコミュニケーションについて考え、誤解を受けるメカニズムを考えます。 | | | | | 誤解を受けた経験を客観的に振り返り、その要因を分析し、レポートにまとめる(2時間) | | | | |
| 5 | 「誤解」レポート発表 コミュニケーションスタイル - 誘い方と断り方 | 人間がコミュニケーションをとるとき、異文化ならずとも誤解がおこることをメカニズム的に理解します。さらに、コミュニケーションスタイルの違う文化では誤解が起こりやすいことを学びます。 | | | | | 誘い方と断り方の自分のコミュニケーションスタイルについて、分析的に考え、まとめる(2時間) | | | | |
| 6 | 「誘い方と断り方」発表 コミュニケーションスタイル - 謝罪と感謝 | 自分の誘い方と断り方のコミュニケーションスタイルを客観的に知る。謝罪と感謝のコミュニケーションスタイルの文化による相違について考える。 | | | | | スタイルが異なるとどんな摩擦が起きやすいかをレポートにまとめる(2時間) | | | | |
| 7 | 松本国際ふるさと祭り 「こいこい松本」への参加準備 | 「こいこい松本」の目的、概要を説明します。松本の外国籍住民についての理解を深め、自分なりのスタッフ参加の目的を決めます。 | | | | | スタッフ会議も含め当日スタッフとして参加する。参加後、レポートを書く(16時間) | | | | |
| 8 | 「こいこい松本」に参加して学んだことを発表 | 「こいこい松本」に参加しての自分の目的に合わせた成果を発表します。発表の後、ディスカッションをします。 | | | | | ディスカッションの内容も含め、レポートをまとめ直す(4時間) | | | | |
| 9 | 非言語コミュニケーション - タッチング・空間距離 | 非言語コミュニケーションとは何か。非言語の文化的影響を説明します。本授業ではタッチング、空間距離の文化的差異を取り上げます。 | | | | | 他者を観察し、非言語を使ったコミュニケーションの実例をレポートにまとめる(4時間) | | | | |
| 10 | 非言語コミュニケーション - 表情・アイコンタクト・ジェスチャー | 非言語コミュニケーションの表情、アイコンタクト、ジェスチャーを取り上げ、文化的差異について説明します。最後に非言語コミュニケーションが摩擦を生む例について考えていきます。 | | | | | 非言語コミュニケーションを分類し、摩擦の多いタイプは何かをレポートにまとめる(4時間) | | | | |
| 11 | 多文化共生の意義と課題 | 多文化共生の意義、課題を考えます。まず、カナダ、日本の実例について紹介します。課題についてディスカッションをします。 | | | | | 多文化共生の意義と課題について調べてレポートにまとめる(4時間) | | | | |
| 12 | 多文化共生の意義と課題 - 発表 | 多文化共生の意義、課題について調べてきたことを発表します。お互いの発表を聞いて、ディスカッションをします。 | | | | | 外国人(異文化の出身者)にインタビューする。テーマを考える(4時間) | | | | |
| 13 | 外国人にインタビュー | 学習してきたことをもとに自分でテーマを決めて、外国人にインタビューします。本授業ではテーマについて理解を深め、調査項目を決定します。 | | | | | 仮調査票を完成させる(4時間) | | | | |
| 14 | 外国人にインタビュー - パイロット調査 | 調査項目をもとにパイロット調査を行います。学生同士質問をし合い、調査項目を見直します。 | | | | | 調査票を完成させ、調査を行い、PPTでスライドを作る(4時間) | | | | |
| 15 | 発表原稿チェック 発表シミュレーション | お互いに発表原稿のチェックをします。よい発表の観点を説明し、シミュレーションを行います。 | | | | | シミュレーションでのフィードバックをもとに発表原稿を完成させ、発表練習をする(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「異文化コミュニケーション・ワークブック」矢代京子他著(三修社) ISBN:978-4-384-01851-6(講義にて配布します。) | | | | | 受講態度:30%、レポート:40% 発表30% 受講態度(ディスカッションでの発言回数と内容)S:異文化コミュニケーションの特徴を深く理解し、円滑なコミュニケーションがとれる。A:異文化コミュニケーションの特徴を理解し、円滑なコミュニケーションがとれる。B:異文化コミュニケーションの特徴をほぼ理解し、のコミュニケーションがとれる。C:異文化コミュニケーションの特徴をある程度理解し、コミュニケーションができる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「異文化理解入門」原沢伊都夫著(研究社) ISBN:978-4-327-37734-2 | | | | | 異文化の人と交流をして互いの価値観を知り、理解できるようにしてください。質問はオフィスアワーで対応します。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|------------------------------------|---|-----------------|------|---|----------------|--|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 日本事情（異文化理解応用） | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL22304 | 研究室 | E-15 | |
| 担当者 | 中村 純子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 水曜日1限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 留学生限定科目 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 地域のグローバル化にともない、日本の事情を客観的に知ること、さらにそれを他に伝えることが必要となっています。この授業はまず日本を大きく3つの地域に分け、その文化、歴史、宗教等を学んでいきます。そして、地域ごとに自分が興味を持ったテーマを見つけ、発表します。発表は3回行います。留学生と日本人学生がともに日本事情について学ぶことにより、互いの文化、歴史、宗教等を比較し、日本事情の特徴に対する理解を深めます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 日本の事情を知り、さらにそれを他に伝えられるようになることを目標とします。また、留学生の母国との比較により、それぞれの文化に対する理解を深めることも目標とします。また、発表のスキルを学ぶことも目標です。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 授業の前半は講義形式で、地域ごとの文化、歴史、宗教等を学びます。後半は学生がテーマを選び、発表します。その内容について学生同士質問したり、話し合ったりしてもらいます。最後に発表のコメントを書き、提出します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス 日本の地理 北部（北海道）について | 授業の目的、授業概要、授業評価について説明を受けます。日本の地理の概要をつかんだ後に、北海道について学びます。北海道は主にアイヌの歴史について学びます。 | | | | | 復習及び発表準備（2時間） | | | | |
| 2 | 北部（岩手県）について | 柳田國男の「遠野物語」を中心に学びます。日本の民俗学について理解を深めます。方言についても考えます。 | | | | | 復習及び発表準備（4時間） | | | | |
| 3 | 北部（仙台、奥の細道）について | 東北の3大祭りについて学びます。さらに俳句について学び、「奥の細道」について理解を深めます。また句会の準備をします。 | | | | | 俳句を実際に作る。 復習及び発表準備（4時間） | | | | |
| 4 | 句会 北部（福島・茨城）について | 句会を体験します。さらに東日本大震災について学びます。また、白虎隊、日光東照宮についてそれぞれの歴史についても理解を深めます。 | | | | | 発表準備まとめ。北部小テスト準備（6時間） | | | | |
| 5 | 中部（東京・富士山）について 学生発表 小テスト（北部） | 東京、下町文化、富士山とそこから生まれた芸術について、学びます。東北地方に関する小テストを受け、知識を定着させます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。 | | | | | 発表準備（2時間） | | | | |
| 6 | 中部（信州）について 学生発表 | 桜と日本人の美意識について学びます。また、江戸時代の人々の暮らしについて絵島事件を通して学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。 | | | | | 日本人の美意識に対する本を読み、レポートを書く（4時間） | | | | |
| 7 | 中部（奈良、京都） 学生発表 | 奈良時代、平安時代を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。 | | | | | 復習及び発表準備（4時間） | | | | |
| 8 | 中部（滋賀、大阪） 学生発表 | 戦国時代を中心に学びます。また、茶道の概要、精神についても学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。 | | | | | 発表準備 茶道の歴史と茶掛けを調べる。（4時間） | | | | |
| 9 | 茶道体験 | 茶道を体験します。その際茶道の精神がどのように実際に活かされているかを探ります。 | | | | | 茶道体験をレポートにまとめる。 発表準備 小テスト準備（6時間） | | | | |
| 10 | 南部（島根県出雲・松江）について 小テスト（中部） | 神話、怪談などを中心に学びます。また、中部地方について知識定着のための小テストを行います。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。 | | | | | 神話、怪談の中から、好きなものを選び、あらすじをまとめる。（4時間） | | | | |
| 11 | 南部（岡山・広島）について 学生発表 | 日本の城、および安芸の宮島を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。 | | | | | 復習及び発表準備（4時間） | | | | |
| 12 | 南部（四国）について 学生発表 | 坂本竜馬、正岡子規を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。 | | | | | 復習及び発表準備（4時間） | | | | |
| 13 | 南部（福岡・長崎・大分）について 学生発表 | 原爆、鎖国、温泉を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。 | | | | | 復習及び発表準備（4時間） | | | | |
| 14 | 南部（熊本・鹿児島）について 学生発表 | 熊本、鹿児島の自然、歴史を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。 | | | | | 復習及び発表準備（4時間） | | | | |
| 15 | 沖縄について 学生発表 | 戦争、自然、歴史を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。 | | | | | 小テスト（南部）準備及び発表準備（4時間） | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| (講義にて配布します。) パワーポイントによる資料を配布 | | | | | 受講態度：10% レポート：20% 小テスト：20% 発表50% S:授業内容の高度な理解の上に立ち、自らテーマを発見、探求し、他に伝えることに優れている。A:授業内容を理解し、自らテーマを発見、探求し、他に伝えることができる。B:授業内容をほぼ理解し、テーマにそって探求し、他に伝えることができる。C:授業内容の60%程度を理解し、テーマについて他に伝えることができる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | |
| 「日本人と日本文化」司馬遼太郎 ドナルド・キーン著（中公新書 285） ISBN：4-12-100285-7 | | | | | 日本人学生、留学生が互いの国の事情を積極的にし合うことが必要です。質問はオフィスアワーで対応します。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|-------------|---|---|--|----------------|------|--|---------|-------------|-----|------|
| 科目名 | 子どもの育ちと教育 | | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13101 | 研究室 | A-02 |
| 担当者 | 大蔵 真由美 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日4限、水曜日4限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 子どもの成長発達には連続しています。そのことの理解が十分でないと、子どもの育ちが円滑に進まないことがあります。そこで本授業では、小学校へつながる幼児期に着目し、その成長発達の特徴及びその時期の子どもの成長発達のために重要である教育の基本を理解することを目的とします。具体的には、映像資料を活用して3歳から5歳までの子どもの成長発達の特徴を考えます。さらに、幼児教育の基本を、映像資料や幼稚園教育要領等を資料として考えます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 1. 幼児期の子どもの成長発達の特徴を理解し、説明できる。 2. 幼児期の子どもの育ちのために重要な教育の基本を理解し、説明できる。 3. 子どもの育ちをめぐる今日の課題に興味関心を持ち、その一つについて自分の意見を表明できる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 講義形式を主として進め、適宜、グループワーク等を行います。必要に応じて資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、さらに発展的内容を示していますので、該当する授業前に必ず読み、持参して授業に臨んで下さい。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業内容や進め方を説明します。 | | | | | シラバスを読む、幼稚園教育要領解説を読む。(4時間) | | | | |
| 2 | 子どもの育ち1 | 三歳前半の成長の様子とその特徴を説明します。 | | | | | 第1回授業で配布した資料の該当箇所を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間) | | | | |
| 3 | 子どもの育ち2 | 三歳後半の成長の様子とその特徴を説明します。 | | | | | 前時の復習、第1回授業で配布した資料の該当箇所を読む(2時間)。ワークを完成する。(2時間) | | | | |
| 4 | 子どもの育ち3 | 四歳児の成長の様子を映像を通して確認します。 | | | | | 前時の復習、第3回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成する。(2時間) | | | | |
| 5 | 子どもの育ち4 | 四歳児の成長とその特徴を説明します。 | | | | | 前時の復習、第3回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成する。(2時間) | | | | |
| 6 | 子どもの育ち5 | 五歳児の成長の様子を映像を通して確認します。 | | | | | 前時の復習、第5回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成する。(2時間) | | | | |
| 7 | 子どもの育ち6 | 五歳児の成長の特徴を説明します。 | | | | | 前時の復習、第5回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成する。(2時間) | | | | |
| 8 | ここまでの授業のまとめ | 第7回までの授業内容を振り返り、総括します。 | | | | | 第7回までの授業内容を復習する、幼稚園教育要領解説を再読する。(4時間) | | | | |
| 9 | 子どもの育ちのために1 | 子どもの今と子どもの最善の利益について考えます。 | | | | | 第8回授業で配布した資料を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間) | | | | |
| 10 | 子どもの育ちのために2 | 養護と教育について説明します。 | | | | | 前時の復習、第9回授業で配布した資料を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間) | | | | |
| 11 | 子どもの育ちのために3 | 環境を通して行う教育について説明します。 | | | | | 前時の復習、第10回授業で配布した資料を読む、幼稚園教育要領解説の指定箇所を読む。(4時間) | | | | |
| 12 | 子どもの育ちのために4 | 遊びを通して行う教育について説明します。 | | | | | 前時の復習、第11回授業で配布した資料を読む、幼稚園教育要領解説の指定箇所を読む。(4時間) | | | | |
| 13 | 子どもの育ちのために5 | 主体的活動の展開について説明します。 | | | | | 前時の復習、第12回授業で配布した資料を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間) | | | | |
| 14 | 子どもの育ちのために6 | 子どもの育ちをめぐる今日の課題について説明します。 | | | | | 前時の復習、第13回授業で配布した資料を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 第9回から第14回の授業を振り返り、総括します。また、授業全体のまとめを行います。 | | | | | これまでの授業の復習をする。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 使用しません。必要に応じて資料を配布します。 | | | | 受講態度：30% レポート：35% 定期試験：35% 受講態度(授業への意欲、毎時間後の感想・質問)、レポート(授業内容の理解度や考察の深まりを知る為の授業内小レポートやワーク)、定期試験を総合して評価します。 <評価基準> S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し説明できる。C:授業で取り上げた事柄を理解している。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「小学校学習指導要領」文部科学省編(東京書籍) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省編(フレーベル館) その他は授業の進捗状況に合わせて紹介します。 | | | | 家族や家庭、その中で子どもに対して行われる教育的営みは身近な事柄です。自分の経験と比較しながら聴講して下さい。また、積極的な授業参加を期待しています。受講者数により参加型の授業を取り入れていきます。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------|--|------|------|----|---------|-------------------------------------|-----|------|--|
| 科目名 | 心理学概論 | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13102 | 研究室 | A-18 | |
| 担当者 | 川島 一夫 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 木曜日3限、木曜日4限、木曜日5限 | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | | |
| | A B C | ~2016年度 心理学 | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 心理学は科学であることを中心テーマに、心理学全般について学びます。心理学についてのビデオをみて、その領域についての説明を行います。また、授業の途中での小テストや、課題の本を読みテーマを決めての討論を行います。一般に考えられている心理学に対する誤解を解くことが授業の目的です。なお、締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。レポートを期日どおりに出すこともこの授業の目的です。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 心理学について、幅広い知識を習得し、一般に考えられている心理学に対する誤解を解くことができる。また、人間関係を含めた社会的な事象について客観的なデータをもとに解釈することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| ビデオ心理学への招待(DISCOVERING PSYCHOLOGY)を視聴し、その中で出てくる内容についての講義を行います。また、小テスト、討論も行います。さらに質問に回答すること。レポートは、それぞれ2000文字以上です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 研究を理解する | 研究を理解する Understanding Researchを資料による説明とDVD視聴 | | | | | 資料を参照して心理学の研究についてのレポート(4時間) | | | |
| 2 | 反応する脳 | 反応する脳 The Responsive Brainを資料による説明とDVD視聴 | | | | | 宿題の小テストを資料を見て回答(4時間) | | | |
| 3 | 子供の発達 | 子供の発達 The Developing Childを資料による説明とDVD視聴を行います | | | | | 宿題の小テストを資料を見て回答(4時間) | | | |
| 4 | 感覚と知覚 | 感覚と知覚 Sensation and Perceptionを資料による説明とDVD視聴を行います | | | | | 「面白いほどよくわかる」前半を読んでレポート 2000文字(4時間) | | | |
| 5 | 学習理論 | 学習 Learningを資料による説明とDVD視聴を行います | | | | | 「面白いほどよくわかる」後半を読んでレポート 2000文字(4時間) | | | |
| 6 | 討論と質問回答 「心理学ってどんなもの」 | 「面白いほどよくわかる!」心理学の本について討論と質問回答を行います | | | | | 「面白いほどよくわかる!」心理学の本 討論の感想文(4時間) | | | |
| 7 | 記憶と忘却 | 記憶と忘却 Remembering and Forgettingを資料による説明とDVD視聴を行います | | | | | 宿題の小テストを資料を見て回答(4時間) | | | |
| 8 | 判断と意思決定 | 判断と意思決定 Judgment and Decision Makingを資料による説明とDVD視聴を行います | | | | | 「アサーション入門」前半を読んでレポート(4時間) | | | |
| 9 | 動機づけと情動 | 動機づけと情動 Motivation and Emotionを資料による説明とDVD視聴を行います | | | | | 「アサーション入門」後半を読んでレポート(4時間) | | | |
| 10 | 討論と質問回答 「アサーション入門」 | 「アサーション入門」について討論と質問回答を行います | | | | | 「アサーション入門」討論の感想文(4時間) | | | |
| 11 | 認知過程 | 認知過程 Cognitiveを資料による説明とDVD視聴を行います | | | | | 宿題の小テストを資料を見て回答(4時間) | | | |
| 12 | 成熟と老化 | 成熟と老化 Maturing and Agingを資料による説明とDVD視聴を行います | | | | | 「スタンフォードの自分を変える教室」前半を読んでレポート(4時間) | | | |
| 13 | 状況の力 | 状況の力 The Power of the Situationを資料による説明とDVD視聴を行います | | | | | 「スタンフォードの自分を変える教室」後半までを読んでレポート(4時間) | | | |
| 14 | 討論と質問回答「スタンフォードの自分を変える教室」 | 「スタンフォードの自分を変える教室」の討論と質問回答を行います。 | | | | | 「脳はなにかと語り訳する」討論の感想文(4時間) | | | |
| 15 | 心理療法 | 心理療法 Psychotherapyを資料による説明とDVD視聴 | | | | | 宿題の小テストを資料を見て回答(4時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「面白いほどよくわかる不思議な心理学」ライフ・エキスパート著(KAWADE夢文庫) ISBN:978-4309498300(生協で購入してください)。「アサーション入門」平木 典子著(講談社現代新書)。「スタンフォードの自分を変える教室」ケリー・マクゴニガル著(だいわ文庫)レポート課題対象となる新書・文庫3冊は別途指示する。 | | 小テスト:70% レポート:30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 参考図書は、授業時に紹介します。また、領域ごとの講義の区切り時に、トピックや心理学最新情報も含めて紹介していきます。 | | 本を読んだレポートと討論があります。締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。大変ですが楽しみにしてください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------|--|------|---|----------------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 健康管理論 | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | UL13103 | 研究室 | S-16 |
| 担当者 | 江原 孝史 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 生活習慣病や高齢化などを背景に、健康志向の考え方が社会に広まっています。このような時代背景にいったいどんな健康を害する要素が潜んでいるのか?、本科目では講義を行います。「健康ではない状態」を回避するため、または、改善するために何をすべきなのか?についても情報を提供します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 「健康」の概念を理解し、「健康」を害する要因と「健康」を維持するための方法について基礎知識を習得することが目標です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 指定のテキストを用いて進めますが、テキストには掲載されていない内容も講義内容には含まれます。必要に応じてプリントなどを配布したり、スライドを使って説明します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 社会と健康 | 健康の定義、概念を理解する。生活習慣と健康の関係、環境が健康に及ぼす影響について説明し、公衆衛生とその歴史について学びます。 | | | | テキストの第1章を読んでくる。テキストの練習問題を解く。(4時間) | | | | |
| 2 | 疫学 | 疫学の定義と疫学のさまざまな指標、疫学的研究方法について学びます。 | | | | テキストの第2章を読んでくる。練習問題を解く。(4時間) | | | | |
| 3 | 人口統計 | 統計の基本事項について学び、人口統計、国勢調査、平均寿命、健康寿命について学びます。 | | | | テキストの第3,4,5章を読んでくる。健康寿命延伸について調べる。(4時間) | | | | |
| 4 | 健康づくり | 日本の健康づくり施策(第一次健康づくり対策からの歴史的変遷、運動指針)食生活関連施策、運動関連施策について学びます。 | | | | テキストの第6章を読んでくる。食生活関連施策の特徴とその変遷について調べる。(4時間) | | | | |
| 5 | 健康管理 | 健康管理の原則と考え方、健康教育定義と方法、その計画と実施、事例について学びます。 | | | | テキストの第7章を読んでくる。健康教育の事例を調べる。(4時間) | | | | |
| 6 | 生活習慣と健康 | 生活習慣病、メタボリックシンドロームについて学び、特定健診、保険指導についても学びます。 | | | | テキストの第8章を読んでくる。生活習慣病のどれか1つについて調べる。(4時間) | | | | |
| 7 | 生活習慣病の疫学、予防、健康管理1 | 循環器疾患、糖尿病、脂質異常、がんとその予防、運動による予防効果と運動を始める前のメディカルチェックの重要性と検査項目、基準値について学びます。 | | | | テキストの第9章を読んでくる。血液検査の脂質異常の項目について調べる。(4時間) | | | | |
| 8 | 生活習慣病の疫学、予防、健康管理2 | 骨粗鬆症、慢性閉塞性肺疾患、ロコモティブシンドロームについて学び、運動による予防効果と運動を始める前のメディカルチェックの重要性と検査項目、基準値について学びます。 | | | | テキストの第9章を読んでくる。骨粗鬆症の治療について調べる。(4時間) | | | | |
| 9 | 地域の保健予防システム | 保健所の歴史とその役割、保健師の役割、災害・危機管理対策、感染症法について学びます。 | | | | テキストの第10章を読んでくる。感染症法の疾患について調べる。(4時間) | | | | |
| 10 | 社会保障制度 | 社会保障の概念、医療制度、福祉制度について学びます。 | | | | テキストの第11章を読んでくる。世界の国の社会保障制度について調べる。(4時間) | | | | |
| 11 | 高齢者の健康管理 | 高齢者の医療確保に関する法律、健康増進事業、介護保険法と制度、認知症、サルコペニアについて学びます。 | | | | テキストの第12章を読んでくる。フレイルの予防について調べる。(4時間) | | | | |
| 12 | 母子の健康管理 | 母子保健事業、保健指導、児童虐待、子供子育て支援制度について学びます。 | | | | テキストの第13章を読んでくる。児童虐待、いじめについて調べる。(4時間) | | | | |
| 13 | 学校の健康管理 | 健康診断と保健指導、学校給食、児童生徒の問題行動について学びます。 | | | | テキストの第14章を読んでくる。発達障害について調べる。(4時間) | | | | |
| 14 | 職場の健康管理 | 一般健康診断、職業病と特殊健康診断、メンタルヘルスについて学びます。 | | | | テキストの第15章を読んでくる。職業病の歴史について調べる。(4時間) | | | | |
| 15 | 国際保健 | 地球規模の健康問題、世界の人口問題について学びます。 | | | | テキストの第1章を読んでくる。世界と自分が住む地域の人口問題について調べる。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「基礎から学ぶ 健康管理概論」柳川 洋編(南江堂) ISBN:978-4-524-25475-0 (生協で購入してください。) | | | | 定期試験:80% レポート:20% S:授業内容を高度に理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が特に優れ、定期試験も90点以上。A:授業内容をよく理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が優れ、定期試験が80点以上。B:授業内容を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、実習課題の評価が良く定期試験が70点以上。C:授業の内容を理解し、与えられた課題に取り組み、実習課題の評価が可定期試験が60点以上。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「生活習慣病と健康管理」斎藤征夫、柏原征子、鈴木康夫、谷口いつか著(診断と治療社) | | | | 社会人になると、自分の健康は自分で管理しなければなりません。皆さんを取り巻く環境や自分のライフスタイルを客観的に評価してみよう、という気持ちで講義を聞いてください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------------|--|------|---|----------------|---------------------------------|-------|--------------------|-----|------|
| 科目名 | こころと体の健康 | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13104 UL13106 | 研究室 | S-03 |
| 担当者 | 進藤 政臣・廣田 直子・中島 節子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスアワ | 月曜日1限、金曜日1限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | 2017年度～ | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>大学生生活を送る上で、また卒業後の社会生活を送る上で、学生自身が自分の心や体について十分な知識を持ち、健康で安全な日常生活を営むことが必要です。そのため、健康日本21の標語にもなっている「1に運動、2に食事、しっかり禁煙、5にクスリ」のそれぞれに対応して、専門的な視点からその基礎的知識を学び、自らの生活に結びつけて実践し、健康で安全な学生生活が送れることを目的とします。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活を送るために必要な運動、栄養、休養の必要性について理解し、実践できる。 ・生活習慣病の発症について理解し、予防策を説明することができる。 ・安全な生活を送るために必要な知識と技術を説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 各専門分野の教員がオムニバス形式で進めます。講義、演習を含めて実施します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション 健康とは | 講義の進め方のオリエンテーションを行います。健康の概念について学びます。健康日本21の取り組みや課題を学びます。 | | | | 健康の概念について予習復習する。（4時間） | | | | |
| 2 | 飲酒、喫煙について がんの発症と予防 | 飲酒、喫煙のからだへの影響について学び、がんなどの病気との関連について学びます。 | | | | 飲酒、喫煙、がんについて予習復習する。（4時間） | | | | |
| 3 | 生活習慣に関連する病気 | 生活習慣と関連の深い高血圧、高脂血症について、疾病の症状や要因、予防方法、治療方法について学びます。 | | | | 生活習慣病について予習復習する。（4時間） | | | | |
| 4 | 生活習慣に関連する病気 | 生活習慣と関連の深い疾病について学びます。糖尿病、肥満など異常の早期発見のための健康診断の必要性や項目について学びます。 | | | | 健康診断や検査について予習復習する。（4時間） | | | | |
| 5 | メンタルヘルス | 代表的な精神疾患の特徴について学び、それらの対応について学びます。 | | | | 精神疾患について予習復習する。（4時間） | | | | |
| 6 | メンタルヘルス | 現代社会の精神的な課題やストレスへの対応などを学び、予防と相談方法について学びます。 | | | | メンタルヘルスについて予習復習する。（4時間） | | | | |
| 7 | 栄養・食生活 | 栄養についての基礎知識を学び、健康的な食生活について考えます。 | | | | 栄養・食生活について予習復習する。（4時間） | | | | |
| 8 | 健康と食生活 | 食生活と疾病との関連を学び、食事についての現代的な課題について解決策を考えます。 | | | | 食生活と疾病についてレポートを作成する。（4時間） | | | | |
| 9 | 健康と食生活 休養 | 健康的な食生活について考えます。健康づくりのための休養指針について学び、健康づくりのための休養について考えます。 | | | | 休養について予習、復習する。（4時間） | | | | |
| 10 | 健康づくりのためのレクリエーション | 積極的な休養の方法を学び、レクリエーション活動を行います。 | | | | レクリエーションについて予習復習する。（4時間） | | | | |
| 11 | 健康づくりと運動 | 運動と健康の関連について学びます。 | | | | 運動と健康との関連について予習復習する。（4時間） | | | | |
| 12 | 健康づくりと運動の実際 | 運動についての課題と対応策を考えます。健康づくりのための運動を行います。 | | | | 運動と健康についてのレポートを作成する。（4時間） | | | | |
| 13 | 安全と救急法について | けがの予防と応急手当について学びます。救命救急法について学び、演習を行います。 | | | | けがの予防と応急手当、救急法について予習復習をする。（4時間） | | | | |
| 14 | 生と性について | 生と性について考えます。性の多様性LGBT、妊娠、出産について学びます。 | | | | 生と性について予習復習する。（4時間） | | | | |
| 15 | 感染症と予防について | 感染症と感染予防について学びます。 | | | | 感染症について予習復習する。（4時間） | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 必要な資料はその都度配布します。 | | | | 定期試験：100% S：授業内容を高度に理解し、自己の健康課題を解決する方法に応用することができる。 A：授業内容を理解し、自己の健康課題を明確にし、解決する方法を見出すことができる。 B：授業内容のおおよそを理解し、自己の健康課題を明確にすることができる。 C：授業内容の60%は理解でき、健康の重要性を説明できる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | |
| 「大学生の健康ナビ キャンパスライフの健康管理 2016」山本真由美著（岐阜新聞社） ISBN：978-4877972240 | | | | 大学生生活を健康で安全に送る基礎を学び、実践に結びつけられるように努力してください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|------------|--|---|------|----------------|---|-------------------------------|---------|--------------------|-----|-----|
| 科目名 | 哲学 | | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL23105 UL23108 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 護山 真也 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 私たちの常識的な世界の見方に対して、一歩ひいたところから、その価値を疑い、批判的な考察をくわえることで、その真価を見極めていくことが「哲学」の実践です。そのような哲学は、古今東西、さまざまな場所、さまざまな時代で行われてきました。この授業では、西洋哲学のみならず、東洋哲学にも目を配り、それらに共通するテーマを設定し、それに対する異なるアプローチの仕方を学んでいきます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 哲学・倫理学・宗教学で問われる諸問題を理解し、それらに対して批判的に考えることのできる力を身につけている。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| プリントを用いて講義形式で進めます。映像資料を利用する回もあります。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 哲学への招待 | 授業全体の見取り図を示し、授業のガイダンスを行います。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 2 | プラトンの愛 | プラトンの『饗宴』を素材として、ギリシア哲学の特質について学びます。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 3 | キリスト教の愛 | ユダヤ教・キリスト教の基本的な考え方を学びます。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 4 | 仏教の慈悲 | ブッダの思想と大乘仏教の菩薩道を中心に、仏教の慈悲の考え方について学びます。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 5 | 愛を哲学する | フロムの『愛するということ』を通して、現代における愛の問題について考えます。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 6 | 自己をめぐる哲学 | わたしとは何か、それがなぜ哲学の問題になるのか、ということをもとに、鷲田清一『じぶん・この不思議な問題』を参照しながら、学習します。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 7 | デカルトと近代的自我 | デカルトの『省察』を素材として、西洋近代思想の誕生の背景について学びます。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 8 | 反デカルト主義の哲学 | デカルト以降の哲学、特にニーチェが展開した反デカルト主義の議論を学びます。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 9 | 人格の同一性について | パーフィットの『理由と人格』を参照しながら、人格の同一性の問題について学びます。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 10 | 日本哲学の可能性 | 西田幾多郎の思想について学びます。また、この回で、自己をめぐる哲学の問題をまとめます。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 11 | 心と世界(1) | 『マトリックス』的世界について学びます。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 12 | 心と世界(2) | カントの認識論とその背景について学びます | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 13 | 心世界(3) | インド仏教の唯識思想について学びます。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 14 | 心と世界(4) | 観念論を批判する議論について学びます。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| 15 | 哲学の再構築 | 授業のまとめを行います。 | | | | | 授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 授業中にプリントを配布します。 | | | | | | 小テスト：50%、レポート：50% 方法については初回に指示。(1)与えられた哲学的問題を正しく理解し、(2)自らの考えを、(3)論理的に、(4)独自の考察を加えて、表現することができる。(1)のみはC、(2)まででB、(3)まででA、すべて満たせばS評価とする。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「愛するということ」エーリッヒ・フロム著(紀伊国屋書店) 「じぶん・この不思議な存在」鷲田清一著(講談社) 「観念論の教室」富田泰彦著(筑摩書房) | | | | | | 今学期は休講とそれに伴う補講が3~4回予定されています。初回に日程を伝えます。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--------------|---|---|------|--|------|--|--------|--------------------|-----|------|
| 科目名 | 生活習慣病と予防 | | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナバ'リング | UA23106 UA23107 | 研究室 | S-16 |
| 担当者 | 江原 孝史 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 火曜日2限 | | |
| 関連資格 | 養教一 | | | 履修条件 | | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| <p>食事をはじめとする生活習慣はさまざまな病気の発症に深くかかわっている。遺伝が原因の病気においてもこれは同様である。生活習慣を見直すことで病気の発症を防ぎ健康長寿を達成することができます。</p> <p>本講義では、生活習慣が関係して発症するさまざまな疾患について学び、生活習慣病を防ぐための食事、運動について知ることを目的とします。実習では自分の体の状態(体重、腹囲、血圧、ヘモグロビン、体脂肪量、動脈血酸素飽和度)をチェックします。</p> | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 自分の生活習慣と健康状態を知り、自らの生活習慣病のリスクを把握することによって、より健康的な学生生活を送ることができ、かつ、生活習慣病とそれを予防するための知識を教えることができるようになること。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| スライドを使いながらレポートと実習で進めます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 生活習慣病とは? 成人病から生活習慣病へ 生活習慣病の低年齢化について学びます。 | | | | | 教科書13-36ページを読んでくる。自分の生活習慣を調べてくる。(4時間) | | | | |
| 2 | 肥満、肥満症 | なぜヒトは太るのか(痩せることができないか)肥満の定義とBMIの計算方法について学びます。自分の体重を測定し、体脂肪、内臓脂肪をチェックし、BMIを計算する。 | | | | | 教科書37-72ページを読んでくる。小児肥満の問題について調べる。(4時間) | | | | |
| 3 | 糖尿病(1) | 糖尿病の定義、分類(1型、2型)、血糖値とHbA1c測定の意義について学びます。グルコーススパイクとその意義について学びます。 | | | | | 教科書73-87ページを読んでくる。糖尿病と遺伝の関係を調べる。(4時間) | | | | |
| 4 | 糖尿病(2) | 糖尿病の合併症、運動療法、食事療法について学びます。 | | | | | 教科書88-102ページを読んでくる。糖尿病の合併症の特徴を調べる。(4時間) | | | | |
| 5 | 脂質異常 | 脂質異常症の種類と原因、動脈硬化との関係、脂質異常の予防法について学びます。 | | | | | 教科書125-130ページを読んでくる。1日に摂取する脂質の種類と特徴について調べる。(4時間) | | | | |
| 6 | メタボリックシンドローム | メタボリックシンドロームの定義とその意義について学びます。 | | | | | 事前に腹囲を測定する。メタボリックシンドロームの体への影響を調べる。(4時間) | | | | |
| 7 | 高血圧 | 高血圧の定義、本態性高血圧と二次性高血圧、家庭血圧と診察室血圧の違いについて学びます。血圧の正しい測定方法を学び、自分の血圧を測定します。 | | | | | 教科書103-124ページを読んでくる。高血圧の影響について調べる。(4時間) | | | | |
| 8 | 虚血性心疾患 | 虚血性心疾患の分類(狭心症、心筋梗塞)、運動療法について学びます。 | | | | | 教科書133-158ページを読んでくる。心臓リハビリについて調べる。(4時間) | | | | |
| 9 | 脳卒中 | 脳出血、脳梗塞の分類、脳卒中のサインと危険因子について学びます。 | | | | | 脳梗塞の治療法、特に薬物治療について調べる。(4時間) | | | | |
| 10 | 消化器の生活習慣病 | 逆流性食道炎、胃潰瘍、胆石、脂肪肝、慢性膵炎、大腸憩室などについて学びます。 | | | | | 生活習慣とさまざまな消化器疾患との関係を調べる。(4時間) | | | | |
| 11 | 呼吸器疾患 | 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の種類とSpO2測定の意義、COPDに対する運動療法の有用性、運動誘発性ぜんそくについて学びます。パルスオキシメーターでSpO2を測定します。 | | | | | スパイロメーターで自分の肺活量、1秒率、肺年齢を調べる。(4時間) | | | | |
| 12 | がん | がんの定義、がんの男女別死亡率、がんの生物学、がん検診と一次予防について学びます。 | | | | | 日本人がかかるがんの特徴とがん検診の問題について調べる。(4時間) | | | | |
| 13 | 運動器疾患 | 変形性関節症、変形性脊椎症、骨粗鬆症についてとその予防と運動について学びます。骨密度の測定方法の種類とその特徴を学ぶ。 | | | | | 教科書233-256ページを読んでくる。自分の骨密度を測定する。(4時間) | | | | |
| 14 | ロコモティブシンドローム | ロコモティブシンドロームの構成概念、サルコペニアやフレイルの定義、高齢者の運動障害の特徴について学びます。 | | | | | 事後にロコチェックとロコトレを行う。サルコペニアのメカニズムを調べる。(4時間) | | | | |
| 15 | 認知障害、認知症 | 認知症の病態、認知症症状と症状に対する運動療法(コグニサイズ)について学びます。 | | | | | 教科書211-232ページを読んでくる。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「Q & A 生活習慣病の科学 Neo」中尾 一和編(京都大学学術出版会) ISBN:978-4-8140-0050-0(生協で購入してください。)授業とレポートに必要なので必ず購入してください | | | | | 定期試験:80% レポート:20% 評価の基準 S:授業内容を高度に理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が特に優れ、定期試験も90点以上。A:授業内容をよく理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が優れ、定期試験が80点以上。B:授業内容を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、実習課題の評価が良く定期試験が70点以上。C:授業の内容を理解し、与えられた課題に取り組み、実習課題の評価が可で定期試験が60点以上。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「健康運動指導士養成講習会テキスト95頁~253頁」(財団法人健康・体力づくり事業団) 「世界一長寿な都市はどこにある?」家森幸男著(岩波書店) | | | | | 毎日の生活習慣(食事を含め)が病気の発症に影響することを知ろう。とくに栄養と運動とが大きな要素であることを学ぼう。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------------------------|---|------|--|----------------|-------------------------|-------|--------------------|-----|------|
| 科目名 | 生命倫理 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL23107 UL23109 | 研究室 | W-03 |
| 担当者 | 福島 智子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスアワ | 月曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 生命をめぐる倫理(道徳・規範)的諸問題をさまざまな視点から考察し、医療領域における今日的かつ具体的問題に対処できる思考力を養います。生命倫理学の歴史的背景と今日の課題について理解し、具体的な倫理的問題を包括的な観点から把握することを目標とします。1960年代以降、医療領域において生じた倫理的諸問題を個別に取り上げ考察します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 生命科学、医療領域における具体的な倫理的問題に、一個人として対峙し、個別の倫理的判断を導き出すことができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 授業内容に応じてグループ報告、グループ討論を実施します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 生命倫理学の成立背景 | 生命倫理学の歴史と現状について概説します。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 2 | 健康と病気 | 健康と病気、正常と異常、それぞれの概念について学びます。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 3 | 治療と人体実験 | 医療の目的と人体実験の歴史について学びます。 | | | | 事前配布資料を読んで下調べをする。(4時間) | | | | |
| 4 | Quality of LifeとSanctity of Life | Quality of Life(生命の質)とSanctity of Life(生命の神聖性)について学びます。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 5 | 生殖技術 | 生殖技術の発展とそれに伴う倫理的問題について学びます。 | | | | 授業中に配布する課題プリントをする。(4時間) | | | | |
| 6 | 脳死と臓器移植 | 脳死と臓器移植の関係について、現状と課題について学びます。 | | | | 授業中に配布する課題プリントをする。(4時間) | | | | |
| 7 | 安楽死と尊厳死 | 安楽死・尊厳死と治療停止の現状と課題について学びます。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 8 | ケアの倫理 | 医療福祉分野におけるケアの倫理について学びます。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 9 | 医師 患者関係 | 医師-患者関係の変容と今日的課題について学びます。 | | | | 授業中に配布する課題プリントをする。(4時間) | | | | |
| 10 | インフォームド・コンセントと情報開示 | インフォームド・コンセントの歴史と医療領域における情報開示について概説します。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 11 | 医療資源の配分 | 医療資源の配分における公正さと正義について考えます。 | | | | 事前配布資料を読み、下調べをする。(4時間) | | | | |
| 12 | パーソン論 | パーソン(人格)とは何かについて学びます。 | | | | 配布資料の要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 13 | 老人介護と世代間倫理 | 少子高齢化と介護問題について概説します。 | | | | 授業中に配布する課題プリントをする。(4時間) | | | | |
| 14 | 生命倫理学の比較考察 | 諸外国と日本における生命倫理学の比較をします。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめ。 | | | | 総復習。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 学生が選択するグループ討論のテーマによって、使用テキストは異なりますので個別に指定します。 | | | | 受講態度:20% 出席レポート:20% レポート:30% 受講態度にはグループ討論への参加状況が含まれます。また、上記以外にグループ報告30%で評価します。 S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「生命倫理とは何か」市野川容孝編(平凡社) 「生命倫理学を学ぶ人のために」加藤尚武・加茂直樹編(世界思想社) | | | | ひとつひとつの事例について、学生自身考えることが要求されます。毎回の講義終了前に、次回講義の概要について説明します。予習の指示がある場合は、必ず予習をしてから講義に臨んでください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------------------|---|-----------------|--|------|---|--------|-------------|-----|------|
| 科目名 | スポーツとノーマライゼーション | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL23108 | 研究室 | A-10 |
| 担当者 | 小林 敏枝 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 月曜日2限、火曜日5限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | 2017年度～ | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>スポーツは誰もが享受することのできる権利です。その上で、誰もが参加できるユニバーサルスポーツについて学修し、スポーツがノーマライゼーション社会の実現にどのように貢献するか考えます。さらに身近なユニバーサルデザインを調査し、「障がい者は人に帰属するのではなく、人と環境の間に存在する」ことの意味について理解を深めます。ボランティアを含めた「支えるスポーツ」について学修し、「我々にできること・行動するための要因」について考えます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)の実際について理解し、ノーマライゼーション社会の実現とスポーツについて説明できる。さらに「共にスポーツを楽しむこと」への理解を深め、「我々にできること・行動するための要因」について柔軟で幅の広い考え方を身につけている。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>講義ではテキスト・配布資料を基に授業を展開し、体験も取り入れます。また、パラリンピックなどの視聴覚教材を使用し、障がいのある方々のスポーツへの理解を深めます。その上で、ノーマライゼーション社会の実現とスポーツについて考えを深めていきます。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス 障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)とは何か。 | 授業概要・学修目標・授業の進め方・評価の仕方などについて説明します。「障がい者スポーツ」ではなく「アダプテッドスポーツ」の意味を学びます。 | | | | アダプテッドスポーツ関連の書籍・記事を読み事前学習する。授業の内容を復習する。(1時間) | | | | |
| 2 | アダプテッドスポーツの基本理念 | アダプテッドスポーツの基本理念を学習します。基本的な「障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)」に関連する言葉を解説します。 | | | | アダプテッドスポーツの基本理念について予習する。関連語句を復習する。(1時間) | | | | |
| 3 | パラリンピックの歴史・変遷と発展の背景 | 視聴覚教材を使用し、パラリンピックについて学びます。その開催意義や発展を支えた社会的背景について理解し、人間とスポーツについての考えを深めます。 | | | | パラリンピックについて事前学習する。パラリンピックの歴史について復習する。(1時間) | | | | |
| 4 | 障がいとは | WHOの障害分類を学習し、人間が心身共に健康で、生きがいをもち豊かに暮らす上での各因子の相互作用について考えます。 | | | | 障害分類について事前学習する。WHOの障害分類について復習する。(1時間) | | | | |
| 5 | ノーマライゼーションについて | ノーマライゼーションの概念について学びます。さらに、現在の福祉政策についての理解を深めます。 | | | | 共生社会についての基礎知識を事前に学習する。共生社会の考え方について復習する。(1時間) | | | | |
| 6 | 障がいのある人を取り巻く障壁について | 障がいのある人々が地域で暮らす上での障壁について考えます。その上で、誰もが豊かに暮らせる環境について考えを深めます。 | | | | 身近な環境のバリアについて事前学習する。障がい者にとっての障壁とは何か復習する。(1時間) | | | | |
| 7 | アダプテッドスポーツを支える人々について | アダプテッドスポーツに関わっている人々を紹介します。アダプテッドスポーツにおけるボランティアの意味を考え、私たちにできることを見つけ、行動計画をたてます。 | | | | 支援の内容について事前学習する。スポーツを支える人々について復習する。(1時間) | | | | |
| 8 | 障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)の魅力について | アダプテッドスポーツの目的は多岐にわたります。地域でスポーツを楽しむ障がいのある方々について学び、スポーツを行うことの魅力について考えます。 | | | | アダプテッドスポーツ選手について事前学習する。スポーツの魅力について復習する。(1時間) | | | | |
| 9 | 視覚障害とスポーツについて | 視覚障害者のサポートの方法、スポーツの実際、ルールや用具の工夫について学びます。その上で、共に楽しむための工夫を考え理解を深めます。 | | | | 視覚障害者の困難性を事前学習する。視覚障害者のスポーツのルール等復習する。(1時間) | | | | |
| 10 | ユニバーサルスポーツルール用具の工夫 | 現在行われているユニバーサルスポーツについて学びます。その理念、実施方法などについて理解を深め、共にスポーツを楽しむ要因について考えます。 | | | | アダプテッドスポーツ種目の事前学習を行う。ユニバーサルスポーツについて復習する。(1時間) | | | | |
| 11 | 重症心身障害児・者のスポーツの意義について | 重度の障がいのある方にとってのスポーツとは何か考える。またどのようなことができるのか、その可能性について理解を深めます。 | | | | 重度障がいの方のスポーツ種目を調べる。重症心身障害者のスポーツについて復習する。(1時間) | | | | |
| 12 | インクルーシブ教育とアダプテッドスポーツについて | ノーマライゼーションの思想を背景に行われる教育「インクルージョン」について学びます。学校におけるアダプテッドスポーツについての理解を深めます。 | | | | スポーツと共生社会について事前学習を行う。インクルージョン教育の復習をする。(1時間) | | | | |
| 13 | 障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)とボランティアについて | アダプテッドスポーツは支援者によって競技が成立する要素が高いことから、ボランティアの在り方について理解を深めます。 | | | | 自分が行ったボランティアをまとめる。スポーツとボランティアについて復習する。(1時間) | | | | |
| 14 | 事例研究 | 実際の事例に対して、自分だったらどのように行動するか考え、私たちにできる支援について理解を深めます。 | | | | 今までに体験した障がい者とのかわりを事前にまとめておく。事例の復習をする。(1時間) | | | | |
| 15 | スポーツとノーマライゼーション社会の実現について | 現代社会の問題点を明らかにし、ノーマライゼーション社会実現のための行動計画をたてよう。 | | | | 共生社会における課題を事前学習する。共生社会とスポーツの関わりについて復習する。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 随時資料を配布します。 | | | | <p>レポート：70% 出席レポート：30%</p> <p>S：基本的な概念や理論を正確に把握し説明できる。探求姿勢を持ち課題に取り組み、高い意欲を示している。A：授業内容を理解し、基本的な概念を正確に把握している。B：授業内容をおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組みほぼ説明できる。C：授業内容の60%を理解し説明できる。与えられた課題をすべて行っている。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「障害者とスポーツ」高橋 明著(岩波新書) ISBN: ISBN4-00-430896-8 | | | | 体験を通じて学ぶことが沢山あります。積極的にボランティアなどに参加しながら学習を進めてください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------------|--|---|------|------|--|--------|--------------------|-----|------|
| 科目名 | 対人関係の心理学 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 2 | ナパ`リング | UL33109 UL33111 | 研究室 | A-17 |
| 担当者 | 岸田 幸弘 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | ワイスア- | 木曜日1限、木曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 2018年度開講せず | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | 2016年度～ | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 対人行動や集団とのかかわりかたなどを、個人の特性や環境の面から考察し、人との関係で悩んだり、喜びを感じたりする心理的なメカニズムや、人の行動の生成について学びます。講義を中心に進めますが、グループワークやグループラーニングを取り入れ、演習形式での学びも体験します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 対人行動を心理学的に理解し、知識として自己と他者およびその関係性を理解します。実際に討論や演習なども行いながら、自己理解や他者理解の促進、人との関係のあり方の理解がどれほど促進されたかを、客観的に理解できるようにします。併せて自分の人との付き合い方やその傾向について新たな気づきが生まれることを目標とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 1回から9回までは講義を中心に対人関係を心理学的に理解します。10回以降は実生活や人生で出会うであろう問題に対処するために、スキルを身につけることを目標にして、体験的な演習や討論を取り入れます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 自己と対人行動(授業ガイドランスを含む) | 人は人の中に生まれ、人の中で育ち成長します。多くの人間関係の中で心理や行動に影響を与えているのが対人行動です。また自分の対人行動のあり方が人間関係を築いていることを事例を通して理解します。 | | | | シラバスを熟読し、自分の対人行動についての特徴を整理する。(4時間) | | | | |
| 2 | 自己開示とコミュニケーション | 自分を語ることで得意な人と苦手な人がいる。自己開示の方法や心理学実験などを通して自己開示の理論を学び、自己開示(自己紹介)の演習を通して、自分の対人行動の特徴を理解します。 | | | | 配布の資料を熟読しまとめるとともに、時間内で自己紹介する訓練を行う。(4時間) | | | | |
| 3 | 自己評価と対人行動 | 他者への評価や他者からの評価も含め、自己評価の高低は対人行動に大きな影響をもたらすことを、実験事例をとおして学びます。また自己評価のコントロールが人付き合いを変えてしまうことを学びます。 | | | | 配布資料を熟読しまとめるとともに、質問項目を考える。前回の自己紹介の練習をする。(4時間) | | | | |
| 4 | 対人魅力と好意 | 好意の感じ方によって人との付き合い方は変わります。外見の魅力なども含めて互いの好意の持ち方と対人行動の関係を学びます。 | | | | 配布の資料を熟読しまとめるとともに、課題「魅力的な人」をレポートする。(4時間) | | | | |
| 5 | 援助の心理と対人行動 | 援助行動は個人的特性だけではなく、周囲の人の様子や状況によって変化します。また自分に利益をもたらすという理由から、自己犠牲を払うという援助行動もあることを学びます。 | | | | 配布の資料を熟読しまとめるとともに、対人援助の体験をレポートする。(4時間) | | | | |
| 6 | 攻撃的な対人行動 | いじめや暴力、体罰などは大きな社会問題になっています。しかし世の中からなくなることはありません。人はなぜ攻撃するのかを、4つの心理的メカニズムから学びます。 | | | | 配布の資料を熟読しまとめるとともに、自分や人の攻撃行動を観察しレポートする。(4時間) | | | | |
| 7 | 同調的な対人行動 | 自分の考え(認知)と行動が不協和状態のとき、あるいは自分の行動と周囲の人の行動とが違うときに、その矛盾を解消しようとして起こる心理的メカニズムを学びます。 | | | | 配布の資料を熟読しまとめるとともに、自分(他者)の同調行動をレポートする。(4時間) | | | | |
| 8 | リーダーシップと対人行動 | PM理論を中心にリーダーのあり方を理解し、効果的なリーダーシップの発揮の仕方と集団の特性について、具体的な事例をもとに学びます。 | | | | 配布資料を熟読しまとめるとともに、自分のリーダーシップについて分析しレポートする。(4時間) | | | | |
| 9 | 社会的ジレンマ | 人との関わりの中でジレンマに陥ることはよくある。個人の利益追求が全体の不利益になるような事例では、どのように行動すればよいのだろうか。対人行動を円滑にするための方法を学びます。 | | | | 配布の資料を熟読しまとめるとともに、ジレンマに陥った体験を考察しレポートする。(4時間) | | | | |
| 10 | 本音で交流できる対人関係づくり | 安心できる不安のない集団に属したいと願いつつも、集団の中では様々な葛藤や困難が起きる。構成的グループエンカウンター(SGE)を体験してよりよい対人関係の築き方を学ぶ。 | | | | SGEの配布資料を熟読する。事後はエンカウンター体験をレポートする。(4時間) | | | | |
| 11 | 本音で交流できる対人関係づくり | 構成的グループエンカウンター理論と方法を学び、実際に体験と照らし合わせて自己理解の促進と、本音の交流のあり方を学びます。 | | | | 理論的背景を実際の体験と照らし合わせて考察し、レポートする。(4時間) | | | | |
| 12 | 不安や緊張のない集団づくり | 不安や緊張を感じない、安心できる集団を築くための理論と方法を対人関係ゲーム(SIG)を、実際に体験しながら学びます。 | | | | SIGの配布資料を熟読する。事後は体験したことをレポートする。(4時間) | | | | |
| 13 | 不安や緊張のない集団づくり | 対人関係ゲームの「交流」「協力」「折り合い」のゲームを中心に実際に行い、自己を振り返りながら、人との付き合い方を学びます。 | | | | 第12回と第13回をまとめて体験したことをレポートする。(4時間) | | | | |
| 14 | さわやかな自己主張 | 相手を尊重しながら、自分の言いたいことをしっかりと主張できる「アサーション」の理論と方法を学び、対人関係の中での自分の特性を理解します。 | | | | アサーションの配布資料を熟読し、自分のアサーションの特性を分析する。(4時間) | | | | |
| 15 | さわやかな自己主張 | アサーショントレーニングの方法を身につけ、実際に体験することで相手も自分も大切に自己表現の大切さを学びます。 | | | | アサーショントレーニングの体験をレポートする。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 授業中に適宜配布する。 | | | 定期試験：50% 課題：30% 受講態度：20% S：知識的理解に優れ、体験から教育分析(自己分析)ができる。 A：知識的理解がおおむね可能で、積極的に体験参加ができ、レポートが充実している。 B：知識的理解がおおむね可能で、体験内容をレポートできる。 C：学んだ知識をもとにして、積極的にSGEやSIGに参加できる。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「徹底図解 心理学 生活と社会に役立つ心理学の知識」青木紀久代・神宮英夫 編著(新星出版社) ISBN:978-4-405-10675-8 「性格は変えられない、それでも人生は変えられる」アルバート・エリス著 | | | 講義のみならず、参加体験型のグループワークを含んだ内容です。人と関わること(対人関係)を知識と体験から学びます。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|--|------|------|--------------------|-----------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 日本国憲法 | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | UL13202 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 松田 清 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | 第一種衛生、中一(保体)、高一(保体)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健) | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 法学(含日本国憲法) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 全15回の講義ですが、初めて法律を学ぶ学生が、大多数ですから、最初の5回で、法学入門的な授業を行います。その際に、日々の生活に 関係の深い民法と、3.4年次で労働関係の法律を学ぶ際の基礎になるように、労働法についても、学んでいきます。6回目からは、憲法の 入門書を使って、日本国憲法の基本的人権・統治機構について学んでいきます。その際も、労働基本権を含む社会権については、しっかり 学んでいくことになります。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 細かい知識の丸暗記ではなく、法律の基本的な考え方(リーガルマインド)を、身に着ける。日本国憲法の体系・骨組みをつかむ。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| テキストに沿って授業を進めますが、必要に応じてプリントを配付します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 法律を学ぼう | 法律とは 法律の目的 法と道徳について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分を読み込むこと。 | | | | |
| 2 | 法律の適用 | 法的三段論法 法の分類(公法と私法等)について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 3 | 民法とは何か | 民法の役割 民法の考え方 財産法の仕組み 物権と債権について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 4 | 物権法と債権法の概略 | 具体例を使って(売買契約) 民法の全体図について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 5 | 労働法の全体像 | 労働法と憲法の関係、労働法の体系を学びます。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 6 | 憲法とは何か | 憲法とは 憲法の特質等について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 7 | 国民主権 | 主権とは 間接民主制 直接民主制等について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 8 | 基本的人権 | 基本的人権の原理と限界について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 9 | 法の下での平等 | 平等の意味 最近の判例等について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 10 | 精神的自由権 | 思想・良心自由 表現の自由等について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 11 | 経済的自由権 | 職業選択の自由 財産権等について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 12 | 社会権 | 労働基本権を中心に講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 13 | 総復習 | 法律の勉強は、繰り返しが大事です。重要事項について復習します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 14 | 統治機構 | 権力分立 国会 内閣 裁判所について講義します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| 15 | 総復習 | 重要部分を中心に全体を総復習します。 | | | | 事後学修として講義の際に指定したテキストの該当部分読み込むこと。 | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「伊藤真の憲法入門」伊藤 真著 ISBN:978-4-535-52040-0 (生協で購入してください。) | | 定期試験：80% レポート：20% S 課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現することができる。A 授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現することができる。B 授業で学んだことを概ね理解し、文章で表現することができる。C 最低限押さえてほしい事項(授業で指示します)について、理解し表現できる。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 六法は各自持参すること。 | | 原則として、事前学修は必要ありませんが、事後学修に努めてください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------|---|------|---|----------------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 経済入門 | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパ`リング | UL13203 | 研究室 | E-10 |
| 担当者 | 糸井 重夫 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | 2017年度~ | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>本授業では、主としてマクロ経済学の基礎について講義します。特に、マクロ経済学の大きなテーマは、失業問題、通貨価値の問題、経済成長の問題、外国貿易の問題などですが、本授業では、失業問題と通貨価値の問題について学修します。授業は講義形態ですが、できるだけ双方向の授業にしたいと考えています。また、毎回の授業内容を整理したレポート(出席レポート)を提出することで、授業の理解を深めます。この科目は2年後期の「国際経済」の基礎となります。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>「出席レポート」の提出を通して、文章力や理解力、そして論理的思考を高め、テレビや新聞などでの経済問題について、各自で考え、自分の意見を持ち、これを表現することができる。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>授業内容は下記の計画に従って展開されますが、授業内容は相互に関連性があり、積み重ねながら全体が理解できるようになっています。したがって、一方方向の授業に加えて、必要に応じて質疑応答やテーマについての議論も行います。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p> | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 資本主義的生産様式の生成 | 人類の歴史における生産体制を概観するとともに、資本主義的な生産体制の特徴について理解します。特に、資本の三要素の生成について整理します。 | | | | ルネサンス以降の欧州の歴史について、特に宗教改革と資本の蓄積について学ぶ。(4時間) | | | | |
| 2 | 資本の蓄積と銀行制度 | 資本主義的生産体制の下では、資本の蓄積手段として銀行制度と株式会社制度が生まれ出されました。授業では、銀行制度について説明します。 | | | | 宗教改革以後の欧州における資本主義の発展について復習し、授業を整理して提出する。(4時間) | | | | |
| 3 | 資本蓄積と株式会社制度 | 株式会社制度の仕組みについて整理する。また、所有と経営の分離についても説明し、今日の経営統合や企業合併等についても講義する。 | | | | 「出席レポート」で資本の蓄積制度を整理します。事前のプリントを読み、予習する。(4時間) | | | | |
| 4 | マクロ経済学の基礎概念 | マクロ経済学の理論を理解するために、基礎的な概念について理解する。具体的には、ストックとフロー、三面等価の原則などの概念を説明する。 | | | | 「出席レポート」に授業内容を整理します。ICTを活用して三面等価について調べる。(4時間) | | | | |
| 5 | 労働市場分析 | 労働市場における屈折供給曲線について説明し、自発的失業と自発的失業の概念を整理します。また、労働組合の役割や非自発的失業対策としての財政金融政策の役割についても説明します。 | | | | ICTを用いて非自発的失業を調べ「出席レポート」に整理する。(4時間) | | | | |
| 6 | 有効需要の原理と消費関数 | 有効需要の原理とセイ法則について説明します。また、ケインズの絶対消費関数について解説し、限界消費性向や限界貯蓄性向の役割について整理します。 | | | | ICTを用いて、消費関数について調べます。「出席レポート」で45度線分析を整理する。(4時間) | | | | |
| 7 | 投資関数と財政政策の効果 | ケインズの乗数理論について説明します。また、財政政策の波及メカニズムや、限界消費性向の差異による財政政策の効果の違いについて整理します。 | | | | ICTを活用して乗数理論について調べます。財政政策の有効性について整理する。(4時間) | | | | |
| 8 | 租税乗数と貿易乗数 | 租税政策の効果について、また貿易依存度の違いによる財政政策の効果について整理します。 | | | | ICT等により乗数理論について調べ「出席レポート」に財政政策の効果を整理する。(4時間) | | | | |
| 9 | 貨幣の役割 | 貨幣の機能と貨幣数量説について説明します。また、貨幣需要理論としての貨幣数量説についても整理し、ケンプリッジ現金残高数量説を説明します。 | | | | ICTを用いて貨幣数量説を調べます。「出席レポート」に貨幣数量説について整理する。(4時間) | | | | |
| 10 | 流動性選好利子論 | 貨幣需要動機について整理し、確定利付債券について説明します。そして、ケインズの流動性選好利子論について説明します。 | | | | 「出席レポート」で貨幣需要理論としての貨幣数量説について整理する。(4時間) | | | | |
| 11 | 信用創造論 | 預金準備制度について整理し、信用創造について説明します。また、預金準備率が通貨供給量に与える影響や、金融政策が実体経済に波及するメカニズムについて説明します。 | | | | 「出席レポート」で信用創造について整理し、ICTを活用して金融政策について調べる。(4時間) | | | | |
| 12 | 財市場の均衡(IS曲線) | 財市場の均衡を示すIS曲線を導出します。また、なぜIS曲線上で均衡するのかについて、財市場の自動調整メカニズムについても整理します。 | | | | IS曲線について調べ、「出席レポート」に整理する。(4時間) | | | | |
| 13 | 貨幣市場の均衡(LM曲線) | 貨幣市場の均衡を示すLM曲線導出します。また、なぜLM曲線上で均衡するのかについて、貨幣市場の自動調整メカニズムについても整理します。 | | | | LM曲線について調べ、「出席レポート」に整理する。(4時間) | | | | |
| 14 | IS-LM曲線分析 | 財政金融政策の有効性について、IS-LM曲線を用いて説明します。また、貨幣数量説の意味や流動性の罫についても整理し、今日の「アベノミクス」の有効性についても考えていきます。 | | | | 「アベノミクス」について調べ、レポートに整理する。(4時間) | | | | |
| 15 | 財政金融政策の有効性 | 財政政策と金融政策の波及メカニズムの違いについて整理し、その有効性が経済状況の違いにより異なることを理解します。また、一国の財政金融政策が、外国為替相場に与える影響についても説明します。 | | | | わが国の金融政策について調べ、レポートに整理する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 開講時に指示します。 | | | | <p>出席レポート：30% 小テスト：20% 定期試験：50% 評価は、出席レポート、小テスト、定期試験での総合評価を基本としますが、定期試験が特に優れている場合には、定期試験の得点を重視して評価します。また、評価の目安は、「S」：授業内容を良く理解し、授業内容を他者に説明できる、「A」：授業内容を理解し、自分の考えを表明できる、「B」：授業内容を理解し、「出席レポート」などで整理できる、「C」：授業内容を重要な点を理解し、重要な点については「出席レポート」などで整理できるです。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 開講時に指示します。 | | | | <p>授業外学修の「出席レポート」は、文章力や表現力などのコンピテンスを育成し、「論理的思考力」も高めますので、積極的に取り組んでください。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------|---|--|------|------|---|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 新聞に見る社会の動き | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL23204 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 江成 康明 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | 2016年度～ | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 新聞を使って社会の動きを考えていきます。インターネットの普及により活字離れが目立ち、読書や手書きの習慣が薄れてきました。一番身近なはずの新聞も無読層の増加によって、読まれなくなっています。新聞には政治、経済、外交や社会の動向などが凝縮されており、情報の収集だけでなく、どう読みこなすかが必要になってきます。記事の内容を読み、理解したうえで自分の考えをまとめるという習慣をつけるための授業です。乱れ始めた日本語の良さや文章の作り方も授業の中で実施していきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 4年間の大学生活中に就職活動という社会人への第一歩が始まります。社会の動きを知っていることは企業側へ有利な評価を与えるとともに、面接でも自信を持って臨むことができます。情報収集、読解力、理解力、筆記力を高め、最終的には学生自らがひとつのテーマを選んで「私の考察」をまとめられることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 主に新聞のコピーを資料とします。新聞にはニュースの情報発信のほか解説、コラムなども掲載されており、一つの出来事に対して幅広い知識が得られます。グループ討論や特別講師招へい、新聞社見学なども行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 総論 新聞の価値と役割 | 新聞には多くの情報が詰まっています。1面から最終面までにどのようなものが載っているかなど新聞の全体像を紹介しながら、トップ記事の意味やベタ記事、焦点、解説、コラム記事とは、などを説明します | | | | この1週間の新聞の中から興味があったニュースを取り上げ、感想を書く。(4時間) | | | | |
| 2 | 新聞を読む必要性 | ネット社会の中で、新聞は不要という若者が多くいます。しかし、ネット情報だけだと偏りがちで、幅広い知識は得られません。社会を知る意味では新聞を読み、「なぜ」「どうして」を考えることが必要です。 | | | | 疑問の沸いたニュースを選び、疑問を持ちながらまとめてみる。(4時間) | | | | |
| 3 | 各論 硬派記事についての考察 | 政治、経済、国際外交などは硬派記事と呼ばれます。授業のころに起きている問題を取り上げ、硬派面を騒がしているニュースを検証します。 | | | | この日取り扱った記事の感想や意見を書く。(4時間) | | | | |
| 4 | 各論 軟派記事についての考察 | 社会の動きやスポーツ、暮らしなどを軟派記事と呼びます。社会ではいったい何が起きているのかを新聞をもとに検証します。 | | | | この日の話題に対して、どう思ったかをまとめる。(4時間) | | | | |
| 5 | グループ討論 | ひとつのテーマについての新聞記事を読み、そのあとのグループ討論でその話題について話し合ってみましょう。自分の気付かなかったことを知るはずです。 | | | | グループ討論を経験して、という内容でレポートを提出する。(4時間) | | | | |
| 6 | グループ討論 | 5回目と違ったテーマで、同様に進めます。考えながらしっかり読むことは、書くことが上達に必ずつながります。 | | | | 読んだ記事に対してどう感じたかをレポートに書き、提出する。(4時間) | | | | |
| 7 | 新聞社見学 | 地元紙で伝統のある信濃毎日新聞社(予定)を訪ね、編集局などを見学。政治(県政担当)、社会部記者などの話を聞き、新聞作りに携わる人たちの意識などを学びます。 | | | | 見学の感想や意見を書く。(4時間) | | | | |
| 8 | 日本語の美しさ | 最近は日本語が乱れている、と言われます。若者が普段使っている言葉が正反対の場合もあります。正しい日本語の意味を考えてみましょう。 | | | | テキストにある例と普段の自分の言葉が適切かどうか考える。(4時間) | | | | |
| 9 | 文章の書き方 | 新聞は中学生にも理解できるような平易な言葉で書いてあります。文章を書くときには難しい言葉はいりません。相手が読みやすいような文章を書くにはどうしたらいいかを学びます。 | | | | 気に入ったコラムを探してみる。(4時間) | | | | |
| 10 | 特別講演 | 2012年、年間でただ一人に送られる「日本記者クラブ大賞」に輝いた毎日新聞・萩尾信也氏を招き、講演していただく。記者として頂点に立った取材力、執筆力に興味をわくはずです。 | | | | 事前配布の萩尾氏の記事を読み、質問を考えておく。(4時間) | | | | |
| 11 | 社会現象の自由研究 | 過去1年間の政治、経済、国際、社会問題などの動きの中で、自身が最も注目すべき課題をひとつ決めて下さい。どうしてそれを選んだのかをグループ討論で意見発表しましょう。 | | | | 自分の選んだテーマの記事を集める。(4時間) | | | | |
| 12 | 社会現象の自由研究 | 新聞に書いてあることを鵜呑みにするのではなく、疑問や幅広い考え方を持って問題点を探して下さい。いくつもの新聞や新聞コピーを読んでまとめる力をつけましょう。 | | | | 800字にまとめられるように準備と整理をする。(4時間) | | | | |
| 13 | 社会現象の自由研究 | 自分のテーマについて、800字にまとめてみましょう。問題を深く掘り下げて書く習慣を身につけるだけでなく、しっかりとした言葉遣いも重要なポイントです。 | | | | 自分の書いた文章を思い出し、再考してみる。(4時間) | | | | |
| 14 | 自由研究の成果と課題 | 受講生がまとめた内容についての考察をします。同じテーマで臨んだ人々たちによるグループ討論も行い、足りなかった点などさらにテーマを深めることに努めて下さい。 | | | | この科目に対する感想を書く。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 新聞の役割や機能と必要性をもう一度再確認します。ネット社会に慣れていても、「新聞を読む習慣」を持ち続けてほしいものです。 | | | | 15回目のまとめのテキストを熟読する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 毎回、テキストを配布します。 | | | 受講態度：20% 定期試験：50% 課題：30% S:授業内容の理解度、考察力、文章の読解力、書き力が秀でている。A:積極的に授業に臨み、課題に対しても自分の意見をしっかりと書ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に対しても自らの主張ができる。C:授業内容を60%ほど理解でき、与えられた課題にも誠実に取り組んでいる。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 毎回、テキストを配布します。 | | | 毎回の授業で感じるものが必ずあるはずですが。受講票には名前だけでなく、感想や意見を書いて下さい。書き慣れることが頭の整理につながります。図書館などで普段から新聞に接するようにしましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------|------------------------------|------|--|----------------|-------------------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 食の社会学 | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | UL23205 | 研究室 | W-03 |
| 担当者 | 福島 智子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 身体的な経験は社会的に生みだされ、食べ物と食べる行動にも社会的な関係が深くかかっています。本講義では「食(食べ物や食べること)」についての意味や信念、社会構造について社会学の観点から考察します。扱うテーマは 1) 社会のマクドナルド化、2) 食と文化、3) フード・ポリティクス、4) 食と身体とします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 本講義の目的は、人間が普段何気なく行っている「食べる」という行為を相対化し、「食」に関する様々な見方、考え方に慣れ、自分自身に対する理解を深めることです。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義形式とします。異なる4つのテーマについて、3~4回の講義を行います。テーマ毎に小レポートを課す予定です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 社会のマクドナルド化 | マクドナルド化とは何かについて概説します。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 2 | 社会のマクドナルド化 | ファストフードとスローフードについて概説します。 | | | | 配布資料を読み、下調べをする(4時間)。 | | | | |
| 3 | 社会のマクドナルド化 | 事例研究としてドキュメンタリー映像を鑑賞します。 | | | | 授業中に配布する課題プリントをする(4時間)。 | | | | |
| 4 | 食と文化 | フードとノン・フードについて学びます。 | | | | 配布資料の読み、下調べをする(4時間)。 | | | | |
| 5 | 食と文化 | 宗教的戒律とノン・フードについて学びます。 | | | | 英文の配布資料を読み、下調べをする(4時間)。 | | | | |
| 6 | 食と文化 | 事例研究として反捕鯨運動を取り上げます。 | | | | ドキュメンタリー映像についての意見をレポートにまとめる(4時間)。 | | | | |
| 7 | フード・ポリティクス | 食品偽装の歴史について学びます。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 8 | フード・ポリティクス | 食品の安全性と国による規制について概説します。 | | | | 配布資料を読み、下調べをする(4時間)。 | | | | |
| 9 | フード・ポリティクス | 機能的食品の政治学について概説します。 | | | | 配布資料を読み、下調べをする(4時間)。 | | | | |
| 10 | フード・ポリティクス | 階級と食行動の関係について概説します。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 11 | 食と身体 | 「食べない」という選択として断食(不食)を取り上げます。 | | | | ドキュメンタリー映像についての意見をレポートとしてまとめる(4時間)。 | | | | |
| 12 | 食と身体 | 「食べない」という選択として「摂食障害」を取り上げます。 | | | | 配布資料を読み、下調べをする(4時間)。 | | | | |
| 13 | 食と身体 | 「食べない」という選択と胃ろうの功罪について考えます。 | | | | 授業中に配布する課題プリントをする(4時間)。 | | | | |
| 14 | 食と身体 | 食と身体 ~ のまとめをします。 | | | | 小テストに向けて、これまでの講義の内容をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめ | | | | 総復習(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 日本語で読めるまとまったテキストは存在しないため、数冊の日本語文献と英語文献を組み合わせ使用します。その都度コピーを配布します。 | | | | 出席レポート:15% 定期試験:60% 小テスト:25% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| A Sociology of Food & Nutrition, J. Germov & L. Williams(ed.), Oxford University Press. | | | | 普段の学習や既知の概念を相対化することが求められます。講義内容は一般教養に等しいですから、他学部他学科からの履修も歓迎します。英文資料の読解もありますので、事前の学習時間を確保できることが前提となります。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|------------------------------|---|------|------|---|----|-------------------------------------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 日本地理 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL23206 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 川上 浄明 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | 2017年度～ | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>くらしにみられる諸相を通して地域とは何か、地域らしさの背景は何かにせまり、ミクロからマクロへ、また、グローバルから地域へと視点を移すことで日本地理を捉えていくことを目的とします。現代社会における身近なくらしの中で目にするものや、これまでまで当たり前前に接していた事柄や常識の中から、「なぜ」、「どうして」と問い直すことで、地域の特性を追求し、日本地理の新たな見方が獲得できるよう展開します。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 地域を地理的視点を持って見ることができる。地域を調べる方法を理解できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義中心の時間が多くなりますが、その中に作業学習やグループ討議などアクティブ・ラーニングの時間も取り入れます。フィールドワーク・地域調査も行う予定です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 日本という地域の概要をつかもう | 日本の位置・領域・標準時・地域区分を理解します。 | | | | | テキストの作業内容を確認して、理解を深める。(4時間) | | | |
| 2 | 世界と日本の地形を学ぼう | プレートテクトニクス説などによる世界と日本の地形の特徴を学びます。 | | | | | テキストによって学習を深める(4時間) | | | |
| 3 | 世界と日本の気候を学ぼう | ケッペンなどの気候区分とそれに基づき気候区分の特徴を学び、自然災害とその対策についても理解します。 | | | | | 自分の選んだ地域のハイサ グラフを作成する。(4時間) | | | |
| 4 | 日本の人口の特徴とその変化を学ぼう | 日本の人口の変化・構成・移動などを人口ピラミッドを作成するなどして理解します。 | | | | | 自分の出身地域の人口の特徴を調べ理解する。(4時間) | | | |
| 5 | 日本の第1次産業の特徴を学ぼう | 日本の農業などの特徴を外国と比較しながら学習し、各地域の特徴も理解します。 | | | | | 自分の出身地域の農業の特徴を調べ理解する。(4時間) | | | |
| 6 | 日本の第2次・第3次産業の特徴を学ぼう | 日本の第2次・第3次産業の特徴を世界とのかかわりの中で理解します。 | | | | | 自分の出身都道府県の第2次・第3次産業の特徴を調べ理解する。(4時間) | | | |
| 7 | 地域を見る目を「プラタモリ」を視聴することによって養おう | 「プラタモリ」を視聴して、地表面の現象から地域を理解する方法を学びます。 | | | | | 「プラタモリ」の視聴メモをまとめる。(4時間) | | | |
| 8 | 地形図の読み方を学ぼう | 2万5千分の一地形図「松本」「波田」およびテキストの作業を通じて、地形図読図の基本を学びます。 | | | | | 指示された地形図作業を行う。(4時間) | | | |
| 9 | 大学周辺の地域の特徴を地形図と資料から学ぼう | 地形図作業と資料から大学周辺の地域の特徴を学び、次の時間の巡検の課題を明らかにします。 | | | | | 巡検の視点を明らかにする。(4時間) | | | |
| 10 | 大学周辺を巡検し、地域を見る目を養おう | 地形図を持って大学周辺を巡検し、地域の実情を学びます。 | | | | | 巡検レポートを作成する。(4時間) | | | |
| 11 | 大学周辺の地域的特色を巡検を経た視点で理解しよう | グループ討議によって、地域の特徴を理解します。 | | | | | 討議を経て、巡検レポートを完成させる。(4時間) | | | |
| 12 | 地域調査のテーマを考えよう | 地域調査の方法を学びます。それらをもとに地域調査のテーマを決定します。 | | | | | 地域調査の方法を考え、資料収集を開始する。(4時間) | | | |
| 13 | 地域調査を開始しよう | 地域調査の調査方法を決定し、調査を開始します。 | | | | | 冬休みも使って地域調査を実施する。(4時間) | | | |
| 14 | 地域調査レポート完成させよう | 地域調査レポートを完成させ提出します。 | | | | | 地域調査レポートをまとめる。(4時間) | | | |
| 15 | 日本の地域的特色を考えよう | 提出された地域調査レポートなどをもとに、日本の地域的特色を考えてみます。 | | | | | 日本の地域的特色をまとめる。(4時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| <p>「新編地理資料2018」内山美彦他編(東京法令出版(株)) ISBN:978-4-8090-7838-5(生協で購入してください。)</p> <p>「グラフィックワイド地理日本2018」東京法令出版教育事業推進部編(東京法令出版)(別途、指示します。)</p> <p>「今がわかる時代がわかる 日本地図 2018年版」(成美堂出版) ISBN:978-4415112725(生協で購入してください。)</p> <p>「2万5千分の1地形図「松本」・「波田」」(国土地理院)(生協で購入してください。)</p> | | | | | <p>受講態度:30% レポート:30% 定期試験:40%</p> <p>S:授業内容を高度に理解し積極的にグループ討議に参加した。非常に詳細な地域調査レポートを作成し、特に高い地理的思考力を身につけた。A:授業内容を理解しグループ討議に参加した。詳細な地域調査レポートを作成し、高い地理的思考力を身につけた。B:授業内容をおおよそ理解しグループ討議に参加した。地域調査レポートを作成し、地理的思考力をおおよそ身につけた。C:授業内容の60%程度理解し、地域調査レポートを作成した。</p> | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| <p>「東京学芸大学地理学会シリーズ 日本を学ぶ」(古今書院)</p> <p>「地理を学ぼう 地理エクスカーション」立正大学地理学教室編(朝倉書店)</p> | | | | | <p>中学高校生用の副教材や地形図をテキストとしますが、作業学習や資料を見るためのものです。授業中にその作業学習を行うことがあります。12色程度の色鉛筆を持参してください。</p> | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------|---|------|------|----------------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 国際経済 | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナバ`リング | UL23207 | 研究室 | E-10 |
| 担当者 | 糸井 重夫 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスア- | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | 2017年度~ | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 今日の国際経済は様々な分野で相互依存関係が深化し、一国経済が他国に強い影響を与える経済に変質してきています。本授業では、経済のグローバル化の背景やその方向性について講義します。また、授業は「経済入門」を受講していることを前提としますが、必要に応じて「経済入門」の内容を復習しながら進めます。また、「出席レポート」の提出により様々なコンピテンスを育成するとともに、「論理的思考力」についても高めていきますので、新聞等で積極的に実社会を確認してください。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 授業内容の理解を通して実社会に興味を持ち、特に国家間の経済的な結びつきを理解することを通して、国際経済の構造を自分なりに理解する。特に、長野県は海外拠点を持つ企業が多く、外国為替市場の動向に企業収益が左右される企業が多いため、外国為替市場の動向と地域経済との関係が理解できるようになる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 授業は講義形式で実施しますが、「出席レポート」等を通して受講者の理解を確認しながら授業を進めます。また、人数が少ない場合、双方向型のアクティブ・ラーニング授業を行い、その場で理解を確認しながら進めます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 国際経済と国際通貨制度 | 国際通貨制度について、19世紀に確立した金本位制度について説明します。また、貨幣の機能についても整理します。 | | | | ICT等を活用して金本位制について調べ、「出席レポート」に整理する。(4時間) | | | | |
| 2 | 戦後の国際通貨制度 | 戦後の「ブレトン・ウッズ体制(通称「IMF・GATT体制」)」について説明します。また、固定相場制と変動相場制についても説明します。 | | | | ICT等を活用して「ブレトン・ウッズ体制」などを調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 3 | 国際通貨制度の矛盾とニクソン・ショック | 外国為替制度について説明します。また、今日の国際通貨制度の矛盾についても説明します。 | | | | ICT等を活用して「ニクソンショック」などを調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 4 | 金融経済の進展と要因 | 拡張的な財政金融政策の功罪について説明し、金融経済の進展が意味することを説明します。 | | | | ICT等を活用して「財政金融政策」の手法などを調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 5 | プラザ合意と国際的政策協調体制の成立 | グローバルな国際経済における「インバランス」の問題と、それに対する国際的な協調体制成立の背景等について説明します。 | | | | ICT等を活用して「プラザ合意」などを調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 6 | アジア通貨危機 | 1990年代のアジア通貨危機の背景や、この危機に対する各国の対応、さらにはIMFの対応等について説明します。 | | | | ICT等を活用して「アジア通貨危機」などを調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 7 | 各国の財政金融政策と世界経済 | 今日の世界経済は、外国為替市場の変動を通して各国の経済に強い影響を与える経済に変質してきていますが、その影響について説明します。 | | | | ICT等を活用して「欧州信用不安」などを調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 8 | 後期金融経済と金融機関規制 | 今日、金融機関の破綻の影響を最小限に抑えるため、金融機関行動を国際的に規制するBIS規制が導入されていた。ここでは、この規制について説明します。 | | | | ICT等を活用して「BIS規制」などを調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 9 | 日本企業の海外進出 | 戦後の高度経済成長期以後の日本企業の海外進出について、外国為替市場の変動の側面を中心に説明します。 | | | | ICT等を活用して円高・円安の進行に伴う日本企業の行動変化について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 10 | 企業活動のグローバル化と国際分業 | 今日の各国企業のグローバル化と、ビジネスモデルの変化について説明します。 | | | | ICT等を活用して、1990年以降の日本企業の行動変化について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 11 | 企業活動のグローバル化と労働 | 企業活動のグローバル化に伴って労働力も国境を越えて移動しますが、その状況について説明します。 | | | | ICT等を活用してわが国の労働力受入等について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 12 | 多文化共生社会と企業経営 | 外国人労働者の増加など、多様化する社会において求められる「ダイバシティ・マネジメント」について説明します。 | | | | ICT等を活用して「ダイバシティ・マネジメント」について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 13 | 自由主義と保護主義 | 貿易自由化と保護貿易主義の歴史について説明し、今日の世界経済における貿易の方向性について説明します。 | | | | ICT等を活用して「貿易戦争」について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 14 | 世界経済の拡大と日本経済 | 世界経済の動向が日本経済にどのような影響を与えるのかについて説明します。 | | | | ICT等を活用して世界経済について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 15 | 全体のまとめ | 14回の授業のまとめをします。また、まとめを通して、今後の国際経済の動向や課題についても説明します。 | | | | 各自で国際経済の方向性について整理する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| プリントや資料を配布します。 | | 出席レポート:30% 課題:10% 小テスト:20% 定期試験:40% 評価の目安は、「S」:事前事後学修の成果を含めて授業内容を理解し、その内容を文章等を含めて他者に分かりやすく説明できる、「A」:事前事後学修の成果を含めて授業内容を理解し、その内容を文章等で明確に整理できる、「B」:事前事後学修の成果を含めて授業内容の要点を理解し、文章等で整理できる、「C」:授業内容を理解し、その内容を文章等で整理できる、です。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 国際経済、国際金融関係の図書を開講時に指示します。 | | 本授業は、経済学関係の基礎科目を履修しているという前提で展開されます。授業中に経済学に関する復習等も行いますので、受講者は、経済学関係の基礎科目のノートを持って出席してください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|----------------|-------------------------------|---|------|----------------|---|---------------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 死と死につつあることの社会学 | | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | UL23208 | 研究室 | W-03 |
| 担当者 | 福島 智子 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 現在、いわゆる「先進国」では病院で死を迎える人びとが大半を占めています。18世紀末の臨床医学の誕生から、近代医学が人間のライフサイクルに関する機会を増加したといわれています(たとえば出産や死)。本講義では、近代医学が人間の死に関わってきたのか、その歴史を概観し、その関わり方の変容および持続について解説します。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 現代社会における「死」の様々な側面を学び、自らの問題として捉えることを目標とします。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 講義形式で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 現代社会における死 | 現代社会における死の諸相を紹介します。 | | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 2 | 近代医学の成立 | 近代医学の成立についての歴史を学びます。 | | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 3 | 臨床医学と監視医学 | 臨床医学の誕生から監視医学の興隆までを概観します。 | | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 4 | 医療政策 | 先進国における医療政策の変化について解説します。 | | | | | 配布資料を読み、下調べをする(4時間)。 | | | | |
| 5 | ホスピス緩和ケア | 死にゆく人びとを支えるケアの誕生について学びます。 | | | | | 小テストを実施するのでこれまでの授業内容を復習する(4時間)。 | | | | |
| 6 | ホスピス運動 | ホスピス運動とは何かを学びます。 | | | | | 小テストでできなかった問題の復習をする(4時間)。 | | | | |
| 7 | 死ぬ権利を求める運動 | 死ぬ権利を求める運動とホスピス運動の共通点を考えます。 | | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 8 | 自己決定権 | 医療における自己決定権について、死ぬ権利を含めて考えます。 | | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 9 | 告知の現状 | 病名と予後に関する告知の各国の現状を紹介します。 | | | | | 授業中に配布する課題プリントをする(4時間)。 | | | | |
| 10 | 医療制度(1) | 医療制度の英米・伊・日本の比較をします。 | | | | | 授業中に配布する課題プリントをする(4時間)。 | | | | |
| 11 | 医療制度(2) | 英米・伊・日本の比較をします。 | | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間)。 | | | | |
| 12 | ホスピス緩和ケアの実際 | ホスピス緩和ケアの実際を質的調査の結果とともに紹介します。 | | | | | 授業中に配布する課題プリントをする(4時間)。 | | | | |
| 13 | ホスピス緩和ケアの実際 | ホスピス緩和ケアの実際を質的調査の結果とともに紹介します。 | | | | | 授業中に配布する課題プリントをする(4時間)。 | | | | |
| 14 | 現代社会における死と文化 | 文化と死の関係について考えます。 | | | | | 授業中に配布する課題プリントをする(4時間)。 | | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめ | | | | | 総復習(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 1冊にまとまったテキストは存在しないため、いくつかの文献から論文を選んで提示します。 | | | | | | 定期試験：60% 課題：40% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「先端医療の社会学」黒田浩一郎編(世界思想社) 「現代医療の社会学」黒田浩一郎編(世界思想社) | | | | | | 生あるものは必ず死を迎えます。あなたにとって大切な他者の死を看取することもあって、現代社会における「死」について知り、真摯に向き合う姿勢をもって講義に臨んでください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------|--|------|--|----------------|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 地域企業特論 | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | UL13201 | 研究室 | W-32 |
| 担当者 | 小林 俊一 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | 2016年度～ | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本講義は国際ロータリー第2600地区(松本地域)と松本大学の教育連携協定に基づく講座であり、長野県を代表する企業から毎回招く講師の講義内容は、実践や実務の中から獲得された「経験知」です。論理的に構築される大学での学びがバーチャルの世界の「知」とするならば、まさしくリアリティのある「知」とも言え、新たな自己発見につながる講義です。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 企業の歴史的背景や現状を踏まえた現在の活動ならびに、将来構想などについて企業家自身から講義を受けることで、「自己」、「社会」、「企業」といった視点から、大学での学びや自らの進路、生き方について考えていきます。さらに、社会人として必要な実践的知識や環境対応力といった社会人基礎力と言われる社会的知識を獲得することが最終的な目標となります。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 各回のテーマに沿った企業人を講師に招いて講義形式の講演を聴きます。講義の最後には講師の出題するテーマや講演を聴いた感想をレポートにまとめて提出します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス・ロータリークラブの役割 | 地域社会のリーダーという立場から、国際的組織でもあるロータリークラブの目的と社会的役割について解説します。 | | | | 事前にシラバスを読んでおく。ロータリークラブについて整理しておく。(4時間) | | | | |
| 2 | プロフェッショナルとは | 社会人として身につけなければならないプロ意識について、企業人の実際の活動から学び取り、働くことの意義を再認識します。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 3 | 企業イノベーション | これからの企業経営の課題であるイノベーションとは、技術だけでなく幅広い意味での「革新」です。アイデアやひらめきが生み出される背景を探り、発想力豊かな社会人について考えます。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 4 | 企業活動と地域社会 | 企業活動が経済、文化など、様々な形で地域社会に及ぼしている影響について展望し、社会人なることの意味を考えます。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 5 | グローバルとローカル | グローバル化が叫ばれる現在において、その対称に位置すると考えられているローカルの思考が重要であるとされる理由を実際の企業活動を通して考察していきます。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 6 | リーガルマインドと企業活動 | 法的な解釈を基本とした論理的思考とバランス感覚に基づく企業活動の実際を例に、社会人に求められるリーガルマインドとは何かを考えていきます。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 7 | 社会問題に挑む企業活動 | 高齢化や環境など現代社会に存在する様々な社会問題の解決に取り組む企業活動を通して、社会を形成する仕事の在り方について考えていきます。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 8 | 企業の専門性 | 企業における専門性とは何か、企業規模とは全く違う視点から企業の価値について考え、働くということの意味を再考します。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 9 | 企業がおこなう地域貢献 | 企業はどのような理念に基づき地域貢献をおこない、それがどのような社会的意義を持つのかを考えることで、企業と地域の関係を見直します。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 10 | 経済情勢と企業経営 | 現在の経済情勢を踏まえた企業経営とはどのようなものかを学び、経済動向に応じた柔軟な企業活動と今後の見通しについて考えます。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 11 | 企業のグローバル戦略 | 経済の激しいグローバル化が進む中で、地方の企業がどのような戦略に基づき経営しているか実例から学び、国際的視野の重要性を考えます。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 12 | 企業のコンプライアンスとモラル | コンプライアンスやモラルを企業価値を高めるものとしてとらえ、積極的に取り組んでいる企業の実例から、信頼され尊敬される企業や従業員とは何かを考えていきます。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 13 | ブラック企業と何か | 社会問題化しているブラック企業とはどのような企業のことを指しているのか、その実態を捉えつつ、労働者としての権利と義務について考えていきます。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 14 | 起業するための条件 | 起業するとはどういうことか、ビジネスチャンスのつかみ方やリスクについて学び、起業家として成功するための条件について考えていきます。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| 15 | 意味のある働き方とは | 企業が求める人材とはどのような人材なのかについて経営者の立場から話を聞き、人間にとって働くということがどのような意味を持っているのか、今何をすべきか考えていきます。 | | | | 事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| テキストはありませんが、毎回講義用の参考資料を配付しますので、全ての資料をファイルしておいてください。 | | | | レポート：90% 受講態度：10% 毎回、講義の最後に授業内容に関する小論を書きそれを講師が評価します。15回の講義の小論の評価の合計点に、授業中のメモを取るなどの聴講態度を加えた総合評価とします。小論は各回の講義の狙いによって多少の違いはありますが、講義内容のまとめ、自分の考えや主張、文章量などが評価されます。Sは9割以上、Aは8割以上、Bは7割以上、Cは6割以上の得点を必要とします。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| できれば2紙以上の新聞を読むようにして下さい。 | | | | 自分の就職や生き方など、将来を真剣に考えている人にとっては有益な講義です。外部から毎回招聘する講師が違います。それだけに学生諸君には積極的な傾聴姿勢を求めます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|---------------|---|---|------|--|------|-------------------------------------|---------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 近代日本の歴史 | | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | UL33209 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 小松 芳郎 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本講義では、地域にのこる身近な歴史に触れながら、それぞれの時代の日本の歴史を見ていきます。いつ、どこで、何が起きたかといった網羅的な日本史ではなく、日本の歴史事象をいくつか選び、当時の人物、記録、時代をとらえていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 歴史をみる眼、歴史観を新たに構築できる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 今も残る歴史資料などを紹介しながら、毎回10頁のレジメをもとに講義を進めます。講義は教室で行います。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 歴史像と歴史理論 | 日本史の時代区分、歴史を学ぶにあたって(小さな歴史から大きな歴史へ) | | | | | シラバスを熟読したうえで講義にのぞむこと。(4時間) | | | | |
| 2 | 旧石器・原始時代 | 旧石器時代・縄文時代・弥生時代の日本 | | | | | 身近にある遺跡等を調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 3 | 古墳時代 | 東日本最古の弘法山古墳の文化と日本 | | | | | 身近にある古墳を事前に調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 4 | 中世の人びとの暮らし | 「物くさ太郎」を読み解きながら、都の暮らしと地方の暮らしを考える | | | | | 大学の近くにある「物くさ太郎」関連の史跡をみておくこと。(4時間) | | | | |
| 5 | 戦国時代 | 川中島の戦い、真田氏三代と小笠原氏三代 | | | | | これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること。(4時間) | | | | |
| 6 | 江戸時代の暮らし(武家) | 幕藩体制の時代を、信濃の諸藩から、武家の暮らしをみていく。藩主の変遷、動向をさぐる。 | | | | | これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること。(4時間) | | | | |
| 7 | 江戸時代の暮らし(村びと) | 江戸時代の村びとの暮らし、立ち上がる農民たち(加助騒動) | | | | | これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること。(4時間) | | | | |
| 8 | 幕末から明治へ | ペリー来航から維新期への激動、藩から県へ(「信濃の国」) | | | | | これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること。(4時間) | | | | |
| 9 | 地域の近代化 | 自由民権運動と秩父事件、普通選挙運動発祥の地松本 | | | | | これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること。(4時間) | | | | |
| 10 | 明治・大正期の日本 | 人物をとおして、日清・日露戦争期の日本をみる。松本平から大逆事件を考える。 | | | | | 「大逆事件」について調べてくること。(4時間) | | | | |
| 11 | 養蚕・製糸業の発展 | 日本一の蚕糸王国長野県の製糸業と工女の生活 | | | | | なぜ製糸業が長野県で栄えたのかを事前に調べてくること。(4時間) | | | | |
| 12 | 戦時下の日本 | 満洲事変から15年間の戦時下の日本を、さまざまな角度からみていく(歩兵第五十聯隊・満洲移民・工場と児童の疎開) | | | | | 戦争の時代の話を書いてくること(4時間) | | | | |
| 13 | 変わる生活 | 高度経済成長期の前と後の変容を日記から読み解く | | | | | 身近な生活の変化を整理しておくこと。(4時間) | | | | |
| 14 | 戦後72年の日本 | 昭和20年以降の日本の首相の動きから、戦後の日本をふりかえる | | | | | 記憶に残る日本の首相を整理しておくこと。(4時間) | | | | |
| 15 | 歴史的文化財の保護 | 文化財の保護・保存、歴史文書の保存・利用、および講義全体のまとめ | | | | | 地元にどのような文化財があるか、事前に調べて来ること。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 担当者が作成したレジメを、講義ごとに出席者に配布します。 | | | | | 出席レポート:30% 定期試験:50% 講義後のコメント:20% S:出席レポートを全回提出し、講義後のコメントの密度が非常に高く、講義の内容のほぼすべてを修得している。A:出席レポートを全回提出し、講義後のコメント内容が充実しており、講義内容を深化させて修得している。B:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容を理解し、自分なりの史観を表現できる。C:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容をある程度理解している。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| なし | | | | | 講義ごとに感想を受講票に記入して提出してください。質問があればあわせて記入してください。次回の講義で答えます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------|--|-----------------|------|--|----------------|-------------------------------------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 地域の歴史 | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13301 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 小松 芳郎 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | 2017年度～ | | | | |
| | | | 健ス | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 政治・教育・文化・諸産業・交通運輸等々にわたる。長野県の歴史上の人物の生き様や業績をとおして、その生きた時代を、日本の歴史上に位置付けながら検証していきます。古代・中世・近世・近代・現代と、それぞれの時代の群像を取り上げます。その中で、地域の歴史の学び方を、歴史資料の所在・調査・研究などの面から、自分なりにどのように取り組んでいくのかを考えていきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 地域で、何をどのように学び、それを様々な教育等の場でいかに生かしていけたらよいのか、自分なりに課題をみつけ、具体的に調べ、伝えていくことができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 具体的にいくつかの資料を紹介しながら、レジュメをもとに講義をすすめます。講義は教室で行いません。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 県歌制定50年 | 長野県歌「信濃の国」を読み解き、その時代背景をみる。 | | | | | 何番まで歌えるか、歌詞の意味を考えておくこと。(4時間) | | | |
| 2 | 旧石器・縄文の時代 | 野尻湖人、縄文時代の人びとなどをとおして、その時代の生活をみていく。 | | | | | 地元の遺跡や遺物を調べておくこと。(4時間) | | | |
| 3 | 物くさ太郎 | 御伽草子「物くさ太郎」を読み解きながら、中世の人びとの暮らしを考える。 | | | | | 大学近くにある「物くさ太郎」の碑を事前に見ておくこと。(4時間) | | | |
| 4 | 真田氏・小笠原氏3代 | 真田氏三代と小笠原氏三代をとおして、戦国時代をみる。 | | | | | これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間) | | | |
| 5 | 江戸時代の領主たち | 松本の領主をもとに、代表的な人物をもとに、その時代背景をみる。 | | | | | これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間) | | | |
| 6 | 江戸時代の村びとたち | 百姓一揆の多田加助、堰を開発した百瀬三七を調べる。 | | | | | 加助騒動の身近な史跡を調べておくこと。(4時間) | | | |
| 7 | 明治の群像 | 佐久間象山、赤松小三郎、松尾多勢子、近藤茂左衛門らをとおして、幕末維新期の日本をみる。 | | | | | これらの人物について調べておくこと。(4時間) | | | |
| 8 | 自由民権運動と秩父事件 | 松本の自由民権運動、佐久での秩父事件を主導した人物をとおしてその全体像にせまる。 | | | | | これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間) | | | |
| 9 | 普選の父、中村太八郎 | 日本の普通選挙運動発祥の地は松本。中村太八郎・木下尚江らの活動をさぐる。 | | | | | 普通選挙運動について調べておくこと。(4時間) | | | |
| 10 | 製糸王国長野県 | 製糸王今井五介をとおして、養蚕製糸業の発展をみる。私鉄の敷設、木曾川の電力開発についても考える。 | | | | | 養蚕・製糸業について調べておくこと。(4時間) | | | |
| 11 | 松本からみた「大逆事件」 | 事件の発端は松本平から。幸徳秋水らと信州の関わりをみながら「大逆事件」と日本を考える。 | | | | | これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間) | | | |
| 12 | 大正期の教育 | 川井清一郎訓導が関わった学校での事件から信州教育を考え、鳩山春子と沢柳政太郎をとおして日本の教育をみる。 | | | | | 「信州教育」とは何かを考えておくこと。(4時間) | | | |
| 13 | 戦争の時代(1) | 福島安正と河原操子をとおして、日清・日露戦争をみる。 | | | | | ふたりの人物について調べておくこと。(4時間) | | | |
| 14 | 戦争の時代(2) | 川島芳子と川島浪速などをおいながら、「満洲事変」からの「15年戦争を」みていく。 | | | | | 川島芳子について調べておくこと。(4時間) | | | |
| 15 | 戦後の日本 | 戦後73年間の日本の首相と米国の大統領をとおして、日本の政治史をみる。 | | | | | 記憶にのこる日本の首相を整理しておくこと。(4時間) | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 講義ごとに担当者が作成したレジュメを、出席者に配布します。 | | | | | 出席レポート：30% 定期試験：50% 講義後のコメント：20% S:出席レポートを全回提出し、講義後のコメントの密度が非常に高く、講義の内容のほぼすべてを修得している。A:出席レポートを全回提出し、講義後のコメント内容が充実しており、講義内容を深化させて修得している。B:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容を理解し、自分なりの史観を表現できる。C:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容をある程度理解している。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| なし | | | | | 講義ごとに感想や質問を受講票に記入して提出してください。質問については、次の講義で答えます。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------|--|------|--|----------------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 地域と文学 | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13302 | 研究室 | A-07 |
| 担当者 | 國府田 祐子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 火曜日4限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 文学 | | | | | |
| | | 健ス | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 信州にゆかりのある文学者や研究者を取り上げ、出身地や略歴、代表作等を紹介し、地域の昔話も含まれます。担当者が代表作の紹介を行い、描写の読み取り方や味わい方を学びます。分担した箇所について調べ学習を行いながら、自分の読みを確立するための力を身につけていきます。その後学生自身が自分の興味・関心に沿って他の作品を調査し、各自が調べた結果を最後に発表します。発表された内容について全体で検討し討議し、共有します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 1 信州の主たる代表作を知り、その実際を広く理解する。 2 文学作品に対する知見を深め、文学に関する考察力や研究力を身につける。 3 作品に対する自分の考察を持ち、わかりやすく発表、論述することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義、発表、演習です。教員が文学作品の読み方講義をします。その後作品を自分の力で読み進めプリントを作成し発表します。最後に各自が自分の興味・関心に応じて調べ学習をし発表します。週末にアトキヤパスに出かける予定です。(日程は初回に提示) | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス 文学の読み方 | 文学作品の読み方について基本的な観点を講義します。発表分担を決めます。 | | | | シラバスから全体を概括する。読み方の基本の視点をまとめ、担当箇所を調査する。(4時間) | | | | |
| 2 | 信州の作家(1) | 島崎藤村『夜明け前』を読み作品の背景を学びます。各自が読んだ内容を発表し合います。互いに読み合うことによって深め、各自が考察を持ちます。 | | | | 授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間) | | | | |
| 3 | 信州の作家(2) | 『夜明け前』を読み進め読み深めます。各自が読んだ内容を発表し合い、互いの読みを交流し、各自が考察を持ちます。 | | | | 授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間) | | | | |
| 4 | 信州の作家(3) | 島崎藤村『夜明け前』を読み、作品の背景や読み進め方を学びます。互いの意見交流をします。 | | | | 授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間) | | | | |
| 5 | 信州の作家(4) | 『千曲川のスケッチ』を読み進め、互いの読みを共有し、自分の読みの確立を目指します。各自で考察を持ちます。 | | | | 授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間) | | | | |
| 6 | 信州の作家(5) | 『千曲川のスケッチ』を読み進め、互いの読みを共有し、自分の読みの確立を目指します。各自で考察を持ちます。 | | | | 授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間) | | | | |
| 7 | 信州の作家(6) | 『千曲川のスケッチ』を読み進め、互いの読みを共有し、自分の読みの確立を目指します。各自で考察を持ちます。 | | | | 授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。(4時間) | | | | |
| 8 | 信州の詩歌(1) | 島崎藤村の詩から複数取り上げ、読み味わい方や解釈の仕方を学びます。 | | | | 授業内容をまとめる。分担箇所について発表準備をする。『夜明け前』を読破し提出する。(4時間) | | | | |
| 9 | 信州の詩歌(2) | 『若菜集』等から複数の作品を取り上げ、読み味わい方や解釈の仕方の筋道を学びます。 | | | | 『藤村詩抄』を読破しレポートを書く。発表準備をする。(4時間) | | | | |
| 10 | 信州の研究者・歌人(1) | 窪田空穂の業績を知り、いくつかの作品を取り上げ読み味わいます。(アトキヤパスを予定。詳細は別途) | | | | 授業内容を考察しまとめる。アトキヤパスの準備とまとめを行う。(4時間) | | | | |
| 11 | 信州の研究者・歌人(2) | 窪田空穂の業績を知り、いくつかの作品を取り上げ読み味わいます。(アトキヤパスを予定。詳細は別途) | | | | 授業内容を考察しまとめる。アトキヤパスをまとめ、レポートを書く。(4時間) | | | | |
| 12 | 信州の童話・昔話 | 信州を代表する昔話に触れ、これまで学んだ読み方を生かして解釈し、考察を持ちます。 | | | | 各自が発表資料を作成し、発表の準備をする。(4時間) | | | | |
| 13 | 信州の作品(1) | 各自が自分の興味・関心に応じて調べ、調べた内容や作品解釈、作品研究を発表します。 | | | | 各自が発表資料を作成し、発表の準備をする。(4時間) | | | | |
| 14 | 信州の作品(2) | 各自が自分の興味・関心に応じて調べ、調べた内容や作品解釈、作品研究を発表します。 | | | | 各自が発表資料を作成し、発表の準備をする。(4時間) | | | | |
| 15 | 信州の作品(3) 総括 | 各自が自分の興味・関心に応じて調べ、調べた内容や作品解釈、作品研究を発表します。 | | | | 15回を総括する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「夜明け前 第1部(上)」島崎藤村著(角川ソフィア文庫) ISBN:9784101055084(生協で購入してください。) 「千曲川のスケッチ」島崎藤村著(岩波文庫 緑23-6) ISBN:4003102363(生協で購入してください。) 「藤村詩抄」島崎藤村著(岩波文庫) ISBN:4003102312(生協で購入してください。) 「天造じいさんとガン」椋鳩十著(偕成社文庫) ISBN:978-4-03650620-0(生協で購入してください。) | | | | 受講態度:20% 課題:60% レポート:20% S:基本的な概念や理論を正確に説明でき適切に表現し、高い意欲を示している A:基本的な概念や理論をほぼ正確に説明でき適切に表現している。B:基本的な概念や理論を一部説明できるものがあり表現している。課題を全て行っている。C:基本的な概念や理論を説明できるものがあり表現している。課題を全て行っている。受講態度には毎回出すシートの出来映え、発表等を含む。欠席4回で単位を認定しません。欠席・遅刻2回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「島崎藤村 吉田精一著作集6」吉田精一著(桜楓社) 「新しい国語表記ハンドブック 第7版」三省堂編修所編(三省堂) 「漢字筆順ハンドブック 第3版」江森賢治著(三省堂) | | | | その他参考書は講義で適宜紹介します。座席指定です。レポートや課題は手書きによる提出が主です。用具等は第1回授業で指示します。アトキヤパスが企画できた際は必ず出席してください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-----------|---|-----------------|--|------|------------------------------------|-------|---------|-----|-----|
| 科目名 | 地域の伝統行事 | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL23303 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 小松 芳郎 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスアワ | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | 2017年度～ | | | | |
| | | | 健 ス | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 日頃から体験している年中行事から始まり、各地に伝わる伝統行事について学びます。長野県内の代表的な行事を、それぞれの地域ごとに扱い、地域に残る歴史と民俗事象を掘り下げていきます。さらに、身の回りの暮らしの中での伝統行事を、今日までの変容を追いながら、どのように調べて記録としてのこしていくのか、それを後世にどのように伝えていったらよいのかを、具体的な事例を挙げながら探り考えていきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 地域で、何をどのように学び、それを様々な教育等の場でいかに生かしていったらよいのか、自分なりに課題をみつけ、具体的に調べ、伝えていくことができるようになる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| いくつかの資料を紹介しながら、レジメをもとに講義をすすめます。講義は教室で行ないます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 変わる生活 | 昭和30年代からの高度経済成長期を境にして変わる生活のなかでの年中行事を、日記をもとにみます。 | | | | 三世代のお話を聞いて、暮らしの変容の一部を調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 2 | 年中行事(1) | 信州の春のさまざまな年中行事をみます。 | | | | 自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 3 | 年中行事(2) | 信州の夏のいろいろな年中行事・祭りをみます。 | | | | 自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 4 | 年中行事(3) | 信州の秋の各地の年中行事・祭りをみます。 | | | | 自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 5 | 年中行事(4) | 信州の冬のいくつかの年中行事をみます。 | | | | 自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 6 | 人の一生(1) | 誕生から成人までの儀礼などをみていきます。 | | | | 誕生から今日までの自分の儀礼を調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 7 | 人の一生(2) | 成人からの人の一生をみます。 | | | | 親の世代などの儀礼の例を聞いておくこと。(4時間) | | | | |
| 8 | 人の一生(3) | 一生を終える儀式とその変容を、時代とともにみていきます。 | | | | 葬儀の変容について調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 9 | 善光寺 | 善光寺仏の流転、善光寺信仰、御開帳などを調べます。 | | | | 左記のテーマについて調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 10 | 御柱 | 信州各地の御柱のようす、歴史などを調べます。 | | | | 自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 11 | 石仏を調べる | 石仏、道祖神などを調べます。 | | | | 自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 12 | 地域の文化財(1) | 北信の文化財には、どのようなものがあるか調べます。 | | | | 左記のテーマについて調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 13 | 地域の文化財(2) | 東信の文化財には、どのようなものがあるか調べます。 | | | | 左記のテーマについて調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 14 | 地域の文化財(3) | 中信の文化財には、どのようなものがあるか調べます。 | | | | 左記のテーマについて調べておくこと。(4時間) | | | | |
| 15 | 地域の文化財(4) | 南信の文化財には、どのようなものがあるか調べます。 | | | | 左記のテーマについて調べておくこと。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 担当者が作成したレジメを、講義ごとに出席者に配布します。 | | | | 出席レポート：30% 定期試験：50% 講義後のコメント：20% S:出席レポートを全回提出し、講義後のコメントの密度が非常に高く、講義の内容のほぼすべてを修得している。A:出席レポートを全回提出し、講義後のコメント内容が充実しており、講義内容を深化させて修得している。B:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容を理解し、自分なりの史観を表現できる。C:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容をある程度理解している。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| なし | | | | 講義ごとに感想や質問を受講票に記入して提出してください。質問については、次回の講義で答えます。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------------|--------------------------------------|-----------------|--|------|--------------------|---------------------|-------------|-----|------|
| 科目名 | 地域社会と学校教育 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 2 | ナパ [®] リング | UL33304 | 研究室 | A-01 |
| 担当者 | 征矢野 達彦 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 水曜日4限、金曜日4限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| | | | 健 ス | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 学校教育では、新学習指導要領で「生きる力」を育成するという基本理念が継承され、「確かな学力」や「豊かな人間性」などを育むことが求められています。知識・技能を実生活で活用する力や、異なる文化や背景を持つ人々との関係を構築する力が、今後必要とされています。それらの力を育成するには、外部の力を有効に活用していく必要があります。地域社会における学校の意味を問い直し、「信州型コミュニティスクール」の取り組みを研究すると共に、地域社会に根ざした学校づくりを追究していきます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 地域社会における教育計画の理念や背景を学び、地域社会に支えられた学校や教師のあり方の理解を深め、豊かな人間観、教育観、教師観を形成する。地域社会と学校との関わり方について学び、教員としての資質を身につける。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 学校と地域との関わりについての歴史や変容、展望を講義で学び、小・中学校の実際の教育現場でのアウトキャンパスを通して、地域と共にある学校づくりを学びます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 学校と地域社会との関わりについての学び方を理解します。 | | | | 地域社会の概念の理解をする(4時間) | | | | |
| 2 | 近代学校の成立 | 学校の成立と学校統合、通学区の再編について学びます。 | | | | 本時の学習内容の整理をする(4時間) | | | | |
| 3 | 開かれた学校 | 地域社会に「開かれた学校」の動向と展望について理解します。 | | | | 本時の学習内容の整理をする(4時間) | | | | |
| 4 | 学校と家庭 | 少子化社会における家庭の教育機能の変容について理解します。 | | | | 本時の学習内容の整理をする(4時間) | | | | |
| 5 | 国・県の教育計画 | 国及び県の教育計画、長野県の求める教師像について理解します。 | | | | 本時の学習内容の整理をする(4時間) | | | | |
| 6 | 信州型コミュニティスクールの取り組み | 信州型コミュニティスクールの理念と取り組みについて学びます。 | | | | 本時の学習内容の整理をする(4時間) | | | | |
| 7 | 松本市の教育行政 | 松本市の教育行政と学校の教育計画について学びます。 | | | | 本時の学習内容の整理をする(4時間) | | | | |
| 8 | アウトキャンパス | 信州型コミュニティスクールの取り組みを小学校で参観します。 | | | | 参観観点別評価表に記入する(4時間) | | | | |
| 9 | アウトキャンパス | 信州型コミュニティスクールの取り組みを中学校で参観します。 | | | | 参観観点別評価表(4時間) | | | | |
| 10 | 参観報告会 | 小・中学校の地域と共にある学校づくりの成果と課題を話し合い、共有します。 | | | | 本時の学習内容の整理をする(4時間) | | | | |
| 11 | アウトキャンパス | 地域社会の特性を生かした特別支援学校の取り組みの様子を参観します。 | | | | 参観観点別評価表に記入する(4時間) | | | | |
| 12 | 参観報告会 | 地域社会と特別支援学校との関わり方の成果と課題を話し合い、共有します。 | | | | 本時の学習内容の整理をする(4時間) | | | | |
| 13 | 教師像 | 保護者や地域社会が求める学校と教師像を学びます。 | | | | 本時の学習内容の整理をする(4時間) | | | | |
| 14 | まとめ | 地域社会と学校との関わり方をみんなでシェアします。 | | | | 本時の学習内容の整理をする(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | これまでの総括として、地域社会と学校教育の将来像を明らかにします。 | | | | 総合レポートをまとめる(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 使用しません。 | | | | 受講態度：30% レポート：70% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、授業で学んだことを表現できる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 必要に応じて提示します。 | | | | 外部での授業があるので、学校現場に入るときに諸注意を遵守してください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------|--|------|------|----|--------|--|-----|------|--|
| 科目名 | 地域経済史 | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 2 | ナバ`リング | UL33305 | 研究室 | W-22 | |
| 担当者 | 木村 晴壽 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスア- | 月曜日4限、金曜日2限 | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| わが国が工業化される過程で発展あるいは衰退した地域(地場)産業の全体像を踏まえた上で、地域経済の形成に大きな影響を与えた地域産業を取り上げ、それらの歴史的展開について講義します。特に、本学が立地する信州の地域産業については、工場形態での発展によりわが国最大の外貨獲得産業となった器械製糸業、および、一時期は地域経済に大きな比重を占めながらも戦後の経済発展のなかで産業としての影響力を失い、伝統工芸としての業態で存続した他の絹関係品生産を対比しながら、地域産業の動きを理解します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 明治以降の日本がたどった歴史を、地域産業を通じて理解し、最終的には地域産業の持つ強さ・弱さ、そしてその将来像を把握している。地域に展開した産業(特に長野県では製糸業)がどのような発展の仕方をしてきたか、そしてそれがいま地域で展開する産業とどのような関係にあるかを理解する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 基本的には教員からの説明を主体とした講義形式で進めます。アウトキャンパス等は計画していません。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | ガイダンス | ガイダンスと講義に向けての基礎知識について説明します。 | | | | | テキスト1~5頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 2 | 繊維産業と日本経済 | 繊維産業、特に製糸業が日本経済にどのように位置づけられるかを詳述します。 | | | | | テキスト6~13頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 3 | 地主制と製糸業 | 器械製糸の中心地は長野県であることを踏まえ、地主制との関連を詳述します。 | | | | | テキスト13~18頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 4 | 器械製糸業 | 長野県が器械製糸の中心になった背景と要因について詳述します。 | | | | | テキスト20~23頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 5 | 田中組の金融活動 | 長野県にも大きな政商が(小野組と田中組)関わっていたことを詳述します。 | | | | | テキスト23~26頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 6 | 洋銀取引との関係 | 「金の国」日本(小判とドル銀貨)と銀貨の関係について述べます。 | | | | | テキスト26~29頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 7 | 外国為替相場の出現 | 日本初の相場師が長野県出身の商人である事実と長野県の機械製糸業との関係を詳述します。 | | | | | テキスト29~32頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 8 | 片倉製糸 | 日本最大の生糸メーカー、片倉製糸の成長過程について詳述します。 | | | | | テキスト34~35頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 9 | 蚕網の生産 | 重要な養蚕具として江戸期から信州で使われていた蚕網が全国に普及してゆく過程を詳述します。 | | | | | テキスト35~39頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 10 | 戦時下の製糸業 | 戦時下で切り捨てられる製糸業の姿を詳述します。 | | | | | テキスト40~42頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 11 | 戦時下の地域経済 | 戦争直後の混乱のなか日本経済がどう変わったかを基礎に、地域産業の変貌について詳述します。 | | | | | テキスト48~53頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 12 | 戦後の農地改革 | 戦争直後の混乱を経て日本の農業はどう変わったかを詳述します。 | | | | | テキスト55~58頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 13 | 戦後の軽工業と重工業 | 戦後、地域産業として何が製糸業に取って替わったかについて詳述します。 | | | | | テキスト58~60頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 14 | 地域経済の転換 | 戦前と比較して大変貌を遂げた信州の経済構造について詳述します。 | | | | | テキスト60~61頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。 | | | |
| 15 | 総括 | 信州の地域産業が軽工業から精密工業へと転換するまでの流れを詳述します。 | | | | | テキスト全体を通読のこと(3時間)。事後、授業での総括を復習すること(3時間)。 | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 「地域経済史」木村晴壽著松本大学総合経営学部編(松本大学)(生協で購入してください。) | | レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を十分に理解し、地域産業について解説ができる。A:授業内容を理解している。B:授業内容をおおよそ理解している。C:授業内容を6割程度理解している。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 「長野県史(各巻)」長野県編(長野県) | | 期末の試験は、難易度がかなり高く設定されているので、普通の講義で集中して理解しようとする姿勢が必要です。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------|-------------------------------------|-----------------|------|------|----------------|---------------------|----------------------|-----|------|
| 科目名 | 地域課題研究Aクラス | | 学年学期 | 1年通年 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13306 | 研究室 | W-34 |
| 担当者 | 白戸 洋 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 前期：火曜日3限 後期：火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| | | | 健 ス | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 学生が地域の直面する課題について、その現状を学ぶとともに、実践活動を通じて具体的に課題解決を図ることを目的とします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 地域課題について理解をするとともに、実践活動の成果を分析・評価し、その成果を踏まえて具体的な解決にむけたアクションを自ら計画し実施する技術及び能力を身に付ける 活動を通じコミュニケーション能力や課題解決能力、社会的課題に対する関心、地域に向き合う意識などを身に付ける | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 子育ての問題や買い物弱者問題、地域の居場所づくり、子どもの育ち、まちづくりなど地域が直面する課題についての講義、課題の実態を把握するための調査、その解決を図るための実践活動によって構成されます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | オリエンテーション | 講義の内容及び進め方を説明し履修者シートの作成を行う（学修達成目標等） | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 2 | 地域課題に関する講義 | 高齢者の抱える問題（買い物弱者問題など）について講義する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 3 | 地域課題に関する講義 | まちづくりをめぐる地域課題について講義する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 4 | 地域課題に関する講義 | 子育てをめぐる問題について講義する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 5 | 地域課題に関する講義 | 子どもをめぐる問題について講義する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 6 | 地域課題に関する講義 | その他の地域課題について講義する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 7 | 地域課題解決事業の実施準備 | 対象地区等での実態の把握（現地踏査）を行う | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 8 | 地域課題解決事業の実施 | 対象地区において地域課題の解決を図る事業を実施する | | | | | 小レポートを含む事後学習を時間を行う | | | |
| 9 | 地域課題解決事業の実施 | 対象地区において事業を実施する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 10 | 地域課題解決事業の実施 | 対象地区において事業を実施する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 11 | 地域課題解決事業の実施 | 対象地区において事業を実施する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 12 | 地域課題解決事業の実施 | 対象地区において事業を実施する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 13 | 地域づくりに関する講義 | まちづくりに関して講義する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 14 | 地域づくりに関する講義 | 居場所づくりに関して講義する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 15 | 地域づくりに関する講義 | 人づくりに関して講義する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 16 | 地域づくりに関する講義 | 子ども・子育てについて講義する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 17 | 地域づくりに関する講義 | 高齢者について講義する | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |
| 18 | 地域づくりに関する講義 | 対象地区における課題を考える | | | | | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う | | | |

| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | |
|--|-------------|---|---------------------|
| 回 | テーマ | 内容 | 事前事後学修 |
| 19 | 地域課題解決事業の実施 | 対象地区において事業を実施する | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| 20 | 地域課題解決事業の実施 | 対象地区において事業を実施する | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| 21 | 地域課題解決事業の実施 | 対象地区において事業を実施する | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| 22 | 地域課題解決事業の実施 | 対象地区において事業を実施する | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| 23 | 調査手法 | 社会調査について講義する | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| 24 | 調査手法 | 分析・評価手法について講義する | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| 25 | 調査手法 | アンケート等調査に必要な資料の作成を行う | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| 26 | 事業の成果分析 | 対象地区等での成果と課題の把握（アンケート調査）を行う | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| 27 | 事業の成果分析 | 対象地区等での成果と課題の把握（ヒアリング調査）を行う | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| 28 | 事業の成果分析 | 対象地域における事業の効果の検証を行う | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| 29 | 今後の事業計画の策定 | 次年度以降の事業の計画策定を行う | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| 30 | まとめ | 個人別学修達成目標の評価を行う | 小レポートを含む事後学習を1時間を行う |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | |
| 「買い物難民を救え!移動スーパーとくし丸の挑戦」村上 稔著（緑風出版） ISBN:978-4-8461-1411-4（生協で購入してください。） | | レポート：60% S:講義の成果を活かして持続的に課題解決のために具体的な活動を行うことができる。A:実践活動を通じて地域課題を把握し有効な解決策を提言し解決を試みた。B:実践活動を通じて地域課題を把握し有効な解決策を提言。C:実践活動を通じて地域課題を把握し概ね具体的な解決策を提言 | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | |
| 「買い物難民 もうひとつの高齢者問題」杉田 聡著（大月書店） | | PBL（問題解決）型の授業として、みなさんの身近な社会問題に対して実践的にアプローチし、解決方法を学びます。積極的に参加してください。 | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|----------------------|--|---|------|----------------|------|---|--------|----------------------|-----|------|
| 科目名 | 地域課題研究Bクラス | | | 学年学期 | 1年通年 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13306 | 研究室 | S-02 |
| 担当者 | 廣田 直子 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 前期：水曜日3限 後期：水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| | | 健 ス | | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| この授業では地域全体を学びの場とし、フィールド活動により地域課題を見出し、その解決に向けて皆でディスカッションし、提案という形にまとめます。Bクラスでは人の一生を「健康」の視点で概観し、まずは、乳幼児期、学童・青年期、壮年期、高齢期といったライフステージごとの特徴をとらえます。その上で、地域活動に参画して生活者である地域の人々が直面する健康課題を発見し、グループ討議を経て解決に向けて考え合い、提案をまとめます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 能力：フィールド活動での観察力を修得する。課題について積極的にディスカッションできる。 具体的到達目標：健康を栄養と運動、社会生活の視点からとらえ、近隣社会の現状を踏まえて地域が抱える健康問題・課題への認識を深め、自分たちの提案をまとめる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 前半はオムニバス形式で、講義を中心に進めます。後半は、周辺地域で行なわれている「健康」への取り組みを、実習体験を通じて学び、グループで地域課題に向けた解決法を探り、提案をまとめます。（履修者数を制限することがあります。） | | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方と、後半に行く実習参加について実習先や実習内容の説明をします。決定している範囲で参加実習の情報を提示します。 | | | | | 各自で、予定されている実習に参加するための日程を調整し、参加意欲を高める。（1時間） | | | | |
| 2 | 社会生活と健康 | 4～5人のグループをつくり、自己紹介に加え、自身の健康観について自由に語ることで互いの考えを知り、その後「社会生活と健康」を考える次回以降の講義の意味について学びます。 | | | | | 健康観について、自身の健康に対する受け止め方や考え方をまとめて記述する。（1時間） | | | | |
| 3 | ライフステージと健康 乳幼児期 | 乳幼児期の発育発達の大枠を捉え、生涯にわたり健康な生活を送るための基盤となる育ちの環境について、栄養・運動の両面から学びます。 | | | | | 身近に暮らす乳幼児に関心を寄せ、乳幼児期に重要な育ちの環境についてまとめる。（2時間） | | | | |
| 4 | ライフステージと健康 学童・青年期 | 長野県内の児童の生活習慣の実態について学びます。生活習慣が子どもの発育発達に及ぼす影響について県内の実態からとらえ、改善に向けた栄養と運動両面からの支援の可能性を探ります。 | | | | | 学童期の生活時間、生活習慣の実態を知り、問題の所在について考えレポートを作成する。（2時間） | | | | |
| 5 | ライフステージと健康 壮年期 | 体力をはじめ諸機能の衰えを感じ始めるのが壮年期です。健康上の様々な問題を感じるようになるこの年代は、健康への関心が高まる時期でもあります。栄養・運動の両面からの指導や支援の表情を学びます。 | | | | | 身近な大人との会話から、働き盛り世代の健康への意識・関心を聞き取ってまとめる。（2時間） | | | | |
| 6 | ライフステージと健康 高齢期 | 元気な高齢者、支援が必要な高齢者など、「高齢期」とひとくくりにしてもその幅は広く、人生における喜・哀のイベントが健康に影響を及ぼす年代でもあります。様々な観点から健康維持について学びます。 | | | | | 高齢期に生じる体の生理的衰えを知り、健康であることの価値について考え、まとめる。（2時間） | | | | |
| 7 | 地域課題（健康と栄養） | これまでの学習で得た知識を基に、地域に目を向けます。実際に行われている栄養指導の場面やその内容、また対象に関する地域の実情を知り、アウトキャンパスでの学習目標に向けて考えます。 | | | | | これまでの学習内容を振り返り、生活実態に合った「食」のあり方を考え、まとめる。（2時間） | | | | |
| 8 | 地域課題（健康と運動） | これまでの学習で得た知識を基に、地域に目を向けます。実際に行われている運動指導の場面やその内容、また対象に関する地域の実情を知り、アウトキャンパスでの学習目標に向けて考えます。 | | | | | これまでの学習内容を振り返り、生活実態に合った「運動」の必要性を考え、まとめる。（2時間） | | | | |
| 9 | 松本市の健康づくりの取り組み | 健康寿命延伸都市松本の制度や健康づくりに関する様々な取り組みについて知り、若者（学生）の視点からの行政への要望・提案についてディスカッションし、その中から自分たちで対応可能な課題を発見します。 | | | | | 市の活動内容をまとめ、行政が取り組みにくい課題に関するレポート執筆の準備をする。（3時間） | | | | |
| 10 | 市民運動としての健康づくりの取り組み | NPOや地域の自主運営による健康の取り組みについての実態を学びます。熟年体育大学（JTRC）の取り組みや、本学地域健康支援ステーションの事業例を参考に、健康に関する地域課題について考えます。 | | | | | 前回に続き、地域の健康課題を、実際の事例から捉えてレポートを完成させる。（3時間） | | | | |
| 11 | 情報収集の方法 | これまでに学習した健康に関する様々な情報を、さらに幅広く収集するための方法とその活用方法について学びます。その際、今後の活動で必要とされるルール、マナーについても学修します。 | | | | | 以後の報告や発表資料に役立てるための健康情報、地域情報などの情報を収集する。（3時間） | | | | |
| 12 | プレゼンテーションの方法 | 本講義後半では、グループで「地域における健康課題（仮）」を発表するので、収集した資料や実習での体験をまとめる際に必要となるプレゼンテーションの方法として、パワーポイントの作成技法を学びます。 | | | | | パソコンの操作に慣れ、パワーポイントを活用し、プレゼンファイル作成の練習をする。（3時間） | | | | |
| 13 | 地域課題を探る | 3～4人のグループになり、健康観について話し合いを持ちます。初回講義でそれぞれが感じていた健康観を振り返り、あらためて地域の健康課題について考え、メンバーと共有します。 | | | | | グループで共有した問題について地方紙などから情報を収集し、次回講義時に持ち寄ります。（2時間） | | | | |
| 14 | 地域課題を提起1 | 前回授業に続き、KJ法やブレインストーミングなどで情報を出しあい、グループの関心事をまとめて発表します。グループで収集した地域課題について問題の所在を探ります。 | | | | | グループで決めたテーマを咀嚼し、実習の際のモチベーションの向上を図る。（1時間） | | | | |
| 15 | 地域課題を提起2 | グループで決めた地域課題（テーマ）を再確認します。何が問題で、どうしていくことが求められるか、自分たちにはできることは何かなど具体化させ、グループの意思決定を図ります。 | | | | | 後期に行う実習を意味あるものにするため、積極的に必要な準備を整える。（3時間） | | | | |
| 16 | オリエンテーション（後期） | グループで進めます。前半の学習やグループの課題・目標を再確認します。今後実施する実習参加について説明を受け、実習記録ノートを配布します。 | | | | | 実習記録ノートを確認し、実習参加の準備と心構えを確固としたものにする。（1時間） | | | | |
| 17 | 実習事前指導 | 実習の事前指導を受けます。実習に臨む姿勢、記録の取り方、事後報告について理解するとともに、実習先や対象者によって参加時の配慮や参加姿勢が異なることを理解します。 | | | | | 実習先について事前に情報収集し（1時間）、実習ごとの目標を定めて臨みます。（1時間） | | | | |
| 18 | 実習（栄養指導場面1） | アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。 | | | | | 実習記録ノートをまとめる。（3時間） | | | | |

| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | |
|---|---------------|--|---|
| 回 | テーマ | 内容 | 事前事後学修 |
| 19 | 実習（栄養指導場面1-2） | アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。 | 実習記録ノートをまとめる。（3時間） |
| 20 | 実習（栄養指導場面1-3） | アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。 | 実習記録ノートをまとめる。（3時間） |
| 21 | 実習を振り返る（栄養） | グループ毎、体験から得た学びを共有します。互いの実習記録を振り返り、それぞれの場面での気づきを話題提供し、地域社会に求められている健康づくりの課題を探ります。 | 実習での振り返りや気づきを次回実習に生かすために、自身の課題目標を明確にする。（1時間） |
| 22 | 実習（運動指導場面1） | アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。 | 実習記録ノートをまとめる。（3時間） |
| 23 | 実習（運動指導場面1-2） | アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。 | 実習記録ノートをまとめる。（3時間） |
| 24 | 実習（運動指導場面1-3） | アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。 | 実習での振り返りや気づきを報告会に生かすため、自分の考えや意見をまとめる。（2時間） |
| 25 | 実習を振り返る | 前期講義で得た学びや地域活動での実習体験をふまえ、グループで話し合い、報告会での発表を前提にした討議をします。地域社会に求められている健康づくりの課題と解決方法を探ります。 | 自分の考えや意見を、体験と理論の両面から語れるように準備を進める。（2時間） |
| 26 | 報告会の準備 | グループで互いの実習記録を振り返り、それぞれの場面での気づきについて話題提供し、地域社会に求められる健康づくりの課題とその解決方法に向けた提案をまとめ、報告会での発表資料を作成します。 | 発表の準備・練習（2時間）、自分の考えや意見を体験と理論の両面から語れるようにする。 |
| 27 | 実習報告会1 | 互いの報告・発表を聞き、自分の実習体験と重ね、他のグループの発表に対して質問や感想を述べるなど、関心を持って聞き、互いに学び合います。 | 「健康問題」を、個人の問題としてではなく、地域が抱える課題として再考する。（2時間） |
| 28 | 実習報告会2 | 互いの報告・発表を聞き、自分の実習体験と重ね、他のグループの発表に対して質問や感想を述べるなど、関心を持って聞き、互いに学び合います。 | 「健康問題」を、個人の問題としてではなく、地域が抱える課題として再考する。（2時間） |
| 29 | 実習報告会のまとめ | 報告会での発表を受けて、地域課題解決に向けた方途についてグループディスカッションをします。 | ディスカッションを踏まえて地域課題解決のための方途についてまとめる。（3時間） |
| 30 | 地域課題 まとめ | 一人ひとりが本講義の学びをまとめ、それをお互いに聴取し合い多様な考えがあることを知ります。それを通して個々の学生が大学生活及び将来の健康課題について、地域という視点で考え続ける姿勢を培います。 | 記録ノートや発表から、地域社会における健康課題解決の方途に関するレポートを作成する。（3時間） |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | |
| (別途、指示します。) 配布資料(プリント)で進めます。 | | 出席レポート：50% 課題：50% S:積極的な地域活動参加を通し、多角的な観察による気づきや提案を的確に文章表現できる。集団討議ではリーダーシップを発揮できる。A:積極的な地域活動での観察から、気づきや提案を文章表現できる。集団討議での確かな意見を述べるができる。B:地域活動での観察による気づきを文章表現できる。集団討議で自分の意見を述べるができる。C:地域活動に参加して学修した内容を文章表現できる。グループワークで自分の意見を述べるができる。 | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | |
| 配布資料で進めます。 | | 学生だから体験できる地域社会との交流を通じ、誰もが大切にしたい「健康」への認識を深め、自身の健康についても考えください。また、学修を通して社会の健康課題と向き合い、その解決方法を考え地域に目を向けましょう。 | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------|---|------|------|----------------|--|---------|----------------------------|-----|------|
| 科目名 | 地域課題研究Cクラス | | 学年学期 | 1年通年 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13306 | 研究室 | W-19 |
| 担当者 | 矢崎 久 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 前期：火曜日2限、火曜日3限、木曜日2限、木曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| | | 健 ス | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 買い物難民、老老介護、孤独死など高齢化社会に共通した課題に加えて、豪雨や地震など近時増加する自然災害への対処など地域が抱える課題は少なくありません。これら諸課題から今年度は「防災」に焦点をあてて、地域における防災の現状と課題について学ぶとともに、具体的な活動を通じた課題解決能力の獲得を図ります。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 地域における「防災」をテーマに、課題の発見、解決目標の設定、目標達成にむけた実践計画の立案と実行、評価までを自らが主体となり、かつ創造的におこなえる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 火災、地震、豪雨などの災害や防災初動組織と地域連携のありかたについての座学、グループワーク、減災や防災と社会資源の活用、災害支援ボランティア体験、さらに自治防災組織に関わることで「防災士」としての実践力を涵養します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 地域課題とはなにか | 地域社会における課題の存在を知る | | | | 事前：プリント予習（0.5時間） 事後：講義計画理解（0.5時間） | | | | |
| 2 | 地域と防災 | 地域防災の現状と課題を知る | | | | 事前：プリント予習（0.5時間） 事後：課題作成（0.5時間） | | | | |
| 3 | 地域と防災 | 地域防災についての課題を抽出する | | | | 事前：課題作成（0.5時間） 事後：ワーク準備（0.5時間） | | | | |
| 4 | 地域課題としての防災 | 課題の発見と解決目標の検討 | | | | 事前：解決目標の絞り込み（0.5時間）事後：解決にむけた計画検討（0.5時間） | | | | |
| 5 | 地域課題としての防災 | 課題の決定と解決にむけた実践計画作成 | | | | 事前：課題シート作成（0.5時間） 事後：実践計画案作成（0.5時間） | | | | |
| 6 | 防災と社会資源 | 防災に活かせる社会資源を知る | | | | 事前：社会資源マップ準備（0.5時間）事後：マップ作成（0.5時間） | | | | |
| 7 | 防災と社会資源 | 災害想定と社会資源活用の実践 | | | | 事前：社会資源確認（0.5時間） 事後：実践振り返り（0.5時間） | | | | |
| 8 | 災害と危機管理 | 危機管理とはなにか。管理すべきポイントを知る | | | | 事前：危機管理について調べる（0.5時間）事後：管理ポイントの整理（0.5時間） | | | | |
| 9 | 災害と危機管理 | 災害予防、状況把握、対策検討、実施計画策定、実施、評価の実際（図上訓練の準備） | | | | 事前：訓練手順を調べる（0.5時間）事後：手順修正・整（0.5時間） | | | | |
| 10 | 災害と危機管理 | 災害の想定と図上訓練の実施 | | | | 事前：訓練手順確認（0.5時間） 事後：訓練実施後の課題まとめ（0.5時間） | | | | |
| 11 | 地域住民の防災意識 | 地域住民の防災意識を知る（調査準備） | | | | 事前：防災意識調査表案作成（0.5時間）事後：ワーク準備（0.5時間） | | | | |
| 12 | 地域住民の防災意識 | 地域住民の防災意識を知る（調査実施） | | | | 事前：調査表作成（0.5時間）事後：結果集計（0.5時間） | | | | |
| 13 | 地域住民の防災意識 | 地域住民の防災意識調査の結果集計と発表資料作成 | | | | 事前：発表準備（0.5時間） 事後：発表資料作成（0.5時間） | | | | |
| 14 | 地域防災組織との交流 | 地域防災組織（消防団等）の役割、体制、訓練について学ぶ | | | | 事前：消防団について（調査）（0.5時間）事後：報告書作成（0.5時間） | | | | |
| 15 | 地域防災組織との交流 | 訓練の実際を知る（見学） | | | | 事前：作成準備（0.5時間）事後：報告書作成（0.5時間） | | | | |
| 16 | 地域防災組織との交流 | 地域防災組織から学ぶ自治防災 | | | | 事前：報告書作成（0.5時間） 事後：報告書修正（0.5時間） | | | | |
| 17 | 防災訓練 | 地域防災組織の指導による防災訓練の企画 | | | | 事前：計画案作成（0.5時間） 事後：計画作成（グループワーク）（0.5時間） | | | | |
| 18 | 防災訓練 | 防災訓練計画立案と関係部門間調整 | | | | 事前：計画書作成（0.5時間） 事後：調整実施（0.5時間） | | | | |

| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | |
|---|-------------|---|--|
| 回 | テーマ | 内容 | 事前事後学修 |
| 19 | 防災訓練 | 地域防災組織と所属機関協働による防災訓練を実施する | 事前：事前調整（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間） |
| 20 | 災害とボランティア | 災害支援ボランティア活動の実際（東日本大震災ボランティア活動） | 事前：プリント予習（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間） |
| 21 | 災害支援とボランティア | 被災地のニーズを知り災害支援ボランティアとして行動する | 事前：ニーズ調査（0.5時間） 事後：支援準備（0.5時間） |
| 22 | 災害支援とボランティア | 被災地支援をおこなう | 事前：ニーズ絞込み（0.5時間） 事後：実施評価（0.5時間） |
| 23 | 災害支援とボランティア | 支援体験を発表する | 事前：支援・行動・評価表作成（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間） |
| 24 | 災害と自治防災組織 | 地域防災における防災士の役割、地域防災組織との協働による自治防災をありがたさを調べる | 事前：自治防災組織調査（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間） |
| 25 | 災害と自治防災組織 | 組織の設立を準備する | 事前：組織案作成（0.5時間） 事後：設立企画書案作成（0.5時間） |
| 26 | 自治防災組織の設立 | 設立企画書の作成と開始準備 | 事前：設立企画案作成（0.5時間） 事後：準備計画作成（0.5時間） |
| 27 | 自治防災組織の設立 | 地域防災組織と連携した自治防災組織をつくる | 事前：役割の確認（0.5時間） 事後：報告書作成準備（0.5時間） |
| 28 | 自治防災組織の設立 | 地域防災組織との協働訓練と情報共有 | 事前：役割の確認（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間） |
| 29 | 実践の検証 | 地域課題の解決にむけた実践を検証する | 事前：実践報告書作成（0.5時間） 事後：発表資料作成（0.5時間） |
| 30 | 実践の検証 | 地域課題研究における成果をまとめる | 事前：報告書作成準備（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間） |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | |
| 適宜配布します。 | | 出席レポート：30% 実技：30% 定期試験：40% 「防災士」資格の理念である自助・共助・協働の姿勢があるか、演習および訓練に求められる知識と技能を發揮しているかを総合的に判定します。 成績評価基準「S」レポート、演習と実技、定期試験のすべてが95%以上 「A」 " 80%以上 「B」 " 70%以上 「C」 " 60%以上 | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | |
| 適宜プリントを配布します。 | | 履修は「防災士養成講座」を受講し認証試験に合格している者、あるいは地域防災に関心があり「防災士」の取得を目指している者に限定します。 | |

| 科目名 | 地域課題研究Dクラス | | 学年学期 | 1年通年 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13306 | 研究室 | A-02 |
|---|-------------|--|------|------|----------------|----------------------------|---------|----------------|-----|------|
| 担当者 | 大蔵 真由美 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 前期：月曜日4限、水曜日4限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| | | 健 ス | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| お地域社会を支える人材の育成は、地域社会の存続や発展にとり大きな課題です。人づくり(教育)に関わる活動に参加することを通して、地域が抱える教育課題を発見することを目的とします。さらに、現在そして将来にわたり、教育を巡る課題の解決のためにできることは何かを考えることも目的とします。今年度の中心テーマは、コミュニティ・スクールとします。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 1.地域の人づくり(教育)の活動に参加し、コミュニケーション力を高めることができる。2.地域の人づくり(教育)の実際を知り、その意義や役割、特徴を理解することができる。3.到達目標1、2に基づき、地域の人づくり(教育)の課題を考えることができる。4.到達目標3に基づき、地域の人づくり(教育)の課題を解決することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 前期は講義とグループワークと報告を中心に、後期は体験と報告を中心に進めます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス1 | 授業内容及び前期の授業の進め方を説明します。 | | | | シラバスを読み、授業全体のイメージを持つ(1時間)。 | | | | |
| 2 | 地域と人づくり(1) | 松本市の教育の現状について学びます。 | | | | 松本市教育委員会のHPを読む(1時間)。 | | | | |
| 3 | 地域と人づくり(2) | 松本市の教育の課題について学びます。 | | | | 前時の復習、松本市教育委員会のHPを読む(1時間)。 | | | | |
| 4 | 地域と人づくり(3) | 地域における人づくりの活動について学びます。 | | | | 前時の復習、課題のまとめ(1時間)。 | | | | |
| 5 | 地域と人づくり(4) | 地域における人づくりの活動について学びます。 | | | | 前時の復習、課題のまとめ(1時間)。 | | | | |
| 6 | 地域と人づくり(5) | コミュニティ・スクール、信州型コミュニティ・スクールについて学びます。 | | | | 前時の復習、課題のまとめ(1時間)。 | | | | |
| 7 | 地域と人づくり(6) | 信州型コミュニティ・スクールの実際を学びます。 | | | | 前時の復習、課題のまとめ(1時間)。 | | | | |
| 8 | 地域と人づくり(7) | コミュニティ・スクールの実践例を調べます。 | | | | 前時の復習、実践例のまとめ(1時間)。 | | | | |
| 9 | 地域と人づくり(8) | 信州型コミュニティ・スクールの実践例を調べます。 | | | | 前時の復習、実践例のまとめ(1時間)。 | | | | |
| 10 | 地域と人づくり(9) | 報告の準備をします。 | | | | 報告会の資料作り(1時間)。 | | | | |
| 11 | 地域と人づくり(10) | コミュニティ・スクール、信州型コミュニティ・スクールについて調べたことを報告し、共有します。 | | | | 報告の練習(1時間)。 | | | | |
| 12 | 地域と人づくり(11) | コミュニティ・スクール、信州型コミュニティ・スクールについて調べたことを報告し、共有します。 | | | | 報告の練習(1時間)。 | | | | |
| 13 | 活動参加の準備(1) | 活動に参加する時の注意事項について学びます。 | | | | 前時の復習、課題のまとめ(1時間)。 | | | | |
| 14 | 活動参加の準備(2) | 活動に参加する時の各自の課題を考えます。 | | | | 自らの課題を考える(1時間)。 | | | | |
| 15 | 前期のまとめ | ここまでの授業を振り返り、総括します。 | | | | 前期授業の復習(1時間)。 | | | | |
| 16 | ガイダンス2 | 後期の授業の進め方を説明します。また、活動に参加する時の注意事項を再確認します。 | | | | 活動参加の注意事項の確認(1時間)。 | | | | |
| 17 | 体験(1) | 教育活動に参加し、その実際を体験します。 | | | | 体験の振り返り(1時間)。 | | | | |
| 18 | 体験(2) | 教育活動に参加し、その実際を体験します。 | | | | 体験の振り返り(1時間)。 | | | | |

| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | |
|---|--------|--|---------------------|
| 回 | テーマ | 内容 | 事前事後学修 |
| 19 | 体験（3） | 教育活動に参加し、その実際に体験します。 | 体験の振り返り(1時間)。 |
| 20 | 体験（4） | 教育活動に参加し、その実際に体験します。 | 体験の振り返り(1時間)。 |
| 21 | 体験（5） | ここまでの体験に関する情報交換とこれからの体験での課題の明確化を行います。 | 情報交換の準備(1時間)。 |
| 22 | 体験（6） | 教育活動に参加し、その実際に体験します。 | 体験の振り返り(1時間)。 |
| 23 | 体験（7） | 教育活動に参加し、その実際に体験します。 | 体験の振り返り(1時間)。 |
| 24 | 体験（8） | 教育活動に参加し、その実際に体験します。 | 体験の振り返り(1時間)。 |
| 25 | 体験（9） | 教育活動に参加し、その実際に体験します。 | 体験の振り返り(1時間)。 |
| 26 | 報告会の準備 | 報告会の準備(役割分担、発表の順番、レジュメの印刷など)を行います。 | 報告会のレジュメ作成(1時間)。 |
| 27 | 報告会（1） | 体験で学んだこと、地域の教育課題について考えたことなどを報告します。 | 報告の練習(1時間)。 |
| 28 | 報告会（2） | 体験で学んだこと、地域の教育課題について考えたことなどを報告します。 | 報告の練習、報告会のまとめ(1時間)。 |
| 29 | 報告会（3） | 体験で学んだこと、地域の教育課題について考えたことなどを報告します。 | 報告の練習、報告会のまとめ(1時間)。 |
| 30 | まとめ | これまでの授業を総括します。 | これまでの授業の復習(1時間)。 |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | |
| 使用しません。必要に応じて適宜資料を配布します。 | | 受講態度：30% 課題：70% 受講態度(授業・体験への意欲、理解度)、課題(報告、課題)を総合して評価します。 <評価基準> S: 授業や体験に意欲的に参加し、地域の教育課題とその解決方法について自分なりの考えを論理的に説明できる。A: 授業や体験に意欲的に参加し、地域の教育課題を説明できる。B: 授業や体験に積極的に参加し、体験で学んだことを整理して説明できる。C: 授業や体験に参加し、体験で学んだことを説明できる。 | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | |
| 授業の進捗に合わせて紹介します。 | | 地域の教育に関する課題を解決する方法などについて、体験を通して考える授業ですので、意欲的な授業参加を期待しています。 | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--------------|---|--|------|------|----------------|--|---------|-----|------|--|
| 科目名 | 日本文化 | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | UL13401 | 研究室 | W-26 | |
| 担当者 | 山根 宏文 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 水曜日1限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | | A | B | C | 2017年度～ | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本授業では、日本で培われてきた芸能・文化芸術・自然観・食生活・住生活・建築・武道・宗教・習俗等々の文化を全般にわたって学び、日本文化の基礎知識を総合的に養います。ジャポニズムからディスカバージャパン、クール・ジャパンなど日本文化ブームになっています。一過性の日本文化ではなく、総合的に日本文化の豊かさ、真の魅力の理解を深めていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 日本の文化、美意識を学び、暮らしの中に息づいている多くの文化に気付き、それを享受でき、説明することができる。さらに、日本人としての誇りを感じ、外国人にも伝えることができる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 市販のテキストは用いず、独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。教室での講義になります。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業概要、学習目標、授業の進め方、評価について案内します。 | | | | | 日本文化で魅力を感じるものとその要因について考える。(4時間) | | | | |
| 2 | 日本の美 | 後世に残したい日本の美について扱います。(自然・建築・伝統文化・工芸など) | | | | | 後世に残したい日本の美について考える。(4時間) | | | | |
| 3 | 日本の美 | 後世に残したい日本の美について扱います。(自然・建築・伝統文化・工芸など) | | | | | 後世に残したい日本の美について考える。(4時間) | | | | |
| 4 | 日本の伝統文化 華道 | いけばなと日本人の自然観について述べます。 | | | | | 日本の伝統芸能についてどのようなものがあるか考える。(4時間) | | | | |
| 5 | 日本の伝統文化 茶道 | 「茶の文化 利休の心・42の教え」とホスピタリティについて述べます。 | | | | | 茶道から学ぶおもてなしの心について考える。(4時間) | | | | |
| 6 | 日本の伝統工芸と民藝 | 日本の工芸品と柳宗悦によって提唱された民藝運動について述べます。 | | | | | 身の周りにある生活雑器を探し、魅力を考える。(4時間) | | | | |
| 7 | 和食「和食の魅力とは」 | 古代から現在までの食文化と食生活を解説します。 | | | | | 食生活についての課題について考える。(4時間) | | | | |
| 8 | 日本の宗教 仏教と神道 | 仏教と神道についての考え方や日々の暮らしにある宗教行事について解説します。 | | | | | 各家庭の宗教と教えについて考える。(4時間) | | | | |
| 9 | 江戸文化と武士道 | 武士道と城下町・国宝の城について講義します。武士道では、今も息づいている日本人の精神性についてあるいは、ビジネスに活かせる宮本武蔵の思考を説明します。 | | | | | 武士道と言われ思いつくものを考える。(4時間) | | | | |
| 10 | 浮世絵とジャポニズム | なぜ、西洋画家が浮世絵を愛したのか 日本の美と文化について、モネやゴッホやエミール・ガレの作品をみながら解説します。 | | | | | モネ・ゴッホについて調べる。(4時間) | | | | |
| 11 | 現代の日本文化 大衆文化 | 大衆文化として漫画文化について歴史から読み解きます。 | | | | | 漫画の魅力を考える。(4時間) | | | | |
| 12 | 現代の日本文化 農村文化 | 現代日本の生活文化 農村文化の魅力 について理解を深めます。 | | | | | 日々の生活文化について考える。農村文化の魅力について考える。(4時間) | | | | |
| 13 | 現代の日本文化 芸術振興 | 文化の活かし方、楽しみ方について解説をし、暮らしの中で文化芸術が活きる為の施策について解説します。 | | | | | 自分自身の暮らしの中に活きている文化芸術についてあるものを考える。(4時間) | | | | |
| 14 | 現代の日本文化 芸術振興 | 文化の活かし方、楽しみ方について解説をし、暮らしの中で文化芸術が活きる為の施策について解説します。 | | | | | 自分自身の暮らしの中に活きている文化芸術についてあるものを考える。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 日本文化の魅力についてのまとめをします。 | | | | | 全講義の復習をする。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 特になし。 | | | 定期試験：70% 課題：30% S：授業内容を高度に理解し、提案力が特に優れている。 A：授業内容を高度に理解し、探究心・提案力が優れている。 B：授業内容をおおよそ理解し、探究心・提案力がある。 C：授業内容をおおよそ理解し、探究心・提案力が60%程度である | | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 特になし。 | | | あたりまえのような暮らしの中に、日本人の美意識が宿っています。この講義でそれらの多くからいくつかを選択して日本人としての美しい心と伝統芸能、伝統工芸について講義します。皆さんも日本の魅力を探してください。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|------------------|--|-----------------|--|------|--|---------|-------------|-----|------|
| 科目名 | 異文化理解 | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | UL13402 | 研究室 | A-08 |
| 担当者 | 和田 順一 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 月曜日2限、水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | 2017年度～ | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本授業では、自分自身の文化と他者の文化を比べ、それらを意識することによって、どのように文化間において差が見られるか、英文等を通して理解していきます。その際に、それらの異文化間での違いについての事象を分類化して理解したり、その事象を具体化して自分自身のケースと比較したりすることで理解していきます。これらにより、自身の文化をさらに意識していくと共に、他の文化に対し自文化の観点からのみ理解していくことを避けていく考え方を身につけます。授業は全て英語で行われます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 異なる文化においてお互いを理解しあうために、英語で様々なことが理解できる。また文化を理解するために、自分自身の文化を考えながら、それとは異なる文化を知り、その価値観等を理解できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 学習内容に応じ、グループワークや講義形式、英語による発表など様々な形態で行います。また授業は英語で行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス・文化とは | 授業の進め方、異文化理解の考え方について。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 2 | 文化とは 1 | 英文を読み、文化におけるMaterial CultureとNon-Material Cultureを理解します。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 3 | 文化とは 2 | 英文を読み、文化におけるMaterial CultureとNon-Material Cultureを理解し、まとめます。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 4 | 文化のルールと許容される行動 1 | 文化におけるnormsの考え方とその変化について例を取り上げ理解します。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 5 | 文化のルールと許容される行動 2 | 文化におけるnormsの考え方とその変化について例を取り上げ理解し、まとめます。また調べたものについて発表します。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 6 | ステレオタイプ 1 | ステレオタイプとはどのようなものであるかを例等から理解します。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 7 | ステレオタイプ 2 | ステレオタイプとはどのようなものであるかを例等から理解し、まとめます。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 8 | メディアと文化 1 | メディアによる考え方への影響について理解します。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 9 | メディアと文化 2 | メディアによる考え方への影響について理解し、まとめます。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 10 | 非言語コミュニケーション 1 | 非言語によるコミュニケーションの例を取り上げ、その影響等について理解をします。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 11 | 非言語コミュニケーション 2 | 非言語によるコミュニケーションの例を取り上げ、その影響等について理解をし、内容をまとめます。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 12 | 時間の考え方 1 | 文化において時間に対する考え方が違うということについて例を取り上げ理解します。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 13 | 時間の考え方 2 | 文化において時間に対する考え方が違うということについて例を取り上げ理解し、内容をまとめます。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 14 | 接触と空間 1 | 文化における空間と取り方や身体的接触について例を考え理解します。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| 15 | 接触と空間 2 | 文化における空間と取り方や身体的接触について例を考え理解し、まとめます。 | | | | 授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「This Is Culture」梶浦麻子・Gregory Goodmacher著TA/YK編(南雲堂) ISBN:978-4-5231-7489-9(生協で購入してください。) | | | | 受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に理解し、テーマに関し探究し課題に取り組み、教科書より難しい英語とテーマが理解できる。A:授業をよく理解し、テーマに関し探究し課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語とテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題を誠実にやり、教科書レベルの英語やテーマが理解できる。C:授業が理解でき、課題を誠実にやり、教科書の英語とテーマが理解できる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 特になし。 | | | | 授業は全て英語で行われます。しっかりと復習とまとめ課題をして下さい。また異文化の例等に対し偏見を持たないようにして下さい。原則、欠席は2回までです。授業では自分の意見を英語で言うなど積極的に取り組んでください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|------------|--|---|------|----------------|--|---|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 比較文化 | | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13403 | 研究室 | E-18 |
| 担当者 | 松原 健二 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | 2017年度～ | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| アメリカ文化を代表とする欧米文化と日本文化を比較することによって、欧米的な考え方や欧米文化への理解を深めると共に、我々が親しんでいる日本文化を客観的に見直していくことをめざします。題材として、贈答・挨拶・食事・住居・買物など、日常生活上の身近なものを取り上げて進めていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 自分たちが慣れ親しんでいる日本文化が、唯一絶対のものではないことを理解できる。また、言葉と文化の密接なつながりや、言葉の探求によって人々の生活様式や文化を類推できる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| まず、「日米異文化間適応訓練」のクイズに取り組みます。その後、プリント教材を用いて講義を進めていきます。学習内容の理解を助けるために、スライドやビデオなどの視聴覚教材も利用します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 文化とは/贈答習慣 | 人々の暮らしの中で、贈答というものが人間関係の潤滑油として機能している実態を学びます。そして日本人に多く見られる旅行土産について、その歴史的な成立過程を踏まえて考えます。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 2 | おごりと食事習慣 | 「おごる」行為の背後にある人間関係について考えます。また日常生活の中で非常にありふれた食事習慣の中に、異文化が潜んでいる事実を検証します。食器とプライバシーについても、考察します。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 3 | 挨拶 | 挨拶というものが、文化により、性別により、また時代により違いが認められるものであることを学びます。日本語と英語の挨拶言葉の違いから、その背後にある、社会における人間関係の違いを考えます。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 4 | 客/人格構造の比較 | 社会における人間関係や、家族間の人間関係を、「人間関係のベクトル」の観点から考えます。そして三重の同心円のモデルを使って、日本人とアメリカ人の人格構造の違いを比較します。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 5 | 家と住まいの文化論 | アメリカ開拓史についてその概要を学び、17世紀初頭に開拓者たちがどのようにして住宅建築をしたのかを学びます。そして、伝統的な日本の住宅とどのような違いがあるのかを、検証して行きます。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 6 | 家と住まいの文化論 | 建築工法や建築材料によって、窓の造形に違いが生まれることを学びます。石造りの建築においてアーチ様式が生まれた理由や、ドームへの発展、気候風土と建築様式の関連性についても考えます。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 7 | エチケット/羞恥心 | 羞恥心の感じ方は、文化の影響を受けていることを学びます。そしてその違いがエチケットという社会規範に影響していることを検証して行きます。中国に生まれた纏足という珍しい文化についても考えます。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 8 | 事故と謝罪(1) | 謝罪言葉と責任の所在という問題について、日米を比較しながら考えます。題材として「えひめ丸事故」を取り上げ、米側からの謝罪がなぜ長い期間行われなかったのかという問題を、文化的視点から考えます。 | | | | | えひめ丸事故について調べる/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 9 | 事故と謝罪(2) | 謝罪行動の日米での違いを、「ファイアストンタイヤ破裂事故」を題材にして考えます。フォード社とプリヂストン社の対応の違いは、深い文化的な問題に根ざすものであることを学びます。 | | | | | 「ファイアストンタイヤ破裂事故」について調べる/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 10 | 結婚と離婚の国際比較 | 初婚年齢や婚姻率の国際比較から、結婚というものを取り巻く諸文化を学びます。また日本における結婚は伝統的に「家と家」の結びつきである歴史が長かった実態も検証します。また離婚についても考えます。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 11 | おつりの比較文化論 | 日本では、おつりは引き算で渡されますが、欧米では足し算で渡されていることを学びます。そしてこの社会習慣の違いの背景には、売り手と買い手の間の信用関係が深く関係していることを検証して行きます。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 12 | 決済方法の比較文化論 | 決済方法の選択にも、売り手と買い手の間の信用関係が深く関係していることを学びます。そして、この問題が小切手や口座振替の普及率と密接に関連していることを検証して行きます。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間) | | | | |
| 13 | 広告の比較文化論 | 同じメーカーの洗顔クリームを題材にして、日米の広告を比較します。広告の仕方やキャッチフレーズの違いの背景には、売り手側の会社と買い手側の消費者との人間関係の捉え方の違いがあることを学びます。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/同一商品の広告を、日米で比較する。(4時間) | | | | |
| 14 | 仕事と職場の文化論 | 会社と従業員の関係が、日米の経営スタイルにも影響していることを学びます。題材として、日本の自動車メーカーが米国に進出した際の事例を取り上げ、個人と会社の関係、仕事と職場の文化について考えます。 | | | | | Culture Assimilatorの予習/映画『Gung Ho』について調べる。(4時間) | | | | |
| 15 | 個人と集団の関係 | 童話「アリとキリギリス」を題材に、日本では従来、異文化的変化が施された翻訳が広く読まれていた実態を検証します。そして、社会における個人と集団の関係が、日本と欧米では大きく異なることを学びます。 | | | | | 家にあるイソップ童話を調べる/意図的な変化が施された翻訳事例を調べる。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 独自のプリント教材を作成し、毎回の授業で配布します。 | | | | | | 受講態度：30% 定期試験：70% S：探求心を持って授業に参加し、各回の講義で学んだことを正しく理解し、課題に対して自分なりの解決方法を見つけ出すことができる。A：探求心を持って授業に参加し、各回の講義で学んだことを正しく理解し、課題に対して解決方法を見つけ出すことができる。B：授業に参加し、各回の講義で学んだことを理解し、課題に対して解決方法を考えることができる。C：授業に参加し、講義で学んだことを理解し、課題に対して解決方法を探ることができる。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| なし | | | | | | この講義では、異文化衝突の場面において、どのような問題があり、いかなる解決方法があるかを考えてもらいます。「課題解決能力」 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|----------------|---|------|---|----------------|-----------------------------|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 文化人類学 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | UL33404 | 研究室 | W-03 |
| 担当者 | 福島 智子 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 異文化を知ることで自らを確認し、その上で両者を相対化しうる感受性を多少でも身につけること。これが本講義のめざすところです。あたりまえの世界を疑い、文化とは何かを考えます。文化人類学は難しい学問ではありません。抽象度の高い理論についても触れますが、基本的には身近にある(「理由はわからないけど、そうなっている」)事例を捉えなおして試みるのが重要です。内容については講義計画を参考にしてください。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 自身が属する集団(地域社会、日本)の文化を理解し、異文化を学ぶことで自文化を相対化できる。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義形式で行います。講義で学んだ視点から各自の生活を振り返ってもらうため、講義後に小レポートを課す場合があります。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 文化人類学とは | 文化人類学とは何か概説します。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 2 | 文化相対主義と自文化中心主義 | 文化の捉え方である文化相対主義と自文化中心主義について概説します。 | | | | 事例研究として各自リサーチする。(4時間) | | | | |
| 3 | 文化相対主義とFGM | 事例研究としてFGM(Female Genital Mutilation)を取り上げます。 | | | | ドキュメンタリー映像に対する意見をまとめる。(4時間) | | | | |
| 4 | 神話(1) | 神がこの世を作る話である神話(物語)の構造について学びます。 | | | | 具体的な神話を取り上げ、調べる。(4時間) | | | | |
| 5 | 神話(2) | 神話の具体的な事例を紹介します。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 6 | 信仰と世界観(1) | 世界宗教と民族宗教、一神教と多神教など、宗教の分類について学びます。 | | | | 配布資料を読み、下調べをする。(4時間) | | | | |
| 7 | 信仰と世界観(2) | 呪術とは何か、その定義、分類、目的を学びます。 | | | | 配布資料を読み、下調べをする。(4時間) | | | | |
| 8 | 信仰と世界観(3) | 妖術とは何か、その定義、分類、目的を学びます。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる(4時間) | | | | |
| 9 | 信仰と世界観(4) | 日本人の宗教観の特徴について概説します。 | | | | 配布資料の要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 10 | 通過儀礼 | 人が一生のうちに経験する通過儀礼とは何かを学びます。 | | | | 授業中に配布する課題プリントをする。(4時間) | | | | |
| 11 | 文化と身体(1) | 葬送儀礼について学びます。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 12 | 文化と身体(2) | 事例研究として特定の地域の葬送儀礼を取り上げます。 | | | | 配布プリントの要点をまとめる。(4時間) | | | | |
| 13 | 病気と治療の文化人類学：総論 | 病気と治療をテーマとした文化人類学について概説します。 | | | | 授業中に配布する課題プリントをする。(4時間) | | | | |
| 14 | 病気と治療の文化人類学：各論 | 特定の地域の治療実践を、文化人類学の観点から紹介します。 | | | | 授業中に配布する課題プリントをする。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめ | | | | 総復習(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| さまざまな具体的事例を通して考えるという科目の特性からテキストは指定せず、プリントと資料を配布します。 | | | | 定期試験：60% 課題：40% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「文化人類学」波平恵美子編(医学書院) | | | | 同一テーマで講義が続いている場合は欠席しないように心がけてください。毎回の講義終了前に、次回講義の概要について説明します。予習の指示がある場合は、必ず予習をしてから講義に臨んでください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------|---|--|------|----------------|---|-------------------------------|-------|-------------------|-----|------|
| 科目名 | 音楽の歴史と鑑賞 | | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL33405 | 研究室 | A-19 |
| 担当者 | 安藤 江里 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスアワ | 火曜日4限、木曜日2限、金曜日4限 | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A B C | | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 西洋音楽史や日本の伝統音楽の歴史をたどりながら、西洋から影響を受けた日本の音楽の現状についても触れ、邦楽と洋楽の音律の違いや楽器の違いなどを通じて、様々な文化を理解し音楽の多様性を感じ取り、学んでいく授業です。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| それぞれの時代や地域を代表する楽曲をCDまたはDVDで鑑賞しながら、時代の流れと共に音楽がどのように発展してきたのか、また人間の生活との関わりについて捉え、レポートすることができること。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 西洋音楽史と日本の伝統文化を中心に、それぞれの時代を代表する楽曲をCDまたはDVDで鑑賞します。毎回テーマに沿って聴く観点を説明し特徴を捉えやすくし、ワークにまとめたり実際歌ったり楽器に触れたりもし能動的な活動を取り入れます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス 音楽の始まり | 授業の進め方についての説明とアンケート、音楽の始まりとして古代ギリシャから中世、ルネッサンスの音楽を紹介します。グレゴリア聖歌を歌います。 | | | | | 自分の生活における音楽の意味について考えてくる。(4時間) | | | | |
| 2 | バロックの音楽 | 楽器の発達や作曲技法について学び、ピバルディ、バッハ、ヘンデルの楽曲を鑑賞します。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 3 | 古典派の音楽(1) | ハイドン、モーツァルトの器楽曲からソナタ形式について学びます。またオペラにも触れます。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 4 | 古典派の音楽(2) | ベートーベンの交響曲を鑑賞し、第九を歌います。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 5 | ロマン派の音楽(1) | シューベルト、シューマン等の歌曲を中心に鑑賞します。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 6 | ロマン派の音楽(2) | ブラームス、ショパン等の器楽曲を中心に鑑賞します。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 7 | オペラ | イタリアオペラからワーグナーの楽劇までを概観します。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 8 | バレエ音楽 | チャイコフスキーの3大バレエ曲を中心に鑑賞します。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 9 | 国民楽派その他 | 様々な国を代表する作曲家と代表作を紹介します。標題音楽にも触れます。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 10 | 印象派 フランス音楽 | ドビュッシーを中心に、フォーレ、ラベルの楽曲を絵画や文学と関連させて鑑賞します。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 11 | 20世紀の音楽 無調音楽 | 新ウィーン学派やストラヴィンスキーなどから調性の崩壊と12音技法の音楽を紹介します。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 12 | アメリカ音楽 | ジャズ、ポップ、ロック、ラテン音楽を鑑賞し体験します。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 13 | 日本の伝統文化について(1) | 雅楽、宗教や政治との関わり、能等について概観します。様々な楽器も体験します。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 14 | 日本の伝統文化について(2) | 琴、尺八などの楽器、歌舞伎について鑑賞します。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| 15 | 現代の音楽 | 明治以降の西洋音楽の影響を受けた日本の現代曲を鑑賞し、総括します。 | | | | | 課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 適宜プリントを配布します。 | | | | | | 受講態度：50% レポート：50% S:意欲的に課題に取り組み、学習内容をすべて理解し文章表現できる。A:意欲的に課題に取り組み、学習内容を概ね理解し文章表現できる。B:意欲的に課題に取り組み、学習内容をまとめることができる。C:課題に取り組み学習内容をまとめることができる。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「はじめての音楽史 増補改訂版」久保田慶一 他著(音楽之友社) 「もう一度学みたいクラシック」西村理 監修著(西東社) | | | | | | CDやDVDを鑑賞しながら、実際歌ったり演奏もします。私語を慎み、意欲的に望んでください。毎回プリントを配布しますので自己管理してください。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-----------------|---|------------|------|----|-------|---|-----|------|--|
| 科目名 | 海外研修 | 学年学期 | 1・2・3・4年通年 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13406 | 研究室 | E-10 | |
| 担当者 | 糸井 重夫 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オイスア- | 前期：火曜日3限 後期：火曜日3限 | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | カリキュラムポリシーとの関連性 | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | | | | |
| | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本授業は、事前学修、現地研修、事後学修から構成されています。事前学修では、シャイネスを克服するプログラム、研修先について発表するプログラム、英会話プログラムで構成されています。単位取得には現地研修に参加する必要があります。現地研修先は、オーストラリア、台湾などでのグループ語学研修、イタリア栄養学研修、アメリカ東海岸大学訪問研修、韓国やカナダ、イギリスなどでの個人語学研修（語学が初級終了程度以上）を予定しています。事後学修では、現地研修の成果について発表し、報告書を作成します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 授業は、異文化対応力を向上させることを教育目的としています。本授業では、2～4週間、現地の家庭や大学寮に滞在して学修しますが、この異文化体験を通して生きた外国語力の向上と異文化理解を深めます。したがって、本授業の到達目標は、「異文化について学び、異文化の相手を尊重しつつ自分の考えを明確に相手に伝えることができる」です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 事前学修と事後学修は、座学による授業と双方向型授業を組み合わせで行われます。また、授業日時は不規則で、外部講師による土曜日等にも開講されます。現地研修のプログラムや費用等は開講時に提示しますが、人数制限をする場合があります。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | グローバル社会 | グローバル化する現代社会について理解し、そこで求められる能力について考える。 | | | | | 渡航先の政治・経済・社会について調べ、報告の準備をする。（1時間） | | | |
| 2 | 渡航先の政治・経済・社会 | 各自が調べた渡航先の政治・経済・社会について、パワーポイントを用いて発表する。また、相互に評価を行い発表の改善をする。 | | | | | 発表した内容をレポートに整理する。現地研修の課題・目的についての報告を準備する。（1時間） | | | |
| 3 | 現地研修に対する抱負 | 現地研修での各自の課題・目的について、パワーポイントを用いて発表する。また、発表について、相互に評価を行う。 | | | | | 発表した内容をレポートに整理する。（1時間） | | | |
| 4 | シャイネス克服 | 外部講師によるプログラム。役者になりきり、大きな声、動作で自分を表現し、コミュニケーションを図る。 | | | | | グループで役割を決め、発表の準備をする（創作漫才、寸劇等）。（1時間） | | | |
| 5 | シャイネス克服 | グループで役割を決め、発表の準備をする（創作漫才、寸劇等）。 | | | | | グループでの発表を英語で発表出来るように準備をする。（1時間） | | | |
| 6 | サバイバルイングリッシュ | 英語でのグループ発表（漫才、寸劇等）。相互に評価を行います。旅行等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。 | | | | | 決まった英語フレーズを暗唱し、旅行等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。（1時間） | | | |
| 7 | サバイバルイングリッシュ | 英語でのグループ発表（漫才、寸劇等）。相互に評価を行います。買い物等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。 | | | | | 決まった英語フレーズを暗唱し、買い物等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。（1時間） | | | |
| 8 | 渡航準備と研修目的の明確化 | 英語でのグループ発表。危機管理等、海外の状況や現地の状況について理解するとともに、再度各自の課題や目的意識を明確化する。 | | | | | 外務省等の渡航情報等により、危険な場所等を把握する。各自の研修目的を再確認する。（1時間） | | | |
| 9 | 現地研修 | クラス分け試験等。ホームステイ先ファミリーとの顔合わせ、学生寮での入寮プログラム。（1日～2日目） | | | | | 授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間） | | | |
| 10 | 現地研修 | 午前中は通常の語学授業。午後は各種アクティビティ参加。小旅行にも出かけます。（3日～4日目） | | | | | 授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間） | | | |
| 11 | 現地研修 | 午前中は通常の語学授業。午後は世界遺産、地域社会等見学。（5日～6日目） | | | | | 授業準備と宿題対応。日誌を作成する（4時間） | | | |
| 12 | 現地研修 | 午前中は通常の語学授業。午後は伝統文化の見学、体験、並びに自然観察等。（7日～8日目） | | | | | 授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間） | | | |
| 13 | 現地研修 | 午前中は通常の英語授業。午後は買い物等で外国語の実践。（9日～10日目） | | | | | 授業準備と宿題対応。日誌を作成する。報告書の準備をする。（6時間） | | | |
| 14 | 体験報告 | 日誌、報告書の提出と、それに基づく各自の課題・研修目的、成果についてのパワーポイントでの発表。相互に評価をおこない、発表力の向上を図ります。 | | | | | 日誌、報告書の提出準備と発表準備。体験報告を英語で準備する。（1時間） | | | |
| 15 | 体験報告 | 前回の体験報告を改善し、研修先の外国語で発表する。また、ビデオ、DVDで保存するとともに、記念誌を作成する。 | | | | | 外国語原稿の準備。振り返りによる自己肯定感を涵養する。（1時間） | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 開講時に指示されます。また、適宜、プリント等の資料が配布されます。 | | 受講態度：30% 定期試験：20% レポート：20% 実技：30% 「受講態度」には発表等、「定期試験」には小テスト、「レポート」には事前・事後学修のレポート、「実技」には現地研修の評価が含まれます。また、評価「S」は、外国語と日本語で円滑なコミュニケーションや発表ができる。評価「A」は、外国語と日本語で伝えたいことを明確に伝えることができる。評価「B」は、外国語と日本語で伝えたいことを伝えることができる。評価「C」は、外国語と日本語で簡単な内容を伝えることができる。以上が目安です。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | | | |
| 現地の教室で配付されるプリント、各種案内パンフレット | | 本授業では、海外での研修も行われることから多くのリスク（危険）が想定されます。そこで、現地研修の参加の可否については、受講状況に加えて、必要に応じてゼミ担当教員や語学教員等の意見を参考に決定します。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------|--|------|--|----------------|---|---------|----------------------|-----|------|
| 科目名 | 海外研修 | | 学年学期 | 1・2・3・4年通年 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL13407 | 研究室 | E-10 |
| 担当者 | 糸井 重夫 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 前期：火曜日3限 後期：火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 海外研修 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>本授業は、「海外研修」同様、事前学修、現地研修、事後学修の3つの部分で構成されています。詳細は「海外研修」を参照してください。また、本授業は「海外研修」に参加した者が再度「海外研修」とは異なる現地研修先に参加したい場合に履修することができます。したがって、「海外研修」と同一の現地研修はできません。研修先は「海外研修」を参考にしてください。また、現地研修では2～5週間程度現地の家庭や大学寮に滞在し、語学力の向上と異文化理解を深めます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>本授業は異文化対応力を向上させることを教育目的とし、学修到達目標は、「異文化について学修し、異文化の相手を尊重しながら自分の考えを明確に伝えることができる」です。さらに、本授業では、外国人との交流を通して「コミュニケーション力」の向上も教育目標とし、企業が求めるグローバル・コンピテンスの育成を視野に入れています。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>事前事後学修は座学による授業と双方向型授業を組み合わせで行われます。また、授業回数・日時は不規則で、外部講師による土曜日等にも開講されます。現地研修の場所、内容、費用等は開講時に提示しますが、人数制限をする場合があります。</p> | | | | | | | | | | |
| <p>授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p> | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | グローバル社会 | グローバル化する現代社会について理解し、そこで求められる能力について考える。 | | | | 渡航先の政治・経済・社会について調べ、報告の準備をする。（1時間） | | | | |
| 2 | 渡航先の政治・経済・社会 | 各自が調べた渡航先の政治・経済・社会について、パワーポイントを用いて発表する。また、相互に評価を行い発表の改善をする。 | | | | 発表した内容をレポートに整理する。現地研修の課題・目的についての報告を準備する。（1時間） | | | | |
| 3 | 現地研修に対する抱負 | 現地研修での各自の課題・目的について、パワーポイントを用いて発表する。また、発表について、相互に評価を行う。 | | | | 発表した内容をレポートに整理する。（1時間） | | | | |
| 4 | シャイネス克服 | 外部講師によるプログラム。役者になりきり、大きな声、動作で自分を表現し、コミュニケーションを図る。 | | | | グループで役割を決め、発表の準備をする（創作漫才、寸劇等）。（1時間） | | | | |
| 5 | シャイネス克服 | グループで役割を決め、発表の準備をする（創作漫才、寸劇等）。 | | | | グループでの発表を英語で発表出来るように準備する。（1時間） | | | | |
| 6 | サバイバルイングリッシュ | 英語でのグループ発表（漫才、寸劇等）。相互に評価を行います。旅行等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。 | | | | 決まった英語フレーズを暗唱し、旅行等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。（1時間） | | | | |
| 7 | サバイバルイングリッシュ | 英語でのグループ発表（漫才、寸劇等）。相互に評価を行います。買い物等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。 | | | | 決まった英語フレーズを暗唱し、買い物等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。（1時間） | | | | |
| 8 | 渡航準備と研修目的の明確化 | 英語でのグループ発表。危機管理等、海外の状況や現地の状況について理解するとともに、再度各自の課題や目的意識を明確化する。 | | | | 外務省等の渡航情報等により、危険な場所等を把握する。各自の研修目的を再確認する。（1時間） | | | | |
| 9 | 現地研修 | クラス分け試験等。ホームステイ先ファミリーとの顔合わせ、学生寮での入寮プログラム。（1日～2日目） | | | | 授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間） | | | | |
| 10 | 現地研修 | 午前中は通常の語学授業。午後は各種アクティビティ参加。小旅行にも出かけます。（3日～4日目） | | | | 授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間） | | | | |
| 11 | 現地研修 | 午前中は通常の語学授業。午後は世界遺産、地域社会等見学。（5日～6日目） | | | | 授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間） | | | | |
| 12 | 現地研修 | 午前中は通常の語学授業。午後は伝統文化の見学、体験、並びに自然観察等。（7日～8日目） | | | | 授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間） | | | | |
| 13 | 現地研修 | 午前中は通常の英語授業。午後は買い物等で外国語の実践。（9日～10日目） | | | | 授業準備と宿題対応。日誌の作成。報告書を準備する。（6時間） | | | | |
| 14 | 体験報告 | 日誌、報告書の提出と、それに基づく各自の課題・研修目的、成果についてのパワーポイントでの発表。相互に評価をおこない、発表力の向上を図ります。 | | | | 日誌、報告書の提出準備と発表準備。体験報告を英語で準備する。（1時間） | | | | |
| 15 | 体験報告 | 前回の体験報告を改善し、研修先の外国語で発表する。また、ビデオ、DVDで保存するとともに、記念誌を作成する。 | | | | 外国語原稿の準備。振り返りによる自己肯定感を涵養する。（1時間） | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 上記の授業計画は参考です。現地研修先等の情報は随時提供します。また、適宜、プリント等の資料が配布されます。 | | | | <p>受講態度：30% 定期試験：20% レポート：20% 実技：30% 評価は、発表等の受講態度、現地研修で発行される成績証明書等の定期試験、事前事後学修での課題とレポート、現地研修の実技の5つの面から総合的に評価します。また、評価の目安は、「S」：特定の話題について、相手を尊重しながら意見交換ができる、「A」：相手を尊重しながら自分の意見を伝え、良好なコミュニケーションがとれる、「B」：簡単な話題について意見交換ができる、「C」：日常生活に困らない程度のコミュニケーションができるです。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | | |
| 現地の教室で配付されるプリント、各種案内パンフレット | | | | <p>本授業では、海外での研修も行われることから多くのリスク（危険）が想定されます。そこで、現地研修の参加の可否については、受講態度に加えて、ゼミ担当教員等の所見と語学教員等の意見を参考に決定します。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--------------|--|------------|------|----------------|---|---------|-----|------|
| 科目名 | 海外事情 | 学年学期 | 1・2・3・4年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | UL13408 | 研究室 | E-10 |
| 担当者 | 糸井 重夫 | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | A | B | C | 2017年度～ | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | |
| <p>本授業は、海外の協定校等の教員が、自国の政治・経済・社会・文化などについて講義する授業です。今年度は、中山大學(中華人民共和国)の先生と、東新大學(大韓民国)の先生が講義する予定です。現代社会は、他国との相互依存関係が政治的にも経済的にも、また文化的にも深化してきています。授業内容の詳細は開講時に提示します。</p> | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | |
| <p>本授業の到達目標は、「国際社会に目を向け、国際社会の一員としての日本の立場について学ぶとともに、特に中国や韓国などのアジア地域における日本の立場について自分の意見を説明できる」ことです。授業では、毎回簡単なレポートを提出しますので、文章力や表現力、「論理的思考」や「コミュニケーション力」の育成も図ります。</p> | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | |
| <p>授業は日本語による集中講義形式で行われます。また、時期は夏休みの1週間程度を予定しています。授業は、授業計画に従って進められますが、担当者や内容、順番等については変更になる可能性があります。変更等については随時連絡します。</p> | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 授業の概要 | 授業の概要説明と講師紹介、中国の中山大學、協定校の嶺南師範学院と韓国の協定校の東新大學の紹介等を行います。 | | | | ICTを活用し、指示されたプリントで講義内容を予習すること。(4時間) | | | |
| 2 | 中国の社会(歴史) | 前半の7回は「中国の事情」を講義します。ここでは、中国の社会の現状を歴史的な視点を含めて解説します。 | | | | 配布プリント等を参考に中国近代史について把握する。(4時間) | | | |
| 3 | 中国の社会(現状) | ここでは、中国の社会の現状を説明します。特に、生活、流行、等、文化的な面を取りあげます。 | | | | 配布プリントやインターネット等により授業内容の理解を深め、発表の準備する。(4時間) | | | |
| 4 | 中国の経済(現状) | 中国の経済状況について説明します。中国の経済は成長著しい状況にありますが、格差の問題等、様々な経済的な問題を抱えています。これらについて説明します。 | | | | 配布プリントやインターネット等により授業内容を確認し、日本の状況も整理する。(4時間) | | | |
| 5 | 中国の経済(将来) | 中国の人口は今後減少に転じ、日本以上の少子高齢化社会になることが懸念されています。ここでは、中国の経済の将来について考えていきます。 | | | | 現存する日中間の課題について調べ、レポートとして整理する。(4時間) | | | |
| 6 | 中国の教育(制度) | 中国の教育制度について解説します。また、中国の高等教育改革の現状について説明します。 | | | | わが国の高等教育についてその課題を調べ、レポートとして整理する。(4時間) | | | |
| 7 | 日中の教育比較 | 中国と日本の教育制度や教育内容の比較を通して、高等教育の在り方を考えます。また、受講者にも学生時代に何をしておくべきかを考えてもらいます。 | | | | 受講者各自が、学生生活に関するレポートを作成する。(4時間) | | | |
| 8 | まとめ | これまでの講義のまとめを行います。また、質疑応答を通して中国の事情の理解を深めます。 | | | | 中国について理解したこと、考えたことについてレポートにまとめる。(4時間) | | | |
| 9 | 戦後の韓国社会(民主化) | 戦後の韓国社会の民主化の過程について講義します。また、これを通して韓国社会についての理解を深めます。 | | | | 配布プリント等で授業内容を確認し、理解を深める。(4時間) | | | |
| 10 | 民主化と韓国社会 | 韓国の民主化に関するビデオを鑑賞し、韓国の民主化について理解を深めるとともに、民主化の意味を考えます。 | | | | 韓国社会の歴史について調べ、レポートとして整理する。(4時間) | | | |
| 11 | 韓国社会の現状と将来 | 韓国における民主化の現状と将来について考えていきます。また、日本の民主化や国際社会における民主化についても考えていきます。 | | | | 世界の民主化運動について調べ、レポートとして整理する。(4時間) | | | |
| 12 | 戦後の韓国経済 | 1990年代までの韓国経済の軌跡について解説すると共に、韓国の財閥が韓国の社会や経済に与える影響等について説明します。 | | | | 世界の民主化問題についての報告の準備する。(4時間) | | | |
| 13 | 韓国経済の現況 | 1997年のアジア通貨危機以降の韓国経済の状況に焦点を絞って説明します。 | | | | アジア通貨危機について調べ、レポートとして整理する。(4時間) | | | |
| 14 | 韓国の高等教育 | 韓国の教育制度について説明するとともに、大学等の高等教育の現状について解説します。また、韓国の学生の就職についても言及します。 | | | | わが国の高等教育の状況について調べ、レポートとして整理する。(4時間) | | | |
| 15 | 日中韓の諸問題 | これまでの授業内容を参考にして、中国、韓国、日本の教員と学生諸君がいくつかのテーマを出し合い、議論をします。 | | | | 議論内容をレポートとして提出する。(4時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| プリント等を配布します。 | | <p>出席レポート：40% レポート：30% 受講態度：30%</p> <p>本授業での受講態度は、留学生等との積極的な意見交換や、自分の意見の発表を含みます。評価の目安は次のようになっています。「S」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて論理的に整理した内容で意見交換ができる。「A」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて意見交換ができる。「B」は、授業内容を理解し、自分の意見を述べる事ができる。「C」は、授業内容をある程度理解して、自分の意見を述べる事ができる。</p> | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| プリント等を配布します。 | | <p>本授業は海外の大学の教員との連携授業です。従って、本務校の事情や本学の学生の事情により、お願する講師の変更や開校日の日程が変更になることもあります。日程変更等は掲示等で随時連絡します。</p> | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------|--|-----------------|---|------|--|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | 海外事情 | | 学年学期 | 1・2・3・4年後期 | 単位数 | 2 | ナバリング | UL13409 | 研究室 | E-10 |
| 担当者 | 糸井 重夫 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | 2017年度～ | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>本授業は、本学の教員と海外の協定校等の教員が、自国の政治・経済・社会・文化などについて講義する授業です。今年度は、本学の教員以外に、アジア諸国の教員や、欧米の教員にお願いする予定です。現代社会は、他国との相互依存関係が政治的にも経済的にも、また文化的にも深化してきています。本授業では、政治・経済・社会の変化を中心に講義しますが、授業内容の詳細は開講時に提示します。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>本授業の到達目標は、「国際社会に目を向け、国際社会の一員としての日本の立場について学ぶとともに、日本と国際社会の関係について自分の意見を持ち、これを表現できること」です。また、米国や欧州に対しての知識を深め、興味を持つことも目標としています。授業では、毎回簡単なレポートを提出しますので、文章力や表現力、「論理的思考」の育成も図ります。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>授業は日本語や英語による集中講義形式で行われます。また、時期は冬休みの1週間程度を予定しています。授業は、授業計画に従って進められますが、担当者や内容、順番等については変更になる可能性があります。変更等については随時連絡します。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 授業の概要 | 授業の概要説明と講師紹介。 | | | | 講師が所属する国や大学等について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 2 | アジア・欧米の政治史 | アジアや欧米の政治史について講義します。 | | | | 事前に欧米の政治史について整理する。(4時間) | | | | |
| 3 | アジア・欧米の経済史 | アジア・欧米の経済史について講義します。 | | | | アジア、欧米の経済史について事前に整理する。(4時間) | | | | |
| 4 | アジア、欧米の社会史 | アジア、欧米の社会史について講義します。 | | | | アジア、欧米の社会史について事前に整理する。(4時間) | | | | |
| 5 | アジア、欧米の文化史 | アジア、欧米の文化について講義します。 | | | | 欧米の文化史について事前に整理する。(4時間) | | | | |
| 6 | アジア、欧米の学校制度 | アジア、欧米の学校教育の歴史や制度について講義します。 | | | | ICT等を活用して欧米の学校制度について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 7 | アジア、欧米の高等教育制度 | アジア、欧米の高等教育制度と教育改革について講義します。 | | | | ICT等を活用して欧米の高等教育制度について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 8 | アジア、欧米の高等教育改革 | アジア、欧米の高等教育改革について、教育手法と評価手法の観点から講義します。 | | | | ICT等を活用してパフォーマンス評価等について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 9 | 欧州の政治情勢() | 欧州における難民問題について、現状を講義します。 | | | | ICT等を活用して難民問題、シリア問題等を調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 10 | 欧州の政治情勢() | 英国のEU離脱問題とその影響について講義します。 | | | | ICT等を活用して、英国のEU離脱問題について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 11 | 欧州の経済情勢 | EU域内のインバランス問題とEU経済の現状について講義します。 | | | | インバランスについて調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 12 | 北米の政治情勢() | 米国のトランプ政権下の政治情勢について講義します。 | | | | ICT等を活用してトランプ政権誕生による社会の変化について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 13 | 北米の政治情勢() | 米国とカナダ、メキシコの関係の変化について講義します。 | | | | ICT等を活用して北米での自由貿易圏について調べ、整理する。(4時間) | | | | |
| 14 | 欧米の政治・経済と日本 | 欧米の政治、経済的变化が日本経済、社会に与える影響について講義します。 | | | | これまで整理したレポートを参考に各自で日本への影響について整理する。(4時間) | | | | |
| 15 | まとめ | これからの欧米社会の方向性と日本社会の今後について、受講者全員で議論します。 | | | | 議論内容についてレポートに整理する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| プリント等を配布します。 | | | | <p>出席レポート：40% レポート：30% 受講態度：30%</p> <p>本授業での受講態度は、パワーポイント等による発表を含みます。評価の目安は次のようになっています。「S」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて論理的に整理した内容で意見交換ができる。「A」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて意見交換ができる。「B」は、授業内容を理解し、自分の意見を述べるができる。「C」は、授業内容をある程度理解して、自分の意見を述べるができる。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| プリント等を配布します。 | | | | <p>本授業は、本学の教員とアジアと欧米を中心に外国の教員等が連携して実施する授業です。海外の大学の多くは9月新学期ですので、担当する教員、授業の日程が確定するのは9月以降です。また、英語による授業の場合もあります。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--------------|---|--|------|----------------|--|---------|-------------|-----|------|
| 科目名 | 数学の基礎 | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | UL13501 | 研究室 | S-12 |
| 担当者 | 木藤 伸夫・丸山 文男 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 水曜日2限、水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 履修者上限数を80名とします。 | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| どちらかという数学は苦手だったという学生を対象に、数学に興味を持てるような、論理的にものを考える習慣を身に付けられるような講義にしたいと考えています。管理栄養士として必要とされる数学力は、濃度計算やモル計算など基本的な数と式の計算、データを分析する力、そして統計学とされています。例題の解説と演習形式の授業を通して、実践的な計算力やデータの解析力を身につけるとともに、後期に開講される基礎統計学の基礎となる数学力を身につけます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 数学に対する苦手意識の克服と、数学に興味を持ち、論理的に考える習慣を身に付けることを講義の目的、到達目標とします。また、演習問題として、SPIの非言語分野の問題や、就職時に課せられる数理系の試験問題を選んでるので、これらの問題を解くことによって就職試験に対応できる力も身につけましょう。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 紙に書いて考える、問題を解く、得意な問題は他の人に教えるなど、学生が能動的に関与する演習型講義です。配布するプリントの問題を解きながら、論理的思考に慣れ、あわてずに完全に理解、納得してから先に進むようにします。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 数と式(1) | 基本的な計算問題を解きます(平方根、累乗根、指数、対数の計算など)。 | | | | 授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 2 | 数と式(2) | 基本的な計算問題を解きます(式の計算と展開、因数分解、分式・無理式の計算など)。 | | | | 授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 3 | 方程式と不等式 | 基礎的な1次、2次方程式、不等式を解きます。 | | | | 授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 4 | 計算力を身につける(1) | 身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(割合と比の計算、濃度計算)を解いてみよう。 | | | | 授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 5 | 計算力を身につける(2) | 身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(損益計算、分割払い、料金割引など)を解いてみよう。 | | | | 授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 6 | 計算力を身につける(3) | 身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(仕事算、水槽問題、表の読み取り問題など)を解いてみよう。 | | | | 授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 7 | 計算力を身につける(4) | 身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(速さの計算、旅人算、流水算、通過算など)を解いてみよう。 | | | | 授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 8 | 集合と論理的な考え方 | 集合の考え方を復習し必要条件、十分条件、命題の真偽など、集合を使った論理的な考え方に対するアレルギーを克服しましょう。 | | | | 数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間) | | | | |
| 9 | データの分析 | データの散らばりやデータの相関など、データ分析の基本を学び、統計処理に必要な基礎力を身につけます。 | | | | 数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間) | | | | |
| 10 | 場合の数 | 数え上げの基本、樹形図を使えるようになりましょう。また、集合を使った数え上げにも慣れてもらいます。SPIに出題される問題を解き、苦手意識をなくしましょう。 | | | | 数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間) | | | | |
| 11 | 順列・組合せ | 順列の公式、組合せの公式の使い方を習得します。また、順列・組合せを応用した、様々な問題の解法に取り組みます。SPIに出題される問題も解いてみます。 | | | | 数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間) | | | | |
| 12 | 確率の基本 | 確率とは何か、確率の意味や考え方とその基本的な法則を復習し、実際に問題を解いてみます。 | | | | 数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間) | | | | |
| 13 | 確率 | SPIに出題される問題を例に、確率問題の解法に慣れます。 | | | | 数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間) | | | | |
| 14 | 確率と統計 | 確率分布や確率変数に慣れ、統計学の基礎を身につけます。 | | | | 数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間) | | | | |
| 15 | 推論・資料解釈の実際 | SPIで出題される推論、資料解釈の問題を解き、これら問題の実践的な解法を身につけます。 | | | | 数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 必要な資料等は授業時間に配布します。 | | | 定期試験:100% 基礎的な計算力が身につけており、シンプルな計算問題がすらすら解ければC、文章問題を理解し、数式を立てて問題が解ければB、集合の考え方を理解し、確率計算まで展開できればA、実験や実習などで必要となる溶液や試薬の調製に必要な計算、実験データの統計学的処理ができるようになればS。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「Ability大学生の数学リテラシー」(共立出版株式会社) 「SPI3能力テスト対応必出問題完全攻略」伊坂孝史著(学研メディコン) 3年生はキャリアセンターから配布されます。 | | | 大学までに、数学をあまりやってこなかった学生を前提とした授業です。積極的に授業に参加することを期待しています。誰でも得手、不得手な分野があります。得意なところは伸ばし、苦手なところを減らしましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|---|------|---|----------------|---|--------|-------------|-----|------|
| 科目名 | 生物学の基礎 | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナパ`リング | UL13502 | 研究室 | S-12 |
| 担当者 | 木藤 伸夫 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | 水曜日2限、水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | ~2016年度 基礎生物学 | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 現代を生きるには、生物学の知識は必須です。生物学の進歩は急激で、マスコミなどで報道される健康や病気に関わるニュース、さらには環境問題などの内容を正しく理解するために、生物学に関する知識の重要性は増しています。特に本学科で学ぶ学生は、生物としての人間を理解することが求められます。本講義ではヒト(生物として人間を扱うときはカタカナで表す)の生物学に重点を置き、食品、医療、環境といった複数の視点から、「ヒトの生物学」を学修します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 生物の基本単位である細胞の構造や、細胞の中で起こる様々な化学反応を、私たち自身の体や私達の日常生活に関わる食品を通じて理解します。さらに、医療に関する諸問題を通じて、感染症、免疫、生殖について学び、ゲノム情報の活用と倫理面での課題についての理解を深めます。また、環境汚染とその対策について学び、私達を取り巻く環境問題についての考え方を身につけます。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 教科書と配布資料を使って講義を行います。また、毎回小テストを行い理解度を確認します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 微生物と食品生産 | 微生物を利用した食品を紹介し、それに関わる微生物を材料に、細胞の基本的な構造と、細胞を構成する分子や小器官について学習します。 | | | | 教科書の第1章の1を予習するとともに、高校教科書の細胞の構造を復習する(2時間) | | | | |
| 2 | 食品生産における発酵技術 | 発酵食品を通じて、発酵とは何か、それに関わる代謝について学びます。 | | | | 教科書の第1章の2を予習するとともに、解糖系を復習する(2時間) | | | | |
| 3 | 遺伝子組換え食品 | 遺伝子組換え食品とは何か、どのような遺伝子が「組換え」られているのか、私達や身の回りの生態系にどのような影響を与えるのか考える。 | | | | 教科書の第1章の3を予習するとともに、遺伝子について復習し要点をまとめる(4時間) | | | | |
| 4 | 抗生物質 | 感染症の治療薬である抗生物質とはどのような物質か学ぶ。また、抗生物質を使うことで細菌は退治できるのに、どうして私達の体は平気なのかを理解するために、いくつかの細胞構造を比較する。 | | | | 教科書の第2章、29-40ページを予習し、細胞の構造を復習する(4時間) | | | | |
| 5 | ワクチンと臓器移植 | ワクチン接種でどうして病気を予防することができるのか学び、私達の体を守る免疫に関する知識を身につける。また、体を守る免疫が作用することで起こる拒絶反応やアレルギーについても学ぶ。 | | | | 教科書の第2章、40-54ページと85-89ページを予習する(4時間) | | | | |
| 6 | 第5回目までのまとめと確認テスト | 第5回目までに学習した内容のまとめと、内容をどの程度理解しているか確認するために、確認テストを行います。さらに、解答例の説明を通して、学習内容の要点を確認します。 | | | | 教科書54ページまでのまとめと、確認テスト対策(6時間) | | | | |
| 7 | 遺伝子の構造と突然変異 | 全ての生物がもつ遺伝子の構造について学び、遺伝子のどのような変化が、がんや遺伝病などの原因となる突然変異となるか理解する。 | | | | 高校の教科書などで遺伝子の構造、DNA二重らせんなどを復習しておく(4時間) | | | | |
| 8 | 遺伝子の発現とタンパク質合成 | 遺伝情報の流れ、いわゆるセントラルドグマについて学び、遺伝子に記録された情報がどのようにして機能分子となるか学修する。 | | | | 高校の教科書などで、遺伝子の転写、タンパク質の合成について復習しておく(4時間) | | | | |
| 9 | 遺伝病の検査と治療 | 遺伝子の発現や遺伝の法則について学び、遺伝子の変異が病気の原因となることについて学ぶ。また、遺伝病の検査技術や、治療法の最前線についても学ぶ。 | | | | 教科書第2章の3、4を予習し、高校の教科書などで遺伝の法則を復習しておく(4時間) | | | | |
| 10 | 生物の生殖、発生、成長、老化 | ヒトの受精から誕生について学習します。さらに、生物の成長と老化について学習し、生命の連続性について考えます。また、先端技術を応用した生殖補助医療に関する課題について考えます。 | | | | 教科書第2章の5を予習しておく(4時間) | | | | |
| 11 | 第7回~第10回までのまとめと、学習内容の整理 | 第7回~第10回で学習した内容のまとめと、内容をどの程度理解しているか確認するために、確認テストを行います。さらに、解答例の説明を通して、学習内容の要点を確認します。 | | | | 教科書54-90ページまでのまとめと、確認テスト対策(6時間) | | | | |
| 12 | 生態系と外来種の侵入 | 生態系とは何か、また外来種によって生態系がどのように変化するのかを学ぶ。また、地球における炭素循環、窒素循環についても学習する。 | | | | 教科書第3章の1を予習するとともに、高校の教科書で生態系を復習しておく(4時間) | | | | |
| 13 | 環境汚染物質 | いくつかの環境汚染物質と、それらが引き起こした環境問題、公害について学習し、これ以上環境破壊を行わないためにはどのような対策が必要か考える。 | | | | 教科書第3章の2を予習する(4時間) | | | | |
| 14 | 地球温暖化とバイオ燃料 | 地球温暖化の原因と地球の表面温度を決めているメカニズムに対する理解を深め、対策としてどのようなことが考えられ、実行されているか学修する | | | | 教科書第3章の3を予習する(4時間) | | | | |
| 15 | 学修のまとめ | これまで学習した14回の内容について、理解が不十分なところを各自で補います。また、自信のある分野については、受講者の前で説明して、さらに理解を深めます。 | | | | これまでの学修内容を復習し、理解できた所、できなかった所を明らかにして講義に臨む(6時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「高校で教わりたかった生物」趙大衛(編著)松田良一(監訳、編著)著(日本評論社) ISBN:978-4-535-60033-1(生協で購入してください。) | | | | 定期試験:100% 生物の基本単位である細胞の構造と各細胞小器官の機能を説明できればC、細胞を構成する各種物質の基本構造、機能、特徴を説明できればB、それらの基礎知識をもとに、生物によるエネルギー産生や多細胞生物の恒常性維持など、複雑な生命現象が説明できればA、マスコミなどで話題となった生物に関わるトピックを正確に説明できればS。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「ヒューマンバイオロジー、人体と生命」坂井建雄、岡田隆夫 監訳著(医学書院) ISBN:978-4-260-00156-4 坂井建雄ほか監訳 | | | | 高等学校で生物学を履修していない人や苦手だった人は、必ず受講してください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--------------|---|------|--|------------------------------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | 化学の基礎 | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | UL13503 | 研究室 | S-12 |
| 担当者 | 木藤 伸夫・丸山 文男 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスア- | 水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | 2016年度～ ～2016年度 基礎化学 (無機) | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| <p>私達の体を作る細胞は、他の生物、動物や植物、細菌と共通の構造・機能をもっています。私達は食べた物を材料にしてエネルギーを作り出し、物事を考えたり体を動かしたりしています。この時、体のいろいろな細胞で起こっている反応は化学反応です。また、身体を動かすときはもとより、音を聞いたり物を見たりするときには、様々な物理現象が起こっています。この講義では、化学だけに限定せず、スポーツ健康学科で学ぶ学生に必要な生物、化学、物理の視点から人体のしくみを考えます。</p> | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| <p>人体で起こる様々な現象を、生物、化学、物理の視点から考えていきます。自分が食べているものはどんな物質か、食べたものが体内でどのように変化していくか説明できるようになってください。息を吸うときどうやって肺は膨らむのか、コンタクトレンズで視力矯正はどうしてできるのかなど、普段になげなく行っている行為を、科学の言葉で説明できるようにして下さい。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| <p>教科書と配布資料を使って講義を行います。高校時代、生物、化学、物理、地学などを勉強しなかった人、理系科目が苦手だった人は是非講義を聞いて下さい。スポーツのトレーニングでも科学の視点が重要になっています。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 生物の基本単位 | 生物の基本単位である細胞の基本構造を学修します。また、最初は受精卵という一つの細胞が、どのように一人の人間になっていくか、発生と細胞分裂について学びます。 | | | | 教科書の第1章、1.1～1.4を予習してから講義に出席してください(2時間) | | | | |
| 2 | 遺伝と遺伝子 | 遺伝の法則や遺伝子の構造について学びます。遺伝子がどのような物質でできていて、遺伝情報はどのような形で子孫に伝わっていくのか理解しましょう。 | | | | 教科書の第1章、1.5～1.7の予習をしてください(4時間) | | | | |
| 3 | エネルギー産生 | 生命活動を営むにはエネルギーが必要です。そのエネルギーを生み出すのは栄養素です。三大栄養素からエネルギーを生み出すしくみを学修します。 | | | | 教科書の第1章、1.8と1.14を予習してください(4時間) | | | | |
| 4 | 体内環境と恒常性 | 春夏秋冬、暑い時も寒い時も体の中は一定の状態に保たれています。体内環境を一定に保つための神経系やホルモンののはたらきについて学修します。 | | | | 教科書の第1章、1.9の予習をしてください(4時間) | | | | |
| 5 | 微生物と免疫 | 目には見えないけれどもいたるところにいる微生物、それらが引き起こす感染症と、私達の体が抵抗するしくみについて学びます。また、私たちの生活に役に立つ微生物についても紹介します。 | | | | 教科書の第1章、1.10～1.11の予習をしてください(4時間) | | | | |
| 6 | 刺激への反応と内臓の機能 | 外部からの刺激、情報を私たちの体はどのように処理しているのか、神経系について学びます。また代表的な内臓の役割についても学習します。 | | | | 教科書の第1章、1.12～1.13の予習をしてください(4時間) | | | | |
| 7 | 物質の構成粒子 | 私たちの体は様々な物質でできあがっています。それらの物質を化学の目で見るための基礎を学修します。 | | | | 教科書の第2章、2.1の予習をしてください(5時間) | | | | |
| 8 | 化学結合 | 化学結合の種類を最初に学修し、体内の主な化学結合について学びます。また、エネルギー産生や細胞構造の、化学的基盤を学修します | | | | 教科書の第2章、2.2～2.7の予習をしてください(4時間) | | | | |
| 9 | 体内の無機化学 | 酸・塩基や体内の無機物質に関する基礎知識を修得し、ヒトの病気との関連を学修する。 | | | | 教科書の第2章、2.8～2.10の予習をしてください(3時間) | | | | |
| 10 | 有機化合物 | 生物の体を構成する主要な物質である有機物について、その複雑さと系統的な考え方を学びます。また、体内の化学反応を邪魔する物質が医薬品として利用されていることにも目を向けます。 | | | | 教科書の第2章、2.11～2.15の予習をしてください(4時間) | | | | |
| 11 | 圧力と気体 | 大気圧を理解し、さらに人体や疾病との関係を学びます。 | | | | 教科書の第3章3.1を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 12 | 波、光、音 | 波の性質を理解し、光や音について学びます。レンズのしくみを理解します。 | | | | 教科書の第3章3.7を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 13 | 電気 | 電気の性質、電流の回路について理解します。さらに電力量を学びます。 | | | | 教科書の第3章3.9を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 14 | 水圧と浮力 | 水圧を理解して浮力が生じることを学びます。さらに人体や疾病との関係を理解します。 | | | | 教科書の第3章3.11を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 15 | 力 | 力の基本を理解し、人体の動きのしくみを考えます。 | | | | 教科書の第3章3.12を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| <p>「人体の中の自然科学 生物学・化学・物理学から学ぶヒト」川畑龍史著(東京教学社) ISBN:978-4-8082-6057-6 (生協で購入してください。)</p> | | | | <p>定期試験:100% 自然科学の考え方や方法論を身につけることを目標とします。自然科学は積み上げる学問ですから、人体で起こる諸現象に関係する基礎的な用語を記憶し使いこなせば、それらの内容を説明できれば、専門用語を用いて人体で起こる基礎的な諸現象を説明できればA、免疫や体外からの刺激の認知などの代表される高次の生命現象を科学的に説明できればS。</p> | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| <p>「新しい高校物理の教科書」山本明利 左巻健男編(講談社) ISBN:4-06-257509-4</p> | | | | <p>高校時代に使った生物、化学、物理学の教科書を復習しておいてください。また、理解できないところがあったら、積極的に教員に質問しましょう。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|------------|------------------------------------|------|------|--|---------------------------|------------------------|--------------------|-----|------|--|
| 科目名 | 力学の基礎 | | 学年学期 | 1年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | UA13503 UA13504 | 研究室 | N-05 | |
| 担当者 | 丸山 文男 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスアワ- | 火曜日3限 | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | 「運動と物理学」を受講する学生は履修してください。 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 健康運動指導士や健康運動実践指導者のバイオメカニクス(運動の力学的な視点からの研究)分野(2年前期開講の「運動と物理学」)を理解するために必要な力学の基本的な知識を学ぶ科目です。運動の表し方(等速度直線運動、等加速度直線運動)、力のつりあい、運動の法則を学び、繰り返し問題を解くことで、基本的な力学の考え方を理解できるようにします。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 基本的な力学の知識を習得し、関連する問題を解くことによって理解を深めることです。特に、等速度直線運動、等加速度直線運動、力のつりあいなどの基本的な問題を解けるようになることです。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| テキストにそって力学の基本的な知識と、基本的な例題を説明した後、実際に関連する問題を解きます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 速さと速度 | 「速さ」と「速度」の違いを理解して計算します。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 2 | 等速直線運動 | グラフを書きながら理解を深めます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 3 | 速度の合成と分解 | ベクトルである速度の合成、分解を作図をしながら理解を深めます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 4 | 等加速度直線運動 | 加速度とは何かをしっかりと理解し、計算ができるようにします。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 5 | 等加速度直線運動 | グラフを書きながら理解を深めます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 6 | 自由落下運動 | 自由落下運動を図を書きながら理解を深めます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 7 | 鉛直投げ下ろし運動等 | 鉛直投げ下ろし運動、鉛直投げ上げ運動を図を書きながら理解を深めます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 8 | 水平投射 | 水平投射を図を書きながら理解を深めます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 9 | 斜方投射 | 斜方投射を図をかきながら理解を深めます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 10 | 力の表し方 | 力の表し方を学びます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 11 | 力のつりあい | 力のつりあいについて学びます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 12 | 作用反作用の法則 | 作用反作用を力のつりあいとのちがいに注意しながら学びます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 13 | 運動の法則 | 物体に力がはたらいた場合の速度の変化を考えます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 14 | 運動方程式 | 運動方程式を導き使ってみます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 15 | いろいろな力 | 摩擦力、圧力、浮力について学びます。 | | | | | テキストを復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「総合物理1-力と運動・熱」 国友正他著(数研出版) ISBN:978-4-410-81203-3(生協で購入してください。) 「フォローアップドリル物理基礎 運動の表し方・力・運動方程式」数研出版編集部編(数研出版) ISBN:978-4-410-26522-8(生協で購入してください。) その他必要に応じプリントを配布します。 | | | | | 定期試験:100% S:授業内容を深く理解し、複雑な応用問題を解くことができる A:授業内容をよく理解し、応用問題を解くことができる。 B:授業内容を理解し、簡単な問題を解くことができる。 C:授業内容をほぼ理解し、例題を解くことができる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「新しい高校物理の教科書」山本明利 左巻健男編(講談社) ISBN:4-06-257509-4 | | | | | 授業では、三角関数や連立方程式の知識が必要になります。数学や物理をあまり学んでいない人は、自ら問題を解き理解することが必要です。質問はいつでも受け付けますので、積極的に学んでください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--------------|----------------------|---|------|----------------|---|---------------------------|---------------------|---------|-----|------|
| 科目名 | 基礎統計学 | | | 学年学期 | 2年前期 | 単位数 | 2 | ナパ [®] リング | UL23505 | 研究室 | N-05 |
| 担当者 | 丸山 文男 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 火曜日3限 | | |
| 関連資格 | ト指 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 様々なデータの記述方法を学び、その一部から全体を推測する方法を学びます。統計を使って、現状を知ること、予測すること、原因を見つけることができることを実際に経験しながら学びます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 基本的な統計方法を理解し、統計学の重要な分析方法である、推定と仮説検定の基本を理解すること。最も広く応用されている2つ以上の変数の変化を分析する相関分析と回帰分析を理解すること。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 演習を繰り返しながら学習していきます。統計学はテキストを読むだけでは何も身につけません。演習が重要になります。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 統計学とは何かを学びます。 | | | | | 資料を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 2 | 1次元データの分析(1) | 度数分布表とヒストグラムを学びます。 | | | | | 教科書第1章を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 3 | 1次元データの分析(2) | 累積度数分布と分位点を学びます。 | | | | | 教科書第2章を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 4 | 1次元データの分析(3) | 代表値を学びます。 | | | | | 教科書第3章を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 5 | 1次元データの分析(4) | バラツキの尺度を学びます。 | | | | | 教科書第4章を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 6 | 1次元データの分析(5) | 確率と確率分布を学びます。 | | | | | 授業資料を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 7 | 1次元データの分析(6) | 一様分布と正規分布を学びます。 | | | | | 授業資料を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 8 | 1次元データの分析(7) | 統計的有意性を学びます。 | | | | | 授業資料を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 9 | 1次元データの分析(8) | 標本平均の分布と母平均の推定を学びます。 | | | | | 授業資料を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 10 | 1次元データの分析(9) | 仮説検定を学びます。 | | | | | 授業資料を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 11 | 2次元データの分析(1) | 相関分析を学びます。 | | | | | 教科書第8章を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 12 | 2次元データの分析(2) | 回帰分析の基本を学びます。 | | | | | 教科書第9章を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 13 | 2次元データの分析(3) | 重回帰分析を学びます。 | | | | | 教科書第11章を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 14 | 時系列データの分析(1) | 時系列データの見方を学びます。 | | | | | 教科書第13章を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| 15 | 時系列データの分析(2) | 時系列データの分解を学びます。 | | | | | 教科書第14章を復習し、課題を行います。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| 「初級統計分析」西郷浩著(新世社) ISBN:4883841871(生協で購入してください。) | | | | | | 定期試験:90% 課題:10% 課題を課すことがあります。 S:授業内容を深く理解し、複雑な応用問題を解くことができる。 A:授業内容をよく理解し、応用問題を解くことができる。 B:授業内容を理解し、簡単な問題を解くことができる。 C:授業内容をほぼ理解し例題を解くことができる。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | |
| 「はじめの統計学」鳥居泰彦著(日本経済新聞出版社)適宜紹介します。 | | | | | | 毎回電卓を使用します。「」記号がある電卓を持参して下さい。計算をする上で数学の知識も必要となります。演習がとても重要です。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------|--|---|---|----------------|------|--|--------|--------------------|-----|-----------|
| 科目名 | 地球環境と人間生活 | | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | UL23505 UL23506 | 研究室 | 学生セク - |
| 担当者 | 住吉 廣行 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| ビッグバン宇宙、地球の生成、生命の誕生と進化のおおよその流れを把握します。その中でオゾン層の出現やその破壊と克服の過程について学びます。次に地球温暖化のメカニズムを学び、産業革命以降人類の生活の進歩・発展とその裏側で進んでいた二酸化炭素の大量発生に伴う地球温暖化現象を概観します。エネルギー源の変遷(木炭・石炭・石油・原子力)を理解し、それぞれの長所・短所を調べながら、生活水準を維持できるだけの自然エネルギーの可能性があるかについても検討していきます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 環境問題、エネルギー問題についての新聞報道、TV報道に接して自分なりの視点でそれらを解釈でき、求められれば見解を述べるができる。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 配布したプリントに基づく講義、ビデオ鑑賞、グループに分かれてのディスカッションなどを交えることで、各学生が自分の意見を纏めていけるようなプロセスを予定しています。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 宇宙・元素合成、地球形成の道筋 | 授業の狙いを説明する。ビッグバン宇宙論、元素合成、地球の形成など、自分達が住む地球について大まかな道筋を理解する。受講票は環境問題に関するクイズ付き。 | | | | | 事前：シラバスを読む(1時間) 事後：クイズに解答、疑問・質問を受講票に記入(2時間) | | | | |
| 2 | 生命の進化、オゾン層の形成 | 生命の誕生・進化と植物の発生、酸素、オゾン層の形成を考える。オゾン層がどれくらいの時間を掛けて、どの様に出来たのか、破壊の原因は何かについて考える。 | | | | | 事前：前回の講義の復習(2時間) 事後：クイズに答える。疑問・質問をまとめる(2時間) | | | | |
| 3 | オゾン層破壊とそれへの対応 | オゾン層が果たす役割と、その破壊のメカニズムとフロンガスへの配慮の必要性を理解する。オゾン層の破壊による影響を知る。モントリオール議定書について知る。 | | | | | 事後：前回クイズの解答を配布するのでそれを読み理解を深める(4時間) | | | | |
| 4 | 温暖化機構理解とCO2増加の原因 | 温室効果の機構を理解し、温室効果ガスの種類を把握する。産業革命で文明の発達が加速化し、その結果大気中のCO2が急激に増加していることを理解する。 | | | | | 事前：前回配布のプリント(温暖化のメカニズム)を読む(2時間) 事後：疑問点を整理(2時間) | | | | |
| 5 | COPなど人類の温暖化への取組 | 地球温暖化対応の国際的な動きを把握する。リオデジャネイロでの地球サミット、京都議定書、パリ協定などIPCCやCOPのその後の動きについて知る。グループディスカッションを取り入れる。 | | | | | 事前：IPCCをネットで調査する(2時間) 事後：COPのこれまでの流れをネットで調べる(2時間) | | | | |
| 6 | フィードバックシステムとしての地球 | 循環系としての地球の特徴を理解する。可逆、不可逆の意味と地球温暖化についてIPCCからの警告の意味を理解する。臨界点という考え方を提示する。 | | | | | 事後：IPCCの活動を再度調査し、理解を深める(4時間) | | | | |
| 7 | 大量生産・消費・廃棄の生活の実態 | 大量生産、大量消費、大量廃棄の生活スタイルがいかに現代人の生活に浸透しているかを実感してみる。グループワークによるアクティブラーニング形式を採用する。 | | | | | 事後：自分の生活を振り返り、是正できる点をまとめレポート提出する(4時間) | | | | |
| 8 | 地球温暖化の影響を考える | 地球温暖化が人類や地球上の生命に与える影響を考える。絶滅危惧種の存在、熱帯生物の北上、海面の上昇、砂漠化などなどについて考える。新聞記事の読み合わせを実施。 | | | | | 事前：前回配布のプリントを読む(2時間) 事後：温暖化の実情をネットでも調査する(2時間) | | | | |
| 9 | ビデオ鑑賞 | 地球温暖化の影響を被っている世界で見られる実態を、映像によって、視覚にも訴えながら理解する。 | | | | | 事後：鑑賞した感想を受講票に記入する。仲間と話し合う。(4時間) | | | | |
| 10 | 日本の発電量の現状をつかむ | 火力、原子力、水力、風力など多様な発電様式があるが、その原理を理解する。ファラデーの電磁誘導などにも簡単に触れ、発電様式による違いはどこにあるかを知る。 | | | | | 事後：電力の節約について考えておく(4時間) | | | | |
| 11 | 石油の使用量と埋蔵量 | 全て石油で火力発電を行った場合の必要量を、百万トンタンカーを単位として考える。化学製品にも利用しており、その量の膨大さを知り地球の有限性を認識する。 | | | | | 事前：プラスチック製品の投棄とそこから生じる問題点をネットで調査(4時間) | | | | |
| 12 | 太陽エネルギーの利用を考える | 太陽から地球上に降り注ぐ太陽エネルギーの膨大さを考え、再生可能エネルギー、自然エネルギーの在り方をみんなで考える。アクティブラーニング方式とする。 | | | | | 事後：世界的に見た自然エネルギーの利用状況を調査する(4時間) | | | | |
| 13 | 原子力発電と原爆の違いを知る | 原子力発電のメカニズムを知る。アインシュタインのE=mc ² の有名な式の意味を説明し、実際の発電様式について説明する。 | | | | | 事前：事前配布のプリントを読む(2時間) 事後：原子と原子核のサイズの違いを認識(2時間) | | | | |
| 14 | 原子力発電の利点と問題点を知る | 温室効果ガスを出さないが、放射性廃棄物の処理について問題があること、地震やテロからどう護るかなど考えられる課題を取り上げる。 | | | | | 事前：配布している新聞記事を読む(2時間) 事後：家族・友人等と話し合う(2時間) | | | | |
| 15 | 日本のエネルギー政策を考える | これまでの学びを通じて得た知識を基に、日本のこれからのエネルギー政策の在り方についてグループディスカッションで深める。 | | | | | 事前：グループディスカッションの準備(2時間) 事後：試験に備えた学習(2時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 講義用プリントが配布されます。 | | | | 定期試験：100% S:Aの中でも特に優秀な結果を出した者。 A:定期試験において80点以上。 B:定期試験において70点以上、80点未満。 C:定期試験において60点以上、70点未満。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 「グリーン経済最前線」井田徹治・末吉竹二郎著(岩波新書) 「低炭素経済への道」諸富徹・浅岡美恵著(岩波新書) | | | | 講義をよく聞き、自分の見解も述べつつ、多くの学生と意見交換の中で、環境問題の本質を掴めるようにして欲しい。そのためにも、配布したプリント、新聞記事等に目を通し、自分なりの意見を纏めるように努力して下さい。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------------|--|------|------|---|----|---|--------------------|-----|------|
| 科目名 | 地域環境と生態 | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL33506 UL33507 | 研究室 | S-12 |
| 担当者 | 木藤 伸夫・丸山 文男 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 水曜日2限、水曜日3限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度（読替科目） | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| この講義の前半では、環境を構成する要素など環境問題を考えるうえで必要な基礎知識や、環境問題を取り扱う際の方法論などを解説します。後半では、地球上のあらゆる環境で生活している微生物に焦点を当て、微生物の種類や性質などの基礎的なことから、地球環境と微生物の関わり、微生物を利用した環境改善など応用的な面まで分かりやすく概説します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 前半では、天気や気候の変化における大気と海洋の役割を理解し、人間の活動と地球環境の変化の関係を理解することが目的です。後半では、地球全体の物質循環とそれに関わる微生物によって地球環境が維持されていることを理解することが目的です。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 配布資料に基づいて講義形式で授業を行います。講義内容を理解するには物理学、化学、生物学、地学などの理系基礎科目の知識が必要です。毎回小テストを行い、授業の理解度を確認します。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 太陽系の中の地球 | 地球大気の起源と進化について学びます。 | | | | | 配布資料を復習します。課題を課し提出を求める場合があります。（第1回～7回まで）（4時間） | | | |
| 2 | 大気の鉛直構造 | 対流圏、成層圏とオゾン層、中間圏、熱圏について学びます。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 3 | 地球のエネルギー収支 | 地球のエネルギー収支を理解し温室効果について学びます。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 4 | 地球をめぐる大気の流れ | 風の吹き方を理解し大気の大循環を学びます。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 5 | 海水の循環 | 海水の流れを理解し海洋と気候について学びます。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 6 | 気候変動 | エルニーニョ、異常気象について学びます。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 7 | 地球環境 | 都市気候、酸性雨、地球温暖化について学びます。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 8 | 確認テスト | 第1回～7回までの内容の理解度を筆記試験で確認します。 | | | | | これまでに配布された資料などに基づき、講義内容を振り返っておきます（6時間） | | | |
| 9 | 環境微生物の進化と環境形成 | 46億年前に誕生した地球の環境がどのように変化して現在の環境になったかを解説します。「地球と生命の共進化」ともよばれる、地球環境の変化と生物進化の密接な関係を理解することが目的です。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 10 | 環境微生物が行う各種物質変換の実際 | 地球レベルでの物質循環を知るために、炭素循環と窒素循環を取り上げて解説します。物質循環には生物が関与しない無機的な循環と、生物が関与するものがあります。違いを明確に理解する事が目的です。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 11 | 極限環境微生物 | 微生物は地球上の様々な環境に生息していますが、特に変わった環境（高温、強酸・強アルカリなど）で生きている微生物がいること、私達の日常生活でこれらの微生物がどのように利用されているかを学びます。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 12 | 地球環境の激変と環境微生物のかかわり | 近年問題になっている地球環境の変化、すなわち地球温暖化や、水質、大気、土壌などの環境汚染の原因物質は何か、汚染はどのようにして起こるのかを学びます。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 13 | 微生物による有害物質除去・分解の原理 | 微生物を使った環境浄化の方法、特に排水処理法、悪臭処理法、重金属汚染や有機塩素化合物などの除去、分解法などを理解することが目的です。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 14 | バイオレメディエーション | 微生物による環境浄化（バイオレメディエーション）について学習します。原油や界面活性剤の汚染除去への応用、土壌や地下水の汚染除が実際どのように行われているかを学びます。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| 15 | 食糧生産への微生物利用とバイオエネルギー | 人工的な肥料の代わりに微生物を使った農法の有用性を学びます。また、化石資源の代替エネルギーとして注目されているバイオエネルギーについて、メリット、デメリットを学習します。 | | | | | 配布資料を復習します。（4時間） | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | |
| なし | | | | | 定期試験：100% 地球環境を決める複数の要因をあげることができればC、それらが地球環境にどのような影響を与えるか説明できればB、地球における物質循環やエネルギー収支について説明できればA、現代起こっている様々な環境問題や環境保全、環境改善などについて、自分の考えを述べることであればS。 | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意（学生へのメッセージ） | | | | | |
| 「地球環境46億年の大変動史」田近英一著（化学同人） ISBN：978-4-7598-1324-1 「一般気象学」小倉義光著（東京大学出版会） ISBN：978-4-13-062725-2 | | | | | 物理、化学、生物学、地学のどれか1科目でも良いので、高校で学んだ理系科目を復習しておいて下さい。 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------|--|--|--|----------------|------|---|--------|---------|-----|-----|
| 科目名 | ごみ処理と循環型社会 | | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL33508 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 水橋 文雄 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスア- | | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A B C | | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 一番身近な環境問題がごみ問題です。快適なライフスタイルが、大量生産・大量消費・大量廃棄の悪循環の中で、ごみを増やし、地球を汚して来ました。地球のあらゆる資源は有限です。人々はその資源を惜しみなく使い、ごみとして捨てることで経済成長して来ました。今、まさに「成長の限界」(1972.ローマクラブ)が示すとおり社会になっています。そこで、松本市のごみ行政の取り組み状況を参考にして、将来に向かってこのごみ問題とどう向き合うべきかを考えます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 各地で、廃棄物の中間・最終処分場が不足し、廃棄物の安全・安定な処理に支障をきたし、しかも、放射性廃棄物の処理も新たな大きな社会問題となっている中で、廃棄物問題に対する取組みと、その対策を考え、実践し、その成果を検証する能力(PCDAサイクル)を身につける。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| パワーポイントやDVD(BR)を利用して講義を進めます。資料はパワーポイントの主な内容をプリントして配ります。また、アウトキャンパスとして、「ごみ焼却場、最終処分場」の見学を予定します。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ごみとは | 廃棄物の処理及び清掃に関する法律で規定する「ごみ」について説明します。 | | | | | 法律で規定される「ごみ」について調査する。(4時間) | | | | |
| 2 | ごみの分別について | ごみの分別(松本市を例に)の必要性と方法について説明します。 | | | | | 各自の出身自治体のごみの分別方法を調査する。(レポート1の提出)。(4時間) | | | | |
| 3 | ごみの出し方について | ごみの出し方(ごみ袋・ごみステーション等松本市を例に)について説明します。 | | | | | 各自の出身自治体のごみの出し方を調査する。(4時間) | | | | |
| 4 | ごみ処理施設について | 一般廃棄物のごみ処理施設の種類と機能と問題点について説明します。 | | | | | 各自の出身自治体のごみ処理施設の種類と規模等について調査する。(4時間) | | | | |
| 5 | 施設見学(1) | 松本市の一般廃棄物の最終処分場(エコトピア山田)を見学します。 | | | | | 見学後に最終処分施設の設置の目的と現状を整理する。(4時間) | | | | |
| 6 | 施設見学(2) | 松本市の一般廃棄物の中間処理施設(松本クリーンセンター)を見学します。 | | | | | 見学後に中間処理施設の設置の目的と現状を整理する。(4時間) | | | | |
| 7 | ごみ処理施設整備の課題について | ごみ処理施設整備の問題と課題(松本市を例に)について説明します。 | | | | | ごみ処理施設整備に対する住民感情について調査する。(レポート2の提出)(4時間) | | | | |
| 8 | 循環型社会の構築について(1) | 持続可能な社会の主要な要素である、循環型社会を構築するために必要な制度について説明します。 | | | | | 持続可能な社会を構築するために何が必要とされるのかを調査する。(4時間) | | | | |
| 9 | 循環型社会の構築について(2) | ごみ減量(リデュース)施策(松本市を例に)について説明します。 | | | | | 各自の出身自治体のごみ減量施策を調査する。(4時間) | | | | |
| 10 | 循環型社会の構築について(3) | ごみにしないように物を繰り返し使用(リユース)する施策(松本市を例に)について説明します。 | | | | | 日頃から「もったいない」と感じていることを整理する。(レポート3の提出)(4時間) | | | | |
| 11 | 循環型社会の構築について(4) | ゴミを減らす為、資源として再生利用(リサイクル)する制度(松本市を例に)について説明します。 | | | | | 日本のリサイクル法について内容と問題点を調査する。(4時間) | | | | |
| 12 | 廃プラスチック問題について | 廃プラスチックが、世界の環境(マイクロプラスチックによる海洋汚染問題等)に与える影響について説明します。 | | | | | 廃プラスチックの回収の必要性と方法について調査する。(4時間) | | | | |
| 13 | 放射性廃棄物について | 放射性廃棄物の処理と保管・埋立の問題点について説明します。 | | | | | 放射性廃棄物の現状と今後の処分方法について調査する。(4時間) | | | | |
| 14 | 不法投棄問題等について | ごみの不法投棄と有害廃棄物の放置等の状況と対策(松本市を例に)について説明します。 | | | | | 各自の出身自治体における、不法投棄の状況及びその対策について調査する。(4時間) | | | | |
| 15 | ごみ処理と循環型社会について(整理) | ごみ処理の問題点(最終処分場等の施設の整備等)と循環型社会の構築(主にリサイクル法の問題点)について整理します。 | | | | | 循環型社会を構築するためには、何をすべきかを整理する。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 必要に応じて、パワーポイントを抜粋した資料を配布します。 | | | | 受講態度:30% レポート:30% 定期試験:40% 受講態度は、講義毎に提出する受講票による講義への意見の内容を評価に加味します。レポートは3回以上の提出を予定します。提出期限を厳守して下さい。S評価は、成績評価の合計が100となり、レポート提出状況及び受講態度が優秀な場合です。A評価は、成績評価の合計が80以上の場合で、レポート提出状況及び受講態度が良好な場合です。B評価は、成績評価の合計が70以上80未満の場合で、C評価は、成績評価の合計が60以上70未満の場合です。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 特にありません。 | | | | 国は、循環型社会を構築するために、様々なリサイクル法を制定していますが、その多くを地方公共団体の事務としています。そこで、各地方公共団体の取り組みに関心を持つことがリサイクルを実施する上で大切です。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|----------------------|--|--|------|----------------|---|--------|--------------------|-----|-----|
| 科目名 | 環境社会学 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 2 | ナパ'リング | UL33508 UL33509 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 江成 康明 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 人々が生きて行くうえで欠かせないのは周囲の環境です。一番身近な家族や仲間、そして自治体や日本、世界、宇宙と環境は広がっていきます。それらと関連しながら生活するには、世の中の動向を意識しなければなりません。今の社会に何が起きているのか、どう対応しなければならないのかを考え、自分を高めていくことが求められています。殺伐とした事件の増加やネット社会にまつわる犯罪などを例に社会学を学び、多層的に研究、発表するのが目的です。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 社会を営む時代背景やその国の環境などに自分がどう対応したらいいのかを学び、その中で自らの立ち位置を心がける。みんなが心地よく生活し、生きていくためには一人一人の思いやりや気配りが必要なことを知ることで、社会構成員の一人であることを自覚する。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 講義は毎回配布するプリントを基に教室でのディスカッションを中心に進めます。グループ討論やクロスロード(分岐点)のほか、レポートの提出をしてもらいます。更にはフィールドワークや学外専門家を招いての講演会、討論会なども行います。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 環境社会学とは何か? | 環境といっても、「地域」だけを考えるのではなく、それを支える「人間」や「自然」にまで興味を持って対応する必要があります。授業全体の基本となる環境社会学を幅広い視点で学びます。 | | | | あなたが思い浮かべる環境社会学のイメージを事前に考えて下さい。(4時間) | | | | |
| 2 | 地域環境と民度の関係性 | 第一回授業で提出したレポートから様々な意見や提案をピックアップし、学生自身が社会の一員として環境社会学をどう捉えているかを探ります。そのうえで、人間としての役割を考えていきます。 | | | | 新聞のコピーを読んで、事後に感想を書いてもらいます。(4時間) | | | | |
| 3 | ネット社会で変化する社会 | 日本人は思いやりや気配りのある人種と言われていました。しかし、ネット社会の到来で変化してきました。社会の動きに真剣に向き合わなければなりません。ネットで陥りやすい犯罪や危険性を学びます。 | | | | ネット関連の事件事故について、一番気になったものを考えてもらいます。(4時間) | | | | |
| 4 | ネット社会の危険性についての研究 | 現状では、生活や仕事をするうえでネットは欠かせません。しかし、ネットを使った犯罪が増え、反面、人との直接対話が少なくなっています。過激派組織ISやネット犯罪の愚かさを研究します。 | | | | 安易にネットを使ってないかを見直してもらいます。(4時間) | | | | |
| 5 | それぞれ違う民度のあり方 | グループに分かれ、クロスロード(分岐点)をそれぞれの班で討論します。それをもとに、全体でディスカッションします。 | | | | クロスロードでの自分の意見、考え方と人の意見の相違を改めて振り返ってください。(4時間) | | | | |
| 6 | 続クロスロード | 社会は人それぞれの民度によって安全、安心な暮らしが保たれています。しかし、クロスロードで体験するように、考え方はまちまちです。幅広い民度の意識を持つために、前回に続き話し合いを継続します。 | | | | 自分の考え方による民度が正しいのかどうかを推量してください。(4時間) | | | | |
| 7 | 学外専門家の特別講演 | 簡単で便利なネットには様々な落とし穴があります。著作権について詳しい学外専門家を招き、特別講演及び討論会を実施します。 | | | | 事後に講演会の感想レポートを提出してもらいます。(4時間) | | | | |
| 8 | (野外実習)場所は未定 | 地域全体が民度の高い場所を訪ね、地域環境を守るためにどのような戦略が図られているかを体験します。 | | | | 事後にレポートを書く。9回目に提出。(4時間) | | | | |
| 9 | 新聞に見る社会の動き | 社会で起きている出来事を新聞コピーを読んで考えます。その中から、環境社会学のあり方を自分なりに理解し、さらにグループ討論して仲間の意見も聞いていきます。 | | | | 授業でのコピー以外のテーマに沿って、レポート提出。(4時間) | | | | |
| 10 | ネット社会を生き抜くための10か条づくり | ネットが欠かせない現実の中で、自ら犯罪に巻き込まれたり、他人に迷惑をかけるためにはどうしたらいいのかをグループで話し合い、10か条を作成します。 | | | | 授業終了と同時に、当日の担当はグループ10か条を書いて提出。(4時間) | | | | |
| 11 | 各グループの10か条発表 | 前回作ったグループ10か条を班の代表が発表。それをもとに、受講生全体の10か条を作り上げますので、各グループによるプレゼンが大事になってきます。 | | | | 全員で作った10か条を自分なりに実践する意識を高めてください。(4時間) | | | | |
| 12 | 10か条の絞り込み | 各グループから出てきた10か条は相当数に上ります。その中から、受講生による10か条を選択していきます。創作する難しさや楽しさを実感できるはずで。 | | | | 10か条は常に心掛けておく必要があります。人にも言えるほど反復して覚えて下さい。(4時間) | | | | |
| 13 | 学外専門家の特別講義 | 受講生が作ったネット社会と民度10か条について、専門家の意見を聴きます。 | | | | 感想をレポートにまとめて提出。(4時間) | | | | |
| 14 | 続々 クロスロード | 地域環境と民度を学んできて、自分の考え方は変わったか、人とかわりながら生きていく中で何をなすべきかななどをグループ討論します。 | | | | これまで学んできた民度をもう一度復習しておき、自分の意見としてまとめてください。(4時間) | | | | |
| 15 | 講義全体のまとめ | 講義全体を振り返って総括します。 | | | | 社会の中で生きていくために必要なテーマを自分なりに見つけてください。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | |
| 毎回プリントまたは資料を配布する。 | | | 受講態度：20% 定期試験：50% 課題：30% S:授業内容の理解度、考察力、文章の読解力、書力が秀でている。A:積極的に授業に臨み、課題に対しても自分の意見をしっかりと書ける。B:授業内容のおよそを理解し、課題に対しても自らの主張ができる。C:授業内容を60%ほど理解でき、与えられた課題にも誠実に取り組んでいる。 | | | | | | | |
| 参考書 | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | |
| 毎回プリントまたは資料を配布する。 | | | 講義ではグループ別に分けた学生の皆さんとのディスカッションを中心に進めますので積極的な参加を期待します。受講票には、名前だけでなくその日の感想や意見を必ず書いて下さい。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|---------------------|--|------|------|----------------|----|---|--------------------|-----|------|
| 科目名 | バイオメディカル文章理解 | | 学年学期 | 3年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL33509 UL33510 | 研究室 | S-01 |
| 担当者 | 山田 一哉 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オイスアワ | 月曜日1限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 自然科学分野では、最新の情報は英文で報告されます。したがって、高い専門性を持った管理栄養士や健康運動指導士になるとすると、世界の最新情報に目を配り、必要な情報とそうでない情報を見極め、自己の知識をつねに更新していく必要があります。本講義では、専門分野の英文を輪読しながら、自然科学文献の読み方を学びます。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 本講義は、バイオメディカル系の文章を輪読していくことで、まずは専門用語・英文になれることを目的とします。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 少人数(10人以内)での輪読形式で行います。希望者が10人を超える場合は、大学院進学を考えている人・病院への就職を考えている人など優先順位の高いもの順に選抜します。毎回、英文を読んでもらいますので、徹底的な予習が必要です。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | |
| 1 | 本講義のガイダンス | 本講義の進め方や達成目標を説明します。輪読する文献について意見を集約します。 | | | | | シラバスをよく読んで内容を理解したうえで、受講すること。(1時間) | | | |
| 2 | バイオメディカル文献検索法 | パソコンを用いて、PubMedからの文献検索等の方法について学びます。 | | | | | いくつか自分が関心のある文献を検索してみることに。(4時間) | | | |
| 3 | 自然科学論文の構成 | 自然科学論文は、要約・序論・材料と方法・結果・考察・引用文献など定型的な構成を持っています。それぞれの項目の内容について解説します。 | | | | | レポートを課します。(4時間) | | | |
| 4 | バイオメディカル英文輪読：一般科学系 | 自然科学一般に関する文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4.5時間) | | | |
| 5 | バイオメディカル英文輪読：一般科学系 | 自然科学一般に関する文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4.5時間) | | | |
| 6 | バイオメディカル英文輪読：一般科学系 | 自然科学一般に関する文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4時間) | | | |
| 7 | バイオメディカル英文輪読：一般科学系 | 自然科学一般に関する文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4時間) | | | |
| 8 | バイオメディカル英文輪読：バイオ系 | 生命科学系の文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4時間) | | | |
| 9 | バイオメディカル英文輪読：バイオ系 | 生命科学系の文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4時間) | | | |
| 10 | バイオメディカル英文輪読：バイオ系 | 生命科学系の文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4時間) | | | |
| 11 | バイオメディカル英文輪読：バイオ系 | 生命科学系の文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4時間) | | | |
| 12 | バイオメディカル英文輪読：メディカル系 | 医学系の文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4.5時間) | | | |
| 13 | バイオメディカル英文輪読：メディカル系 | 医学系の文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4.5時間) | | | |
| 14 | バイオメディカル英文輪読：メディカル系 | 医学系の文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4.5時間) | | | |
| 15 | バイオメディカル英文輪読：メディカル系 | 医学系の文献を輪読します。 | | | | | 文献を読んでくること。事後は、内容を的確に反映した文章にまとめ直すこと。(4.5時間) | | | |
| テキスト | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | | | |
| 課題とする文献を配付します。 | | 受講態度：90% レポート：10% 受講態度とは、輪読時の準備状況・読み方や訳しかたの程度を指す。間違いながらも読めるとC。少ない間違いで読めるとB。正確に読めるとA。内容まで踏み込んで読めるとS。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | | | |
| 特になし。 | | かなりの努力が必要です。自分で自分を伸ばすための機会とらえて、積極的に講義に臨んでください。将来必ず役に立ちます。大学院進学や専門分野で英文理解を必要とする就職先を考えている学生は、ぜひ受講して下さい。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------------|--|------|--|----------------|---|---------|---------|-----|------|
| 科目名 | キャリア入門 | | 学年学期 | 1年前期 | 単位数 | 2 | ナバリング | UL14101 | 研究室 | W-24 |
| 担当者 | 上野 隆幸 | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 講義 | オフィスアワー | 木曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| 本授業ではキャリア教育の初歩的段階として、自らのキャリアを考える上で必要となる情報を提供し、併せてこれらの情報を基に「考えてもらう」ことを目的としています。具体的には「自らのキャリアを考える上での情報提供」「実際に自らのキャリアを考える」「就職活動の基礎事項の情報提供」の3点に焦点を絞って展開します。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 現在の若年者の就職・労働に関する知識を修得し、大学生の就職活動の流れを理解した上で、自らの「働くこと」への初期ビジョンを形成できること。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。なお講義では、毎回ミニレポートを作成してもらいます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | 導入 - キャリアとは何か、そしてなぜ重要か - | キャリアという言葉の説明を行うとともに、本講義で扱う内容等について説明します。 | | | | 「キャリア」とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 2 | 企業における人事管理の基盤 - 企業の社員区分制度の概要 - | 人事管理の基盤システムの一つである社員区分制度について解説します。 | | | | 社員区分制度とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 3 | 企業における人事管理の基盤 - 社員区分制度の詳細と学歴との関係 - | 社員区分制度が学歴別管理とリンクしている点について説明します。 | | | | 学歴別の賃金カーブについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 4 | フリーターとしての働き方 - フリーターのタイプと所得の問題 - | フリーターの現状やタイプを説明した後、フリーターと正社員の生涯所得について説明します。 | | | | フリーターのデメリットについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 5 | フリーターとしての働き方 - 雇用・能力開発・年金の問題 - | フリーターと正社員の違いについて、雇用の安定や老後など、所得以外の面から比較し、説明します。 | | | | 国民年金と厚生年金の違いについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 6 | 産業研究 - どのような産業・業種があるのか - | 社会にはどのような産業(業界)があるのかを紹介します。 | | | | 自らが興味を抱く産業を理由とともに5つ考えて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 7 | 職種研究 - どのような職種・仕事があるのか - | 社会にはどのような職種(仕事)があるのかを紹介します。 | | | | 自らが興味を抱く職種を理由とともに5つ考えて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 8 | 転職のメリットとデメリット | 転職した場合に有利になる点、不利になる点について解説します。 | | | | 転職した場合に不利になる点について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 9 | ライフデザイン - 人生設計 - | 人生の節目のイベントを経済的側面からみることで、生涯にどれだけのお金が必要かを解説します。 | | | | 自らのライフデザインについて考えて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 10 | 働く上でのリスク | 会社の倒産やリストラ、病気など、働く上でのリスクについて説明します。 | | | | 企業の人員整理に関する事例を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 11 | 大学生の就職活動 - 大学生の就職活動の流れ - | 大学生の就職活動の大きな流れについて説明します。 | | | | 就職活動に関する新聞記事を探し、読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 12 | 大学生の就職活動 - データでみる大学生の就職活動 - | 大学生の就職活動について、就職支援企業の調査結果を基に、その概要を説明します。 | | | | 企業の採用活動に関する新聞記事を探し、読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 13 | 松本大学生の就職活動 | 松本大学生の就職活動をデータを用いて説明します。 | | | | 就職活動の流れを調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| 14 | 先輩方たちから学ぶ就職活動 | 就職活動を終えた先輩方の経験談を聞きます。 | | | | 先輩方に対する質問を考えて下さい。講義後、先輩方の就活成功の秘訣を考えて下さい。(4時間) | | | | |
| 15 | 講義全体のまとめ | これまでの講義内容を簡単にレビューします。 | | | | これまでの講義での不明点を確認して下さい。プリントを復習して下さい。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| プリントを配布します。 | | | | 小テスト: 55% 出席レポート: 45% 小テストと出席レポートの合計点が100点の場合にS、80点以上の場合にA、70点以上の場合にB、60点以上の場合にC、59点以下の場合にDとなります。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「キャリアデザイン入門 1 基礎力編」大久保幸夫著(日経文庫) | | | | 皆さんの将来の働き方や就職活動を考える上で、必ず役に立つ授業です。なお、授業は就職活動前の学生に対する内容のため、4年生の受講は可能な限り避けて下さい。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--------------------|--|-----------------|---|------|--|--------|---------|-----|------|
| 科目名 | キャリアデザイン (スポーツ) | | 学年学期 | 2年後期 | 単位数 | 1 | ナパリング | UL24102 | 研究室 | S-20 |
| 担当者 | 齊藤 茂・道幸 俊也 | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 演習 | オフィスア- | 水曜日2限 | | |
| 関連資格 | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | |
| | | | A | B | C | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | |
| この講義は、大学卒業後、社会の一員としてそれぞれのキャリアを積み上げていく際に土台となる基本的な考え方を学びます。ここで言うキャリアとは、単なる「経歴」や「仕事」ではなく、「自分らしい社会や仕事との関わり方」ということを意味しています。3年次以降、具体的な進路や就職先などを考えていく際に、自分なりの判断基準を持てるようになることが、この講義の最大の目的です。 | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | |
| 自分のキャリアの目標を設定します。社会の仕組み、働くことについて理解することができ、社会人となるために必要となる基礎知識(一般常識)を深めます。前期に配布されたSPI問題集に基づいた模擬試験を1回予定しているため、現在の自分の能力に合わせて今後の目標を設定し、学習計画をたてます。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | |
| 教室での講義を主とします。「セルフワーク」、「グループワーク」、「解説」、「ロールプレイング」を組み合わせながら進めます。 | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | キャリアデザイン についてガイダンス | 本科目の概要、趣旨を説明します。「SPI」について説明します。 | | | | 前期の課題「キャリア面談」の実施レポート返却するのでしっかりと見直してください(1時間)。 | | | | |
| 2 | キャリアデザインとは | キャリアデザインの考え方、卒業後の進路選択や就職試験に向けた準備について学びます。 | | | | 本日の講義で学んだ知識を講義資料をもとに復習してください(1時間)。 | | | | |
| 3 | 価値観確認・自分史作成 | 子どもの頃から、大学生活までの振り返りを行います。取得単位、大学生活で何を学んだかを書き出し「自分史」を作成します。 | | | | 講義で実施した演習の続きを行い「自分史」を完成させてください。(1時間) | | | | |
| 4 | 1年間の振り返り | ライフラインチャートを作成し、一年間を振り返ります。自分にとっての人生の価値観を見出します。 | | | | 講義の演習の続きを行い「ライフラインチャート」からの気付きを書き出してください。(1時間) | | | | |
| 5 | 社会人基礎力とは | コミュニケーションスキルについて学びます。12の素養の社会人基礎力についての理解を深めます。 | | | | 本日の講義で学んだ知識を講義資料をもとに復習してください。(1時間) | | | | |
| 6 | 自己理解・動機分析 | 心理学タイプ論からの自己理解アプローチを行います。 | | | | 本日の講義で学んだ知識を講義資料をもとに復習してください。(1時間) | | | | |
| 7 | 業界・業種・職種研究 | 社会を知り、自分のタイプと重ねて目指す進路について考えます。 | | | | 社会人インタビューから発表の準備をします。(1時間) | | | | |
| 8 | 働くことの理解 | 本学科を卒業した先輩の話聞き、様々な職種や業界での仕事について考えます。 | | | | 本日の講義で学んだ知識を講義資料をもとに復習してください。(1時間) | | | | |
| 9 | 社会人インタビューとまとめ | 身の回りの社会人にインタビューし、レポートにまとめた内容をグループ内で発表しあい、価値観を広げます。 | | | | 本日の講演で学び得たことをレポートにまとめ提出してください。(1時間) | | | | |
| 10 | 学生時代にとれる資格と実際の活用 | 学科でとれる資格が社会でどのように活用されているか具体例を含めて説明します。 | | | | 講義内容を復習し、自分の興味ある内容をより具体的に調べます。(1時間) | | | | |
| 11 | 先輩学生の話 | 就職活動を終えた4年生から「職業選択」や「就職試験」に向けた準備について聞きます。 | | | | 本日の講義で学んだ知識を講義資料をもとに復習します。(1時間) | | | | |
| 12 | SPI 模擬試験 | SPIの模擬試験を行います。 | | | | 試験終了後に配布する回答冊子をもとに自己採点し、不正解問題について対策してください(1時間) | | | | |
| 13 | 新聞の読み聞かせセミナー | 社会に目を向け、新聞やニュースの読み方を理解します。新聞を実際に読解してみます。 | | | | 本日の演習で実施した内容をレポートにして提出してください。(1時間) | | | | |
| 14 | 小論文を書く | 自分の意見を文章にまとめます。 | | | | 本日の講義で学んだことから小論文をまとめ提出してください。(1時間) | | | | |
| 15 | 収入や税金について学ぶ | 労働から得られる収入や税金の仕組みについて正しく理解し、働くことについて考えます。 | | | | 本日の講義で学んだ知識を講義資料をもとに復習してください。(1時間) | | | | |
| テキスト | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 必要に応じて、資料・プリントを配布します。 | | | | 課題：40% 出席レポート：60% 出席レポートは毎回講義終了時提出します。S：探求姿勢をもって意欲的に課題に取り組み、各回の授業内容を高度に理解し、文章で正しく表現することができる。A：意欲的に課題に取り組み、授業内容を理解し文章で正しく表現することができる。B：与えられた課題に誠実に取り組み、授業内容を概ね理解し文章で表現することができる。C：課題に取り組み、授業内容の60%程度を理解し、文章で表現することができる。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| なし | | | | 自分自身のこととして捉え主体的に参加することを心がけてください。考えてやってみることが重要です。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|---|---|------|--|------|---|--------|--------------------|-----|--|
| 科目名 | キャリアデザイン | | | 学年学期 | 3年前期 | 単位数 | 1 | ナバ'リング | UL34104 UL34103 | 研究室 | |
| 担当者 | 各教員 | | | 必修選択 | 必修 | 科目種別 | 講義 | オフィスワ- | | | |
| 関連資格 | | | | | | 履修条件 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本講義では、大学卒業後の自分のキャリアを主体的に考え、それを実現していくための手法を応用的に学んでいくことを目的としています。納得のできる進路を選択するには、自己理解を深めること、社会や職業に対する知識と自分なりの考えを持つこと、またそれらをわかりやすく他者に伝えるスキルを身に付けることなどが重要となります。本講義では、これらの知識やスキルを身に付けるために、これまでの大学生活での経験を振り返り、自己のキャリア形成のための具体的計画を行います。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 自己の将来のキャリア形成について向き合い、卒業後の進路選択や目標を実現するための計画を立て、実行に移すためのスキルを身に付けることを目標とします。特に、言語による自己表現、進路選択に伴う就職活動のための情報収集の仕方を学び得るものです。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 教室での講義を主とします。「セルフワーク」や「解説」、さらに「社会人による講演」や「ロールプレイ」などを組み合わせながら講義を進めていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ライフプランと就職活動 | 本講義の流れと個々の将来のキャリア形成への向き合い方。就職活動のスケジュールについて | | | | | キャリアデザイン で学んだことを見直し、卒業後の目標について考えてください(1時間)。 | | | | |
| 2 | 適性検査(受検) | 適性検査を受験します。 | | | | | 事前に、1年次に受験した検査結果シートを見直してください(1時間)。 | | | | |
| 3 | 採用試験とは | 一般的な採用試験(筆記・面接・書類)の種類やそのために必要な準備について、事例(企業・教職・行政・ほか)を交えて紹介します。 | | | | | 配布テキスト「就職活動ナビゲーション」第1章を読んで臨んでください(1時間)。 | | | | |
| 4 | SPI試験対策(受検) | SPI試験を模擬体験します。 | | | | | 配布テキスト「SPI3必出問題完全攻略」により個々に対策して臨んでください(1時間以上)。 | | | | |
| 5 | 採用に関わる社会情勢と就職活動サイト活用法 | 当該年度の採用事情や社会情勢の解説、就職活動サイト利用法と登録 | | | | | 受講後、実際に就職活動サイトを閲覧してください。 | | | | |
| 6 | 自己分析 初級編(適性検査の結果に見る自分) | 適性検査の結果を見て自己振り返りを行います。進路選択のための自己分析法を解説し、実際にワークを行います。 | | | | | 配布テキスト「就職活動ナビゲーション」第2章を読んで臨んでください(1時間)。 | | | | |
| 7 | 自己分析 初級編(自分の強み・弱み) | 自己分析に基づき、自分の強みを言葉で表現し文章にしてみます。 | | | | | 前回のワークを復習し、引き続き自己ワークに取り組んでから臨んでください(1時間)。 | | | | |
| 8 | SPI試験対策(解説) | 模擬試験の結果返却と問題の解説および演習 | | | | | 模試受験時に配布された回答冊子を読み、不明点を明らかにして臨んでください。(1~2時間) | | | | |
| 9 | 求める人材の理解(企業講演会) | 企業の人事担当者から新卒社会人に求める能力や、大学時代に身に付けてもらいたいことなどを講演いただきます。 | | | | | <課題>講演の感想を自分の言葉で400字でまとめてください。(1~2時間) | | | | |
| 10 | 企業研究会(業界・職種の理解) | 業界・職種の種類や企業研究の仕方を解説。新聞を利用した企業研究法や読み方のコツをお伝えします。インターンシップに関する説明も行う予定です。 | | | | | 実際に就職サイトを閲覧し、企業検索やインターンシップ情報を閲覧してください(1時間) | | | | |
| 11 | 企業研究会(企業研究の仕方) | 企業を調べる上で、確認する項目や比較する情報について、企業研究の仕方と注目するポイントについて解説します。 | | | | | <課題>次週来学予定の卒業生の企業研究を行ってください。(1時間) | | | | |
| 12 | 企業研究会(卒業生の講演会) | 本学の卒業生から、企業や仕事について、またその職を得るために工夫したことなど経験談を語って頂きます。 | | | | | <課題>第14回講義に向けて、1社企業を選択し、企業研究をしてください(1~2時間)。 | | | | |
| 13 | 履歴書作成法 | 就職活動に臨む際の履歴書の作成方法について解説します。これまでの講義で培った自己分析の結果を盛り込む内容を考えます。 | | | | | <課題>作成法に基づき、履歴書を作成してください。用紙は講義中に配布します(1~2時間)。 | | | | |
| 14 | 企業研究会(グループワーク) | 個々に興味のある企業について調べた情報(課題)をグループ内で発表します。他者の発表から価値観を広げ、自分の興味の幅を広げます。 | | | | | 受講後、他者の調べた企業の中から選び、更に企業研究を深めてください(1時間) | | | | |
| 15 | インターンシップの意義と夏季休業期間の過ごし方 | 講義全体のまとめと、職業観を養うためのインターンシップ参加方法について。また今後の就職活動準備に関わる注意点についても触れます。 | | | | | 受講後、配布資料(インターンシップ企業リスト)から企業研究をすすめてください(1時間)。 | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「就職活動ナビゲーション(日経HR)」「ワークブック(1)(2)(松本大学キャリアセンター)」「SPI3能力テスト対策 必出問題完全攻略(株学研メディコン)」の3つのテキストを講義にて配布します。個人で購入する必要はありません。 | | | | | 受講態度:70% 課題:30% 課題点は提出期限を遵守(社会人マナーの実践)し、遅れた場合の評価は内容に問わず加点半分とします。 S:職業観を十分養い、自己分析が明確に伴い、他の学生への手本ともなる社会人マナーが身についている。 A:職業観を養い、自己分析が明確で社会人マナーを理解している。 B:職業観を理解し、自己分析がある程度進み社会人マナーを理解している。 C:職業観を理解し、社会人マナーを理解している。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「通るエントリーシートの法則」福沢恵子著日経HR編集部編(日経HR) ISBN:978-4-89112-141-9 「面接の質問『出た順』50」日経就職ナビ編集長 渡辺茂晃著日経HR編集部 | | | | | 社会に出るための準備をする講義です。主体的に取り組むことを心がけてください。またキャリアセンターが実施する就職合宿、就職対策講座などにも積極的に参加するようにしてください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------|--|---|------|---|------|---|---------|--------------------|-----|-----|
| 科目名 | ワークインフォメーション | | | 学年学期 | 4年後期 | 単位数 | 2 | ナパリング | UL44105 UL44104 | 研究室 | 非常勤 |
| 担当者 | 野村 尚 | | | 必修選択 | 選択 | 科目種別 | 演習 | オフィスアワー | | | |
| 関連資格 | | | | 履修条件 | | | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連性 | | カリキュラムポリシーとの関連性 | | | 履修対象入学年度(読替科目) | | | | | | |
| | | A | B | C | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 本講義では、これから「社会人として、そして労働者として働く」学生が、働く上での諸問題をきちんと克服し、より良い働き方を実現できるための授業です。大きく「働く上での中心的な法律の説明」、「仕事と生活のバランスの取り方」、「社会保険の説明」、「働くことで問題が生じた際の解決方法」、「万が一転職や失業した際の手続などを学びます。 | | | | | | | | | | | |
| 学修到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 働くうえで知っておくべき法律の一般的知識について習得している。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | | | | | | | | | | | |
| 基本的には講義形式で進めますが、授業の内容によりグループワークの形態で行うこともあります。 | | | | | | | | | | | |
| 授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | | | | 事前事後学修 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 自己紹介、働く場面で生じるあらゆる問題を紹介し、労働法の基本的枠組みについて解説します。 | | | | | 話題となっている身近な法律問題を調べておく。(4時間) | | | | |
| 2 | 労働法の歴史 | 労働法の背景、歴史について学びます。 | | | | | 基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 3 | 労働法総論 | 労働法の基本構造、労働法上の当事者、労働法の法源について学びます。 | | | | | 基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 4 | 労働基本権 | 労働基本権の性格、内容について学びます。 | | | | | 基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 5 | 労働関係の成立 | 募集、採用等労働関係の成立の際に発生する諸問題をとりあげます。 | | | | | 基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 6 | 労使関係 | 労使関係の基本的枠組み、労働者、使用者と労働組合との集団的な関係を規律する法律について学びます。 | | | | | 労働基準法・労働組合法の条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 7 | 雇用関係の展開 | 人事、職場規律と懲戒について学びます。 | | | | | 配付する就業規則等のサンプルを読む。授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 8 | 雇用関係の終了 | 解雇、解雇以外の終了事由について学び、その際に発生する諸問題についてとりあげます。 | | | | | 配付する就業規則等のサンプルを読む。授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 9 | 賃金 | 賃金の種類と体系、賃金の法規制について学びます。 | | | | | 基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 10 | 労働時間 | 労働時間制度の基本的枠組み、特則について学びます。 | | | | | 労働基準法等の条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 11 | 労働者の安全 | 労災補償制度の枠組み、内容について学びます。 | | | | | 基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 12 | 労働組合 | 労働組合の組織と運営、その限界について学びます。 | | | | | 労働組合法の条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 13 | 団体行動権、不当労働行為の禁止 | 労働者の団体行動についてその概念や法的枠組みを学ぶとともに、不当労働行為の救済について学びます。 | | | | | 労働者の権利についての条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 14 | 雇用保険制度と失業給付 | 雇用保険制度の概要、失業給付の概要について学びます。 | | | | | 基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| 15 | 労働紛争の解決 | 労働審判、訴訟等労使関係における紛争解決手段について学びます。 | | | | | 該当法令を事前に学習し、授業後は振り返りをする。(4時間) | | | | |
| テキスト | | | | | 成績評価の方法・基準 | | | | | | |
| 「労働法入門(有斐閣双書)」外尾健一著(有斐閣)(生協で購入してください。) | | | | | 受講態度:50% レポート:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、授業では誠実に取り組み、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートを作成できている。A:授業内容を理解し、授業では誠実に取り組み、積極的な探求姿勢をもってレポート作成ができている。B:授業内容のおおよそを理解し、授業では誠実に取り組み、レポート作成ができている。C:授業の内容の60%程度を理解し、授業では誠実に取り組み、レポート作成ができている。 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | 履修上の注意(学生へのメッセージ) | | | | | | |
| 「労働法」水町勇一郎著(有斐閣) 本格的なものなので、深く知りたい人が参考書等として利用してもよい。 | | | | | 戦後労働者が権利を確立するまでの歴史を知り、それに基づき、正当な労働者の権利及び義務とは何かを知る手がかりとなれば幸いです。 | | | | | | |